

1章 はじめに

1-1 研究の背景

(1) テオティワカン遺跡の概要

標高約 2300m のメキシコ盆地に位置するテオティワカン遺跡は、紀元前1世紀から紀元後6世紀頃まで栄えたアメリカ大陸最大級の都市国家であった。テオティワカンでは、入念な都市計画に基づいた建築活動が、A.D.1年から150年にかけて行われたと考えられていた。

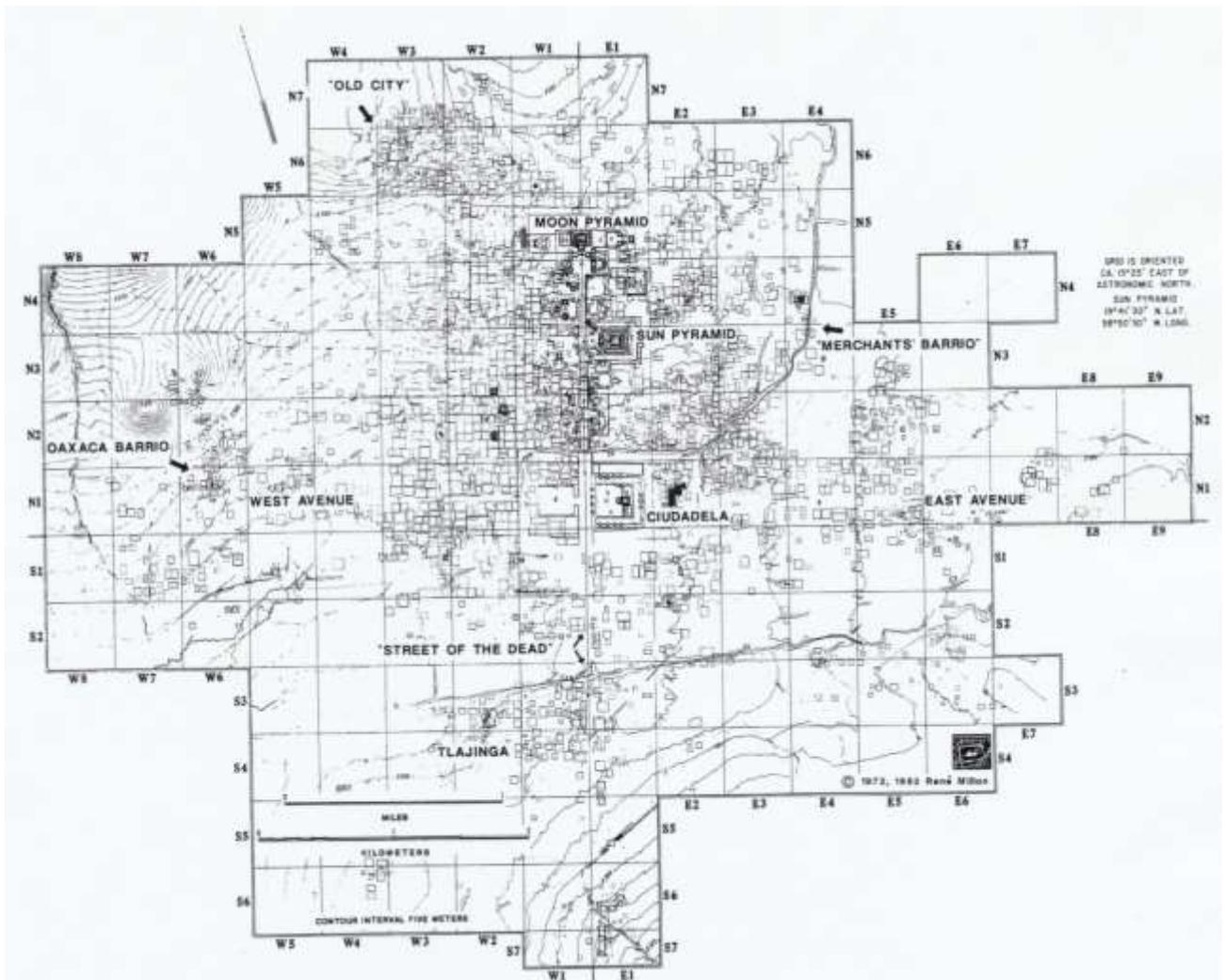


図 1-1-(1)-1 : テオティワカン遺跡の都市全体の地図

(出所 : Millon 1993: Fig.2, p.18)

その都市設計の軸となったのが、「月のピラミッド」(152m×156m、高さ 45m)を基点として(図 1-1-(1)-1)都市の中央部を南に走る長さ約4 km、幅 45mの「死者の通り」と呼ばれる大通りであった。「月のピラミッド」に建っていた神殿は、ピラミッドの背後に聳える聖なる「太った山」(Cerro Gordo)の頂上と重なるように意図的に配置されていた。これは、「月のピラミッド」が盆地の地形と調和するように計画されていたことを示し、同時にその位置が都市形成の初期から重要であったと考えられている(杉山 2000 : 33)。

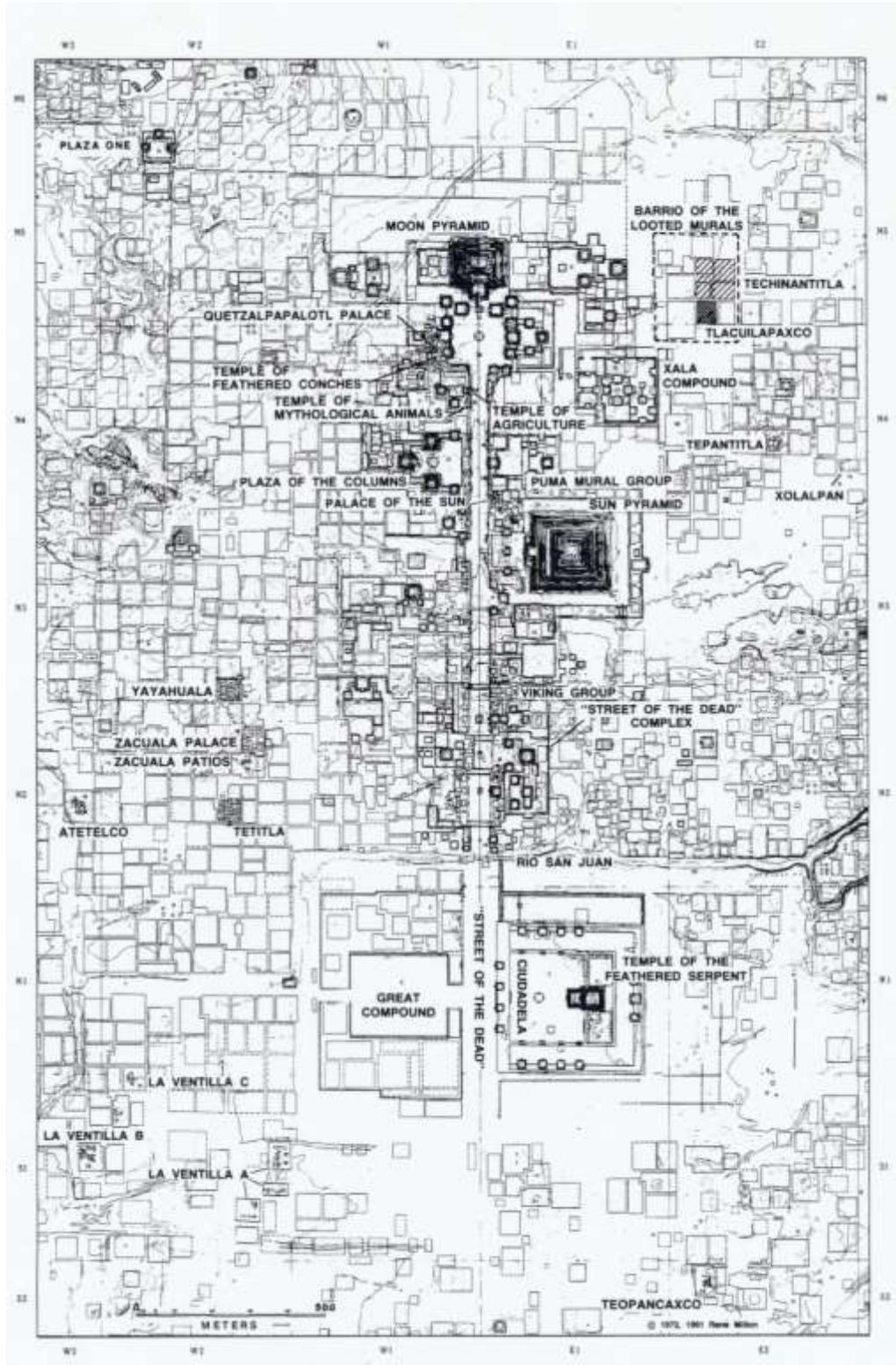


図 1-1-(1)-2 : テオティワカン遺跡の都市の中心部分の地図
 (出所 : Millon 1993: Fig.3, p.19)

「死者の通り」に沿って、20 以上の神殿が建設され、この中でも「太陽のピラミッド」

(図 1-1-(1)-2) は、一辺約 223m、高さ 63m の規模を持つ巨大なモニュメントであった。この建造物の建築年代は、定説では A.D.1 から 150 年ごろで、その後 A.D.150 から 250 年ごろに増改築が行われた。また、20 世紀初頭のメキシコ人考古学者パドレスの調査の際に 5 層のピラミッドとして復元されたが、復元された 4 層目は存在せず、実際には 4 層のピラミッドであった。

1970 年代初頭に「太陽のピラミッド」下 7 m の深さに水平に横たわる「洞窟」が発見された。ピラミッド正面の中央階段前に「洞窟」の入り口があり、ピラミッドの中心近くまで伸びている。この「洞窟」は、テオティワカン時代に手が加えられて儀式に使われた跡とその後の盗掘の跡が発見され、「太陽のピラミッド」は、当時神聖な意味を持つ自然の「洞窟」の上に建てられたと解釈された (Heyden 1995[1975], Millon 1981)。一方、メキシコ自治大学のマンサニーヤ等は、この「洞窟」は人工的に掘られたと解釈している。

「太陽のピラミッド」の南側には「城砦」(約 400m×400m) と呼ばれる方形の大広場があり、その広場の東側に「羽毛の生えた蛇神殿」がある (図 1-1-(1)-2)。この建造物は、テオティワカンで 3 番目の大きさの建造物で、底部の一辺は約 65m、高さは 20m である。この建造物は、「月のピラミッド」や「太陽のピラミッド」とは異なり、ピラミッドの 4 面が石彫で装飾されている。後述するように 1980 年代の発掘により、ピラミッドの内外から 137 体の生贄の墓が発掘され、都市形成の初期から軍事的色彩を持つ王権があったと解釈されている。

都市の中心部の周辺には、20 平方キロメートルにわたり 2000 を超えるアパート形式の集合住居 (図 1-1-(1)-3) が存在し、テオティワカンの最盛期の人口は 10 万ほどといわれている。アパート建造物の内部には、数十もの部屋が配置され、中庭、回廊、小神殿などを共有した。アパート建築に居住した集団の中には、黒曜石製石器、土器、織物などの工芸品を専門に生産する集団もいた。このようにテオティワカンは、メキシコ中央高原をコントロールするような都市国家であり、その影響はティカル遺跡¹やコパン遺跡²などのマヤ文明の諸都市国家にも大きな影響を与えている。

また、アパート建築の壁には多くの壁画が描かれた (De la Fuente 1995)。特に、貴族の住居址と考えられている「テパンティトラ」では、「トラロック神の天国(Tlalocan)」と呼ばれる壁画がある。この壁画には、球技の場面、花の咲いた場面や蝶々が羽を休めている場面、司祭が地面に種をまいている場面などが描かれている。「アテテルコ」の住居には、蛇やコヨーテ、猫科動物などテオティワカンでは聖なる動物と考えられている動物の壁画が見られる。また、カブレラが 1990 年代に調査した「ラ・ベンティエーヤ」住居からは、壁画だけでなく、床面に描かれた 42 の文字が発見されている。

¹ マヤ文字の解読によると、シヤフ・カックというテオティワカンの支配層の一人と考えられる人が A.D.378 年にグアテマラのティカルに「到着」し、政変を起こした。すなわち 378 年に、それまでティカルを統治していたチャク・トック・イチャークが死去して、379 年新しい王としてヤシュ・ヌーン・アイーン 1 世が即位する。「石碑 31」では、ヤシュ・ヌーン・アイーン 1 世は、テオティワカン様式の衣装に身を包み、手にはトラロックの図像が描かれた盾と投槍器を持つ人物として描かれる (Schele and Freidel 1990, Martin and Grube 2000)

² 中米ホンデュラスのコパン遺跡では、426 年にキニチ・ヤシュ・クック・モ王が王朝を開始する。シャラー等による調査によって、コパン王朝の初期の建造物がテオティワカンのタルー・タブレロ様式を持つこと、また墳墓の副葬品からはテオティワカン様式の土器などが発見され、コパンの最初の王がテオティワカンとの関係があることが窺われた (Sharer 2003)。

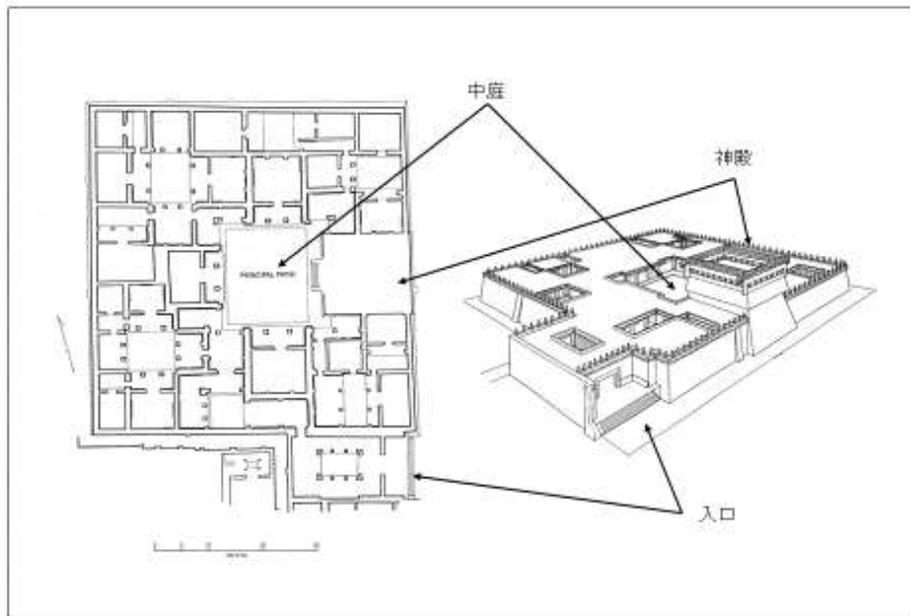


図 1-1-(1)-3 : テオティワカンのアパート建築
 (出所 : Pasztory 1977:Fig.4.1, Fig.4-2, 一部改変)

(2) 調査史概観

テオティワカンは、19世紀に入ると多くの旅行者や研究者による報告が見られる。その中でもアルマラスは、「太陽のピラミッド」の測量を行った最初の研究者である (Almaraz 1995 [1865])。アルマラスの測量によると、「太陽のピラミッド」の底部の長さは、南北 232 m、東西 224mであった。

20世紀に入るとバトレスによる「太陽のピラミッド」の調査や修復が行われた (Batres 1995[1906])。バトレスは、「太陽のピラミッド」を覆う大量の土を移動させ (El Imparcial 1995[1906]:122)、本来4段のピラミッド状の建造物であったものを5段の建造物に修復した (Bastien 1951)。1920年代から1930年代に入ると「太陽のピラミッド」の本体部分にトンネルを入れる発掘が開始する (Pérez 1995[1935], Noguera 1995[1935])。ノゲラは、トンネル発掘によって得られた土器、土偶、石器などを詳細に分析している。特に、土器ではネガティブ文様や Polychrome 装飾を持つ土器が出土している。これらの土器の文様は、「月のピラミッド」出土の土器に類似している。

近代的な考古学調査が開始したのは、1960年代以降である。1960年から1975年までの15年間ウィリアムス・サンダースを中心とする考古学プロジェクトがメキシコ盆地全体の遺跡の分布調査、試掘調査を行った (Sanders, William T., Jeffrey R. Persons, and Robert S. Santley 1979)。この調査により、メキシコ盆地 3500 平方キロメートルの範囲の B.C.1500 年～A.D.1519 年までの遺跡の分布、人口の動態等が明らかにされた。

1962年からレネ・ミリオンをプロジェクトリーダーとするロンチェスター大学のテオティワカン地図プロジェクト (Teotihuacan Mapping Project)が開始した (Millon 1973,

1974、Cowgill 1974)。500m×500mのグリッドを地上に組み、東西 8.5Km（最大）、南北 6.5Km（最大）の地域で発見された建造物を測量した。また、20 平方キロメートルの範囲で約 5000 の遺跡を見つけ、土器や黒曜石等の表採も行った。さらに、測量や表採で得られたデータを確かなものにするために、テスト・ピットの発掘（試掘）も行われた。こうして、膨大なデータが収集され、土器や黒曜石の製作場所なども明らかになった。また時代ごとの居住地の変化も明らかにされた。パトラチケ期（B.C.150-A.D.1）は、テオティワカンが都市として発展する最初の時期である。都市の北側（通称、Old City と呼ばれる地域）で主に居住の痕跡が見られる。その広さは、約 6 平方キロメートルで、当時の人口は 5,000 人と考えられている³。ブラッチャーは、トラチノルパン遺跡を発掘し、この時期の公共建造物を調査したが、建造物の軸はテオティワカンの軸とは異なっていた（Blucher 1971）。サクワリ期（A.D.1～150）では、テオティワカンが大きく拡大し、北部を中心に 20 平方キロメートルの広さ、人口 30,000 人になる。都市の東西南北の軸、「月のピラミッド」、「太陽のピラミッド」等の公共建造物がつくられる。また、専門化された黒曜石の製作集団の痕跡も認められた。ミカオトリ期（A.D.150-200）では、都市の広さは、約 20 平方キロメートルとサクワリ期とほぼ同じであるが、サクワリ期の居住があった北西部では人が住まなくなる。ミカオトリ期では南側や東側に居住地域が広がる。人口約 45,000 人で、この時期に「シウダデラ」や「羽毛の生えた蛇神殿（ケツァルコアトルの神殿）」が作られ、また「月のピラミッド」や「太陽のピラミッド」の増改築が行われた。黒曜石の製作や製品の交易も盛んになり、ベリーズの Altun Ha 遺跡からこの時期のテオティワカン産の黒曜石の製品が報告されている。トラミミロルパ期（A.D.200-450）には、建築活動が盛んになり、新しい建築技術も生まれる。すなわち、一般の居住地では集合住宅が出現する。これらの石を使用した建造物は、以前の建造物の上に作られた。このようにして都市全体がリニューアルされた。また、「羽毛の生えた蛇神殿」では、正面にアドサダと呼ばれる付属の建造物を作られ神殿の正面が覆われた。黒曜石の製品製作場と考えられる遺構も 100 ほど見つかっている。それぞれの製作場では、ナイフを作る製作場、ポイントを作る製作場など製品ごとに製作場が異なっていた。また、イダルゴ州のパチューカからもたらされた緑色の黒曜石は、この時期に増加する。テオティワカンで製品化されたと考えられる緑色の黒曜石のナイフ等は、メソアメリカ各地で発見されている。この時期の人口は、65,000 人と推測されている。ショラルパン期（A.D.450-650）には、メソアメリカの各地で、テオティワカンの影響が見られる時期である。当初、宗教や商業のセンターであったテオティワカンは、メソアメリカ最大の都市へと成長する。ここには、各地の商人が住んだだけでなく、外部から連れてこられた奴隷などが永住していた。当時の人口は、85,000 人と推測されている。メテペック期（A.D.650-750）では、テオティワカンが崩壊する時期である。テオティワカンの中央部の神殿や宮殿が破壊され、人口は 5,000 人まで減少した。テオティワカンがどのように崩壊していったのかは不明であるが、テオティワカン内部での反乱説や外部からの侵略説などがあげられている。また、テオティワカン地図プロジェクトのデータを使って当時の社会の復元に関する新しい研究も行われている（Robertson 2001）。

³ パトラチケ期の人口に関しては、コーギルによると約 19,000 人と推定している（Cowgill 1974: 381）

メソアメリカにおける 1960 年代以前の遺跡の調査は、都市の中心部のピラミッド建造物を主に調査するのが主流であり、遺跡全体の様相を調査することは無かった。このような測量に基づく遺跡全体の調査は、ティカル遺跡で開始され、その後テオティワカン遺跡やコパン遺跡 (Fash 1983a, 1983b, Fash and Long 1983) でも採用され、現在では多くの遺跡で遺跡の中心部分だけでなく周辺部分の様相も把握されている。さらに、今日ではこれらの地図データをコンピュータに入力し、地理情報システム (GIS) を利用し様々な視点から解析が可能となっている (佐藤、衣笠 2005)。

1980 年代は、「城砦」や「羽毛の生えた蛇神殿」の調査が集中的に行われる。1980-82 年の国立人類学歴史学研究所 (INAH) の調査では「城砦」の大規模な発掘が行われ、「羽毛の生えた蛇神殿」も発掘、修復された (Cabreria, Rodriguez and Morelos 1982)。また、1988-89 年には、INAH とブランダイズ大学やアリゾナ州立大学の共同プロジェクトが開始し「羽毛の生えた蛇神殿」の内外の調査が行われた。この調査により合計 137 体を含む 25 基の墓が発見された。杉山は、墓の副葬品、埋葬様式、ピラミッドの彫刻などから、「羽毛の生えた蛇神殿」は軍事的な色彩を持つ王権の象徴として、紀元後 200 年ごろ建てられたと解釈した (Sugiyama 1989、杉山 2000)。また、杉山はこれらの調査を通して得た成果と同時に未解決の問題として次の 2 点を挙げている (杉山 2000 : 31)。

- ①「羽毛の生えた蛇神殿」は、紀元後 200 年前後の建造物であり、現在見られる都市計画の基本構造が完成された時期、おそらく国家が確立し、なんらかの長距離交流が始まった時期に相当する。しかし、それ以前の国家形成期あるいは創世記にあたる紀元前後から紀元後 200 年ごろの状況、土器形式では、パトラチケ期やサクワリ期の建造物は発見されなかった。
- ②「羽毛の生えた蛇神殿」と「城砦」の宗教的意義と機能は明確になったが、それが他のモニュメントとどのような関係にあったのか、またその関係はどう変化して行ったのかなどの課題は以前不明のままである。

「太陽のピラミッド」では、1990 年から 1992 年にかけて国立人類学歴史学研究所により「太陽のピラミッド」の裏面 (東側) と北側側面が発掘、修復された (Matos 1995)。しかし、ピラミッド頂上にあると思われる神殿に関する資料も無く、その内部からも墓や捧げものが埋められた形跡は見つかっていない。杉山は、「太陽のピラミッド」の課題として次の点を述べている (杉山 2000 : 30)。

- ①「太陽のピラミッド」自体が何の神に捧げられ、どのように機能し、またどのような象徴形態を持っていたのかを示す資料は皆無に近い。
- ②現在見られるモニュメントは、土器編年によるとサクワリ期に相応するが、その絶対年代 (1・A.D.150) については、放射性炭素分析のサンプルが一つあるのみである。
- ③「太陽のピラミッド」自体がいつまで機能していたのかについても推測の域をでない。これはテオティワカンにおける早期の建造物が乏しく、それらの建造物に伴う土器編年作業が遅れているため、見直すべき根源的課題である。
- ④以上のように都市の中心的存在である「太陽のピラミッド」は、現在その四方が発掘復元されているが、その建築史、意味、機能などの根本的問題に関する現在の解

積は資料による裏付けが薄い。

このようにテオティワカンのモニュメントに関する課題は多く存在していた。しかし、全く建造物の意味や機能が不明だったモニュメントが「月のピラミッド」であった。それらを解決するために「月のピラミッド」の調査が計画された。

(3) 月のピラミッド発掘調査

「月のピラミッド」については、1960年代にメキシコの国立人類学歴史学研究所による「月の広場」全体の発掘と修復、「月のピラミッド」の正面と側面の一部、そしてアドサダと呼ばれる付属基壇の表層の全面発掘と修復作業が行われたに過ぎない。この調査の結果「月のピラミッド」は、トラミミロルパ前期(A.D.200.-300)の建造物と位置付けられた。しかし、この調査では建造物の内部を調査したという記録もなく、現在の建造物は、一回で作られたものなのか、または何度かの増改築の後、今日の姿になったのか、不明であった(杉山 2000)。

「月のピラミッド」の発掘は、1998年に愛知県立大学の杉山三郎教授とメキシコの国立人類学歴史学研究所のルベン・カブレラ氏を共同発掘団長として、アメリカ政府の科学研究基金等の助成を受けて開始した。2000年以降は、日本政府の科学研究費の助成を受けている。「月のピラミッド」プロジェクトの目的は、古代都市の起源と複合社会の形成メカニズムを歴史的に復元することであり、その意味でも都市の中心地にある「月のピラミッド」は、テオティワカンの都市の起源を解明する上では最も適した建造物と言える(杉山 2000)。

「月のピラミッド」の調査は、ピラミッド本体に入れたトンネルによる発掘とピラミッドの周辺にある建造物、「月の広場」の発掘が行われた。「月のピラミッド」の本体に入れたトンネル発掘により、この建造物は7回の増改築が行われたことが解明された。

ピラミッド内部からは、それぞれの建造物の建築に伴う複数の生贄墓も発見された。建造物4に伴う墳墓2からは、後ろ手に縛られた人骨1体と多くの副葬品や生贄にされた動物が発見された。副葬品は、土器、翡翠製品、耳飾り、ビーズ、人物像、黒曜石の製品(鏃、儀式用ナイフ、石刃、人物像)、貝製品、黄鉄鉱の鏡などがあつた。また、生贄にされた動物では、ジャガー、ピューマ、狼、蛇、鷲、梟が含まれ、これらの動物はテオティワカンの図像において王権と戦士のシンボルとして描かれるものである。また、この建造物の頂上の床下に作られた墳墓6からは、副葬品や生贄にされた動物と同時に、12体の生贄にされた人骨が発見され、その内10体には頭部が無い人骨であった(杉山 2000, Sugiyama and López 2007)。

建造物5に伴う墳墓3からは、伸展葬の状態では3体の人骨、屈葬の状態では1体の人骨が発見された。それら4体の人骨は、すべて後ろ手に縛られて埋葬されているので、建造物5の改築に伴って捧げられた生贄体と考えられている。墳墓3の副葬品は、黒曜石製品では、鏃、石刃、人物像、貝製品では、ビーズ、ペンダント、巻貝など、緑石製品では、ビーズ、ペンダント、人物像、耳飾り、頭飾り等が見られ、これらは儀式用品や装飾品と考えられている(杉山 2000, Sugiyama and López 2007)。

建造物6に伴う墳墓4からは、17体の頭蓋骨のみが発見された。これらの頭蓋骨の配置

に関しては、明確なパターンは見られなかった (Sugiyama and López 2007)。頭蓋骨から推定される性別に関しては、17 体中 15 体が男性、2 体は不明、年齢に関しても 14 歳～50 歳まで幅広い年齢であった (Spence and Perira 2007)。さらに頭蓋骨のアイソトープ分析によるとテオティワカン以外の様々な地域出身の人物の可能性が指摘されている (White et al. 2007)。また、建造物 6 の頂上の床面に作られた墳墓 5 からは、マヤの貴族が身に付ける翡翠のペンダントを付けた人物を含む 3 人の貴族男性の生贄墓が発見された。これらは、テオティワカンとマヤ文明の関係を示唆する重要な発見であった (Sugiyama and López 2007)

筆者は 1999 年からプロジェクトに参加し、土器の分析を担った。「月のピラミッド」は、上述したように 7 回の増改築が行われた建造物である。従って、その建造物の盛土から出土する土器も建造物と関連付けて解釈できる資料である。筆者は、これらの資料を分析し、より客観的にそのデータを示すことを試みた。

1-2 土器研究の目的

メソアメリカの考古学において一般的に土器研究の目的は、次の 4 点にまとめることができる (佐藤 2004b)。

(1) 土器編年

遺跡の発掘調査において遺構が層位的に重なっている場合、それぞれの遺構から出土した土器の時間的関係を捉えることができる。それぞれの土器の時間的関係を捉え、さらに分類により土器の特徴を捉え、時間的な軸の上に配列することを土器編年という。編年によって与えられる年代は、基本的には相対年代である。しかし、放射性炭素法年代測定 (^{14}C 年代測定法) や遺物自体が年代を識別できる情報を有する時、遺構や遺物の絶対年代が決められ、その絶対年代と相対年代を組み合わせることにより遺構あるいはそれらから出土した遺物に年代が与えられる。そして、一端土器編年が確立すると、土器自体が時間の情報を有するようになる。

メソアメリカの建造物は増改築が行われるが、その建造物を作るときに使われた土の中から出土する土器をその遺跡の土器編年と比較することにより建造物の建築年代を推定できる。使用された土からは複数の時期に属する土器が出土する可能性があるが、そのときは最も新しい時期に属する土器の年代が建造物の建築年代となる。また、墓や住居址などの遺構の年代決定もその出土土器から推定可能である。このように編年が確立されている土器は、様々な遺構の年代を計る「物差し」として使用される。

考古学調査で得られた資料は、多岐にわたるが、その中でも土器資料の占める割合は大きい。土器分析の第一歩は、分類による分析単位の確定であり、土器の報告書においては土器の説明に関する記述が大部分を占める。この写真や図版を含む土器の記述により、客観的に土器資料が提示され研究者間の間では共通の資料となる。土器編年は、遺構や遺物の個々の年代決定を行う「物差し」として利用されるだけでなく、他の遺物や遺構の組み合わせなどを通して把握される考古学的文化の分布範囲や継続期間あるいは変化のあり方を考察する上での基礎的なデータを提示するものでもある。

(2) 交易

交易に関する研究は、生産地が限定されている黒曜石や貝製品あるいはヒスイなどを対象に研究されてきた。大部分の土器は日常品であり、それぞれ限定された地域にしか分布しないが、中には広範囲に分布する土器もあり交易研究の対象になる。メソアメリカでは、精製土器やプランベート土器などが有名であるが、テオティワカンでは、Thin Orange 土器や Granular 土器が交易品として考えられている。

土器を対象とする交易の研究では、まず生産地の同定が行われる。土器は土が原料であるが、どの土からも作られるのではなく、一定の可塑性をもつ良質の粘土が使用される。したがって粘土の化学成分を分析すること（胎土分析）によりどの地方で作られたのかを判断することができる。粘土に含まれる微量の元素を分析する胎土分析の方法として蛍光 X 線分析法(X-ray Fluorescence Analysis)、放射化分析法(Neutron Activation Analysis)、発光分光分析法(Spectrographic Analysis)などがある。蛍光 X 線分析法は、分析される試料に X 線をあて、試料の中に含まれる元素がそれぞれ放射する特有な X 線（蛍光 X 線）の波長と強さを測って含まれている元素の種類と含有量を測定する方法で、土器だけでなく石器の産地同定にも使用される。放射化分析法は、原子炉を使って行われる分析で試料に中性子を吸収させて試料を放射性にしてその放射線を測ることによって、試料に含まれる元素の種類と含有量を測定する方法である。発光分光分析法は試料を高温に過熱し蒸気にしてしまったものを発光させ、主に含まれている元素の種類を同定する方法である（東村 1980）。

土器の場合は、その「動き」も大きく2つに分けられる。第1は、土器自体が動く場合（土器自体が製品として動く場合と他の「物」を入れた入れ物として動く場合）、第2は、土器の製作者あるいは土器製作のアイディアのみが動く場合である。土器の胎土分析により生産地が同定されると生産地と消費地の関係が明確になり、土器の「動き」さらには交易ネットワークの解明に繋がる。

(3) 生活の復元

住居址の床面や墳墓の中から発見される遺物は、同時代に製作されそして使用されたと考えられるので、それらの遺物は一括遺物として取り扱われる。一括遺物は、様々な種類の土器だけでなく、石器なども含むので当時の生活を復元する上で貴重な資料となる。

1976年に発見されたエル・サルバドルのホヤ・デ・セレン（Joya de Ceren）は、西暦600年頃に噴火した火山によって埋もれてしまった遺跡であった。メソアメリカの「ポンペイ」と呼ばれるこの遺跡からは、農民の住居、作業場、倉庫、農民が使用していた土器や石器、さらに耕作地まで当時のままで発見され、当時の農民の生活様式が窺える。倉庫と考えられている建造物の北側の部屋からは、香炉1個、多彩色土器の碗4個、壺4個、広口の碗1個が発見され、一つの壺にはカカオの種が入っていた。また、南側の部屋からは12個の土器が発見され、多彩色の円筒土器からは黄色い液体の残存物が残っていた（Sheets 1992）。このように一括遺物は、日常生活で使用される実用土器の機能や器種のセット関係を探る上で重要な役割を果たす。

また、ティカル遺跡の「神殿 34」から発見されたヤシュ・ヌーン・アイーン 1 世（在位：379-404?）の墓（墳墓 10）が、W.コウらによって調査された（Coe 1990, Martin and Grube 2000）。王の遺体は、墓の中心に置かれ、その周りには生贄にされた若者の遺体、供物としてマリンバのように台の上に配置された亀の甲羅、テオティワカン様式の三脚付円筒土器等がおかれていた。墳墓から出土する副葬品、特に王墓のようなエリート階級の墓から出土する副葬品は、当時の交易関係や世界観あるいは手工業生産のレベルを探る資料となる。

（4）民族考古学

民族考古学とは、現在まであるいは現在に近い時代まで生きていた人々の生活に関する知識を、過去の文化や社会の研究に役立てる方法であると言われている（後藤 2001）。土器研究においては、民族学の対象としての土器は、具体的な形状を備えた容器でありその製作者、製作技術、利用者と利用法がいずれも観察可能であり、時期やそれが属する集団も確定しているのに対して、考古学の対象としての土器は、大半が破片であり、発掘で得られた土器全体は複数の時期に対応しているの、必ずしも特定の時期、社会集団とは対応しているとは言えない。

このように民族学の対象としての土器と考古学の土器とでは、土器の持つ情報の量と質が異なるが、土器の製作技法の点から言えば、考古学の対象としての土器に不足している情報を民族学の成果から補うことができる。土器の民族誌では、土器の製作過程、土器の器種と機能、文様の種類とその意味、土器の交易システムなどについての報告がなされる。

グアテマラ高地で調査を行ったレイナ等の調査では、粘土の準備、土器の成形、焼成にいたる土器の製作過程およびマーケティングに関して報告されており、これらの情報は、考古学の土器の属性分析を行う際に参考になる（Reina and Hill, II 1978）。今後、過去の土器製作の技術を使って実際に土器を製作する実験考古学の分野も重要となるだろう。また、土器の民族誌で得られた土器の流通システムに関する情報は、考古学的に把握される地域を限定して分布する実用土器の動きを解明する上で重要な役割を果たすと考えられる。

1-3 本研究の目的

本研究には、3つの研究目的がある。

第1の目的は、「月のピラミッド」の土器の分類、分析を通して、テオティワカンの土器編年を洗練し、よりわかりやすい土器資料の提示を試みることである。本研究で取り扱う土器資料は、「月のピラミッド」の建造物に伴う資料であり、建造物の増改築と関連付けて解釈できる土器資料である。テオティワカンの土器の編年に関する研究は、現在ラットレイの研究が一つの基準となっている。しかし、2章で述べるようにラットレイの研究成果やテオティワカンの土器の報告書にいくつかの課題がある。本稿では、これらの課題を踏まえて、土器の資料提示に当たっては、土器の3枚の写真（表面、裏面、胎土）を1セットとして提示することを試みる。4章はパトラチケの土器、5章はサクワリ期の土器、6章はミカオトリ期の土器、7章はトラミミロルパ期の土器をこの新しい方式で記述する。こ

のような土器 1 個体ごとの写真資料の提示は、従来のどの報告書にも見られなかったものであり、客観的資料としてその価値は高いと考えられる。今後、本稿の土器データは、テオティワカン遺跡における様々な調査やテオティワカン以外の地域での調査で出土する土器の比較資料として有効に活用される。また、4 章で述べるパトラチケ期の資料はテオティワカンの起源を考える上でも重要な資料となりうる。テオティワカンにおいてパトラチケ期の土器は、1962 年からレネ・ミリオンをプロジェクトリーダーとするテオティワカン地図プロジェクトの表面採集やテスト・ピット、またブラッチャーによるトラチノルパン遺跡の発掘、あるいはスミスによる「太陽のピラミッド」の調査による報告はあるが、「月のピラミッド」のように建造物の増改築と関連付けて解釈できる資料は皆無であった。特に、「月のピラミッド」の建造物 1 に伴う資料は貴重な土器資料である。

第 2 の目的は、「月のピラミッド」の各建造物の年代決定を土器の分析から行うことである。「月のピラミッド」では、7 回の増改築が行われて現在の「月のピラミッド」が作られた。最も古い建造物 1 から建造物 7 までのそれぞれの建造物の時期決定を土器から行う。建造物の建築年代の決定においては、放射性炭素による年代決定がよく使われるが、それぞれの建造物の盛土からどの時期の土器がどのような割合で出土するのかに関するデータ、すなわち土器の時期別構成比も重要である。「月のピラミッド」の調査では、筆者の他に **Ceferino Ortega** 氏等による土器分析も行われており、それぞれの建造物の土器の時期別構成比に関しては、筆者の分析結果と **Ceferino Ortega** 氏の分析結果の両方のデータを比較することも可能である。

第 3 の目的は、「月のピラミッド」と他のモニュメントの関係を検討することである。「月のピラミッド」の 7 つの建造物がそれぞれ「太陽のピラミッド」や「羽毛の生えた蛇神殿」とどのような関係にあるのかを検討する。「太陽のピラミッド」や「羽毛の生えた蛇神殿」の調査に直接参加していないので、今までの研究成果をもとに検討する。

筆者は 1999 年から「月のピラミッド」考古学プロジェクトに参加し、土器の分析を担当した。本稿は、その成果をまとめたものである（佐藤 2002a、2002b、2004a、2004c、2004d、2005、2009、2015、Sato and López 2001）。

2章 テオティワカンの土器の研究史

2-1 土器編年に関する研究

テオティワカンの土器研究は、Linné 等の初期の研究報告はあるが (Linné 2003a, 2003b)、1960 年以降本格的に開始された。本章では、テオティワカンの土器研究、特に土器編年に関する研究の歴史をまとめ、現在の土器研究の課題を提示する。

(1) セジュールネ(Séjourné)の研究

セジュールネは、1950 年から 60 年代に発掘されたアテテルコ(Atetelco)地区、サクアラ(Zacuala)地区、ヤヤウアラ(Yayahuala)地区の土器を紹介している。これらの発掘により、香炉を含む多くの完形土器が出土し、それらの土器はテオティワカン I 期からテオティワカン IV 期までの時期の土器として分類された (Séjourné 1959, 1966, 1983)。セジュールネの報告書は層位に関する情報はほとんど無いが、これらの地区から出土した豊富な完形土器の図版や写真は、それ以後の土器研究のための資料となった。特に、建造物の盛土の発掘からは土器片しか出土しないが、土器片から全体の器形を復元する場合などには有効である。

(2) スミス (Smith) の研究

スミスは、マヤ研究で使用されている Type-Variety 分類法を使用して 1960 年代に発掘された「太陽のピラミッド」出土の土器⁴を分析した。スミスは、土器のタイプの命名法などにマヤ研究の方法論をそのまま適用したために、スミスの研究報告は他のテオティワカンの土器研究とは大きく異なっていた。この報告書では、サクワリ期からミカオトリ期にかけての豊富な土器が報告されている (Smith 1987)。

スミスの採用した Type-Variety 分類法における、タイプを決定付ける土器の属性は、胎土、表面調整、装飾技法であり、それぞれの属性が同一な土器のユニットを 1 つのタイプとして取り扱う。胎土では特に硬さ、肌目、混和財の有無、色などの属性、また表面調整ではスリップ⁵の有無、色、研磨の有無、光沢の有無などの属性に着目する。装飾技法では、その種類が重要である。器種に関しては、1 つのタイプは複数の器種 (壺、碗、皿など) を含むが、香炉などの特殊な土器では 1 タイプ - 1 器種が認められる (佐藤 2004b)。

一方、後述するテオティワカン地図プロジェクト (Teotihuacan Mapping Project) で採用された土器分類法は、土器片を観察し胎土や表面調整の特徴からまずどの Ware に属するかを決定する。次に、器種を同定しそれぞれの土器の属性の分析に入る。従って、土器の記述は器種毎の記述になり、一つの Ware に属する同一器種の年代毎の属性の変化を分析するには優れている。この器種別分類法がテオティワカンでは主流となり Type-Variety 分類法は今日では使用されていない⁶。

⁴ 太陽のピラミッドの、Lower terrace, Highest terrace, North trench の 3 箇所から出土した土器分析している。

⁵ 土器の表面に細かい粘土を塗布したり粘土液につけたりして土器の表面を整えて焼いたもの、化土とも呼ばれる。

⁶ メキシコ盆地の南西部に位置する Temamatla 遺跡の土器分析では、Type-Variety 分類法が使用されている (Ramírez, Felipe, Lorena Gámez, Fernán González y Mari Carmen Serra 2000)。

(3) ミューラー (Müller) の研究

1960年から1964年に行われたメキシコ政府によるテオティワカンの発掘調査によって得られた土器を分析したのがミューラーである (Müller 1978)。ミューラーは、テオティワカンの土器分類にスミスが導入した Type-Variety 分類法を多少改良して分類をおこなったと述べているが (Müller 1978: 23)、タイプ名に土器の器種名を付けるなど器種別分類法に近い分類を行っている。ミューラーは、Proto-Teotihuacan I 期 (200-150 A.C.) から Azteca III (1321-1521 D.C.) までの土器を体系的に示した。

表 2-1-1: ミューラーの編年表

時期名	時期名(別名)	年代
Proto-Teotihuacan I	Tesoyuca	200-150 A.C
Proto-Teotihuacan	Patlachique	150-100 A.C
Teotihuacan I	Tzacualli Temprano	100-1 A.C.
Teotihuacan Ia	Tzacualli Tardio	1-150 D.C.
Teotihuacan II	Miccaotli	150-200 D.C.
Teotihuacan IIa	Tlamimilolpa Temprano	200-300 D.C.
Teotihuacan IIa-III	Tlamimilolpa Tardio	300-450 D.C.
Teotihuacan III	Xolalpan Temprano	450-550 D.C.
Teotihuacan IIIa	Xolalpan Tardio	550-650 D.C.
Teotihuacan IV	Metepec	650-750 D.C.
Proto-Coyotlatelco	Oxtoticpac	750-800 D.C.
Coyotlatelco	Xometla	800-1000 D.C.
Tolteca	Mazapan	1000-1200 D.C.
Azteca II	Zocango	1200-1325? D.C.
Azteca III	Chimalpa	1325?-1521 D.C

(出所: Müller 1978)

し、それ以後のテオティワカンの土器編年研究の基本となった。ベニホフ等は、表面調整や胎土の特徴に応じて Ware を定義し、それぞれの Ware の中で器種を決定し、時代毎の変化を報告している。また、テスト・ピットによって層位的に得られたデータを基に土器編年の修正も行った (Bennyhoff and Millon 1967)。

本稿でも月のピラミッド出土のパトラチケ期の土器の比較資料として参考にした。

(5) ブラッチャー (Blucher) の研究

ブラッチャーは、1967年から1969年までテオティワカン盆地の北西部 (テオティワカン地図プロジェクトのグリッドでは N7W8) に位置するトラチノルパン (Tlachinolpan) 遺跡を発掘した (Blucher 1971)。この遺跡には、パトラチケ期の建造物やサクワリ期の建造物があり、また土器ではクアナラン (Cuanalán) 期⁷からサクワリ期までの土器が出土している。ブラッチャーは、テオティワカン地図プロジェクトと同様の分類法を活用して

⁷ テオティワカン盆地では、パトラチケ期以前の土器編年として、クアナラン (Cuanalán) 期 (500-200B.C.)、テソユカ (Tezoyuca) 期 (200-100 B.C.) が設定されている (Cowgill 2015:11)。

土器分類を行っている。トラチノルパン遺跡の土器資料は、建造物に伴う資料であり層位的に土器編年を検討する際に重要な資料である。特に、土器資料が少ないパトラチケ期の資料を提示しているので「月のピラミッド」の土器を分析する上でも重要な参考資料となった。

(6) ラットレイ (Rattray) の研究

ラットレイは、テオティワカン地図プロジェクトで行った 26 箇所のテスト発掘によって得られた土器を分析してテオティワカンのサクワリ期からメテペック期までの土器編年を確立した (Rattray 1974、1987、1998、2001)。土器の分類方法は、ベニホフ等の Ware 及び土器の器種別分類法を踏襲している。この報告書は、現在テオティワカン遺跡の土器研究においては、基本的な報告書となっている。

しかし、ラットレイの土器編年の問題点は、サクワリ期からメテペック期までの土器編年が 1 箇所の建造物で確認できていないことである。例えばサクワリ期前期の土器はオストヤワルコ (Oztoyahualco) 遺跡出土の土器を使用し、サクワリ期後期の土器は「太陽のピラミッド」の発掘資料を使っている。また、ミカオトリ期の土器は Great Compound 地区出土の土器を使用している (Rattray 2001: Table 1) ⁸。このようにそれぞれの時期の土器が一箇所の建造物ではなく、時期毎に異なる建造物や遺構出土の土器を使っているので層位的に連続性が確認されているとは言えない。

2-2 土器に関する個別テーマの研究

(1) 胎土分析に関する研究 (Thin Orange)

胎土分析、特に Thin Orange Ware に関する胎土分析はシェパードの研究が先駆的な研究であった (Shepard 1946: 196-201)。シェパードは、土器に含まれる混和財 (Temper) を分析し、グアテマラのカミナルフュー遺跡やワシヤクトウン遺跡、ホンテユラスのコパン遺跡から出土する Thin Orange 土器は、テオティワカン遺跡からもたらされたものと考えた。

また、ソトマヨールやカスティージョ等による研究では、カミナルフュー遺跡やテオティワカン遺跡など 14 遺跡から出土した 46 の土器サンプルを分析した (Sotomayor y Castillo 1963)。彼らは、Thin Orange 土器は、プエブラ州の南部地域で生産されたと考えた。焼成温度は 500°C ~ 600°C で簡単な窯を使って温度調整をした可能性を指摘している。また、A.D.250-650 の期間にメソアメリカ各地にこの土器は拡散したと考えている (Sotomayor y Castillo 1963 : 18-20)。

ラットレイは、プエブラ州の南部の Telex de Rodriguez 地域で調査を行い Thin Orange 土器の生産遺跡を発見した (Rattray 1990)。生産遺跡の一つと考えられるパテルナル (Paternal) 遺跡からは、灰や失敗した土器を捨てた遺構⁹や土器を作るときに使用する型

⁸ 本稿で取り扱う「月のピラミッド」の土器は、「月のピラミッド」の 7 期の建造物の盛土から出土した土器であるので建造物の増改築と関連づけて解釈できる土器資料である。

⁹ 日本考古学では「物原」と呼ばれる遺構である。

やスタンプなどの道具も見つかっている。土器では、交易用に使用されたと考えられる高台付の碗、円筒形壺、ミニチュア土器などが出土している。この遺跡の時期は、A.D.300-750である。胎土分析の結果もテオティワカンの **Thin Orange** と類似することが述べられている。

(2) 土器の生産遺跡に関する研究

1980年にペンシルバニア州立大学のチームが調査したトラヒンガ 33 遺跡 (Trajinga 33:S3W1) は、宝石や土器を生産していた住居址であることが解明された (Widmer 1987, 1991, Story 1991, Sheehy 1988, 1992, 1998)。この遺跡は、トラミミロルパ前期からメテペック期までの居住期間があるが、トラミミロルパ前期からショラルパン前期とショラルパン後期からメテペック期では住居 (Apartment Compound) のレイアウトならびに生産物が大きく異なる。トラミミロルパ前期からショラルパン前期にかけては、主に石を使った装飾品を生産していたが、ショラルパン後期からメテペック期にかけては、土器 (**San Martin Orange Ware**) を生産するようにならなると考えられている (Widmer 1987)。また、明確な窯跡は確認されていないが、土器焼成用の穴 (Firing Pit) および土器を乾かす建造物は発見されている。道具類は、土器製の道具や貝などが使われた。

(3) その他

ホプキンスは、テオティワカンの土器の **Burnished Ware** に属する大型壺とカスエラの器種および **San Martin Orange Ware** に絞ってその製作技法の特徴を研究した (Hopkins 1995)。ホプキンスによるとサクワリ期やミカオトリ期では、大型壺の器形や胎土にばらつきが多く見られるがトラミミロルパ期以降になるとそれらが統一化されてくる傾向があることが報告されている。また、**San Martin Orange Ware** は、トラミミロルパ後期に出現しショラルパン期に多く作られた土器である。また、クレーターやアンフォラなどの器種の規格の統一化が見られることなどから専門集団によって作られ、市場で取引されていた土器と考えられている (Cowgill 2015:173-174)。

土器や建造物などの分析からテオティワカンと他地域との交流を論じた論文は多く認められる。例えばマヤ地域との交流では、2003年に *The Maya and Teotihuacan: Reinterpreting Early Classic Interaction* が出版された (Braswell, editor 2003)。また、マヤ以外でもメキシコ湾岸地域、オアハカ地域との交流も研究されている (Ortiz, Ponciano and Robert Santley 1998, Yarborough 1992, Marcus and Flannery 1996)。さらに、オアハカ地域からのテオティワカンへの移住に関する研究も見られる (Rattray 1987, Spence 1992)。

タウベは、テオティワカン遺跡のテティラ地区における壁画や土器に見られるマヤ的要素を分析した (Taube 2003)。特に土器では、ショラルパン期の **Plano-Relief** 土器に多くのマヤ的蛇の図像が描かれていることを解明した。また、Linné の報告した (Linné 2003b: Fig. 175) **Plano-Relief** 土器にはカカオの木の下でケツアル鳥を獲っている若い人物が描かれており、この図像が南部チアパスやグアテマラのマヤ文化圏では重要な図像であることを報告している (Taube 2003:313)。

2-3 テオティワカンの土器報告書および土器の編年研究の課題

(1) 土器報告書の課題

今日、テオティワカンの土器研究で主流となっている土器の分類は、前述したように土器を観察してどの Ware に属するどの器種なのかを決定する。次に、土器の胎土、器形、表面調整などの特徴ならびに層位データからそれぞれの土器の年代を決めるという手順で分類作業が行われる。このような分類手法で分類され土器の編年研究、個別テーマ研究が行われるのであるが、ラットレイの研究報告が土器の編年研究における最新版である。従って、テオティワカン遺跡で新規に土器を研究する場合は、まずラットレイの報告書を読み土器の分析を始める。

実際この作業を行うと土器の同定にあたりいくつかの問題点あった。ラットレイの報告書は、それぞれの時期の Ware に属する器種ごとの説明が一定のフォーマット¹⁰に従って行われる。しかし、文字を使用した説明では、限られた土器の表現しか出来ないので実際の土器片の同定においては、時期決定が難しい。器形や装飾技法に関しては、実測図や写真を使用することにより文字での説明を補うことが出来るが、表面調整や胎土に関しては文字での説明だけでは限界がある。

本稿では、このような課題を解決するために客観的な資料を提示している。一つの土器片は、外面の写真、内面の写真、胎土の写真を1セットにして提示した¹¹。また、関連する実測図も掲載している。土器は、遺構の年代を計る「物差し」であるので、より客観的な資料提示による土器の研究報告書は今後様々なプロジェクトでも採用されるべきである。

(2) 土器の編年研究の課題

テオティワカンの土器の編年研究の課題としては、パトラチケ期の資料が不足している点が挙げられる。パトラチケ期の資料に関しては、上述したベニホフやブラッチャーの資料のみである。本稿では、この不足していたパトラチケ期の資料を「月のピラミッド」の建造物1から出土した土器を中心に報告している。パトラチケ期の土器は、今後のテオティワカンの起源を考える上でも重要な資料となりうる。また、「月のピラミッド」出土の土器は、建造物の増改築と関連させて土器の分析を行うことが出来る資料でもあるので、編年研究においては貴重な資料である。

¹⁰ 例えば、サクワリ期の Burnished Ware では、大型壺の表面調整(Surface finish)、器形(form)、胎土(Paste)、次に碗の表面調整、器形、胎土の記述がなされる。

¹¹ 本稿でも全ての土器の写真を掲載できていないが、「月のピラミッド」の建造物の出土地点を考慮しながら代表的な土器を抽出している。

3章 テオティワカン「月のピラミッド」出土の土器

3-1 時期区分

メソアメリカ考古学では、Period, Phase, Tradition 等の類似の単語がある。コーギルは、つぎのように定義している (Cowgill 2015:11-12)。

A phase is a stretch of time identifiable by prevalence of a specific complex of cultural objects, especially ceramics. “Phase” emphasizes the time dimension within a culturally fairly homogeneous region.

A period is more inclusive interval comprising more than one phase, and often a broader region.

A tradition is a sequence of complex largely derived from one another without much external input

テオティワカンの時期区分に関しては、表 3-1-1 で示すようにミュラーの時期区分 (Müller 1978)、スミスの時期区分 (Smith 1987)、ラットレイの時期区分 (Rattray 2001)、コーギルの時期区分 (Cowgill 2015) がある。また、土器の時期とそれに対応する絶対年代に対して諸説がある。さらに「月のピラミッド」の調査では、従来言われていた年代よりも新しくなる可能性がある (Sugiyama and Cabrera 2007: Table 2)。

表 3-1-1：テオティワカン遺跡の時期区分

	Muller 1978	Smith 1987	Rattray 2001	Gowgill 2015
パトラチケ期 (Patlachique phase)	150-100 B.C.	100-1 B.C.	150-1 B.C	100-1 B.C.
サクワリ前期 (Early Tzacualli phase)	100-1 B.C.	A.D. 1-100	(Early) A.D. 1-150	A.D. 1-100
サクワリ後期 (Late Tzacualli phase)	A.D. 1-150	A.D. 100-150	(Late)	
ミカオトリ期 (Miccaotli phase)	A.D. 150-200	A.D. 150-250	A.D. 150-200	A.D. 100-170
トラミミロルパ前期 (Early Tlamimilolpa phase)	A.D. 200-300	A.D. 250-375	A.D. 200-250	A.D. 170-250
トラミミロルパ後期 (Late Tlamimilolpa phase)	A.D. 300-450	A.D. 375-450	A.D. 250-350	A.D. 250-350
ショラルパン前期 (Early Xolalpan phase)	A.D. 450-550	A.D. 450-650	A.D. 350-450	A.D. 350-450
ショラルパン後期 (Late Xolalpan phase)	A.D. 550-650		A.D. 450-550	A.D. 450-550
メテベック期 (Metepec phase)	A.D. 650-750		A.D. 550-650	A.D. 550-650

3-2 基本器種

テオティワカン遺跡では多くの土器の器種が報告されている(Bennyhoff and Millon 1967、Rattray 2001、Blucher 1971)。本稿では、パトラチケ期からトラミミロルパ期に出現する器種に関してとりあげる。また、碗に関しては、胴部や口縁部の形に注目して細分している。

大型壺 (Olla) : 頸部が外反する大型の短頸壺 (図 3-2:a)。

壺 (Jar) : Olla より小型で、頸部が外反する短頸壺 (図 3-2:b)。

テコマテ (Tecomate) : 口径が 15cm~30cm の胴部が強く内湾し、最大の胴部直径が口縁部直径より大きくなる無頸壺 (図 3-2:c)。

碗 (Bowl)

Simple Bowl : 胴部がなだらかに内湾する碗 (図 3-2:d)。

Flaring Bowl : 胴部が外傾する碗 (図 1:e)。

Outcurving Bowl : 胴部および口縁部が外反する碗 (図 3-2:f)。

Incurving Bowl : 胴部が内湾する碗 (図 1:g)。

Shouldered Bowl : 胴部の中央部または上部にかけて突出部をもち断面図では” S” 字型の形の胴部になる碗 (図 3-2:h)。

Angled Bowl : なだらかに内湾する胴部から口縁部が垂直に立ち上がる碗 (図 3-2:i-j)。

Corrugated Bowl : 口縁部断面が波型になる碗。

Pinched Bowl : 波状の口縁部を持つ碗。

円筒形壺 (Vase) : 平底で胴部が直立または外傾するシリンダー状の壺 (図 3-2:k-l)。

皿 (Dish) : 器高が碗より低い平底の皿 (図 3-2:m-o)。

コムアル (Comal) : 胴部がほとんど無い丸い鉄板状の皿 (図 3-2:p)。

カスエラ (Cazuela) : 口縁部が多く外反する大型の深鉢 (図 3-2:q)。

ベースン (Basin) : 器厚が厚く胴部が外傾あるいは直立する平底の大型の鉢 (図 3-2:s)。

長頸壺 (Florero) : 口縁部が大きく外反し頸部が直立あるいは内傾する小型の長頸壺 (図 3-2:r)。

アンフォラ (Amphora) : 頸部が直立あるいは内傾し、取手が胴部に付く器高の高い大型の壺 (図 3-2:t-u)。

トラロック (Tlaloc Jar) : 器の正面にトラトック神が塑像されている儀式用の壺 (図 3-2:v)。

香炉 (Incensario) : 香炉、様々な器形がある (図 3-2:w)。

カバープレート (Cover Plate) : 器の蓋 (図 3-2:x)。

ミニチュア (Miniature) : ミニチュア土器、様々な器種がある。

脚 (Support) : 土器の底部に付けられる脚。

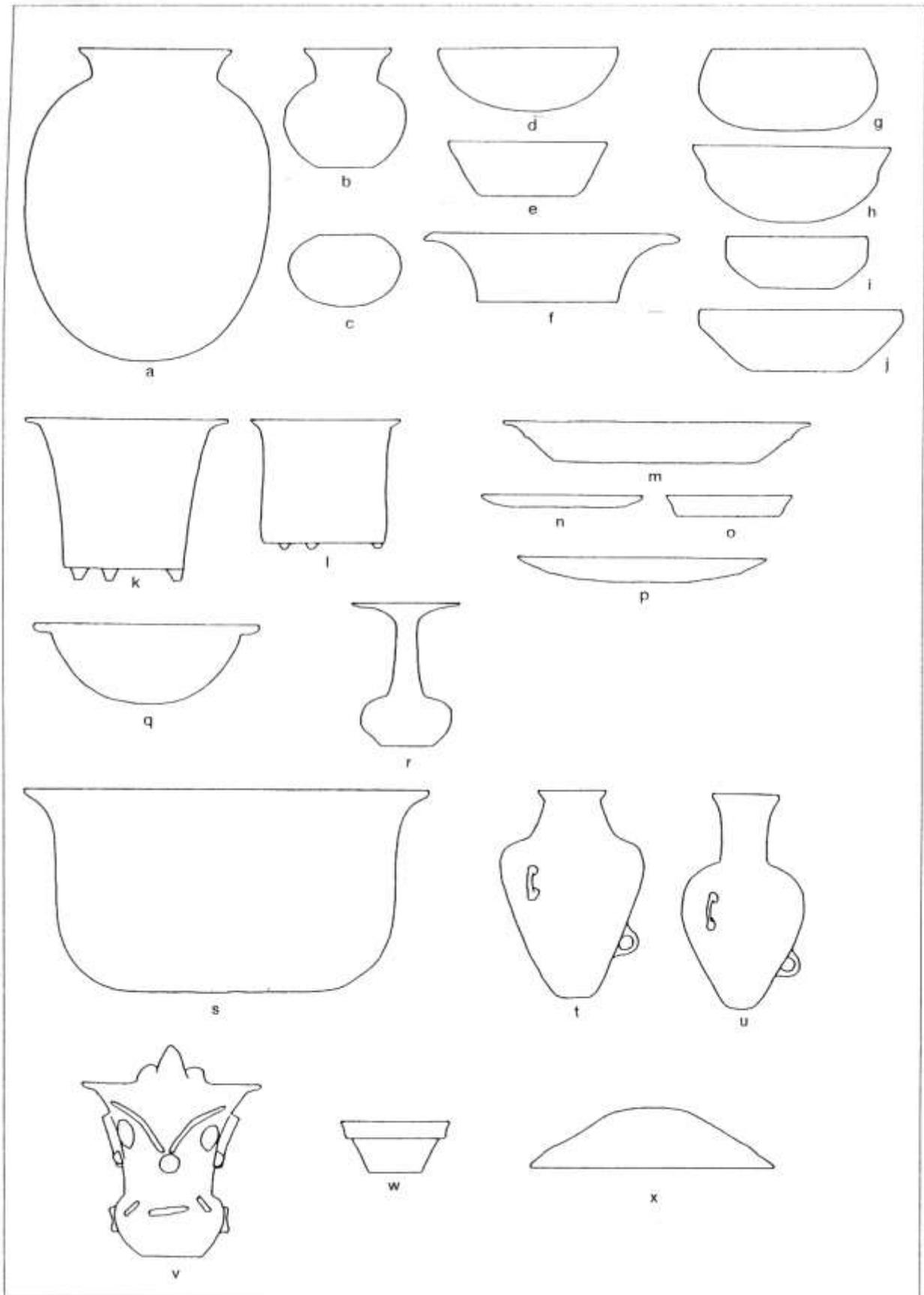


図 3-2 : 土器の種類 (器種)

(出所 : Bennyhoff, James A. and Rene Millon 1967、再トレース)

3-3 Ware の定義

テオティワカン遺跡の土器の分類では、土器の胎土や表面調整の属性に着目して同一の属性を持つものをひとつの Ware として分類する方法が一般的に使われている。テオティワカン産の土器では9つの Ware が定義され、交易品としては2つの Ware が見られる (Rattray 2001:113-121, 307-349)。ラットレイによると同一の Ware は複数の時期に見られ、それぞれの Ware は下記のような特徴を持っている。

(1) ローカル土器

Matte Ware は、**Coarse Matte** グループと **Fine Matte** グループの2つのグループから構成される。**Coarse Matte** グループは、砂質の胎土で表面はナデ調整が行われるだけである。器種は香炉であり、トラミミロルパ以降には携帯用の香炉と考えられているカンデレロ (**Canderero**) が出現する。パトラチケ期からメテペック期まで続く。**Fine Matte** グループは、**Coarse Matte** グループと同様の表面調整が施されるが、胎土は良質である。器種としてはカバープレート (**Cover Plate**)、香炉の飾り (**Adorno**)、ミニチュア土器がある。サクワリ前期に出現しメテペック期まで続く。

Burnished Ware は、土器の表面に磨きの調整が施された土器で、スリッパはかけられていない。表面の色は、赤褐色、褐色、暗褐色とバリエーションがある。胎土は、時期によって異なるがやや荒い胎土から良質の胎土までありテンパーを含む。代表的な器種は、大型壺とコマルでパトラチケ期からメテペック期までのすべての時期で見られる。

Polished Ware は、表面が研磨され光沢を有するグループで表面の色彩により黒色系と褐色系に分けられる。代表的な器種は、壺、碗、円筒形壺、皿、長頸壺、トラロック等で特にミカオトリ期の土器は質的にも優れ、量的にも豊富になる。パトラチケ期からメテペック期まで出土する。

Painted Ware は、装飾技法の違いにより **Monochrome Red**、**White on Red Bichrome**、**Red on Natural Bichrome**、**Polychrome**、**Resist** に細分される。表面は良く研磨され光沢がある。赤の顔料は、パトラチケ期からミカオトリ期までは、赤鉄鉱 (**Hematite**) が使われないが、トラミミロルパ前期以降では赤鉄鉱を使用した **Specular Red** が現れ、ショラルパン期では一般的になる。**Monochrome Red** と **Red on Natural Bichrome** はパトラチケ期からメテペック期まで、**White on Red Bichrome** と **Resist** は、パトラチケ期からトラミミロルパ前期まで、**Polychrome** はパトラチケ期からサクワリ前期までそれぞれ続く。

Stuccoed and Painted Ware は、良質の胎土で素地の上に化粧漆喰が塗られ、文様が描かれる土器である。器種は、三脚付円筒壺であり、蓋が付くこともある。この土器は、ショラルパン前期に出現し、メテペック期まで続く。

Copa Ware は、良質の胎土を持ち、表面に丁寧な研磨が施される。器種は、円筒形壺とコップ (**Copa**) であり、典型的な **Copa Ware** はショラルパン前期に出現し、メテペック期まで続く。特に、墓の副葬品として出土する。

Dense Ware は、他の Ware と比較してその表面調整と胎土そして器種の特徴により明確に区別できる。土器の表面は、研磨された明褐色の色で硬く引き締まった特徴を示し、胎土も良質で硬い。器形は小型の **Bowl** やミニチュア土器がある。サクワリ前期からトラミミロルパ後期まで続く。

San Martin Orange Ware は、やや粗い胎土を持ち、表面は、オレンジ色で研磨痕が見られる。代表的な器種は、クレーター（Crater）と呼ばれる高さ 50cm 程の大型の鉢とアンフォラ（Amphora）であり、少数ながら壺も存在する。ショラルパン前期に出現し、メテペック期まで続く。

（２）交易土器

Thin Orange Ware は、土着の土器ではなく、プエブラ(Puebla)から交易品としてテオティワカンにもたらされたと考えられている土器である。非常に器厚の薄いオレンジ色の土器で、表面は良く研磨されている。サクワリ後期から出土し、メテペックまで続く。この土器は、広範囲に分布する土器であるのでその生産地を同定するために、様々な化学的分析が行われた（Rattray 2001:307-335）。

Granular Ware は表面調整および器種が特徴的である。土器の表面には白色のスリッパがかけられ、その上に黒色の文様が施される。器種ではアンフォラ（Amphora）が一般的で、他には壺も見られる。胎土はやや荒く、黒色や赤色のテンパーを含む赤褐色からピンクがかった白色系の色である。サクワリ前期からメテペック期まで続く。この土器の生産地は現在まだ明らかにされていない（Rattray 2001:335-349）。

表 3-3-1：各 Ware の出現状況

	Patl ²⁾	E. Tzac	L. Tzac	Micc	E. Tlam	L. Tlam	E. Xol	L. Xol	Met
<ローカル土器>									
Coarse Matte Ware	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Fine Matte Ware	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Burnished Ware	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Polished Ware	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Painted Ware	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Dense Ware		●	●	●	●	●			
Copa Ware							●	●	●
Stucco Painted Ware							●	●	●
San Martin Orange Ware							●	●	●
<交易土器>									
Thin Orange Ware			●	●	●	●	●	●	●
Granular Ware	?	●	●	●	●	●	●	●	●

註)

1) この表はRattray 2001の報告書から作成。●: 当該Wareが存在

2) Patl(Patlachique), E. Tzac(Early Tzacualli), L. Tzac(Late Tzacualli), Micc(Miccaotli), E. Tlam(Early Tlamimilolpa), L. Tlam(Late Tlamimilolpa), E. Xol(Early Xolalpan), L. Xol(Late Xolalpan), Met(Metepec)

3-4 「月のピラミッド」の建造物

「月のピラミッド」は、1998年から始まったトンネル発掘により7期の建造物の増改築があったことが解明されている。現在、「月のピラミッド」と呼ばれている建造物は、最終段階の第7期の建造物である（図 3-4-1）。この節は、杉山の報告書を中心にまとめる（杉山、2000）。

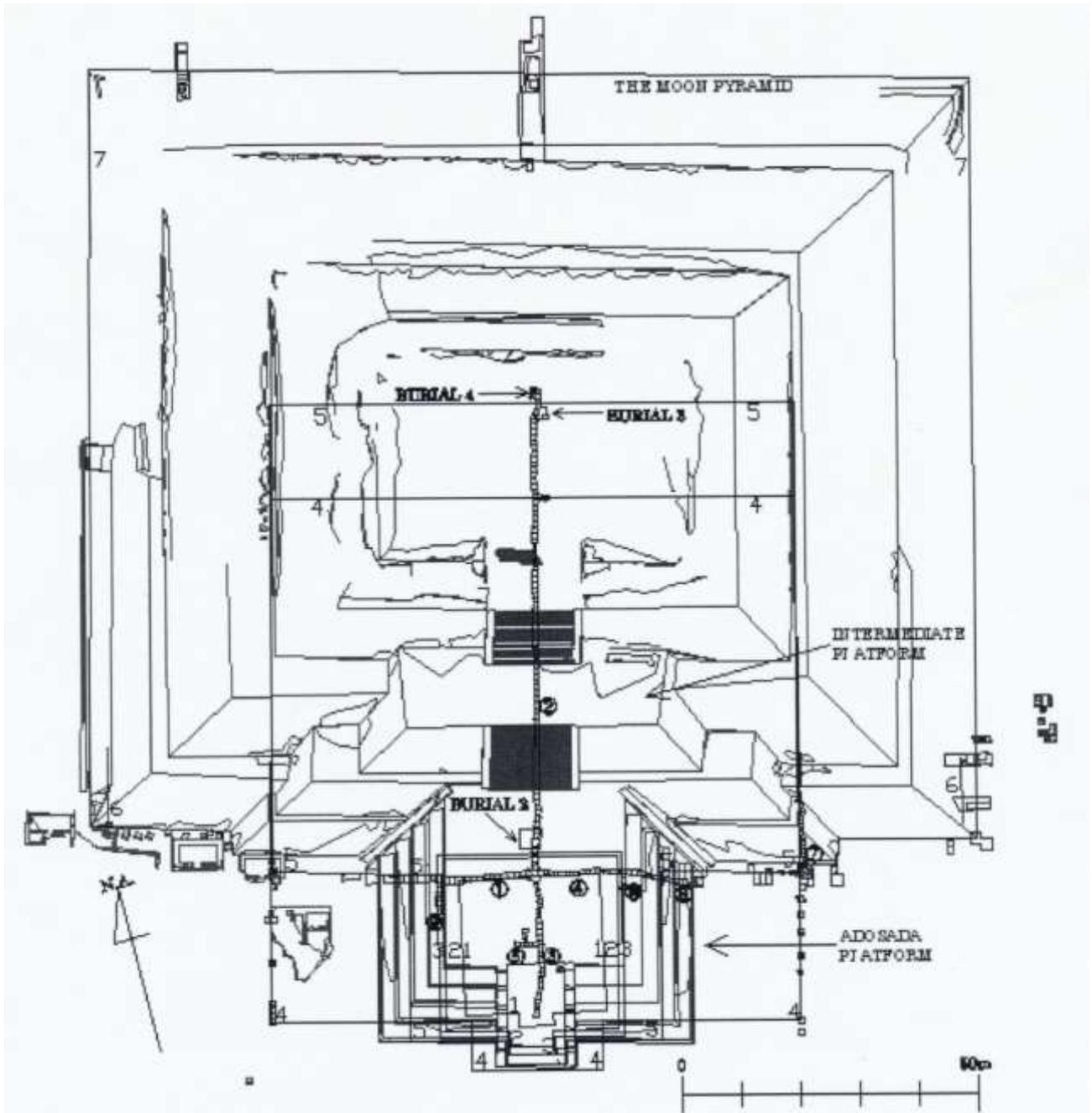


図 3-4-1 : 「月のピラミッド」の増改築

(出所 : Sugiyama and Cabrera 2007: Fig.3, p.113)

<56 層>

地山直上の自然堆積層と考えられる層で建造物 1 がのっている層である（図 3-4-2）。

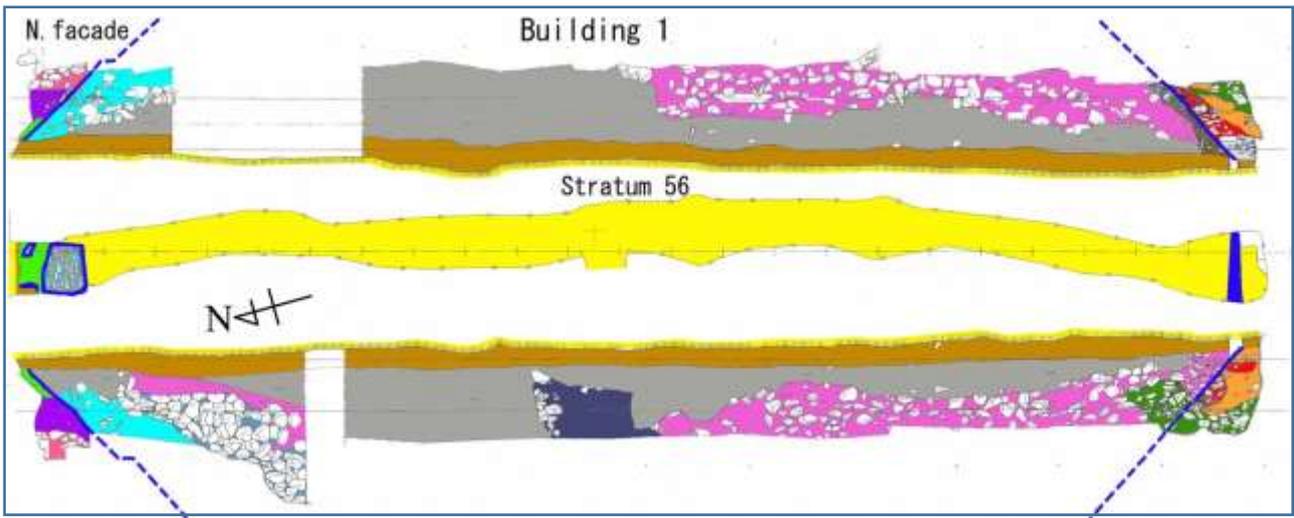


図 3-4-2 : 56 層

（註：杉山三郎教授の提供）

<建造物 1 >

「月のピラミッド」の前庭部基壇内で発見されたテオティワカンで最も古い建造物の一つである。この建造物は、東西、南北とも 23.5m の正四角錐台形の形をして切石で造られ、その上に 化粧漆喰が塗られていた。この建造物の東西軸は、一般的なテオティワカンの東西軸より、北側に 3 度ずれている（一般的なテオティワカンの建造物より、北西を向いている）。

<建造物 2、建造物 3 >

建造物 1 同様、前庭部基壇内にあり、建造物 1 を覆い隠しながら建造された。建築様式の変化は無いが、建造物 2 の方向軸は、その後のテオティワカンの標準の建造物の方向軸に近くなる。建造物 3 は、建造物 2 の単純な拡張建て替えである。

<建造物 4 >

建造物 3 から建造物 4 への拡張は、飛躍的に増大した。発掘データによると、東西約 89.5m の基壇幅があり南北幅も約 89.1m あるので、建造物 1 ～建造物 3 同様に正四角錐台形をしたプラットフォームであったと考えられる。この拡張に伴い、建造物の東西の中心軸は北に移動し、建造物の方向軸もテオティワカンの標準の建造物の軸と同じになる。従って、この時期に、「死者の通り」が建設された可能性もある。

<建造物 5 >

建造物 5 は、今までの建て替え方法とは異なり、単に古い建造物を埋め立てるだけでなく、破壊する作業も含んでいた。すなわち、建造物 5 の建て替え時には、建造物 4 の南側

の壁は破壊され、そこに現在の「月のピラミッド」で見られるような前庭部が造られた。建築様式も大きく変化し、タルー・タブレロ様式が導入された。この建造物5で初めて「月のピラミッド」に見られるようなプラットフォーム本体と前庭部を組み合わせ、タルー・タブレロ様式の壁を備えた建築様式が確立した。

< 建造物 6、建造物 7 >

建造物6は、南側（正面）、北側（裏側）及び東西側面の大幅な拡張が行なわれ、現在の「月のピラミッド」とほぼ同じ規模となった。「月の広場」の床面にも対応するので、「死者の通り」、「太陽のピラミッド」、「城砦」などが共存していた時期である。建造物7は、現在の「月のピラミッド」である。

3-5 分析した土器の出土層位および分析土器数

56層および建造物1から建造物7の盛土から出土した合計4,694土器の属性を分析し、データベースに登録した（使用ソフトはAccess）。分析の対象とした土器数は表3-5-(1)-1～表3-5-(8)-1に示す。

(1) 56層出土の土器

56層の土器は、トンネル1、3、4、5から出土しており全ての土器を調べ分析対象の土器を抽出した。

表 3-5-(1)-1 : 56層の層位と分析土器数

層位	土器の破片総数	分析対象土器数	口縁部	胴部
56層 (T1)	1449	133	108	25
56層 (T3)	179	20	13	7
56層 (T4)	425	40	37	3
56層 (T5)	37	1	1	0
合計	2090	194	159	35

（註：T1はTunnel 1を示している、以下同様）

(2) 建造物1出土の土器

トンネル3から出土した全ての土器を調べて分析対象の土器を抽出した。

表 3-5-(2)-1 : 建造物1の盛土の層位と分析土器数

層位	土器の破片総数	分析対象土器数	口縁部	胴部
56層、79層	2,363	142	110	32
79層	1,247	62	51	11
79層、80層	1,258	60	48	12
合計	4,868	264	209	55

(3) 建造物 2 出土の土器

トンネル 1、2、4 出土の全ての土器を調べて分析対象の土器を抽出した。

表 3-5-(3)-1：建造物 2 の盛土の層位と分析土器数

層位	土器の破片総数	分析対象土器数	口縁部	胴部
52層 (T1)	254	19	16	3
52層、53層 (T1)	5,415	305	267	38
52層、53ab層 (T1)	1,271	98	87	11
52層、53層、56層 (T1)	903	70	60	10
53層 (T1)	577	30	27	3
52層、53層、56層 (T2)	386	22	22	0
52層、53層、58層、59層 (T2)	57	8	7	1
52層、53層 (T4)	2,660	172	150	22
52層、53層、89層 (T4)	819	50	50	0
合計	12,342	774	686	88

(4) 建造物 3 出土の土器

トンネル 1、2 出土の全ての土器を調べて分析対象の土器を抽出した。

表 3-5-(4)-1：建造物 3 の盛土の層位と分析土器数

層位	土器の破片総数	分析対象土器数	口縁部	胴部
14a層 (T1)	348	25	24	1
68層 (T2)	254	13	12	1
合計	602	38	36	2

(5) 建造物 4 出土の土器

建造物 4 の下層部は、トンネル 2 の 149 層（トンネル 2 の基点から約 25m 地点）までの層位からサンプリングして分析対象の土器を抽出した。

また、上層部は、トンネル 12 の各層位からサンプリングして分析対象の土器を抽出した。

表 3-5-(5)-1 : 建造物 4 の盛土の層位と分析土器数 (下層部)

層位	土器の破片総数	分析対象土器数	口縁部	胴部
73層 (T2)	74	9	8	1
71a層 (T2)	275	40	29	11
82層 (T2)	82	4	4	0
混合層 (T2)	84	7	6	1
149層 (T2)	8,235	736	690	46
142層 (T2)	3,560	268	254	14
合計	12,310	1,064	991	73

表 3-5-(5)-2 : 建造物 4 の盛土の層位と分析土器数 (上層部)

層位	土器の破片総数	分析対象土器数	口縁部	胴部
72層 (T12)	736	81	77	4
62層 (T12)	711	63	60	3
41層 (T12)	1,400	167	156	11
29層 (T12)	1,100	173	173	0
51層、54層(T12)	618	61	61	0
合計	4,565	545	527	18

(6) 建造物 5 出土の土器

建造物 5 出土の土器は、トンネル 2 の建造物 5 の盛土の各層位からサンプリングして分析対象の土器を抽出した。

表 3-5-(6)-1 : 建造物 5 の盛土の層位と分析土器数

層位	土器の破片総数	分析対象土器数	口縁部	胴部
248層 (T2)	497	43	37	6
254層 (T2)	481	29	26	3
251層 (T2)	331	19	19	0
254a層 (T2)	1,151	101	88	13
247層 (T2)	544	24	21	3
247層、248層 (T2)	190	18	18	0
257層 (T2)	7	1	1	0
258層 (T2)	41	6	6	0
260層 (T2)	6	1	1	0
252層 (T2)	7	0	0	0
254層、255層 (T2)	35	3	3	0
254層～257層	34	2	2	0
混合層	28	0	0	0
合計	3,352	247	222	25

(7) 建造物6出土の土器

建造物6の下層部は、トンネル2の建造物6の盛土の各層位からサンプリングして分析対象の土器を抽出した。

また、上層部は、トンネル8の各層位からサンプリングして分析対象の土器を抽出した。

表 3-5-(7)-1：建造物6の盛土の層位と分析土器数（下層部）

層位	土器の破片総数	分析対象土器数	口縁部	胴部
280b層(T2)	1,440	96	84	12
284層(T2)	200	18	14	4
合計	1,640	114	98	16

表 3-5-(7)-2：建造物6の盛土の層位と分析土器数（上層部）

層位	土器の破片総数	分析対象土器数	口縁部	胴部
9層(T8E1)	417	42	39	3
9層(T8N1)	3,459	308	294	14
9層、13層(T8N1)	2,143	191	181	10
9層(T8E2)	1,368	121	109	12
20層、21層(T8E2)	570	44	36	8
21層(T8E2)	641	58	58	0
22層、23層(T8E2)	951	99	90	9
23層(T8E2)	989	102	98	4
合計	10,538	965	905	60

(8) 建造物7出土の土器

建造物7出土の土器は、“Frente C”¹²の建造物7の盛土の各層位からサンプリングして分析対象の土器を抽出した。

表 3-5-(8)-1：建造物7の盛土の層位と分析土器数

層位	土器の破片総数	分析対象土器数	口縁部	胴部
22層	1,957	235	176	59
25層	891	70	44	26
26層	966	184	125	59
合計	3,814	489	345	144

¹² “Frente”（スペイン語）という単語は、日本語では「領域」、英語では“Front”と表現される。本稿では、Frenteという単語を使用している。

3-6 土器の属性の記述方法および土器写真の提示方法

(1) 土器の記述フォーマット

土器は、Ware の同定（グループに分かれる場合はグループの同定）を行った後、それぞれの器種毎に分類し記述した。

<記述フォーマット>

Ware 名（個体数、時期全体の中で割合）

器種名：大型壺、壺、碗、皿等の器種名を示す

個体数：器種の出土数

出土地点：出土地点を表で示す

図版：図版番号

胎土：胎土の特徴の説明、色についてはマンセル土色帳を使用

表面調整：表面調整の特徴の説明

装飾：装飾技法、モチーフ等の説明

器形：一つの器種が細分される場合は、細分された器形の説明

(2) 写真図版

1 片の土器は、外面、内面、胎土の順番で一つのセットになっている。土器片の写真は、複数の土器片をまとめて撮影して提示する方法が一般であるが、本稿では 1 片の土器に対して 3 カットを撮影し文章の記述とともに提示している。このように提示することにより記述だけではわかりにくい土器の特徴を客観的に示すことが可能となった。

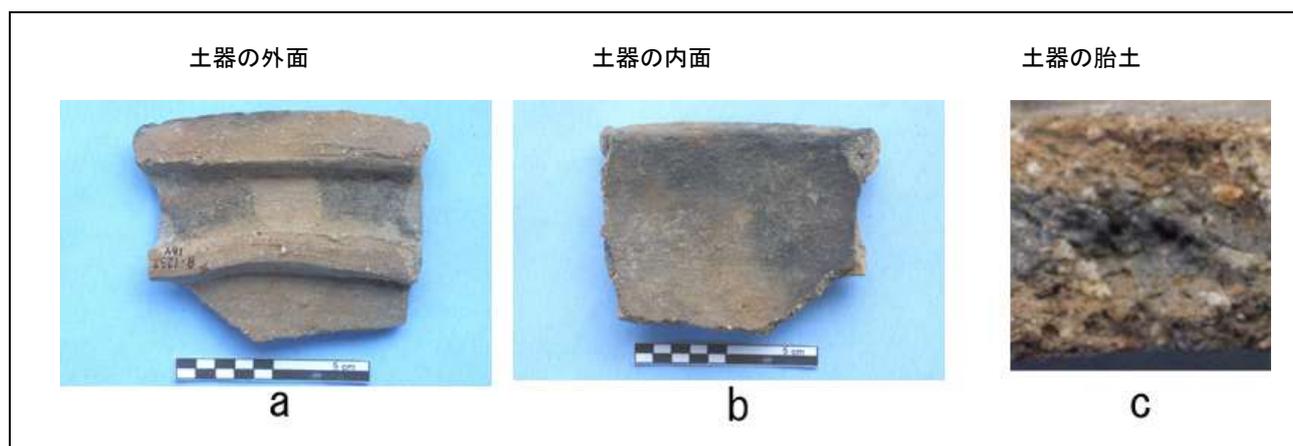


図 3-6-(2)-1：土器の写真の 3 カット

4章 テオティワカン「月のピラミッド」出土のパトラチケ期の土器

4-1 Matte Ware (個体数 N=7、パトラチケ期全体の中で 0.6%)

(1) 香炉(censer)

個体数 : N=1 (パトラチケ期の Matte ware 中で 14.3%)

出土地点 :

表 4-1-(1)-1 : 香炉の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
香炉 (Censer)	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%

図版 : 図 4-1-(1)-1

胎土 : 胎土は、砂質で肌理が粗くあまり硬くない。白や黒の多くの含有物を含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られる (図 4-1-(1)-1)。胎土の色は、赤褐色 (5YR5/8) である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、ナデ調整が行われるだけであり、色は胎土とほぼ同じであるが、表面には黒色の焼け跡が見られる。

装飾 : 口縁部外側にはアップリケの装飾が見られる場合がある (図 4-1-(1)-1:a)。

器形 : 口縁部が外側に肥厚し、胴部にアップリケ装飾を持つ香炉である。

コメント : ベニホフ等の報告によると、パトラチケ期の香炉の中にアップリケ装飾を持つ香炉が報告されている (Bennyhoff and Millon 1967、PAT Fig.1)。



図 4-1-(1)-1 : 建造物 2 (T1) 出土の香炉

(2) まとめ

表 4-1-(2)-1 : Matte Ware の出土地別機種構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
香炉 (Censer)	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%
器種不明	3	100.0%	2	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	85.7%
合計	3	100.0%	2	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	1	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	100.0%

Matte Ware には、器種不明な土器が 6 片ほど見られる。胎土や表面調整の特徴は、Matte Ware の特徴を有しているが、器種が小型の碗である。碗型の香炉の可能性もあるが、同定

するには比較データが少ない。

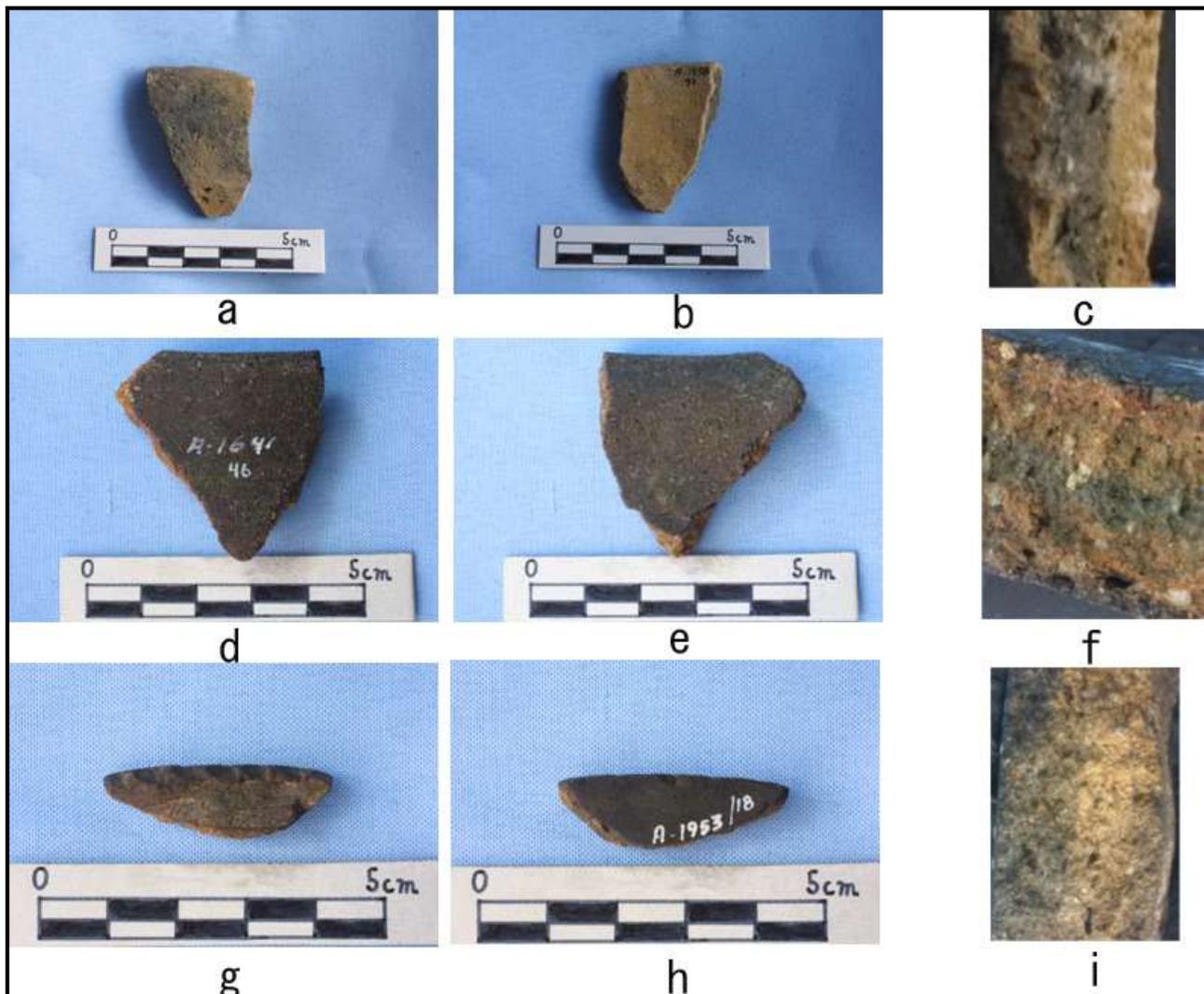


図 4-1-(2)-1 : a-c 56層 (T3)出土の器種不明土器、d-i 建造物 1 (T3) 出土の器種不明土器

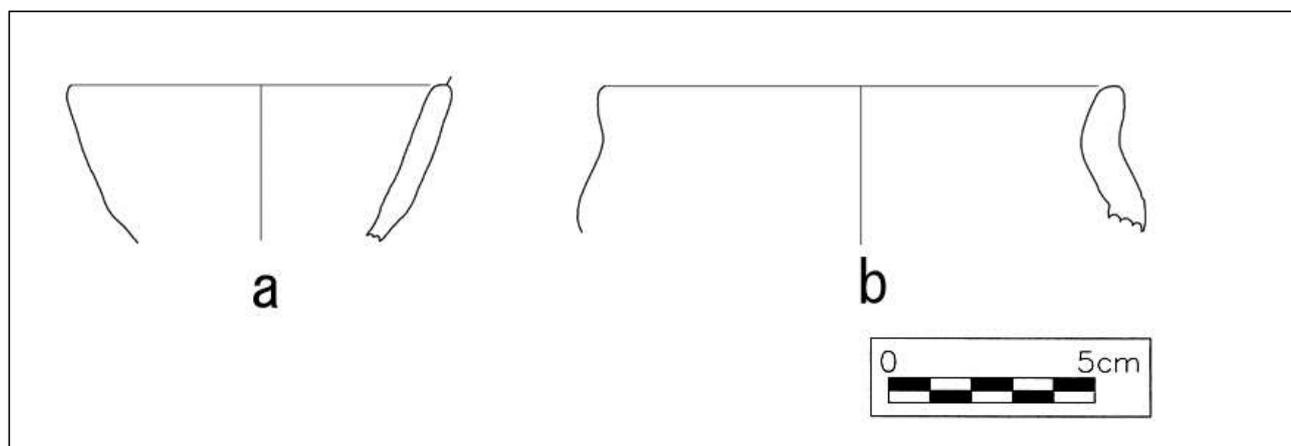


図 4-1-(2)-2 : a 56層 (T3)出土の器種不明土器(口径 6.9cm)、
b 建造物 1 (T3) 出土の器種不明土器 (口径 12.4cm)

4-2 Burnished Ware (個体数 N=468、パトラチケ期全体の中で 41.6%)

表面の装飾の有無により、①Monochrome Brown グループと、②Painted Red グループに分けられる。

< Monochrome Brown グループ(N=457)>

(1) 大型壺(Olla)

個体数 : N=267(パトラチケ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループ中で 58.4%)

出土地点 :

表 4-2-(1)-1 : 大型壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
大型壺(Olla)	30	11.2%	29	10.9%	116	43.4%	2	0.7%	55	20.6%	11	4.1%	22	8.2%	2	0.7%	267	100.0%

図版 : 図 4-2-(1)-1～図 4-2-(1)-9

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。白や黒の細かい、あるいは大きい含有物を含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある(図 4-2-(1)-2)。胎土の色は、オレンジ系(7.5YR6/4、7.5YR6/6、5YR6/8、5YR6/6、5YR6/8)、赤褐色系(7.5YR5/4、5YR5/6、5YR5/8、2.5YR5/8)、褐色系(7.5YR5/6、7.5YR4/6)黄褐色系(10YR6/4、10YR6/6)等多様である。

表面調整 : 表面仕上げは、内外面とも良好で研磨される。特に、口縁部内側は、よく研磨され水平に走る研磨痕が見られる場合もある(図 4-2-(1)-1:n、図 4-2-(1)-2:e)。表面の色は、基本的には胎土と同じでオレンジ系、赤褐色系、褐色系、黄褐色系がみられるが、黒色系(7.5YR2/1)のものもある(図 4-2-(1)-3)。

装飾 : 口唇部に爪型の文様を規則正しく押捺する押捺文(thumbing)(図 4-2-(1)-4)、波状口縁(図 4-2-(1)-1:g, h)などが見られる場合もある。

器形 : 大型壺全体を復元できる土器片はなかったが、口縁部にはいくつかの特徴がみられる。特に、パトラチケ期の大型壺のタイムマーカーである(Bennyhoff and Millon 1967, Blucher 1971:310)口縁部が肥厚する”wedge-rim”は2種類見られる。

①Round-wedge-rim:口縁部の内側が肥厚し丸い口縁部を形成するタイプ(図 4-2-(1)-5:g, k)。

②Beveled-wedge-rim:口縁部が肥厚するが、Round-wedge-rimとは異なり口唇部が平らになるタイプ(図 4-2-(1)-5:d、図 4-2-(1)-8:a, b, d)。

これ以外にも、口縁部が肥厚しないで外反するタイプ(図 4-2-(1)-6:c, g, h、図 4-2-(1)-9:c)などの口縁部が認められる。

口径は、20.6cm～35.8cmの中に入る(表 4-2-(1)-2)。

コメント:ブラッチャーによれば、トラチノルパン出土の大型壺も口径が18cm～34cmの範囲である(Blucher 1971:308)。器高は、「月のピラミッド出」土の土器からは測定できないが、ベニホフ等の報告によると、口径約20.2cmに対して器高が40.1cmの大型壺が報告されている(Bennyhoff and Millon 1967)。

表 4-2-(1)-2 ; 大型壺の口径

実測図	口径(cm)	写真	出土地	個体番号
図 4-2-(1)-5, a	-	-	建造物1(T3)	A-1538-34
図 4-2-(1)-5, b	-	図4-2-(1)-1, g-h	建造物1(T3)	A-1589-371
図 4-2-(1)-5, c	-	-	建造物1(T3)	A-1953-41
図 4-2-(1)-5, d	31.7	図4-2-(1)-2, a-c	建造物1(T3)	A-1549-68
図 4-2-(1)-5, e	31.4	-	建造物1(T3)	A-1549-69
図 4-2-(1)-5, f	25.6	-	建造物1(T3)	A-1589-365
図 4-2-(1)-5, g	37.0	-	建造物1(T3)	A-1630-42
図 4-2-(1)-5, h	21.8	-	建造物1(T3)	A-1630-43
図 4-2-(1)-5, i	22.4	図4-2-(1)-2, d-f	建造物1(T3)	A-1641-94
図 4-2-(1)-5, j	25.9	-	建造物1(T3)	A-1641-99
図 4-2-(1)-5, k	24.0	図4-2-(1)-1, d-f	建造物1(T3)	A-1641-100
図 4-2-(1)-5, l	24.2	図4-2-(1)-2, g-i	建造物1(T3)	A-1641-105
図 4-2-(1)-6, a	27.6	図4-2-(1)-3, a-c	建造物1(T3)	A-1641-106
図 4-2-(1)-6, b	32.6	-	建造物1(T3)	A-1662-22
図 4-2-(1)-6, c	29.1	-	建造物1(T3)	A-1662-23
図 4-2-(1)-6, d	34.2	-	建造物1(T3)	A-1662-25
図 4-2-(1)-6, e	27.6	-	建造物1(T3)	A-1662-27
図 4-2-(1)-6, f	32.1	図4-2-(1)-3, d-f	建造物1(T3)	A-1662-29
図 4-2-(1)-6, g	29.3	-	建造物1(T3)	A-1692-43
図 4-2-(1)-6, h	29.4	-	建造物1(T3)	A-1938-11
図 4-2-(1)-6, i	24.6	図4-2-(1)-2, m-o	建造物1(T3)	A-2082-73
図 4-2-(1)-6, j	32.6	図4-2-(1)-1, m-o	建造物1(T3)	A-2082-76
図 4-2-(1)-6, k	-	-	建造物1(T3)	A-1953-41
図 4-2-(1)-6, l	-	-	建造物1(T3)	A-1953-55
図 4-2-(1)-7, a	28.1	-	56層(T1)	A-986-133
図 4-2-(1)-7, b	23.3	-	56層(T1)	A-1033-21
図 4-2-(1)-7, c	30.6	-	56層(T1)	A-1033-35
図 4-2-(1)-7, d	35.8	-	56層(T1)	A-1033-75
図 4-2-(1)-7, e	21.6	-	56層(T1)	A-1155-69
図 4-2-(1)-7, f	28.5	-	56層(T1)	A-1155-74
図 4-2-(1)-7, g	34.4	-	56層(T1)	A-1155-87
図 4-2-(1)-7, h	29.4	-	56層(T1)	A-1204-360
図 4-2-(1)-7, i	31.2	-	56層(T1)	A-1204-362
図 4-2-(1)-7, j	22.8	-	56層(T1)	A-1256-55
図 4-2-(1)-7, k	20.8	-	56層(T1)	A-1256-205
図 4-2-(1)-8, a	33.9	-	56層(T4)	A-2101-14
図 4-2-(1)-8, b	24.6	-	56層(T4)	A-2117-74
図 4-2-(1)-8, c	26.0	-	56層(T4)	A-2160-54
図 4-2-(1)-8, d	20.6	-	56層(T4)	A-2326-13
図 4-2-(1)-9, a	27.6	-	建造物2(T1)	A-1064-37
図 4-2-(1)-9, b	32.6	-	建造物2(T1)	A-1070-100
図 4-2-(1)-9, c	35.3	-	建造物2(T1)	A-1149-204
図 4-2-(1)-9, d	24.7	-	建造物4(T2)	A-3102-257

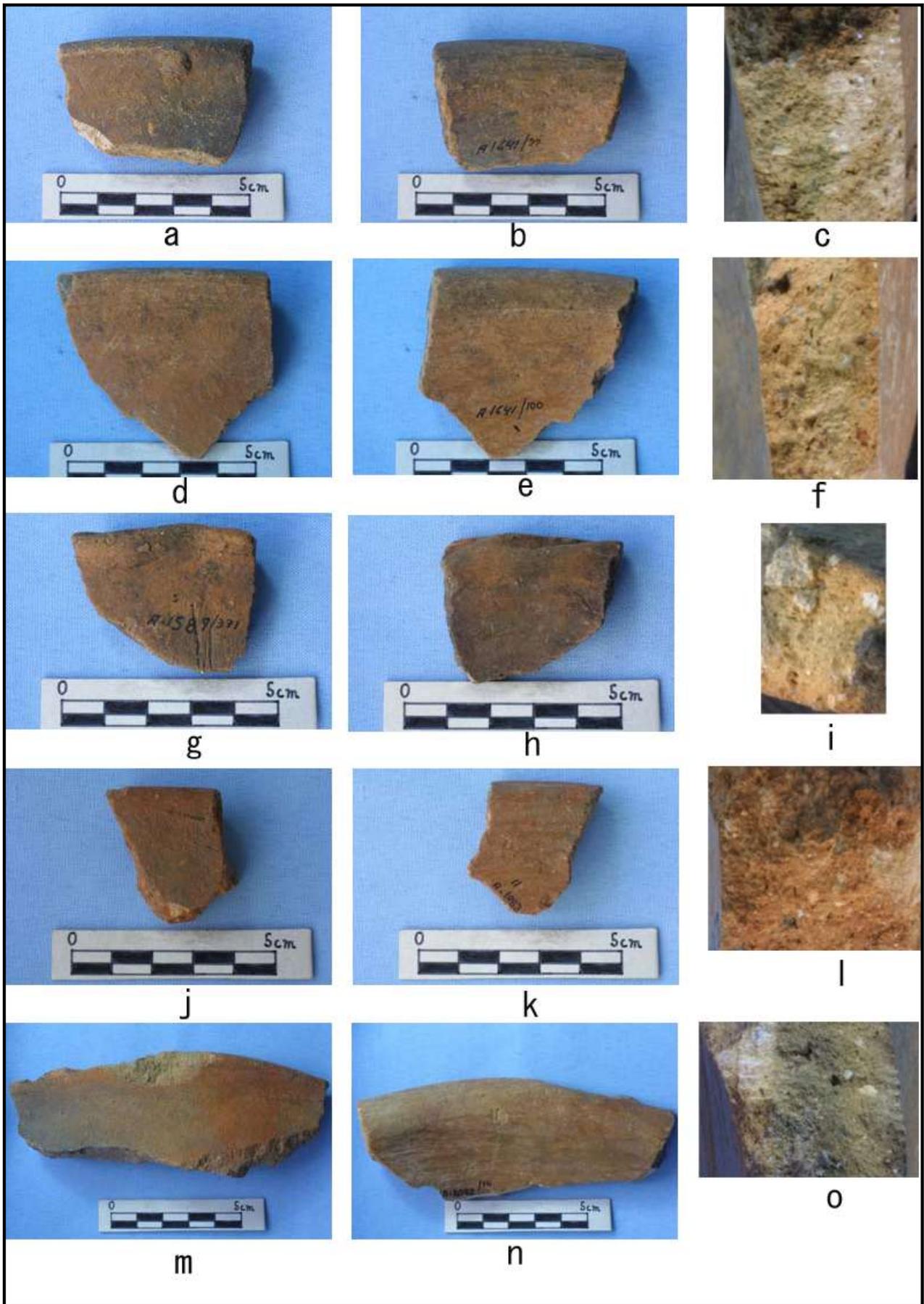


図 4-2-(1)-1： 建造物 1 (T3) 出土の大型壺 (Olla)

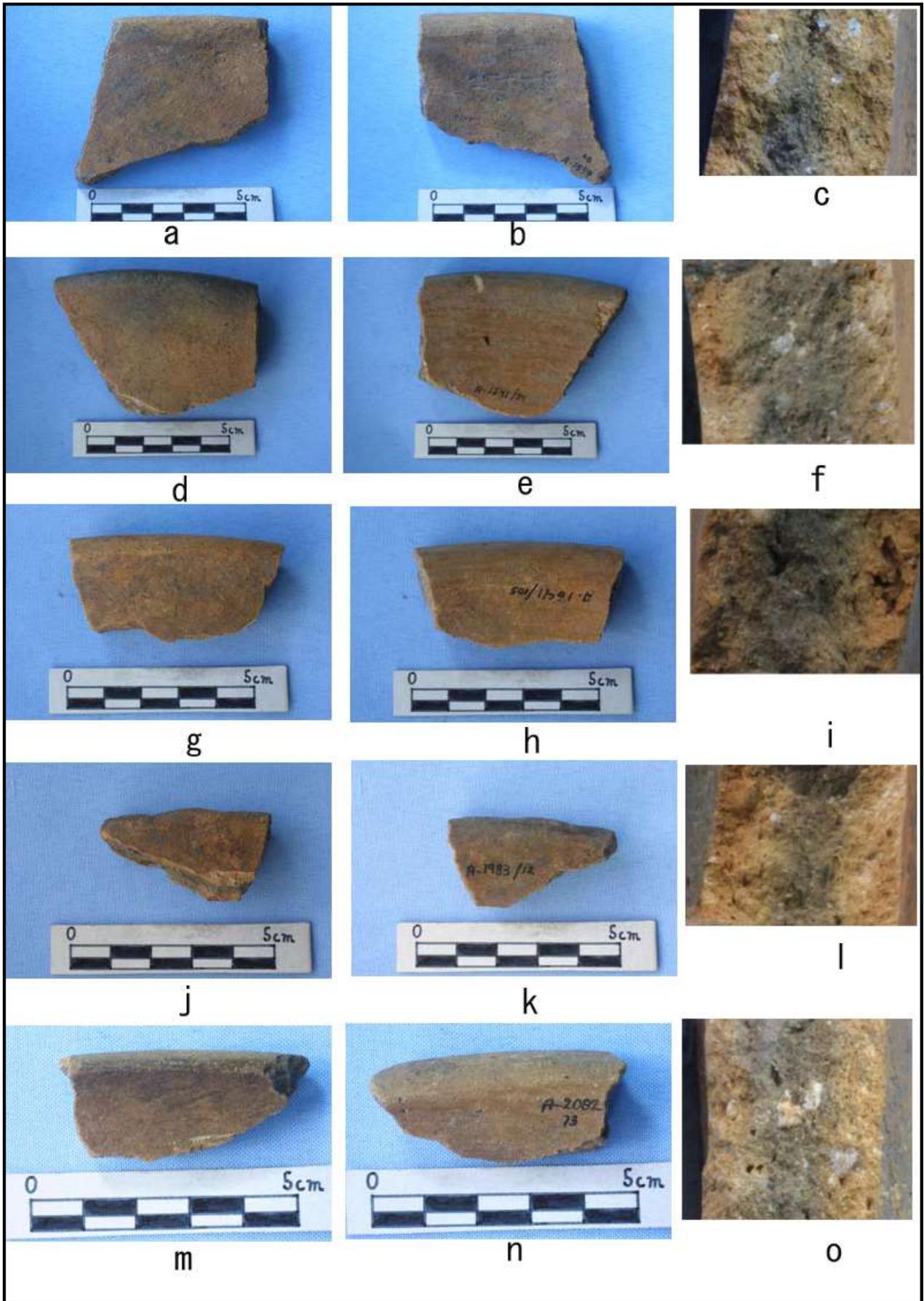


図 4-2-(1)-2： 建造物 1 (T3) 出土の大型壺 (Olla)

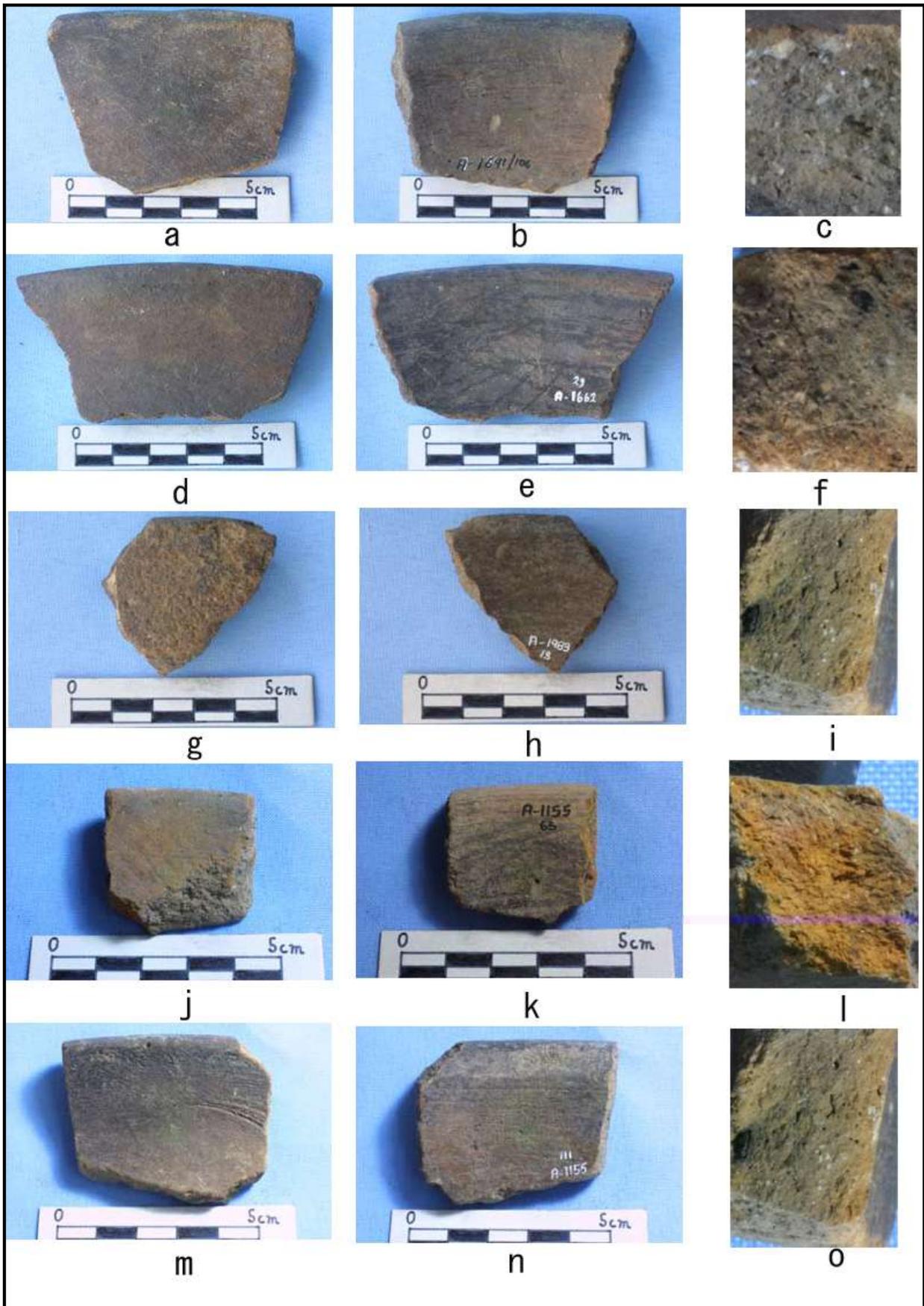


図 4-2-(1)-3 : a-i 建造物 1 (T3) 出土の大型壺 (Olla) ,
 j-o 56 層 (T1) 出土の大型壺 (Olla)



図 4-2-(1)-4 : a-b 大型壺の口唇部の装飾

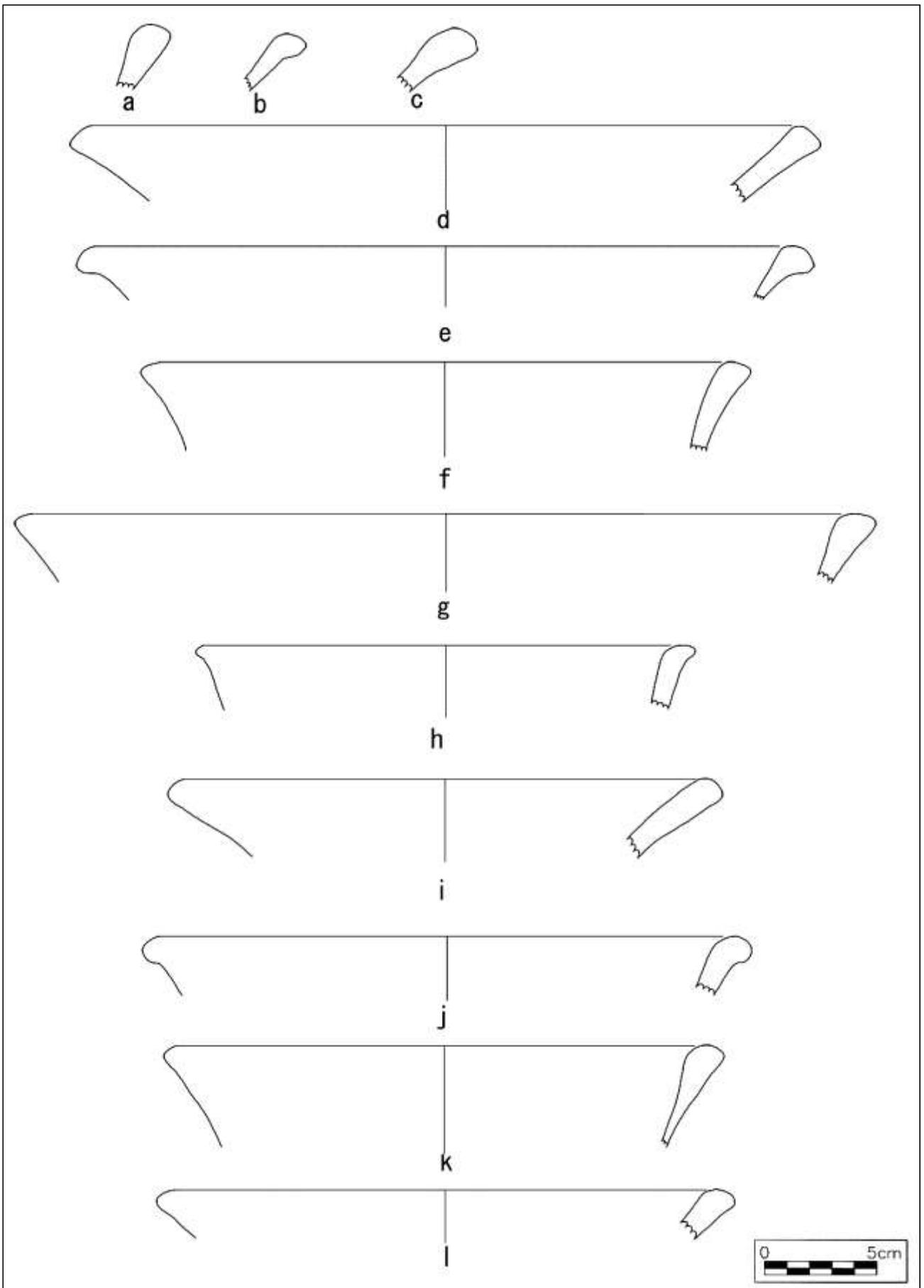


図 4-2-(1)-5： 建造物 1 (T3) 出土の大型壺 (Olla)

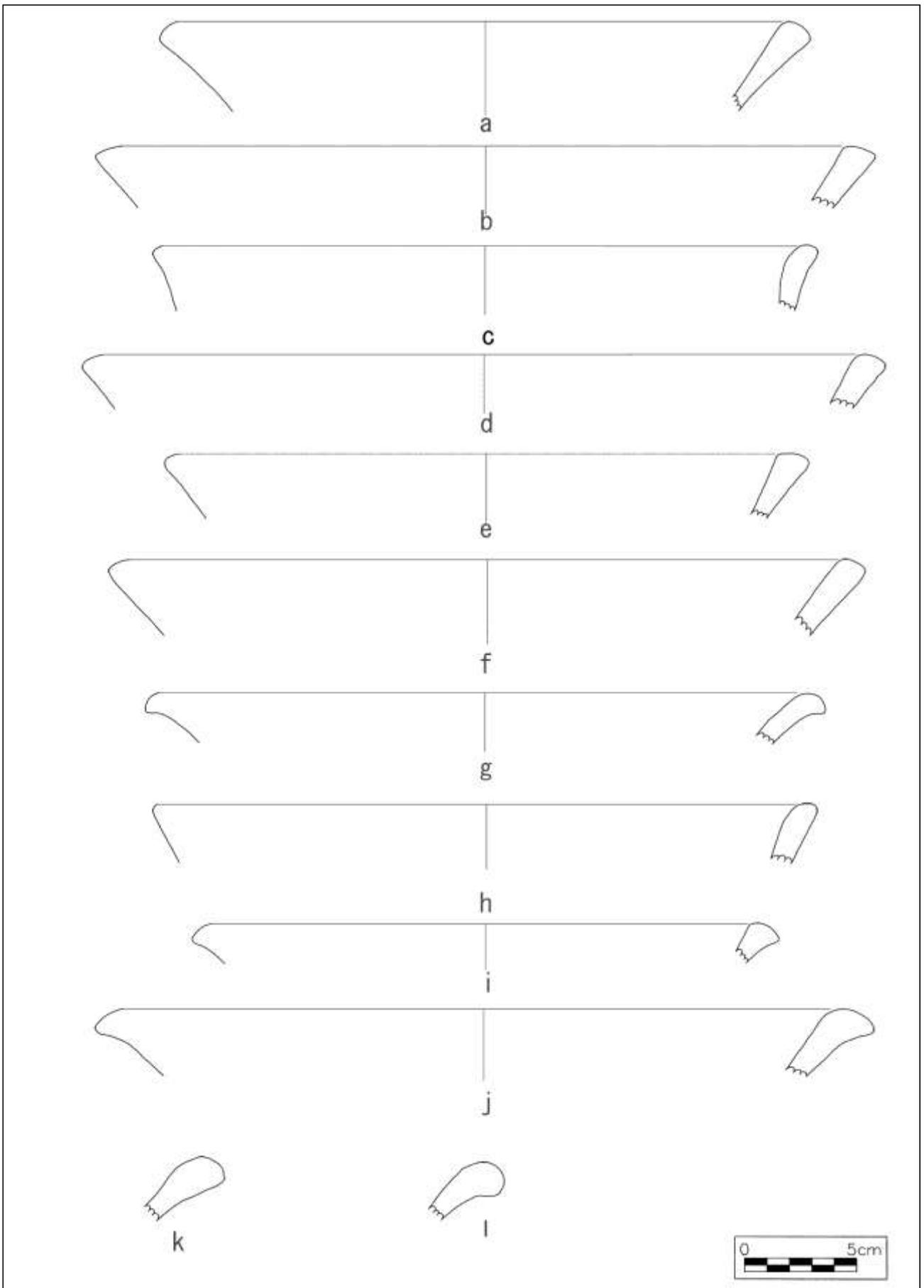


図 4-2-(1)-6： 建造物 1 (T3) 出土の大型壺 (Olla)

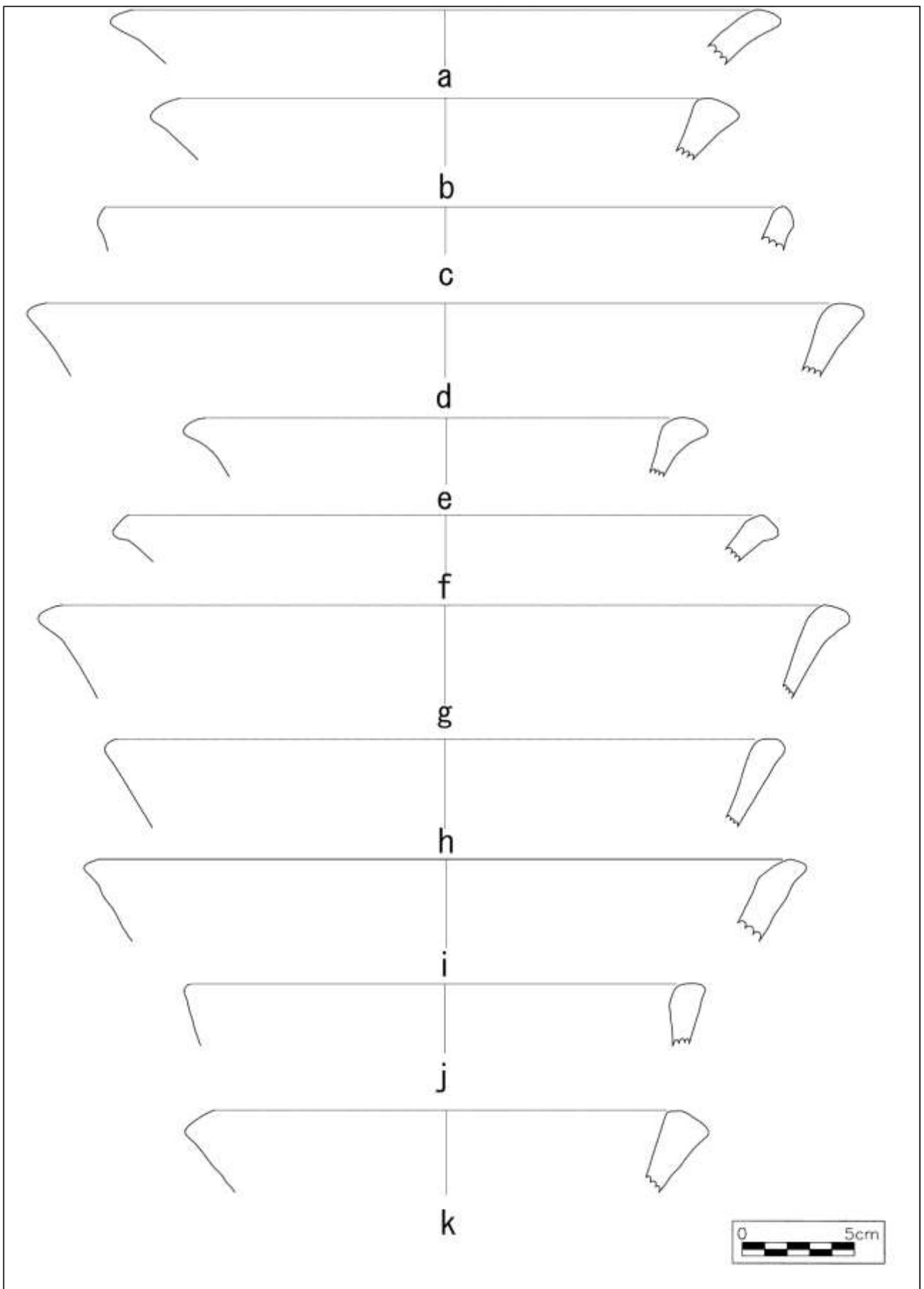


図 4-2-(1)-7 : 56 層 (T1) 出土の大型壺 (Olla)

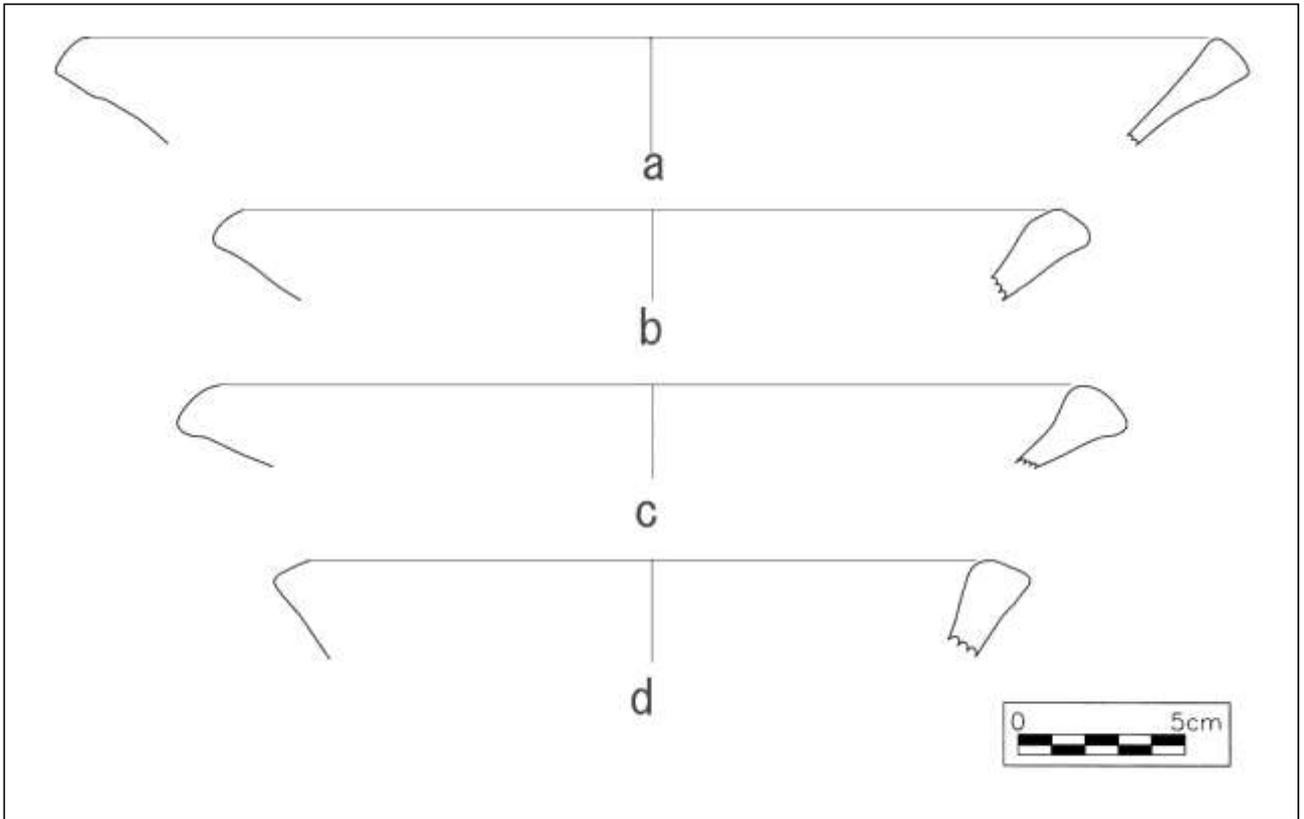


図 4-2-(1)-8 : 56 層 (T4) 出土の大型壺 (Olla)

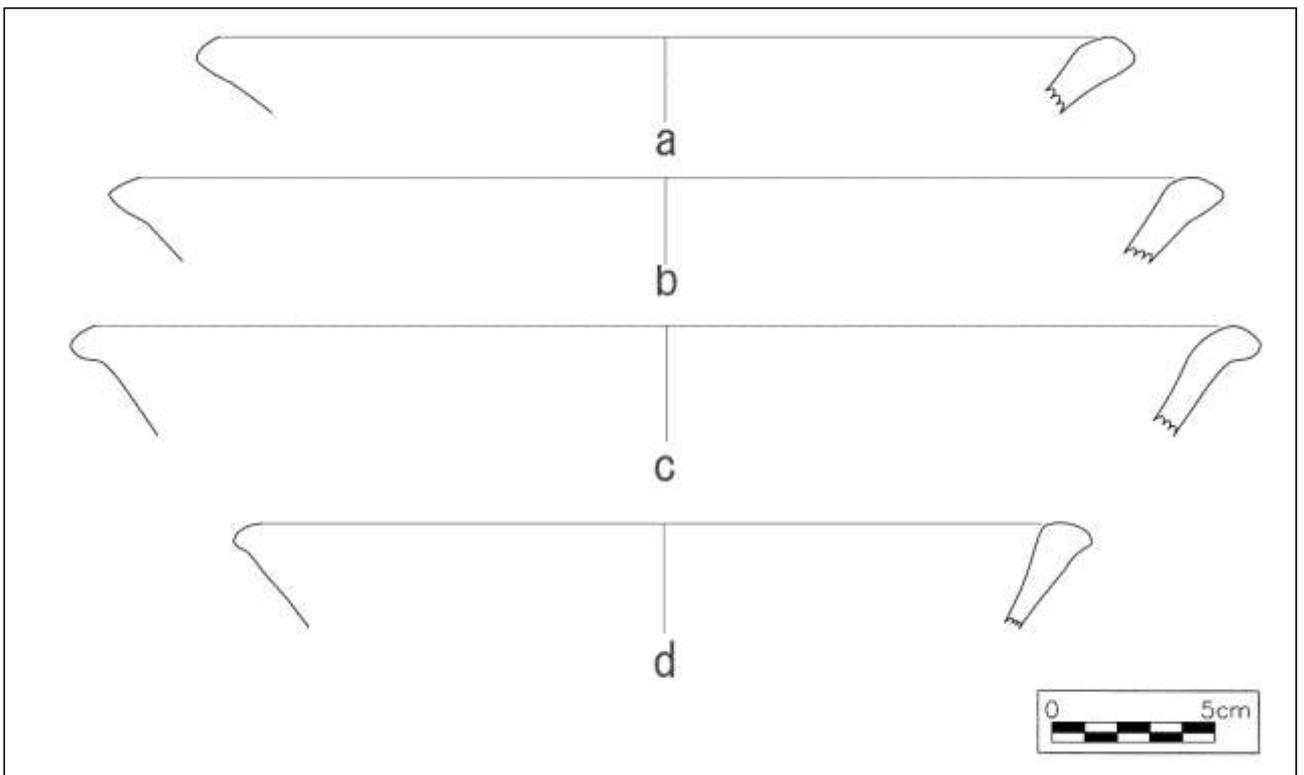


図 4-2-(1)-9 : a-c 建造物 2 (T1) 出土の大型壺 (Olla)、
d 建造物 4 (T2) 出土の大型壺 (Olla)

(2) 壺 (Jar)

個体数 : N=101(パトラチケ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループ中で 22.1%)

出土地点 :

表 4-2-(2)-1 : 壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
壺 (Jar)	28	27.7%	17	16.8%	35	34.7%	0	0.0%	17	16.8%	0	0.0%	4	4.0%	0	0.0%	101	100.0%

図版 : 図 4-2-(2)-1~図 4-2-(2)-7

胎土 : 胎土は、大型壺同様に粘土質で肌理が細かく硬い。しばしば白や黒の細かい含有物を含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある(図 4-2-(2)-2:f, l, o)。胎土の色は、オレンジ系(7.5YR6/4、7.5YR6/6)、褐色系(7.5YR5/6)、赤褐色系(5YR5/6、5YR5/8)、灰褐色(7.5YR4/2)等が見られる。

表面調整 : 表面仕上げは、大型壺と同様に内外面とも良好で研磨される。特に、口縁部内側は、よく研磨され水平にはしる研磨痕が見られる場合もある(図 4-2-(2)-2:h, k)。表面の色は、基本的には胎土と同じでオレンジ系、赤褐色系、灰褐色系がみられるが、黒色系(7.5YR2/1)のものもある(図 4-2-(2)-3)。

装飾 : 時々、口唇部に爪型の文様を規則正しく押捺する押捺文(thumbing)(図 4-2-(2)-4)が見られる。

器形 : 口縁部は、”round-wedge-rim” や ”bevelled-wedge-rim” などの肥厚するタイプが多い(図 4-2-(2)-5~図 4-2-(2)-7)。

口径は、11.8cm~20.3cmの中に入る(表 4-2-(2)-2)。

表 4-2-(2)-2 : 壺の口径

実測図	口径(cm)	写真	出土地	個体番号
図 4-2-(2)-5, a	18.8	図4-2-(2)-2, d-f	建造物1(T3)	A-1641-97
図 4-2-(2)-5, b	20.3	-	建造物1(T3)	A-1662-30
図 4-2-(2)-5, c	17.2	-	建造物1(T3)	A-1662-39
図 4-2-(2)-5, d	11.8	-	建造物1(T3)	A-1771-20
図 4-2-(2)-5, e	16.8	図4-2-(2)-1, m-o	建造物1(T3)	A-1953-85
図 4-2-(2)-5, f	19.3	図4-2-(2)-3, g-i	建造物1(T3)	A-2082-78
図 4-2-(2)-6, a	17.2	-	56層(T1)	A-1077-35
図 4-2-(2)-6, b	15.6	-	56層(T1)	A-1077-97
図 4-2-(2)-6, c	20.2	-	56層(T1)	A-1155-94
図 4-2-(2)-6, d	19.8	-	56層(T1)	A-1155-104
図 4-2-(2)-6, e	18.2	図4-2-(2)-3, j-l	56層(T1)	A-1204-109
図 4-2-(2)-6, f	19.2	-	56層(T1)	A-1204-354
図 4-2-(2)-6, g	17.8	-	56層(T1)	A-1204-357
図 4-2-(2)-6, h	20.2	-	56層(T1)	A-1256-7
図 4-2-(2)-6, i	17.6	-	56層(T1)	A-1256-188
図 4-2-(2)-6, j	15.6	-	56層(T1)	A-1256-191
図 4-2-(2)-6, k	18.5	-	56層(T4)	A-2160-64
図 4-2-(2)-6, l	19.1	-	56層(T5)	A-2449-4
図 4-2-(2)-7, a	16.3	-	建造物2(T1)	A-911-250
図 4-2-(2)-7, b	12.6	-	建造物2(T1)	A-1124-5
図 4-2-(2)-7, c	16.9	-	建造物2(T1)	A-1124-14
図 4-2-(2)-7, d	18.2	-	建造物2(T1)	A-1130-100
図 4-2-(2)-7, e	19.0	-	建造物2(T1)	A-1149-216

コメント:ブラッチャーによれば、トラチノルパン出土の壺も口径が7cm~18cmの範囲である(Blucher 1971:311)。器高は、「月のピラミッド」出土の土器からは測定できないが、ベニホフ等の報告によると、口径約7cmに対して器高が9.5cmの壺が報告されている(Bennyhoff and Millon 1967)。

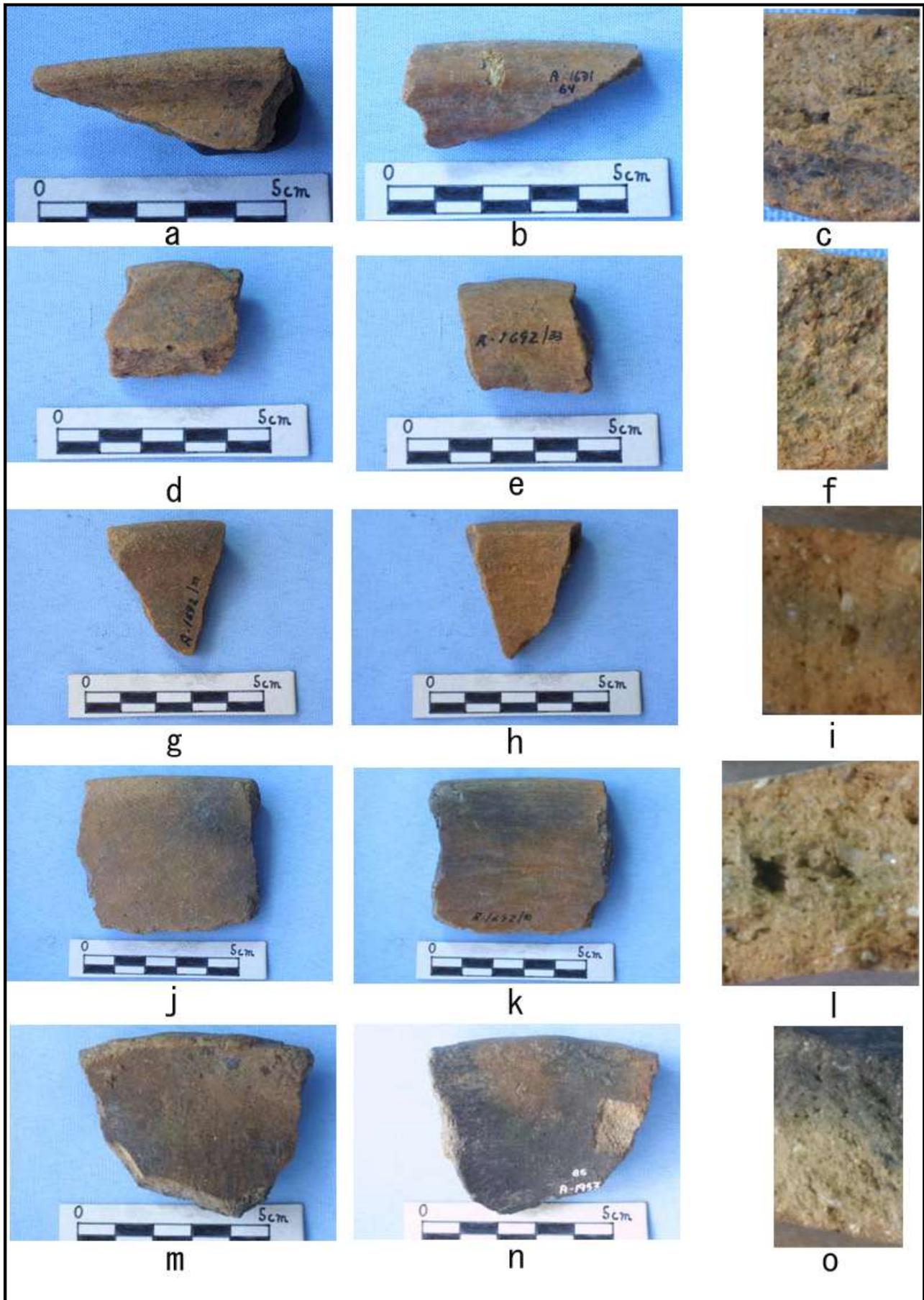


図 4-2-(2)-1 : 建造物 1 (T3) 出土の壺

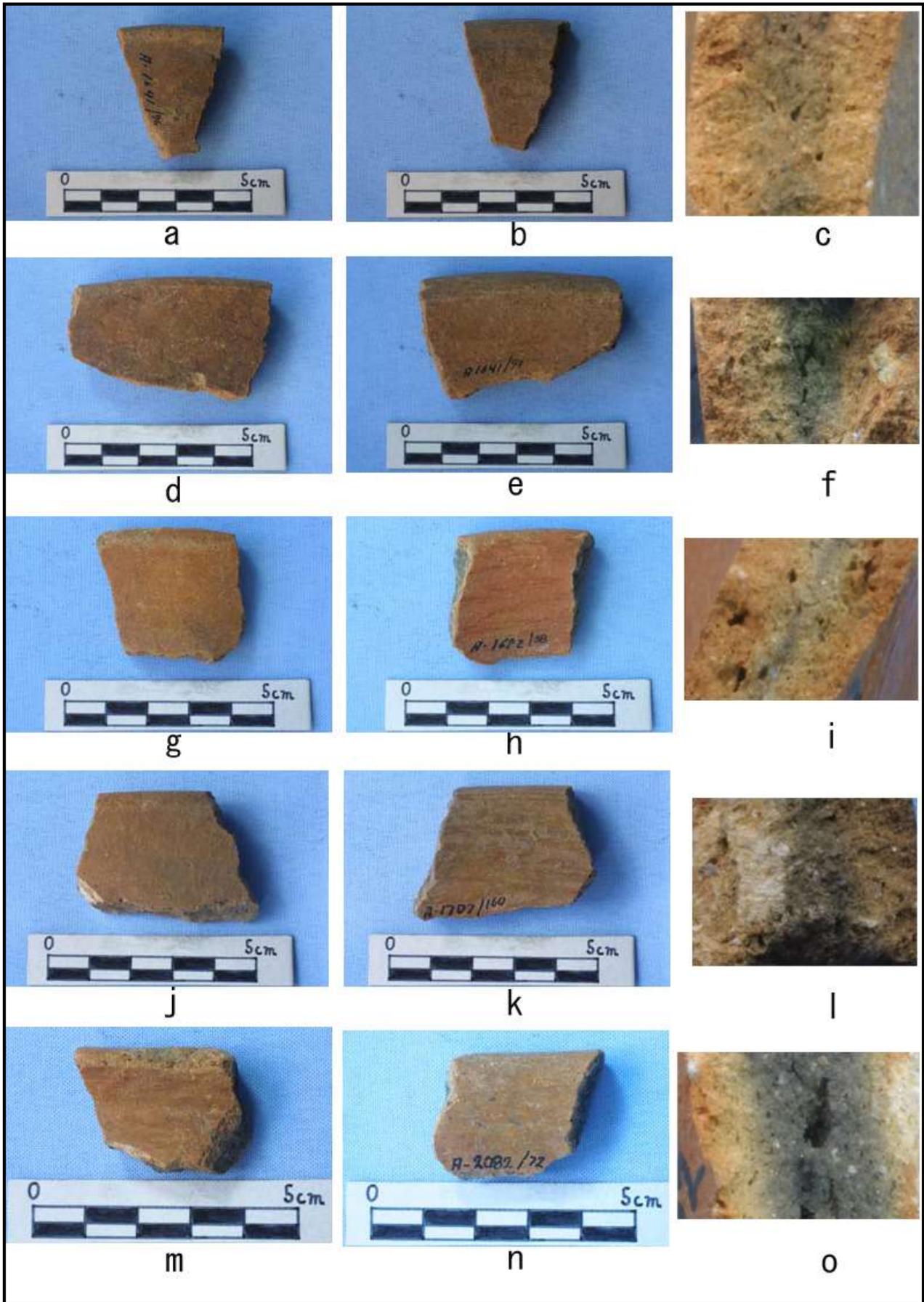


図 4-2-(2)-2 : 建造物 1 (T3) 出土の壺

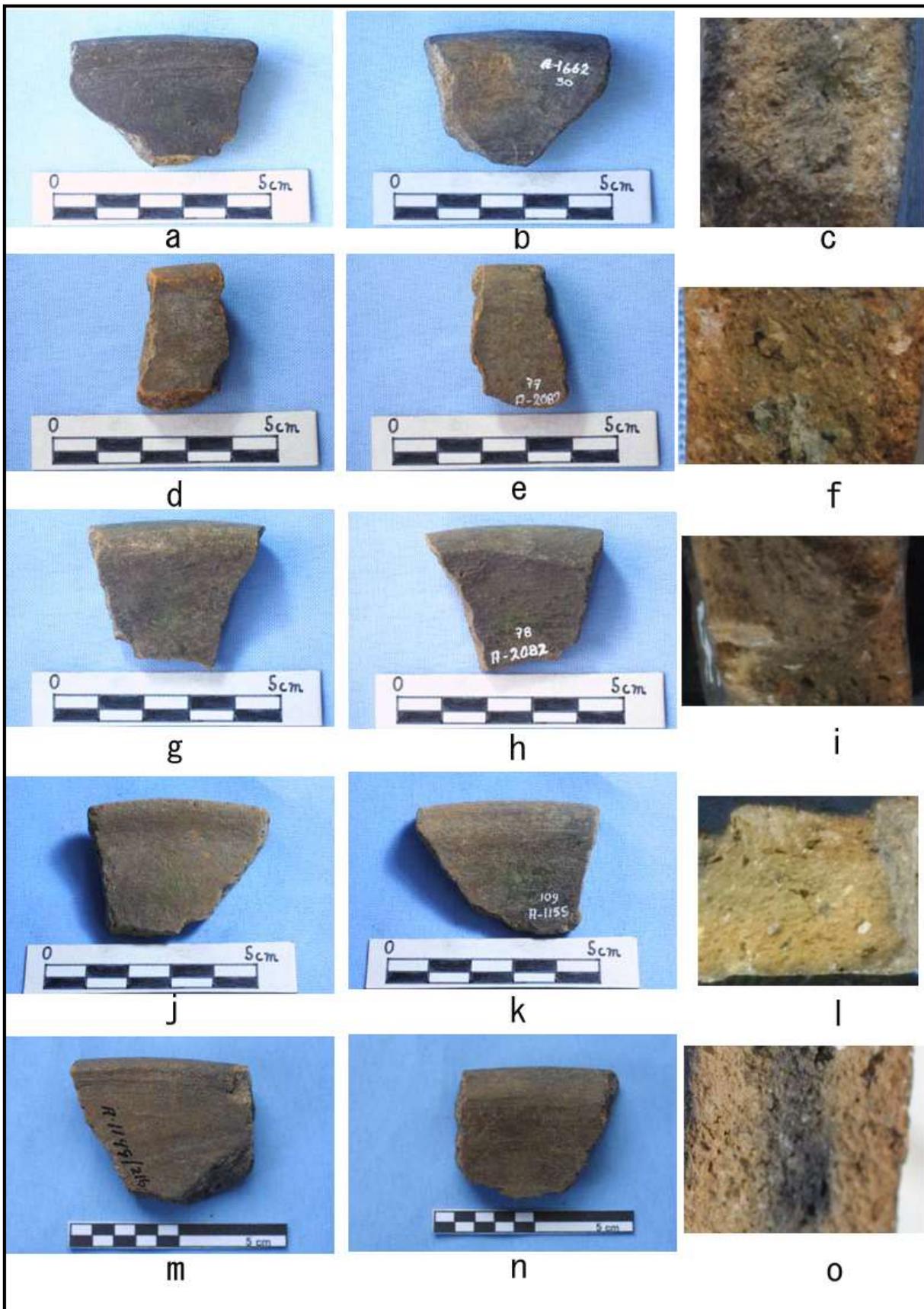


図 4-2-(2)-3 : a-i 建造物 1 (T3) 出土の壺、j-l 56 層 (T1) 出土の壺、
m-o 建造物 2 (T1) 出土の壺



図 4-2-(2)-4 : 口唇部の文様

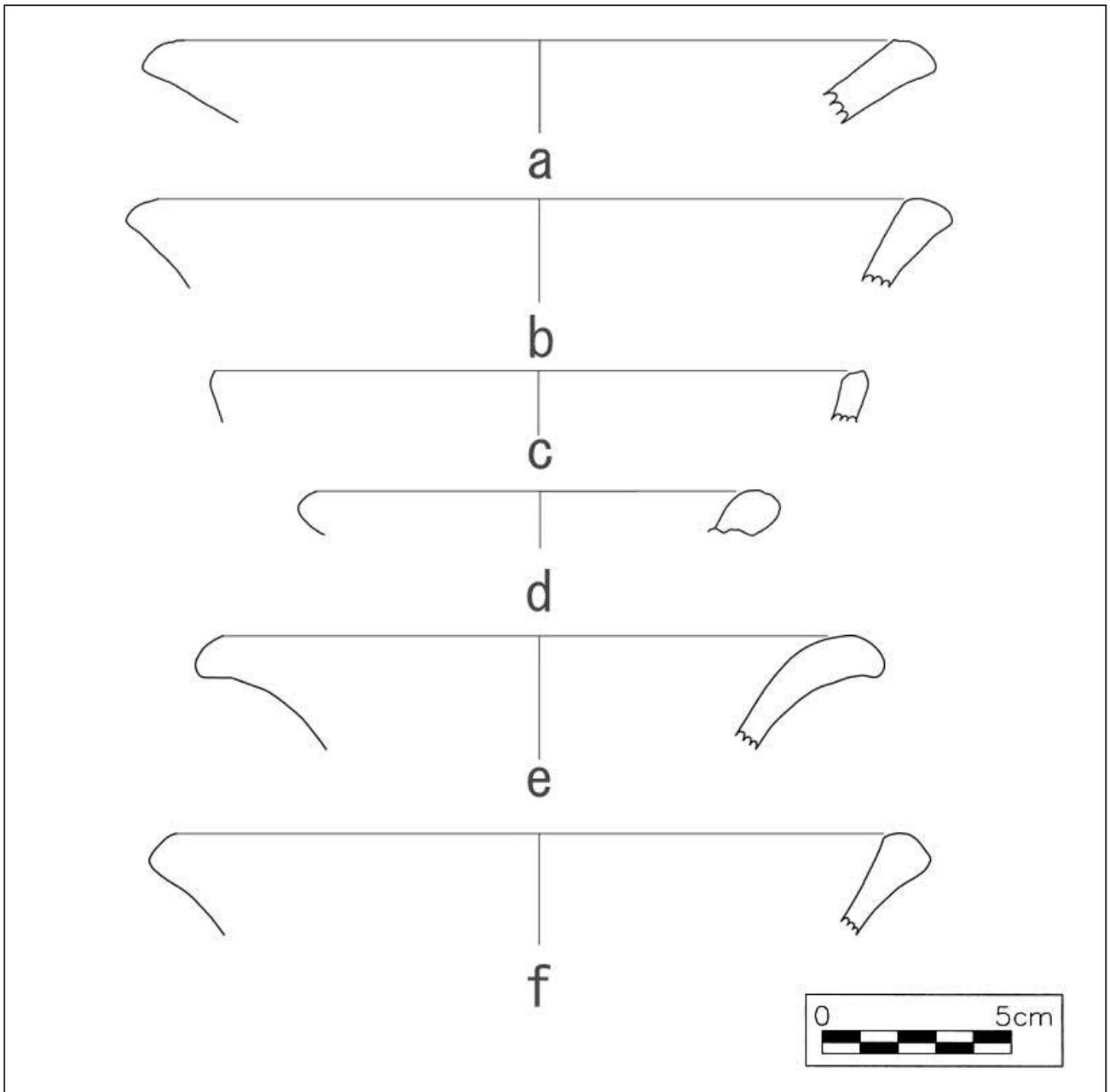


図 4-2-(2)-5 : 建造物 1 (T3) 出土の壺

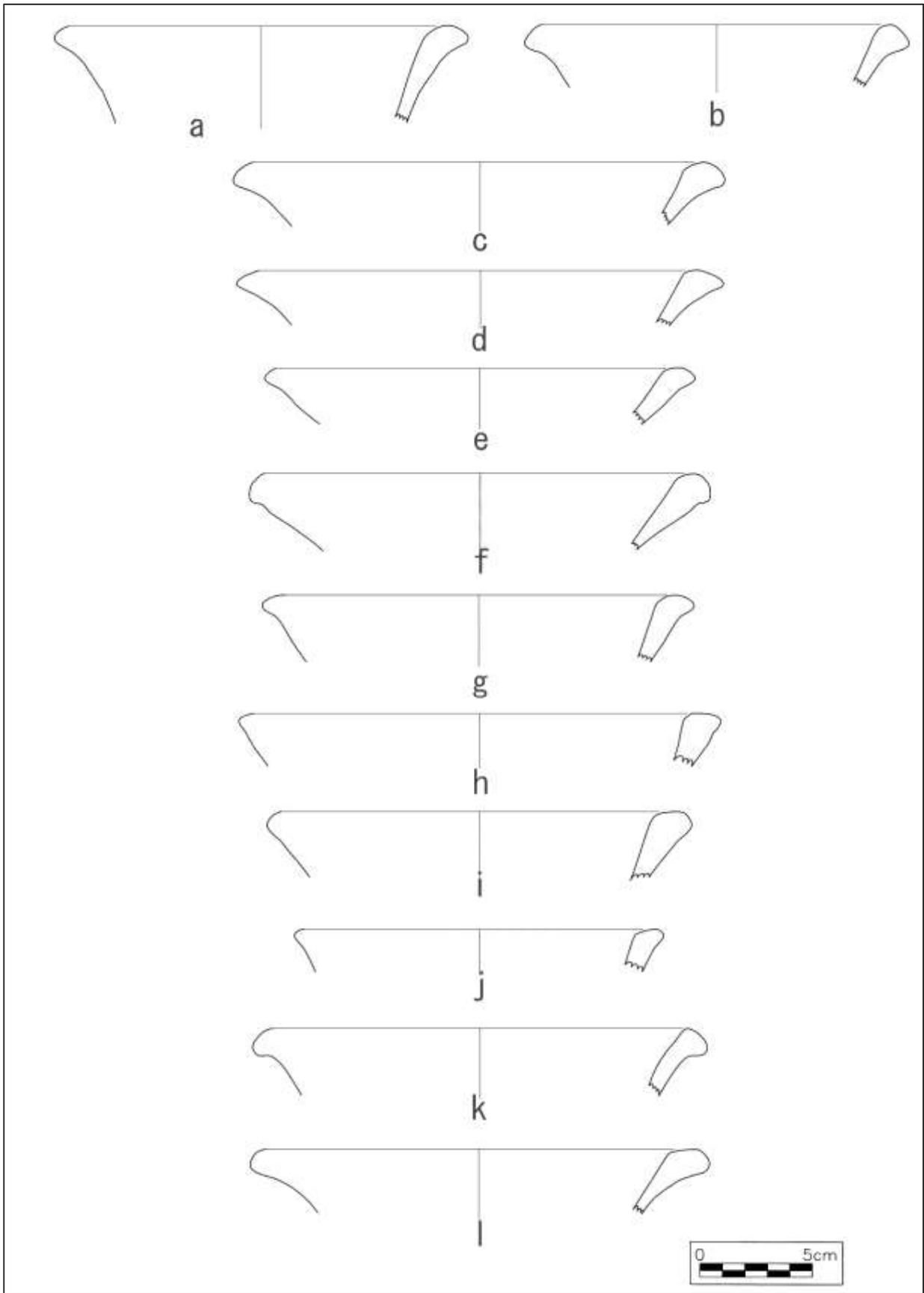


図 4-2-(2)-6 : a-j 56 層 (T1) 出土の壺、 k 56 層 (T4) 出土の壺、
 l 56 層 (T5) 出土の壺

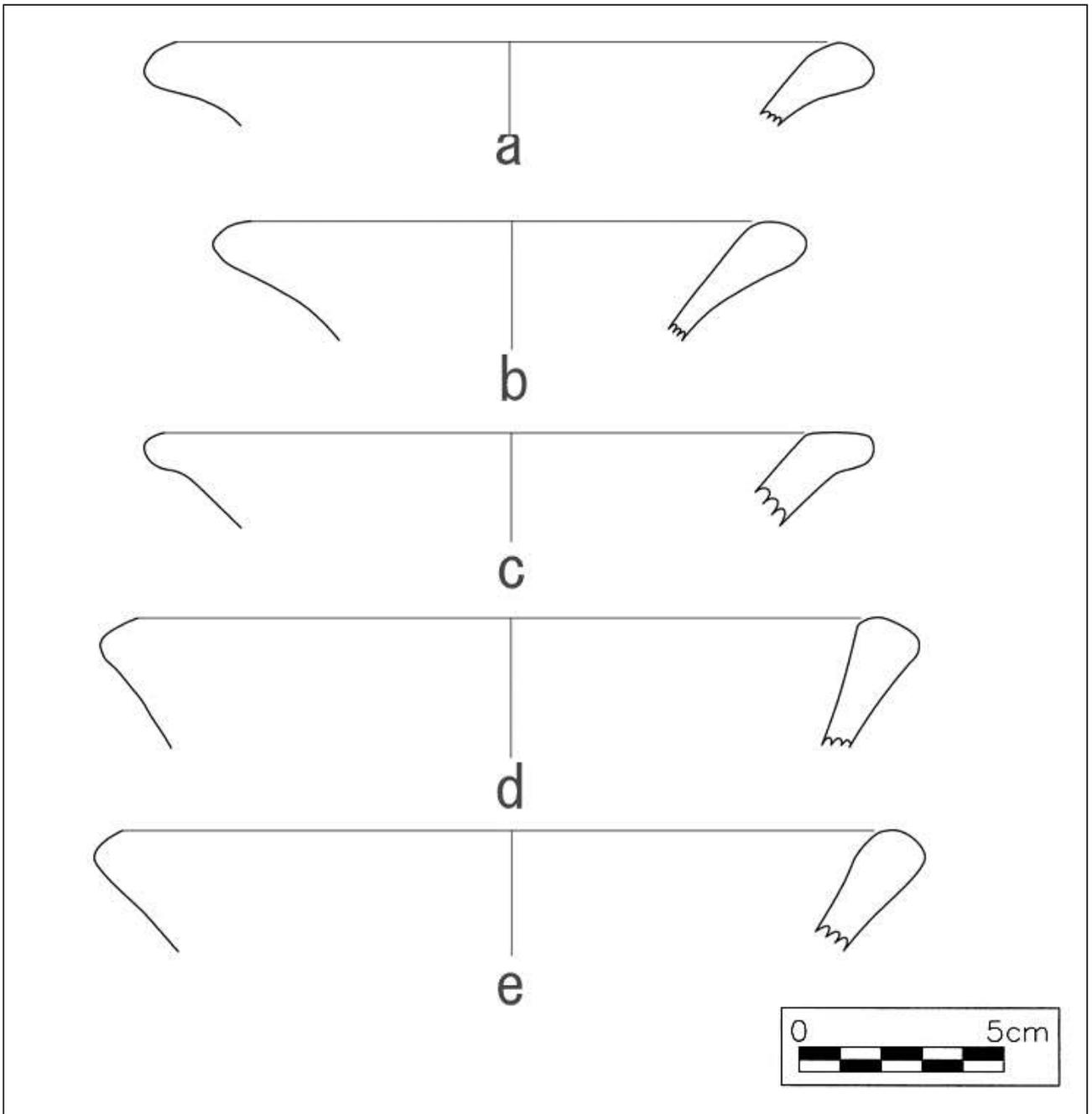


図 4-2-(2)-7 : 建造物 2 (T1) 出土の壺

(3) 碗 (Bowl)

個体数 : N=53(パトラチケ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループ中で 11.6%)

出土地点 :

表 4-2-(3)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	7	13.2%	4	7.5%	27	50.9%	3	5.7%	8	15.1%	2	3.8%	2	3.8%	0	0.0%	53	100.0%

図版 : 図 4-2-(3)-1~図 4-2-(3)-5

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。少数の細かく白や黒の含有物を含む。大型壺と比較して含有物も少なく良質の胎土である。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある(図 4-2-(3)-3:c, f)。胎土の色は、オレンジ系(7.5YR6/4、7.5YR6/6、5YR6/8、5YR6/6、2.5YR6/6)、褐色系(7.5YR5/6)、赤褐色系(2.5YR5/8)、黄褐色系(10YR6/4)等である。

表面調整 : 表面仕上げはやや雑なものもあるが、一般的には内外面ともよく仕上げられ研磨される。表面の色は、基本的には胎土と同じでオレンジ系、赤褐色系、黄褐色系が見られるが、黒色系(7.5YR2/1)のものもある(図 4-2-(3)-1:b 図 4-2-(3)-4:e)。

装飾 : 無し。

器形 : 碗の場合は、口縁部や胴部の形からいくつかのバリエーションが認めらる。
①Shouldered Bowl (図 4-2-(3)-2) : 口径は不明であるが、胴部が屈曲し口縁部が外反する碗。
②Simple Bowl (図 4-2-(3)-5) : 胴部が緩やかに内湾し、口縁部がまっすぐ伸びる碗で、口径は 14.4cm (図 4-2-(3)-5:a)、14.2cm (図 4-2-(3)-5:c)の碗が見られる。

この他にも、胴部が外傾する Flaring Bowl などが見られる。

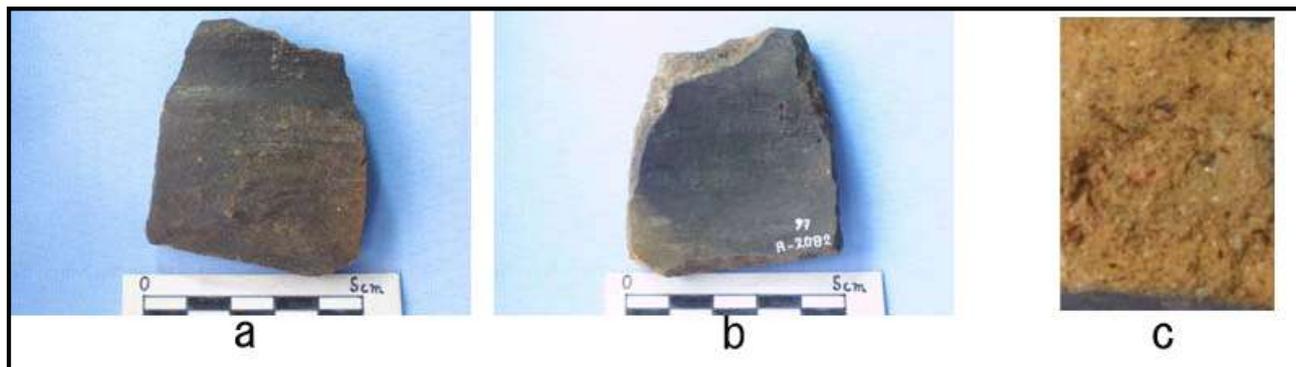


図 4-2-(3)-1 : 建造物 1 (T3) 出土の碗

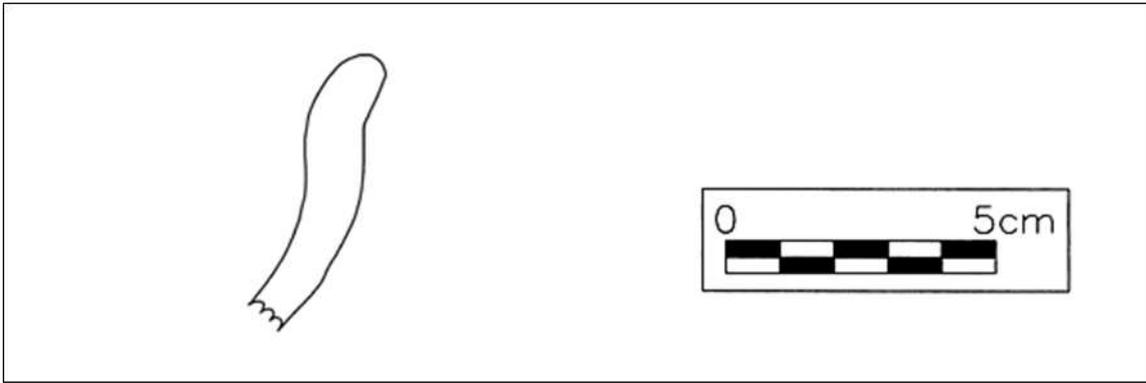


図 4-2-(3)-2 : 建造物 1 (T3) 出土の碗 (Shouldered Bowl)



図 4-2-(3)-3 : 56 層 (T1) 出土の碗

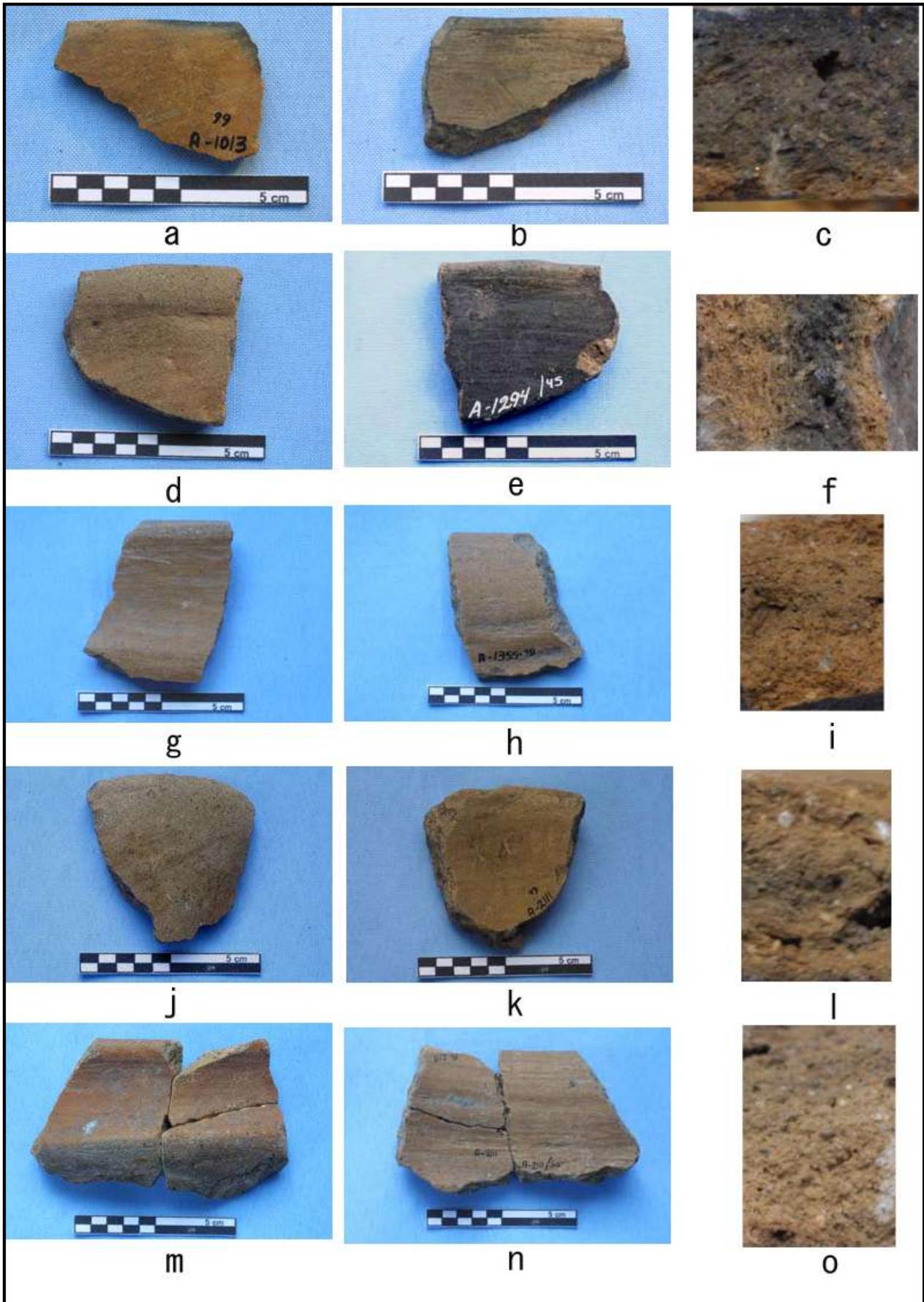


図 4-2-(3)-4 : 建造物 2 (T1、T2、T4) 出土の碗

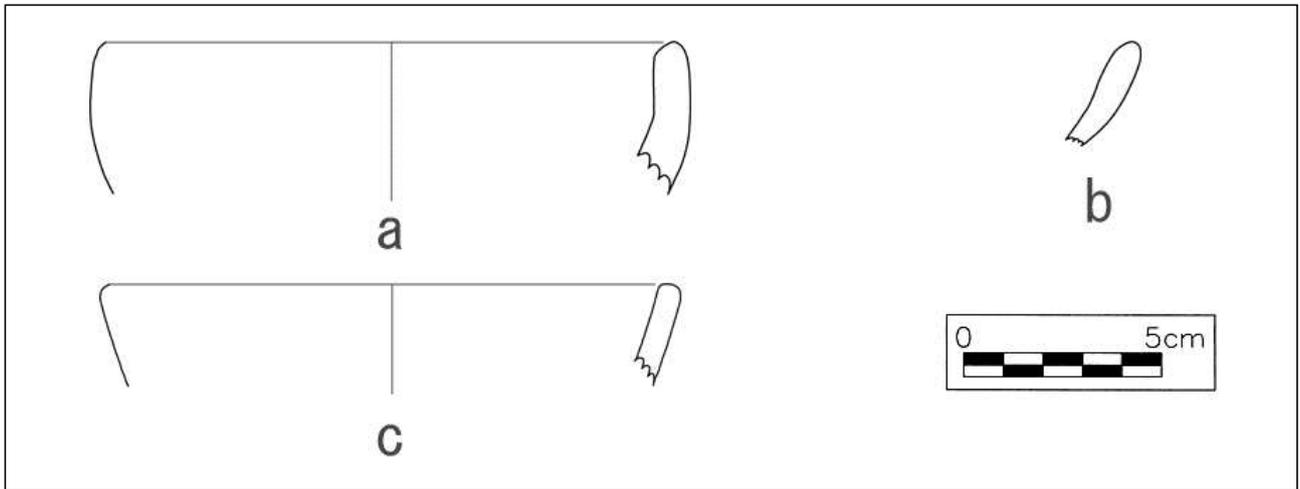


図 4-2-(3)-5 : a-b 56 層 (T1) 出土の碗 (Simple Bowl) (図 4-2-(3)-3:a,d の土器)、
c 建造物 2 (T1) の碗(Simple Bowl) (図 4-2-(3)-4:a の土器)

(4) テコマテ (Tecomate)

個体数 : N=6 (パトラチケ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループ中で 1.3%)

出土地点 :

表 4-2-(4)-1 : テコマテの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
テコマテ (Tecomate)	0	0.0%	3	50.0%	3	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	100.0%

図版 : 図 4-2-(4)-1～図 4-2-(4)-3

胎土 : 胎土は、大型壺に類似している。粘土質で白や黒の細かい、あるいは大きい含有物を含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある(図 4-2-(4)-3:c, f)。胎土の色は、赤褐色系 (5YR5/6、5YR4/6、2.5YR5/8)、褐色系 (7.5YR4/3)、黒色系 (7.5YR2/1) 等である。

表面調整 : 表面仕上げは、やや雑である。水平の研磨痕が見られるものもある(図 4-2-(4)-3:d, e) 表面の色は、基本的には胎土と同じで赤褐色系、褐色系、黒褐色 (7.5YR3/2)、灰褐色 (7.5YR4/2) であり胎土と同様である。黒色系 (7.5YR2/1) のものもある(図 4-2-(4)-1)。

装飾 : 無し。

器形 : 口縁部がやや立ち上がる無形の壺である。復元できた土器の口径は、21.4cm である。

コメント : ブラッチャーの報告によると、トラチノルパン出土のテコマテも口径が 15cm～30cm の範囲である (Blucher 1971:313)。また、テコマテは、パトラチケ期を境にして、それ以後は出現しない器種である (Blulcher 1971:313)。従って、56 層ならびに建造物 1 の土器による年代決定においては指標の一つである。

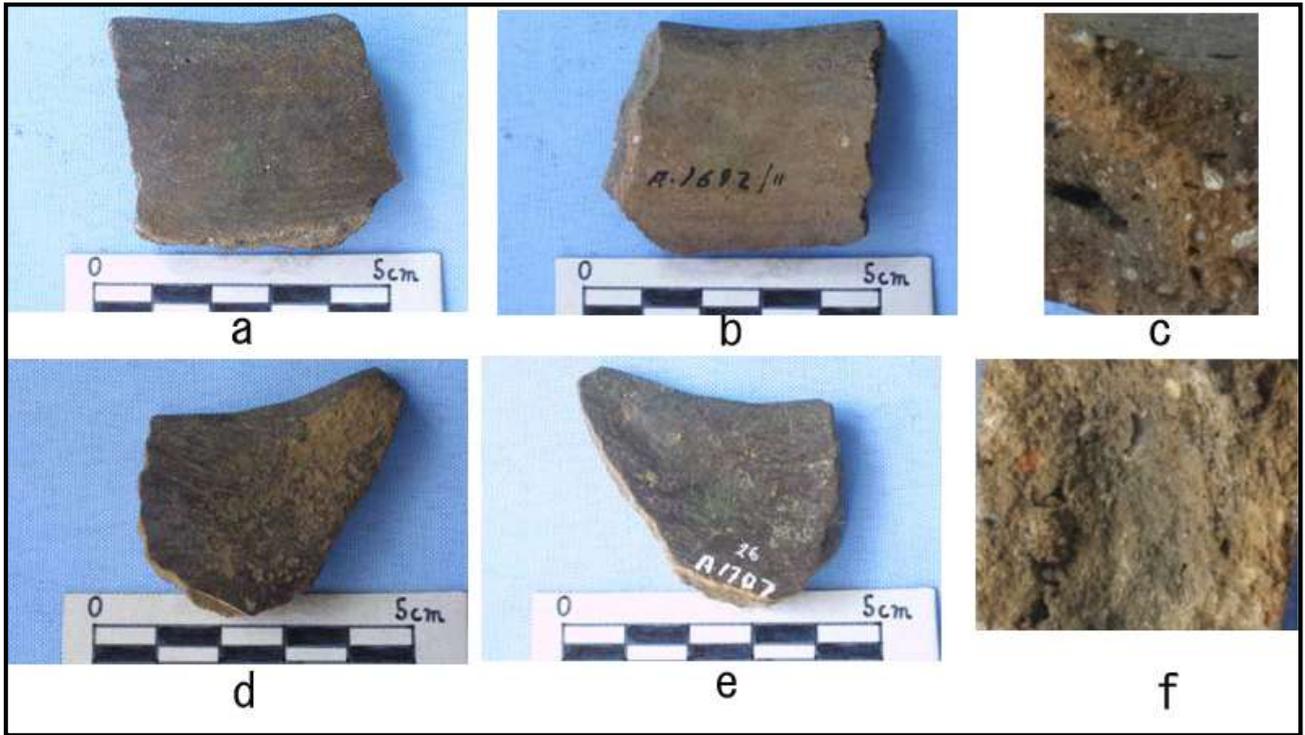


図 4-2-(4)-1 : 建造物 1 (T3) 出土のテコマテ

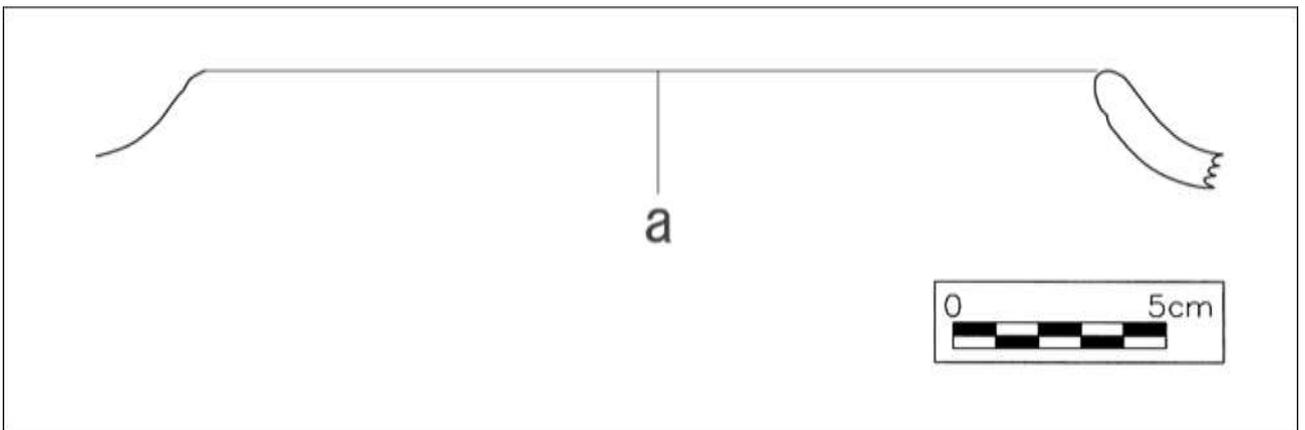


図 4-2-(4)-2 : 建造物 1 (T3) 出土のテコマテ



図 4-2-(4)-3 : 建造物 2 (T1) 出土のテコマテ

(5) カスエラ(Cazuela)

個体数 : N=8 (パトラチケ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループ中で 1.8%)

出土地点 :

表 4-2-(5)-1 : カスエラの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
カスエラ (Cazuela)	0	0.0%	0	0.0%	3	37.5%	0	0.0%	5	62.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	100.0%

図版 : 図 4-2-(5)-1～図 4-2-(5)-2

胎土 : 胎土は、碗に類似している。粘土質で肌理が細かく硬い。白や黒の細かい含有物を時々含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある (図 4-2-(5)-1:i)。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/6、5YR6/6、5YR6/4)、赤褐色系 (5YR5/6、5YR5/3)、等である。

表面調整 : 外面の表面仕上げは雑である。内面は、よく仕上げられ研磨されている。表面の色は、オレンジ系 (2.5YR6/8)、赤褐色系 (5YR5/6、5YR6/6、5YR5/3)、黒褐色系 (7.5YR3/2) である。黒色系 (7.5YR2/1) のものもある。

装飾 : 無し。

器形 : 口縁部が大きく外反し、器厚の暑い器形である。ベニホフ等によると、口径 25.2cm、器高 9.0cm、丸底のカスエラが報告されている (Bennyhoff and Millon 1967: PAT. Fig. 11)。

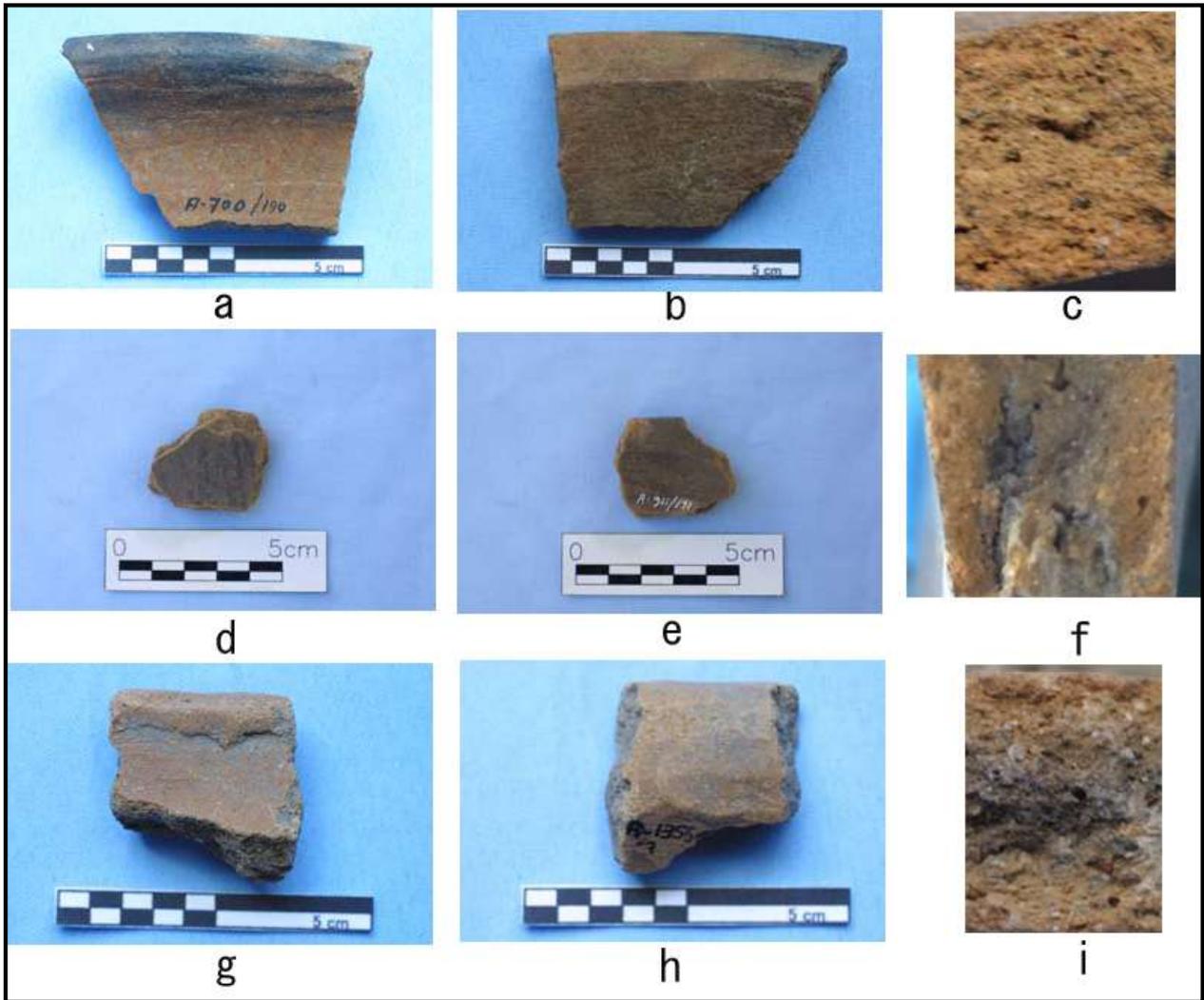


図 4-2-(5)-1：建造物 2（T1、T2）出土のカスエラ

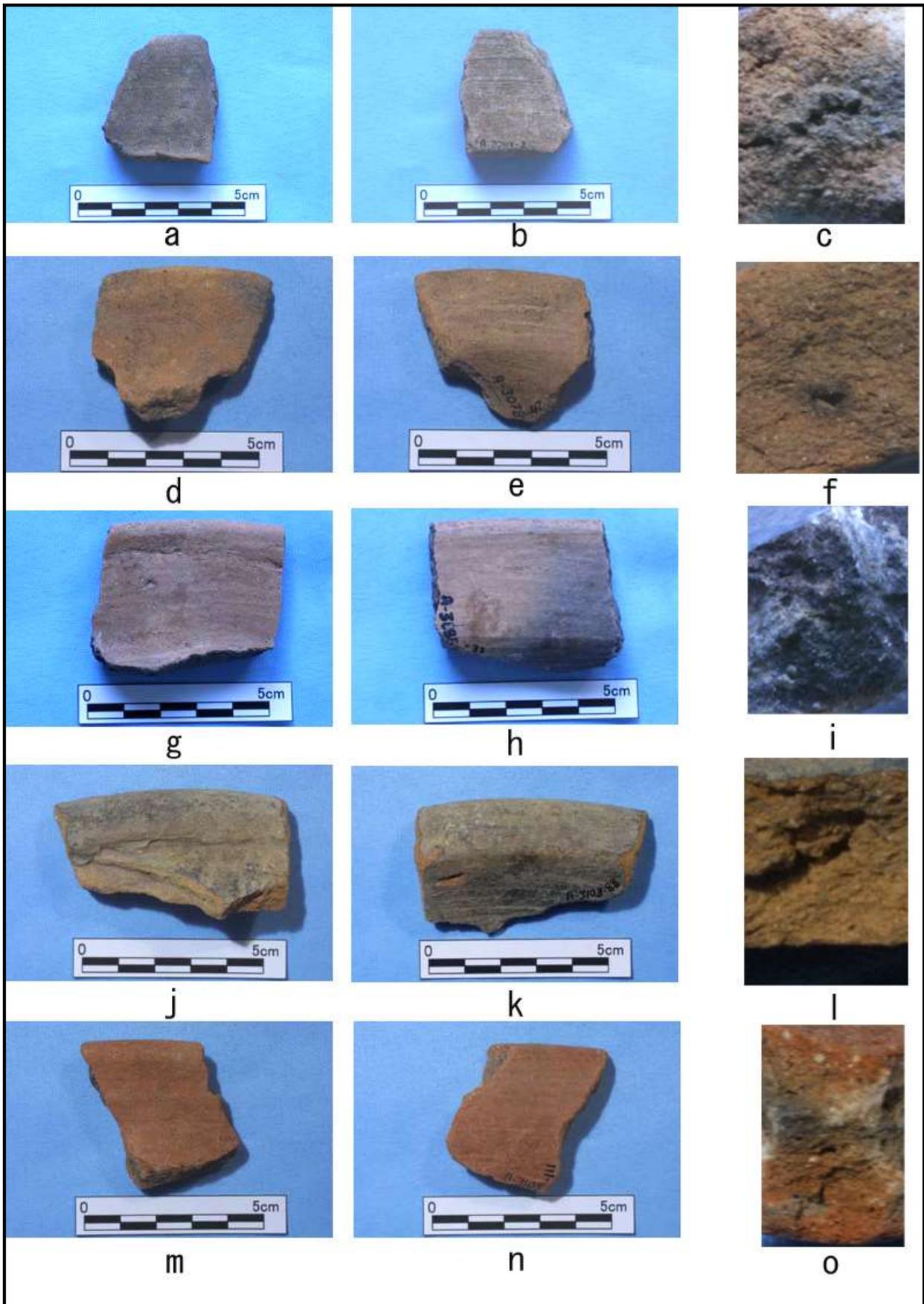


図 4-2-(5)-2 : 建造物 4 (T2) 出土のカスエラ

(6) ベーزن(Basin)

個体数 : N=18(パトラチケ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループ中で 3.9%)

出土地点 :

表 4-2-(6)-1 : ベーゼンの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
ベーゼン (Basin)	8	44.4%	0	0.0%	5	27.8%	0	0.0%	2	11.1%	3	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	18	100.0%

図版 : 図 4-2-(6)-1～図 4-2-(6)-3

胎土 : 胎土は、碗やカズエラに類似している。粘土質で肌理が細かく硬い。白や黒の細かい含有物を若干含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある(図 4-2-(6)-1:i)。胎土の色は、オレンジ系(7.5YR6/6、7.5YR6/4、5YR6/6、5YR6/4、2.5YR6/8)、褐色系(7.5YR5/6、7.5YR5/4)、赤褐色系(2.5YR5/8、5YR5/3)、黄褐色(10YR6/4)等である。

表面調整 : 内外面とも表面仕上げは良好で、研磨されている。表面の色は、オレンジ系(5YR6/4、5YR6/6、5YR6/8、2.5YR5/8、2.5YR6/8)、褐色系(7.5YR5/4)、赤褐色系(5YR3/2)、等で胎土の色とほぼ同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 口縁部がやや外反する大型の碗である。口径は、51.5cm(図 4-2-(6)-3:a)、37.2cm(図 4-2-(6)-3:b)、42.6cm(図 4-2-(6)-3:c)、30.0cm(図 4-2-(6)-3:d)である。

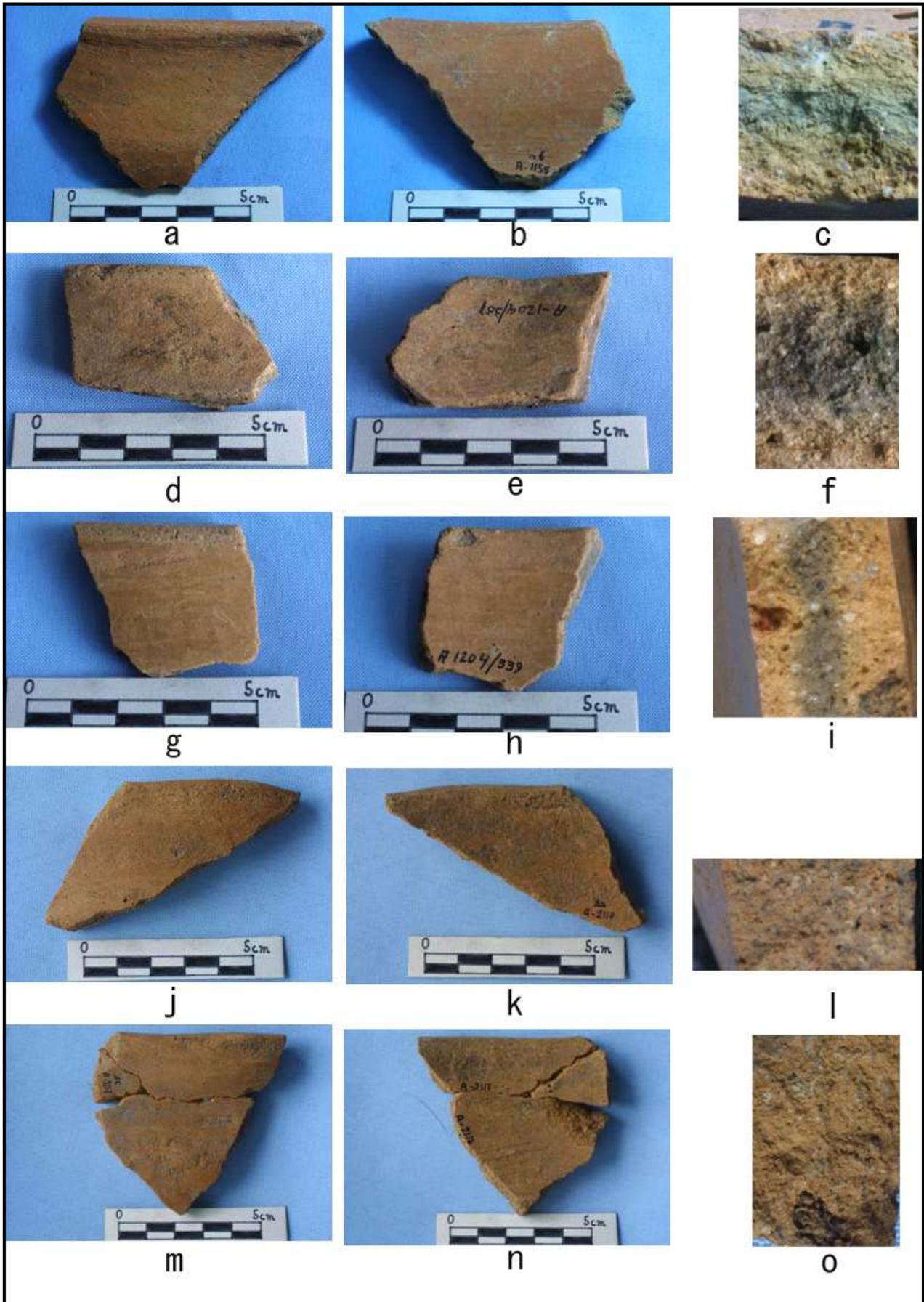


図 4-2-(6)-1: a-i 56層 (T1) 出土のベースン、 j-k 56層 (T4) 出土のベースン

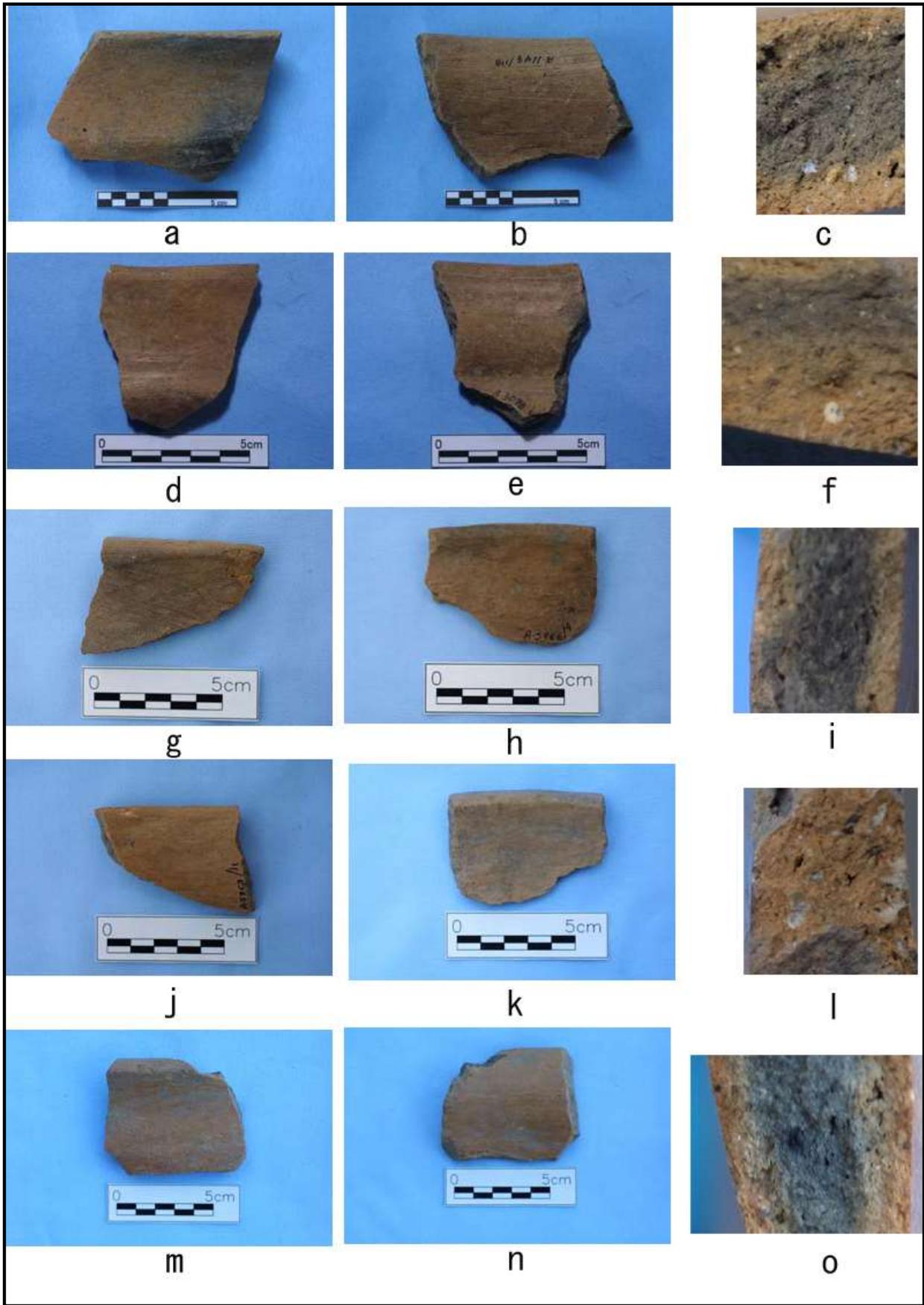


図 4-2-(6)-2: a-c 建造物 2 (T1) 出土のベースン、 d-f 建造物 4 (T4) 出土のベースン、
g-o 建造物 5 (T2、T12) 出土のベースン

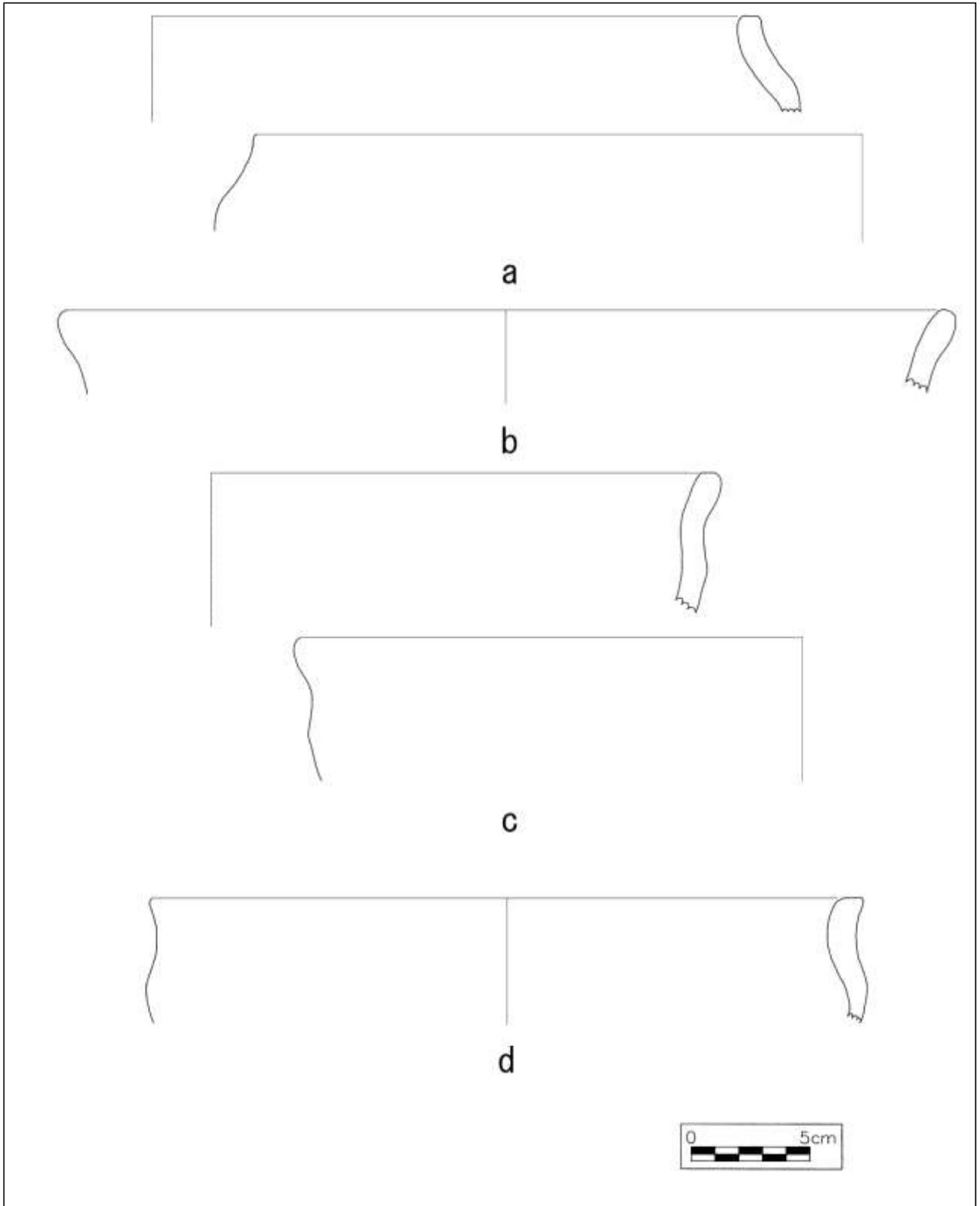


図 4-2-(6)-3 : a 56層 (T1) 出土のベースン、b-c 56層 (T4) 出土のベースン、
d 建造物 2 (T1) 出土のベースン

(7) コマル(Comal)

個体数 : N=2 (パトラチケ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループ中で 0.4%)

出土地点 :

表 4-2-(7)-1 : コマルの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
コマル (Comal)	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%

図版 : 図 4-2-(7)-1

胎土 : 胎土は、碗やカスエラ、ベーズンに類似し、粘土質で肌理が細かく硬い。含有物も少ない。胎土の色は、褐色系 (7.5YR5/6、) と黒色 (7.5YR2/1) が認められる。

表面調整 : 内外面とも表面仕上げは、やや雑である。表面の色は、胎土と同様であるが、図 4-2-(7)-1:d の個体は、口縁部付近が赤く焼かれている。

装飾 : 無し。

器形 : 器高の低い、大型の皿である。

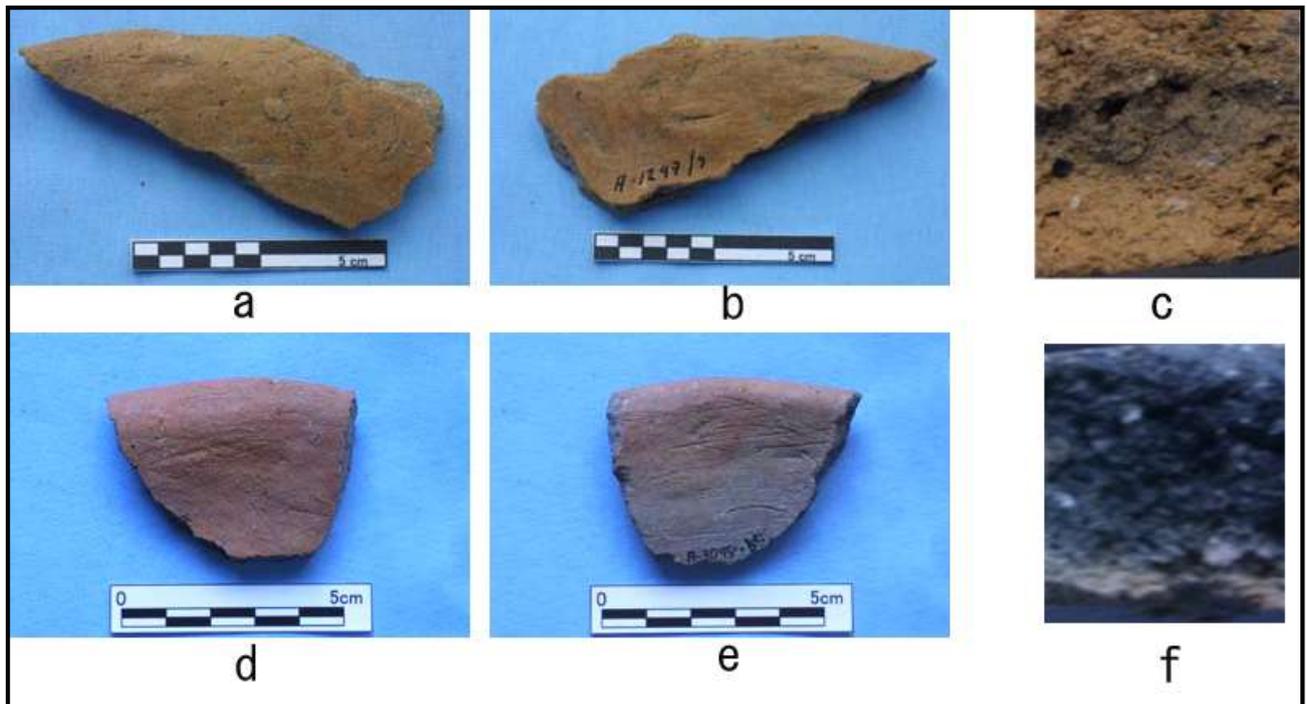


図 4-2-(7)-1 : a-c 建造物 2 (T1) 出土のコマル、d-f 建造物 4 (T2) 出土のコマル

(8) 円筒形壺(Vase)

個体数 : N=1 (パトラチケ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループ中で 0.2%)

13

出土地点 :

表 4-2-(8)-1 : 円筒形壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%

図版 : 図 4-2-(8)-1

胎土 : 胎土は、碗やカズエラ、ベーズンに類似し、粘土質で肌理が細かく硬い。白や黒の細かい含有物が若干見られる。胎土の色は、赤褐色 (2.5YR5/6) である。

表面調整 : 内外面とも表面仕上げは、良好である。表面の色は、暗赤灰色 (2.5YR3/1) や明赤褐色 (2.5YR5/6) である。また、内面が黒色 (7.5YR2/1) の場合もある (図 4-2-(8)-1:e)。

装飾 : 無し。

器形 : 底部が平底の円筒形壺である。



図 4-2-(8)-1 : a-c 建造物 4 (T2) 出土の円筒形壺、d-f 建造物 6 (T8) 出土の円筒形壺

¹³ 図 4-2-(8)-1 には 2 個体の写真を掲載しているが、個体数の数え方は口縁部の数で統一しているので個体数は 1 となっている。

<Painted Red グループ(N=11)>

(9) 大型壺(Olla)

個体数 : N=6 (パトラチケ期の Burnished Ware の Painted Red グループ中で 54.5%)

出土地点 :

表 4-2-(9)-1 : 大型壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
大型壺 (Olla)	0	0.0%	0	0.0%	5	83.3%	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	100.0%

図版 : 図 4-2-(9)-1

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。しばしば白い細かい含有物を含むがその量は少ない。無装飾グループの大型壺よりは良質な胎土である。胎土の色は、赤褐色系 (5YR5/6、2.5YR5/6、2.5YR5/8) である。

表面調整 : 外面はやや雑な表面仕上げであるが、内面はよく仕上げられ研磨される。表面の色は、ほぼ胎土と同じで赤褐色系が主である。

装飾 : 外面あるいは口縁部内側に赤色のペイントが施される。

器形 : 口縁部が外反する器形や口縁部が肥厚する”wedge-rim”も見られる。

コメント : ブラチャーの報告によると、トラチノルパンでも 13 片の”Red-slipped Olla”が確認されている (Blucher 1971:336-337)。実見していないが、このタイプが類似するタイプと考えられる。

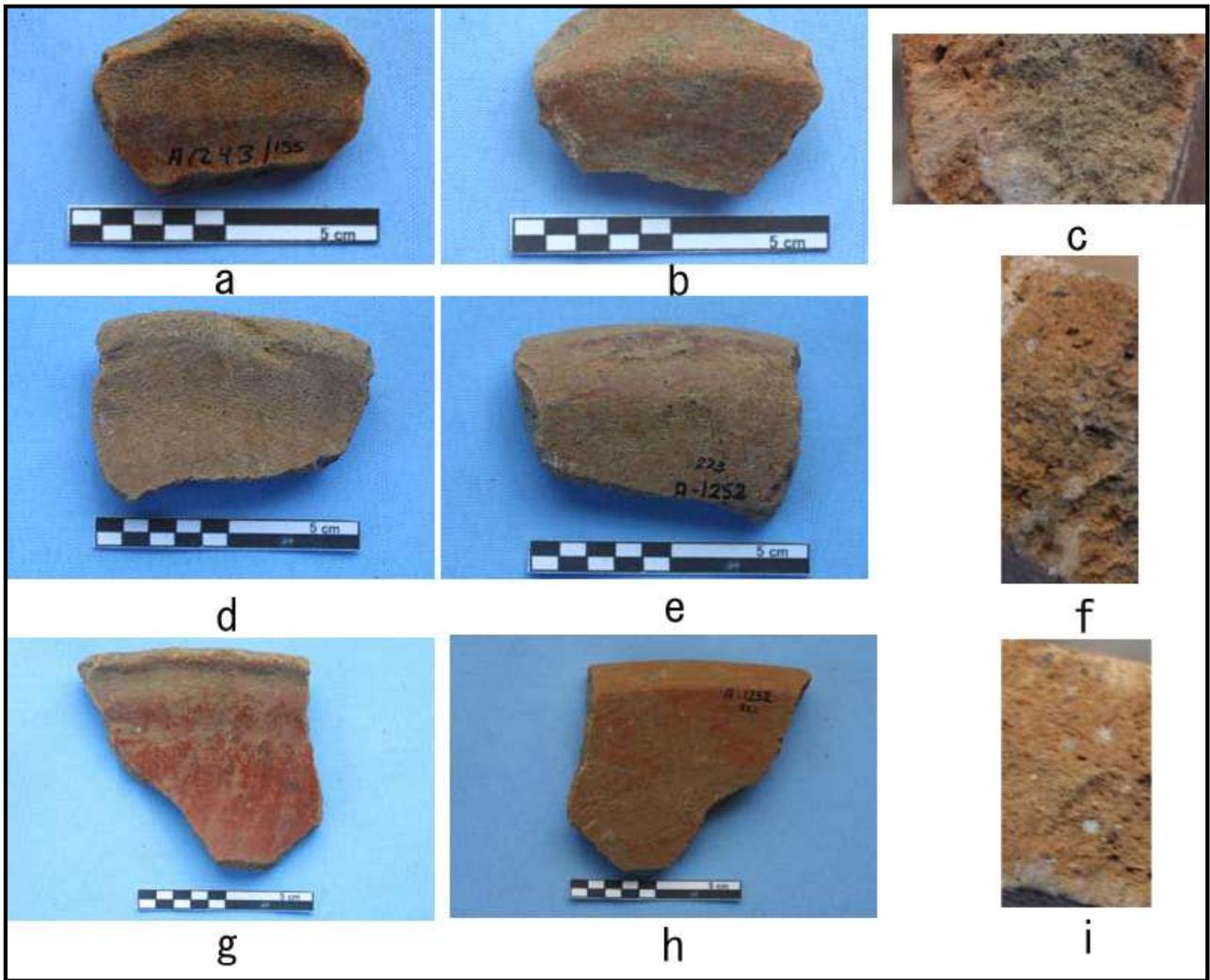


図 4-2-(9)-1 : 建造物 2 (T1) 出土の大型壺

(10) 壺(Jar)

個体数 : N=1 (パトラチケ期の Burnished Ware の Painted Red グループ中で 9.1%)

出土地点 :

表 4-2-(10)-1 : 壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%

図版 : 図 4-2-(10)-1

胎土 : 胎土は、大型壺同様に粘土質で肌理が細かく硬い。しばしば白や黒の細かい含有物を含むがその量は少ない。Monochrome Brown グループの壺よりは良質な胎土である。胎土の色は、明赤褐色 (2.5YR5/6) である。

表面調整 : 外面はやや雑な表面仕上げであるが、内面はよく仕上げられ研磨される。表面

の色は、ほぼ胎土と同じで赤褐色系が主である。

装飾 : 口縁部内側に赤色のペイントが施される。

器形 : 口縁部が外反する壺と考えられる。

コメント : ブラチャーの報告によると、トラチノルパンでも 13 片の” Red-slipped Jar” が確認されている (Blucher 1971: 337)。



図 4-2-(10)-1 : 建造物 6 (T8) 出土の壺

(11) 碗(Bowl)

個体数 : N=1 (パトラチケ期の Burnished Ware の Painted Red グループ中で 9.1%)

出土地点 :

表 4-2-(11)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計			
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%		
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%

図版 : 図 4-2-(11)-1

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。白や黒の細かい含有物を含むがその量は少ない。Monochrome Brow グループの碗よりは良質な胎土である。胎土の色は、明赤褐色 (2.5YR5/6) である。

表面調整 : 内外面ともよく仕上げられ研磨される。赤色ペイントが無い内面の色は、ほぼ胎土と同じで明赤褐色である。

装飾 : 口縁部内側に赤色ペイントが見られるが内面胴部には装飾はない。外面は赤色ペイントが胴部にまで塗られる。

器形 : 胴部が外傾し口縁部が肥厚する碗である。

コメント : ブラチャーの報告によると、トラチノルパンでも 7 片の” Red-slipped flaring Bowl” が確認されている (Blucher 1971: 341)。



図 4-2-(11)-1 : 建造物 2 (T4) の碗

(12) カスエラ(Cazuela)

個体数 : N=2 (パトラチケ期の Burnished Ware の Painted Red グループ中で 18.2%)

出土地点 :

表 4-2-(12)-1 : カスエラの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
カスエラ (Cazuela)	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%

図版 : 図 4-2-(12)-1

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。細かい含有物を含むがその量は少ない。無装飾グループのカスエラよりは良質な胎土である。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR5/4、7.5YR6/6) である。

表面調整 : 内外面ともよく仕上げられ研磨される。赤色ペイントが無い内面の色は、ほぼ胎土と同じで明赤褐色である。

装飾 :

図 4-2-(12)-1:a-b、外面の胴部に赤色のバンドが見られるが、内面には装飾はない。

図 4-2-(12)-1:d-f、外面の胴部に赤色のバンドが見られるが、内面には装飾はない。また、口縁部外側に、規則正しく丸く削り取った”notching”技法が見られる。

器形 : 口縁部が外反するカスエラである。

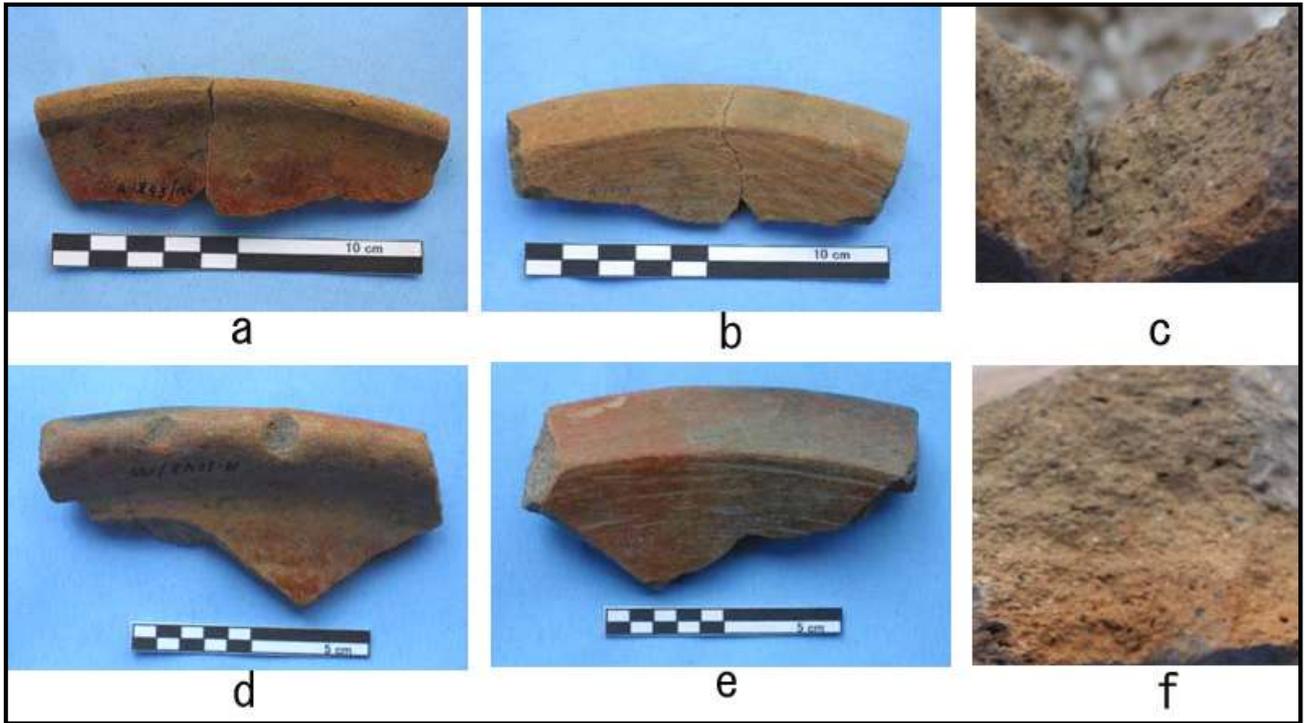


図 4-2-(12)-1 : 建造物 2 (T1) 出土のカスエラ

(13) 円筒形壺 (Vase)

個体数 : N=1 (パトラチケ期の Burnished Ware の Painted Red グループ中で 9.1%)

出土地点 :

表 4-2-(13)-1 : 円筒形壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計			
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%		
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%

図版 : 図 4-2-(13)-1

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。白や黒の細かい含有物を含むがその量は少ない。胎土の色は、明赤褐色 (2.5YR5/6) である。

表面調整 : 内面は外面と比べてやや雑な表面仕上げである。外面はやや雑に研磨される。外面の赤色ペイントが無い部分の色は胎土と同じで明赤褐色であるが、内面は褐色である (7.5YR4/3)。

装飾 : 口縁部内側と胴部の外面に赤色のペイントが施される。

器形 : 口縁部が水平まで外反する円筒形壺である。

コメント : ブラチャーの報告によると、トラチノルパンでも 15 片の ” Red-slipped Vase ” が確認されている (Blucher 1971: 331)。



図 4-2-(13)-1 : 建造物 6 (T8) 出土の円筒形壺

(14) まとめ

< Monochrome Brown グループおよび Painted Red グループの器種構成 >

パトラチケ期の Burnished Ware、Monochrome Brown グループ 457 個体における機種の構成比を見ると、大型壺 58.4%、壺 22.1%、碗 11.6%、テコマテ 1.3%、カスエラ 1.8%、ベースン 3.9%、コマル 0.4%、円筒形壺 0.2% となり、56 層、建造物 1、建造物 2、建造物 4 からの出土数が多い。また、器種別では大型壺の出土の割合が大きく、次に壺、碗と続く (表 4-2-(14)-1)。

一方、Painted Red グループの機種別構成比は、大型壺 54.5%、壺 9.1%、碗 9.1%、カスエラ 18.2%、円筒形壺 9.1% であり、建造物 2 からの出土数が多く 56 層および建造物 1 からは、出土していない。(表 4-2-(14)-2)。

表 4-2-(14)-1 : Monochrome Brown グループの出土地別器種出現率

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
大型壺 (Olla)	30	41.1%	29	54.7%	116	60.7%	2	40.0%	55	62.5%	11	68.8%	22	75.9%	2	100.0%	267	58.4%
壺 (Jar)	28	38.4%	17	32.1%	35	18.3%	0	0.0%	17	19.3%	0	0.0%	4	13.8%	0	0.0%	101	22.1%
碗 (Bowl)	7	9.6%	4	7.5%	27	14.1%	3	60.0%	8	9.1%	2	12.5%	2	6.9%	0	0.0%	53	11.6%
テコマテ (Tecomate)	0	0.0%	3	5.7%	3	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	1.3%
カスエラ (Cazuela)	0	0.0%	0	0.0%	3	1.6%	0	0.0%	5	5.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	1.8%
ベースン (Basin)	8	11.0%	0	0.0%	5	2.6%	0	0.0%	2	2.3%	3	18.8%	0	0.0%	0	0.0%	18	3.9%
コマル (Comal)	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.4%	0	0.0%	1	0.2%
機種不明	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
合計	73	100.0%	53	100.0%	191	100.0%	5	100.0%	88	100.0%	16	100.0%	29	100.0%	2	100.0%	457	100.0%

表 4-2-(14)-2 : Painted Red グループの出土地別機種構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
大型壺 (Olla)	0	0.0%	0	0.0%	5	55.6%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	54.5%
壺 (Jarra)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	1	9.1%
碗 (cafete)	0	0.0%	0	0.0%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	9.1%
カスエラ (Cazuela)	0	0.0%	0	0.0%	2	22.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	18.2%
円筒形壺 (Vaso)	0	0.0%	0	0.0%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	9.1%
合計	0	0.0%	0	0.0%	9	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	11	100.0%

< Monochrome Brown グループの大型壺の特徴 >

このグループで最も多く出土する大型壺の特徴は、口縁部が肥厚する” wedge rim” (図 4-2-(14)-1) にあるが、この口縁部と比較的粘質な胎土の組み合わせがパトラケ期の大型壺を同定する重要な要素となる。壺も同様の特徴を持つが、大型壺との違いは大きさにある。

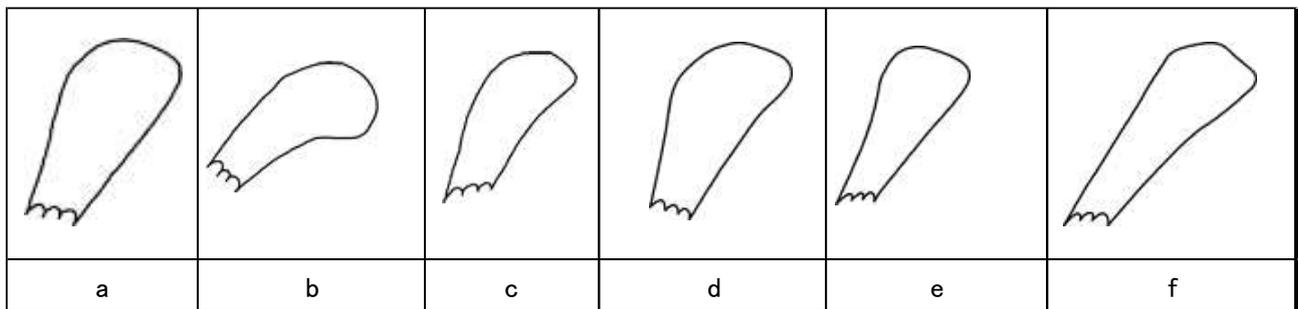


図 4-2-(14)-1 : 大型壺における特徴的な口縁部

< Monochrome Brown グループにおける胎土の特徴 >

この時期の Monochrome Brown グループの特徴としては、胎土が挙げられる。この胎土は、他の時期と比較して全体としては、比較的粘土質で硬い特徴を持つ。細分すると、白色の含有物が多く含まれる大型壺、壺、テコマテのグループと比較的少ない碗、カスエラ、ベーズン、コマル、円筒形壺のグループに分けられる可能性がある。



図 4-2-(14)-2 : 器種別の代表的な胎土

4-3 Polished Ware (個体数 N=265、パトラチケ期全体の中で 23.6%)

表面の色調により、①黒色グループと、②褐色グループに分けられる。

<黒色グループ(N=102)>

(1) 碗(Bowl)

個体数 : N=84 (パトラチケ期の Polished Ware の黒色グループの中で 82.4%)

出土地点 :

表 4-3-(1)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	13	15.5%	29	34.5%	36	42.9%	0	0.0%	5	6.0%	0	0.0%	1	1.2%	0	0.0%	84	100.0%

図版 : 図 4-3-(1)-1~図 4-3-(1)-8

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。Burnished Ware より良質である。白や黒の細かい含有物を若干含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある(図 4-3-(1)-1:c, i, l)。胎土の色は、オレンジ系(7.5YR6/6、5YR6/8)、褐色系(7.5YR5/6、7.5YR5/4、7.5YR4/4、7.5YR4/3)、赤褐色系(5YR5/6、5YR5/4、2.5YR5/8)、黒色(7.5YR2/1)等多様である。

表面調整 : 表面仕上げは、内外面ともやや雑な部分もみられるが、良く研磨される。表面の色は、内外面とも黒色(7.5YR2/1)である。

装飾 : 無し。

器形 : ①Simple Bowl (図 4-3-(1)-3) : 口径が 11.3cm~16.0cm の半球形の碗、②Shouldered Bowl (図 4-3-(1)-4) : 口径が 17.7~18.2cm の口縁部が外反する碗、③Flaring Bowl (図 4-3-(1)-5) : 口径が 11.6cm~26.0cm で胴部が外傾する碗、④Outcurving Bowl (図 4-3-(1)-6) : 口径が 12.3cm~13.2cm で、胴部が外反する碗、⑤Incurved Bowl (図 4-3-(1)-7) : 口径が 13.2cm の胴部が内湾する碗が見られる。この他、口縁部が波状になる Pinched Bowl 等も見られる(図 4-3-(1)-8)。

表 4-3-(1)-2 : 碗の口径

実測図	口径(cm)	写真	出土地	個体番号
<Simple Bowl>				
図 4-3-(1)-3, a	11.8	図 4-3-(1)-1, d-f	建造物1(T3)	A-1589-396
図 4-3-(1)-3, c	11.3	図 4-3-(1)-2, g-i	建造物1(T3)	A-1631-53
図 4-3-(1)-3, d	16.0	-	建造物1(T3)	A-1662-34
<Shouldered Bowl>				
図 4-3-(1)-4, a	18.2	図 4-3-(1)-1, a-c	建造物1(T3)	A-1549-82
図 4-3-(1)-4, b	17.7	-	建造物1(T3)	A-1692-46
<Flaring Bowl>				
図 4-3-(1)-5, a	26.0	図 4-3-(1)-2, a-c	建造物1(T3)	A-1589-394
図 4-3-(1)-5, b	24.2	-	建造物1(T3)	A-1707-43
図 4-3-(1)-5, c	11.6	図 4-3-(1)-2, j-l	建造物1(T3)	A-1707-44
<Outcurving Bowl>				
図 4-3-(1)-6, a	13.2	図 4-3-(1)-1, g-i	建造物1(T3)	A-1630-38
図 4-3-(1)-6, b	12.3	-	建造物1(T3)	A-1631-60
<Incurved Bowl>				
図 4-3-(1)-7, c	13.2	-	建造物1(T3)	A-1662-40

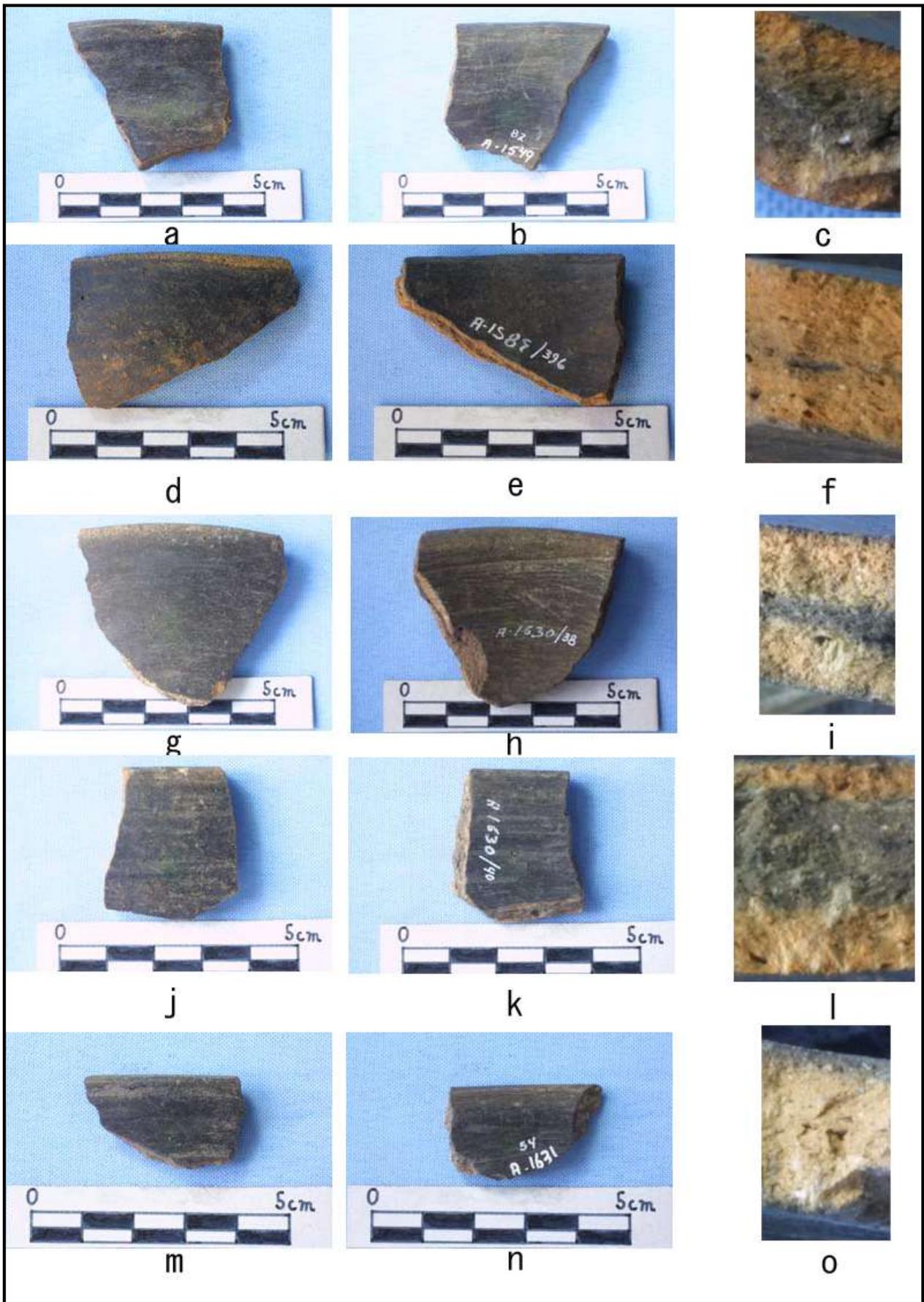


図 4-3-(1)-1 : 建造物 1 (T3) 出土の碗

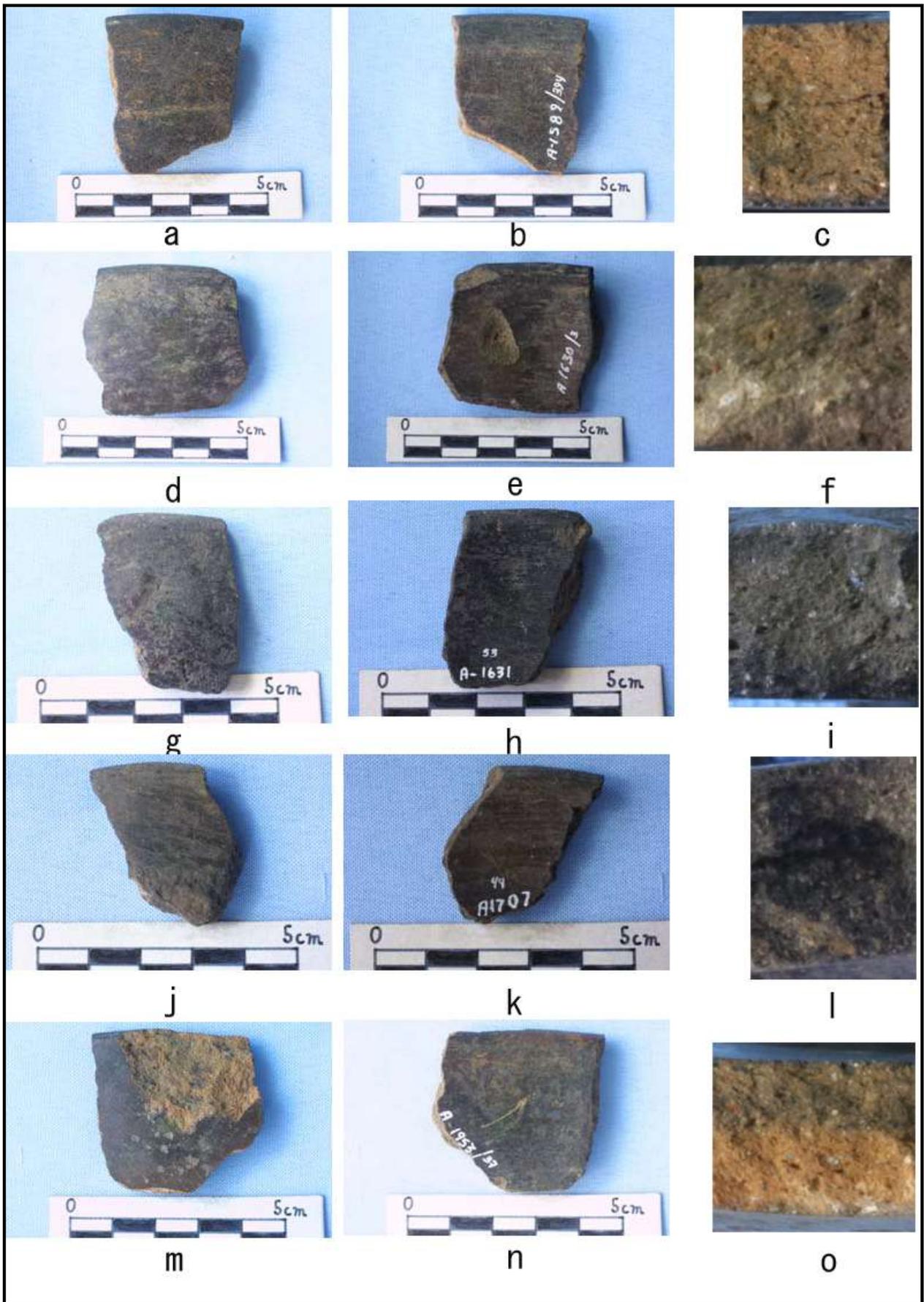


図 4-3-(1)-2 : 建造物 1 (T3) 出土の碗

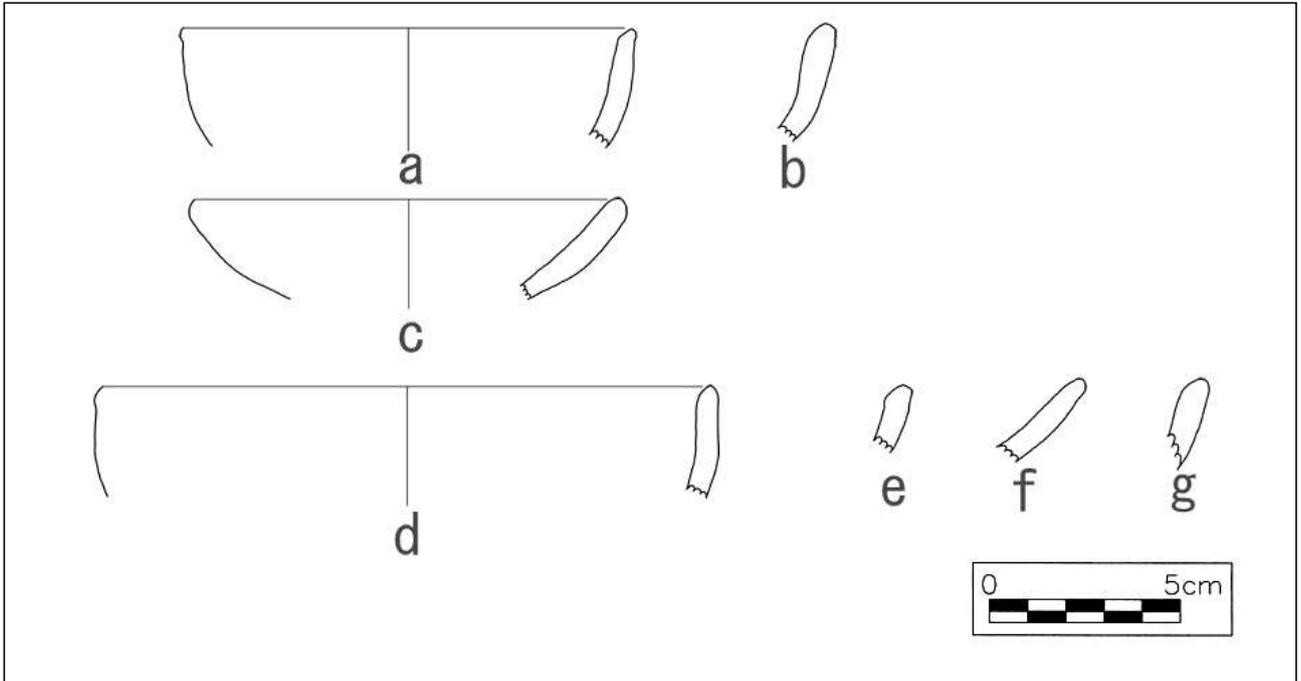


図 4-3-(1)-3 : 建造物 1 (T3) 出土の碗 (Simple Bowl)

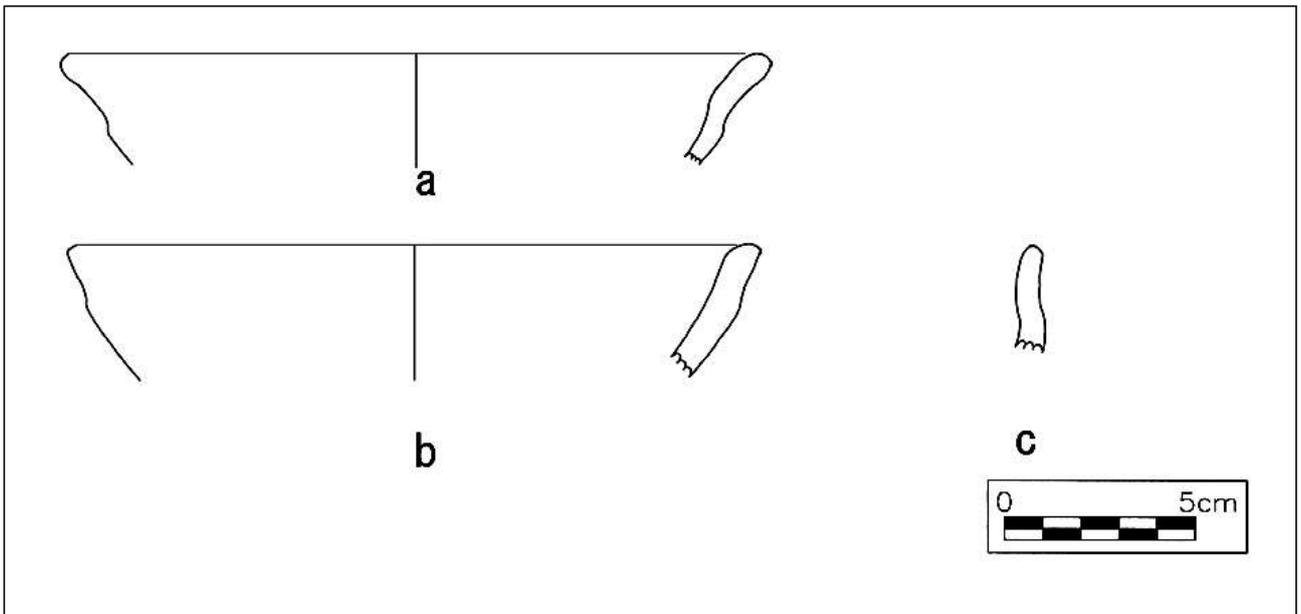


図 4-3-(1)-4 : 建造物 1 (T3) 出土の碗 (Shouldered Bowl)

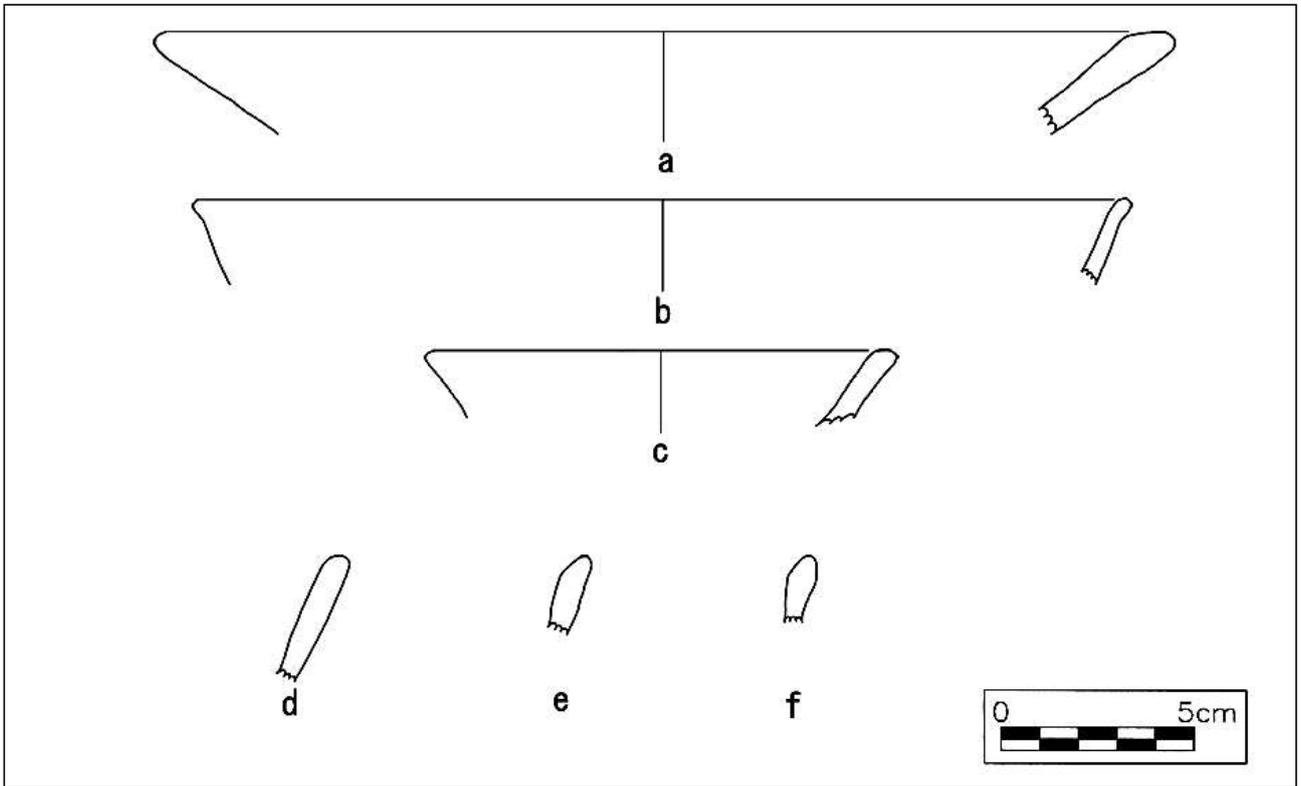


図 4-3-(1)-5 : 建造物 1 (T3) 出土の碗(Flaring Bowl)

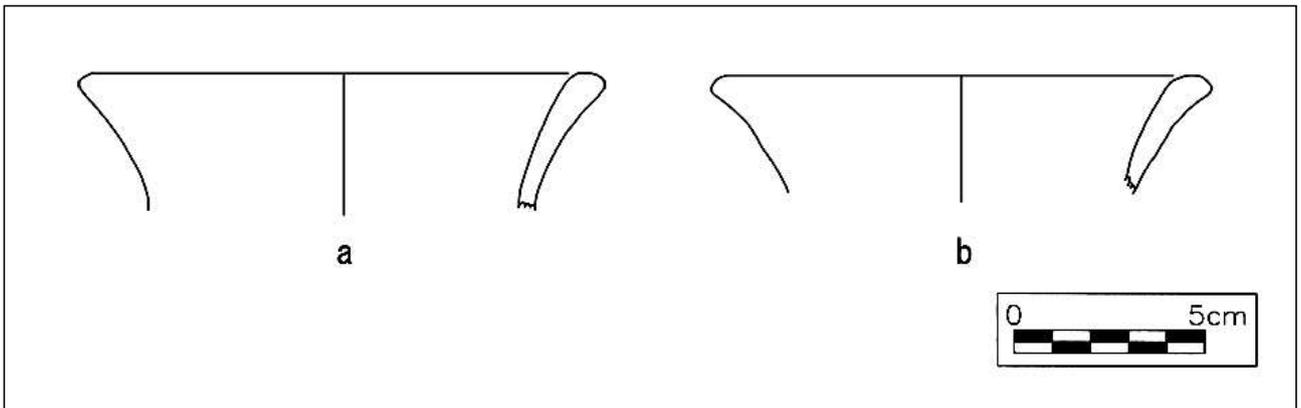


図 4-3-(1)-6 : 建造物 1 (T3) 出土の碗(Outcurving Bowl)

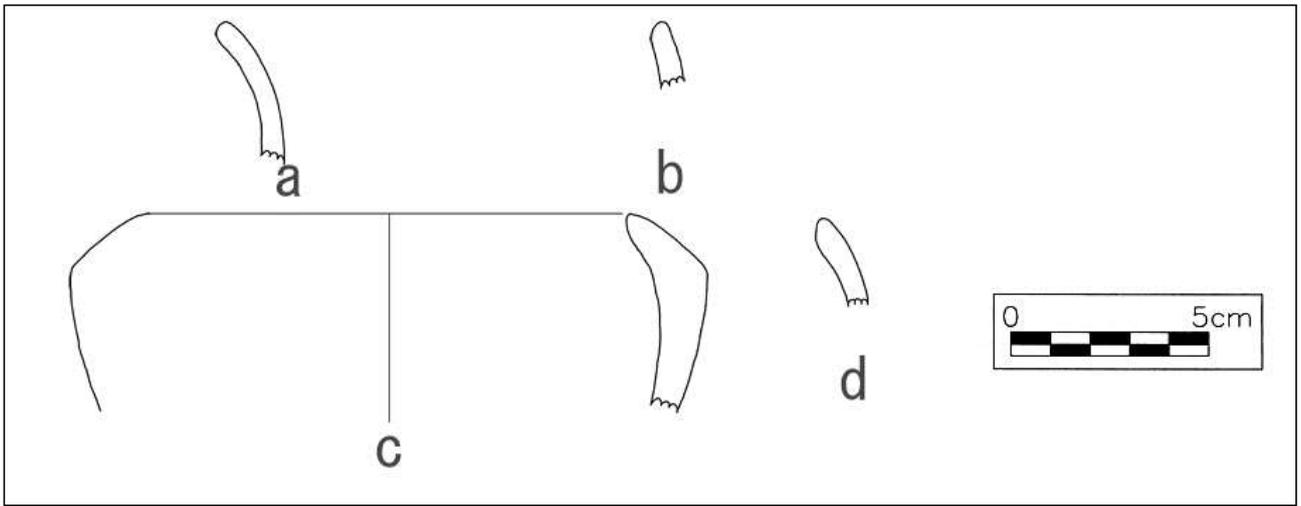


図 4-3-(1)-7 : 建造物 1 (T3) 出土の碗 (Icurved Bowl)

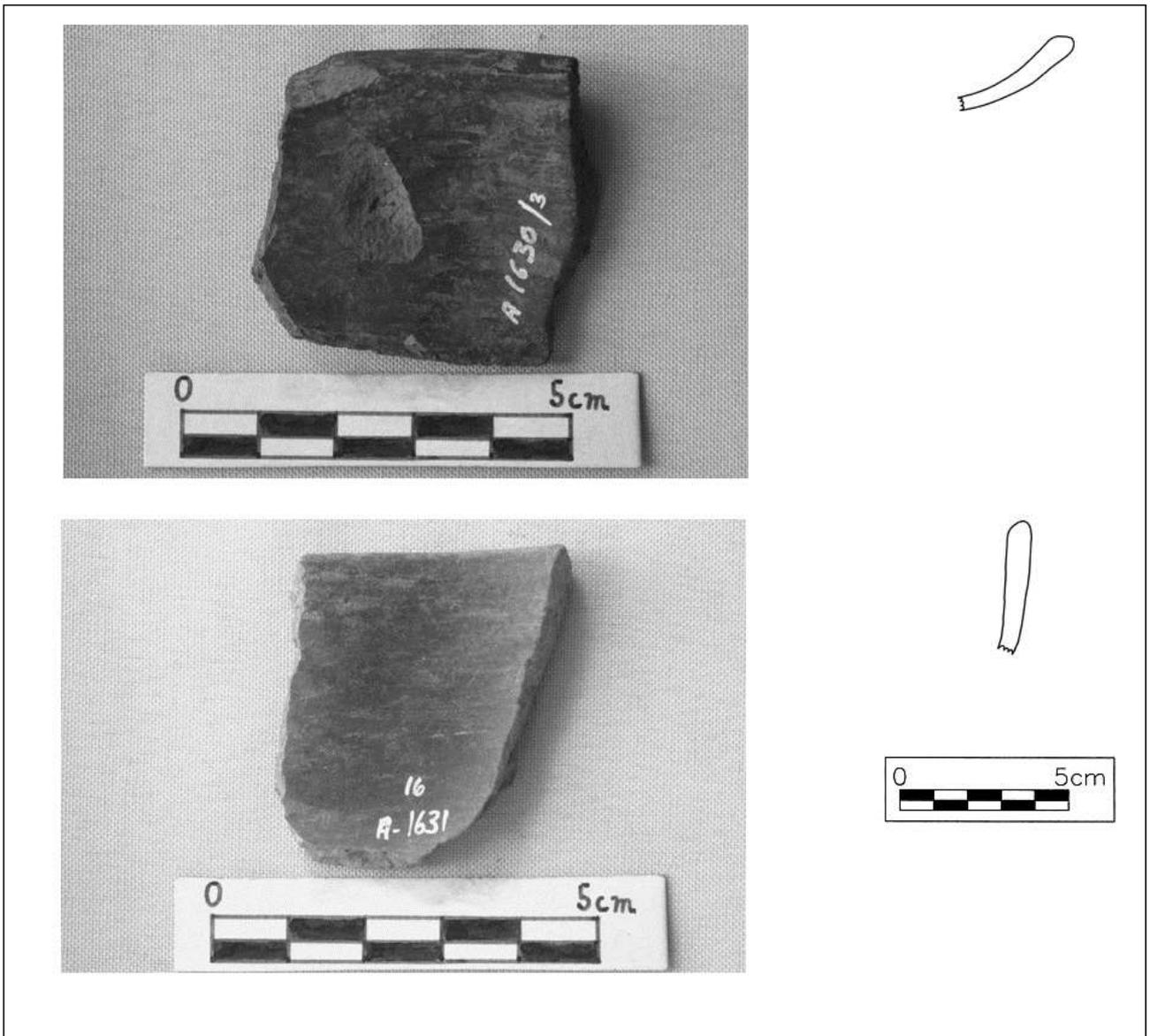


図 4-3-(1)-8 : 建造物 1 (T3) 出土の碗 (Pinched Bowl)

(2) 壺(Jar)

個体数 : N=11 (パトラチケ期の Polished Ware の黒色グループ中で 10.8%)

出土地点 :

表 4-3-(2)-1 : 壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
壺 (Jar)	0	0.0%	9	81.8%	2	18.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	100.0%

図版 : 図 4-3-(2)-1~図 4-3-(1)-2

胎土 : 胎土は、碗とほぼ同様の良質の胎土である。白や黒の細かい含有物を若干含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある (図 4-3-(2)-1:c)。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/6)、褐色系 (7.5YR5/4、7.5YR4/3)、赤褐色系 (5YR5/6)、黒色 (7.5YR2/1) 等多様である。

表面調整 : 表面仕上げは、口縁部の内外面とも良好で研磨される。表面の色は、内外面とも黒色 (7.5YR2/1) である。

装飾 : 無し。

器形 : 壺の口径は、7.6cm~17.7cm (表 4-3-(2)-2) で、口縁部は肥厚することもなく外反する。

表 4-3-(2)-2 : 壺の口径

実測図	口径(cm)	写真	出土地	個体番号
図 4-3-(2)-2, a	17.7	図 4-3-(2)-1, a-c	建造物1(T3)	A-1630-41
図 4-3-(2)-2, b	10.8	図 4-3-(2)-1, d-f	建造物1(T3)	A-1631-31
図 4-3-(2)-2, c	7.6	図 4-3-(2)-1, g-i	建造物1(T3)	A-1692-69
図 4-3-(2)-2, d	11.3	-	建造物1(T3)	A-1707-73
図 4-3-(2)-2, e	7.6	-	建造物1(T3)	A-1983-18
図 4-3-(2)-2, f	11.8	図 4-3-(2)-1, j-l	建造物1(T3)	A-2033-40
図 4-3-(2)-2, g	7.6	図 4-3-(2)-1, m-o	建造物1(T3)	A-2042-36

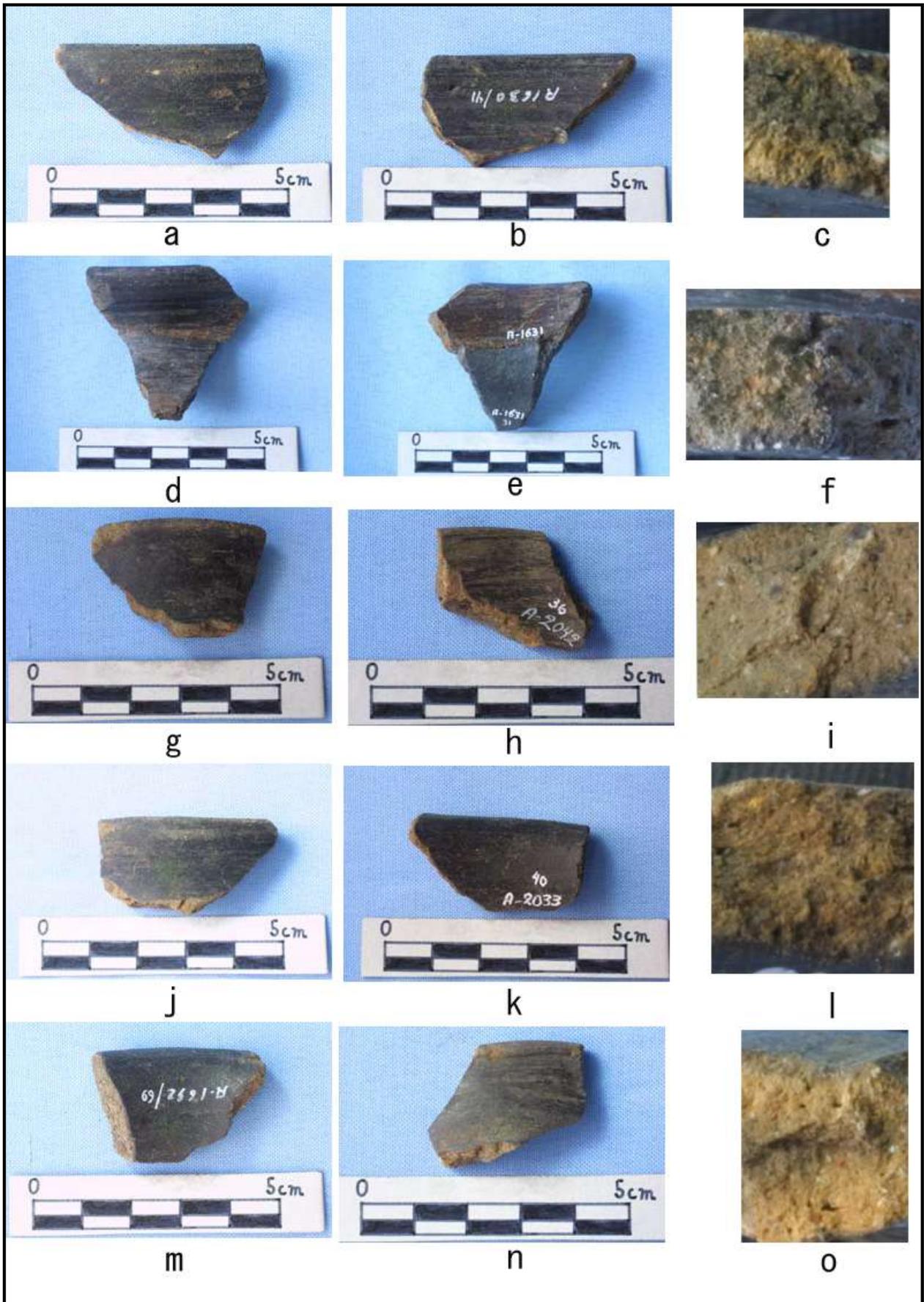


図 4-3-(2)-1 : 建造物 1 (T3) 出土の壺

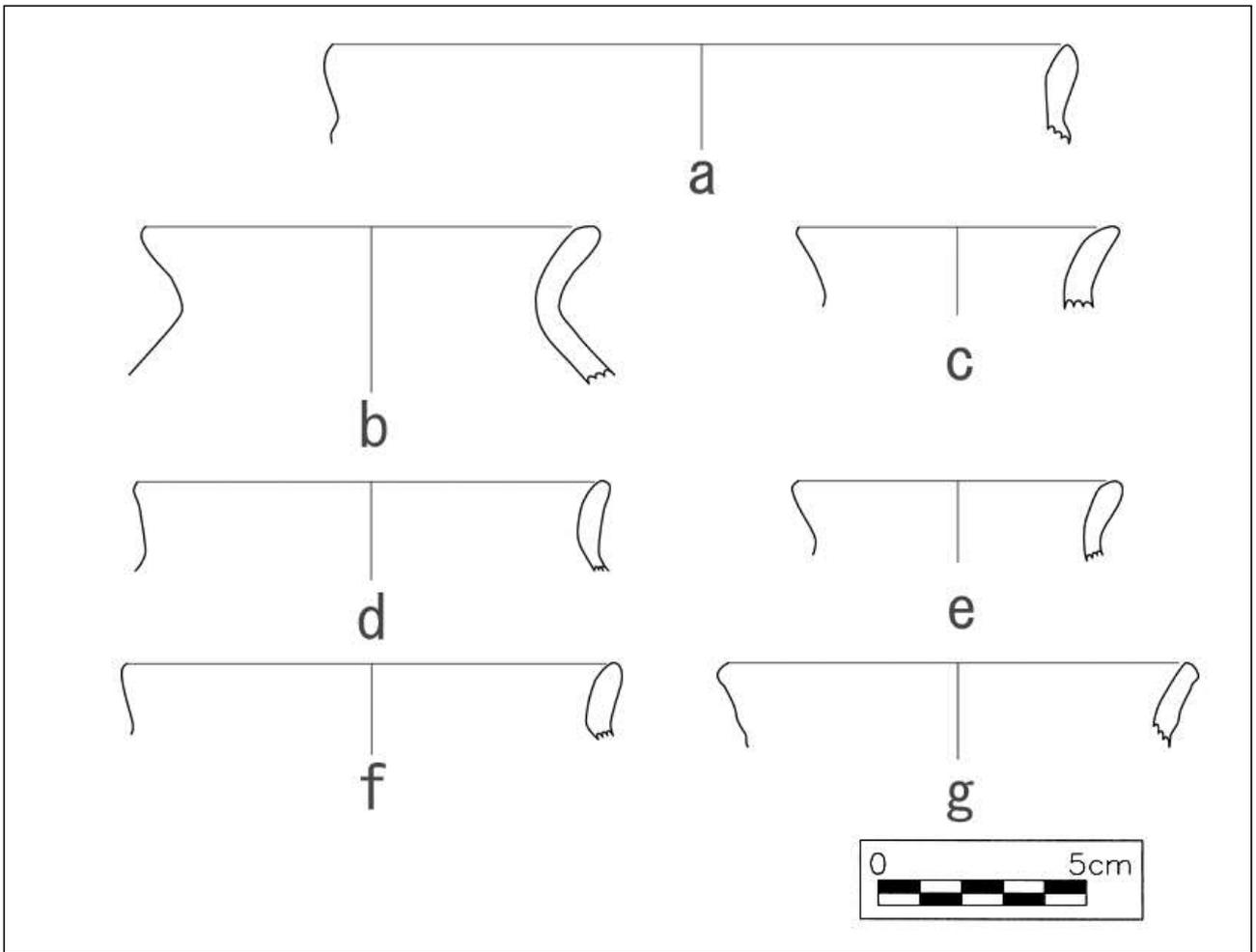


図 4-3-(2)-2 : 建造物 1 (T3) 出土の壺

(3) 皿(Dish)

個体数 : N=3 (パトラチケ期の Polished Ware の黒色グループ中で 2.9%)

出土地点 :

表 4-3-(3)-1 : 皿の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
皿 (Dish)	0	0.0%	3	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%

図版 : 図 4-3-(3)-1 ~ 図 4-3-(3)-2

胎土 : 胎土は、碗とほぼ同様の良質の胎土である。白や黒の細かい含有物を若干含む。
胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/6)、褐色系 (7.5YR4/3) 等である。

表面調整 : 表面仕上げは、やや雑な仕上げも見られるが、内外面とも良好で研磨される。
表面の色は、内外面とも黒色系 (7.5YR2/1) である。

装飾 : 無し。

器形 : 胴部が外傾する皿 (図 4-3-(3)-2)



図 4-3-(3)-1 : 建造物 1 (T3) 出土の皿

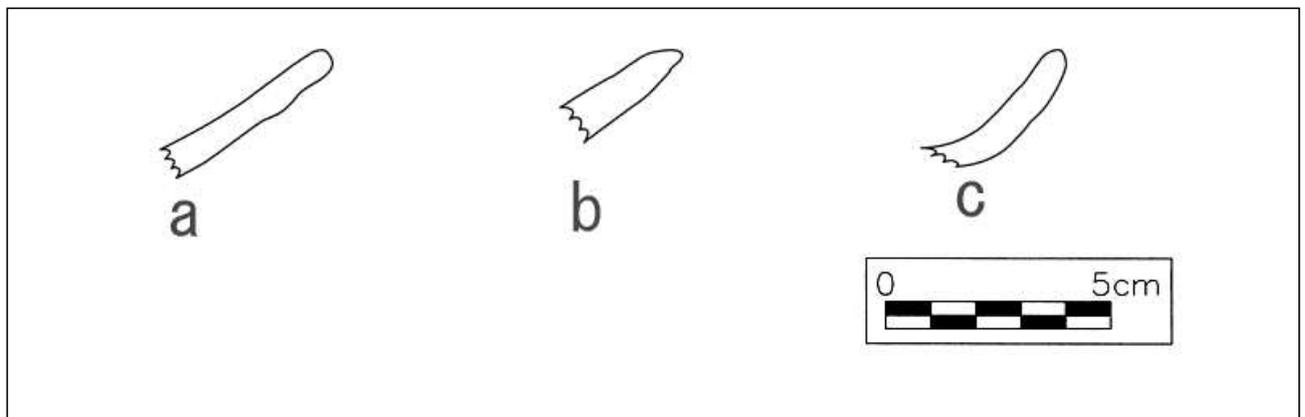


図 4-3-(3)-2 : 建造物 1 (T3) 出土の皿

(4) テコマテ(Tecomate)

個体数 : N=4 (パトラチケ期の Polished Ware の黒色グループ中で 3.9%)

出土地点 :

表 4-3-(4)-1 : テコマテの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
テコマテ (tecomate)	0	0.0%	1	25.0%	3	75.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%

図版 : 図 4-3-(4)-1～図 4-3-(4)-2

胎土 : 胎土は、やや粗く比較的多くの含有物を含む。胎土の色は、赤褐色系 (5YR5/6)、黒色 (7.5YR2/1)、黒褐色 (7.5YR3/1) 等である。

表面調整 : 表面仕上げは、やや粗いものも見られるが、口縁部の内外面とも良好で研磨される。表面の色は、内外面とも黒色系 (7.5YR2/1) である。

装飾 : 無し。

器形 : 口径が 12.4cm、口縁部は肥厚することなくまっすぐ内側に伸びるテコマテがある。

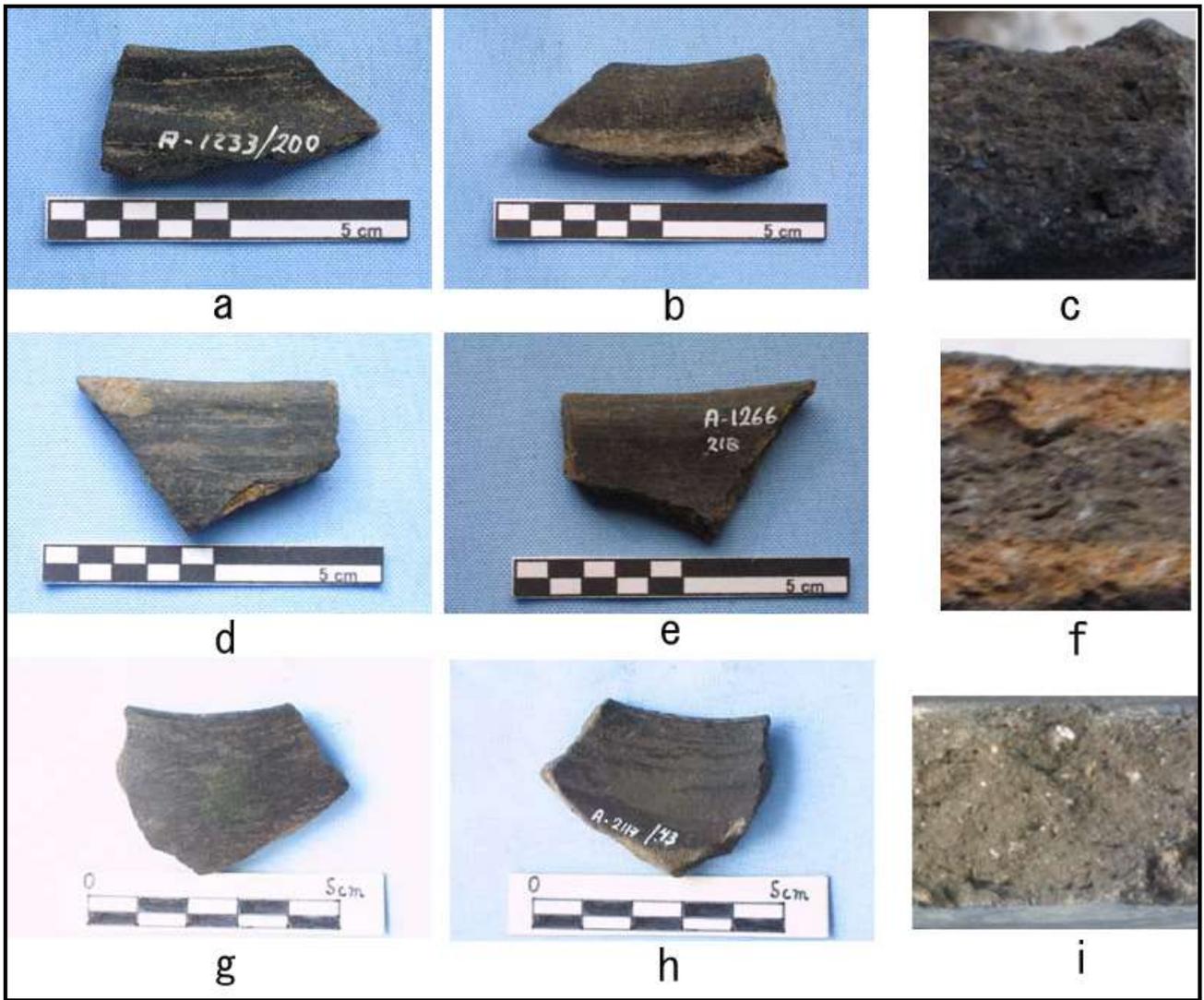


図 4-3-(4)-1 : a-f 建造物 2 (T1) 出土のテコマテ、 g-i 56 層 (T4) 出土のテコマテ

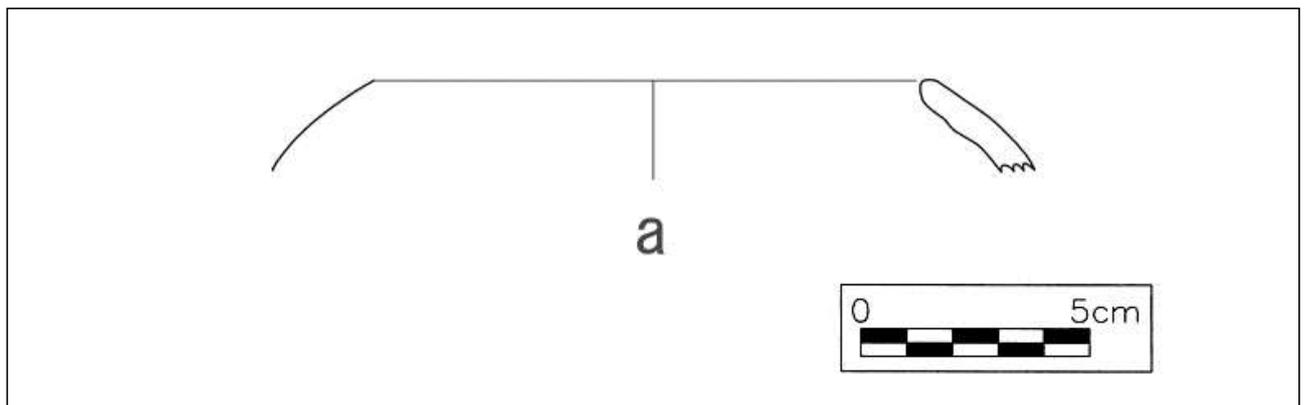


図 4-3-(4)-2 : 56 層出土のテコマテ

<褐色グループ (N=163)>

(5) 碗 (Bowl)

個体数 : N=126 (パトラチケ期の Polished Ware の褐色グループ中で 77.3%)

出土地点 :

表 4-3-(5)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	14	11.1%	42	33.3%	36	28.6%	2	1.6%	29	23.0%	3	2.4%	0	0.0%	0	0.0%	126	100.0%

図版 : 図 4-3-(5)-1~図 4-3-(5)-14

胎土 : 胎土は、黒色グループの碗と同様に、粘土質で肌理が細かく硬い。Burnished Ware より良質である。白や黒の細かい含有物を若干含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある (図 4-3-(5)-1:c 等)。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/4、5YR6/8、5YR6/6)、褐色系 (7.5YR5/6、7.5YR6/6、7.5YR4/3)、赤褐色系 (5YR5/6)、黒色 (7.5YR2/1) 等多様である。

表面調整 : 表面仕上げは、内外面とも良好で研磨される。表面の色は、胎土と同様に、オレンジ系、赤褐色系のもの (図 4-3-(5)-1) とやや暗めの褐色系 (7.5YR4/3) に分けられる (図 4-3-(5)-2)。また、破片が小さいので全体の器形が不明であるが、内面と外面の色が異なるものも見られる (図 4-3-(5)-3)。

装飾 : 無し。

器形 : ①Simple Bowl (図 4-3-(5)-4、図 4-3-(5)-5) : 口径が 8.2cm~20.4cm で、口唇

部が丸くなるもの、平たくなるものが見られる。②Shouldered Bowl (図 4-3-(5)-6、図 4-3-(5)-7) : 口径が 24.0cm~32.2cm で胴部が屈曲するのが特徴である。③Flaring Bowl (図 4-3-(5)-8、図 4-3-(5)-9) 口径が 13.5cm~20.5cm で胴部が外傾する。④Outcurving Bowl (図 4-3-(5)-10、図 4-3-(5)-11) : 口径が 15.1cm~19.7cm で胴部から口縁部が外反する。⑤Incurved Bowl (図 4-3-(5)-12、図 4-3-(5)-13) : 口径が 7.4cm~16.0cm の胴部が内湾、あるいは口縁部が内湾する。⑥Angled Bowl (図 4-3-(5)-14) 口縁部が立ち上がる。

表 4-3-(5)-2 : 碗の口径

実測図	口径 (cm)	写真	出土地	個体番号
<Simple Bowl>				
図 4-3-(5)-4, a	13.5	図 4-3-(5)-2, a-c	建造物1 (T3)	A-1549-79
図 4-3-(5)-4, c	15.3	-	建造物1 (T3)	A-1589-389
図 4-3-(5)-4, e	19.2	-	建造物1 (T3)	A-1589-101
図 4-3-(5)-4, f	14.3	図 4-3-(5)-1, a-c	建造物1 (T3)	A-1631-42
図 4-3-(5)-4, g	20.4	-	建造物1 (T3)	A-1631-50
図 4-3-(5)-4, i	17.2	-	建造物1 (T3)	A-1662-39
図 4-3-(5)-4, k	11.0	-	建造物1 (T3)	A-1746-67
図 4-3-(5)-5, b	10.9	図 4-3-(5)-3, g-i	建造物1 (T3)	A-1641-37
図 4-3-(5)-5, c	13.2	-	建造物1 (T3)	A-1746-68
図 4-3-(5)-5, d	8.2	-	建造物1 (T3)	A-1983-17
<Shouldered Bowl>				
図 4-3-(5)-6, a	32.2	-	建造物1 (T3)	A-1631-41
図 4-3-(5)-7, a	24.0	-	建造物1 (T3)	A-1692-57
<Flaring Bowl>				
図 4-3-(5)-8, a	18.5	-	建造物1 (T3)	A-1598-110
図 4-3-(5)-8, b	15.9	-	建造物1 (T3)	A-1598-119
図 4-3-(5)-8, g	13.5	-	建造物1 (T3)	A-2042-23
図 4-3-(5)-9, a	20.5	-	建造物1 (T3)	A-1630-37
図 4-3-(5)-9, c	13.5	-	建造物4 (T2)	A-3102-253
<Outcurving Bowl>				
図 4-3-(5)-10, a	17.5	図 4-3-(5)-2, g-i	建造物1 (T3)	A-1631-43
図 4-3-(5)-10, b	19.7	-	建造物1 (T3)	A-1631-47
図 4-3-(5)-10, c	15.1	-	建造物1 (T3)	A-1631-59
図 4-3-(5)-11, a	16.3	-	建造物1 (T3)	A-1015-57
図 4-3-(5)-11, b	17.8	-	建造物1 (T3)	A-2042-34
<Incurved Bowl>				
図 4-3-(5)-12, b	7.4	-	建造物1 (T3)	A-1692-54
図 4-3-(5)-12, c	14.9	-	建造物1 (T3)	A-1256-156
図 4-3-(5)-13, a	16.0	-	建造物1 (T3)	A-1692-64

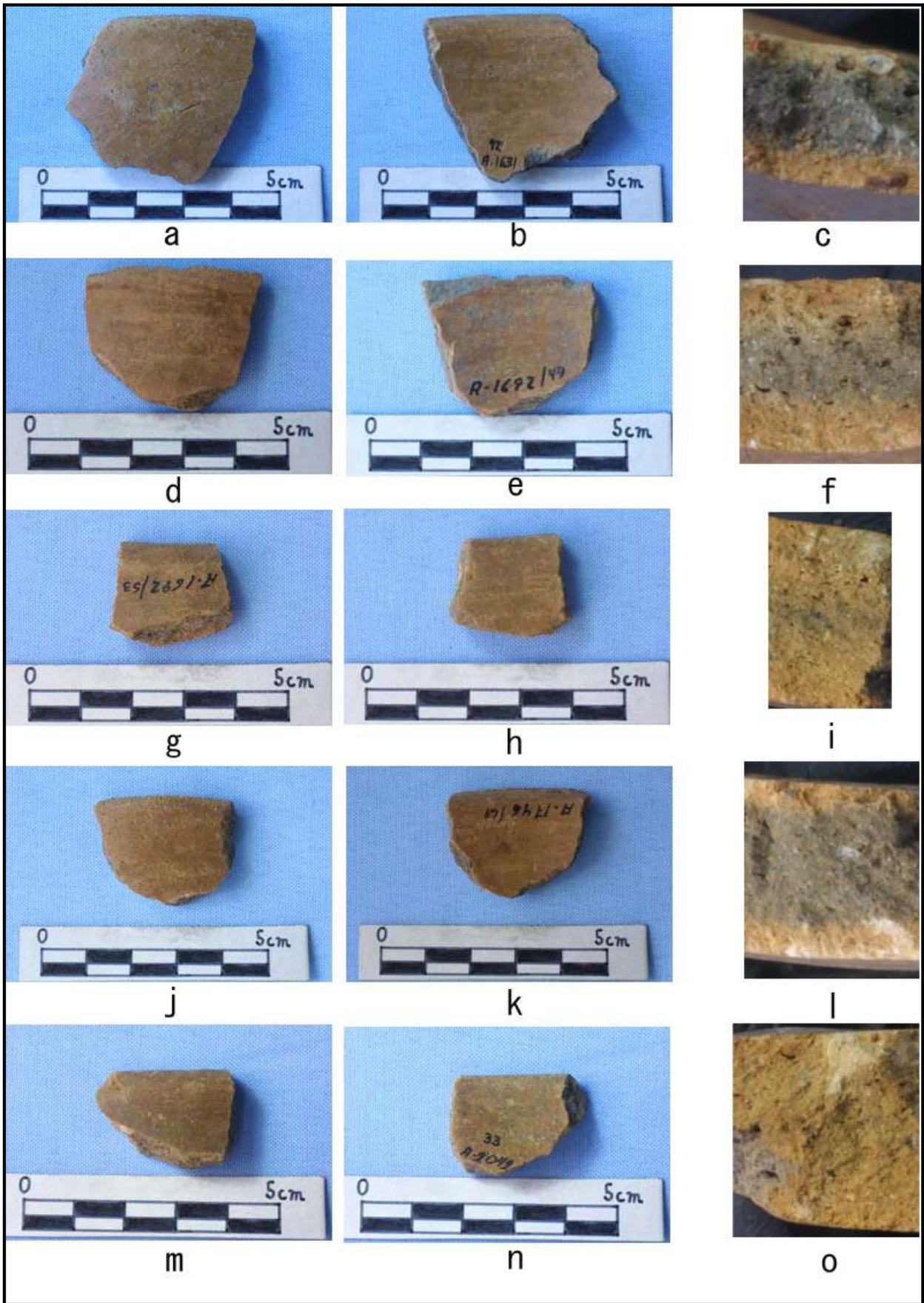


図 4-3-(5)-1 : 建造物 1 (T3) 出土の碗

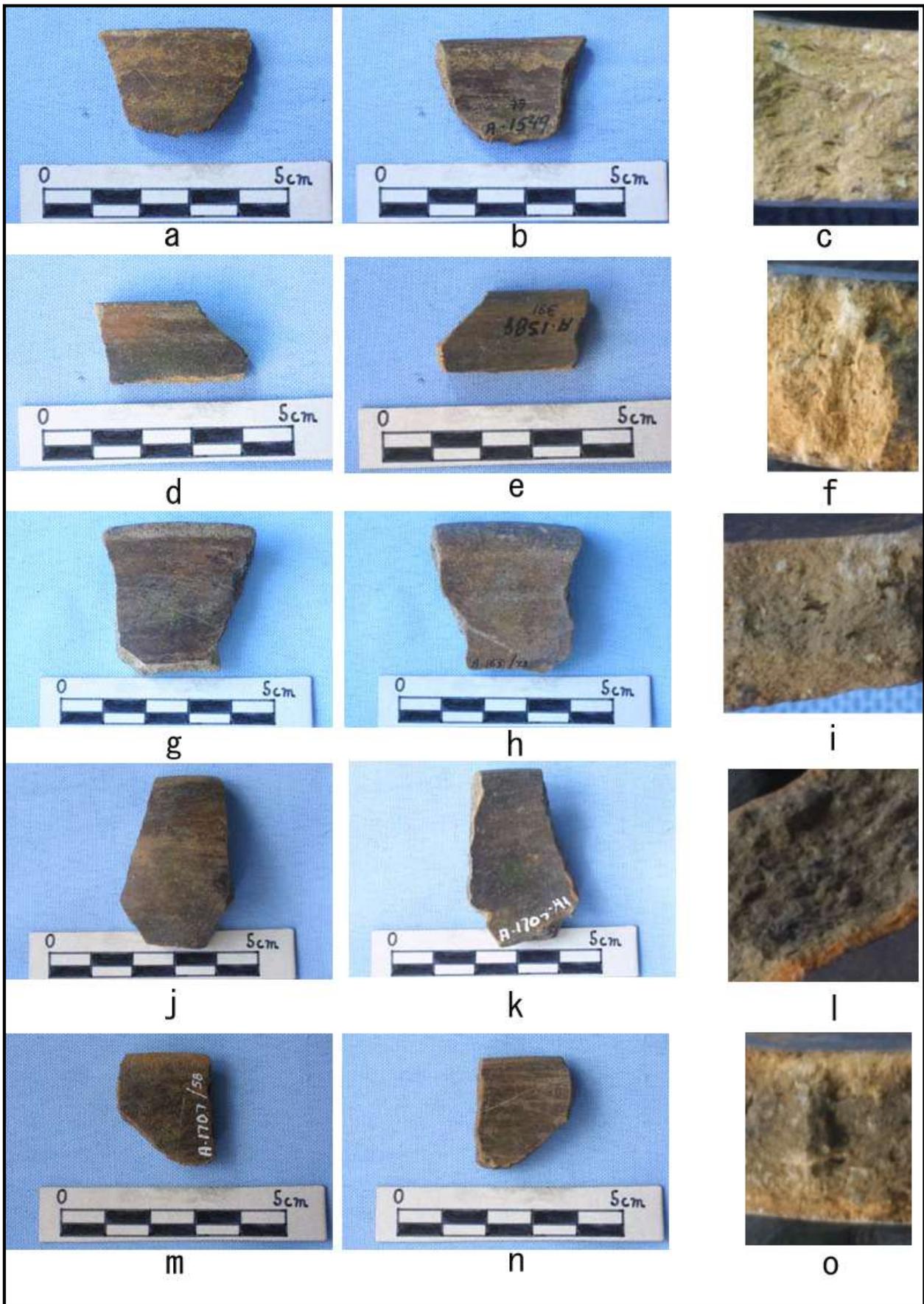


図 4-3-(5)-2 : 建造物 1 (T3) 出土の碗



図 4-3-(5)-3 : 建造物 1 (T3) 出土の碗

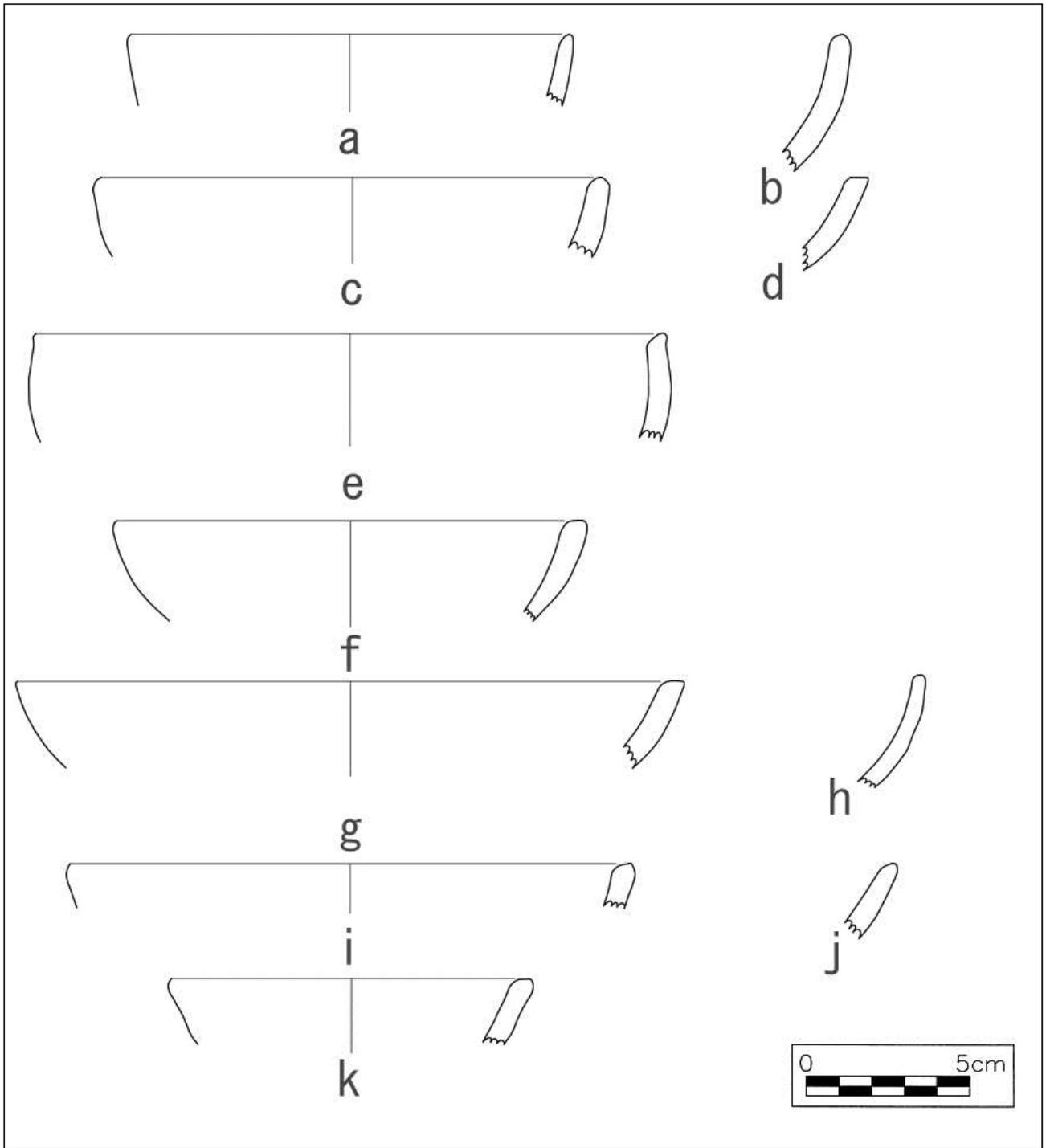


図 4-3-(5)-4 : 建造物 1 (T3) 出土の碗 (Simple Bowl)

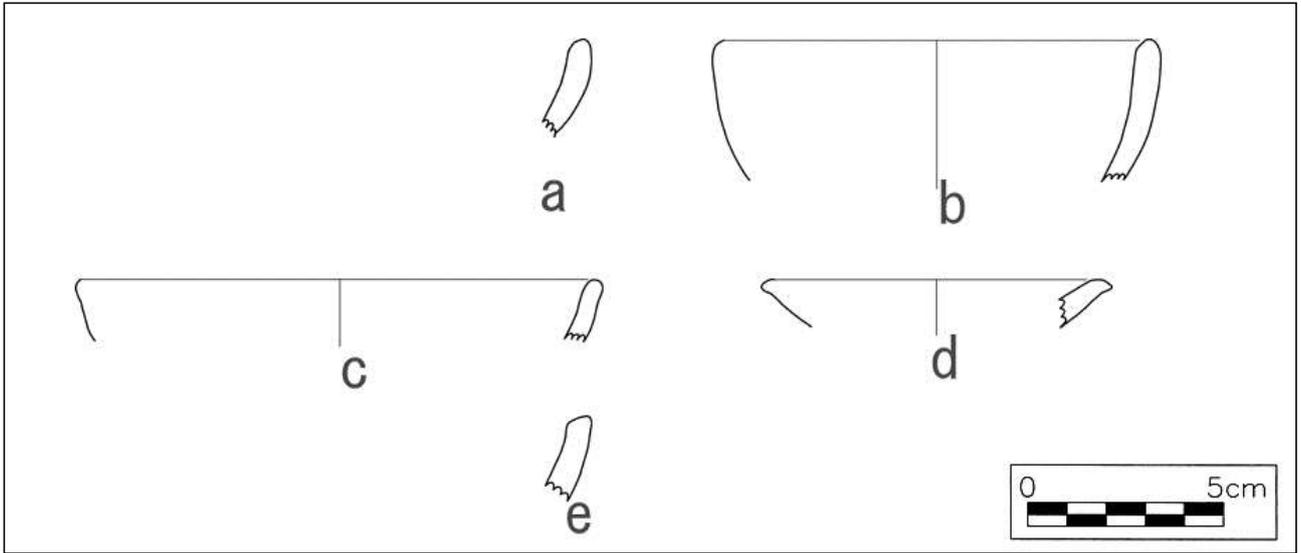


図 4-3-(5)-5 : 建造物 1 (T3) 出土の碗 (Simple Bowl)

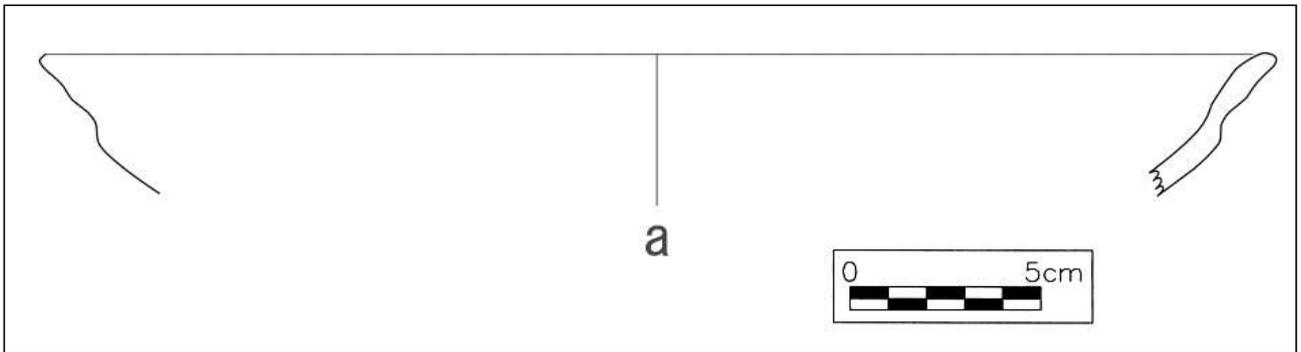


図 4-3-(5)-6 : 建造物 1 (T3) 出土の碗 (Shouldered Bowl)

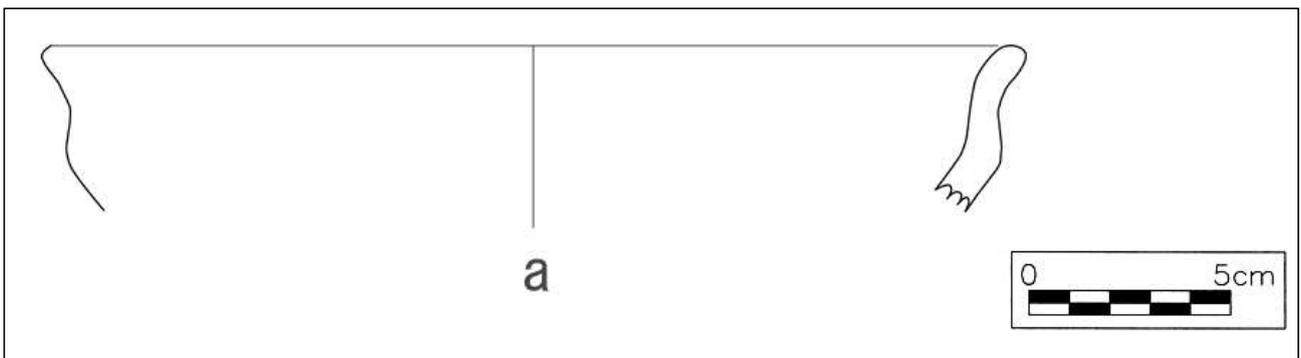


図 4-3-(5)-7 : 建造物 1 (T3) 出土の碗 (Shouldered Bowl)

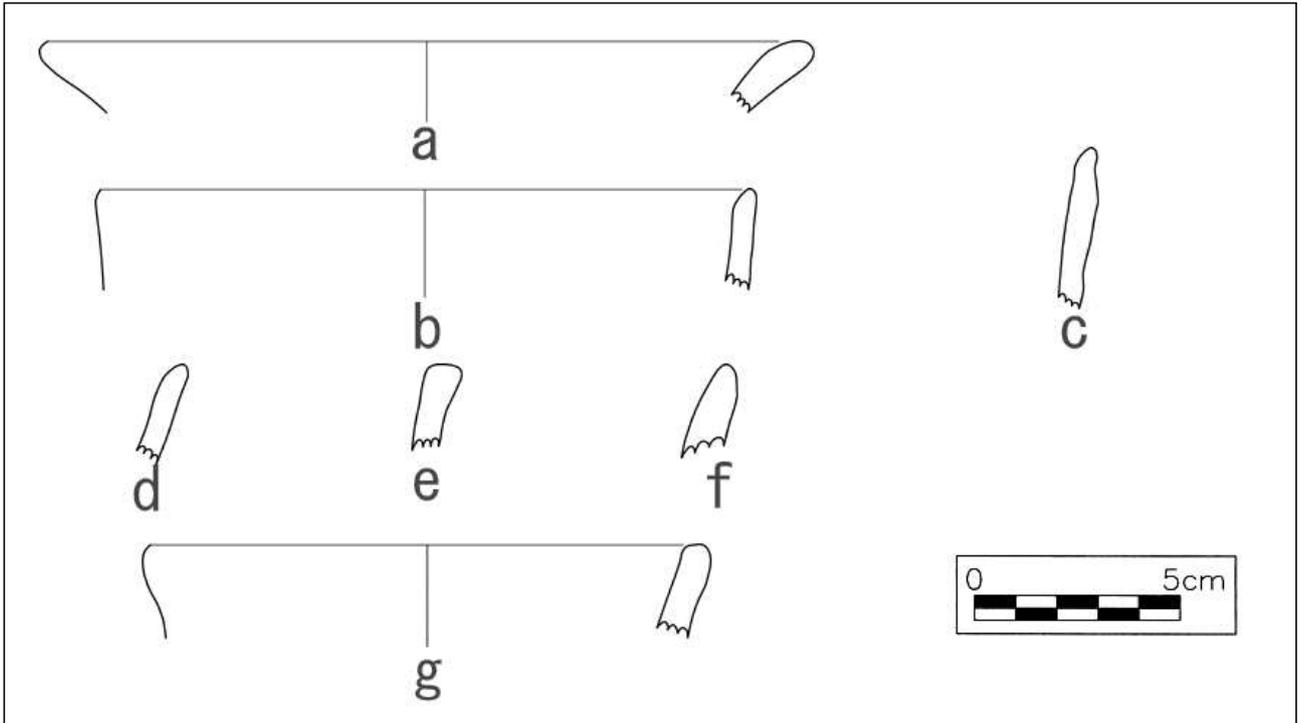


図 4-3-(5)-8 : 建造物 1 (T3) 出土の碗(Flaring Bowl)

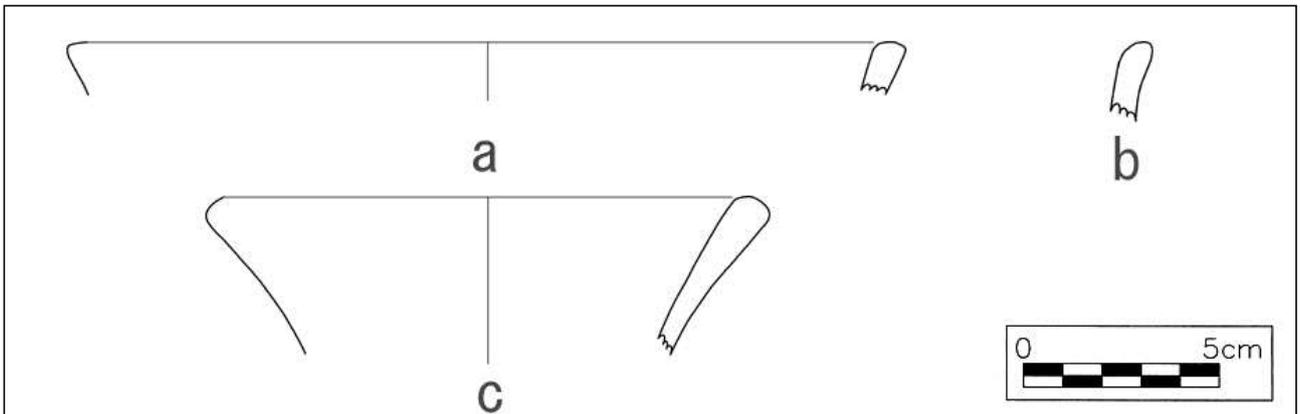


図 4-3-(5)-9 : a-b 建造物 1 (T3) 出土の碗(Flaring Bowl)、
c 建造物 4 (T2) 出土の碗(Flaring Bowl)

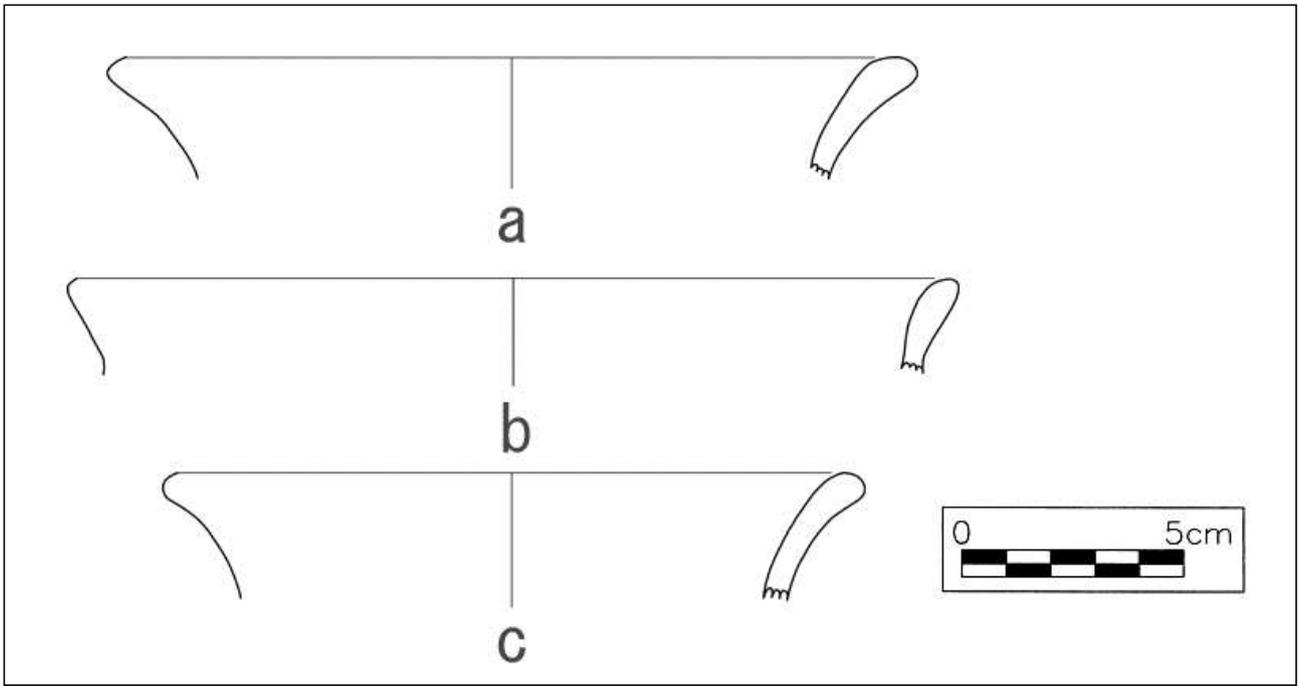


図 4-3-(5)-10 : 建造物 1 (T3) 出土の碗 (Outcurving Bowl)

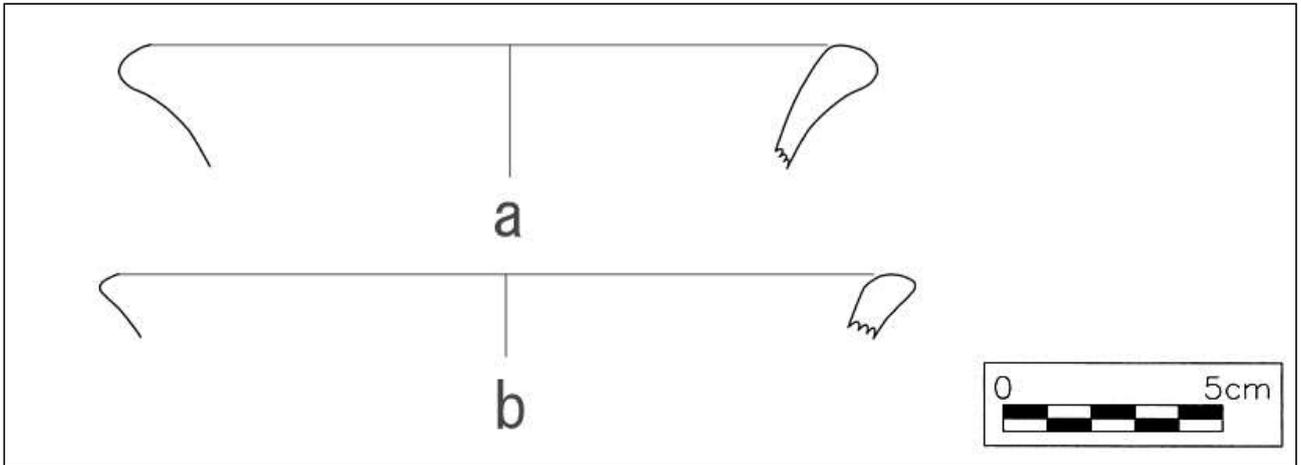


図 4-3-(5)-11 : 建造物 1 (T3) 出土の碗 (Outcurving Bowl)

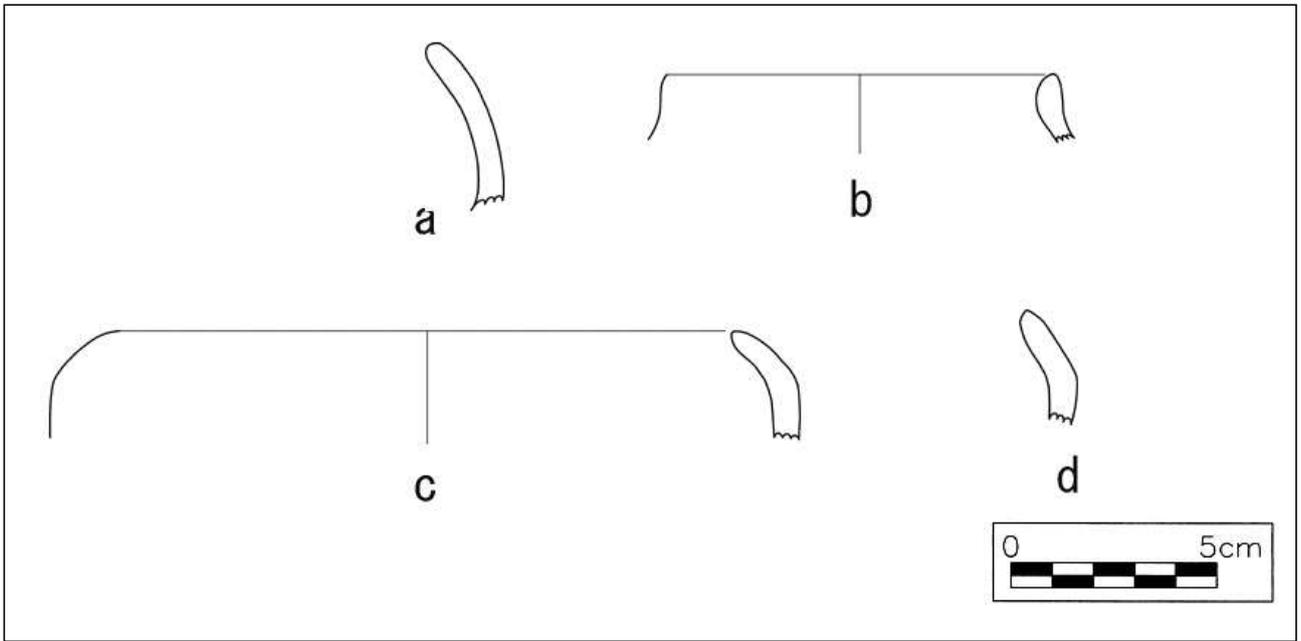


図 4-3-(5)-12 : a-b 建造物 1 (T3) 出土の碗 (Incurved Bowl)、
c-d 56 層 (T1, T4) 出土の碗 (Incurved Bowl)

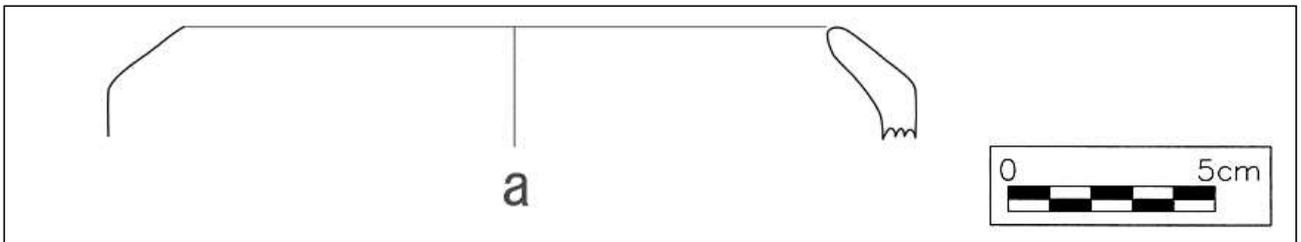


図 4-3-(5)-13 : 建造物 1 (T3) 出土の碗 (Incurved Bowl)

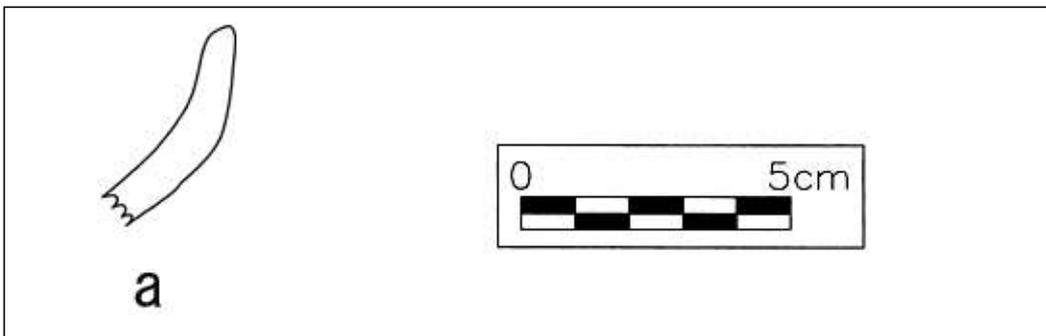


図 4-3-(5)-14 : 建造物 1 (T3) 出土の碗 (Angled Bowl)

(6) 壺(Jar)

個体数 : N=11 (パトラチケ期の Polished Ware の褐色グループ中で 6.7%)

出土地点 :

表 4-3-(6)-1 : 壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
壺 (Jar)	1	9.1%	2	18.2%	7	63.6%	0	0.0%	1	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	100.0%

図版 : 図 4-3-(6)-1~図 4-3-(6)-2

胎土 : 胎土は、黒色グループの壺と同様に、粘土質で肌理が細かく硬い。白の含有物を若干含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある(図 4-3-(6)-1:f)。胎土の色は、褐色系 (7.5YR5/6、7.5YR4/3、7.5YR5/6)、赤褐色系 (5YR5/6、5YR4/4、2.5YR5/8)、黒褐色 (7.5YR3/2) 等である。

表面調整 : 表面仕上げは、口縁部内外面とも良好で研磨される。表面の色は、ほぼ胎土と同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 口径 34.2cm の大型壺 (図 4-3-(6)-2:a、図 4-3-(6)-1:a-c)、および口径 14.8cm の壺 (図 4-3-(6)-2:b、図 4-3-(6)-1:d-f) がある。



図 4-3-(6)-1 : 建造物 1 (T3) 出土の壺

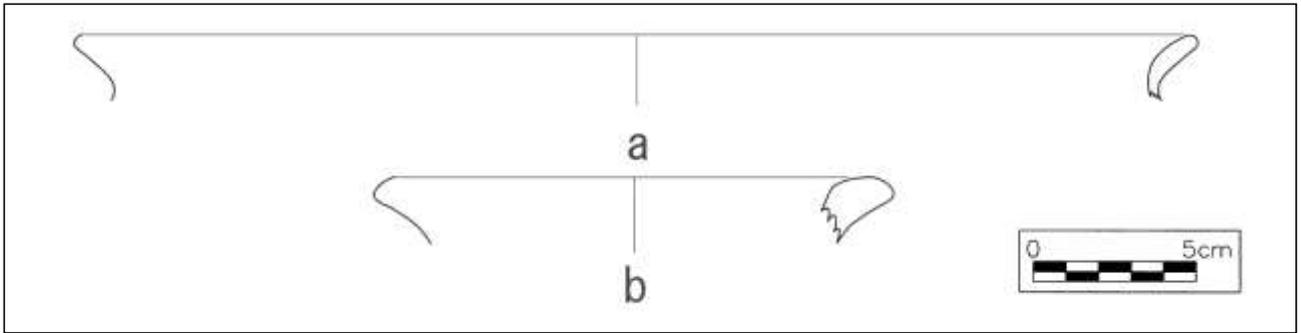


図 4-3-(6)-2 : 建造物 1 (T3) 出土の壺

(7) 皿(Dish)

個体数 : N=3 (パトラチケ期の Polished Ware の褐色グループ中で 1.8%)

出土地点 :

表 4-3-(7)-1 : 皿の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計			
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%		
皿 (Dish)	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	2	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%

図版 : 図 4-3-(7)-1~図 4-3-(7)-2

胎土 : 胎土は、黒色グループの皿と同様に、粘土質で肌理が細かく硬い。白の含有物を含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR7/4、7.5YR6/4)、褐色系 (7.5YR4/3、) である。

表面調整 : 表面仕上げは、口縁部内外面とも良好で研磨される。表面の色は、胎土と同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 口径 9.8cm の皿が見られる (図 4-3-(7)-2、図 4-3-(7)-1:a-c)



図 4-3-(7)-1 : 建造物 2 (T1) 出土の皿

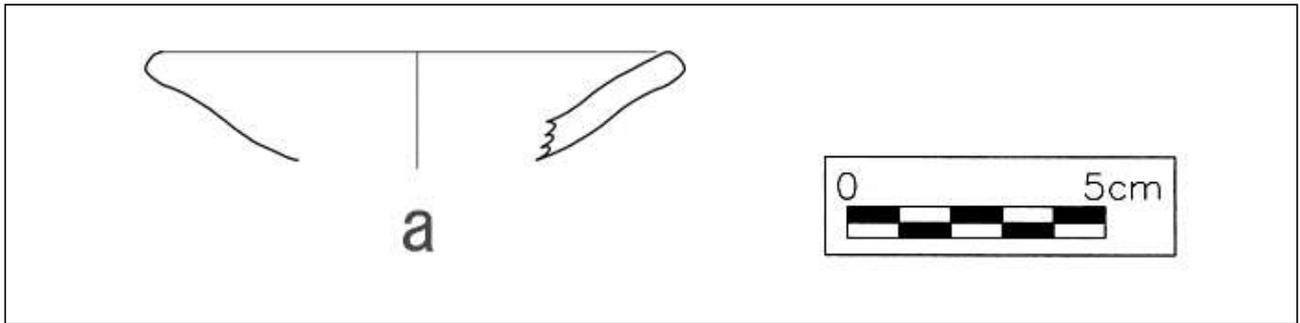


図 4-3-(7)-2 : 建造物 2 (T1) 出土の皿

(8) テコマテ(Tecomate)

個体数 : N=15 (パトラチケ期の Polished Ware の褐色グループ中で 9.2%)

出土地点 :

表 4-3-(8)-1 : テコマテの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
テコマテ (tecomate)	1	6.7%	1	6.7%	11	73.3%	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	15	100.0%

図版 : 図 4-3-(8)-1~図 4-3-(8)-4

胎土 : 胎土は、黒色グループのテコマテと同様に、やや粗く比較的多くの含有物を含む。胎土の色は、オレンジ系(7.5YR6/6、7.5YR6/4、5YR6/8、5YR6/6)、褐色系(7.5YR5/4,) 赤褐色系(5YR4/6、2.5YR4/8) 等である。

表面調整 : 表面仕上げは、やや粗いものも見られるが、口縁部の内外面とも良好で研磨される。表面の色は、内外面とも胎土と同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 口径 10.4cm で、口縁部がやや立ち上がるテコマテが見られる (図 4-3-(8)-4)。



図 4-3-(8)-1 : 建造物 1 (T3) 出土のテコマテ

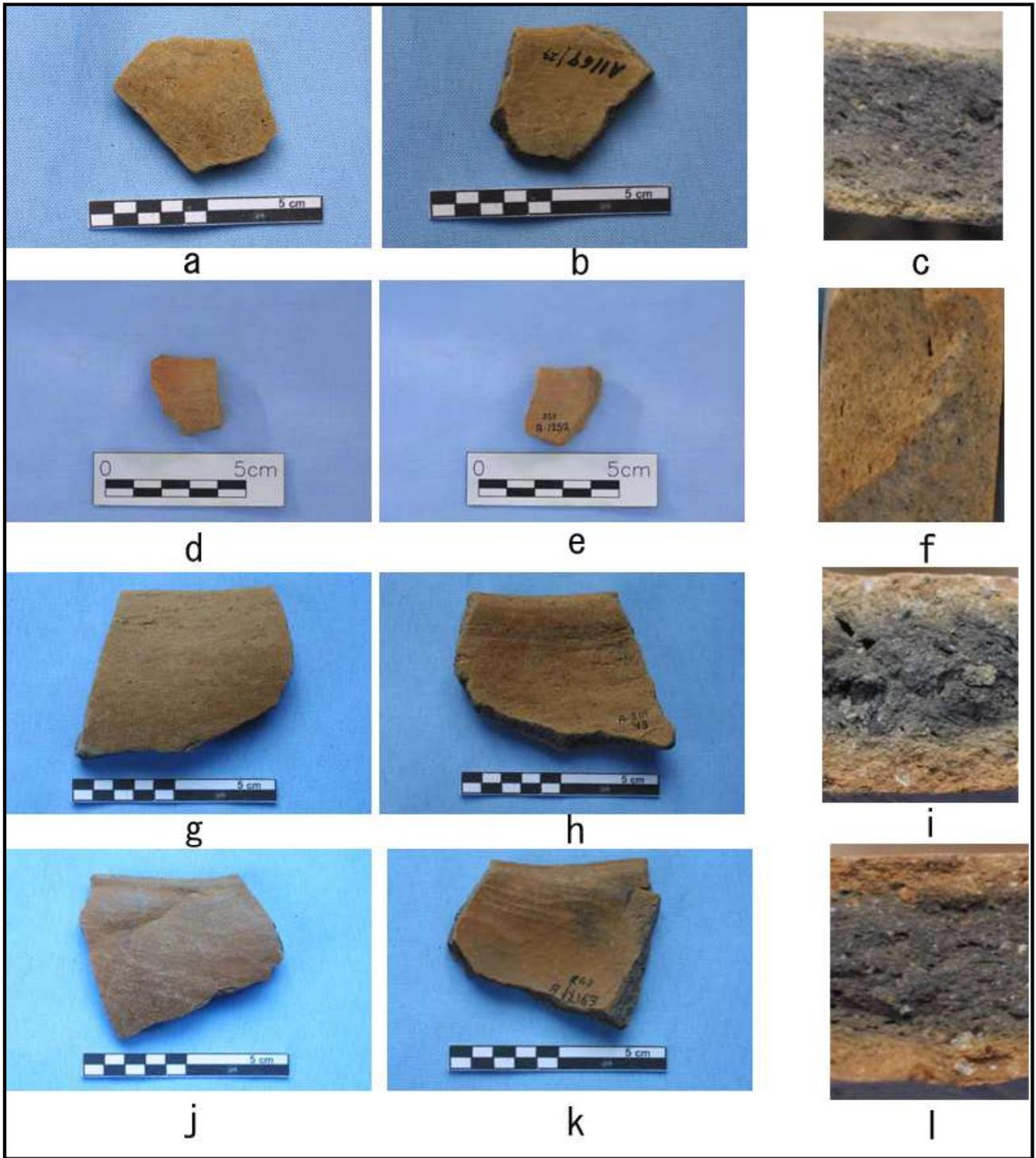


図 4-3-(8)-2 : 建造物 2 (T1、T4) 出土のテコマテ

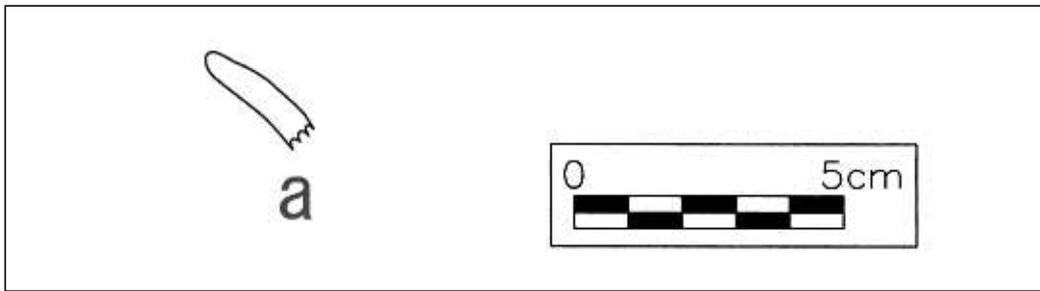


図 4-3-(8)-3 : 建造物 1 (T3) 出土のテコマテ

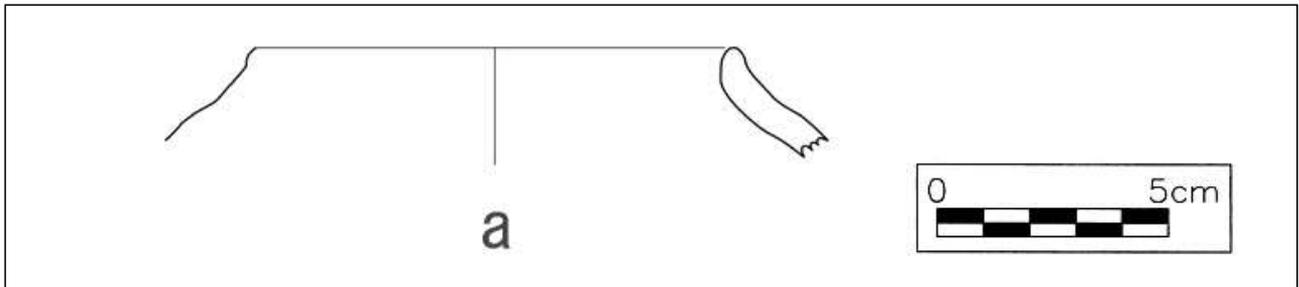


図 4-3-(8)-4 : 56 層 (T1) 出土のテコマテ

(9) 円筒形壺(Vase)

個体数 : N=3 (パトラチケ期の Polished Ware の褐色グループ中で 1.8%)

出土地点 :

表 4-3-(9)-1 : 円筒形壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計			
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%		
円筒形壺 (Vase)	1	33.3%	0	0.0%	2	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%

図版 : 図 4-3-(9)-1 ~ 図 4-3-(9)-3

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬く、良質である。白や黒の細かい含有物を若干含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある(図 4-3-(9)-1)。

胎土の色は、褐色(7.5YR5/6)、灰褐色(7.5YR5/2)、赤褐色(5YR5/6、)等である。

表面調整 : 表面仕上げは、表面がやや粗いものも見られるが、口縁部の内外面とも良く研磨される。表面の色は、内外面とも胎土とほぼ同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 口径 26.4cm で、口縁部がやや外反する円筒形壺ある(図 4-3-(9)-3)。

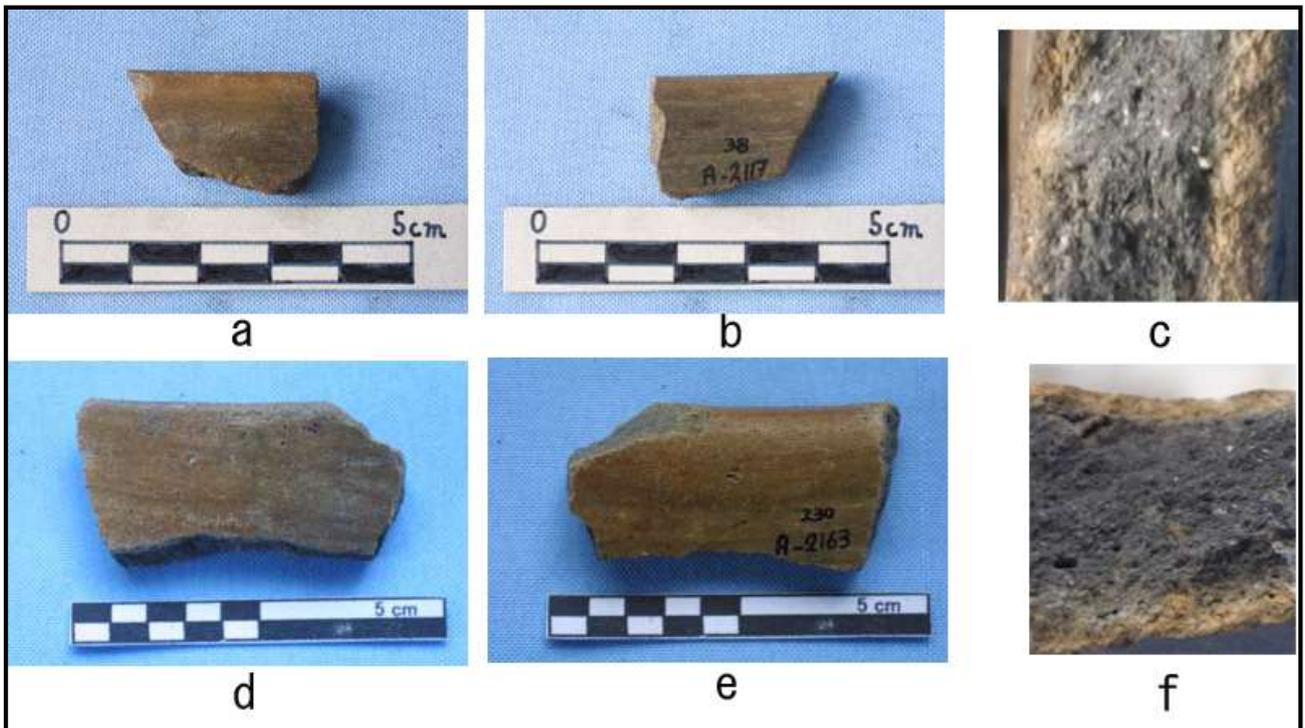


図 4-3-(9)-1 : a-c 56層 (T4) 出土の円筒形壺、d-f 建造物 2 (T4) 出土の円筒形壺



図 4-3-(9)-2 : 建造物 2 (T1) 出土の円筒形壺

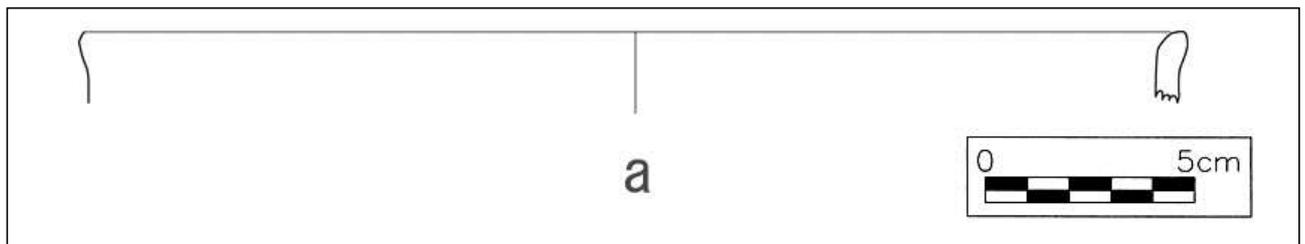


図 4-3-(9)-3 : 56層 (T4) 出土の円筒形壺

(10) ベーズン(Basin)

個体数 : N=4 (パトラチケ期の Polished Ware の褐色グループ中で 2.5%)

出土地点 :

表 4-3-(10)-1 : ベーズンの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
ベーズン (Basin)	1	25.0%	0	0.0%	2	50.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%

図版 : 図 4-3-(10)-1~図 4-3-(10)-2

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬く、良質である。白や黒の細かい含有物もあま見られない。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/4、10YR7/8)、褐色 (7.5YR4/3)、赤褐色 (5YR5/6)、等である。

表面調整 : 表面仕上げは、口縁部の内外面とも良好で研磨される。表面の色は、内外面とも胎土とほぼ同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 口径 27.4cm で、口縁部がやや外反するベーズンがある (図 4-3-(10)-1)。

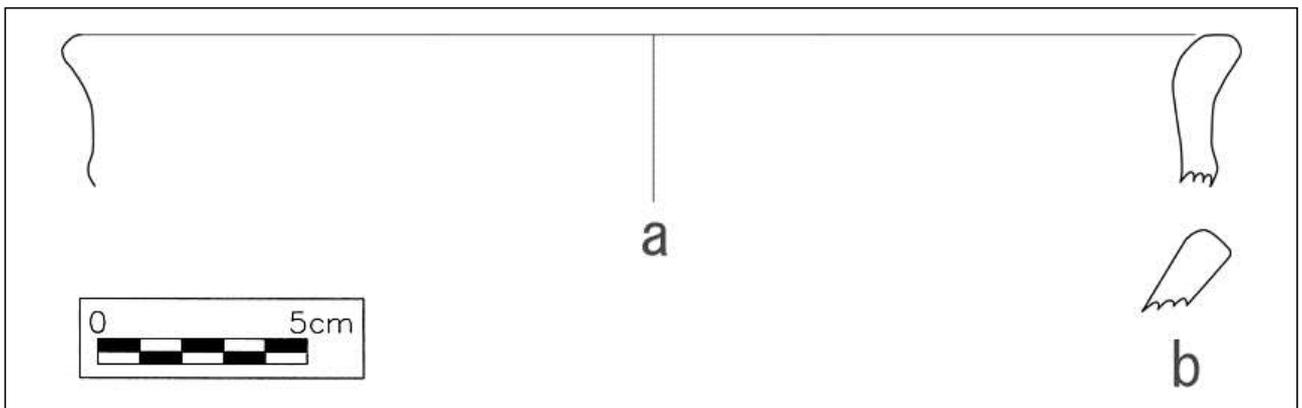


図 4-3-(10)-1 : a 建造物 2 (T1) 出土のベーズン、b 56層 (T4) 出土のベーズン

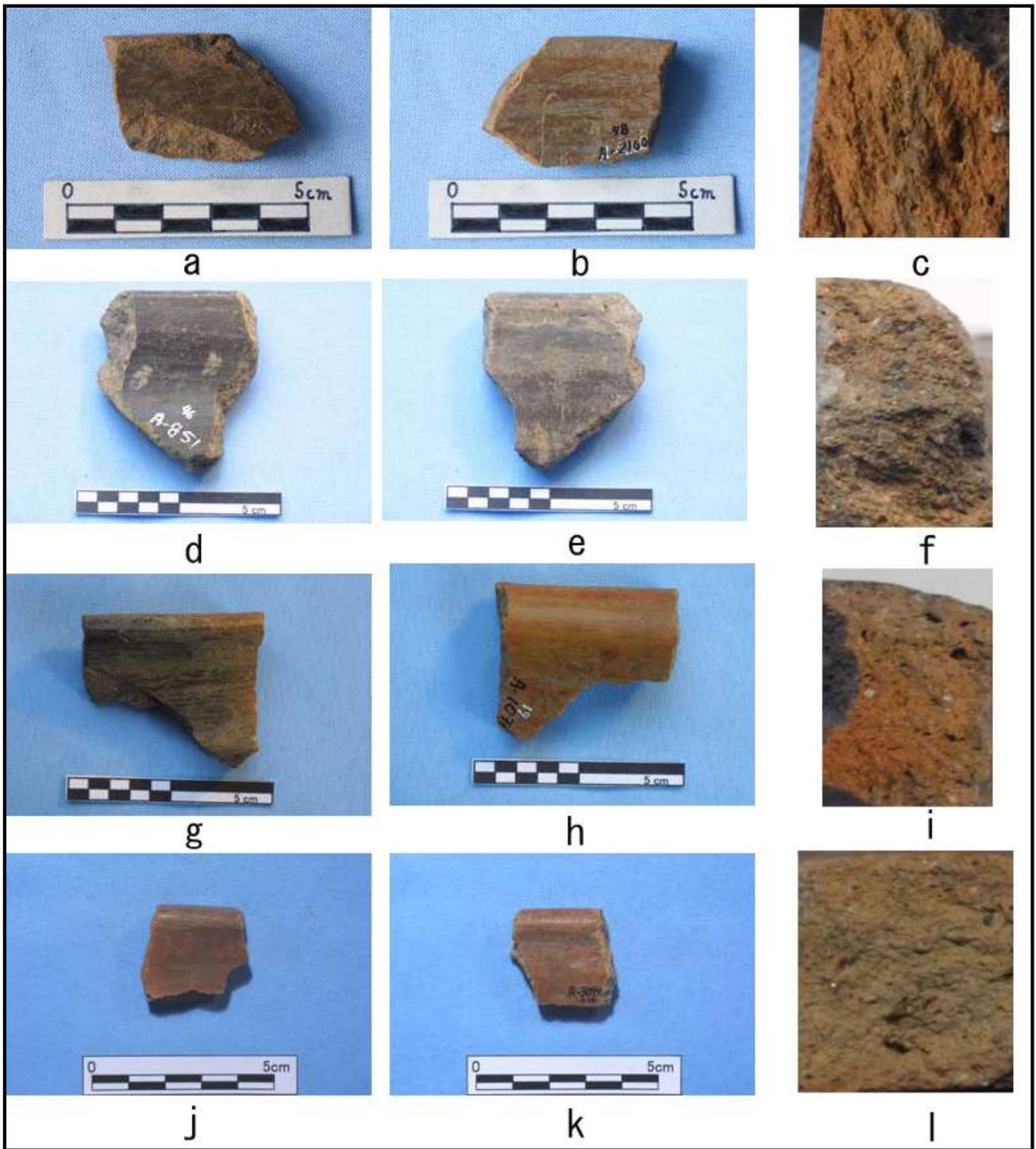


図 4-3-(10)-2 : a-c 56 層 (T4) 出土のベースン、d-i 建造物 2 (T1) 出土のベースン
j-l 建造物 4 (T2) 出土のベースン

(11) まとめ

表 4-3-(11)-1 : Polished Ware 黒色グループにおける出土地別器種構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	13	100.0%	29	69.0%	36	87.8%	0	0.0%	5	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	84	82.4%
壺 (Jar)	0	0.0%	9	21.4%	2	4.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	10.8%
皿 (Dish)	0	0.0%	3	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.9%
テコマテ (Tecomate)	0	0.0%	1	2.4%	3	7.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	3.9%
合計	13	100.0%	42	100.0%	41	100.0%	0	0.0%	5	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	102	100.0%

表 4-3-(11)-2 : Polished Ware 褐色グループにおける出土地別器種構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	14	77.8%	42	91.3%	36	61.0%	2	100.0%	29	85.3%	3	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	126	77.3%
壺 (Jar)	1	5.6%	2	4.3%	7	11.9%	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	6.7%
皿 (dish)	0	0.0%	0	0.0%	1	1.7%	0	0.0%	2	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.8%
テコマテ (Tecomate)	1	5.6%	1	2.2%	11	18.6%	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	15	9.2%
円筒形壺 (Vase)	1	5.6%	0	0.0%	2	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.8%
ベースン (Basin)	1	5.6%	0	0.0%	2	3.4%	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.5%
器種不明	0	0.0%	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%
合計	18	100.0%	46	100.0%	59	100.0%	2	100.0%	34	100.0%	3	100.0%	1	100.0%	0	0.0%	163	100.0%

表 4-3-(11)-3: 黒色グループの碗(N=84)の器形 (sub-form) 別構成比

sub-form	N	%
Simple Bowl	29	34.5%
Shoulderd Bowl	7	8.3%
Flaring Bowl	27	32.1%
Outcurving Bowl	7	8.3%
Incurved Bowl	4	4.8%
Angled Bowl	2	2.4%
その他・同定不能	8	9.5%
合計	84	100.0%

表 4-3-(11)-4 : 褐色グループの碗(N=126)の器形 (sub-form) 別構成比

sub-form	N	%
Simple Bowl	43	34.1%
Shoulderd Bowl	12	9.5%
Flaring Bowl	33	26.2%
Outcurving Bowl	17	13.5%
Incurved Bowl	6	4.8%
Angled Bowl	4	3.2%
その他・同定不能	11	8.7%
合計	126	100.0%

4-3-(11)-5：黒色グループの碗における出土地別碗の器形（sub-form）の出土地別出現率

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
Simple Bowl	4	13.8%	9	31.0%	13	44.8%	0	0.0%	2	6.9%	0	0.0%	1	3.4%	0	0.0%	29	100.0%
Shoulderd Bowl	0	0.0%	3	42.9%	4	57.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	100.0%
Flaring Bowl	4	14.8%	6	22.2%	17	63.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	27	100.0%
Outcurving Bowl	2	28.6%	3	42.9%	1	14.3%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	100.0%
Incurved Bowl	1	25.0%	3	75.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%
Angled Bowl	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
その他・同定不能	-																8	-
合計	-																84	-

表：4-3-(11)-6：褐色グループの碗における出土地別碗の器形（sub-form）の出土地別出現率

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
Simple Bowl	3	7.0%	18	41.9%	16	37.2%	1	2.3%	5	11.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	43	100.0%
Shoulderd Bowl	2	16.7%	3	25.0%	3	25.0%	0	0.0%	3	25.0%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	12	100.0%
Flaring Bowl	3	9.1%	10	30.3%	12	36.4%	1	3.0%	7	21.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	33	100.0%
Outcurving Bowl	3	17.6%	5	29.4%	2	11.8%	0	0.0%	6	35.3%	1	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	17	100.0%
Incurved Bowl	2	33.3%	3	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	100.0%
Angled Bowl	1	25.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%
その他・同定不能	-																11	-
合計	-																126	-

<Polished Ware を構成する各グループの器種構成>

黒色グループの機種別構成比は、碗 82.4%、壺 10.8%、皿 2.9%、テコマテ 3.9%であり、建造物1、建造物2からの出土が多い（表4-3-(11)-1）。

一方、褐色グループでは、碗 77.3%、壺 6.7%、皿 1.8%、テコマテ 9.2%、円筒形壺 1.8%、ベーズン 2.5%となり、建造物1、建造物2、建造物4からの出土数が多い（表4-3-(11)-2）。また、器種別では両グループとも碗が多く出土していることがわかる。

また、碗における器形（sub-form）の構成を見ると、どちらのグループでも Simple Bowl の出土率が大きく、次に Flaring Bowl や Outcurving Bowl が続く（表4-3-(11)-3、表4-3-(11)-4）。

<パトラチケ期の Polished Ware の胎土、表面調整の特徴>

両グループにおける胎土の特徴をまとめると、粘土質で硬い胎土で含有物を若干含む。これらの特徴は、サクワリ期とは大きく異なる。また、表面調整はやや雑であり、光沢も少ない。

4-4 Painted Ware (個体数 N=385、パトラケ期全体の中で 34.2%)

表面の色調により、①Mochrome Red グループと、②Red on Natural グループ、③Polychrome グループ、④Negative グループに分けられる。

< Mochrome Red グループ(N=89)>

(1) 碗(Bowl)

個体数 : N=73 (パトラケ期の Painted Ware の Monochrome Red グループ中で 82.0%)

出土地点 :

表 4-4-(1)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他 ¹		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	6	8.2%	6	8.2%	26	35.6%	0	0.0%	19	26.0%	1	1.4%	13	17.8%	0	0.0%	2	2.7%	73	100.0%

注1: 墳墓6の埋土 (relleno)

図版 : 図 4-4-(1)-1~図 4-4-(1)-10

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。Polished Ware と同じである。白や黒の細かい含有物を若干含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある (図 4-4-(1)-1:c, f, i)。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR7/4, 7.5YR6/6, 7.5YR6/4, 5YR6/8, 5YR6/6)、褐色系 (7.5YR5/6, 7.5YR5/4, 7.5YR4/3)、赤褐色系 (5YR5/8, 5YR5/4, 2.5YR5/8)、灰褐色 (7.5YR6/2)、黒褐色 (7.5YR3/1)、黒色 (7.5YR2/1) 等多様である。

表面調整 : 表面仕上げは、内外面とも良好で研磨される。表面の色は、赤色のペイント (10R4/8) 以外は、胎土と同じである。

装飾 : 赤色ペイントが外面ならびに口縁部内側に施される。また、赤色ペイントの上から沈線が描かれることもある (図 4-4-(1)-2)。

器形 : ①Simple Bowl (図 4-4-(1)-3, 図 4-4-(1)-4) : 口径が 15.1cm~22.0cm の半球形の碗で口唇部は丸か平らである。②Flaring Bowl (図 4-4-(1)-5, 図 4-4-(1)-6) : 口径が 13.8cm~23.2cm で胴部が外傾し、口唇部は丸形である。③Outcurving Bowl (図 4-4-(1)-7) : 口径が 15.8cm~24.8cm で、胴部が外反すし、口唇部は丸形である。④Incurved Bowl (図 4-4-(1)-8, 図 4-4-(1)-9) : 口径が 10.3cm~22.4cm の胴部が内湾する。⑤口縁部が立ち上がる Angled Bowl (図 4-4-(1)-10) なども見られる。

表 4-4-(1)-2 : 碗の口径

実測図	口径(cm)	写真	出土地	個体番号
<Simple Bowl>				
図 4-4-(1)-3, a	15.1	図 4-4-(1)-1, d-f	建造物1(T3)	A--1692-23
図 4-4-(1)-4, c	22.0	-	56層(T1)	A-1155-3
図 4-4-(1)-4, d	19.2	-	建造物1(T3)	A-1589-101
<Flaring Bowl>				
図 4-4-(1)-6, a	13.8	-	建造物2(T1)	A-740-23
図 4-4-(1)-6, c	23.2	-	56層(T1)	A-1204-325
<Outcurving Bowl>				
図 4-4-(1)-7, a	16.2	-	建造物2(T1)	A-936-43
図 4-4-(1)-7, b	22.8	-	建造物2(T1)	A-1149-161
図 4-4-(1)-7, c	15.8	-	建造物2(T1)	A-1149-162
図 4-4-(1)-7, d	24.8	-	56層(T1)	A-1049-11
<Incurved Bowl>				
図 4-4-(1)-8, a	22.4	-	建造物1(T3)	A-1549-60
図 4-4-(1)-8, b	16.8	-	建造物1(T3)	A-1983-23
図 4-4-(1)-9, a	10.3	-	56層(T1)	A-1155-123

口径が 15.8cm~24.8cm で、胴部が外反すし、口唇部は丸形である。④Incurved Bowl (図 4-4-(1)-8, 図 4-4-(1)-9) : 口径が 10.3cm~22.4cm の胴部が内湾する。⑤口縁部が立ち上がる Angled Bowl (図 4-4-(1)-10) なども見られる。

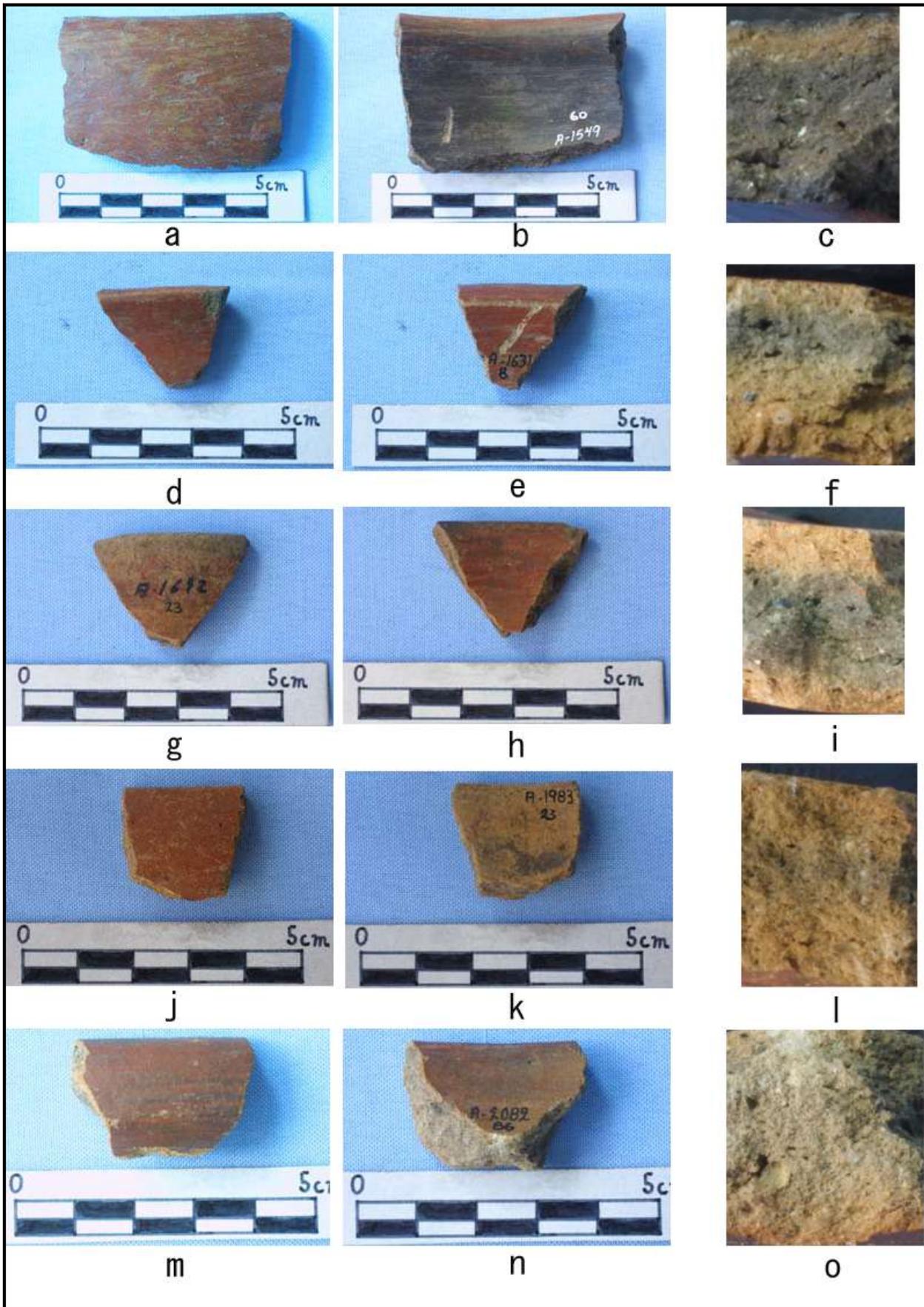


図 4-4-(1)-1 : 建造物 1 (T1) 出土の碗



図 4-4-(1)-2 : a-b 56層 (T1) 出土の碗の文様、c-d 建造物 4 (T2) 出土の碗の文様
 e 建造物 2 (T4) 出土の碗の文様、f 建造物 5 (T2) 出土の碗の文様

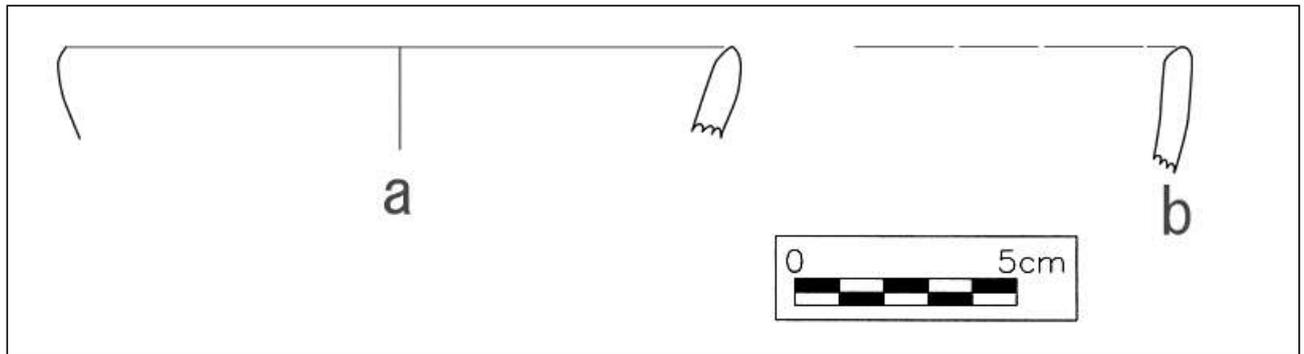


図 4-4-(1)-3 : 建造物 1 (T3) 出土の碗(Simple Bowl)

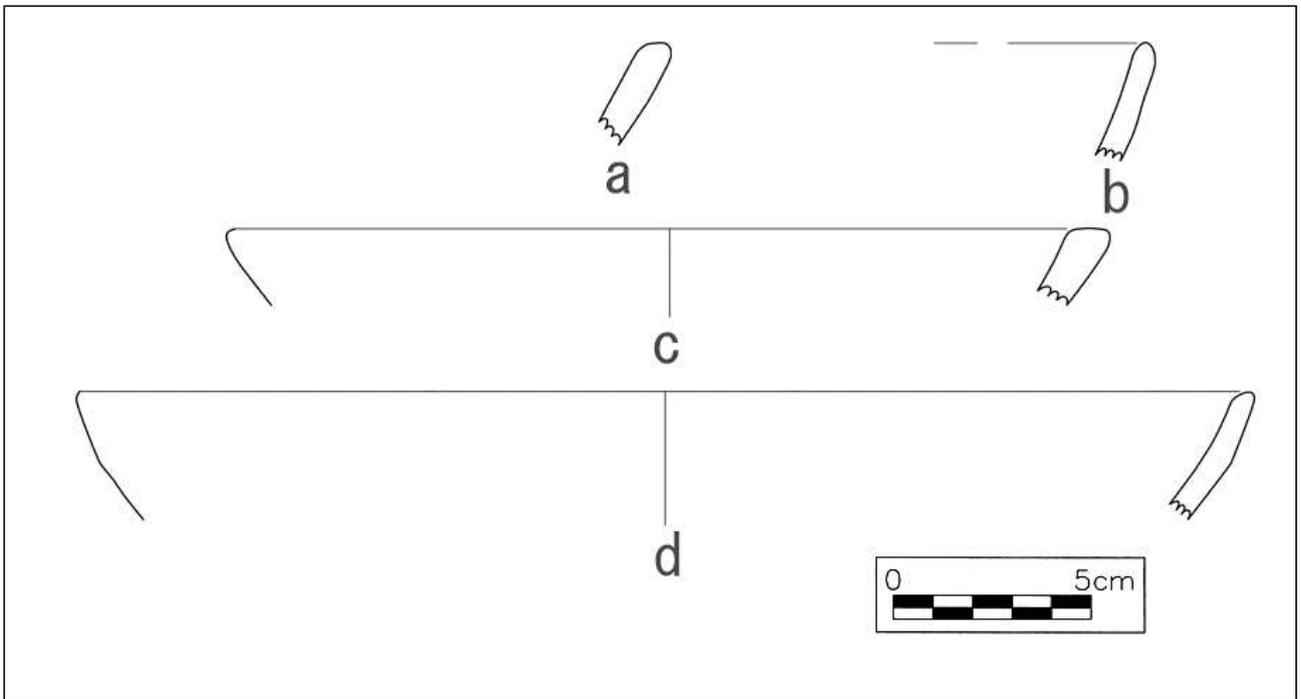


図 4-4-(1)-4: a-c 56層 (T1) 出土の碗 (Simple Bowl)、d 建造物 2 (T1) 出土の碗(Simple Bowl)

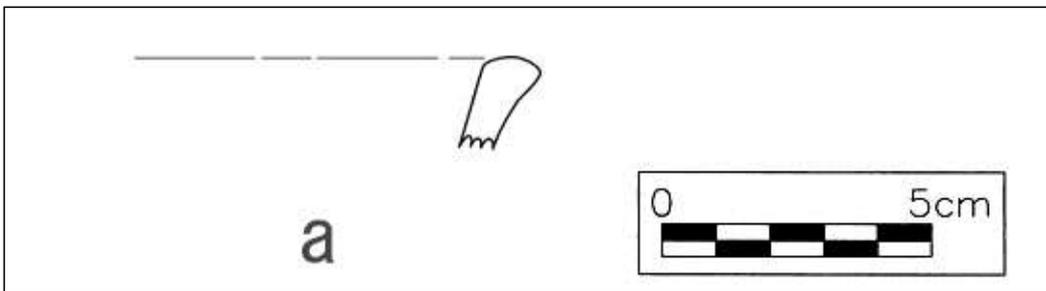


図 4-4-(1)-5 : 建造物 1 (T3) 出土の碗(Flaring Bowl)

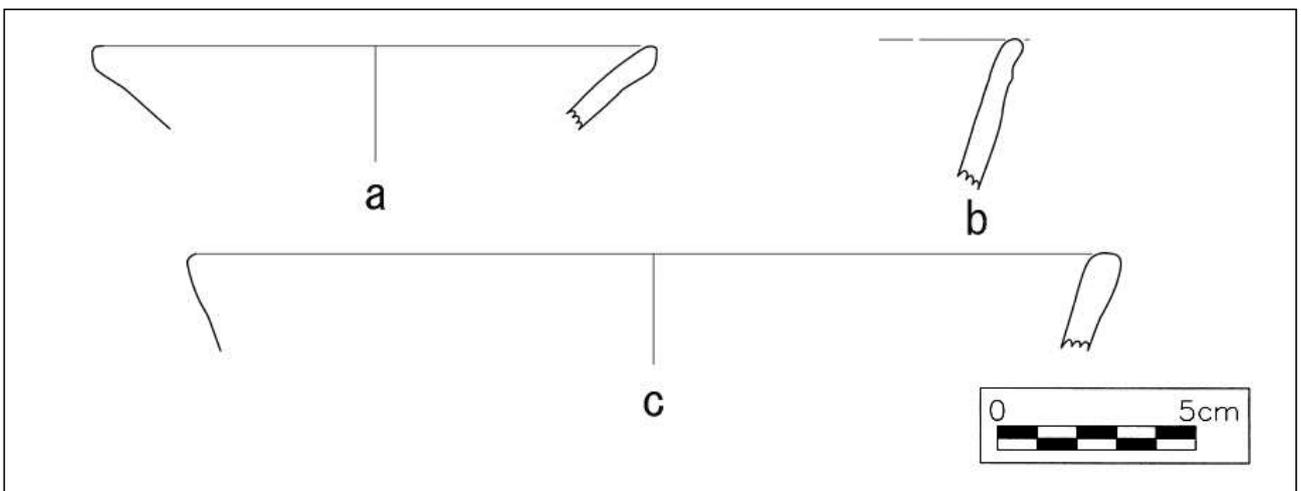


図 4-4-(1)-6: a-b 建造物 2 (T1) 出土の碗(Flaring Bowl)、c 56層 (T1) 出土の碗(Flaring Bowl)

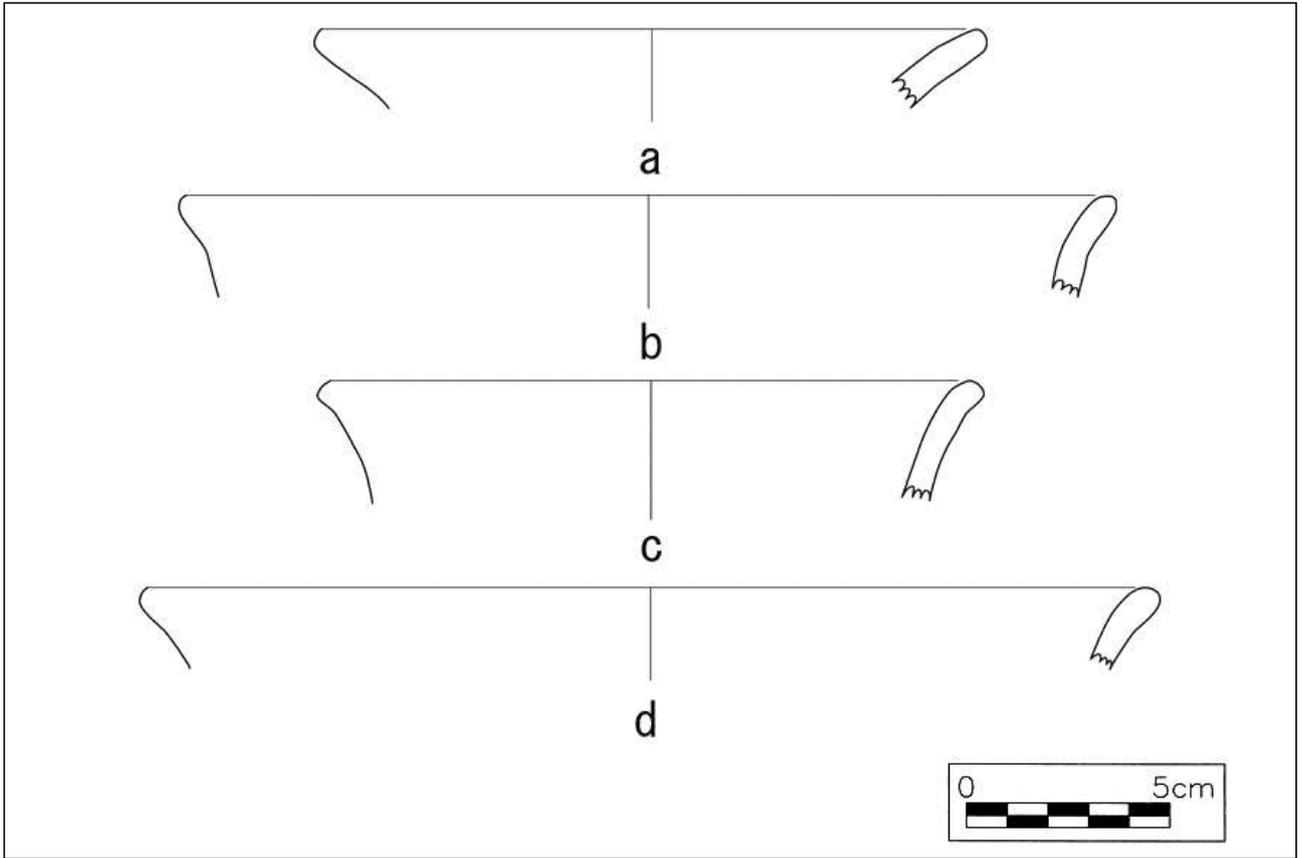


図 4-4-(1)-7 : a-c 建造物 2 (T1) 出土の碗 (Outcurving Bowl) 、
d 56 層 (T1) 出土の碗 (Outcurving Bowl)

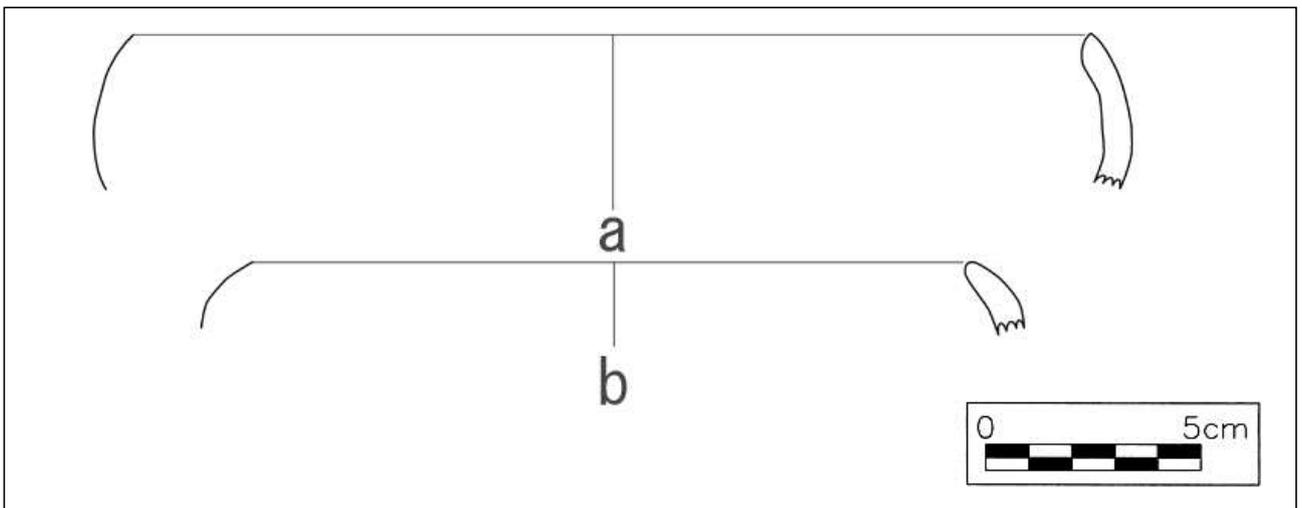


図 4-4-(1)-8 : 建造物 1 (T3) 出土の碗 (Incurved Bowl)

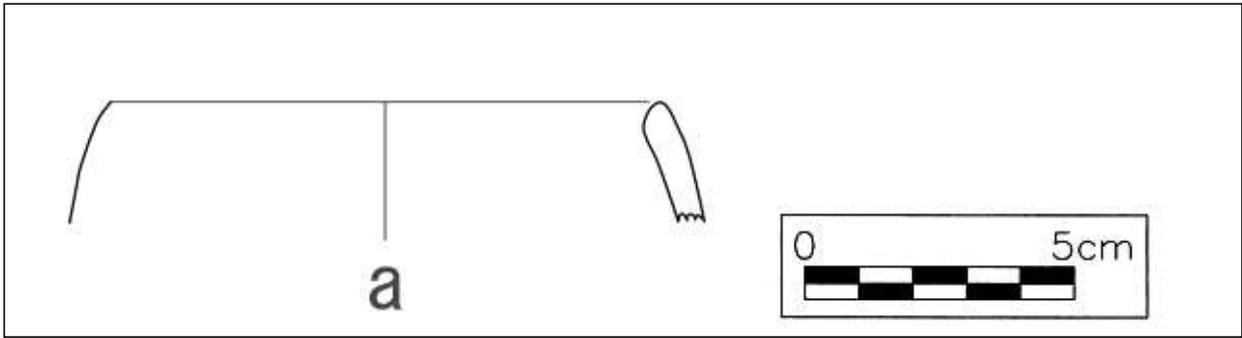


図 4-4-(1)-9 : 56 層 (T1) 出土の碗(Incused Bowl)

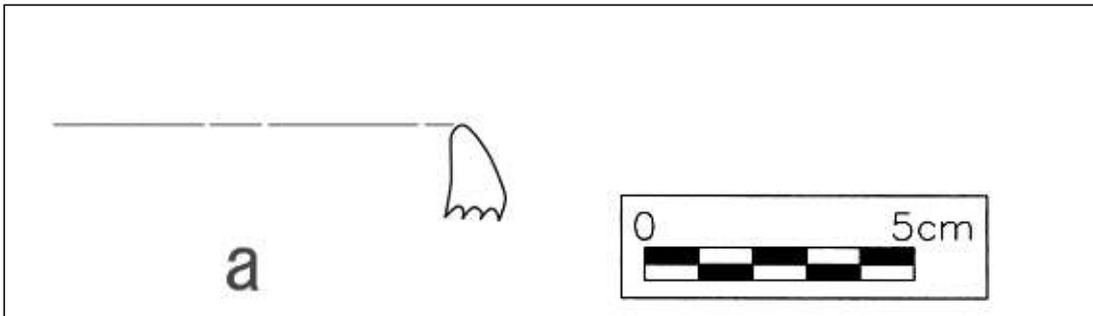


図 4-4-(1)-10 : 建造物 1 (T3) 出土の碗 (Angled Bowl)

(2) 壺(Jar)

個体数 : N=2 (パトラチケ期の Painted Ware の Monochrome Red グループ中で 2.2%)

出土地点 :

表 4-4-(2)-1 : 壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他 ¹		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%

注1: 墳墓6の埋土 (relleno)

図版 : 図 4-4-(2)-1 ~ 図 4-4-(1)-2

胎土 : 胎土は、碗同様に粘土質で肌理が細かく硬い。白や黒の細かい含有物を若干含む。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/6、7.5YR6/4)、褐色系 (7.5YR5/4、7.5YR5/6) が見られる。

表面調整 : 表面仕上げは、内外面とも良好で研磨される。表面の色は、赤色のペイント (10R4/8) 以外は、胎土と同じである。

装飾 : 赤色のペイント (10R4/8) が外面ならびに口縁部内側に塗られる。

器形 : 頸部が外反する壺である。



表 4-4-(2)-1 : 建造物 1 (T1) 出土の壺 (胴部破片)

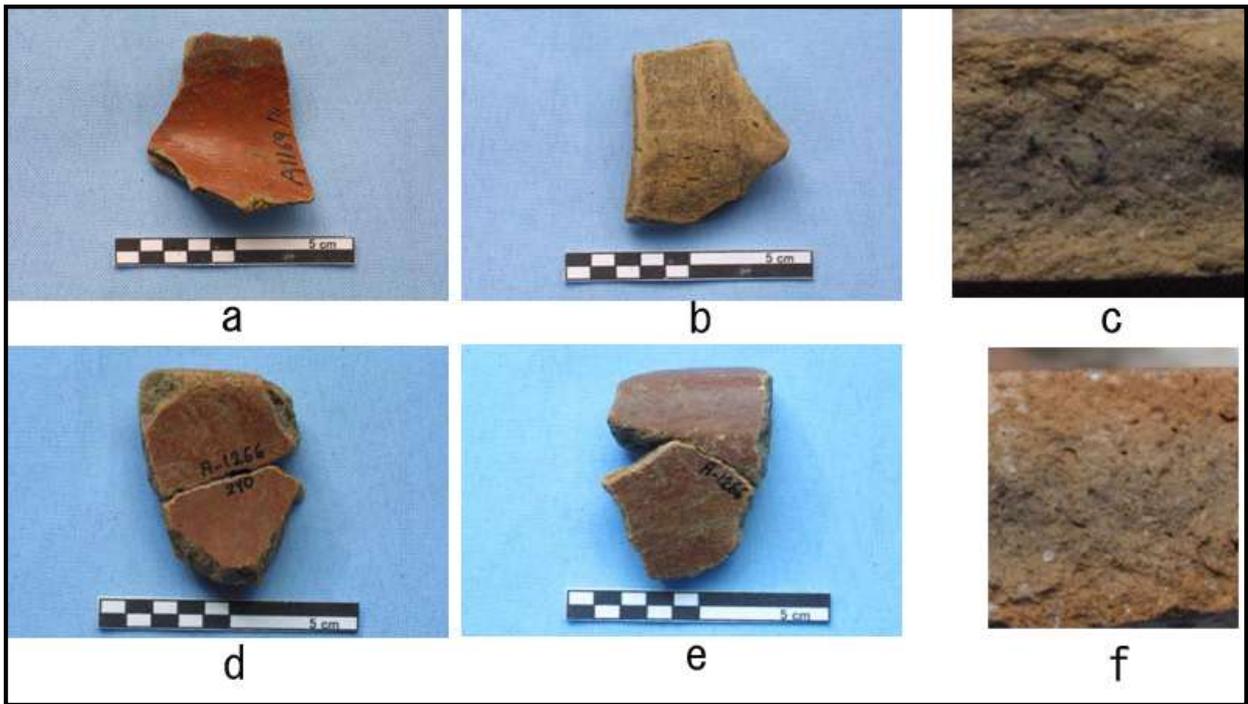


表 4-4-(2)-2 : 建造物 2 (T1) 出土の壺 (a~c:胴部破片、d~f:口縁部破片)

(3) 円筒形壺(Vase)

個体数 : N=12 (パトラチケ期の Painted Ware の Monochrome Red グループ中で 13.5%)

出土地点 :

表 4-4-(3)-1 : 円筒形壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他 ¹		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	2	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	7	58.3%	2	16.7%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	12	100.0%

注1: 墳墓6の埋土 (relleno)

図版 : 図 4-4-(3)-1~図 4-4-(3)-4

胎土 : 胎土は、他の Monochrome Red グループと同様に粘土質で肌理が細かく硬い。白や黒の細かい含有物を若干含む。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/4、5YR6/4、

2.5YR6/8)、赤褐色系 (7.5YR5/4、5YR5/6、2.5YR5/8) が見られる。

表面調整：表面仕上げは、内外面とも良好で研磨される。表面の色は、赤色のペイント (10R4/8) 以外は、胎土と同じである。

装飾：赤色のペイントが外面ならびに口縁部内側に塗られる。

器形：一般的には、胴部が直立す円筒形壺であるが (図 4-4-(3)-2)、口径 15.9cm で胴部が外傾し、口縁部が外側に肥厚するものも見られる (図 4-4-(3)-3)。

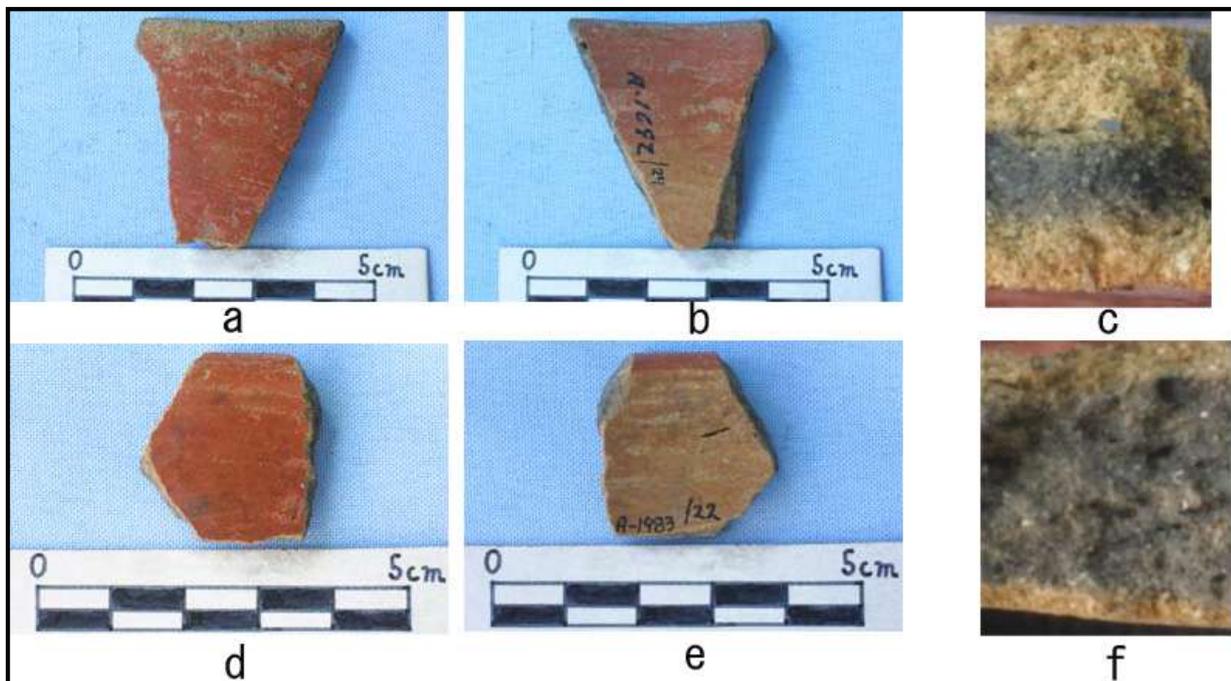


図 4-4-(3)-1：建造物 1 (T3) 出土の円筒形壺

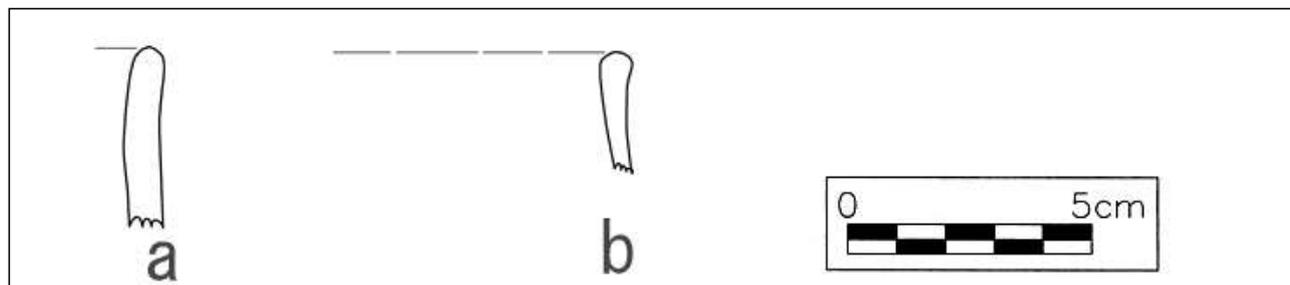


図 4-4-(3)-2：建造物 1 (T3) 出土の円筒形壺

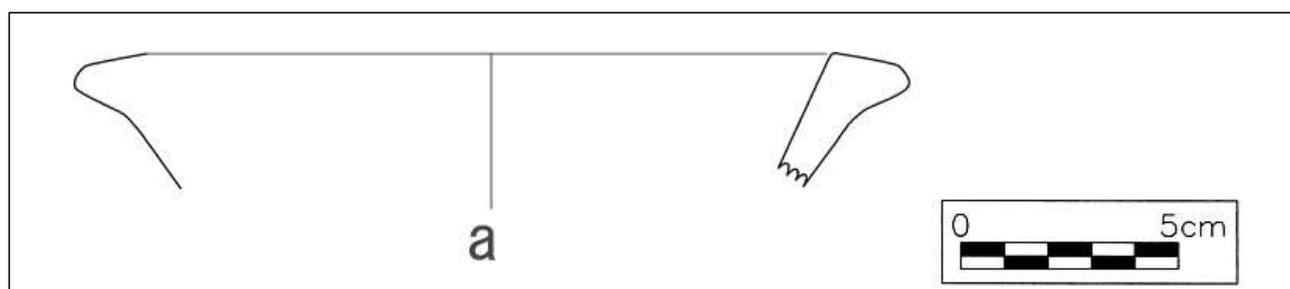


図 4-4-(3)-3：建造物 4 (T2) 出土の円筒形壺

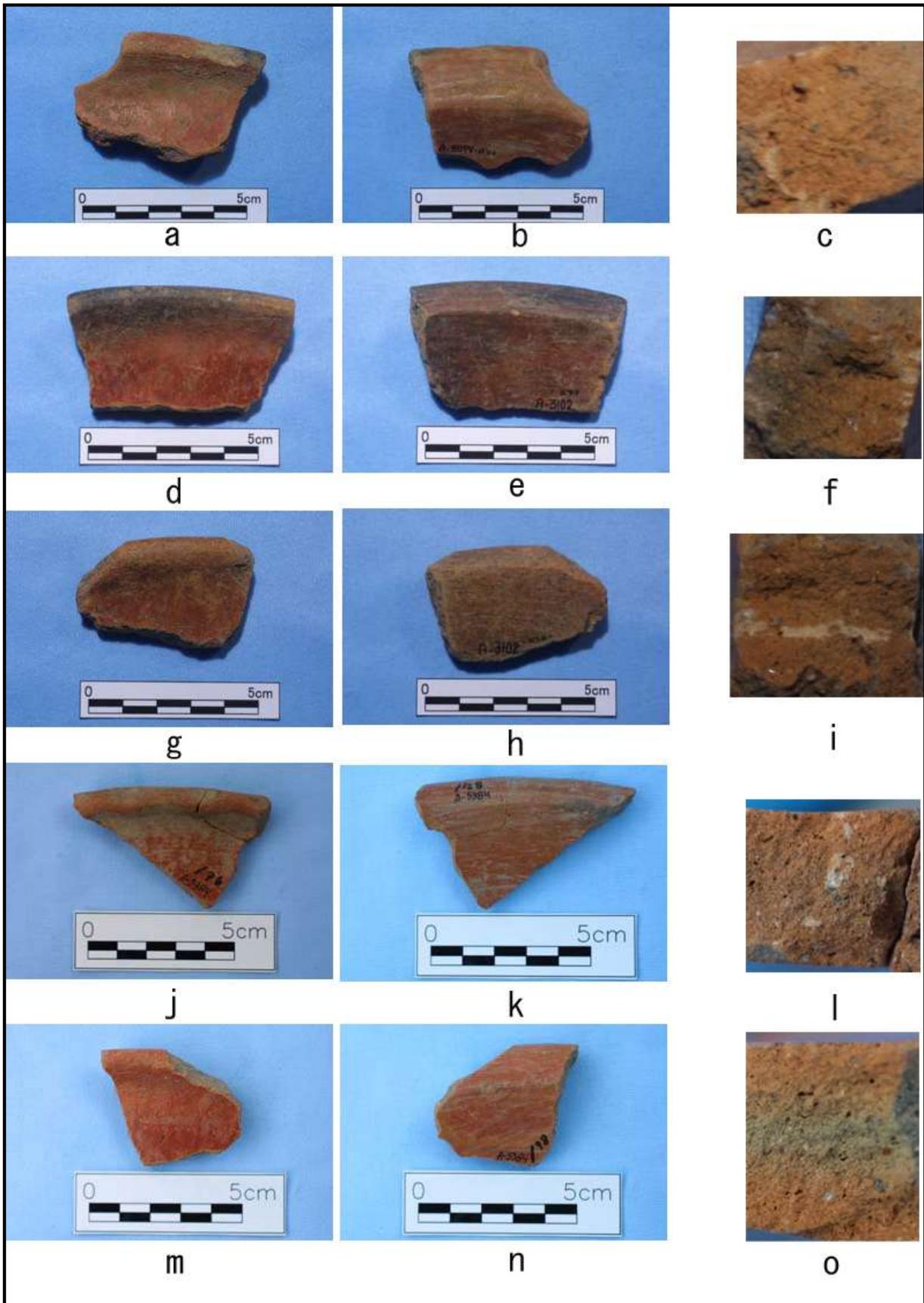


図 4-4-(3)-4 : a-i 建造物 4 (T2) 出土の円筒形壺、j-o 建造物 5 (T2) 出土の円筒形壺

<Red on Natural グループ(N=199)>

(4) 碗(Bowl)

個体数 : N=184 (パトラチケ期の Painted Ware の Red on Natural グループ中で 92.5%)

出土地点 :

表 4-4-(4)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他 ¹		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	18	9.8%	29	15.8%	85	46.2%	1	0.5%	26	14.1%	5	2.7%	18	9.8%	0	0.0%	2	1.1%	184	100.0%

注1: 墳墓6の埋土 (relleno)

図版 : 図 4-4-(4)-1~図 4-4-(4)-11

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。Monochrome Red グループと同じである。白や黒の細かい含有物を若干含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある (図 4-4-(4)-1:f, 等)。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/6、7.5YR6/4、5YR6/8、5YR6/6)、5YR6/4、褐色系 (7.5YR5/6)、赤褐色系 (5YR5/8、5YR5/4、5YR5/6、5YR5/4、2.5YR5/8)、灰褐色 (7.5YR5/2、7.5YR4/1)、黒褐色 (5YR2/1)、黒色 (7.5YR2/1) 等多様である。

表面調整 : 表面仕上げは、内外面とも良好で研磨される。表面の色は、赤色のペイント (10R4/8) 以外は、胎土と同じである。

装飾 : 口縁部や胴部に赤色ペイントが施される。また、赤色ペイントの後に沈線で文様が描かれることもある (図 4-4-(4)-3)。

器形 : ①Simple Bowl (図 4-4-(4)-4) : 口径が 18.1cm~38.2cm で胴部が緩やかに内湾する碗、②Shouldered Bowl (図 4-4-(4)-5) : 口径が 14.4cm~23.4cm で口縁部がやや外反する碗、③Angled Bowl (図 4-4-(4)-6、図 4-4-(4)-7) : 口径が、16.5cm~

24.4cm で口縁部が立ち上がる碗、④Flaring Bowl (図 4-4-(4)-8、図 4-4-(4)-9) : 口径が、12.2cm~20.2cm で胴部が外傾する碗、⑤Outcurving Bowl (図 4-4-(4)-10) : 口径は不明であるが、胴部から口縁部にかけて外反する碗。⑥Incurved Bowl (図 4-4-(4)-11) : 口径が 14.2cm~17.8cm で胴部が内湾する碗などが見られる。

表 4-4-(4)-2 : 碗の口径

実測図	口径(cm)	写真	出土地	個体番号
<Simple Bowl>				
図 4-4-(4)-4, a	18.1	-	建造物1 (T3)	A-1589-363
図 4-4-(4)-4, c	38.2	図 4-4-(4)-2, d-f	建造物1 (T3)	A-1631-85
図 4-4-(4)-4, d	28.5	図 4-4-(4)-2, g-i	建造物1 (T3)	A-1631-96
図 4-4-(4)-4, e	18.6	-	建造物1 (T3)	A-1641-60
図 4-4-(4)-4, f	31.3	-	建造物1 (T3)	A-1662-44
図 4-4-(4)-4, h	22.8	-	建造物1 (T3)	A-1692-82
図 4-4-(1)-4, i	21.2	-	建造物1 (T3)	A-1692-85
<Shouldered Bowl>				
図 4-4-(4)-5, a	23.4	-	建造物1 (T3)	A-1963-23
図 4-4-(4)-5, b	14.6	図 4-4-(4)-2, m-o	建造物1 (T3)	A-1983-4
<Angled Bowl>				
図 4-4-(4)-6, a	16.5	-	建造物1 (T3)	A-1589-348
図 4-4-(4)-6, b	24.4	図 4-4-(4)-1, d-f	建造物1 (T3)	A-1630-18
図 4-4-(4)-7, a	25.0	-	建造物2 (T1)	A-1150-42
<Flaring Bowl>				
図 4-4-(4)-8, a	12.2	図 4-4-(4)-2, a-c	建造物1 (T3)	A-1549-74
図 4-4-(4)-8, e	20.2	図 4-4-(4)-1, j-l	建造物1 (T3)	A-1953-15
図 4-4-(4)-9, a	17.2	-	建造物2 (T1)	A-1124-70
<Incurved Bowl>				
図 4-4-(4)-11, a	14.2	-	建造物1 (T3)	A-1631-79
図 4-4-(4)-11, c	17.8	-	建造物1 (T3)	A-1692-84

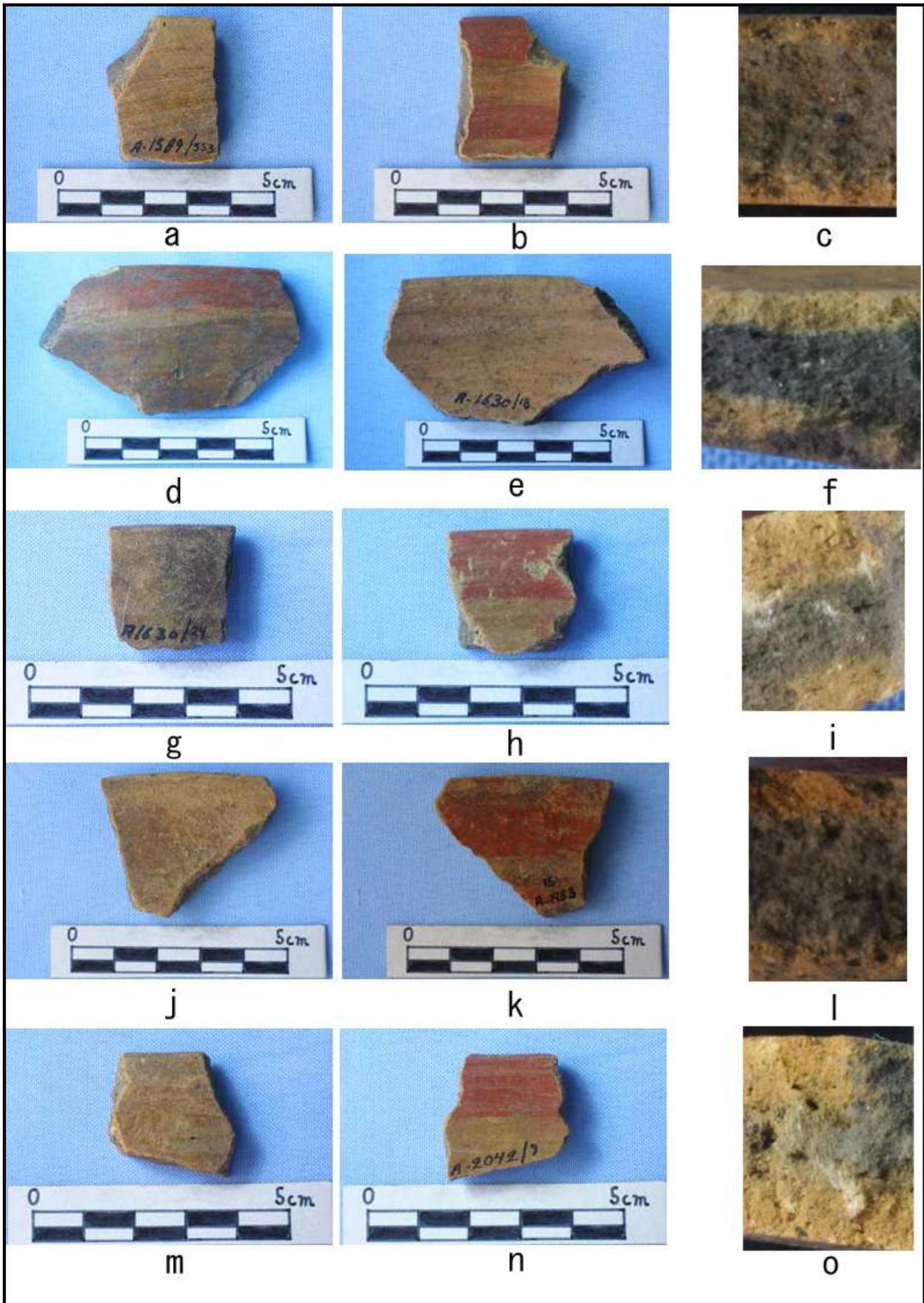


図 4-4-(4)-1 : 建造物 1 (T3) 出土の碗

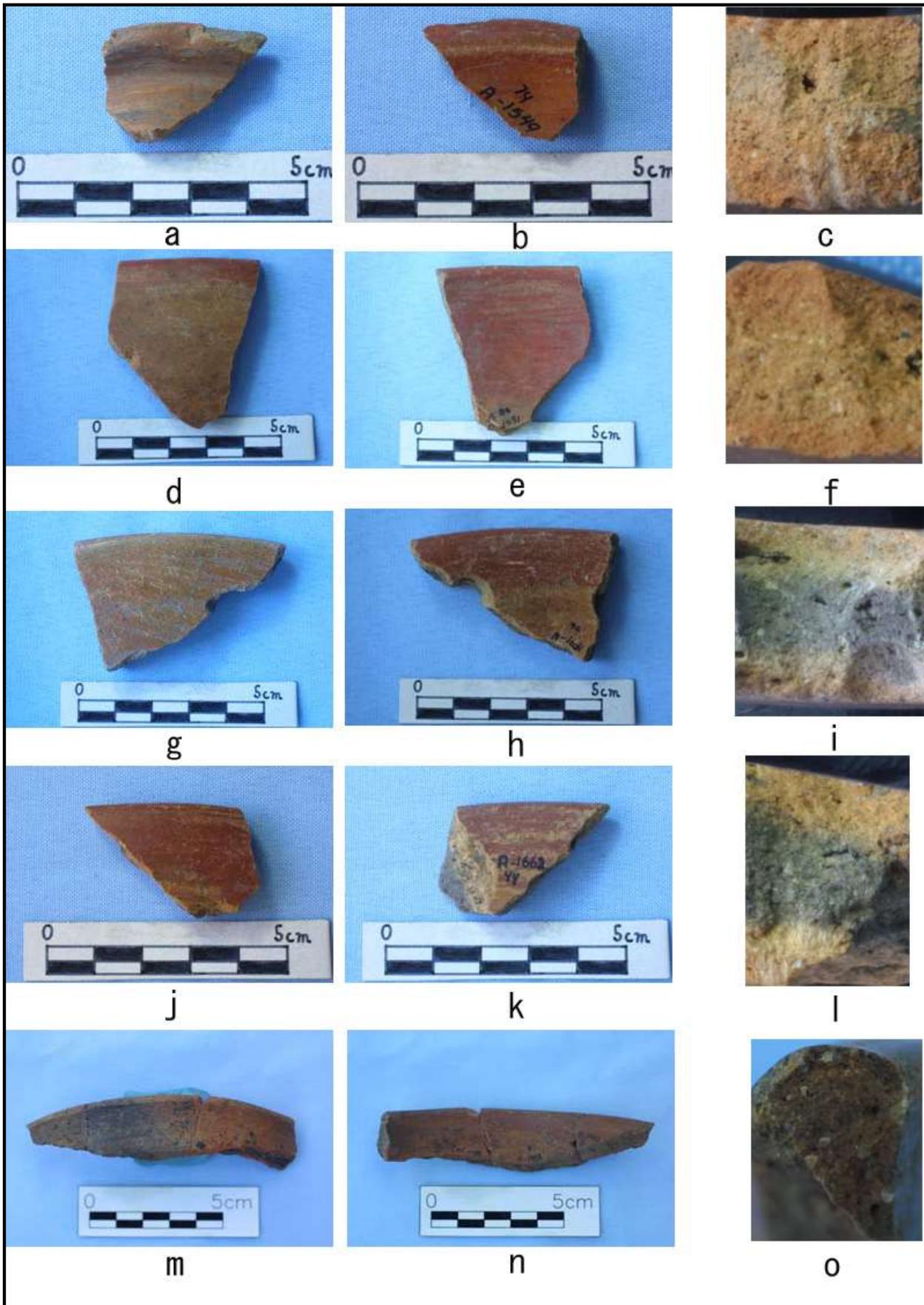


図 4-4-(4)-2 : 建造物 1 (T3) 出土の碗

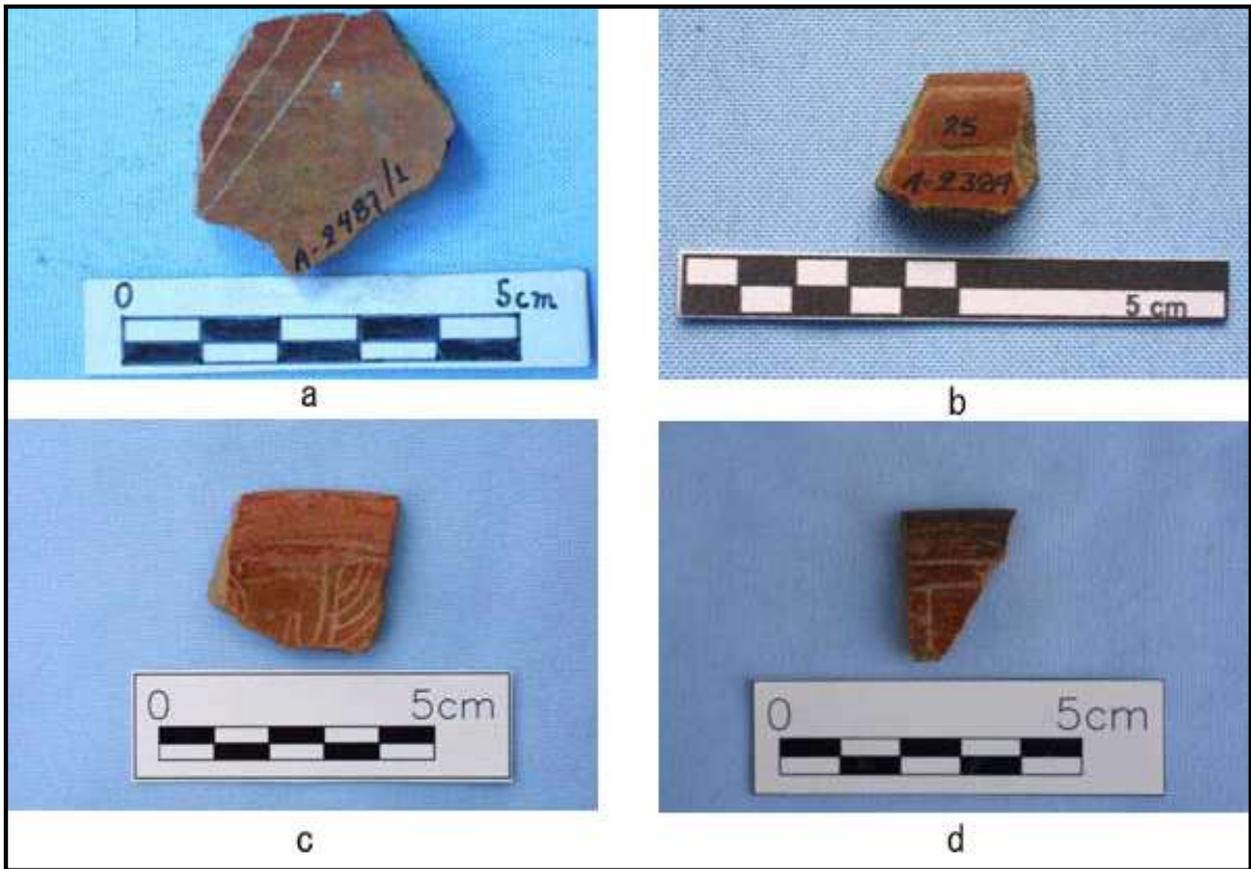


図 4-4-(4)-3 : a 建造物 1 (T3) 出土の碗、b 建造物 4 (T1) 出土の碗、
c 建造物 5 (T12) 出土の碗、d 建造物 6 (T8) 出土の碗

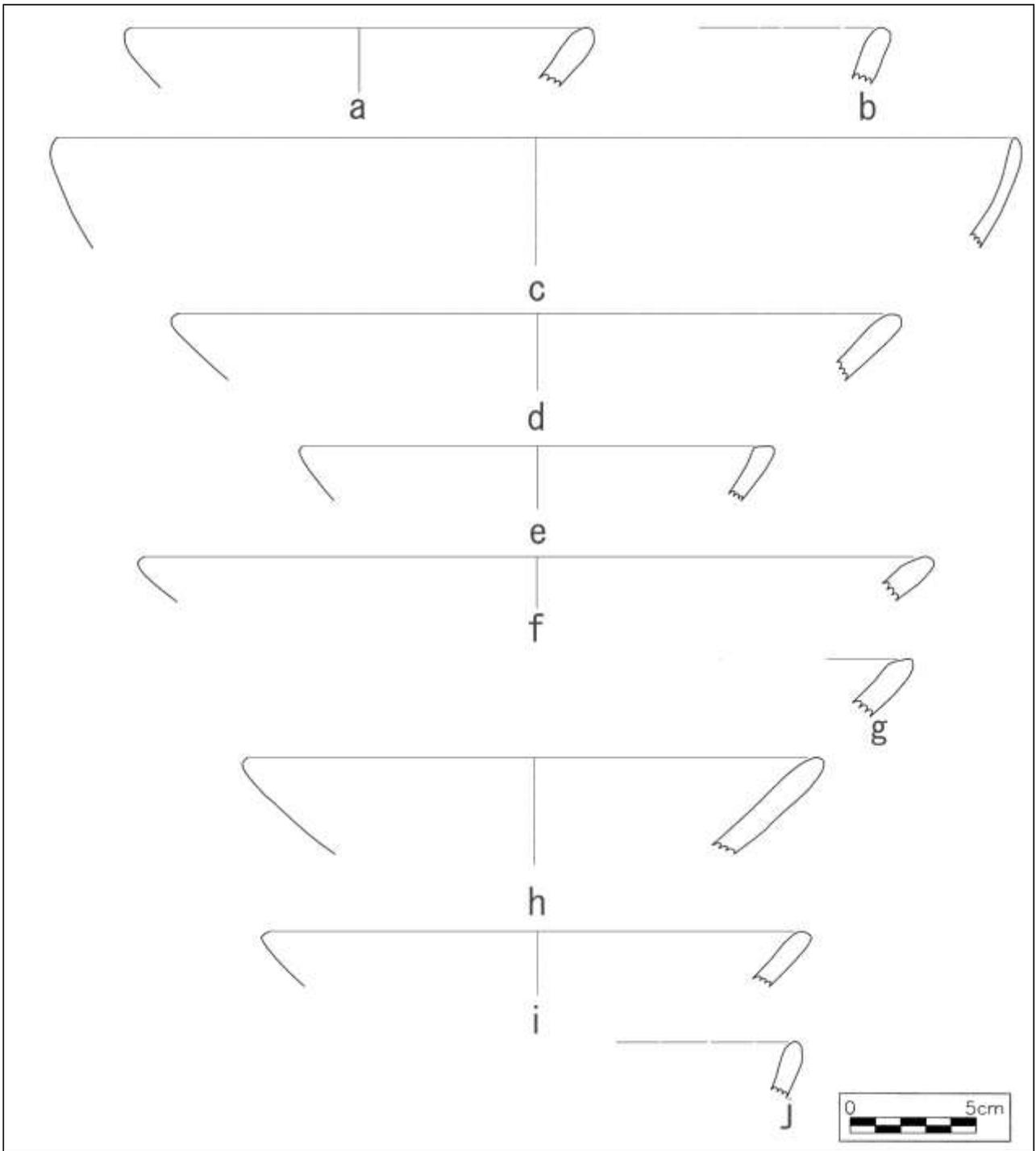


図 4-4-(4)-4 : 建造物 1 (T3) 出土の碗 (Simple Bowl)

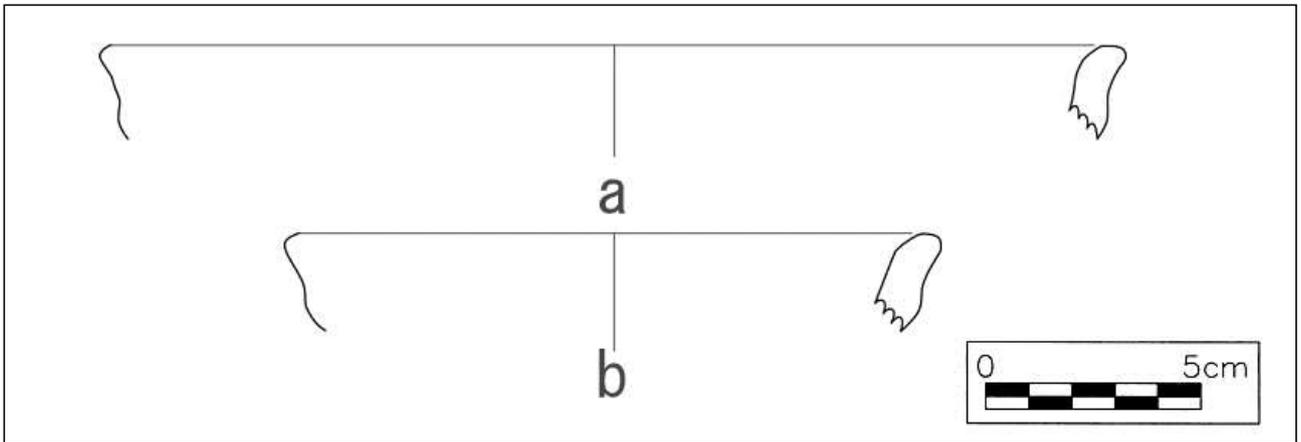


図 4-4-(4)-5 : 建造物 1 (T3) 出土の碗(Shouldered Bowl)

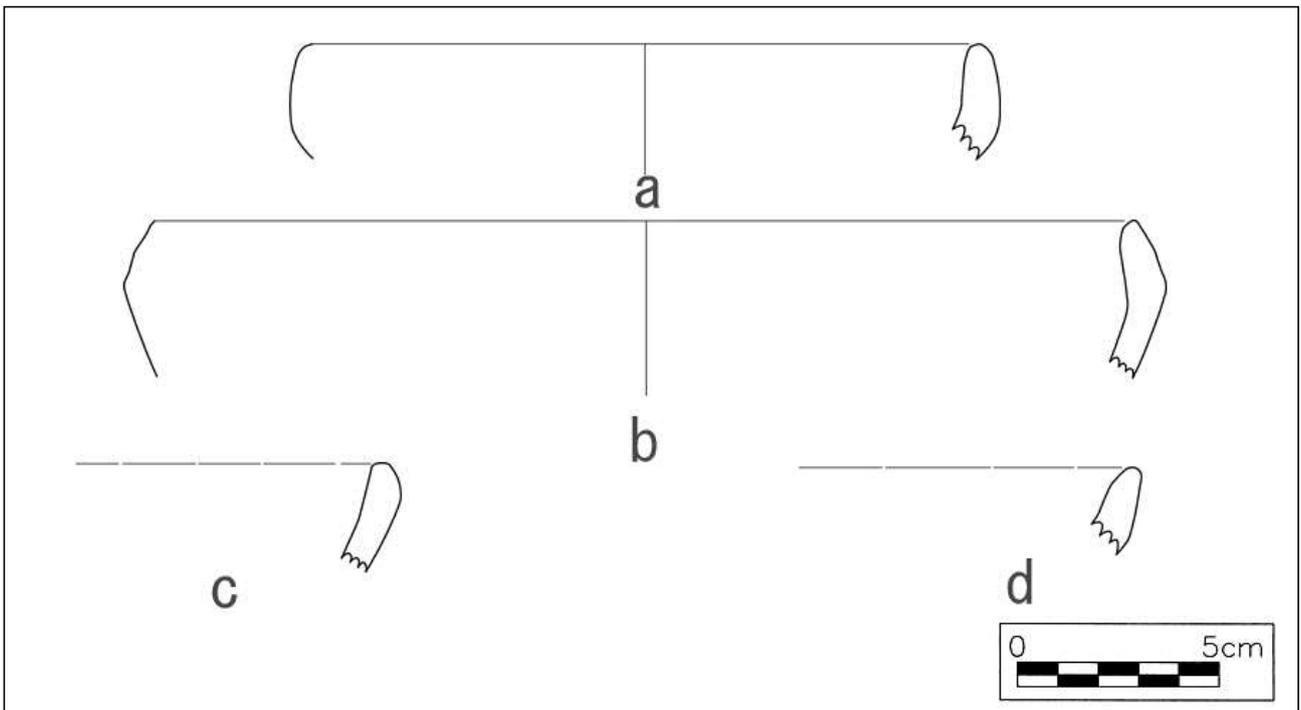


図 4-4-(4)-6 : 建造物 1 (T3) 出土の碗 (Angled Bowl)

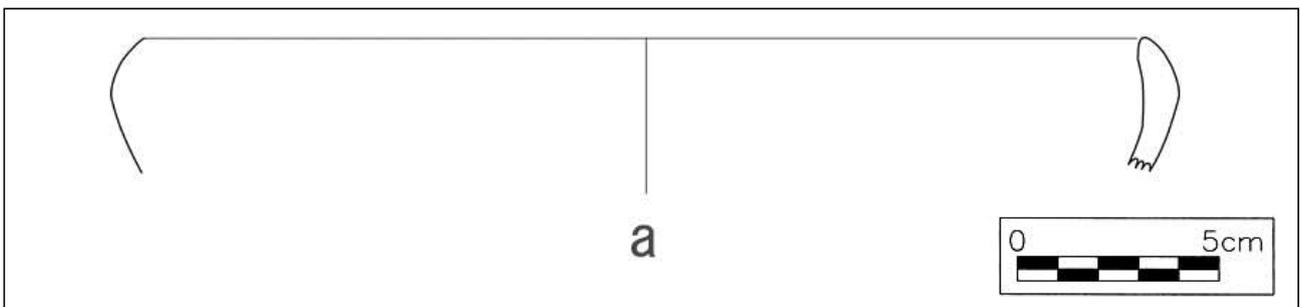


図 4-4-(4)-7 : 建造物 2 (T1) 出土の碗 (Angled Bowl)

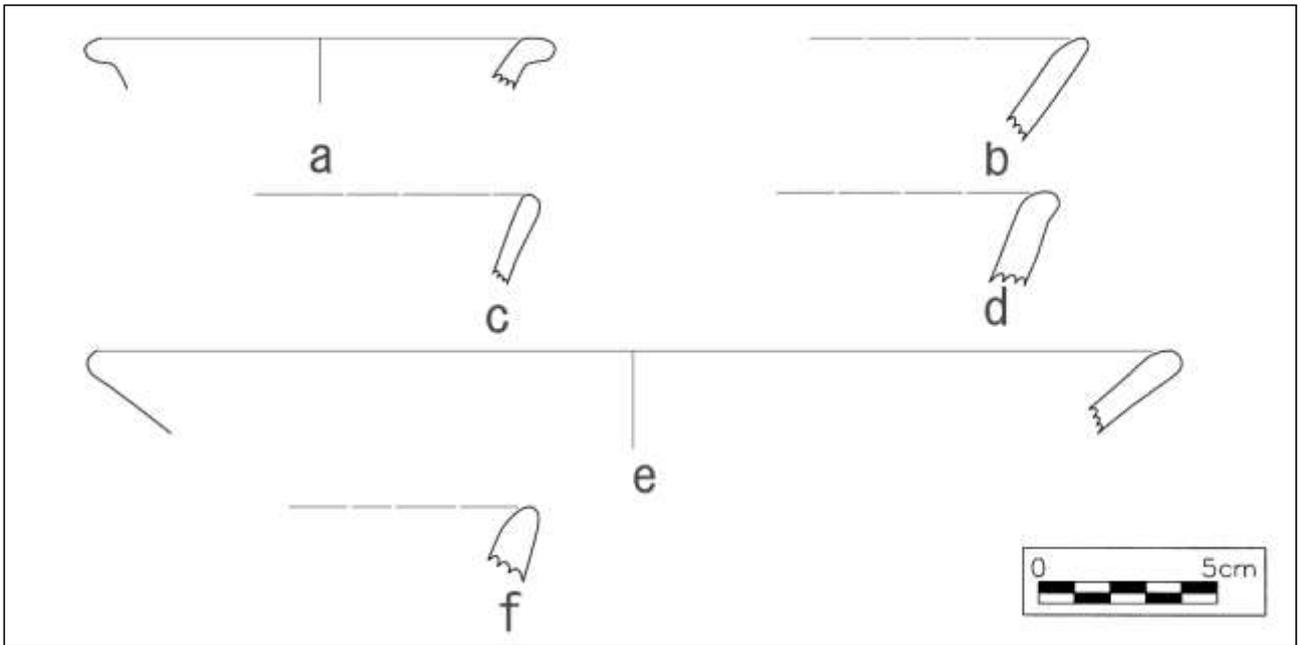


図 4-4-(4)-8 : 建造物 1 (T3) 出土の碗 (Flaring Bowl)

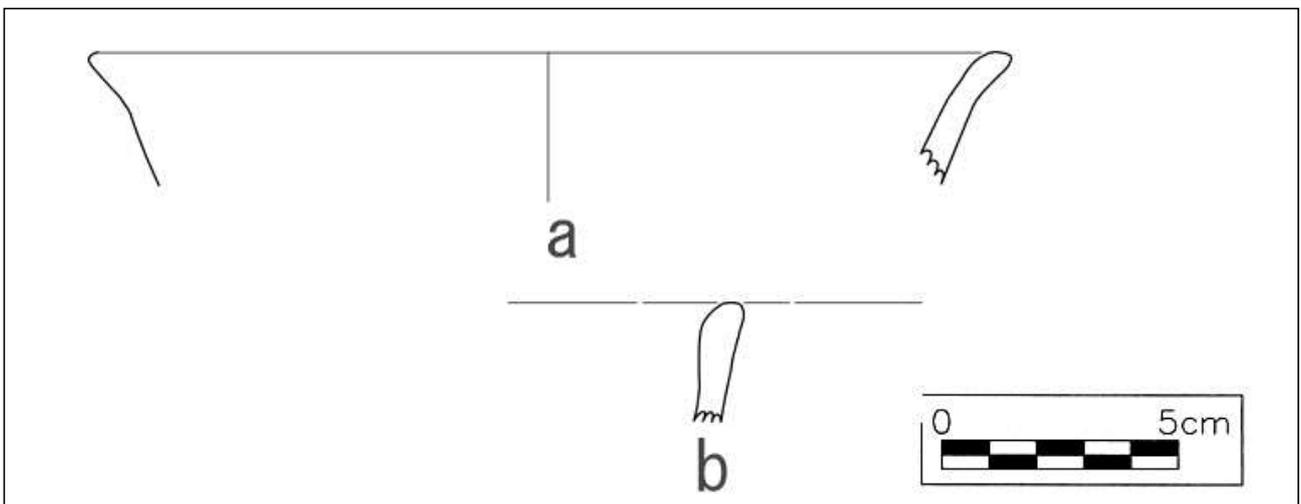


図 4-4-(4)-9 : 建造物 2 (T1) 出土の碗 (Flaring Bowl)

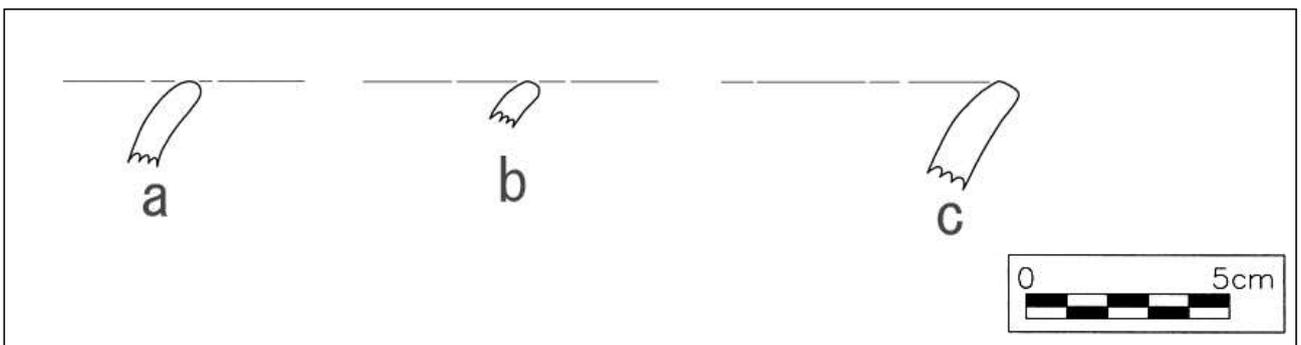


図 4-4-(4)-10 : a-b 建造物 2 (T1) 出土の碗 (Outcurving Bowl)、
c 56 層 (T4) 出土の碗 (Outcurving Bowl)

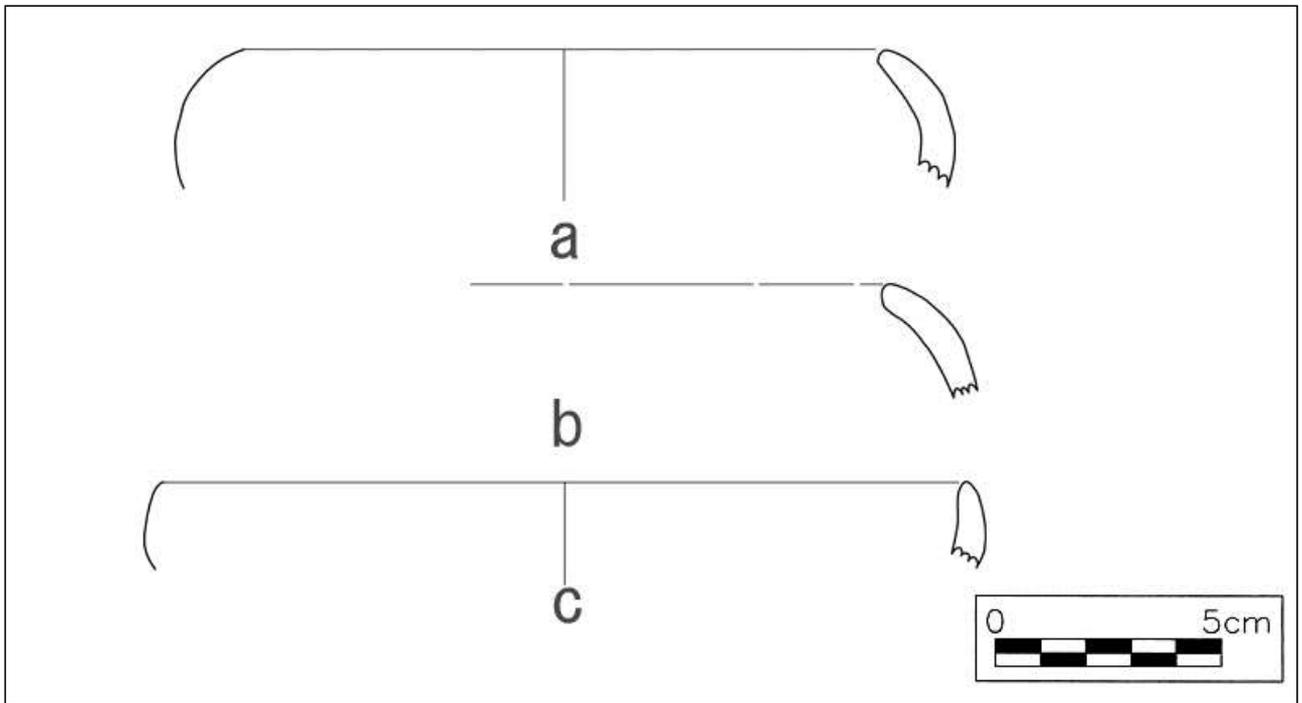


図 4-4-(4)-11 : 建造物 2 (T1) 出土の碗 (Incurved Bowl)

(5) 壺 (Jar)

個体数 : N=3 (パトラチケ期の Painted Ware の Red on Natural グループ中で 1.5%)

出土地点 :

表 4-4-(5)-1 : 壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他 ¹		合計			
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%		
壺 (Jar)	1	33.3%	0	0.0%	2	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%

注1: 墳墓6の埋土 (relleno)

図版 : 図 4-4-(5)-1 ~ 図 4-4-(5)-3

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。碗と同様に白や黒の細かい含有物を若干含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある (図 4-4-(5)-2:f)。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/6、10YR6/4、2.5YR6/8)、赤褐色系 (5YR5/6)、黒褐色 (7.5YR3/1) 等である。

表面調整 : 表面仕上げは、内外面とも良好である。外面や口縁部内面は、良く研磨されているが、胴部の内面は研磨されていない。表面の色は、赤色のペイント (10R4/8) 以外は、ほぼ胎土と同じである。中には、黒色 (7.5YR2/1) の表面もある。

装飾 : 口縁部や胴部に赤色ペイントが施される (図 4-4-(5)-1、図 4-4-(5)-2)。

器形 : 口径 11.4cm ~ 18.6cm で頸部が外反する壺である。口縁部が "Wedge Rim" になる壺も見られる (図 4-4-(5)-3:a)。



図 4-4-(5)-1 : 建造物 1 (T3) 出土の壺 (胴部破片)



図 4-4-(5)-2 : a-c 56層 (T1) 出土の壺 (胴部破片)、d-f 建造物 2 (T1) 出土の壺

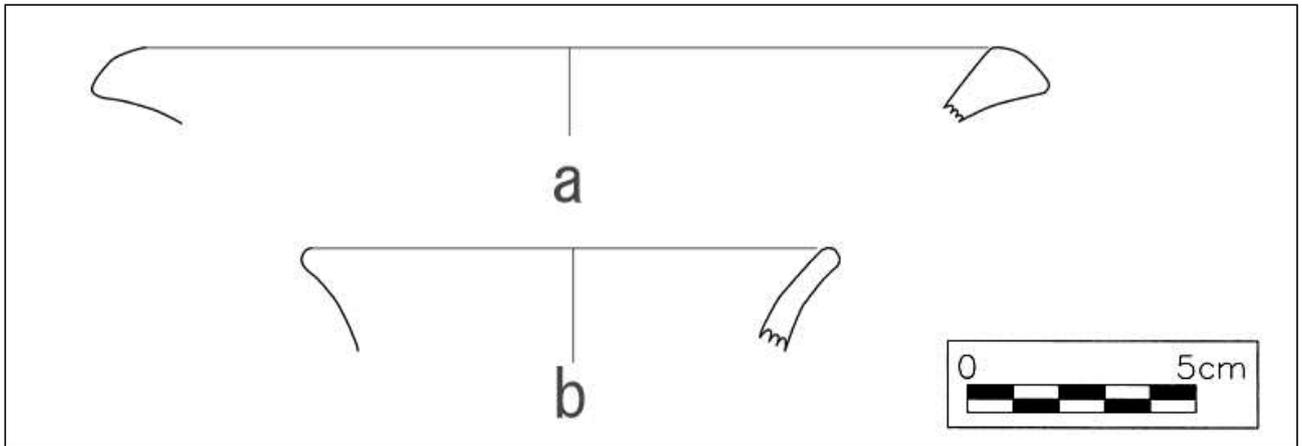


図 4-4-(5)-3 : a 56層 (T1) 出土の壺、b 建造物 2 (T1) 出土の壺 (図 4-4-(5)-2 : d-f に対応)

(6) 円筒形壺(Vase)

個体数 : N=4 (パトラチケ期の Painted Ware の Red on Natural グループ中で 2.0%)

出土地点 :

表 4-4-(6)-1 : 円筒形壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他 ¹		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
円筒形壺 (Vase)	1	25.0%	2	50.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%

注1: 墳墓6の埋土 (relleno)

図版 : 図 4-4-(6)-1 ~ 図 4-4-(6)-3

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。碗や壺と同様に白や黒の細かい含有物を若干含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある (図 4-4-(6)-1 : c, f)。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/4、10YR6/4)、褐色系 (7.5YR5/4)、赤褐色系 (5YR5/6) 等が見られる。

表面調整 : 表面仕上げは、内外面とも良好である。内外面とも良く研磨されている。表面の色は、赤色のペイント (10R4/8) 以外は、ほぼ胎土と同じである。中には、黒色 (7.5YR2/1) の表面もある。

装飾 : 口縁部や胴部外面に赤色ペイントが施される (図 4-4-(6)-1)。

器形 : ①胴部が直立する円筒形壺 (図 4-4-(6)-2 : a, b)、②胴部が外傾する円筒形壺 (図 4-4-(6)-3) が見られる。

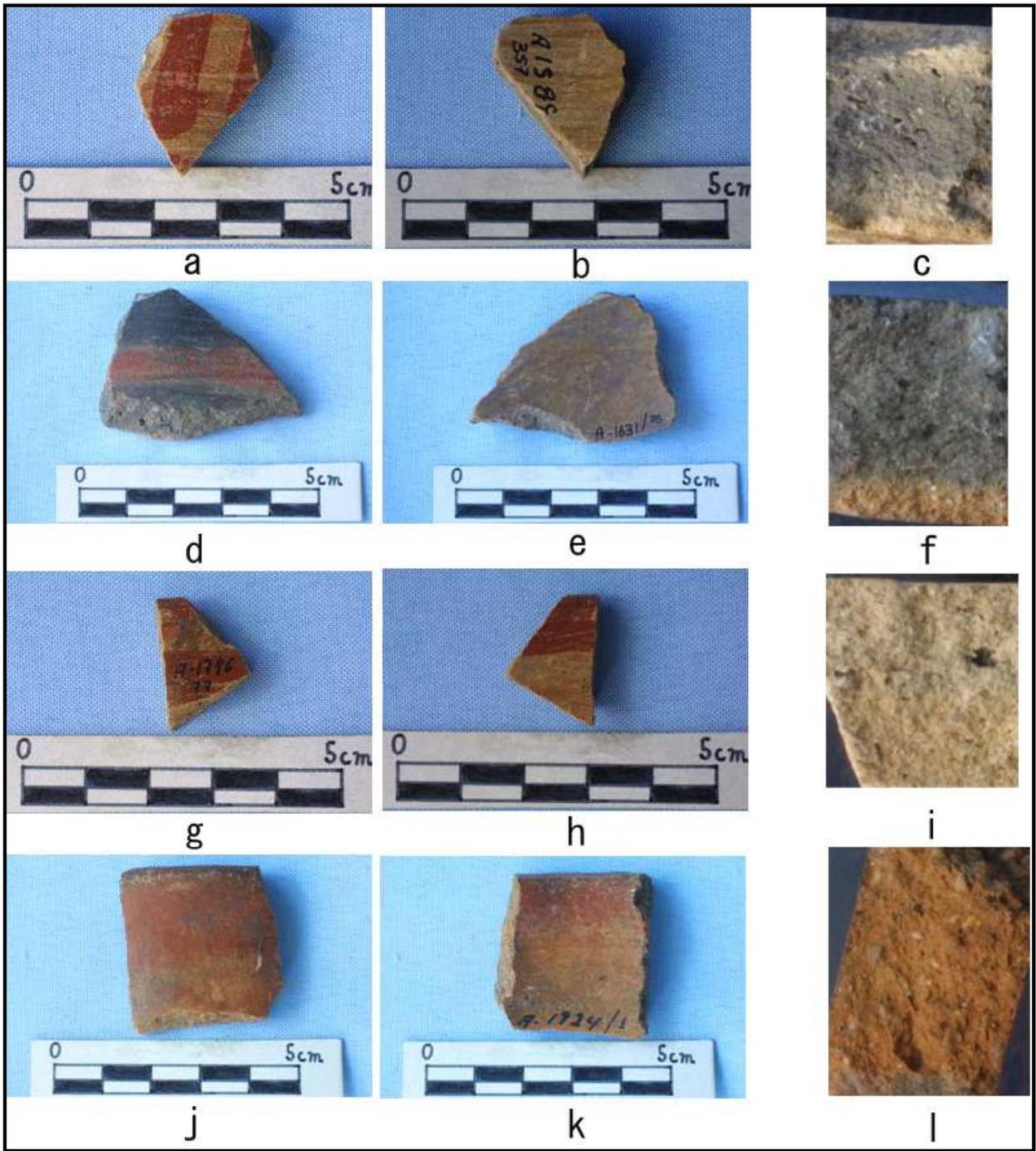


図 4-4-(6)-1 : 建造物 1 (T3) 出土の円筒形壺

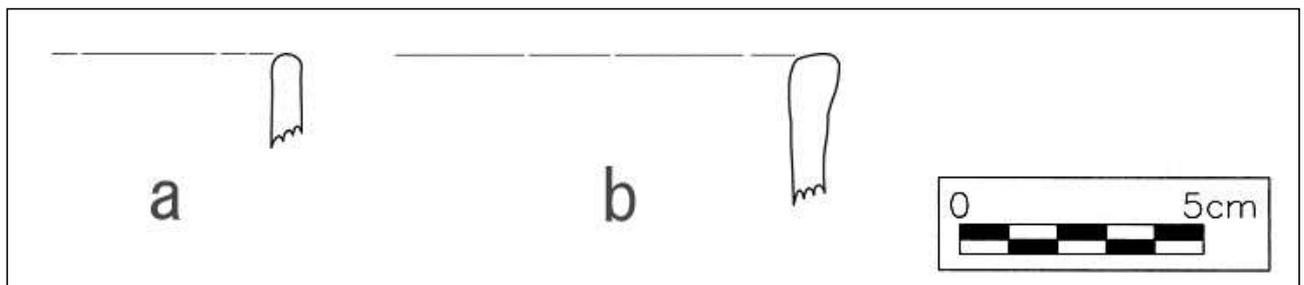


図 4-4-(6)-2 : 建造物 1 (T3) 出土の円筒形壺
 (a: 図 4-4-(6)-1, g-i、b: 図 4-4-(6)-1, j-l)

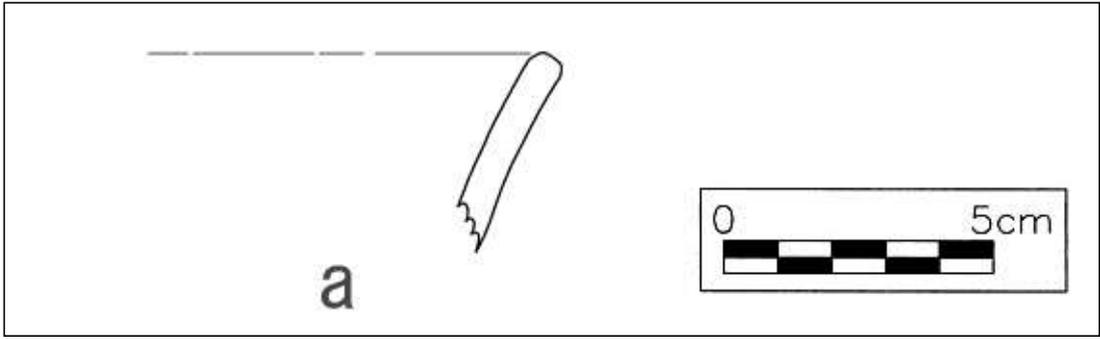


図 4-4-(6)-3 : 56 層 (T1) 出土の円筒形壺

(7) テコマテ(Tecomate)

個体数 : N=4 (パトラチケ期の Painted Ware の Red on Natural グループ中で 2.0%)

出土地点 :

表 4-4-(7)-1 : テコマテの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他 ¹		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
テコマテ (Tecomate)	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%

注1: 墳墓6の埋土 (relleno)

図版 : 図 4-4-(7)-1

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。他の” Red on Natural” グループと比較すると、白や黒の細かい含有物を多少多く含み、やや粗い。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある (図 4-4-(7)-1:f, i, l)。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/6、7.5YR6/4、10YR6/4) 等が見られる。

表面調整 : 表面仕上げは、内外面とも良好であるが、内側がやや粗いものも見られる。口縁部は、内外面とも良く研磨されている。表面の色は、赤色のペイント (10R4/8) 以外は、ほぼ胎土と同じである。中には、褐色 (7.5YR 5/6) の化粧土が塗られた可能性のあるものも見られる (図 4-4-(7)-1:d-f)。

装飾 : 口縁部や胴部外面に赤色ペイントが施される (図 4-4-(7)-1)。

器形 : 破片が小さく復元できないが、口縁部がまっすぐ伸びるテコマテと考えられる。

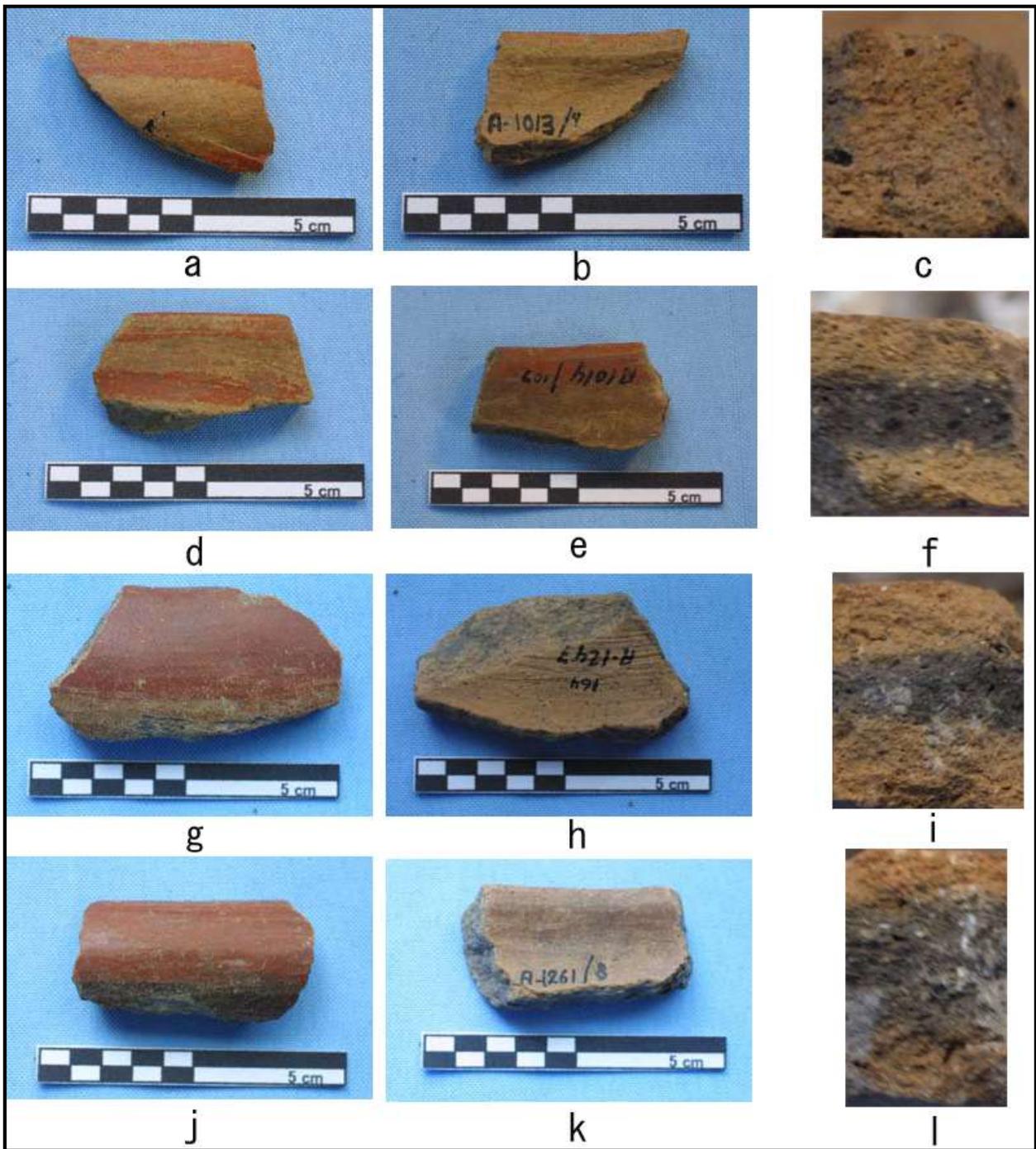


図 4-4-(7)-1 : 建造物 2 (T1) 出土のテコマテ

(8) 皿(Dish)

個体数 : N=3 (パトラチケ期の Painted Ware の Red en Natural グループ中で 1.5%)

出土地点 :

表 4-4-(8)-1 : 皿の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他 ¹		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
皿 (Dish)	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%

注1: 墳墓6の埋土 (relleno)

図版 : 図 4-4-(8)-1～図 4-4-(8)-3

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。碗や壺と同様に白や黒の細かい含有物を若干含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある (図 4-4-(8)-1:c)。胎土の色は、褐色系 (7.5YR5/4)、赤褐色系 (5YR5/6、2.5YR5/8) 等が見られる。

表面調整 : 表面仕上げは、内外面とも良好である。内外面とも良く研磨されている。表面の色は、赤色のペイント (10R4/8) 以外は、ほぼ胎土と同じだが、外面が黒色になるものも見られる。

装飾 : 口縁部や胴部に赤色ペイントが施される (図 4-4-(8)-1、図 4-4-(8)-2)。

器形 : ①口径 20.6cm の皿がある。



図 4-4-(8)-1 : 建造物 1 (T3) 出土の皿



図 4-4-(8)-2 : 建造物 4 (T2) 出土の皿



図 4-4-(8)-3 : 建造物 1 (T3) 出土の皿 (図 4-4-(8)-1 の個体)

< Polychrome グループ (N=71) >

(9) 碗 (Bowl)

個体数 : N=67 (パトラチケ期の Painted Ware の Polychrome グループ中で 94.4%)

出土地点 :

表 4-4-(9)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	3	4.5%	7	10.4%	29	43.3%	0	0.0%	10	14.9%	4	6.0%	13	19.4%	1	1.5%	67	100.0%

図版 : 図 4-4-(9)-1 ~ 図 4-4-(9)-12

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。Monochrome Red グループや Red on Natural グループとほぼ同じである。白や黒の細かい含有物を若干含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/6、7.5YR6/4、10YR6/4)、5YR6/4)、褐色系 (7.5YR6/3、7.5YR4/3、7.5YR5/6、7.5YR5/4、7.5YR4/3)、赤褐色系 (5YR5/6) 等多様である。

表面調整 : 表面仕上げは、内外面とも良好で研磨される。表面の色は、赤色、白色、黒色等のペイント以外は、胎土と同じである。スリップがかけられた可能性もみられる (図 4-4-(9)-3:k)。

装飾 : 赤色のバンド、黒色のバンド、白色の波型文等の文様が主に外面に施される (図 4-4-(9)-1 ~ 図 4-4-(9)-5)。

器形 : ① Simple Bowl (図 4-4-(9)-6、図 4-4-(9)-7) : 口径が 20.0cm ~ 27.1cm で胴部が緩やかに内湾し、口縁部はまっすぐ伸びる。② Flaring Bowl (図 4-4-(9)-8、図 4-4-(9)-9) : 口径が 17.3cm ~ 33.2cm で胴部が外傾し、口縁部はまっすぐ伸びる。③ Angled Bowl (図 4-4-(9)-10、図 4-4-(9)-11) : 口径 16.5cm ~ 24.4cm で緩く内湾する胴部から口縁部が立ち上がる。④ Shouldered Bowl (図 4-4-(9)-12) : 口径 15.6cm ~ 16.4cm で口縁部は外反する。

この他に Outcurving Bowl や Incurved Bowl などが見られる。

表 4-4-(9)-2 : 碗の口径

実測図	口径 (cm)	写真	出土地	個体番号
<Simple Bowl>				
図 4-4-(9)-6, a	27.0	-	建造物2 (T1)	A-936-24
図 4-4-(9)-6, b	20.0	-	建造物2 (T1)	A-936-26
図 4-4-(9)-7, a	27.1	-	建造物2 (T1)	A-1149-153
<Flaring Bowl>				
図 4-4-(9)-8, b	17.3	-	建造物2 (T1)	A-1149-174
図 4-4-(9)-9, a	33.2	-	56層 (T3)	A-1538-75
図 4-4-(9)-9, c	18.1	-	建造物1 (T3)	A-1589-93
<Angled Bowl>				
図 4-4-(9)-10, a	16.5	図 4-4-(9)-1g-i	56層 (T3)	A-1538-69
図 4-4-(9)-10, c	24.4	-	建造物1 (T3)	A-1662-48
<Shouldered Bowl>				
図 4-4-(9)-12, a	15.6	図 4-4-(9)-3,a-c	建造物1 (T3)	A-1589-361
図 4-4-(9)-12, b	16.4	図 4-4-(9)-3,g-i	建造物1 (T3)	A-1589-46

コメント : 表面に見られる黒色のバンド (図 4-4-(9)-2:d, g, j, m、図 4-4-(9)-3:a, g, j, m、図 4-4-(9)-4:a, d, g, j, m) については、ベニホフ等やブラッチャーの報告には記述がない (Bennyhoff and Millon 1967, Blucher 1971)。検討を必要とする技法である。

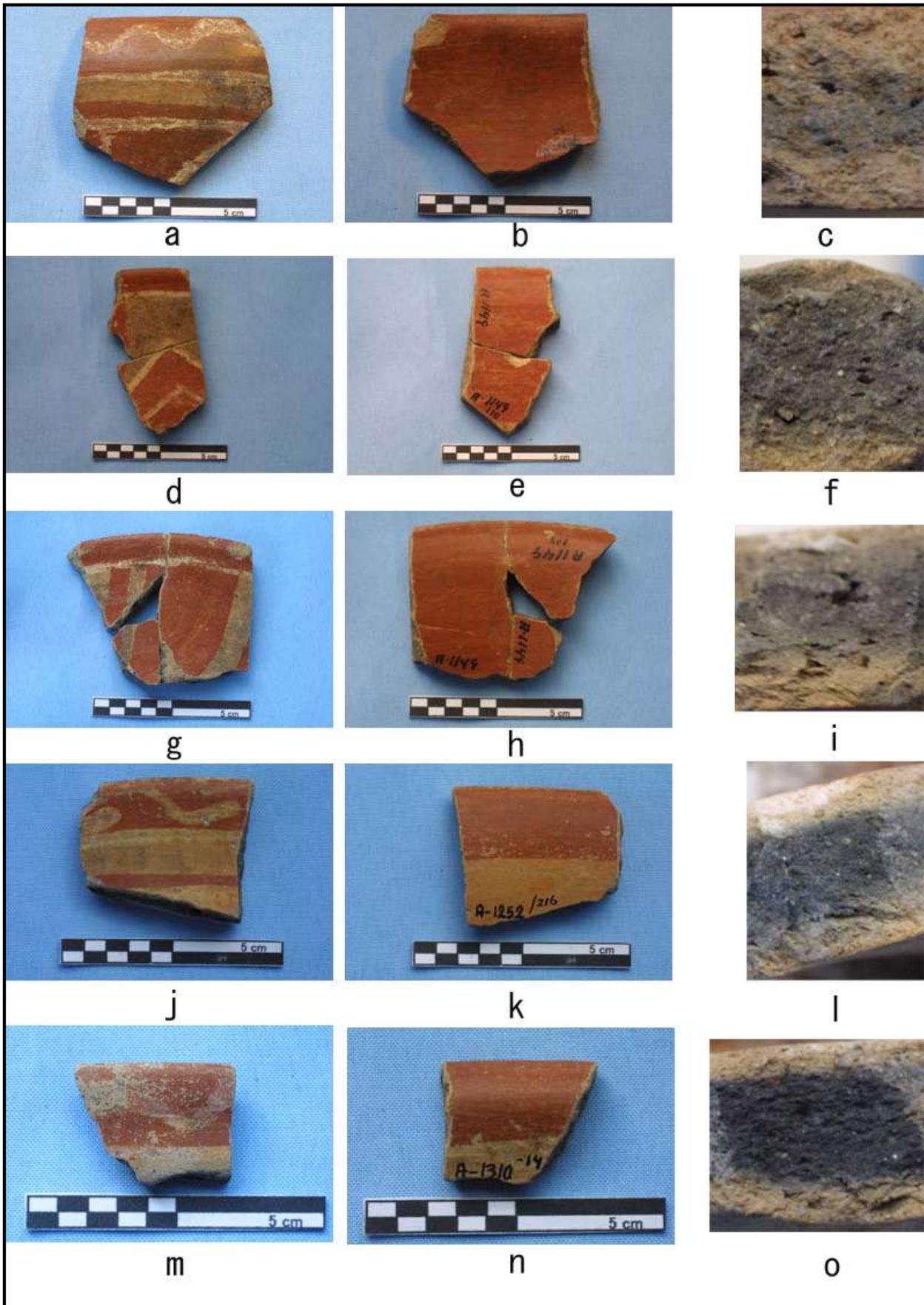


図 4-4-(9)-1 : 建造物 2 (T1) 出土の碗

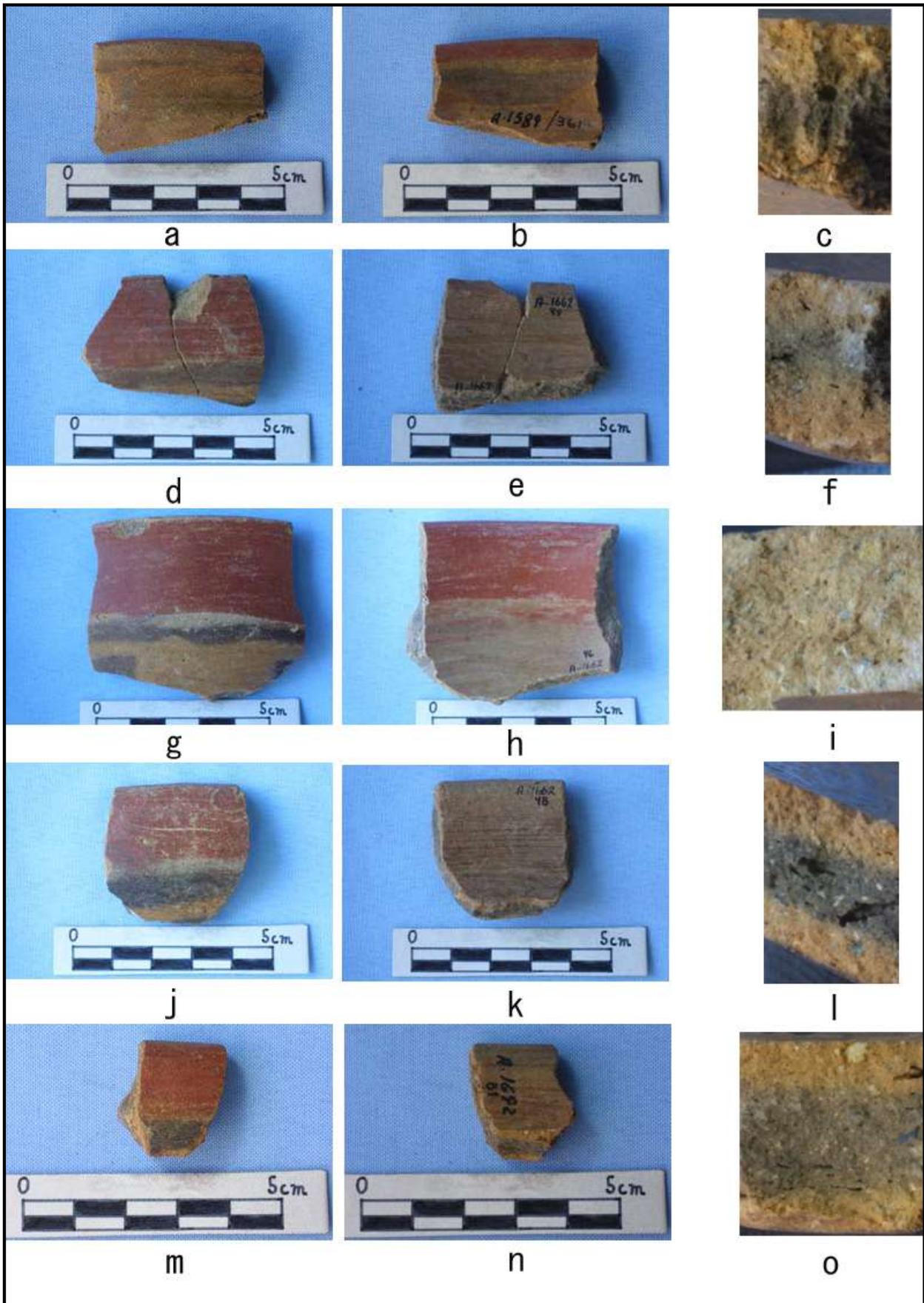


図 4-4-(9)-2 : 建造物 1 (T3) 出土の碗

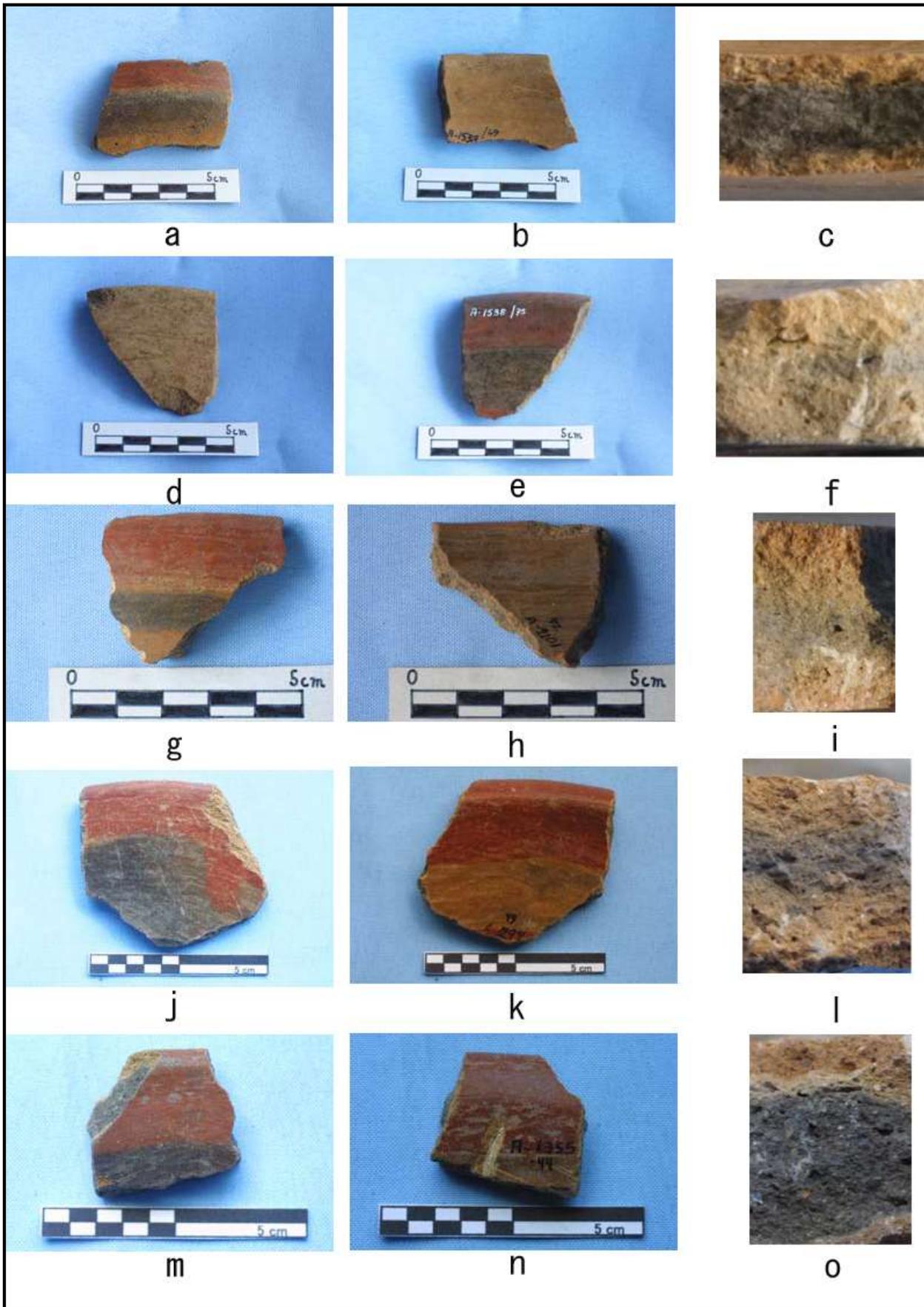


図 4-4-(9)-3 : a-f 56 層 (T3) 出土の碗、 g-i 56 層 (T4) 出土の碗、
j-o 建造物 2 (T1) 出土の碗

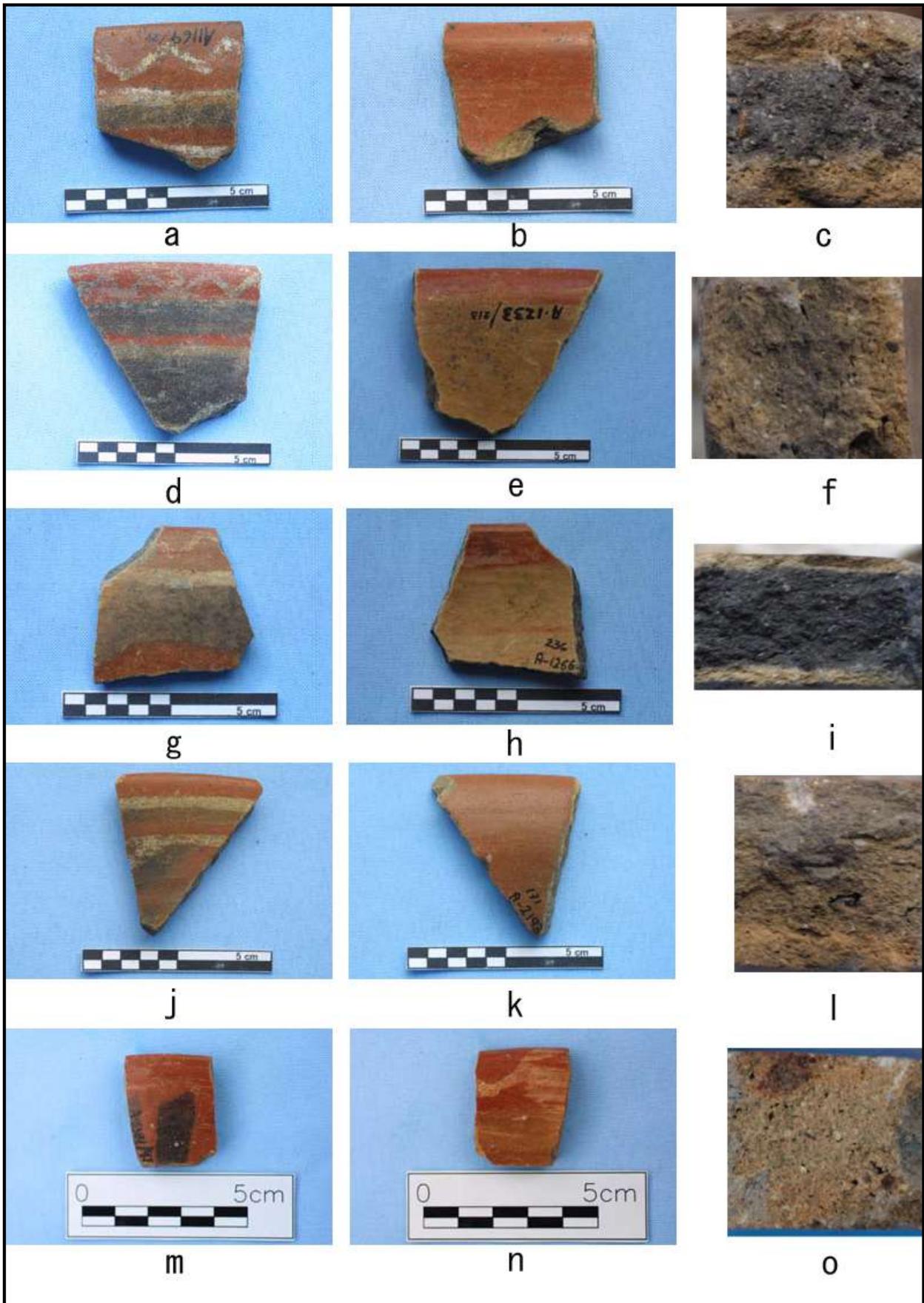


図 4-4-(9)-4 : a-l 建造物 2 (T1) 出土の碗、m-o 建造物 5 (T2) 出土の碗

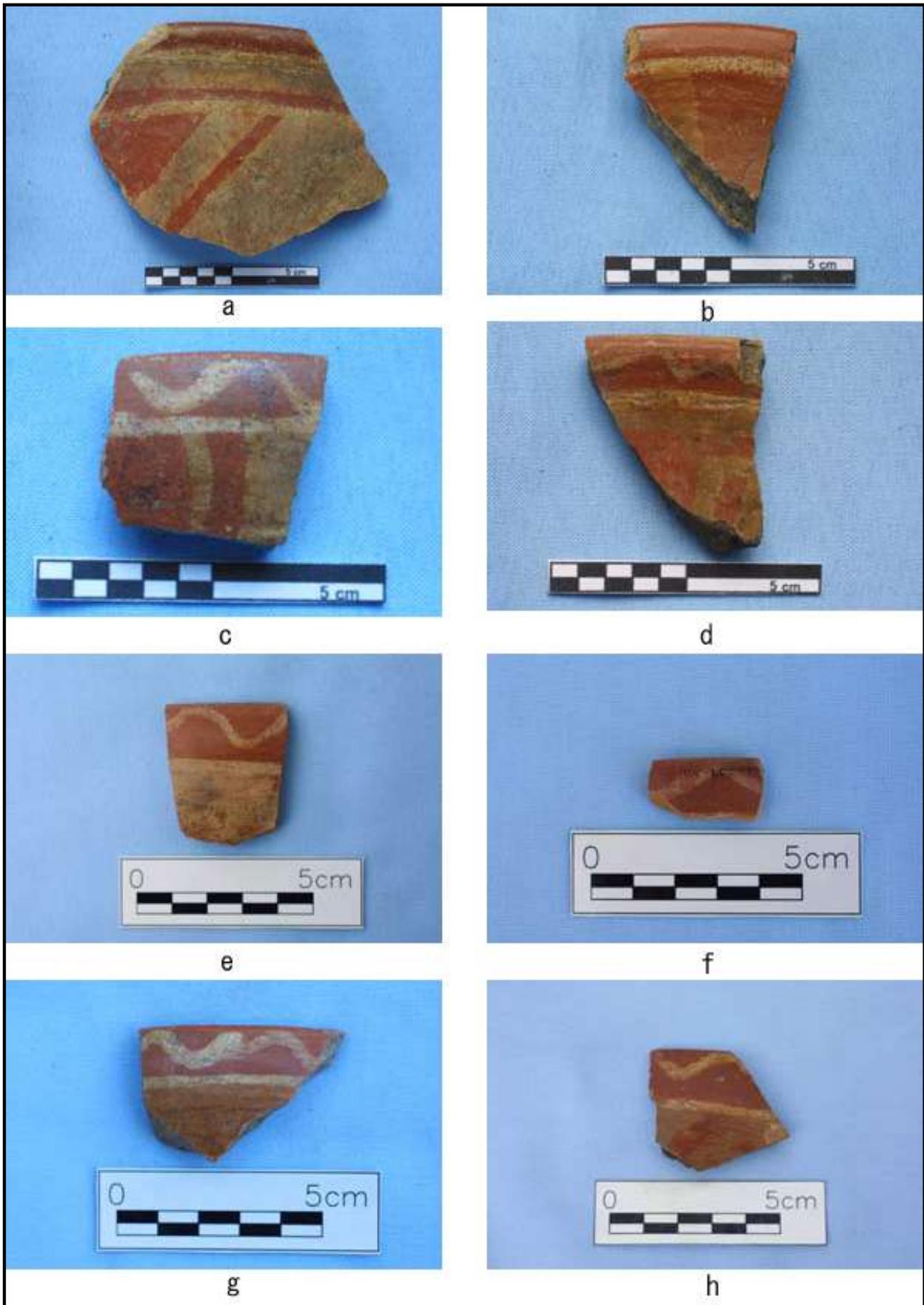


図 4-4-(9)-5 : a-d 建造物 2 (T1,T4) 出土の碗の文様、d-f 建造物 5 (T12) 出土の碗の文様、h 建造物 6 (T6) 出土の碗の文様

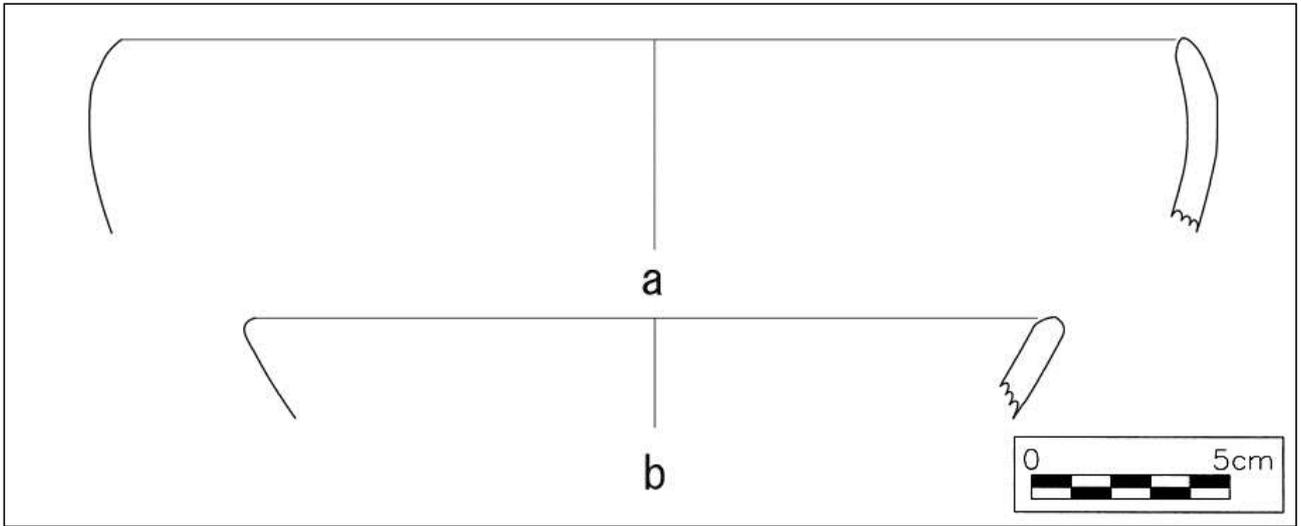


図 4-4-(9)-6 : 建造物 2 (T1) 出土の碗(Simple Bowl)

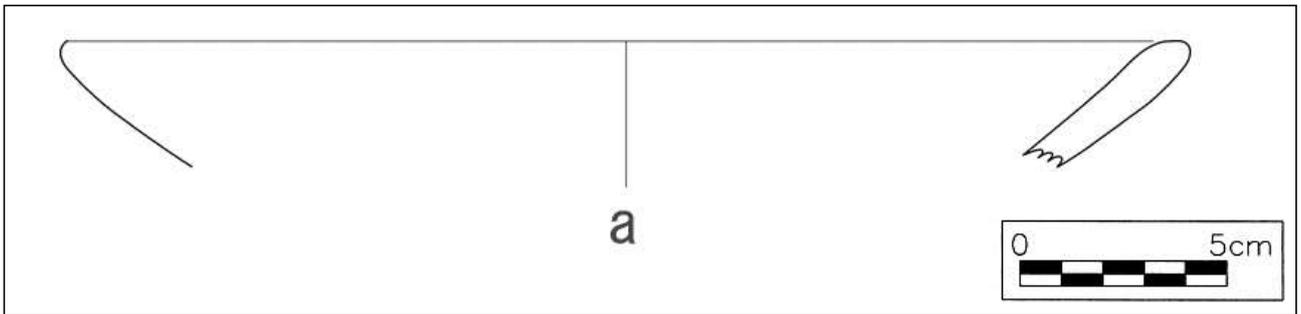


図 4-4-(9)-7 : 建造物 2 (T1) 出土の碗(Simple Bowl)

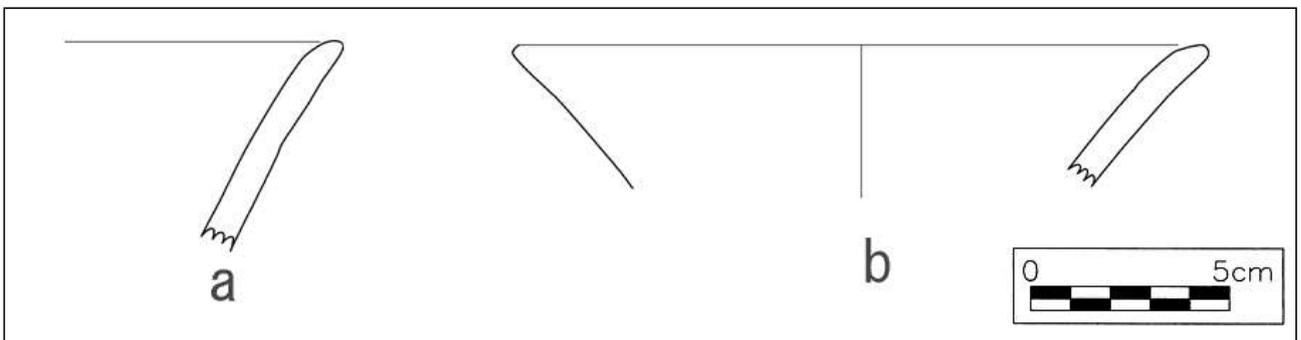


図 4-4-(9)-8 : 建造物 2 (T1) 出土の碗(Flaring Bowl)

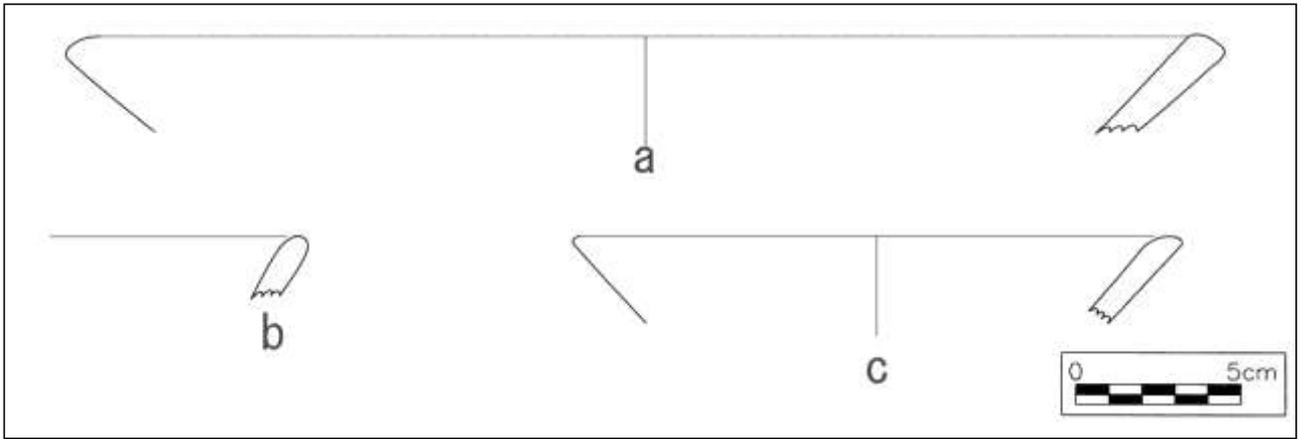


図 4-4-(9)-9: a 56 層 (T3) 出土の碗 (Flaring Bowl) 、b-c 建造物 1 (T3) 出土の碗 (Flaring Bowl)

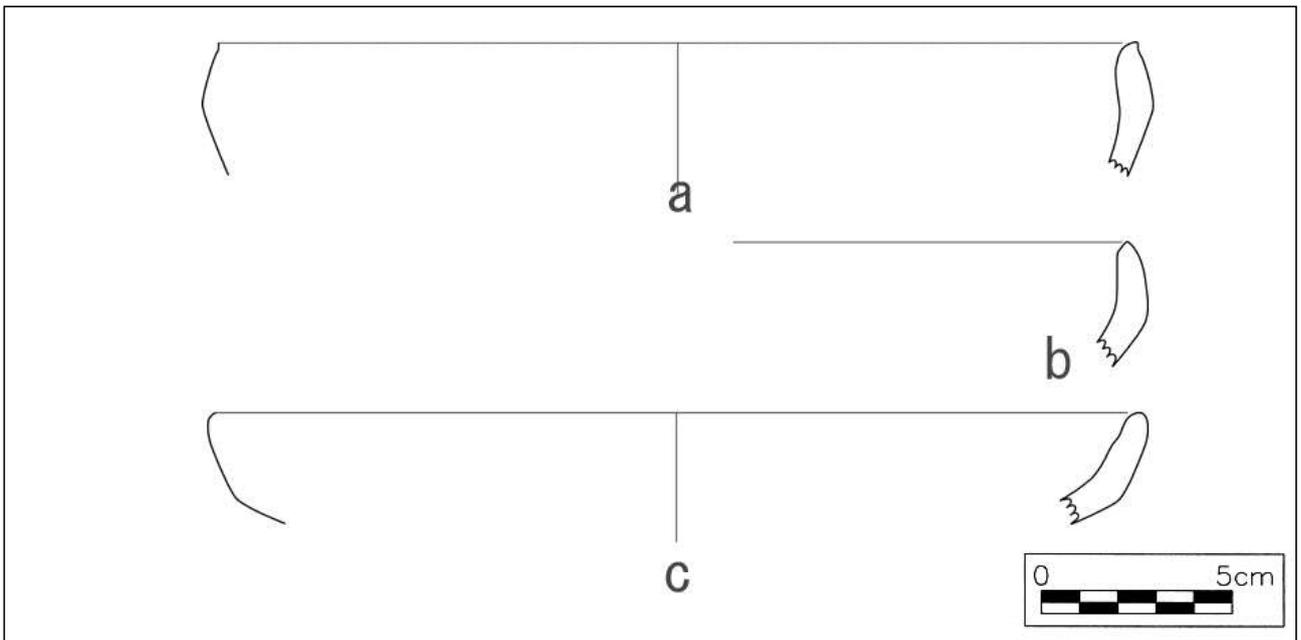


図 4-4-(9)-10: a 56 層 (T3) 出土の碗 (Angled Bowl) 、b-c 建造物 1 (T3) 出土の碗 (Angled Bowl)

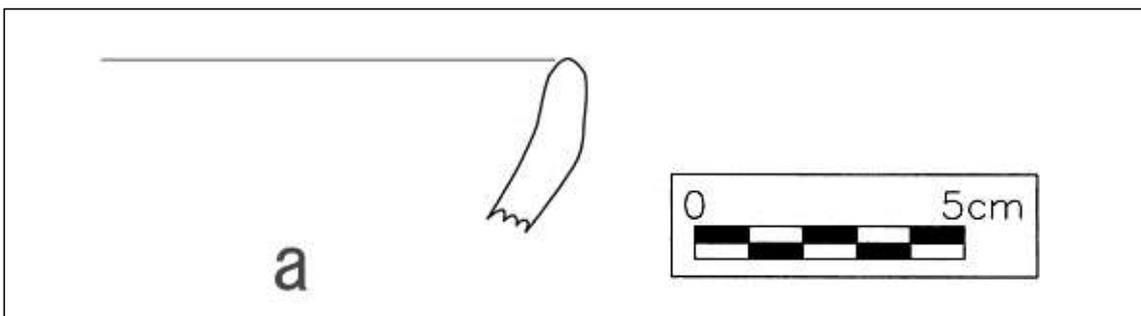


図 4-4-(9)-11 : 56 層 (T4) 出土の碗 (Angled Bowl)

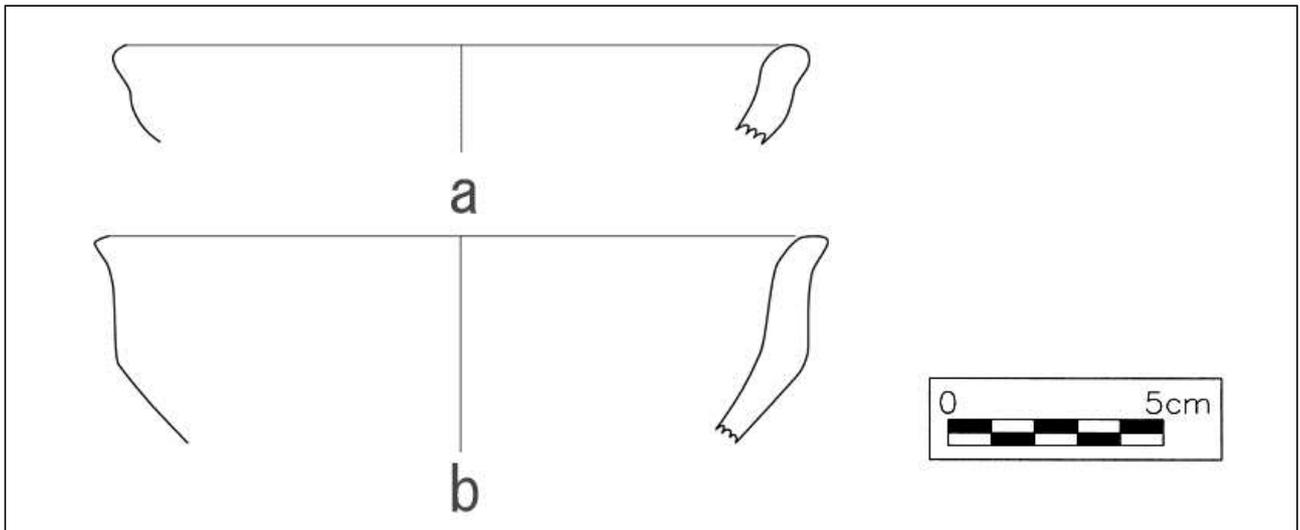


図 4-4-(9)-12 : 建造物 1 (T3) 出土の碗(Shouldered Bowl)

(10) 壺 (Jar)

個体数 : N=1 (パトラチケ期の Painted Ware の Polychrome グループ中で 1.4%)

出土地点 :

表 4-4-(10)-1 : 壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%

図版 : 図 4-4-(10)-1 ~ 図 4-4-(10)-2

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。Monochrome Red グループや Red on Natural グループとほぼ同じである。白や黒の細かい含有物を若干含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/6)、赤褐色系 (5YR5/6、5YR5/4、2.5YR5/6) 等である。

表面調整 : 表面仕上げは、外面は良好で研磨される。胴部内面は、表面ほどは研磨されていない。表面の色は、赤色、白色、黒色等のペイント以外は、胎土と同じである。

装飾 : 赤色のバンド、黒色のバンド、白色のライン文様が外面に施される (図 4-4-(10)-1 ~ 図 4-4-(10)-2)。

器形 : ①口縁部破片が 1 片のみであるので全体の器形を復元するのは不可能であるが、外反する頸部を持つ壺である。

コメント : 碗と同じく黒色バンド (ライン) が壺にも施される。図 4-4-(10)-2:a の黒色ラインは、ネガティブ文様が黒色に変化した可能性も考えられる。

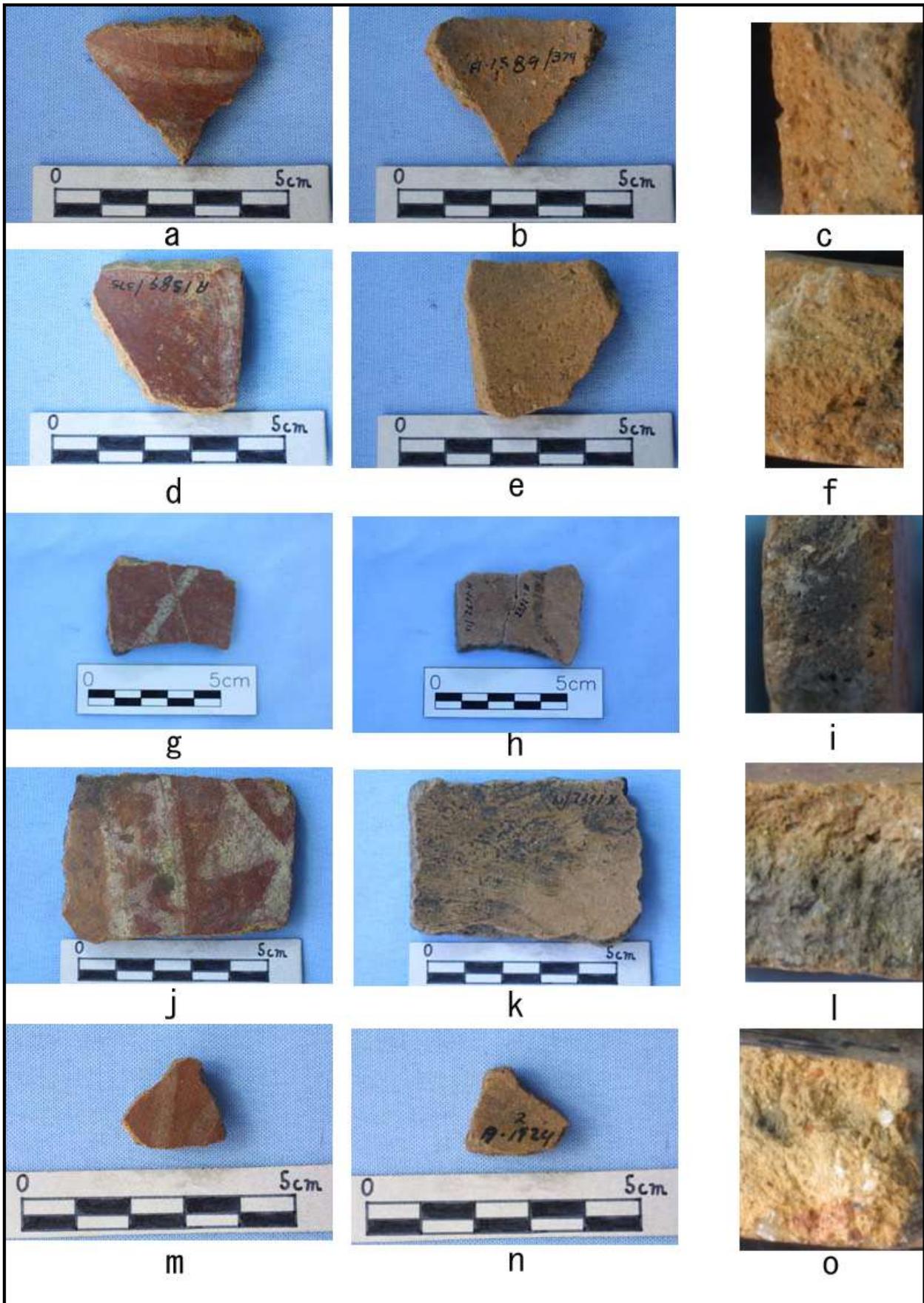


図 4-4-(10)-1 : 建造物 (T3) 出土の壺 (胴部破片)

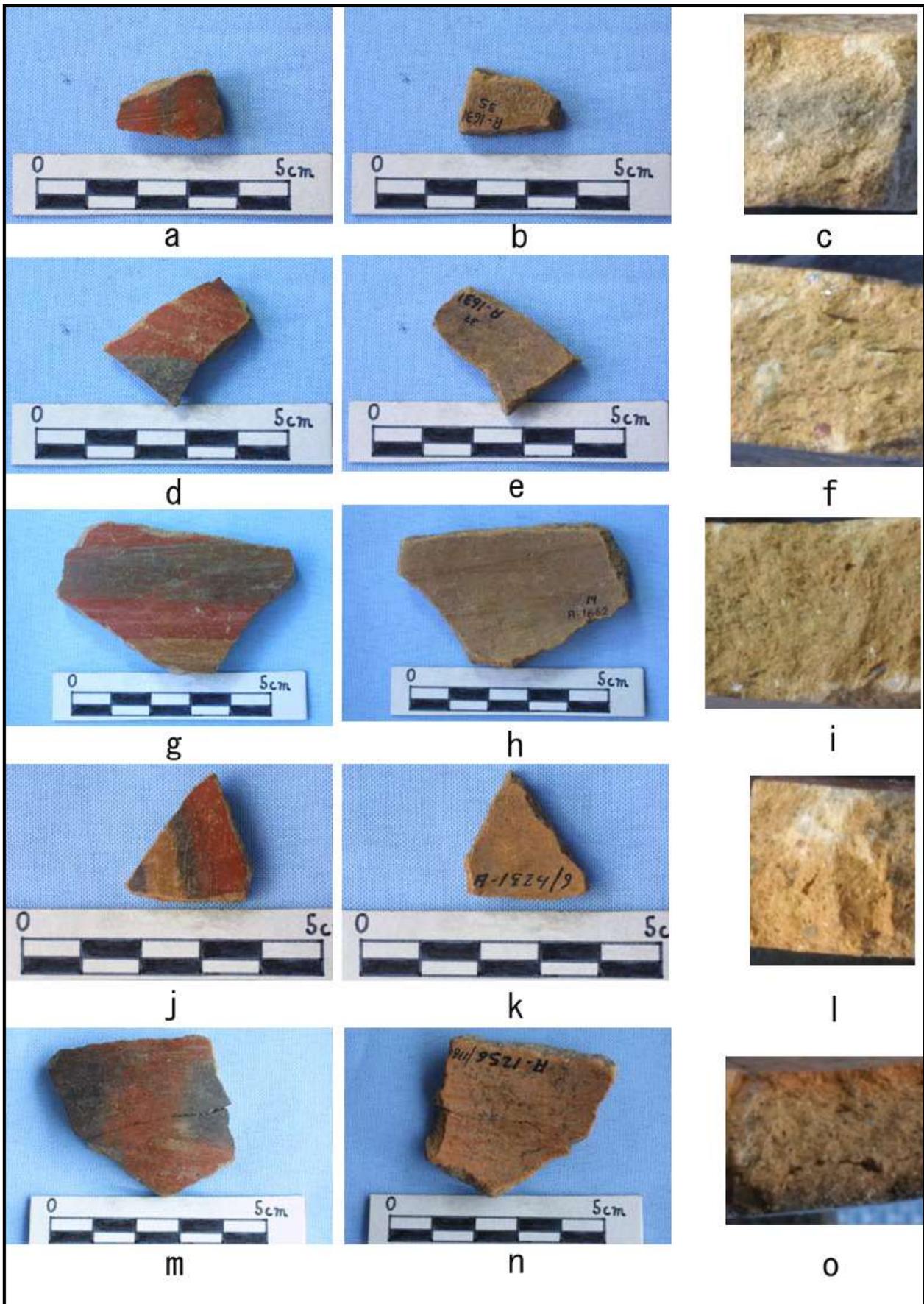


図 4-4-(10)-2 : a-l 建造物 1 (T3)出土の壺 (胴部破片)、
m-o 56 層 (T1) 出土の壺 (胴部破片)

(11) 円筒形壺(Vase)

個体数 : N=2 (パトラチケ期の Painted Ware の Polychrome グループ中で 2.8%)

出土地点 :

表 4-4-(11)-1 : 円筒形壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
円筒形壺 (Vase)	1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%

図版 : 図 4-4-(11)-1~図 4-4-(11)-7

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。Monochrome Red グループや Red on Natural グループとほぼ同じである。白や黒の細かい含有物を若干含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR7/4、7.5YR6/6、7.5YR6/4、5YR6/6、10YR7/4)、褐色系 (7.5YR5/3)、赤褐色系 (5YR5/8、5YR5/6、5YR5/4) 等である。

表面調整 : 表面仕上げは、内外面は良好で研磨される。表面の色は、赤色、白色、黒色等のペイント以外は、胎土と同じである。

装飾 : 赤色のバンド、黒色のバンド、白色のライン文様が外面および口縁部内部に施される (図 4-4-(11)-1~図 4-4-(11)-5)。

器形 : ①胴部が外傾し、口縁部が外反する器形である。底部は平底で径は、15.6cm~17.2cm である (図 4-4-(11)-6、図 4-4-(11)-7)。



図 4-4-(11)-1 : 建造物 1 (T3) 出土の円筒形壺 (胴部破片)

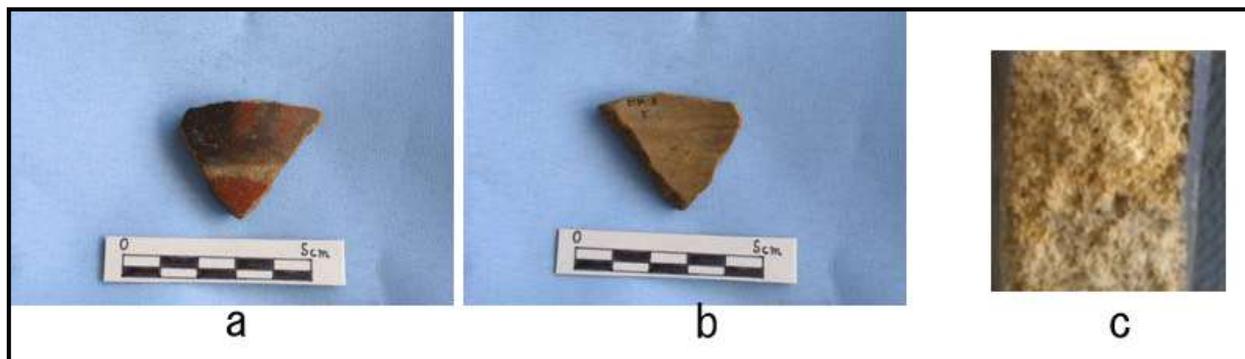


図 4-4-(11)-2 : 56 層 (T3) 出土の円筒形壺 (胴部破片)

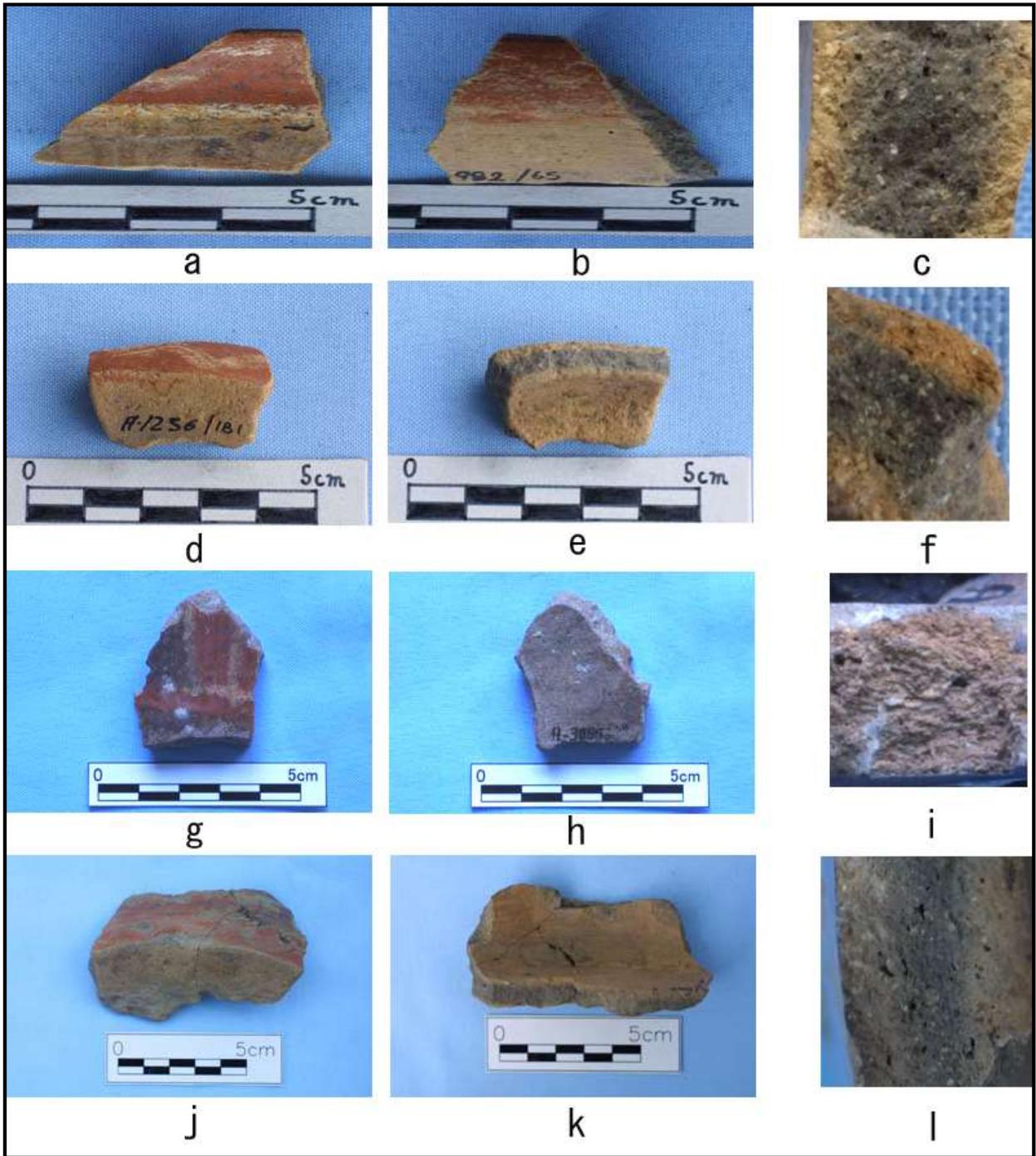


図 4-4-(11)-3 : a-f 56 層 (T1) 出土の円筒形壺 (口縁部破片、底部破片)、
 g-i 建造物 4 (T2) 出土の円筒形壺 (胴部破片)、
 j-l 建造物 5 (T2) 出土の円筒形壺 (底部破片)

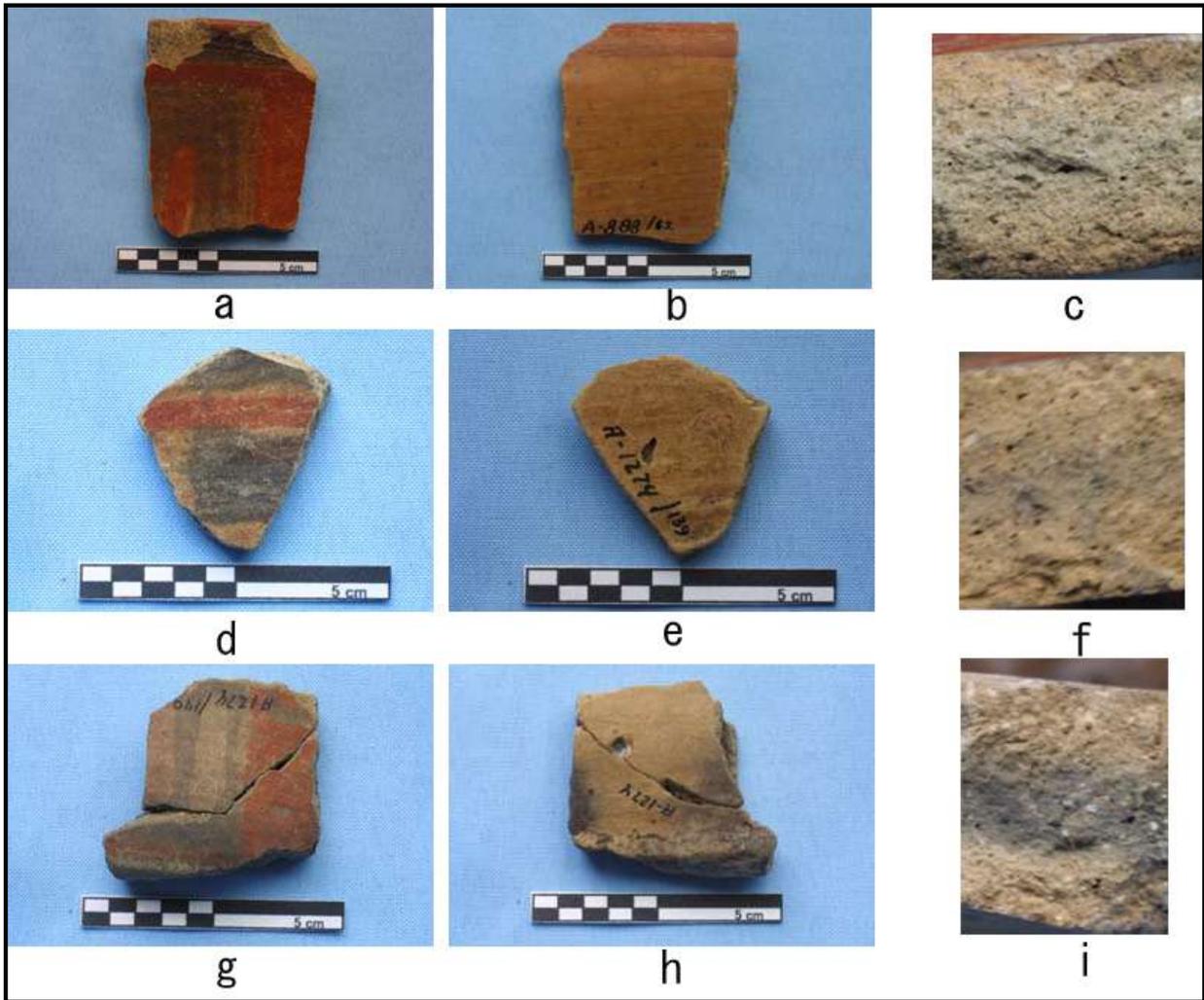


図 4-4-(11)-4 : 建造物 2 (T1) 出土の円筒形壺

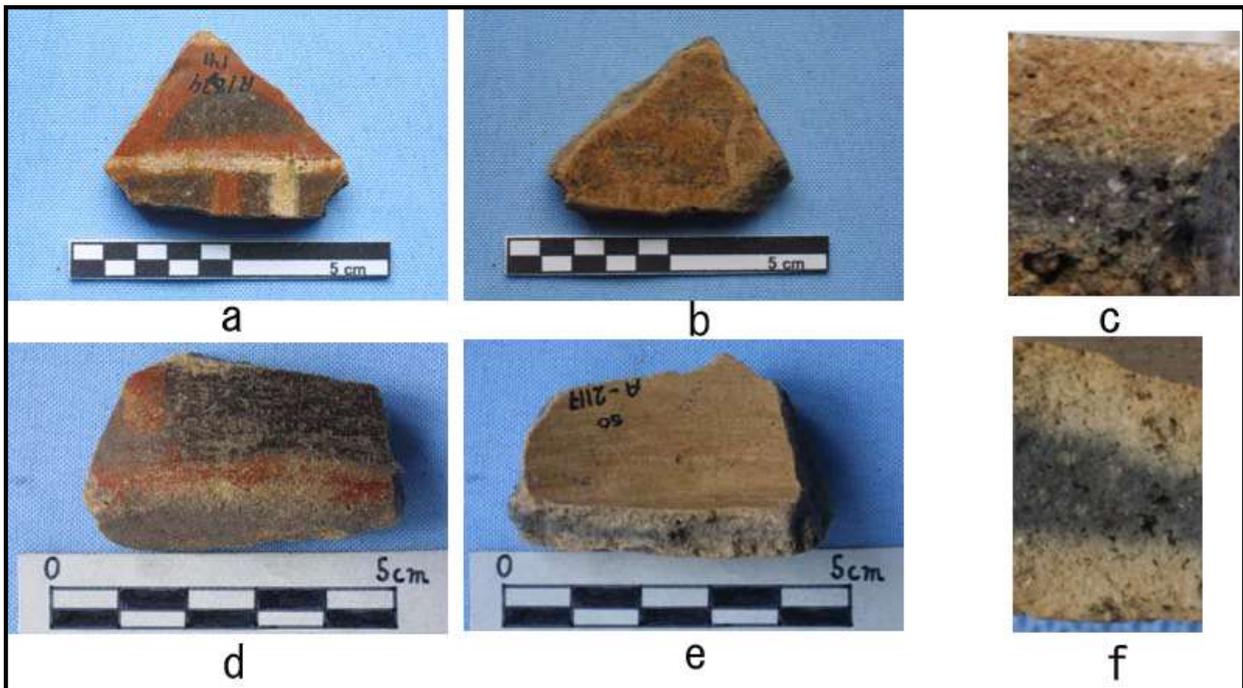


図 4-4-(11)-5 : a-c 建造物 2 (T1) 出土の円筒形壺、d-f 56 層 (T4) 出土の円筒形壺

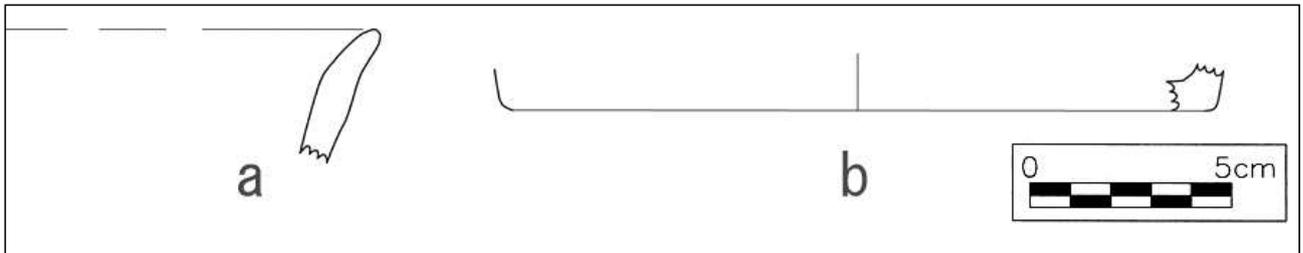


図 4-4-(11)-6 : 56 層 (T1) 出土の円筒形壺 (a: 図 4-4-(11):a-c の個体、b: 図 4-4-(11):d-f に対応)

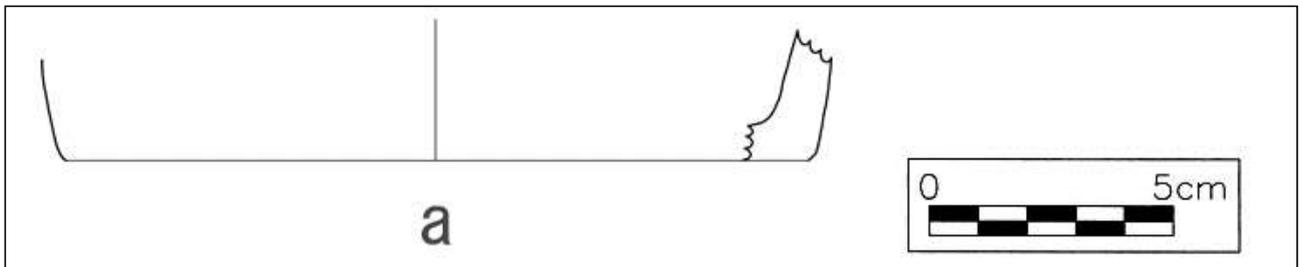


図 4-4-(11)-7 : 56 層 (T4) 出土の円筒形壺 (図 4-4-(11)-5:d-f に対応)

(12) テコマテ(Tecomate)

個体数 : N=1 (パトラチケ期の Painted Ware の Polychrome グループ中で 1.4%)

出土地点 :

表 4-4-(12)-1 : テコマテの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
テコマテ (Tecomate)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%

図版 : 図 4-4-(12)-1

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。Monochrome Red グループや Red on Natural グループとほぼ同じである。白や黒の細かい含有物を若干含む。胎土の色は、褐色系 (7.5YR5/4) である。

表面調整 : 表面仕上げは、内外面は良好で研磨される。表面の色は、赤色、黒色のペイント以外は、胎土と同じである。

装飾 : 赤色のバンド、黒色のバンドが外面に施される (図 4-4-(12)-1)。

器形 : 破片が小さくて全体聞けは復元できないが、口縁部から推定すると胴部が膨らむテコマテと考えられる。



図 4-4-(12)-1 : 建造物 5 (T12) 出土のテコマテ

<Negative グループ(N=26)>

(13) 碗(Bowl)

個体数 : N=25 (パトラチケ期の Painted Ware の Negative グループ中で 96.2%)

出土地点 :

表 4-4-(13)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	4	16.0%	7	28.0%	7	28.0%	0	0.0%	4	16.0%	0	0.0%	2	8.0%	1	4.0%	25	100.0%

図版 : 図 4-4-(13)-1～図 4-4-(13)-9

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。Painted Ware の他の器種とほぼ同じである。白や黒の細かい含有物を若干含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られるものもある。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR7/4、7.5YR6/6、5YR6/6、5YR6/4、10YR6/4)、褐色系 (7.5YR5/6)、赤褐色系 (5YR5/6、5YR5/4、2.5YR5/8) 等多様である。

表面調整 : 表面仕上げは、内外面とも良好で研磨される。表面の色は、装飾された以外は、ほぼ胎土と同じであるが、黒褐色系の外面のものもある (図 4-4-(13)-2:m)。

装飾 : 赤色のバンド、黒色のバンド、ネガティブ文様が見られる (図 4-4-(13)-1～図 4-4-(13)-3)。「月のピラミッド」出土の土器の特徴は、黒色のスリップあるいはペイントを施すことにより、ネガティブ文様を浮き出させるところにある (図 4-4-(13)-1)。

器形 : ①Simple Bowl (図 4-4-(13)-4、図 4-4-(13)-5) : 口径が 22.2cm～25.1cm で胴部が緩やかに内湾し、口縁部はまっすぐ伸びる。②Shouldered Bowl (図 4-4-(13)-6) : 口径は不明であるが、胴部上部が屈曲し口縁部が伸びる。③Outcurving Bowl (図 4-4-(13)-7、図 4-4-(13)-8) : 口径 35.6cm やや大型で口縁部が外反する碗。④Flaring Bowl (図 4-4-(13)-9) : 口径が 18.1cm～25.0cm で胴部が外傾し、口縁部

はまっすぐ伸びる。

この他にや Angled Bowl 、 Incurved Bowl などが見られる。

表 4-4-(13)-2 : 碗の口径

実測図	口径(cm)	写真	出土地	個体番号
<Simple Bowl>				
図4-4-(13)-4, a	25.1	-	建造物1(T3)	A-1630-21
図4-4-(13)-4, b	22.2	図4-4-(13)-2, j-l	建造物1(T3)	A-1924-14
図4-4-(13)-5, a	23.4	図4-4-(13)-3, a-c	56層(T1)	A-1155-16
図4-4-(13)-5, b	24.0	-	建造物4(T2)	A-3134-13
<Outcurving Bowl>				
図4-4-(13)-8, a	35.6	-	建造物2(T1)	A-1015-5
<Flaring Bowl>				
図4-4-(13)-9, a	18.1	-	56層(T1)	A-911-155
図4-4-(13)-9, b	21.7	図4-4-(13)-3, d-f	56層(T4)	A-1204-328
図4-4-(13)-9, c	25.0	-	建造物2(T1)	A-2117-46

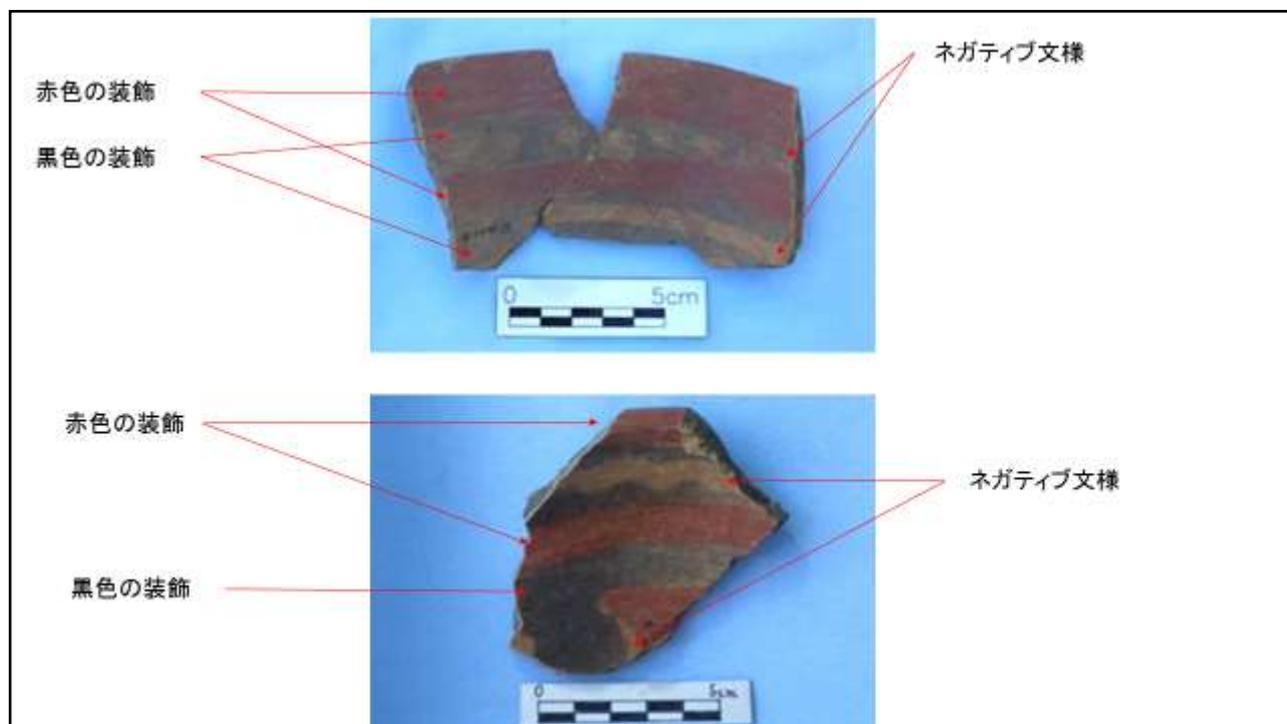


図 4-4-(13)-1 : 碗の装飾

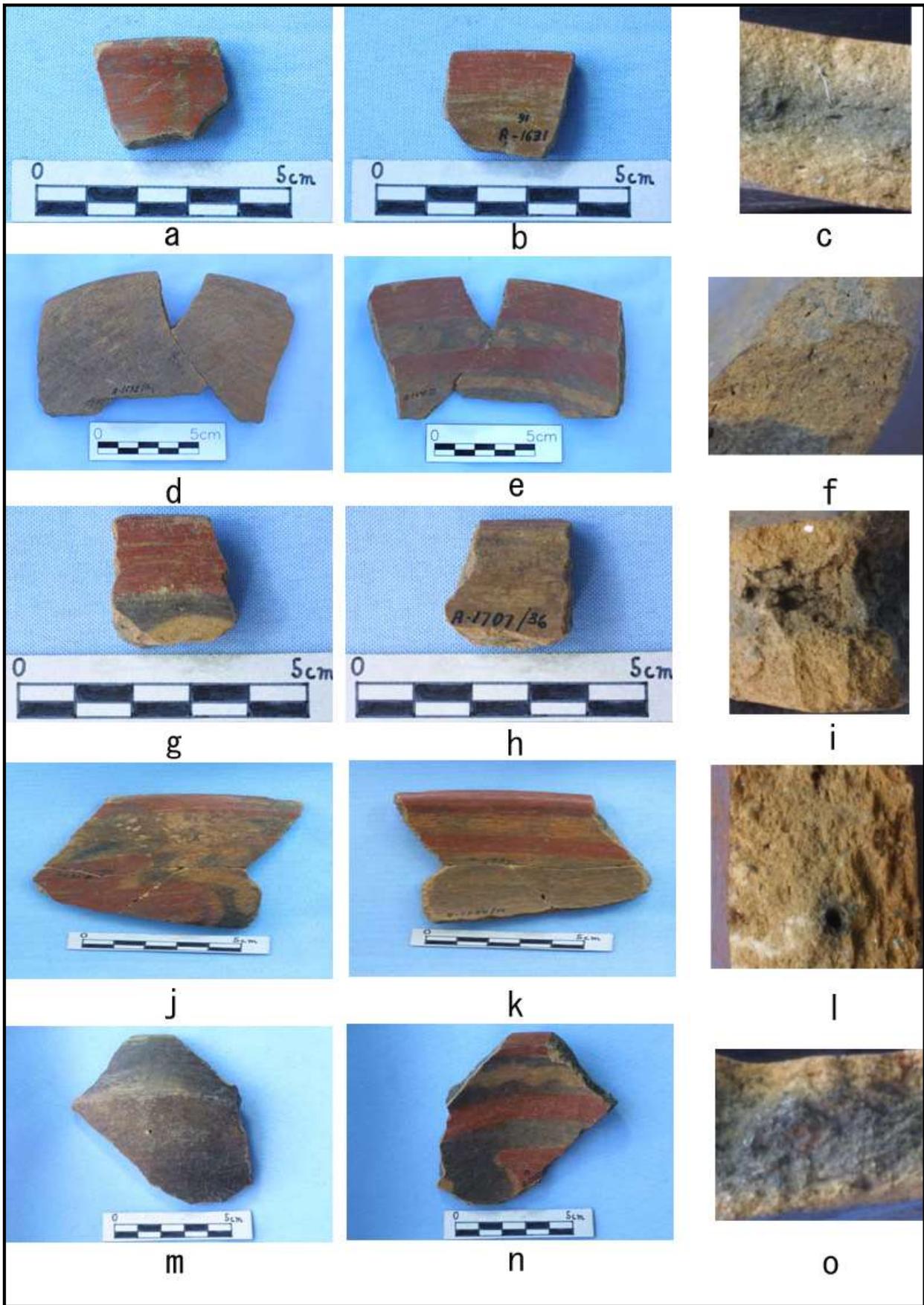


図 4-4-(13)-2 : 建造物 1 (T3) 出土の碗

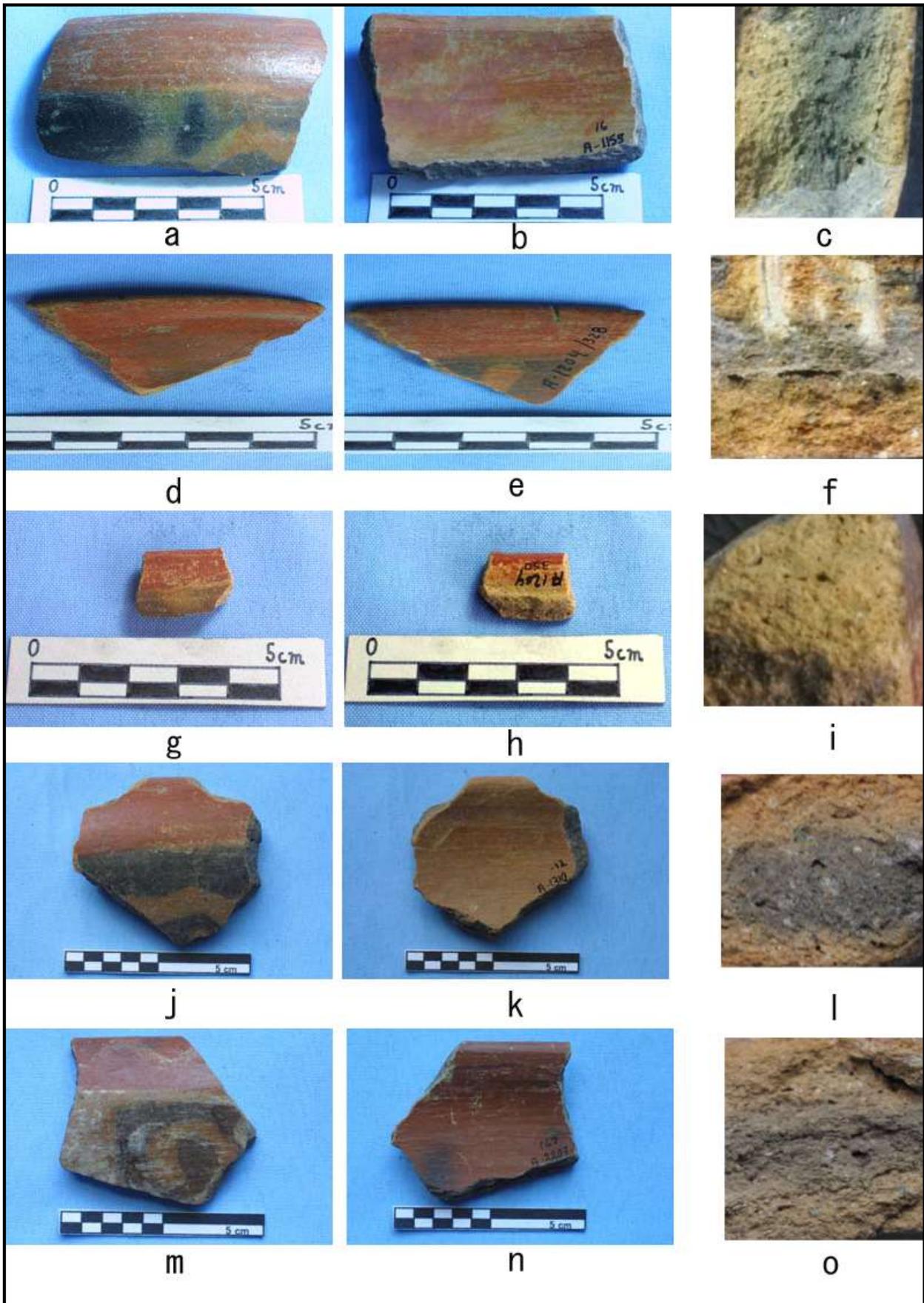


図 4-4-(13)-3 : a-i 56 層 (T1) 出土の碗、j-l 建造物 2 (T2) 出土の碗、
m-o 建造物 2 (T4) 出土の碗

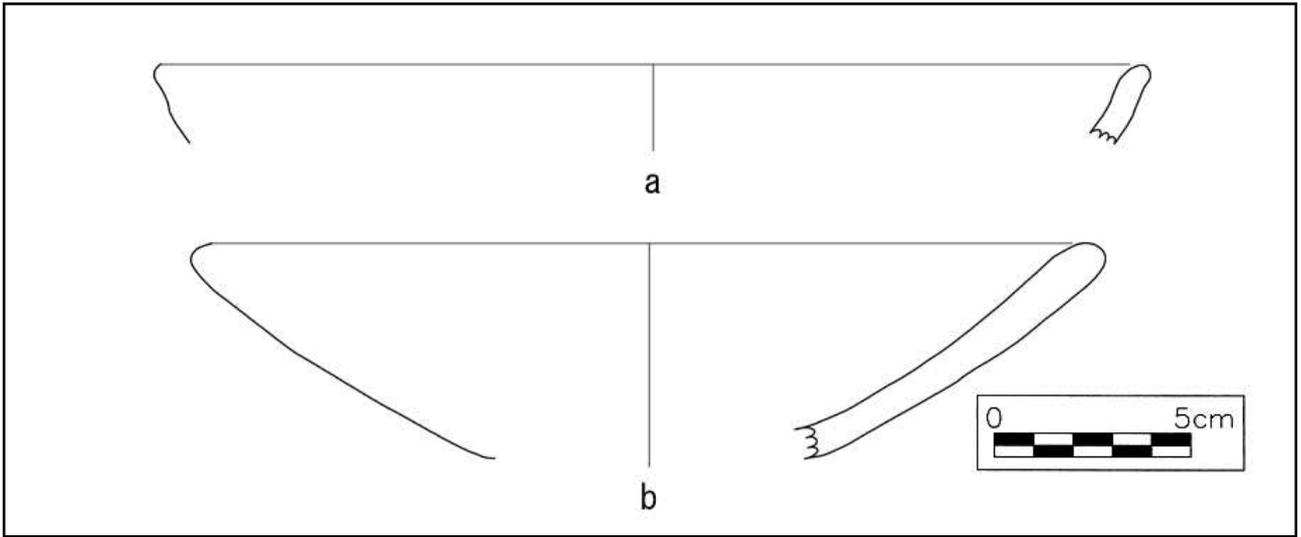


図 4-4-(13)-4 : 建造物 1 (T3) 出土の碗(Simple Bowl)

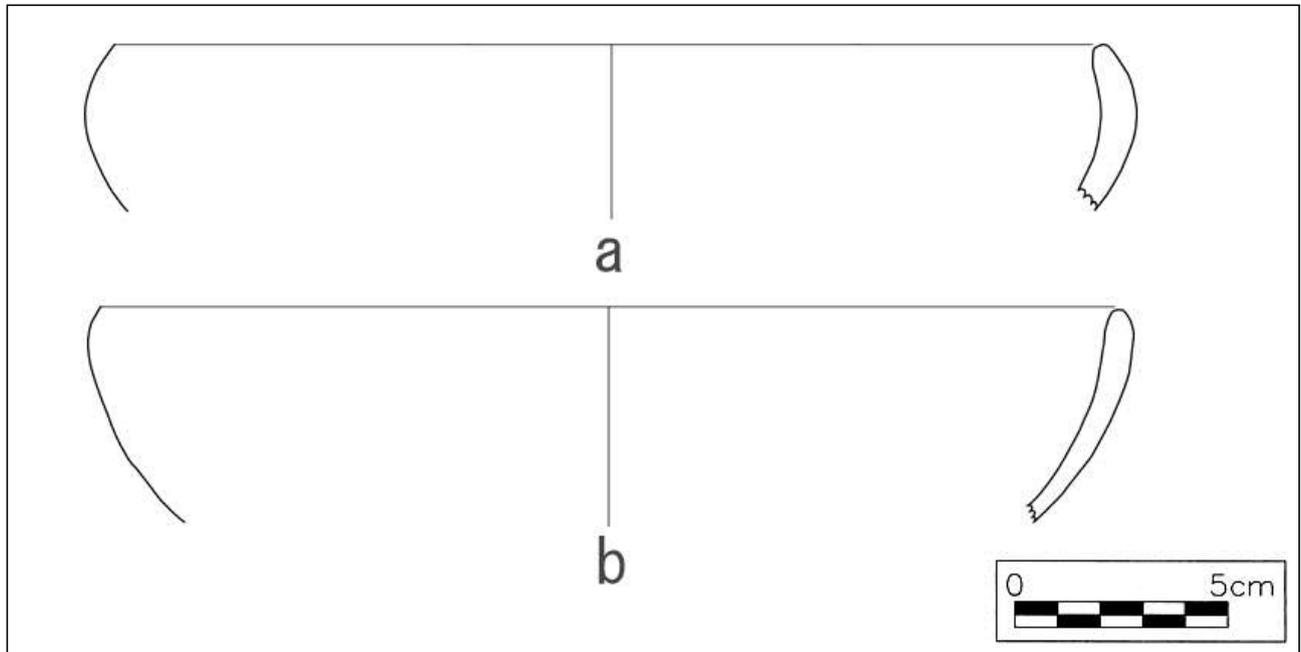


図 4-4-(13)-5 : a 56 層 (T1) 出土の(Simple Bowl) 、b 建造物 4 (T2) 出土の碗 (Simple Bowl)

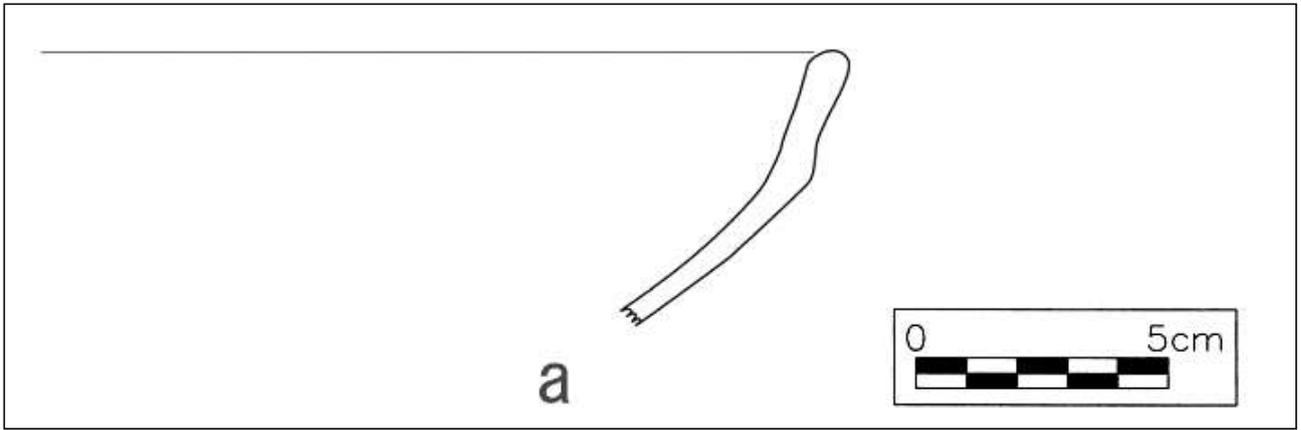


図 4-4-(13)-6 : 建造物 1 (T3) 出土の碗(Shouldered Bowl)

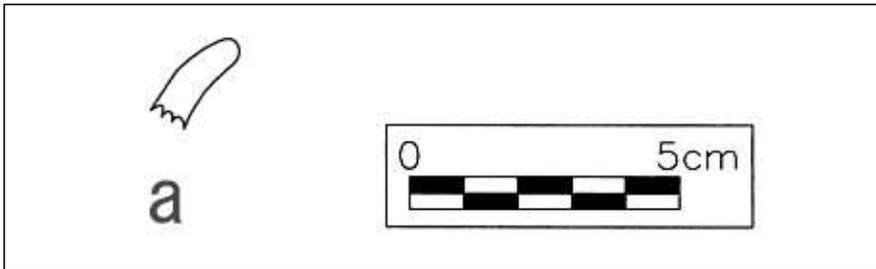


図 4-4-(13)-7 : 建造物 1 (T3) 出土の碗(Outcurving Bowl)

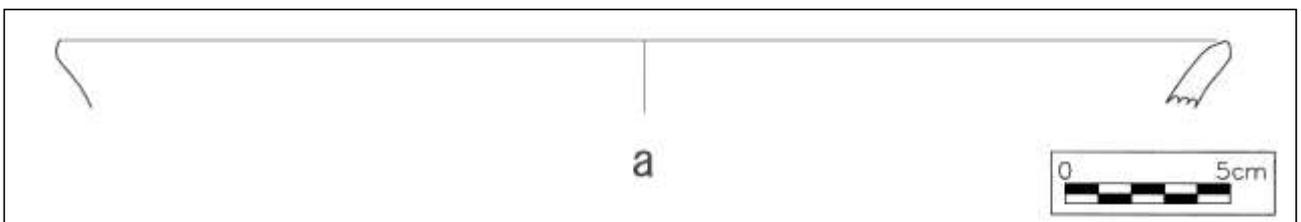


図 4-4-(13)-8 : 建造物 2 (T1) 出土の碗(Outcurving Bowl)

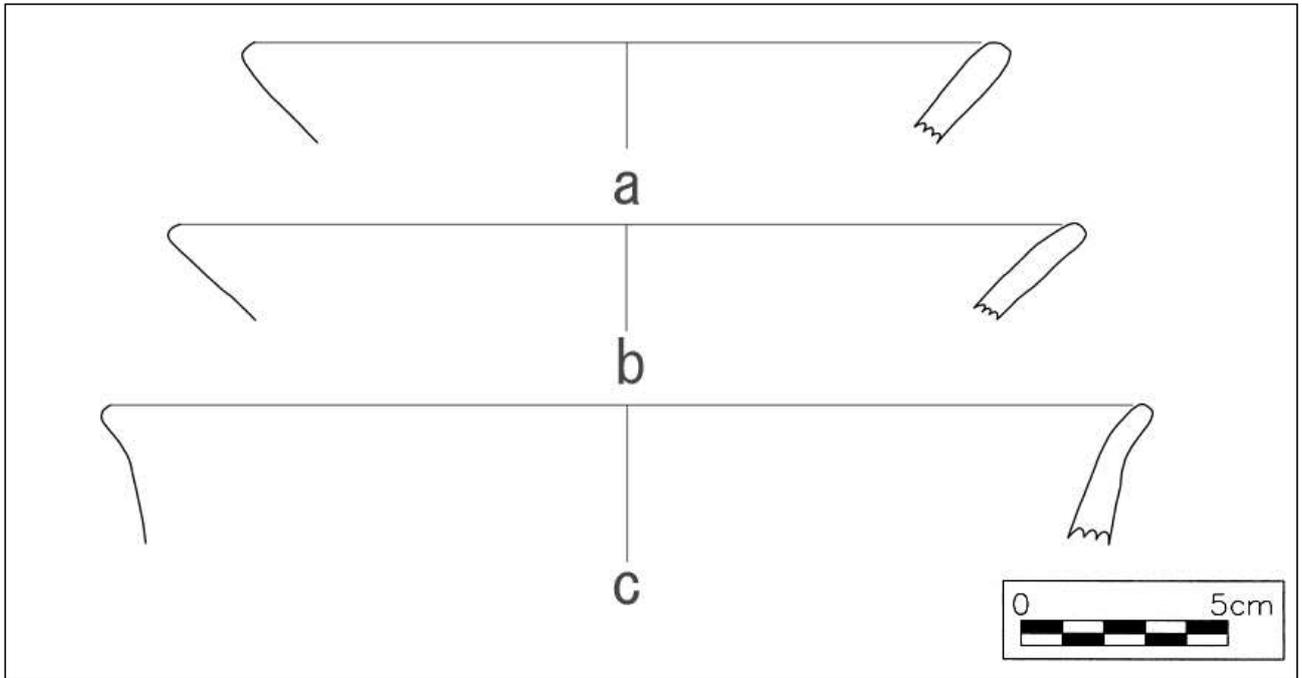


図 4-4-(13)-9 : a 56 層 (T1) 出土の碗(Flaring Bowl) 、 b 56 層 (T4) 出土の碗(Flaring Bowl)、 c 建造物 2 (T1) 出土の碗(Flaring Bowl)

(14) 円筒形壺(Vase)

個体数 : N=0 (胴部破片のみ)

図版 : 図 4-4-(1)-1~図 4-4-(14)-2

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。Painted グループの他の器種とほぼ同じである。白や黒の細かい含有物を若干含む。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/6) である。

表面調整 : 表面仕上げは、内外面とも良好で研磨される。特に外面は仕上げが良好である。表面の色は、装飾された以外は、ほぼ胎土と同じであるが、「図 4-4-(13)-1:a」は外面にはオレンジ系のスリップが施された可能性がある。

装飾 : 赤色のバンド、黒色のバンド、ネガティブ文様が見られる (図 4-4-(14)-1~図 4-4-(14)-2)。碗同様に、黒色のスリップあるいはペイントを施すことにより、ネガティブ文様を浮き出させている。



図 4-4-(14)-1 : 建造物 1 (T3) 出土の円筒形壺

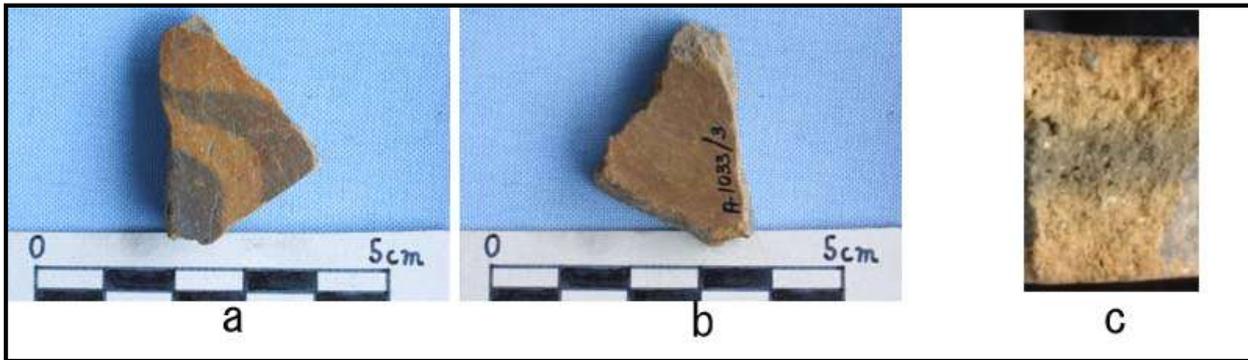


図 4-4-(14)-2 : 56 層 (T1) 出土の円筒形壺

(15) 皿(Dish)

個体数 : N=1 (パトラチケ期の Painted Ware の Negative グループ中で 3.8%)

出土地点 :

表 4-4-(15)-1 : 皿の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
皿 (Dish)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%

図版 : 図 4-4-(15)-1

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。Painted グループの他の器種とほぼ同じである。白や黒の細かい含有物を若干含む。また、焼成不良による黒色のバンドが見られる。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/6) である。

表面調整 : 表面仕上げは、内外面とも良好で研磨されているが、外面がやや粗い。表面の色は、装飾された以外は、ほぼ胎土と同じである。

装飾 : 赤色のバンド、黒色のバンド、ネガティブ文様が見られる (図 4-4-(15)-1)。碗と同様に黒色のスリップあるいはペイントを施すことにより、ネガティブ文様を浮き出させるところにある。

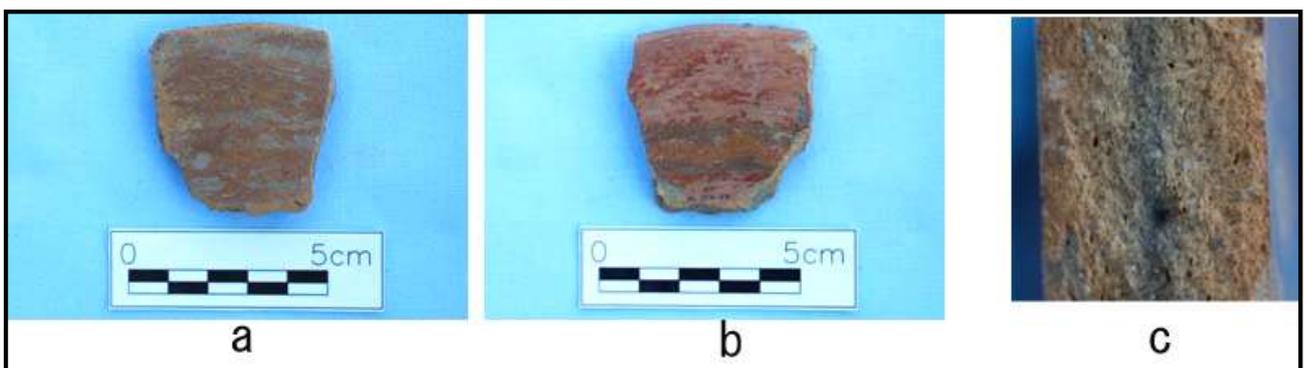


図 4-4-(15)-1 : 建造物 5 (T12) 出土の皿

(16) まとめ

表 4-4-(16)-1 : Painted Ware, Monochrome Red グループにおける出土地別器種構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他 ¹		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	6	100.0%	6	75.0%	26	92.9%	0	0.0%	19	70.4%	1	33.3%	13	86.7%	0	0.0%	2	100.0%	73	82.0%
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	1	3.6%	0	0.0%	1	3.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.2%
円筒形壺 (Vaseo)	0	0.0%	2	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	25.9%	2	66.7%	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	12	13.5%
不明	0	0.0%	0	0.0%	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.2%
合計	6	100.0%	8	100.0%	28	100.0%	0	0.0%	27	100.0%	3	100.0%	15	100.0%	0	0.0%	2	100.0%	89	100.0%

注1: 墳墓6の埋土 (relleno)

表 4-4-(16)-2 : Painted Ware, Red on Natural グループにおける出土地別器種構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他 ¹		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	18	90.0%	29	90.6%	85	91.4%	1	100.0%	26	96.3%	5	100.0%	18	94.7%	0	0.0%	2	100.0%	184	92.5%
壺 (Jar)	1	5.0%	0	0.0%	2	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.5%
円筒形壺 (Vase)	1	5.0%	2	6.3%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.0%
テコマテ (Tecomate)	0	0.0%	0	0.0%	4	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.0%
皿 (Dish)	0	0.0%	1	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.7%	0	0.0%	1	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.5%
不明	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%
合計	20	100.0%	32	100.0%	93	100.0%	1	100.0%	27	100.0%	5	100.0%	19	100.0%	0	0.0%	2	100.0%	199	100.0%

注1: 墳墓6の埋土 (relleno)

表 4-4-(16)-3 : Painted Ware, Polychrome グループにおける出土地別器種構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	3	75.0%	7	100.0%	29	93.5%	0	0.0%	10	90.9%	4	100.0%	13	100.0%	1	100.0%	67	94.4%
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	1	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%
円筒形壺 (Vase)	1	25.0%	0	0.0%	1	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.8%
テコマテ (Tecomate)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%
合計	4	100.0%	7	100.0%	31	100.0%	0	0.0%	11	100.0%	4	100.0%	13	100.0%	1	100.0%	71	100.0%

表 4-4-(16)-4 : Painted Ware, Negative グループにおける出土地別器種構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	4	100.0%	7	100.0%	7	100.0%	0	0.0%	4	80.0%	0	0.0%	2	100.0%	1	100.0%	25	96.2%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
皿 (Dish)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.8%
合計	4	100.0%	7	100.0%	7	100.0%	0	0.0%	5	100.0%	0	0.0%	2	100.0%	1	100.0%	26	100.0%

表 4-4-(16)-5 : Monochrome Red グループの碗
(N=73)の器形 (sub-form) 別構成比

sub-form	N	%
Simple Bowl	18	24.7%
Shoulderd Bowl	1	1.4%
Flaring Bowl	24	32.9%
Outcurving Bowl	14	19.2%
Incurved Bowl	7	9.6%
Angled Bowl	2	2.7%
その他・同定不能	7	9.6%
合計	73	100.0%

表 4-4-(16)-6 : Red on Natural グループの碗
(N=184)の器形 (sub-form) 別構成比

sub-form	N	%
Simple Bowl	69	37.5%
Shoulderd Bowl	8	4.3%
Flaring Bowl	65	35.3%
Outcurving Bowl	14	7.6%
Incurved Bowl	3	1.6%
Angled Bowl	15	8.2%
その他・同定不能	10	5.4%
合計	184	100.0%

表 4-4-(16)-7 : Polychrome グループの碗
(N=67)の器形 (sub-form) 別構成比

sub-form	N	%
Simple Bowl	27	40.3%
Shoulderd Bowl	2	3.0%
Flaring Bowl	24	35.8%
Outcurving Bowl	8	11.9%
Incurved Bowl	1	1.5%
Angled Bowl	4	6.0%
その他・同定不能	1	1.5%
合計	67	100.0%

表 4-4-(16)-8 : Negative グループの碗(N=25)
の器形 (sub-form) 別構成比

sub-form	N	%
Simple Bowl	13	52.0%
Shoulderd Bowl	1	4.0%
Flaring Bowl	5	20.0%
Outcurving Bowl	2	8.0%
Incurved Bowl	1	4.0%
Angled Bowl	3	12.0%
その他・同定不能	0	0.0%
合計	25	100.0%

表：4-4-(16)-9：Monochrome red グループにおける碗の出土地別器形（sub-form）の出現率

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		墳墓6の埋土		合計		
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	
Simple Bowl	3	16.7%	2	11.1%	8	44.4%	0	0.0%	1	5.6%	0	0.0%	4	22.2%	0	0.0%	0	0.0%	18	100.0%	
Shoulderd Bowl	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	
Flaring Bowl	1	4.2%	1	4.2%	11	45.8%	0	0.0%	3	12.5%	1	4.2%	6	25.0%	0	0.0%	1	4.2%	24	100.0%	
Outcurving Bowl	1	7.1%	0	0.0%	3	21.4%	0	0.0%	7	50.0%	0	0.0%	2	14.3%	0	0.0%	1	7.1%	14	100.0%	
Incurved Bowl	1	14.3%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	4	57.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	100.0%	
Angled Bowl	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%	
その他・同定不能	-																			7	-
合計	-																			73	-

表：4-4-(16)-10：Red on Natural グループにおける碗の出土地別器形（sub-form）の出現率

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		墳墓6の埋土		合計		
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	
Simple Bowl	7	10.1%	13	18.8%	33	47.8%	0	0.0%	10	14.5%	2	2.9%	4	5.8%	0	0.0%	0	0.0%	69	100.0%	
Shoulderd Bowl	0	0.0%	2	25.0%	2	25.0%	0	0.0%	1	12.5%	0	0.0%	2	25.0%	0	0.0%	1	12.5%	8	100.0%	
Flaring Bowl	6	9.2%	6	9.2%	38	58.5%	1	1.5%	3	4.6%	1	1.5%	10	15.4%	0	0.0%	0	0.0%	65	100.0%	
Outcurving Bowl	2	14.3%	0	0.0%	3	21.4%	0	0.0%	7	50.0%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.1%	14	100.0%	
Incurved Bowl	0	0.0%	3	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%	
Angled Bowl	1	6.7%	4	26.7%	6	40.0%	0	0.0%	3	20.0%	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	15	100.0%	
その他・同定不能	-																			10	-
合計	-																			184	-

表：4-4-(16)-11：Polychrome グループにおける碗の出土地別器形（sub-form）の出現率

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		墳墓6の埋土		合計		
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	
Simple Bowl	0	0.0%	1	3.7%	14	51.9%	0	0.0%	3	11.1%	1	3.7%	8	29.6%	0	0.0%	0	0.0%	27	100.0%	
Shoulderd Bowl	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%	
Flaring Bowl	1	4.2%	2	8.3%	14	58.3%	0	0.0%	2	8.3%	2	8.3%	3	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	24	100.0%	
Outcurving Bowl	0	0.0%	0	0.0%	1	12.5%	0	0.0%	4	50.0%	1	12.5%	1	12.5%	1	12.5%	0	0.0%	8	100.0%	
Incurved Bowl	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	
Angled Bowl	2	50.0%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%	
その他・同定不能	-																			1	-
合計	-																			67	-

表：4-4-(16)-12：Negative グループにおける碗の出土地別器形（sub-form）の出現率

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		墳墓6の埋土		合計		
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	
Simple Bowl	2	15.4%	4	30.8%	2	15.4%	0	0.0%	3	23.1%	0	0.0%	1	7.7%	1	7.7%	0	0.0%	13	100.0%	
Shoulderd Bowl	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	
Flaring Bowl	2	40.0%	0	0.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%	
Outcurving Bowl	0	0.0%	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%	
Incurved Bowl	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	
Angled Bowl	0	0.0%	1	33.3%	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%	
その他・同定不能	-																			0	-
合計	-																			25	-

<Painted Ware を構成する各グループの器種構成>

Monochrome Red グループの機種別構成比は、碗 82.0%、円筒形壺 13.5%、壺 2.2%である（表 4-4-(16)-1）。碗のなかでは、Flaring Bowl、Simple Bowl、Outcurving Bowl の割合が大きい（表 4-4-(16)-5）。

Red on Natural グループでは、碗が 92.5%と最も多く出土している（表 4-4-(16)-2）。碗の中では、Flaring Bowl、Simple Bowl が多い（表 4-4-(16)-6）。

Polychrome グループでも同様に、碗の出土率が 94.4%と高く（表 4-4-(16)-3）、Simple Bowl、Flaring Bowl、Outcurving Bowl が多い（表 4-4-(16)-7）。

Negative グループでも同様に、碗の出土率が 96.2%と高く（表 4-4-(16)-4）、Simple Bowl、Flaring Bowl が多い（表 4-4-(16)-8）

<パトラチケ期の Polished Ware の胎土、表面調整、装飾技法の特徴>

Painted Ware の胎土は、粘土質で硬い胎土であり、含有物も若干含まれるが良質の胎土である。器種間やグループ間の違いは無い。表面調整は、良く研磨されている。Red on Natural グループに見られる沈線は、焼成後に施文されたものである。

4-5 パトラチケ期のまとめ

(1) パトラチケ期の土器の特徴

表 4-5-(1)-1 : パトラチケ期の Ware レベル、グループレベルの構成比

	Wareレベルの個 体数	%	グループレベル の個体数	%
Matte Ware	7	0.6%		
①Corse Matte グループ			7	0.6%
Burnished Ware	468	41.6%		
①Monochrome Brown グループ			457	40.6%
②Painted Red グループ			11	1.0%
Polished Ware	265	23.6%		
(1)黒色グループ			102	9.1%
(2)褐色グループ			163	14.5%
Pintado Ware	385	34.2%		
①Monochrome Redグループ			89	7.9%
②Red on Naturalグループ			199	17.7%
③Polychromeグループ			71	6.3%
④Negativeグループ			26	2.3%
合計	1,125	100.0%	1,125	100.0%

表 4-5-(1)-2 : パトラチケ期の出土地別土器グループ出現率

	56層		建造物 1		建造物 2		建造物 3		建造物 4		建造物 5		建造物 6		建造物 7		その他 ¹		合計		
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%			
Matte Ware																					
①Corse Matte グループ	3	2.1%	2	1.0%	1	0.2%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7
Burnished Ware																					
①Monochrome Brown グループ	73	51.8%	53	26.9%	191	41.5%	5	62.5%	88	44.2%	16	51.6%	29	35.8%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	457
②Painted Red グループ	0	0.0%	0	0.0%	9	2.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11
Polished Ware																					
(1)黒色グループ	13	9.2%	42	21.3%	41	8.9%	0	0.0%	5	2.5%	0	0.0%	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	102
(2)褐色グループ	18	12.8%	46	23.4%	59	12.8%	2	25.0%	34	17.1%	3	9.7%	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	163
Painted Ware																					
①Monochrome Redグループ	6	4.3%	8	4.1%	28	6.1%	0	0.0%	27	13.6%	3	9.7%	15	18.5%	0	0.0%	2	50.0%	2	50.0%	89
②Red on Naturalグループ	20	14.2%	32	16.2%	93	20.2%	1	12.5%	27	13.6%	5	16.1%	19	23.5%	0	0.0%	2	50.0%	2	50.0%	199
③Polychromeグループ	4	2.8%	7	3.6%	31	6.7%	0	0.0%	11	5.5%	4	12.9%	13	16.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	71
④Negativeグループ	4	2.8%	7	3.6%	7	1.5%	0	0.0%	5	2.5%	0	0.0%	2	2.5%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	26
Total	141	100.0%	197	100.0%	460	100.0%	8	100.0%	199	100.0%	31	100.0%	81	100.0%	4	100.0%	4	100.0%	4	100.0%	1,125

「月のピラミッド」出土のパトラチケ期の Ware 構成は、Burnished Ware が最も多く出土し (41.6%)、次に Painted Ware (34.2%)、Polished Ware (23.6%)、と続く (表 4-5-(1)-1)。出土地点では、56 層、建造物 1、建造物 2、建造物 4、建造物 6 から多くのパトラチケ期の土器が出土している (表 4-5-(1)-2)。

Burnished Ware では、大型壺の” Wedge Rim” が特徴的であり、Polished Ware では、碗が多く出土している。また、Painted Ware では、赤色、白色を使用した文様やネガティブ技法を使った文様等が見られる。モチーフは、直線や波線、三角形や円等の幾何学的モチーフが主である。また、ネガティブ技法では、黒色のスリップをかけて地の色を浮き出させている。

テオティワカンに遺跡におけるパトラチケ期は、人口が増加し、その居住地域はテオティワカン盆地の北西側に集中している。特に、” Old City” と呼ばれている地域では、パトラチケ期の土器が多く収集されている。

パトラチケ期の土器に関しては、従来はブラッチャーやテオティワカン地図プロジェクトによって収集された資料しか無く、詳細な分析は出来ない時期の土器であった。「月のピラミッド」の資料は、他地域との比較やテオティワカンの起源を探るうえで基礎資料として重要である。

(2) トラチノルパンとの比較

ブラッチャー(Blucher)によると、トラチノルパン(Tlachinolpan)遺跡¹⁴のパトラチケ期には、Burnished Ware(97.2%)、Polished Ware (1.8%)、Resist Ware (0.65%)、Dense Ware (0.25%)、Coarse Ware (0.10%)の 5 つの Ware が報告されている(Blucher 1971: 304-362)。

¹⁴ トラチノルパン遺跡は、テオティワカン盆地の北西部の Cerro Malinalco 中腹に位置し、1962 年からのミリオン (Millon) による遺跡の分布調査によって発見され、1967 年からブラッチャー等によって発掘調査が行われた。

表4-5-(2)-1:トラチノルパン遺跡におけるパトラチケ期の土器¹⁾

土器のグループ	パトラチケ期の土器全体における割合(%)
Burnished Ware	97.20
A. Plain	84.50
Olla	49.10
Jar	4.80
Tecomate	2.40
Basin	0.35
Comal	0.05
Bowls	25.60
Supports	1.25
Plate	0.05
Vase	0.90
B. Decorated Monochrome	0.45
C. Bichrome	11.60
Olla	0.65
Jar	1.20
Tecomate	0.05
Bowl	7.20
Support	0.50
Plate	0.05
Vase	0.10
Others	1.85
D. Polychrome	0.60
Jar	0.05
Tecomate	0.05
Bowl	0.50
Polished ware	1.80
A. Plain Monochrome	0.85
B. Decorated monochrome	0.35
C. Bichrome	0.50
D. Incised Bichrome	0.05
E. Polychrome	0.05
Resist Ware	0.65
Dense Ware	0.25
Coarse Ware	0.10

註

1) この表はBlucher 1971の報告書から筆者が作成

さらにそれぞれのグループは、装飾の違いや器形の違いによってさらに細分されている。

Burnished Ware に属する無装飾の土器群(Plain)では、大型壺、壺、碗、テコマテ、円筒形壺、皿、コマル、カスエラ、ベーズンの器種があり、大型壺や碗が多く出土する。大型壺の器形の特徴は、“Wedge Rim”と呼ばれる口縁部の形にある。この口縁部は、口唇部にかけて肥厚し、口唇部が平らになる。ベニホフ等によると、この“Wedge Rim”は、パトラチケ期の時期を決定する指標とされている(Bennyhoff and Millon 1967)。碗は、様々な器形のバリエーションが認められる。その中で、代表的な器形は、Shouldered Bowl で胴部の中央部または上部にかけて突出部をもち断面図では“S”字型の形の胴部になるもの、Simple Bowl と呼ばれるなだらかに内湾する胴部を有するもの等である。テコマテは、メキシコ盆地では、この時期を最後に消滅する(Blucher 1971:313)。

沈線等の装飾を持つ土器群

(Decorated Monochrome)は出土数が少ないが、装飾技法としては沈線(Incision)や刺突文(Punctuation)や口唇部に造形を加えたものが報告されている。

彩色を有する土器群では、Burnishedされた土器の表面の上に赤色や白色の単色で文様を描いたものと(Bichrome)と赤色と白色の2色で文様を描いたもの(Polychrome)の2種類がある。Bichromeの器種としては大型壺、壺、テコマテ、碗、皿、円筒形壺があり、その中で碗や壺が多い。碗の中では、前述した Shouldered Bowl や Simple Bowl の他に、なだらかに内湾する胴部から口縁部が垂直に立ち上がる Rim-angled Bowl や胴部が外傾する Flaring Bowl 等が一般的である。文様は、碗では一般的に口唇部および口縁部内部に赤色のバンドが施される。その他、山形文などの文様も見られる。大型壺や壺では、碗同様

に口唇部や口縁部に赤色のバンドがある以外は、胴部の外面に水平の赤色バンドが施される。

Polished Ware は、全体として出土数が少ないが、胎土は、**Burnished Ware** と同様に良質である。表面は、良く研磨され光沢がある。浅い研磨痕が見られる。

無装飾の土器群(**Plain Monochrome**)では、表面の色が黒色 (29.4%:トラチノルパン出土のパトラチケ期の **Plain Monochrome** 中での割合、以下同様)、赤褐色(**Red-brown**:23.5%)、褐色(**Brown**:17.6%)、赤色(11.8%)と続く。器種は、碗、壺、円筒形壺である。装飾を持つ土器群では、沈線を用いた装飾が施される。デザインとしては、一本の水平線、2本の平行線、複数の沈線で斜線を構成するものなどがある。彩色を施された土器群では、赤色の顔料を使って、土器の内面に、単純な赤色のバンドが施される。**Polychrome** では、赤色のバンドと白色の山形紋の組み合わせが見られる。

Dense Ware は、非常に良質のキメの細かい硬い胎土を持つが、テンパーは少数ながら大型のものが入れられる。表面は、比較的によく磨かれ、研磨された土器に近い。器種としては **Olla** のみである。

Coarse Ware は、砂質の胎土で、表面はナデ調整が施されるだけである。この時期の **Coarse Ware** を構成する器種は、儀式用の香炉である。

ネガティブ文様を持つ土器は、**Burnished Ware** や **Polished Ware** のそれぞれの土器グループに見られる。土器の表面の色 (**Brown**) とネガティブ文様を組み合わせたもの (**Bichrome Resist**)とそれに赤色のペイントが付け加えられたもの (**Polychrome Resist**) に分類されている。**Polychrome Resist** では、大型壺や壺あるいは碗等の器種がある。大型壺では、外面に縦の赤色のバンドと三角形のネガティブ文様の組み合わせ、碗では内外面に赤色のバンドやサークルとネガティブ文様の組み合わせが見られる。

トラチノルパン遺跡のパトラチケ期の土器では、**Burnished Ware** の無装飾タイプが 84.5%、**Polished Ware** の文様の無いタイプが 0.85%であり、構成比から考えると「月のピラミッド」の資料とは異なる。「月のピラミッド」出土のパトラチケ期の土器には、**Polished Ware** の黒色グループや褐色グループ等の研磨系の土器が比較的多い。この違いは、パトラチケ期における時代差を示している可能性がある。

(3) メキシコ盆地南部の遺跡との比較

メキシコ盆地の南部には、円形ピラミッドで有名なクィクィルコ(**Cuicuilco**)遺跡がある。ミューラーの報告によるとクィクィルコ 7 期がパトラチケ期に相当する (Müller 1990)。クィクィルコ 7 期の土器は、大きく **Coarse Matte group**、**Burnished group**、**Polished group** がある。**Bichrome Resist** の碗の器形は、**Shouldered Bowl** で口縁部にサークルや波型文等のネガティブ文様が見られる。出土数については報告されていないので、それぞれのグループの構成比は比較できない。

クィクィルコの **Coarse Matte** グループではコップ状の香炉が出土している。このタイプの香炉は「月のピラミッド」の資料では見られないが、ベニホフ等は類似の香炉を報告している (Bennyhoff and Millon 1967)。**Burnished** グループでは、取手付の大型壺やカスエラが見られる。**Polished** グループでは、ネガティブ文様を持つ土器、赤色、褐色、

黒色等の単色研磨土器、Red on Natural や Polychrome 等の彩色土器が見られる。器形では、三脚付碗や口唇部が歯状になる碗、胴部が波型になる碗、胴部の断面が S 型になる湾 (Shouldered Bowl) などがあり (Müller 1990: Lam.36-42)、トラチノルパンや「月のピラミッド」の土器と類似している。

テママトラ遺跡は、メキシコ盆地の南側に位置する遺跡である。2000年にこの遺跡の土器の報告書が出版された (Ramírez, Felipe, Lorena Gámez, Fernán González y Mari Carmen Serra 2000)。この遺跡は次の5つの時期が認められている。土器の種類は、香炉 (タイプ名: Mesa sin engobe terminal)、Burnished Brown グループ (タイプ名: Agua alisado)、Polished グループ (タイプ名: Cuicuilco bayo, Cuicuilco rojo)、彩色グループ (タイプ名: Cuicuilco rojo sobre bayo)、ネガティブ文様グループ (タイプ名: Negativo terminal) がある。Agua alisado タイプでは、口縁部が外反する Olla がある。口縁部内側がやや削り取られる成形は、「月のピラミッド」のサクワリ期の土器によく見られる。また、Negativo terminal タイプや Cuicuilco bayo タイプも「月のピラミッド」の土器に類似するものが認められる。

5章 テオティワカン「月のピラミッド」出土のサクワリ期の土器

5-1 Matte Ware (個体数 N=261、サクワリ期全体の中で 14.3%)

<Coarse Matte グループ (個体数 N=20) >

(1) 香炉(Censer)

個体数 : N=10 (サクワリ期の Coarse Matte グループの中で 50.0%)

出土地点 :

表 5-1-(1)-1 : 香炉の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
香炉 (Censer)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	10.0%	8	80.0%	0	0.0%	1	10.0%	0	0.0%	10	100.0%

図版 : 図 5-1-(1)-1～図 5-1-(1)-2

胎土 : 胎土は、やや粘土質で柔らかい。含有物はあまり含まない。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR 6/6、7.5YR 6/4、5YR 6/6)、褐色系 (7.5YR 5/4)、赤褐色 (5YR5/8、2.5YR 5/8) である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、ナデ調整が行われるだけであり、色は胎土とほぼ同じであるが、表面には黒色の焼け跡が見られる場合もある。

装飾 : 口縁部外側にはアップリケの装飾が見られる。

器形 : 口縁部が外側に肥厚する香炉である。

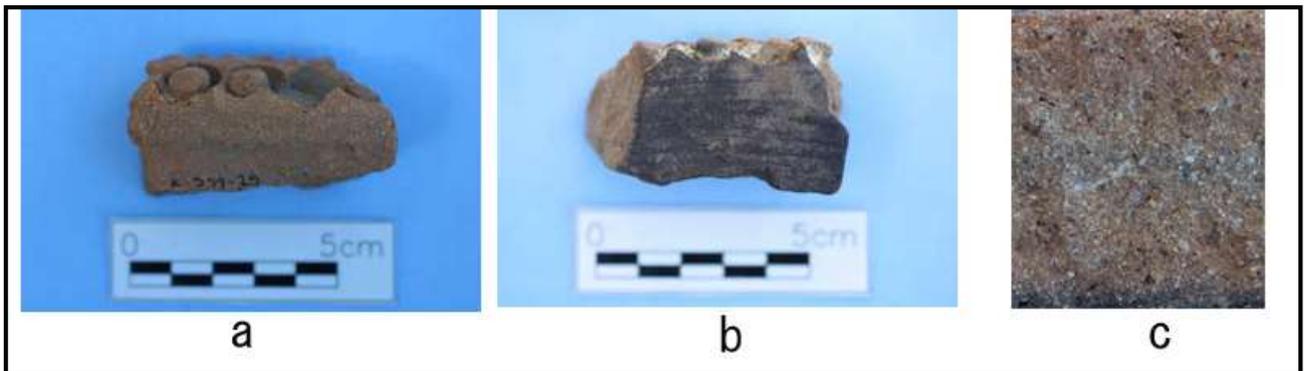


図 5-1-(1)-1 : 建造部 4 (T12) 出土の香炉

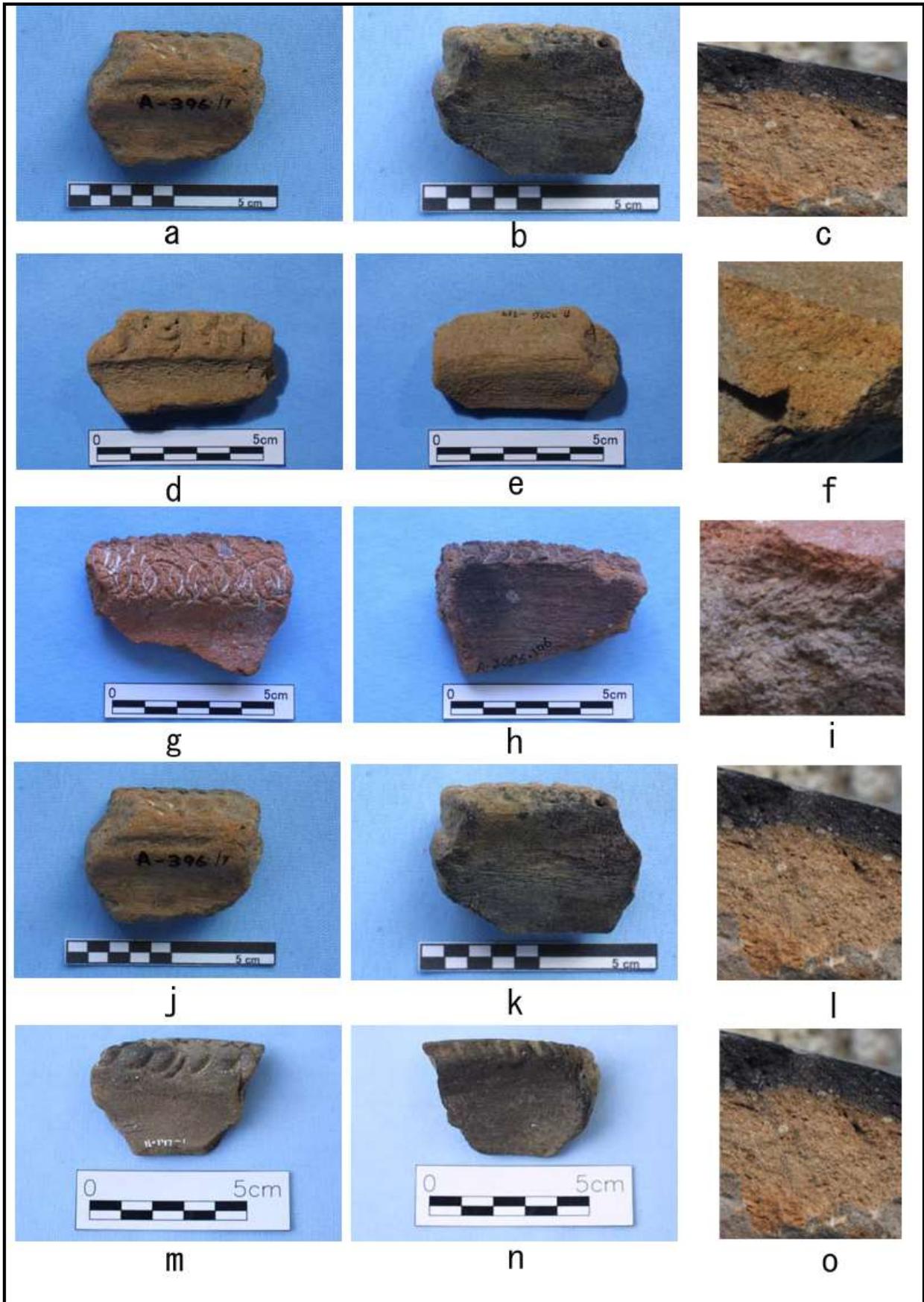


図 5-1-(1)-2: a-c 建造物 3 (T1)出土の香炉、d-l 建造物 4 (T2)出土の香炉、m-o 建造物 6 (T8)出土の香炉

(2) 小型の碗型香炉 (Small Censer Bowl)

個体数 : N=9 (サクワリ期の Coarse Matte グループの中で 45.0%)

出土地点 :

表 5-1-(2)-1 : 小型碗型香炉の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
小型碗型香炉 (Small Censer Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	100.0%

図版 : 図 5-1-(2)-1

胎土 : 胎土は、砂質で肌理が粗く硬くない。白や黒の含有物を含む場合もある。胎土の色は、褐色系 (7.5YR 5/4)、赤褐色 (5YR5/8、2.5YR 5/8、2.5YR 4/6) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、ナデ調整が行われるだけであり、色は胎土とほぼ同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 小型の碗が見られる。

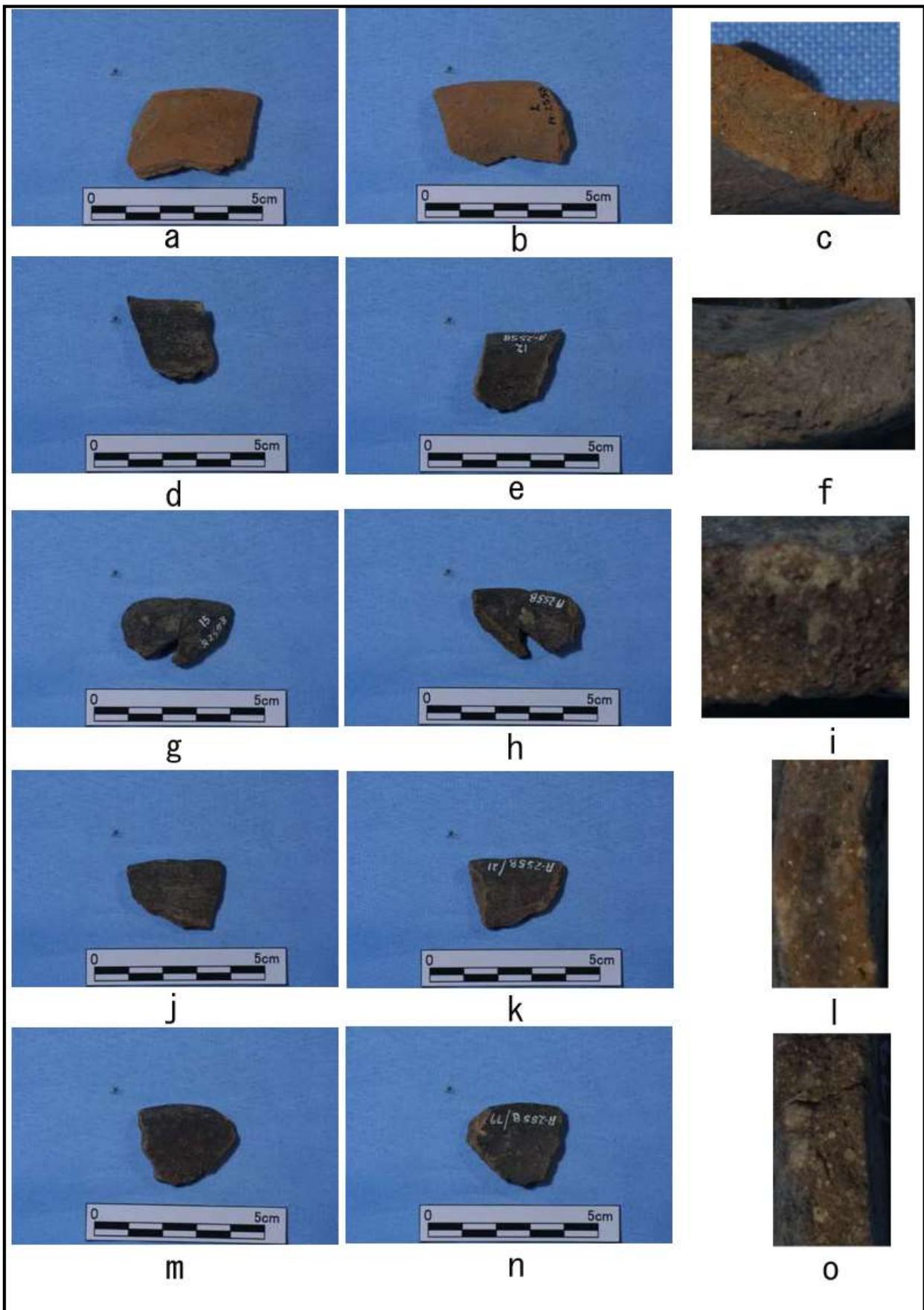


図 5-1-(2)-1 : 建造物 4 (T12) 出土のミニチュア

<Fine Matte グループ>

(3) ミニチュア (Miniature)

個体数 : N=4 (サクワリ期の Fine Matte グループの中で 1.7%)

出土地点 :

表 5-1-(3)-1 : ミニチュアの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		墳墓2の埋土		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
ミニチュア (Miniature)	0	0.0%	1	25.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	50.0%	0	0.0%	4	100.0%

図版 : 図 5-1-(3)-1~図 5-1-(3)-3

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。含有物はほとんど含まない。胎土の色は、褐色系 (7.5YR 5/4)、赤褐色系 (5YR 5/6) である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、ナデ調整が行われる。色は胎土とほぼ同じである。

装飾 : 赤色のペイントが外面に施される場合がある (図 5-1-(3)-2 : g)。

器形 : 小型の碗、壺がある。



図 5-1-(3)-1 : 建造物 4 (T2) 出土のミニチュア



図 5-1-(3)-2 : 建造物 1 (T3) 出土のミニチュア

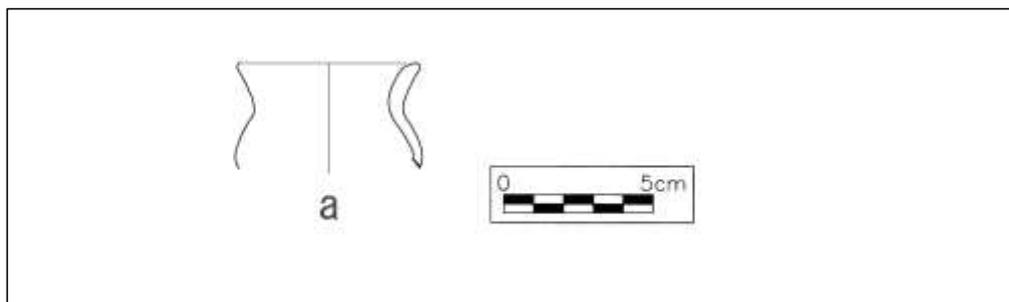


図 5-1-(3)-3 : 建造物 1 (T3) 出土のミニチュア

(4) カバープレート(Cover Plate)

個体数 : N=215 (サクワリ期の Fine Matte グループの中で 89.2%)

出土地点 :

表 5-1-(4)-1 : カバープレートの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		墳墓2の埋土		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
カバープレート (Cover Plate)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	205	95.3%	2	0.9%	2	0.9%	0	0.0%	6	2.8%	215	100.0%

図版 : 図 5-1-(4)-1～図 5-1-(4)-2

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく柔らかい。含有物はほとんど含まない。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR 7/6、7.5YR 7/4) である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、ナデ調整が行われる。色は胎土とほぼ同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 口径が 11.5cm～19.7cm の香炉の蓋と考えられるカバープレートである (図 5-1-(4)-2)。

コメント : カバープレートは、建造物 4 の盛土から大量に出土している。特にトンネル 2 の 149 層 (CXLIX 層)からは 160 個のカバープレートが出土している。

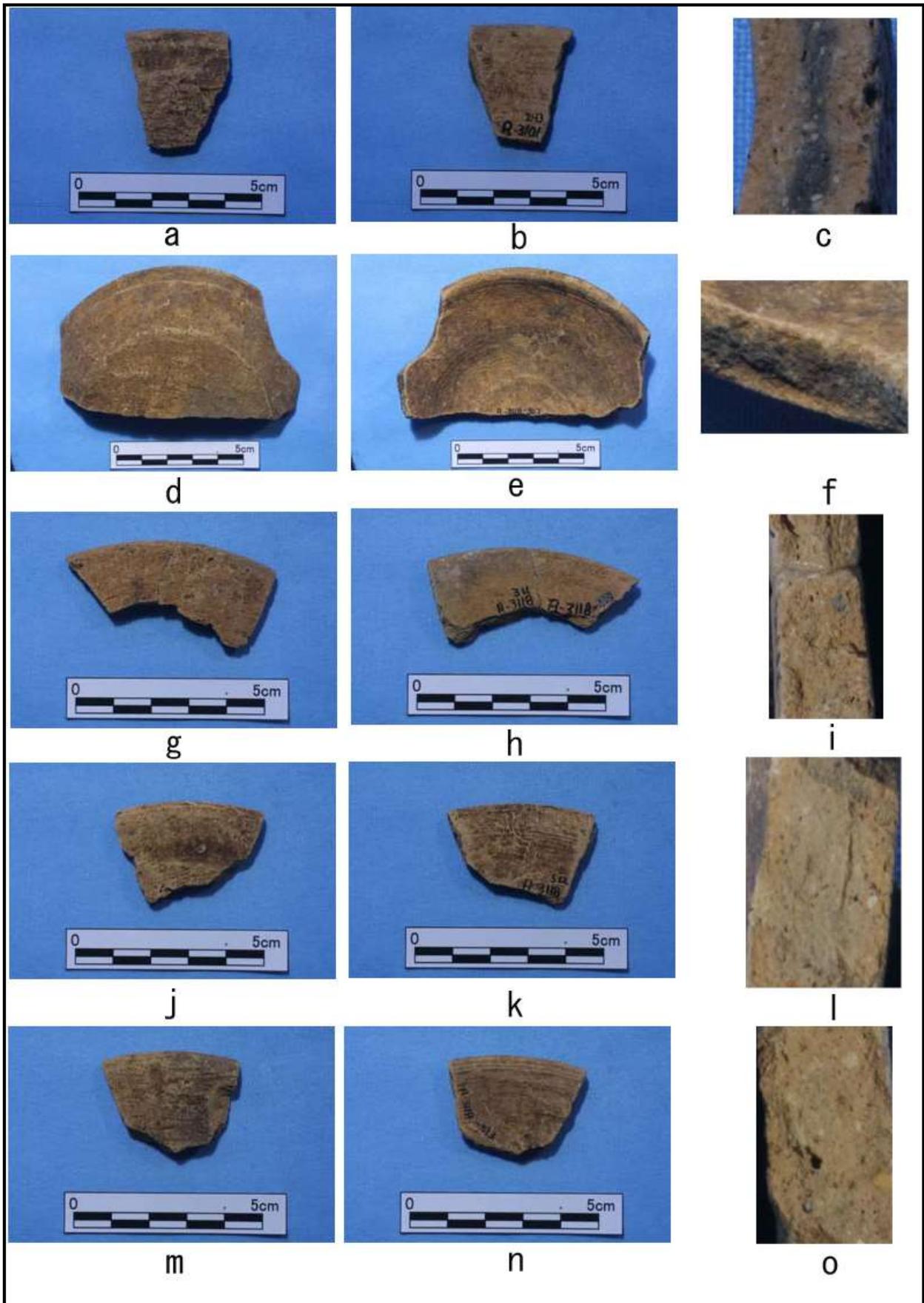


図 5-1-(4)-1 : 建造部 4 (T2) 出土のカバプレート

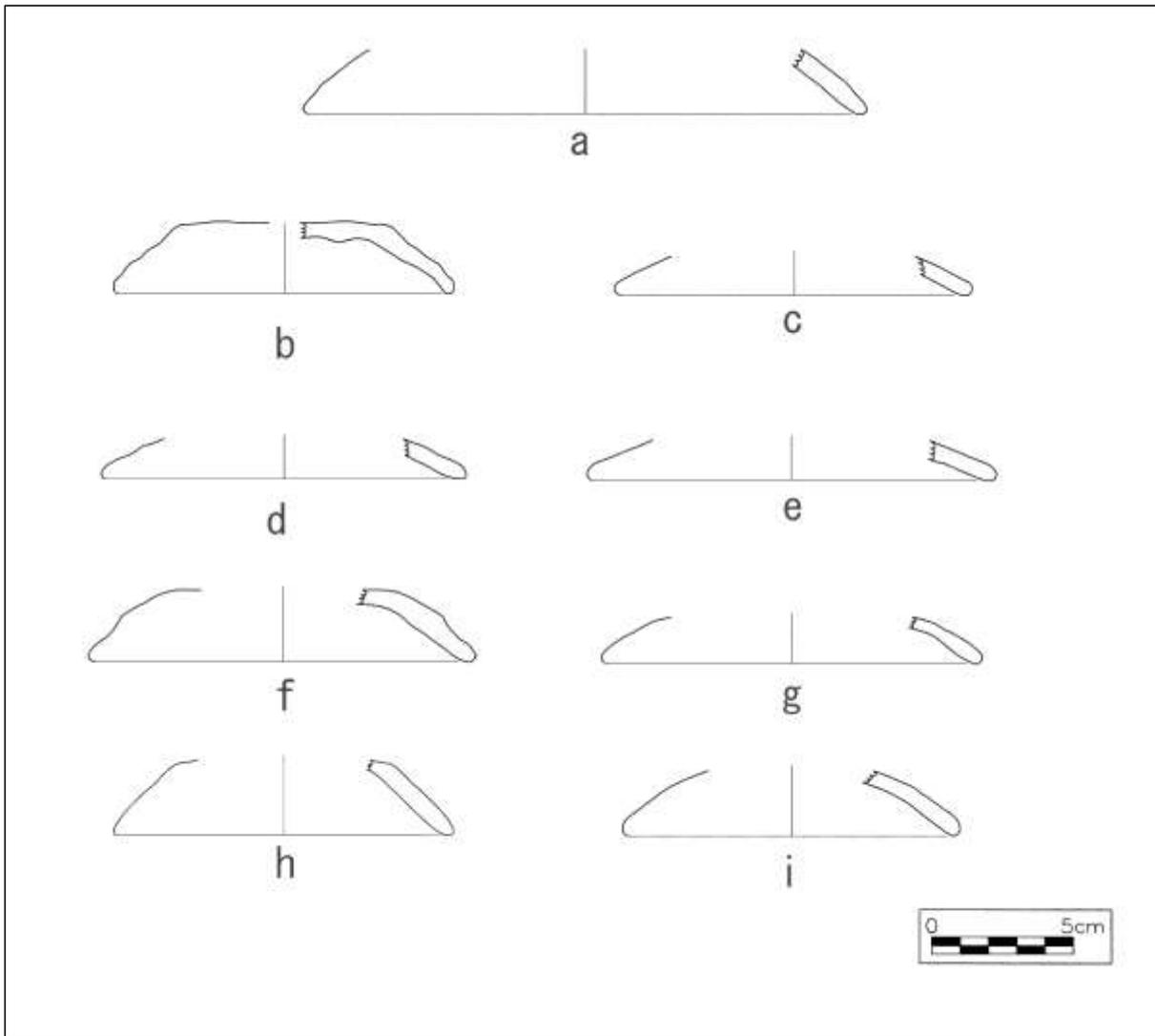


図 5-1-(4)-2 : 建造部 4 (T2) 出土のカバープレート

(5) 碗(Bowl)

個体数 : N=20 (サクワリ期の Fine Matte グループの中で 8.3%)

出土地点 :

表 5-1-(5)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		墳墓2の埋土		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	2	10.0%	0	0.0%	13	65.0%	0	0.0%	2	10.0%	2	10.0%	1	5.0%	20	100.0%

図版 : 図 5-1-(5)-1 ~ 図 5-1-(5)-3

胎土 : 胎土は、粘土質で肌理が細かく硬い。含有物はほとんど含まない。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR 7/4、7.5YR 6/6、7.5YR 6/4、5YR 7/4、5YR 6/6)、赤褐色系 (2.5YR 5/8) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、ナデ調整が行われる。色は胎土とほぼ同じである。

装飾 : 口縁部がギザギザになる Indented rim が見られるものもある (図 5-1-(5)-3)。

器形 : 口径が 11.6cm の碗 (図 5-1-(5)-2) や波状口縁を持つ碗 (5-1-(5)-3) がある。

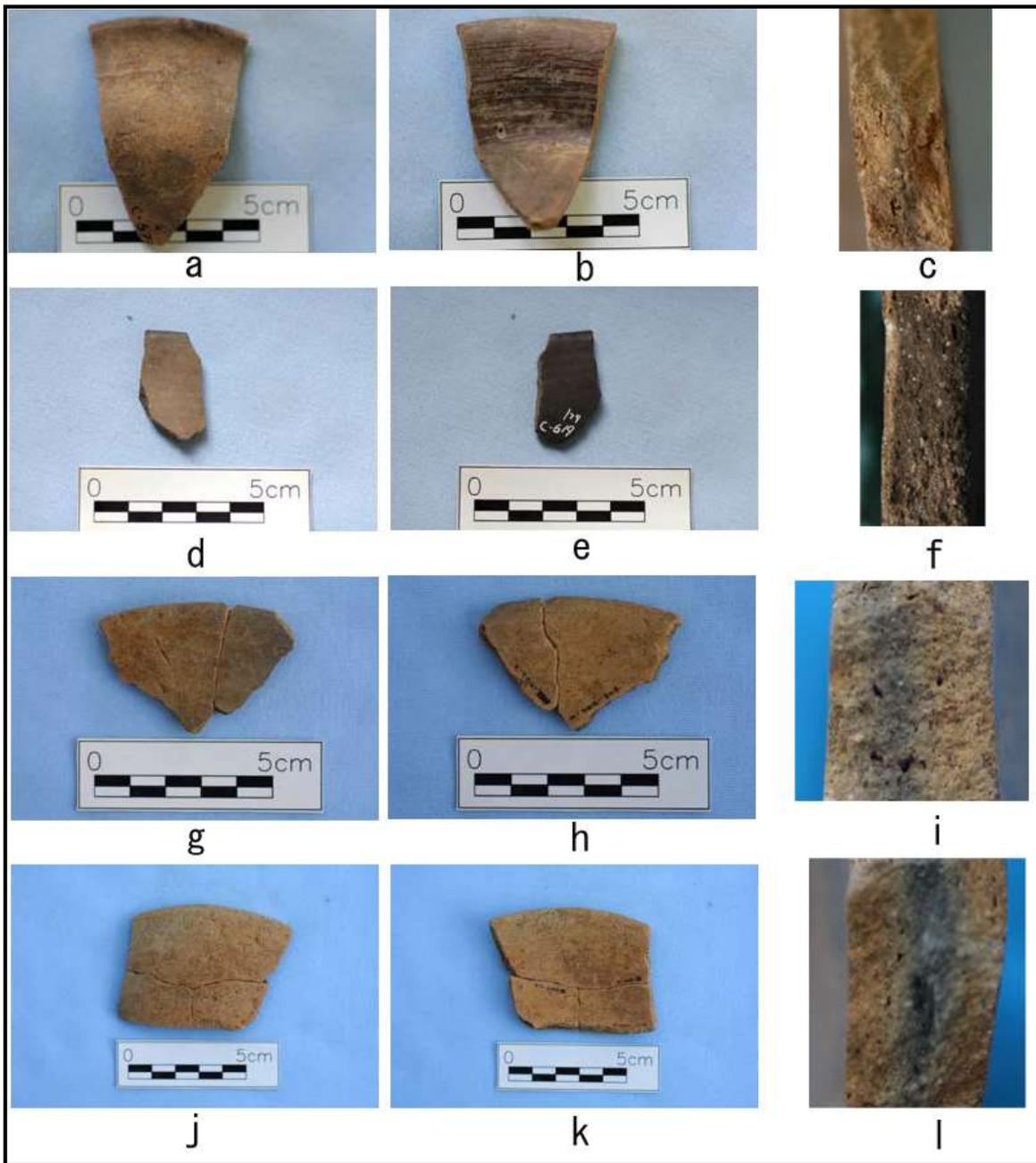


図 5-1-(5)-1 : a-f 建造物 7 (Frente C)出土の碗、g-l:建造物 4 (T12)出土の碗

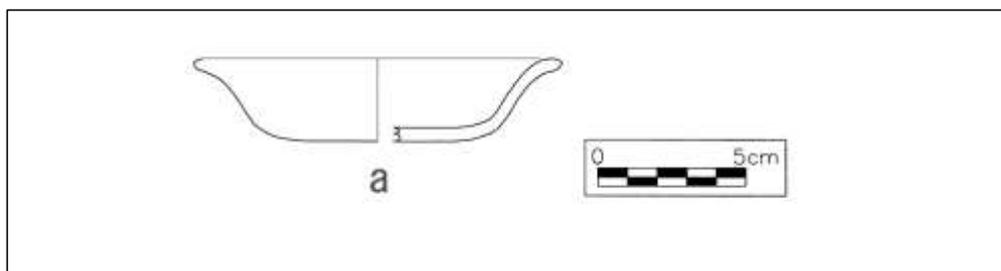


図 5-1-(5)-2 : 建造物 7 (Frente C)出土の碗

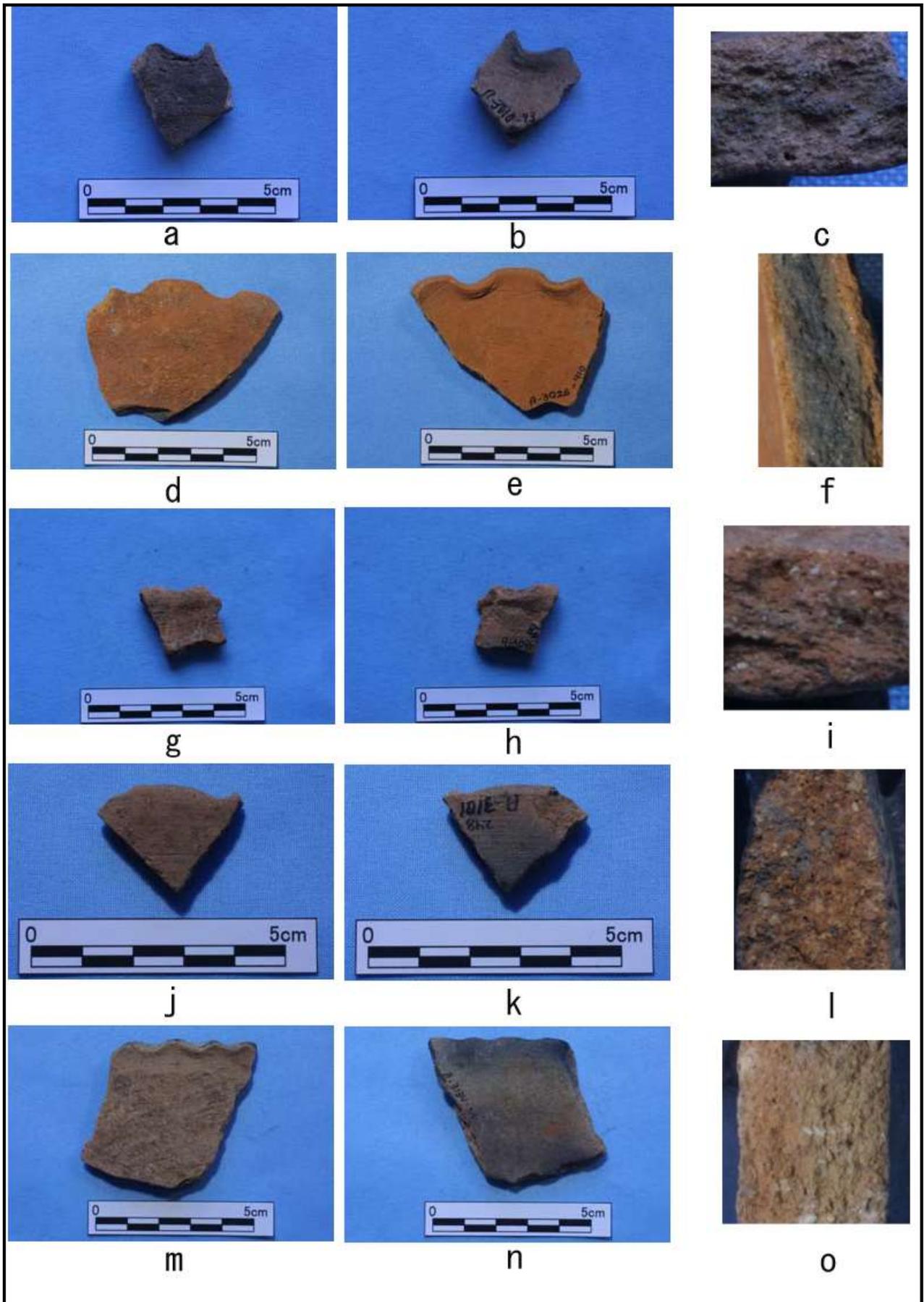


図 5-1-(5)-3 : 建造物 4 (T2) 出土の碗

(6) まとめ

表 5-1-(6)-1 : Coarse Matte グループの出土地別器種構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
香炉 (Censer)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	8	44.4%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	10	50.0%
小型碗型香炉 (Small Censer Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	45.0%
器種不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.0%
合計	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	18	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	20	100.0%

表 5-1-(6)-2 : Fine Matte グループの出土地別器種構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		墳墓2の埋土		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
ミニチュア (Miniature)	0	0.0%	1	100.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	50.0%	0	0.0%	4	1.7%
カバープレート (Cover Plate)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	205	93.6%	2	100.0%	2	50.0%	0	0.0%	6	85.7%	215	89.2%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	2	50.0%	0	0.0%	13	5.9%	0	0.0%	2	50.0%	2	50.0%	1	14.3%	20	8.3%
器種不明	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.8%
合計	0	0.0%	1	100.0%	4	100.0%	0	0.0%	219	100.0%	2	100.0%	4	100.0%	4	100.0%	7	100.0%	241	100.0%

Coarse Matte グループでは、香炉と小型碗型香炉が出土している。香炉は、口縁部が肥厚し刺突文が施される。この刺突文は、「太陽のピラミッド」出土の香炉の刺突文と類似している (Smith 1987, fig.23)。また、ラットレイの報告の中にも類似の土器が見られる (Rattray 2001, fig.23)。両者とも後期サクワリ期に位置づけられている。また、小型碗型香炉に関しては、ラットレイも報告している (Rattray 2001:127)。ラットレイによると口縁部に沈線の文様や取手などを有する土器であるが、「月のピラミッド」出土の小型碗型香炉には見られない。Fine Matte グループでは、カバープレートの出土数がこのグループの中では 89.2% と多い。このカバープレートは前述したように建造物4の盛土であるトンネル2の149層から大量に出土した。また、Indented rim を持つ碗も出土している (図 5-1-(5)-3)。これは、ラットレイの報告にある碗と同じ特徴を有している (Rattray 2001: fig.30,h)。「月のピラミッド」出土のサクワリ期の土器片では、サクワリ期前期と後期を区別することが出来ないが、サクワリ期後期の土器の特徴が多く見られる。

ラットレイによると、Fine Matte グループもサクワリ前期に出現する新しいグループである。このタイプの表面調整は、ナデ調整 (Smoothing) のみが行われている。器種は、ミニチュア、碗 (Shouldered Bowl、Simple Bowl)、カバープレートである。胎土は細かい白色や黒色のテンパーを含むが良質である。後期も器種構成は、ミニチュア土器と碗 (Simple Bowl、Flaring Bowl) であるが、Flaring Bowl では口唇部がギザギザになるような装飾が加えられる土器 (Indented rim) もある (Rattray 2001: 125-127、139-141)。

5-2 Burnished Ware (個体数 N=715、サクワリ期全体の中で 39.2%)

<Monochrome Brown グループ (個体数 N=707) >

(1) 大型壺(Olla)

個体数 :N=395(サクワリ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループ中で 55.9%)

出土地点 :

表 5-2-(1)-1 : 大型壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
大型壺(Olla)	4	1.0%	2	0.5%	94	23.8%	0	0.0%	151	38.2%	35	8.9%	91	23.0%	13	3.3%	5	1.3%	395	100.0%

図版 : 図 5-2-(1)-1~図 5-2-(1)-11

胎土 : 胎土は、①砂質で肌理が粗く、多くの含有物を含む胎土と(図 5-2-(1)-2:c, f, i, l, o、図 5-2-(1)-4:c, f, i, l 等)、②やや粘土質で白色含有物を含むもの(図 5-2-(1)-1:c, f, i, l, o 等) 2種類ある。また、焼成不良による黒色のバンドもしばしば見られる。胎土の色は、バリエーションが多いが、オレンジ系(7.5YR 6/6、7.5YR6/4、10YR6/4)、褐色系(7.5YR5/4、7.5YR4/3)、赤褐色系(5YR5/6、5YR5/4、5YR5/3、2.5YR5/8) 等である。

ラットレイによると、「太陽のピラミッド」から出土したサクワリ期後期の Burnished Ware に属する大型壺には、①白色含有物を含む良質の胎土、②多くの白色、オレンジ、黄色の含有物を含む、やや荒い胎土、③砂質の荒い胎土の3種類の胎土が報告されている(Rattray 2001:143)。

表面調整 : 表面の仕上げはやや雑で、粗い研磨痕が見られる。色は胎土とほぼ同じであるが、表面が黒色を呈する土器も見られる。

装飾 : 無し。

器形 : 口縁部が、丸く肥厚する round wedge rim (図 5-2-(1)-8:d) や口縁部が四角くなる beveled wedge rim(図 5-2-(1)-9:b、図 5-2-(1)-10)などが見られる。口径は、21.0cm~40.8cm の範囲である(表 5-2-(1)-2)。

表 5-2-(1)-2 : 大型壺の口径

実測図	口径(cm)	写真	出土地	個体番号
図 5-2-(1)-8, a	21.0	図5-2-(1)-1, a-c	建造物2(T1)	A-1124-120
図 5-2-(1)-8, b	26.5	図5-2-(1)-1, d-f	建造物2(T1)	A-1125-30
図 5-2-(1)-8, c	34.1	図5-2-(1)-1, g-i	建造物2(T1)	A-1125-43
図 5-2-(1)-8, d	26.9	図5-2-(1)-1, j-l	建造物2(T1)	A-1130-45
図 5-2-(1)-8, e	22.8	図5-2-(1)-1, m-o	建造物2(T1)	A-1149-106
図 5-2-(1)-9, a	-	図5-2-(1)-2, a-c	建造物4(T12)	K-194-143
図 5-2-(1)-9, b	-	図5-2-(1)-2, d-f	建造物4(T12)	K-194-166
図 5-2-(1)-10, a	32.4	-	建造物4(T2)	A-3120-112
図 5-2-(1)-10, b	40.8	図5-2-(1)-3, m-o	建造物4(T2)	A-3120-162
図 5-2-(1)-11, a	24.6	図5-2-(1)-7, a-c	建造物1(T3)	A-1830-19
図 5-2-(1)-11, b	-	図5-2-(1)-7, d-f	建造物1(T3)	A-2010-16

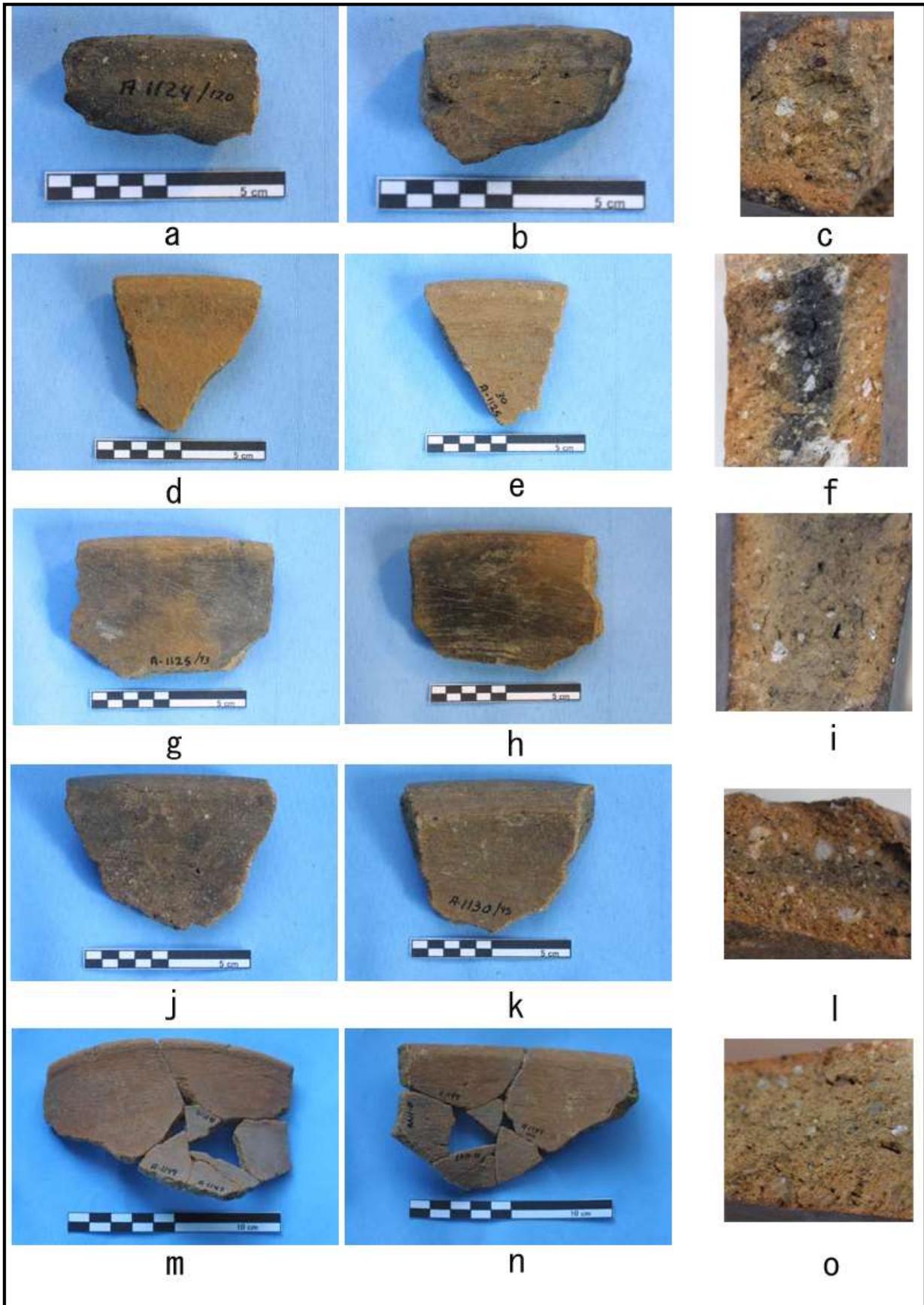


図 5-2-(1)-1 : 建造物 2 (T1) 出土の大型壺

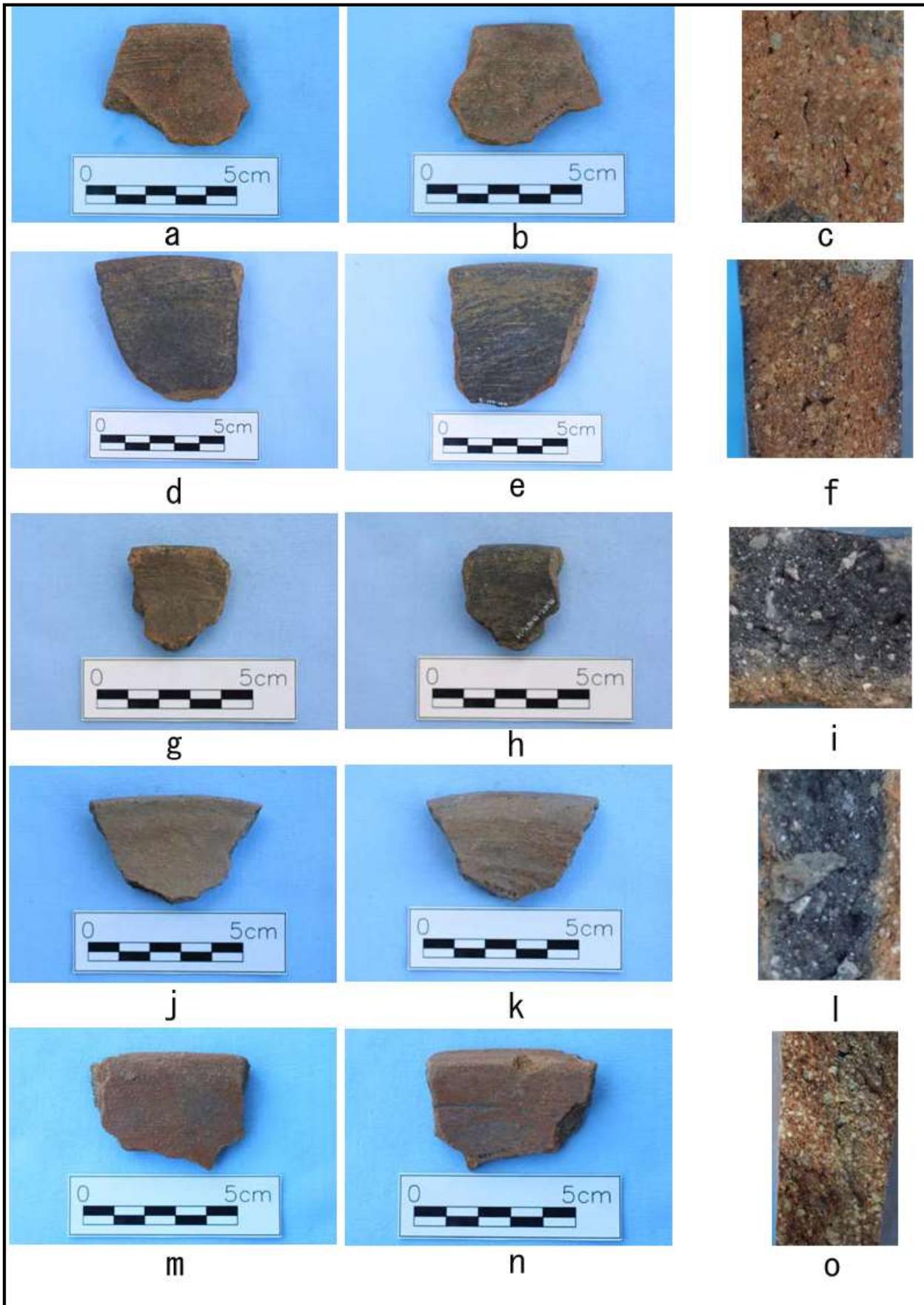


図 5-2-(1)-2 : 建造物 4 (T12) 出土の大型壺

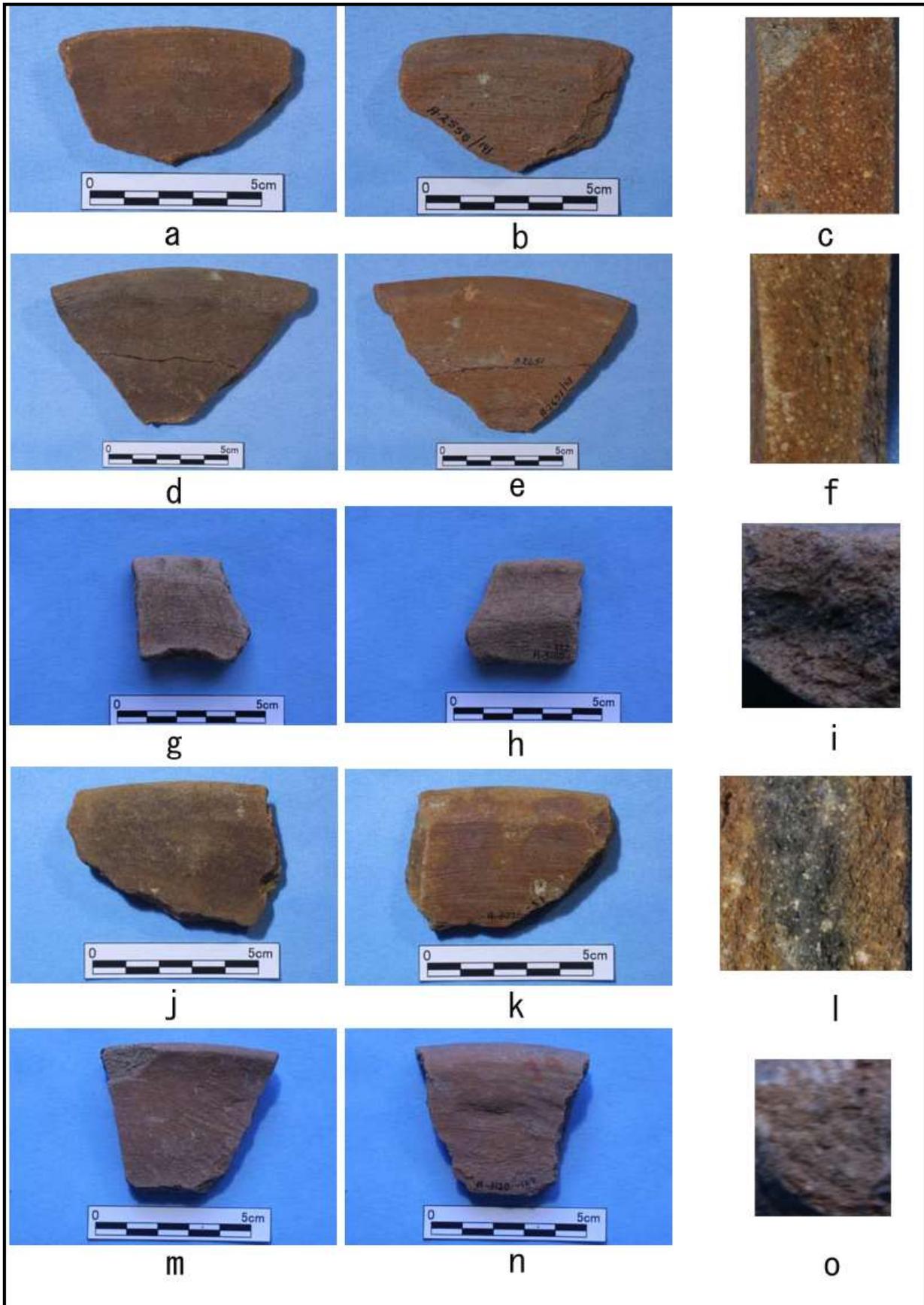


図 5-2-(1)-3 : 建造物 4 (T2) 出土の大型壺

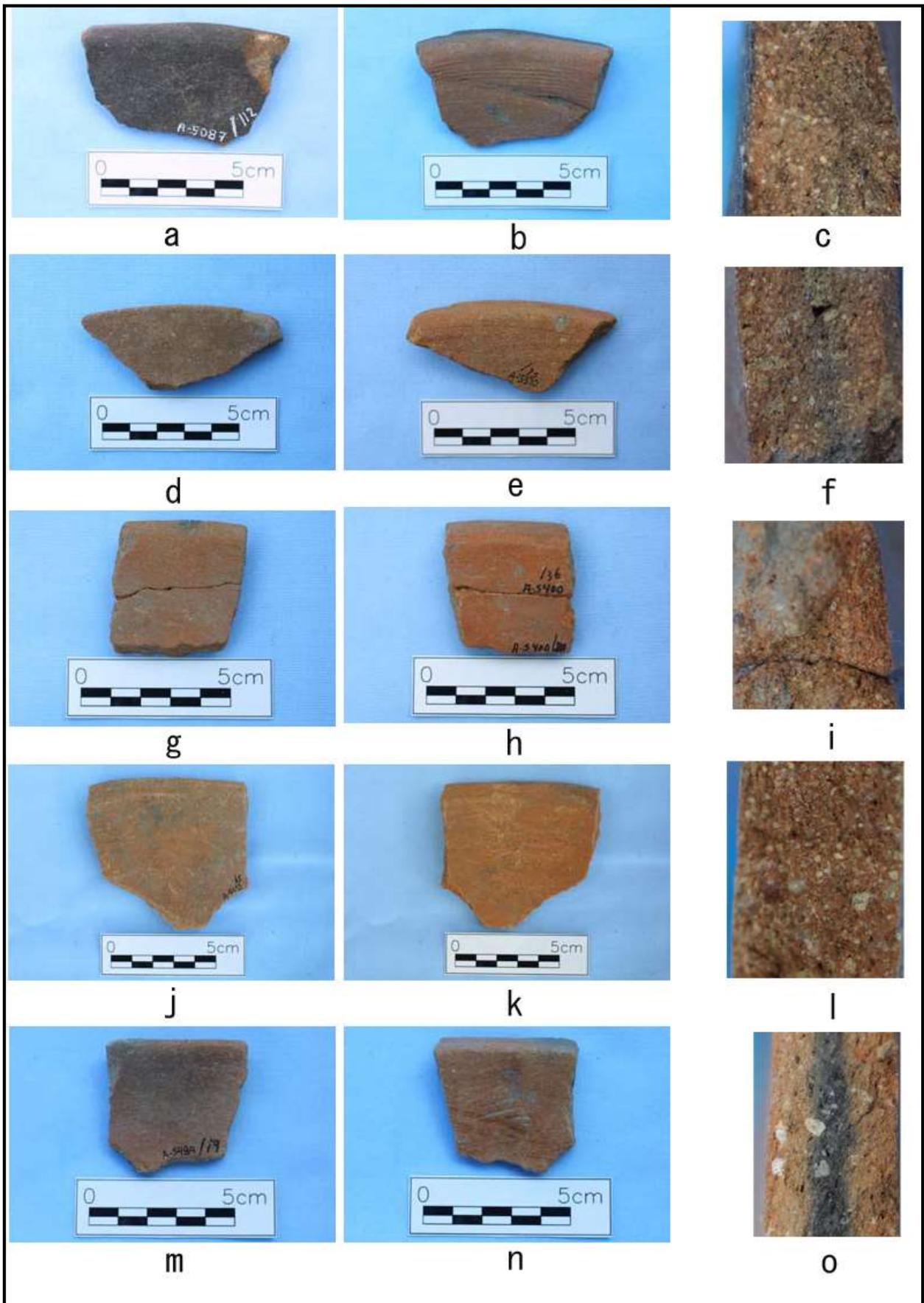


図 5-2-(1)-4 : 建造物 5 (T2) 出土の大型壺

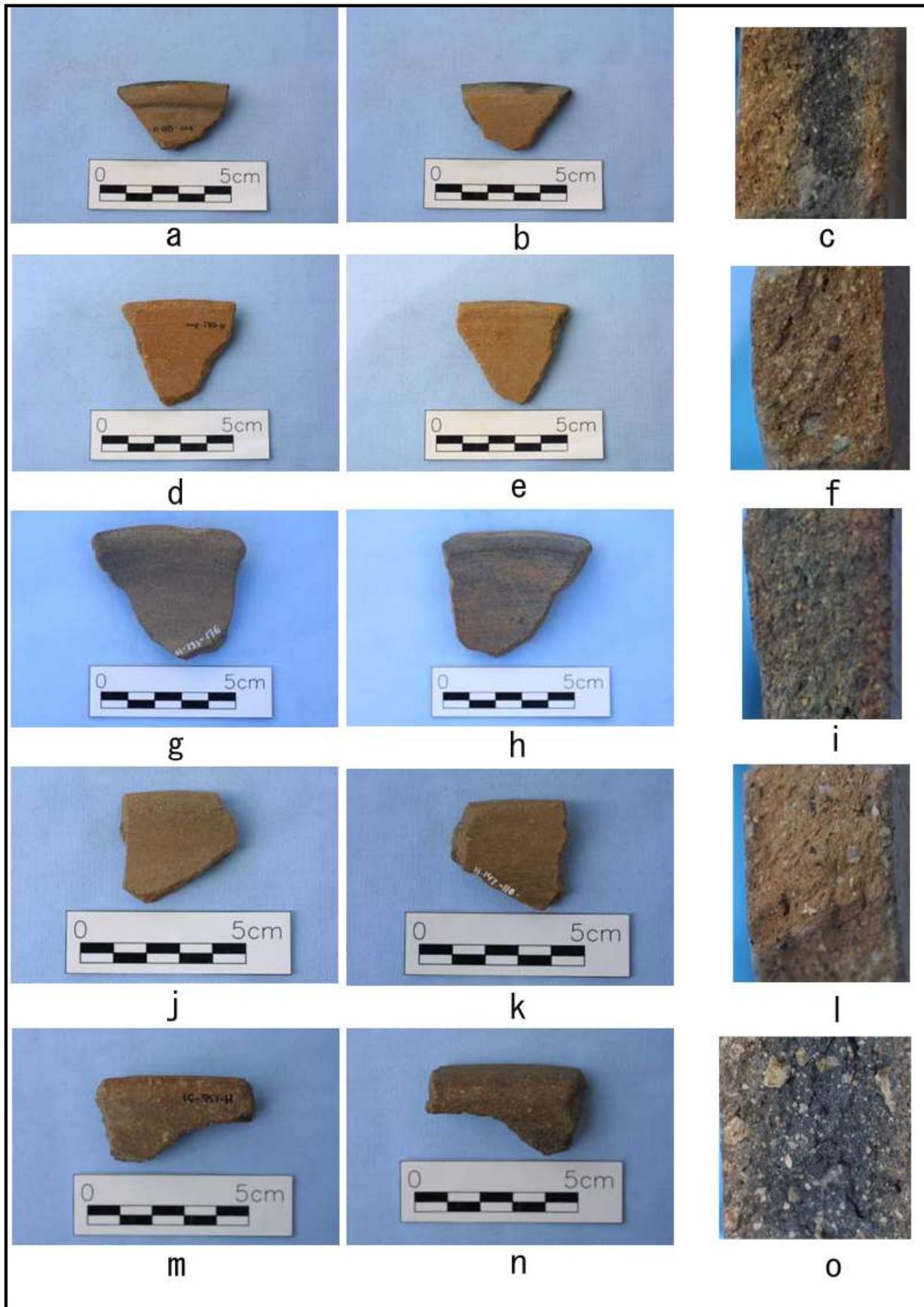


図 5-2-(1)-5 : 建造物 6 (T8) 出土の大型壺

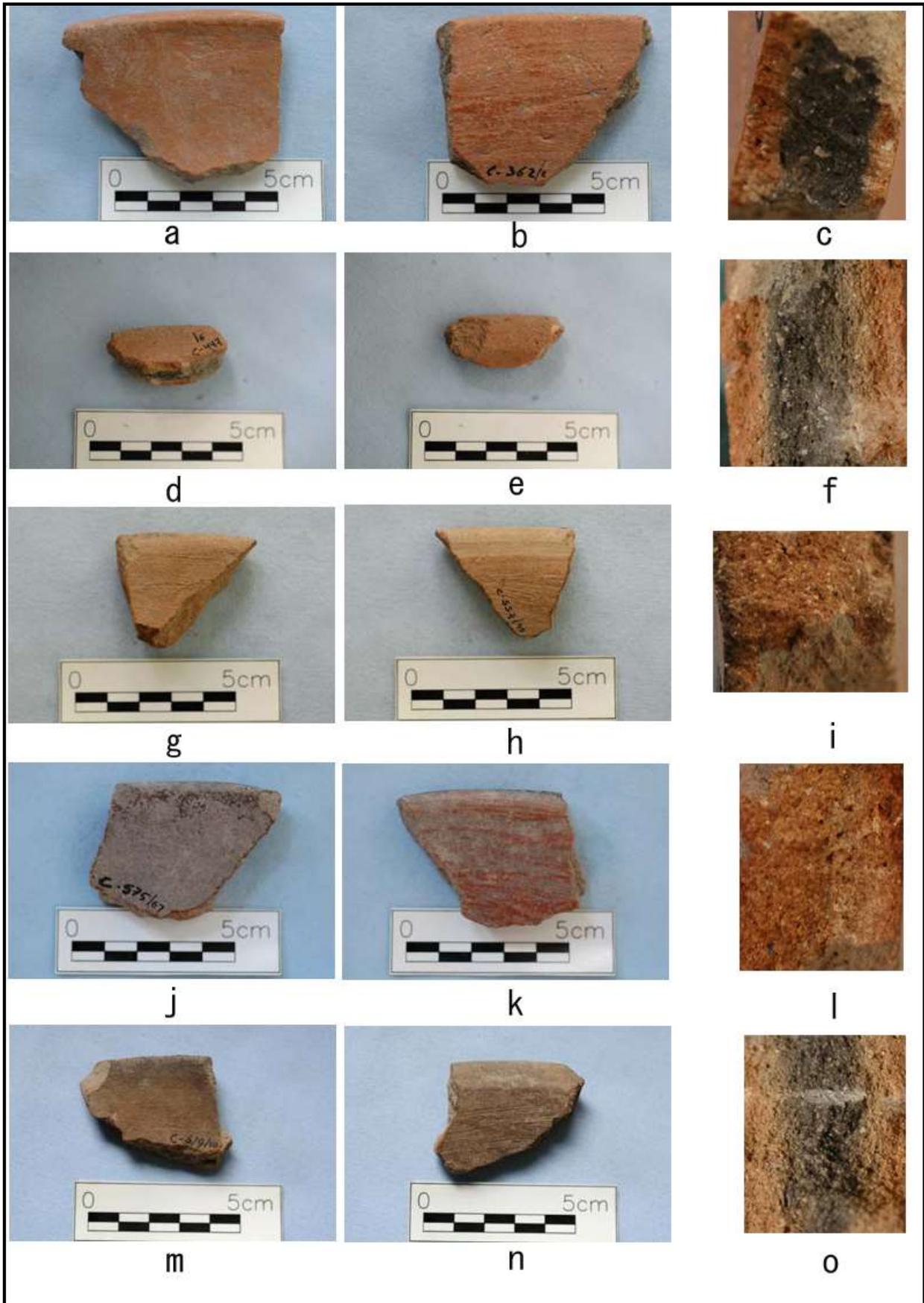


図 5-2-(1)-6 : 建造物 7 (Frente C) 出土の大型壺



図 5-2-(1)-7 : 建造物 1 (T3) 出土の大型壺

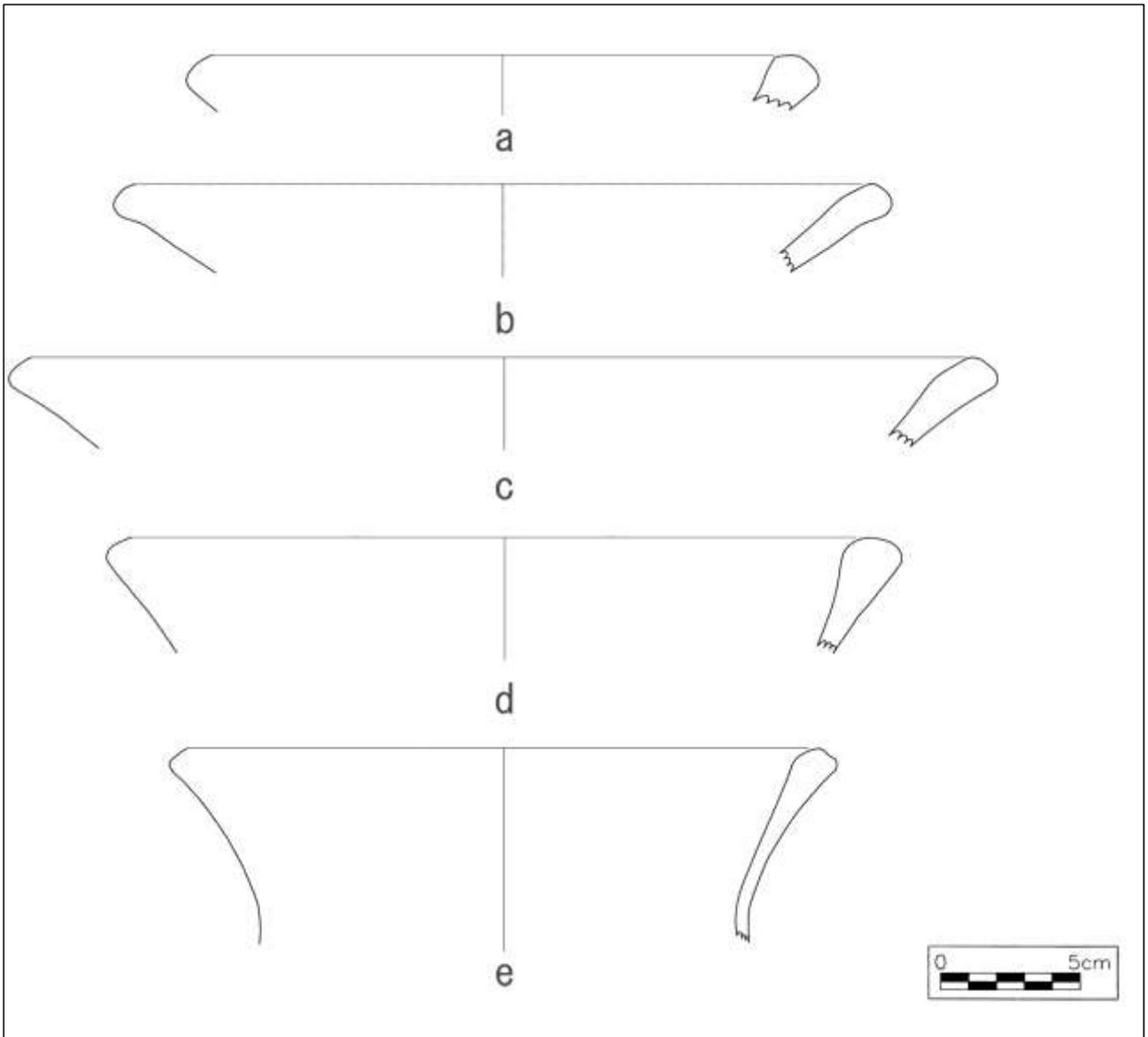


図 5-2-(1)-8 : 建造物 2 (T1) 出土の大型壺

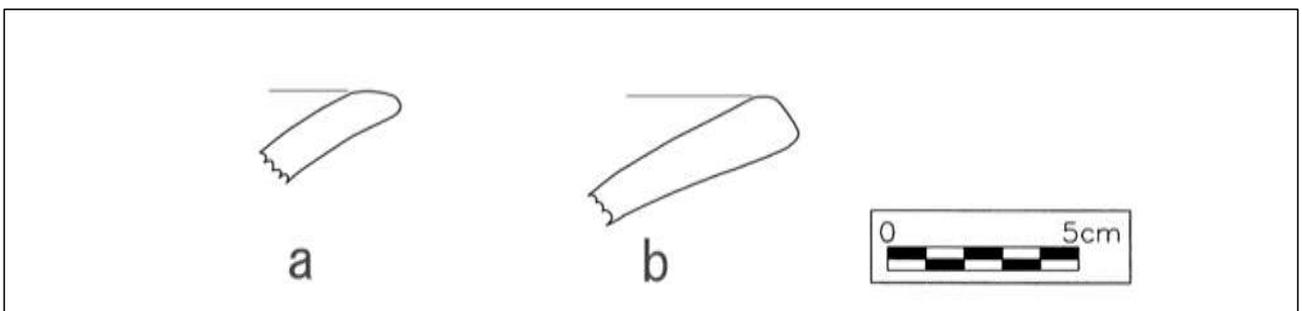


図 5-2-(1)-9 : 建造物 4 (T12) 出土の大型壺

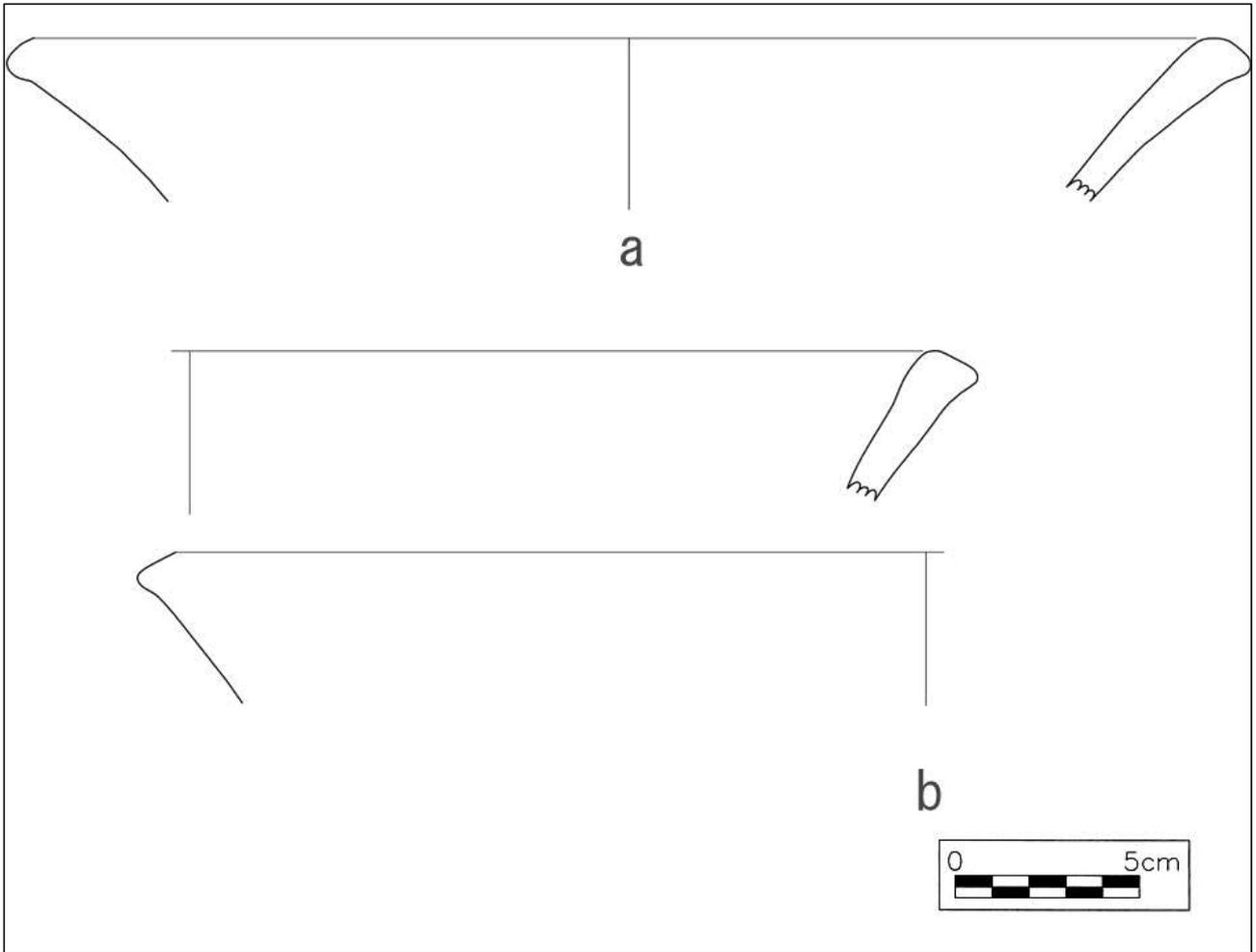


図 5-2-(1)-10 : 建造物 4 (T2) 出土の大型壺

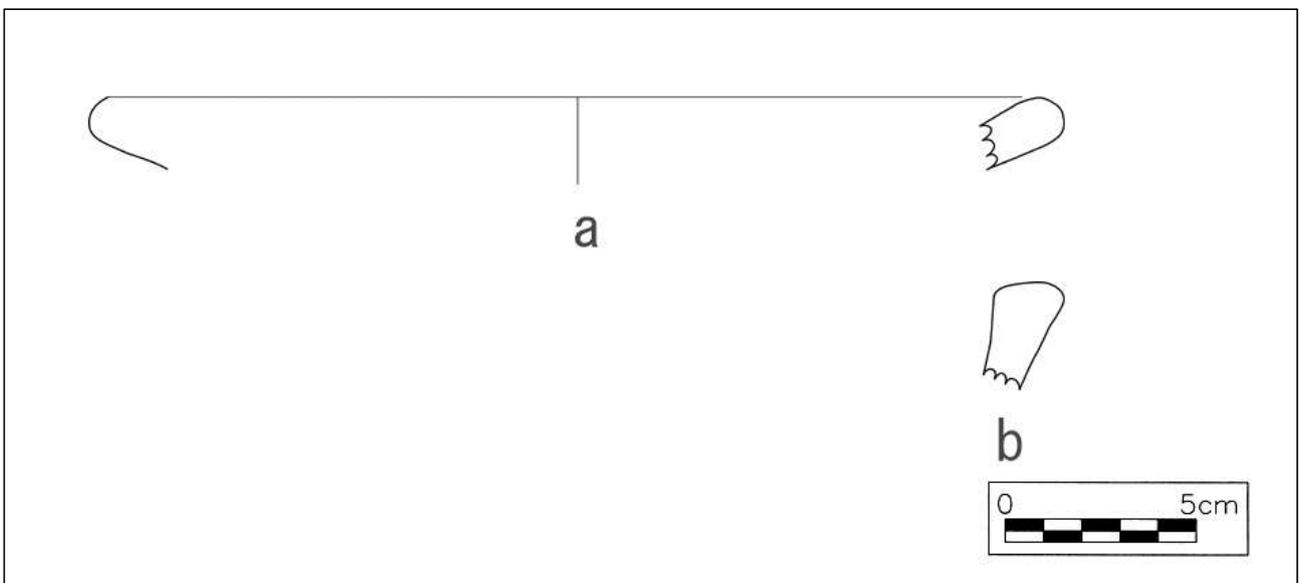


図 5-2-(1)-11 : 建造物 1 (T3) 出土の大型壺

(2) 壺(Jar)

個体数 :N=149(サクワリ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループ中で 21.1%)

出土地点 :

表 5-2-(2)-1 : 壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
壺 (Jar)	8	5.4%	4	2.7%	23	15.4%	0	0.0%	72	48.3%	5	3.4%	24	16.1%	12	8.1%	1	0.7%	149	100.0%

図版 : 図 5-2-(2)-1~図 5-2-(2)-10

胎土 : 胎土は、大型壺同様に①砂質で肌理が粗く、多くの含有物を含む胎土と(図 5-2-(2)-2:i, l, o、図 5-2-(2)-4:c, f, i, l 等)。②やや粘土質で白色含有物を含むもの(図 5-2-(2)-1:c, f, i, l, o 等) 2種類ある。また、焼成不良による黒色のバンドもしばしば見られる。胎土の色は、バリエーションが多いが、オレンジ系(7.5YR 6/6、5YR6/6、10YR6/4)、褐色系(7.5YR5/6、7.5YR5/4、7.5YR4/3)、赤褐色系(5YR5/6、5YR5/8、2.5YR5/8)、灰褐色(5YR4/2) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げはやや雑で、粗い研磨痕が見られる。色は胎土とほぼ同じであるが、表面が黒色を呈する土器も見られる。

装飾 : 無し。

器形 : 口縁部が、丸く肥厚する round wedge rim (図 5-2-(2)-7:e) や口縁部が四角くなる beveled wedge rim(図 5-2-(2)-8:a) などが見られる。口径は、10.2cm~25.0cm の範囲である(表 : 5-2-(2)-2)。

表 : 5-2-(2)-2 : 壺の口径

実測図	口径(cm)	写真	出土地	個体番号
図 5-2-(2)-7, a	25.0	図5-2-(2)-1, a-c	建造物2(T2)	A-911-22
図 5-2-(2)-7, b	12.4	図5-2-(2)-1, d-f	建造物2(T2)	A-1013-27
図 5-2-(2)-7, c	20.1	図5-2-(2)-1, g-i	建造物2(T2)	A-1070-287
図 5-2-(2)-7, d	24.3	図5-2-(2)-1, j-l	建造物2(T2)	A-1070-310
図 5-2-(2)-7, e	21.6	図5-2-(2)-1, m-o	建造物2(T2)	A-1125-38
図 5-2-(2)-8, a	18.8	図5-2-(2)-3, g-i	建造物4(T2)	A-3102-63
図 5-2-(2)-8, b	16.0	図5-2-(2)-3, j-l	建造物4(T2)	A-3102-139
図 5-2-(2)-8, c	10.2	図5-2-(2)-3, m-o	建造物4(T2)	A-3118-119
図 5-2-(2)-9, a	17.6	図5-2-(2)-5 g-i	建造物7(C)	C-553-372
図 5-2-(2)-9, b	22.2	図5-2-(2)-5, j-l	建造物7(C)	C-615-4
図 5-2-(2)-9, c	22.3	図5-2-(2)-5, m-o	建造物7(C)	C-616-57
図 5-2-(2)-10, a	18.8	図5-2-(2)-6, a-c	建造物1(T3)	A-1641-101
図 5-2-(2)-10, b	-	図5-2-(2)-6, d-f	建造物1(T3)	A-1692-12
図 5-2-(2)-10, c	-	図5-2-(2)-6, g-i	建造物1(T3)	A-1692-34
図 5-2-(2)-10, d	-	図5-2-(2)-6, j-l	建造物1(T3)	A-1692-32

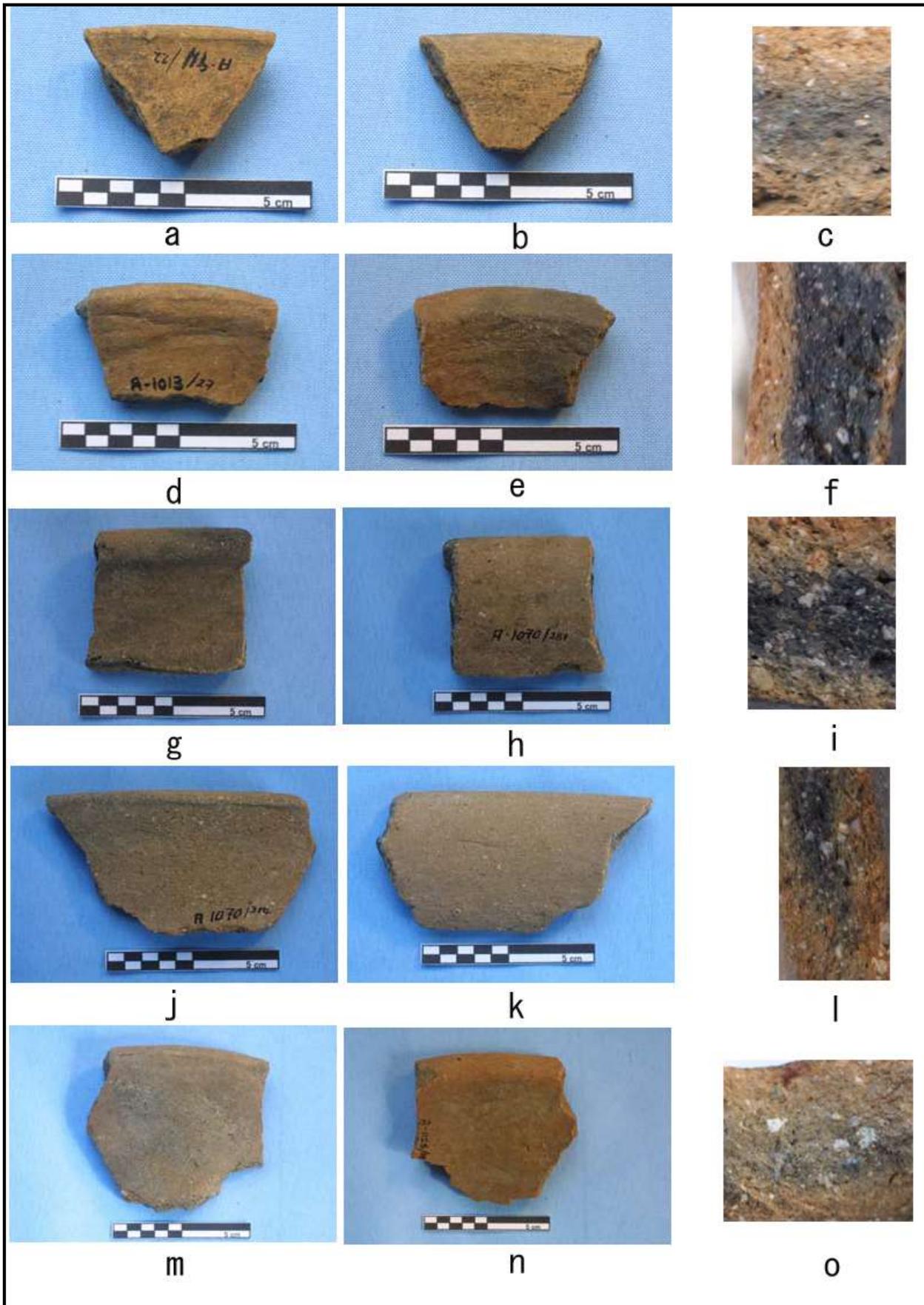


図 5-2-(2)-1 : 建造物 2 (T2) 出土の壺

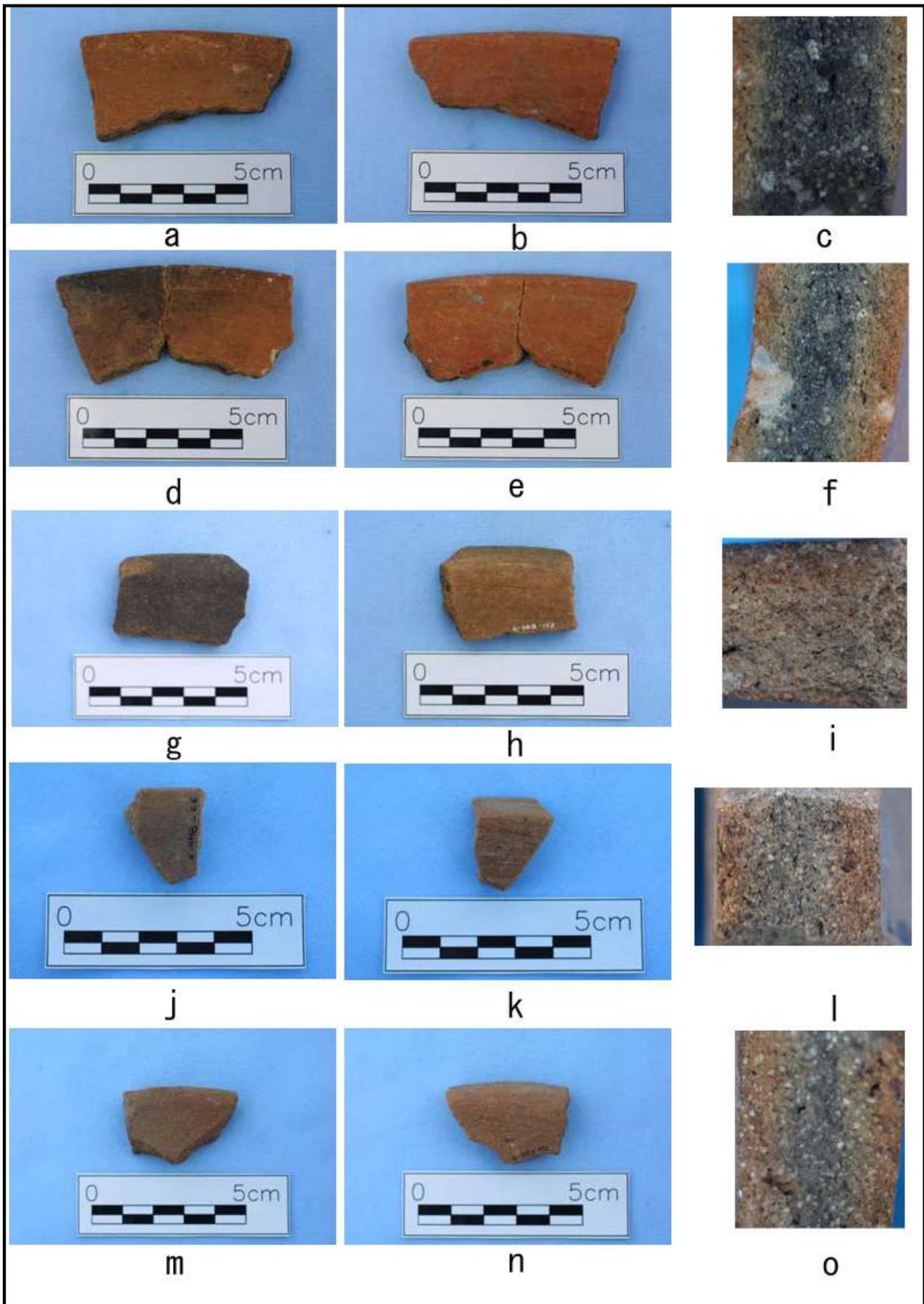


図 5-2-(2)-2 : 建造物 4 (T12) 出土の壺

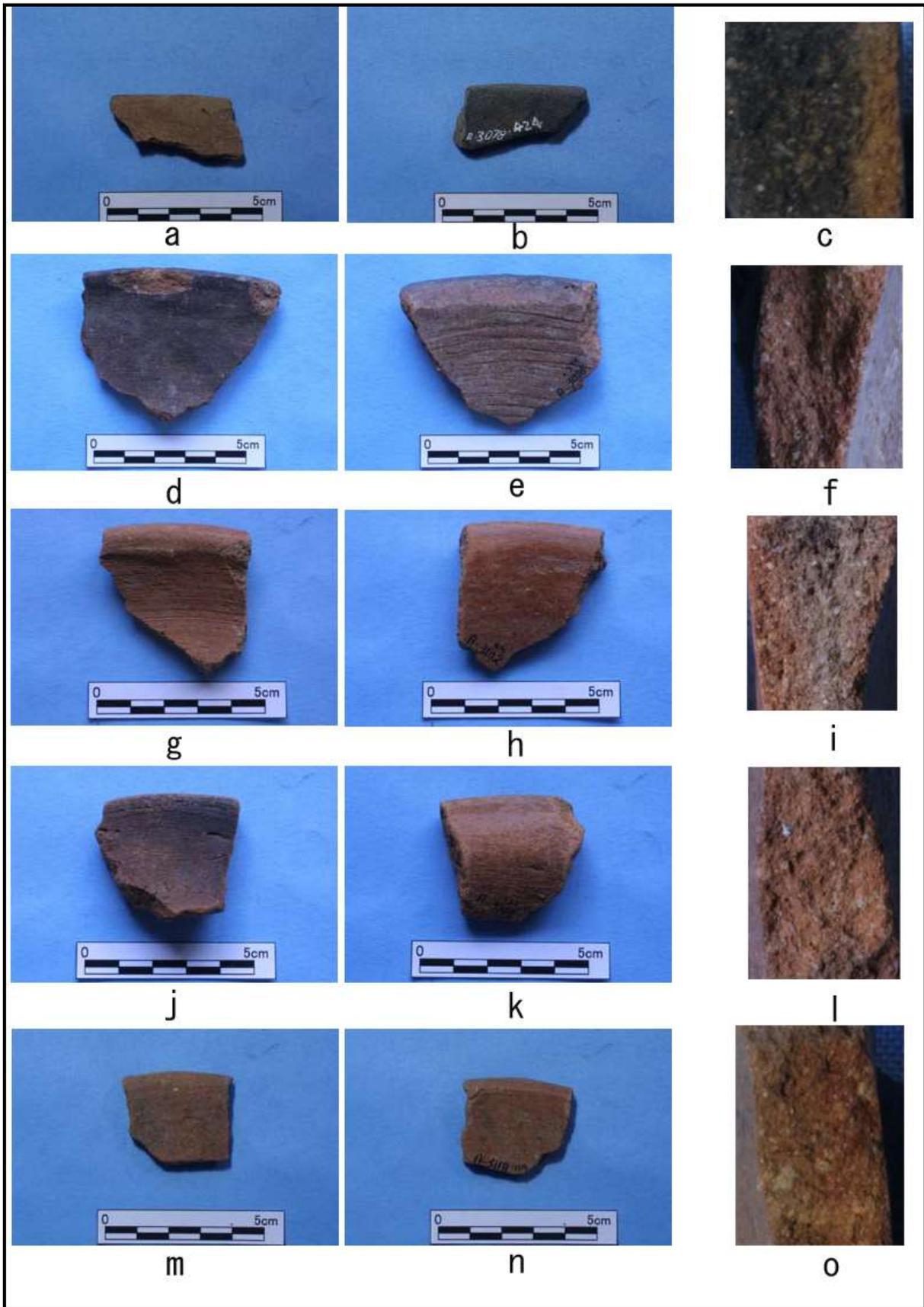


図 5-2-(2)-3 : 建造物 4 (T2) 出土の壺

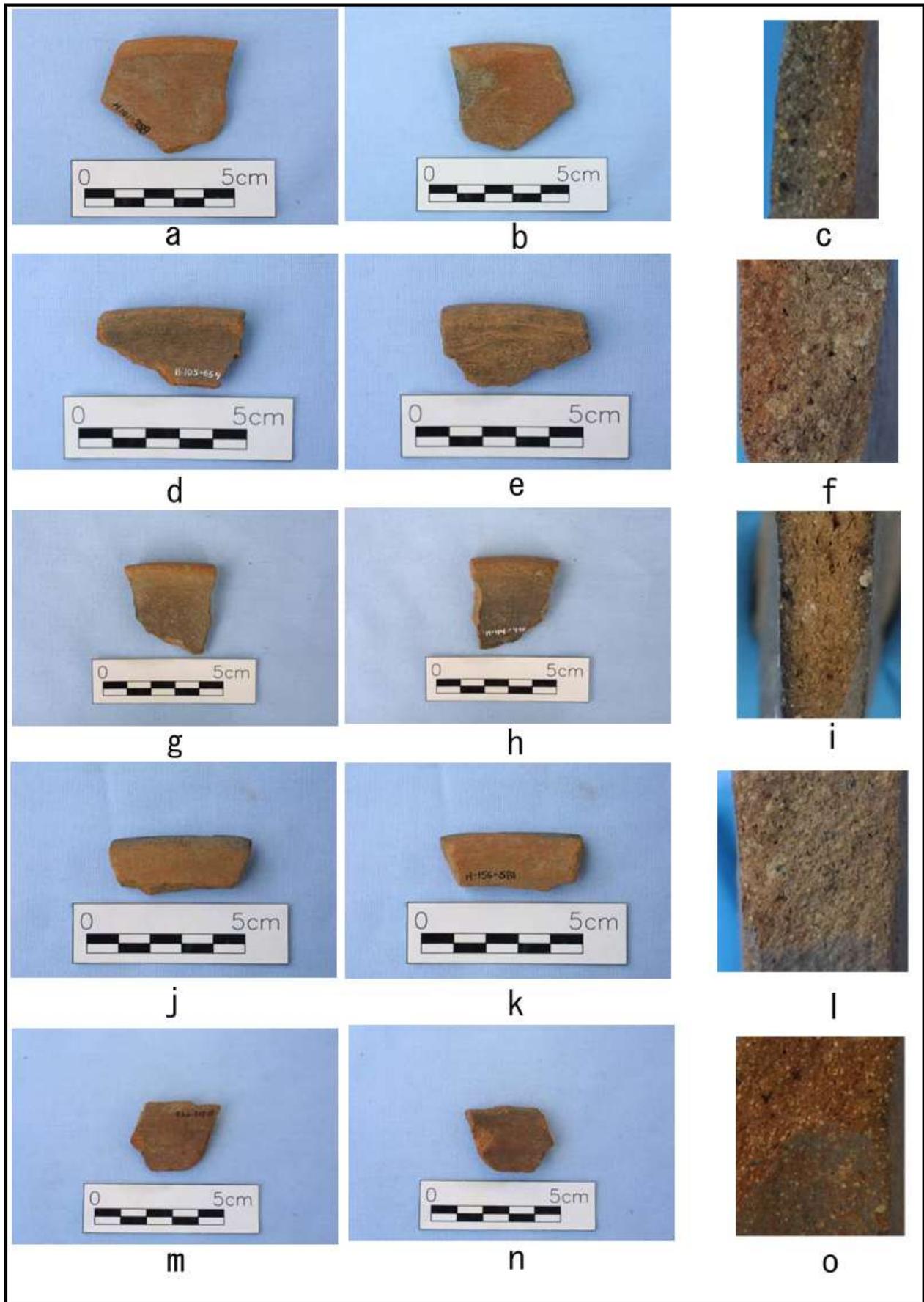


図 5-2-(2)-4 : 建造物 6 (T8) 出土の壺

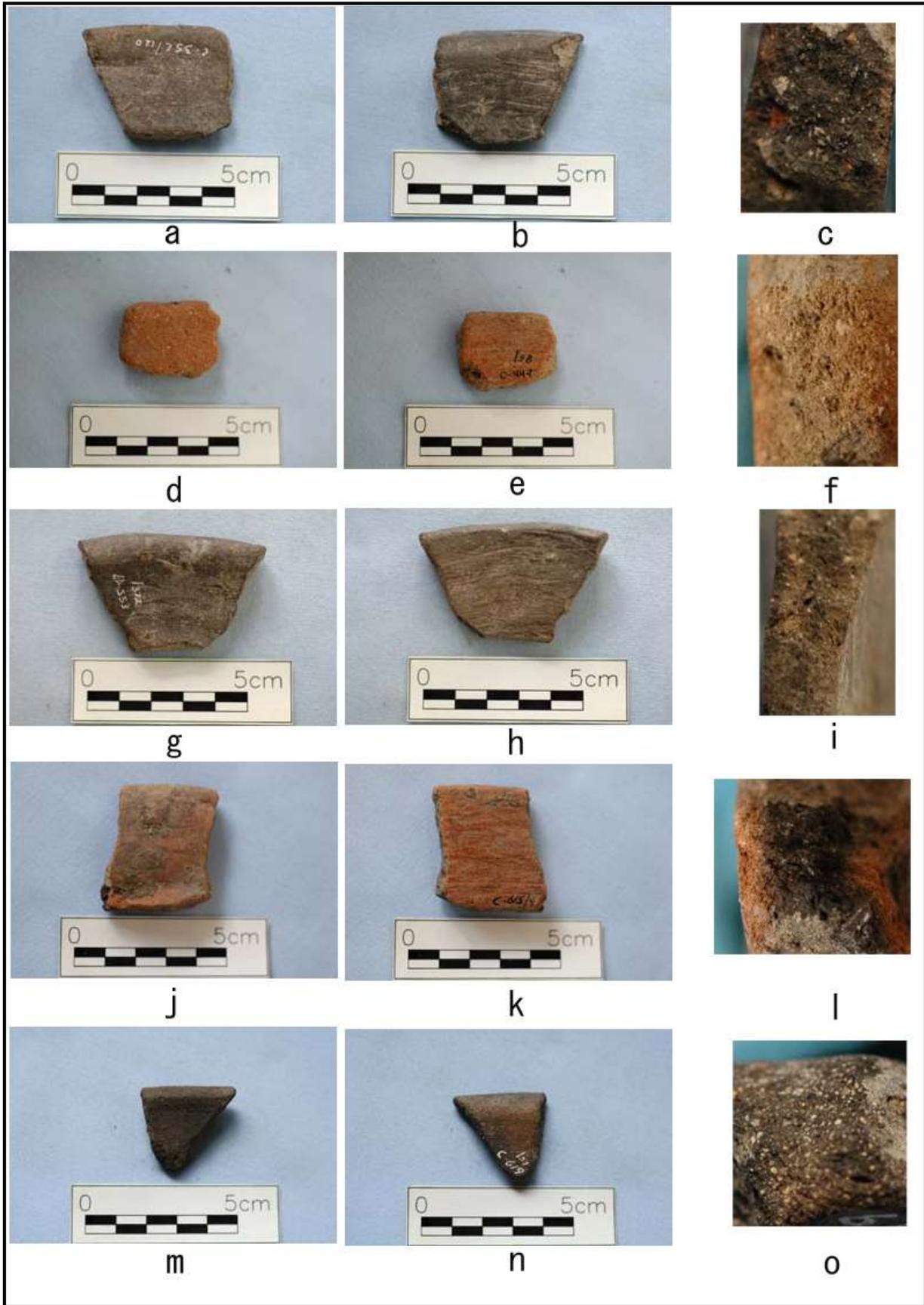


図 5-2-(2)-5 : 建造物 7 (Frente C) 出土の壺



図 5-2-(2)-6 : 建造物 1 (T3) 出土の壺

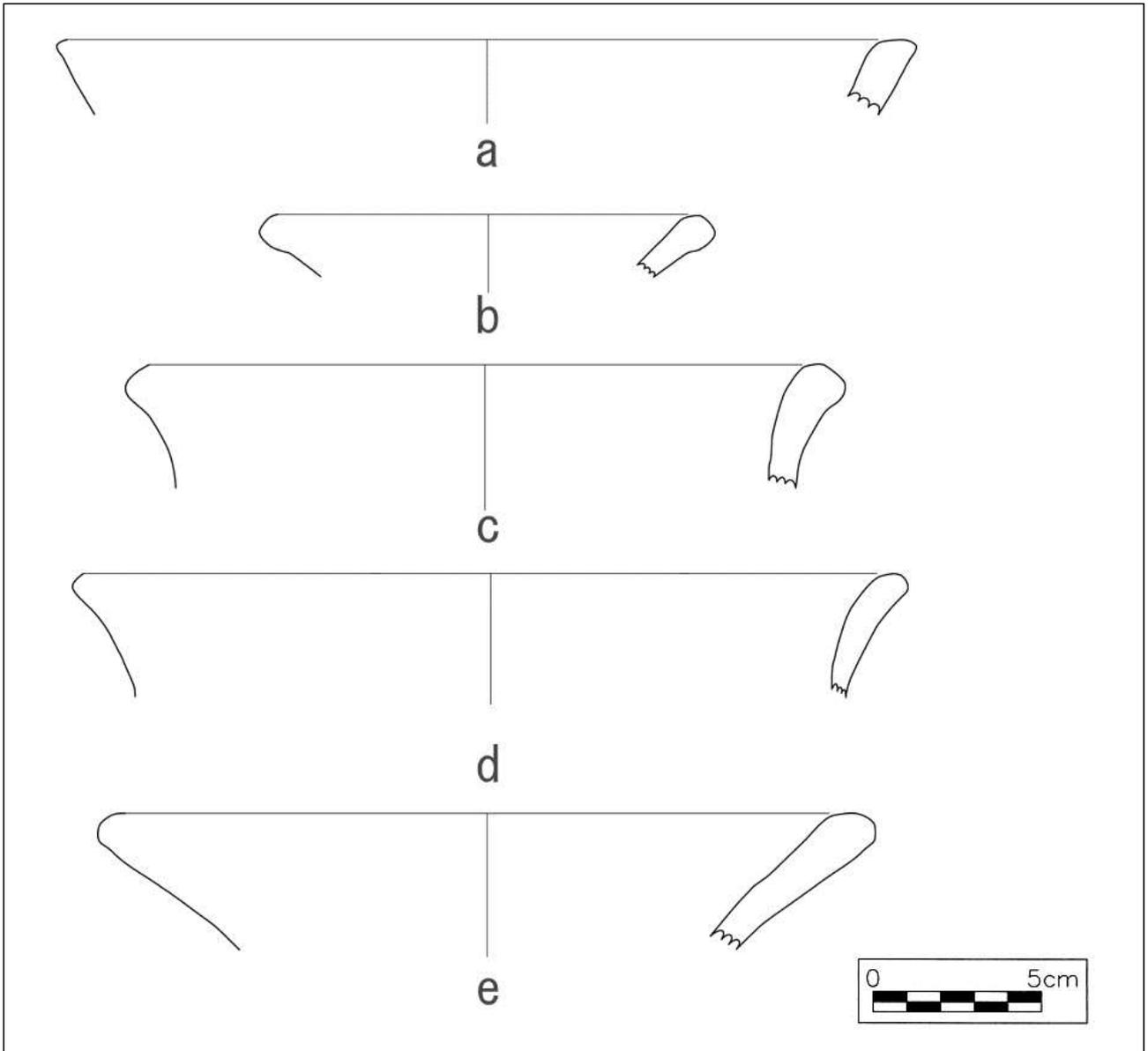


図 5-2-(2)-7 : 建造物 2 (T2) 出土の壺

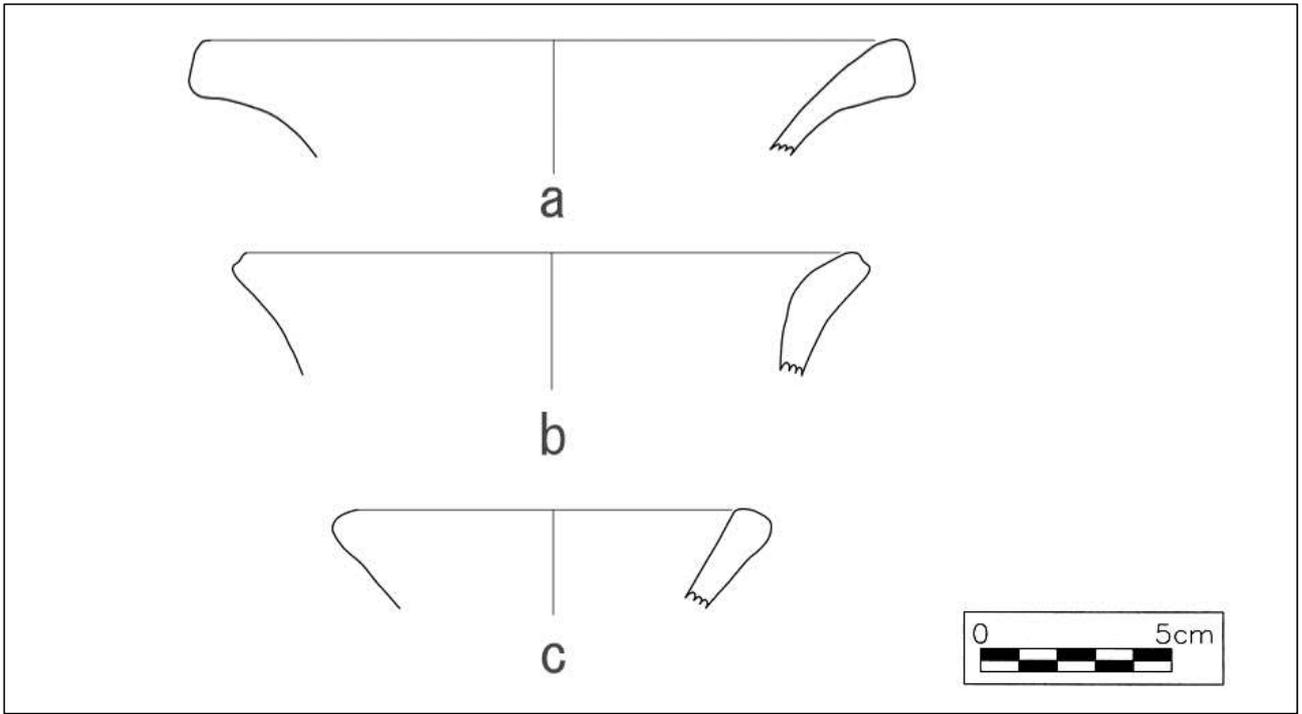


図 5-2-(2)-8 : 建造物 4 (T2) 出土の壺

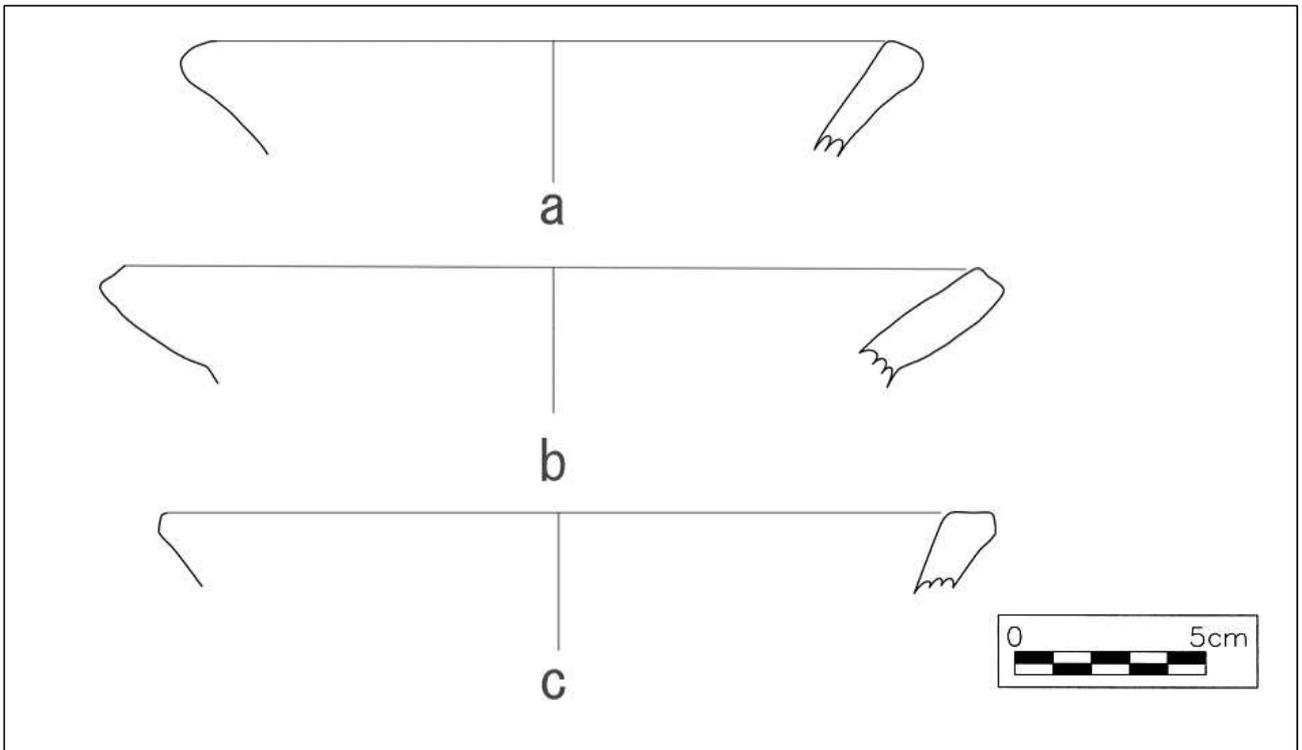


図 5-2-(2)-9 : 建造物 7 (Frente C) 出土の壺

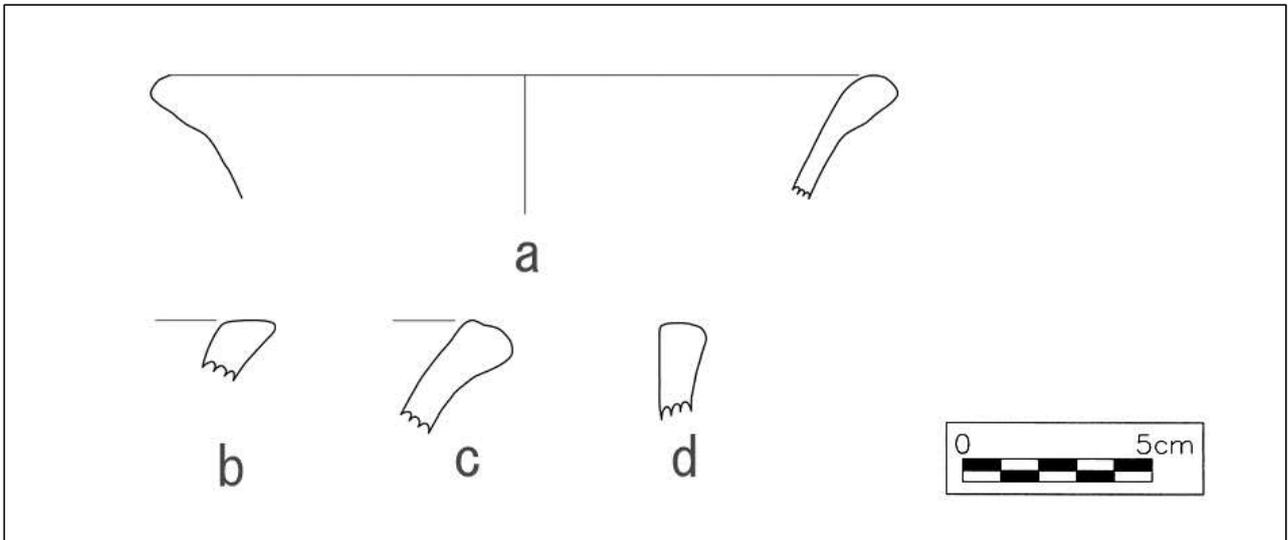


図 5-2-(2)-10 : 建造物 1 (T3) 出土の壺

(3) 碗(Bowl)

個体数 : N=48 (サクワリ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループ中で 6.8%)

出土地点 :

表 5-2-(3)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	1	2.1%	0	0.0%	27	56.3%	2	4.2%	11	22.9%	4	8.3%	2	4.2%	0	0.0%	1	2.1%	48	100.0%

図版 : 図 5-2-(3)-1 ~ 図 5-2-(3)-2

胎土 : 胎土は、砂質で肌理が粗く、多くの含有物を含む。胎土の色は、バリエーションが多いが、オレンジ系(7.5YR 6/6、5YR6/8、2.5YR6/8)、褐色系(7.5YR5/6、7.5YR5/4)、赤褐色系(5YR5/6、5YR5/3、5YR4/3、2.5YR5/8) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げはやや雑なものから良く仕上げられるものまで幅がある。色は胎土とほぼ同じであるが、表面が黒色を呈する土器も見られる。

装飾 : 無し。

器形 : 胴部が外傾し、底部が平底の碗がある (図 5-2-(3)-2)。

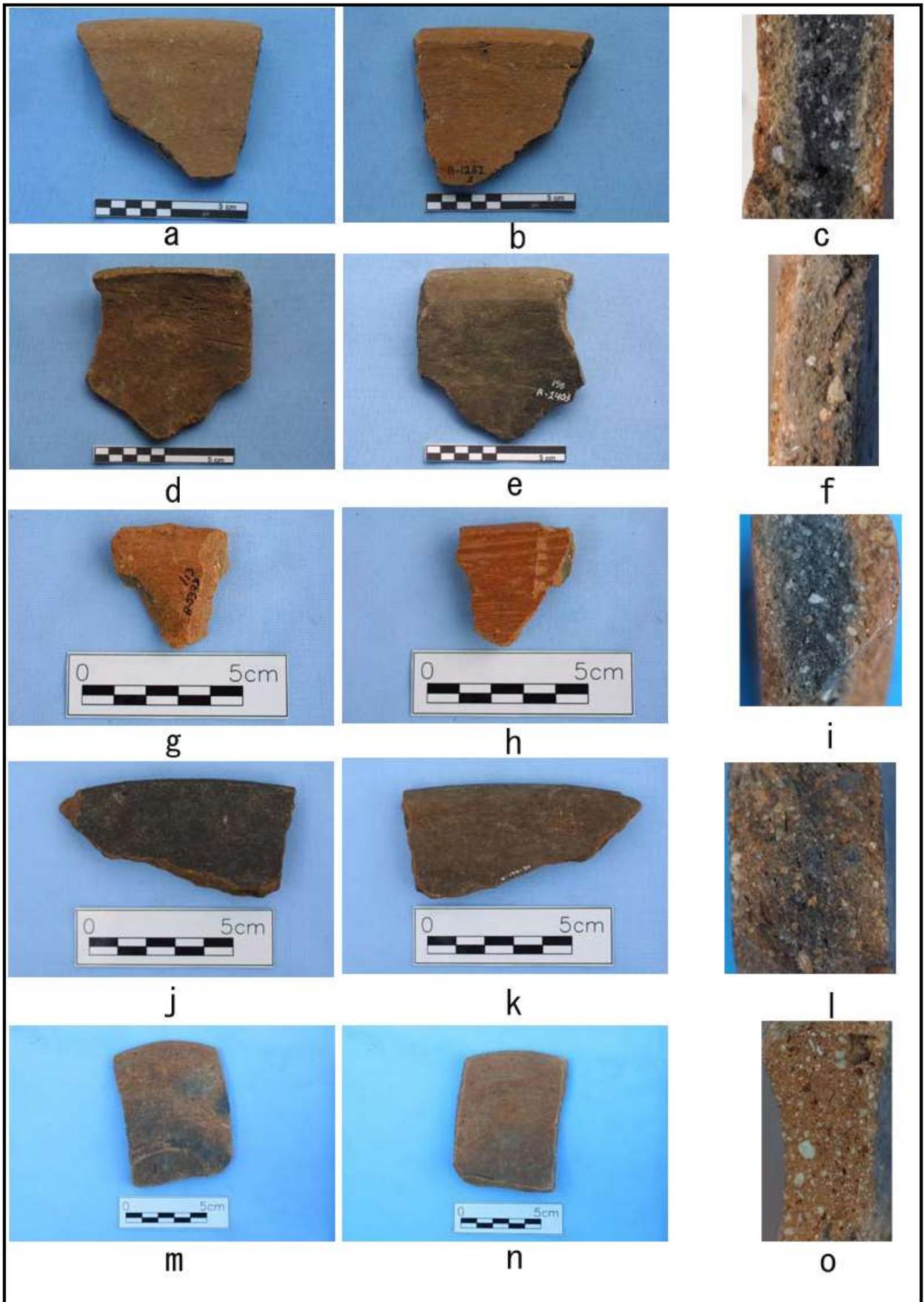


図 5-2-(3)-1: a-c 建造物 2 (T1) 出土の碗、 d-f 建造物 2 (T4) 出土の碗、 g-i 建造物 5 (T2) 出土の碗、 j-o 建造物 4 (T12) 出土の碗

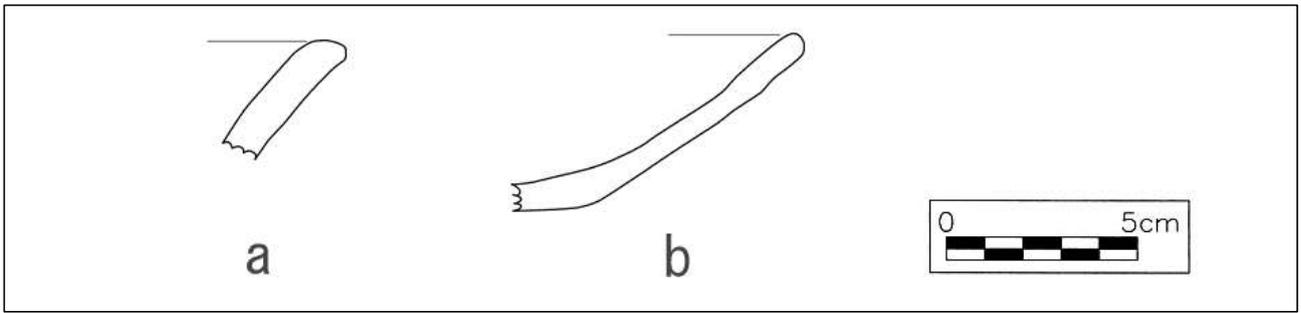


図 5-2-(3)-2 : 建造物 4 (T12) 出土の碗

(4) カスエラ(Cazuela)

個体数 : N=89 (サクワリ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループ中で 12.6%)

出土地点 :

表 5-2-(4)-1 : カスエラの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
カスエラ (Cazuela)	0	0.0%	0	0.0%	14	15.7%	0	0.0%	47	52.8%	9	10.1%	14	15.7%	3	3.4%	2	2.2%	89	100.0%

図版 : 図 5-2-(4)-1 ~ 図 5-2-(4)-5

胎土 : 胎土は、①粘土質であり含有物を含まない良質な胎土(図 5-2-(4)-1: c, f, i, l, o)と②砂質で含有物を多く含む胎土(図 5-2-(4)-2: f, i)の2種類ある。胎土の色は、バリエーションが多いが、オレンジ系(2.5YR6/8, 5YR6/6, 5YR6/8, 5YR6/4, 7.5YR6/4)、赤褐色系(5YR5/6, 5YR5/8, 2.5YR5/8)等である。

表面調整 : 内外面とも良く調整されている。表面の色は、オレンジ系、赤褐色系など基本的には胎土と同じである。中には、表面が黒色を呈するものもある。

装飾 : 無し。

器形 : 口縁部が大きく外反する器形で、復元された器の口径は 25.1cm、27.8cm である。

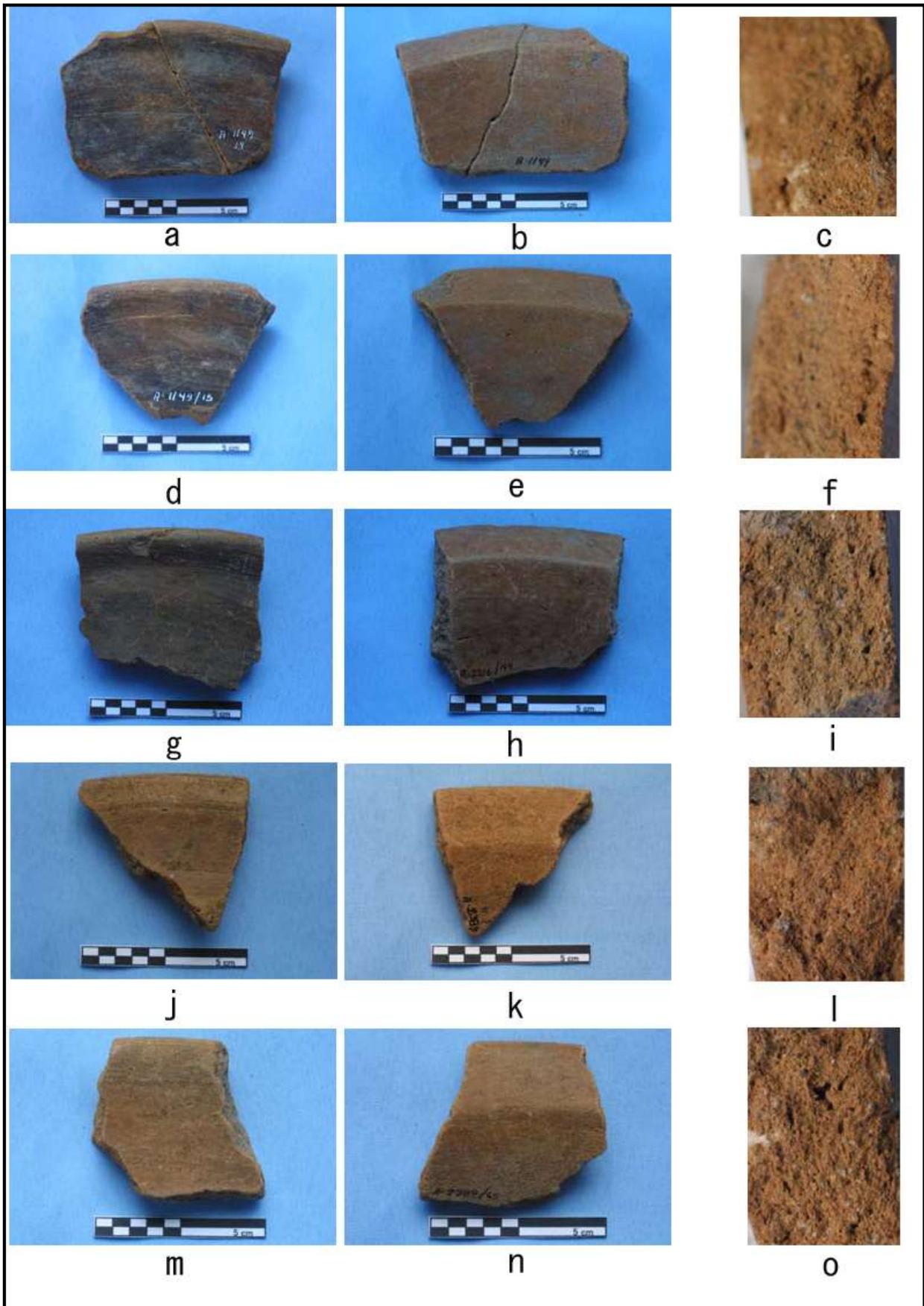


図 5-2-(4)-1: a-f 建造物 2 (T1) 出土のカスエラ、g-o 建造物 2 (T4) 出土のカスエラ

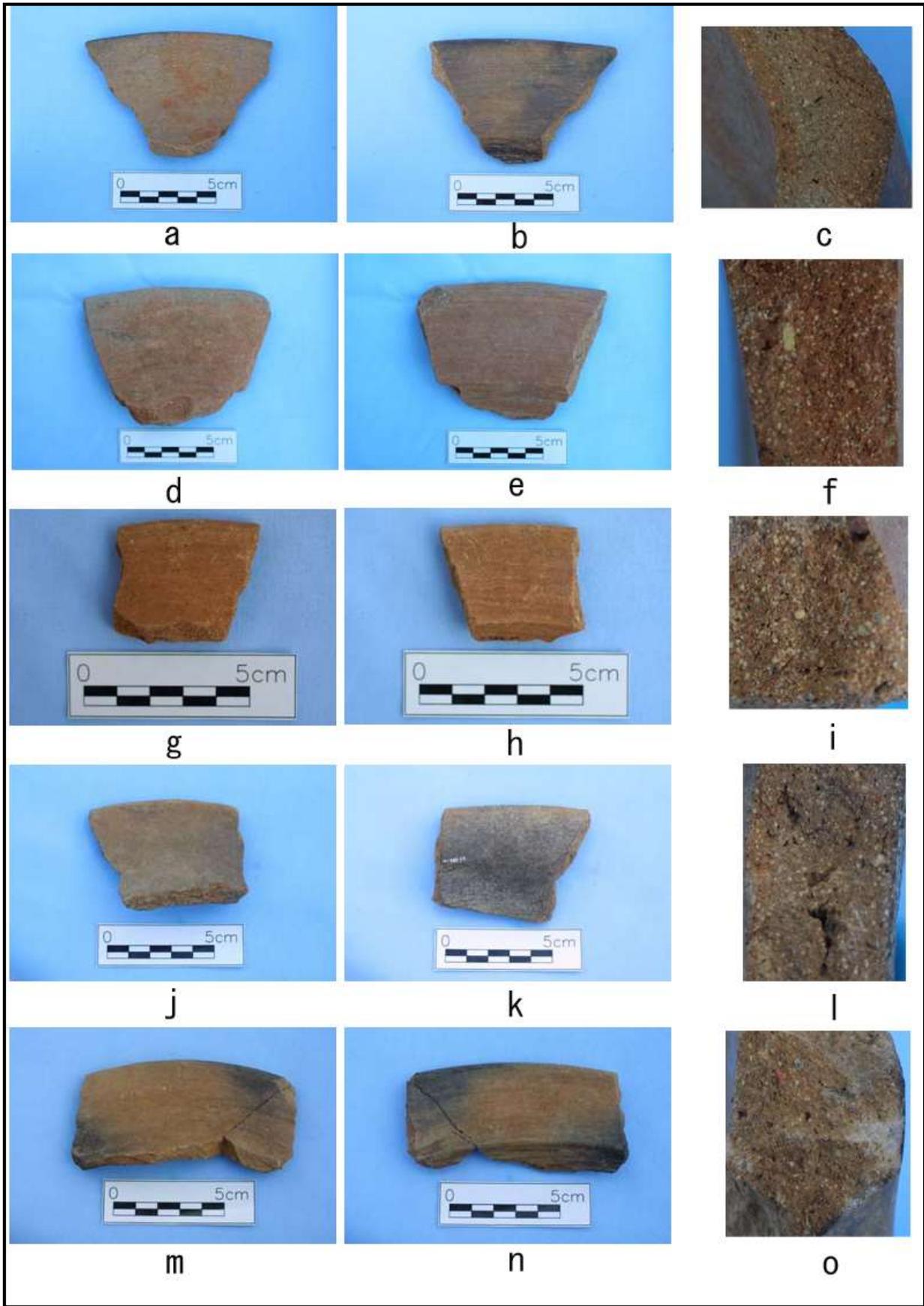


図 5-2-(4)-2: 建造物 4 (T12) 出土のカスエラ

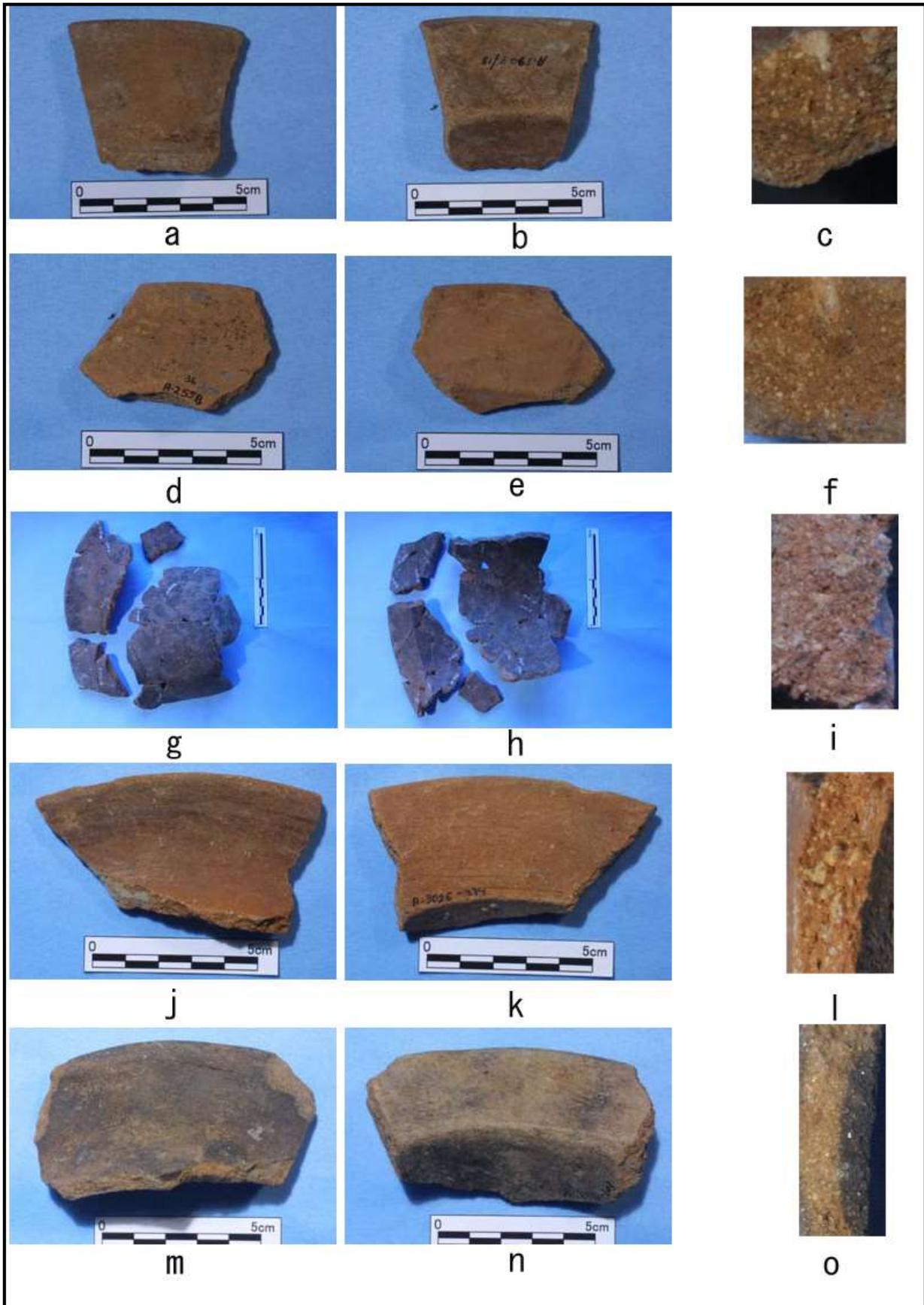


図 5-2-(4)-3: 建造物 4 (T2) 出土のカセラ

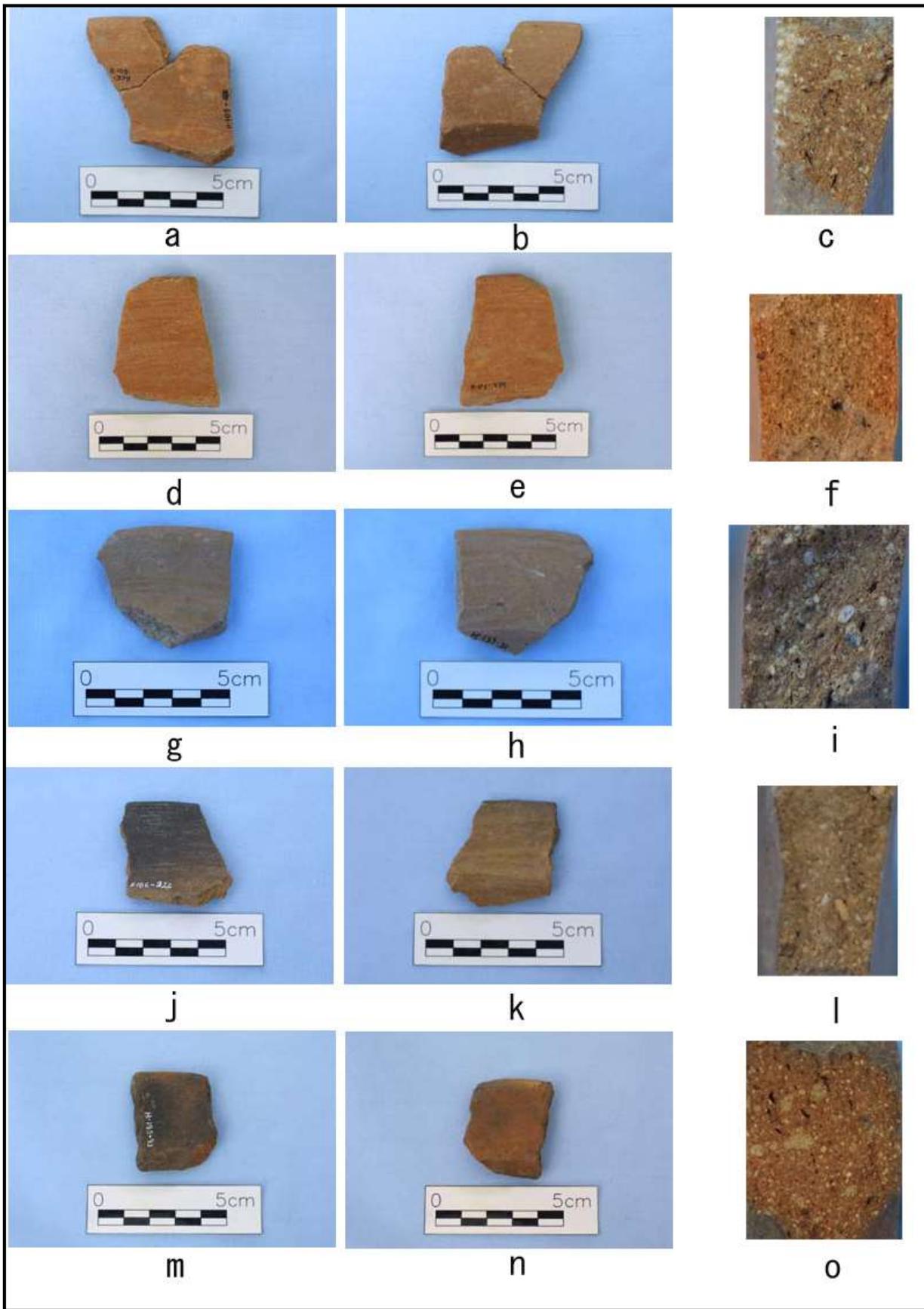


図 5-2-(4)-4: 建造物 6 (T8) 出土のカセラ

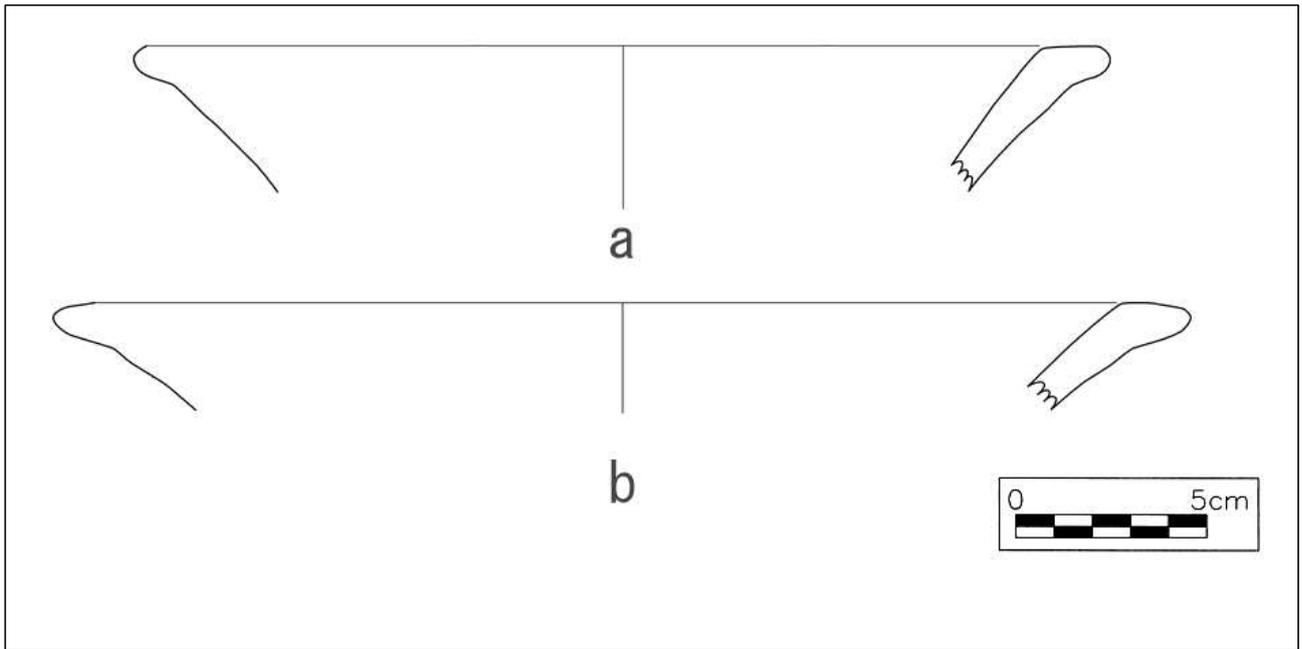


図 5-2-(4)-5: 建造物 2 (T1) 出土のカスエラ

(5) ベーズン(Basin)

個体数 : N=21 (サクワリ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループ中で 3.0%)

出土地点 :

表 5-2-(5)-1 : ベーズンの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
ベーズン (Basin)	1	4.8%	0	0.0%	9	42.9%	0	0.0%	8	38.1%	2	9.5%	0	0.0%	1	4.8%	0	0.0%	21	100.0%

図版 : 図 5-2-(5)-1～図 5-2-(5)-2

胎土 : 胎土は、一般的に大型壺同様にやや粗く多くの含有物を含む(図 5-2-(5)-1:c、f)。また、カスエラのような粘土質で含有物の少ないものも見られる(図 5-2-(5)-1:i)。胎土の色は、オレンジ系(7.5YR 6/6、7.5YR6/4、5YR6/4)、赤褐色系(5YR5/6、5YR5/8、5YR5/3、5YR5/4、2.5YR5/8) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、外面より内面が良く仕上げられている。色は胎土とほぼ同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 口縁部は外反する(図 5-2-(5)-2)。口径は、34.8cm と 48.6cm のものが見られる。

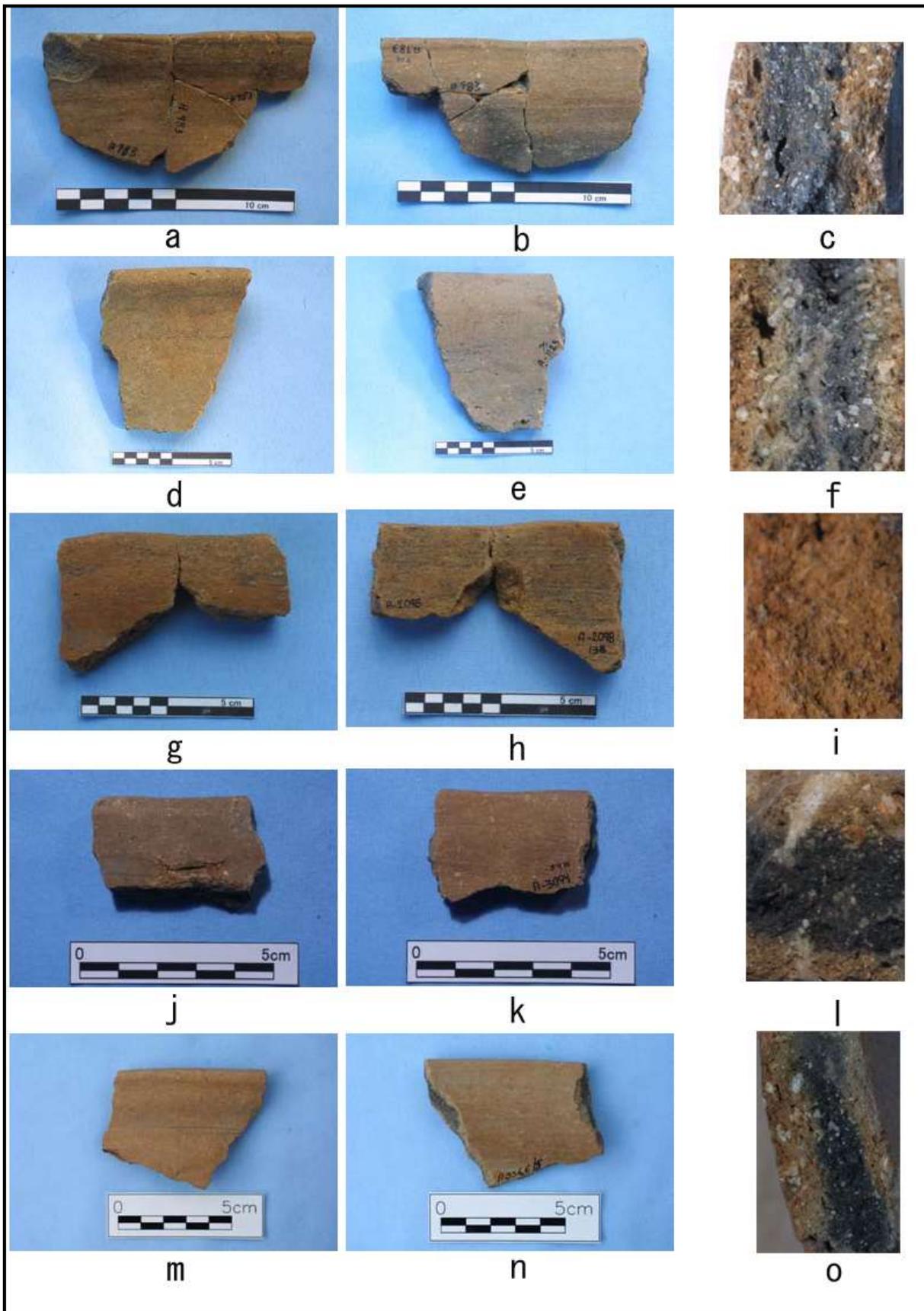


図 5-2-(5)-1: a-f 建造物 2 (T1) 出土のベース、g-i 建造物 2 (T4) 出土のベース、j-l 建造物 4 (T2) 出土のベース、m-o 建造物 5 (T2) 出土のベース

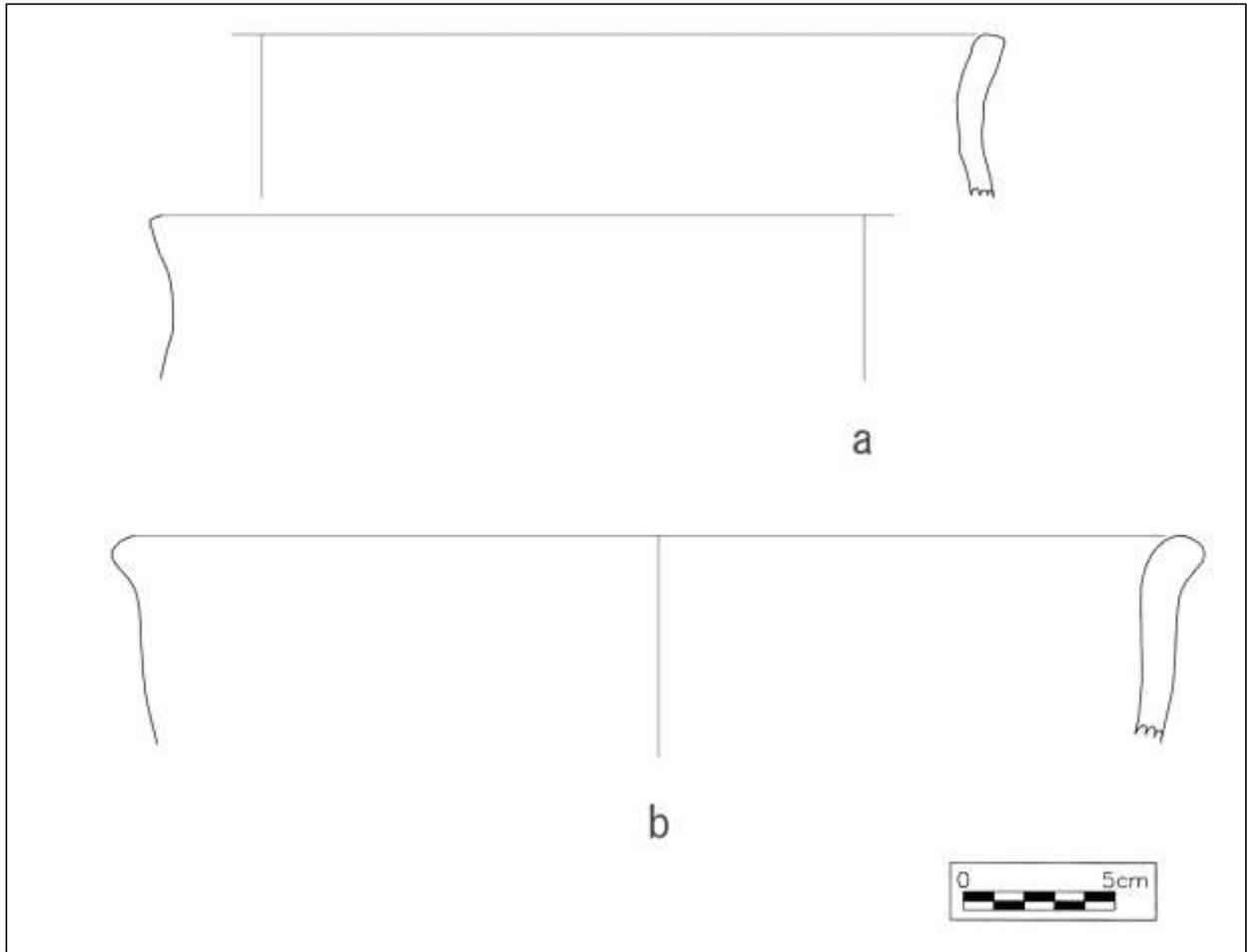


図 5-2-(5)-2 : 建造物 2 (T1) 出土のベースン

(6) コマル(Comal)

個体数 : N=5 (サクワリ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループ中で 0.7%)

出土地点 :

表 5-2-(6)-1 : コマルの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
コマル (Comal)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	40.0%	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%	5	100.0%

図版 : 図 5-2-(6)-1

胎土 : 胎土は、砂質で含有物が多い。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR 6/6、7.5YR6/4)、赤褐色系 (2.5YR5/8、2.5YR4/6) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは、口縁部の内外面では良好である。一部外面に叩き目のような跡が見られるものもある (図 5-2-(6)-1:j)。

装飾 : 無し。

器形 : 器厚の厚い、大型の皿である。

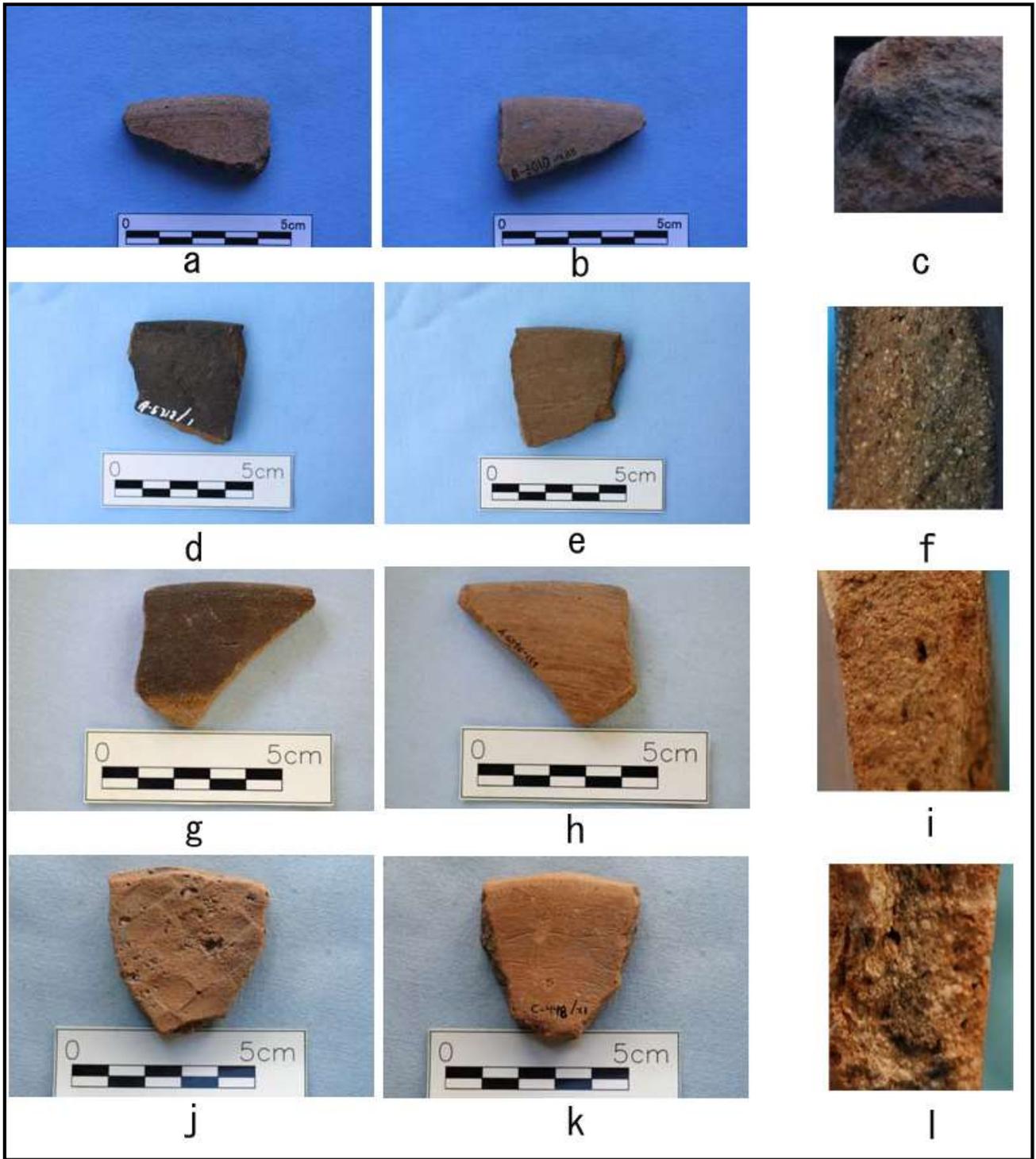


図 5-2-(6)-1 : a-c 建造物 4 (T2) 出土のコマル、 d-f 建造物 5 (T2) 出土のコマル、 g-
 i 建造物 6 (T2) 出土のコマル、 j-l 建造物 7 (Frente C) 出土のコマル

<Painted Red グループ (個体数 N=8) >

(7) 大型壺 (Olla)

個体数 : N=6 (サクワリ期の Burnished Ware の Painted Red グループ中で 75.0%)

出土地点 :

表 5-2-(7)-1 : 大型壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計			
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%		
大型壺 (Olla)	0	0.0%	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	4	66.7%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	100.0%

図版 : 図 5-2-(7)-1 : a-f

胎土 : 胎土は、①砂質で肌理が粗く、多くの含有物を含む (図 5-2-(7)-1:c, f)。胎土の色は、オレンジ系 (5YR6/4)、赤褐色系 (5YR5/6、2.5YR5/8、2.5YR4/8) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げはやや雑で、粗い研磨痕が見られる。色は胎土とほぼ同じである。

装飾 : 表面に赤色の彩色が施される。

器形 : 口縁部が外反する大型壺である。

(8) 壺 (Jar)

個体数 : N=2 (サクワリ期の Burnished Ware の Painted Red グループ中で 25.0%)

出土地点 :

表 5-2-(8)-1 : 壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計			
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%		
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%

図版 : 図 5-2-(7)-1 : g-l

胎土 : 胎土は、やや粘土質で白色含有物を含む (図 5-2-(7)-1:i, l)。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR 6/6、5YR6/6) である。

表面調整 : 表面の仕上げはやや雑で、粗い研磨痕が見られる。色は胎土とほぼ同じである。
が、表面が黒色を呈する土器も見られる。

装飾 : 表面に赤色の彩色が施される。

器形 : 口縁部が外反する壺である。

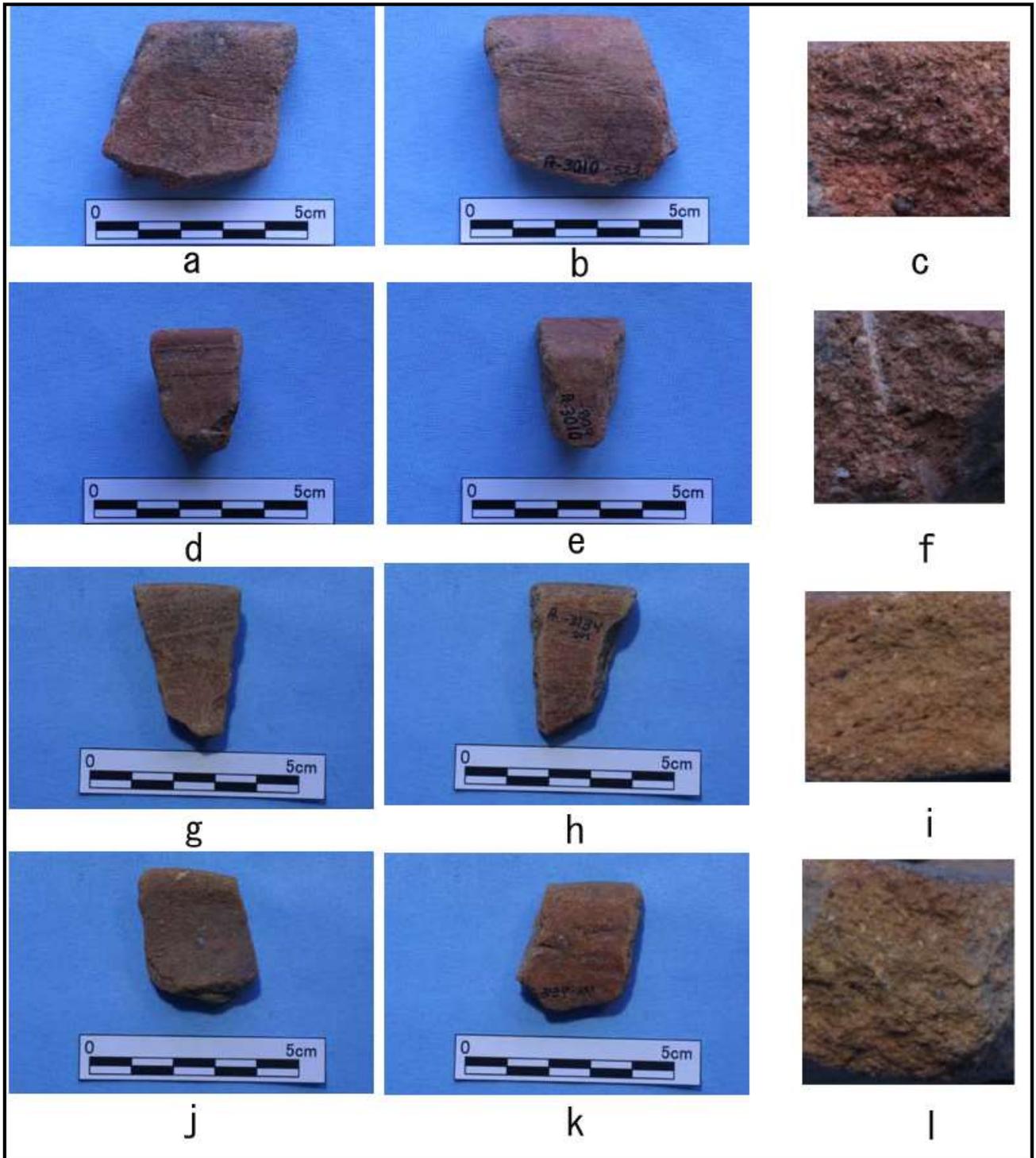


図 5-2-(7)-1 : a-f 建造物 4 (T2) 出土の大型壺、g-l 建造物 4 (T2) 出土の壺

(9) まとめ

サクワリ期 Burnished Ware の Monochrome Brown グループでは、大型壺が多く出土し (55.9%) 次に壺 (21.1%)、カスエラ (12.6%) が続く。パトラチケ期にあったテコマテはこの時期には出現しない (表 5-2-(9)-1)。この時期の Burnished Ware の Monochrome

Brown グループの胎土の特徴は、パトラチケ期の含有物の少ない粘土質の胎土から砂質の含有物の多い胎土に変化することである。

胎土以外では、大型壺や壺のでは、口縁部の形もパトラチケ期に見られた e "Wedg Rim" は引き続きみられる。また、新しい形態として口縁部が肥厚しないで口唇部が水平になるタイプや丸くなるタイプが見られる（図 5-2-(2)-7 : a、図 5-2-(2)-9 : c、図 5-2-(2)-10 : b）。これらのタイプは、ラットレイの報告によると、サクワリ後期の大型壺に見られる特徴である（Rattray 2001:Fig.31 a,m）。口縁部が大きく外反するカスエラでは、口縁部の形に大きな変化は無い。

Painted Red グループは、パトラチケ期とは異なり出土数も少ない。胎土の特徴は、無装飾グループとほぼ同じである。

表 5-2-(9)-1 : Burnished Ware の Monochrome Brown グループの建造物別器種構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
大型壺 (Olla)	4	28.6%	2	33.3%	94	56.3%	0	0.0%	151	51.9%	35	62.5%	91	68.9%	13	43.3%	5	55.6%	395	55.9%
壺 (Jar)	8	57.1%	4	66.7%	23	13.8%	0	0.0%	72	24.7%	5	8.9%	24	18.2%	12	40.0%	1	11.1%	149	21.1%
碗 (Bowl)	1	7.1%	0	0.0%	27	16.2%	2	100.0%	11	3.8%	4	7.1%	2	1.5%	0	0.0%	1	11.1%	48	6.8%
カスエラ (Cazuela)	0	0.0%	0	0.0%	14	8.4%	0	0.0%	47	16.2%	9	16.1%	14	10.6%	3	10.0%	2	22.2%	89	12.6%
ベースン (Basin)	1	7.1%	0	0.0%	9	5.4%	0	0.0%	8	2.7%	2	3.6%	0	0.0%	1	3.3%	0	0.0%	21	3.0%
コマル (Comal)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.7%	1	1.8%	1	0.8%	1	3.3%	0	0.0%	5	0.7%
合計	14	100.0%	6	100.0%	167	100.0%	2	100.0%	291	100.0%	56	100.0%	132	100.0%	30	100.0%	9	100.0%	707	100.0%

表 5-1-(9)-2 : Burnished Ware の Painted Red グループの建造物別種構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
大型壺 (Olla)	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	4	66.7%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	75.0%
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	25.0%
合計	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	6	100.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	100.0%

ラットレイによると、サクアリ期の Burnished Ware では、大型壺、壺、碗、カスエラ、コマル、ベースンが器種として存在する。前期の大型壺は、パトラチケ期の土器と比較して胎土が荒く、大粒のテンパーを含むようになる。表面調整ではランダムに施された調整痕が表面に見られる。大型壺の器形の特徴は、口縁部が肥厚し、口唇部が水平になる "Wedge Rim" や斜めになる "Beveled Wedge Rim" が一般的になり、パトラチケ期でみられた "Round Wedge Rim" は減少する。また、器形全体としては頸部が長くなだらかに外反し、

胴部は長細い形になる。後期になると胎土は、(1)白色の細かいテンパーを含む良質の胎土、(2)多くの白色や黄色のテンパーを含むやや荒い胎土、(3)多くの砂質のテンパーを含む荒い胎土の3種類に分類され、胎土の色は赤褐色(2.5YR 4/4)が一般的である。土器の表面には調整痕が規則的に配置された **Pattern Burnishing** が出現する。口縁部の形では、“**Wedge Rim**”や“**Beveled Wedge Rim**”が前期から継続し、また、口唇部に装飾が加えられるものもある。サクアリ期の大型壺には取手は付かない。また、前期の碗では、多くの黒色や白色のテンパーを含むやや荒い胎土を有し、表面は良く調整されている。器形では **Flaring Bowl** や **Shouldered Bowl** が一般的である。後期になると **Shouldered Bowl** は無くなり、**Simple Bowl** が出現する。カスエラは平底の大型の深鉢であり、前期と後期の間では大きな変化は無い。胎土は大型壺よりコンパクトで硬く、口縁部が大きく外反する器形が特徴で、口縁部の厚さは胴部より厚くなる。コマルは丸い鉄板のような平らな土器でその形が特徴的である。内面は良く **Burnish** されているが、外面は粗い調整である。ベーズンもコマル同様に出土数の少ない土器で前期、後期を通じて大きな変化は無い。器形は器厚が厚く、胴部が外傾あるいは直立する平底の大型の鉢である (Rattray 2001:127-131,141-145)。

5-3 Polished Ware (個体数 N=490、サクワリ期全体の中で 26.9%)

<黒色グループ (個体数 N=195) >

(1) 碗 (Bowl)

個体数 : N=185 (サクワリ期の Polished Ware の黒色グループ中で 94.9%)

出土地点 :

表 5-3-(1)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	14	7.6%	3	1.6%	119	64.3%	14	7.6%	30	16.2%	5	2.7%	0	0.0%	185	100.0%

図版 : 図 5-3-(1)-1 ~ 図 5-2-(1)-7

胎土 : 胎土は、やや粘土質で白色含有物を多量に含む。胎土の色は、オレンジ系 (2.5YR6/8、7.5YR6/6、7.5YR6/4)、赤褐色系 (2.5YR5/8) が多い。

表面調整 : 表面は内外面とも良く研磨され、黒色 (7.5YR2/1) である。

装飾 : 無し

器形 : 口径が 12.0~18.8cm の碗である (図 5-3-(1)-1)。

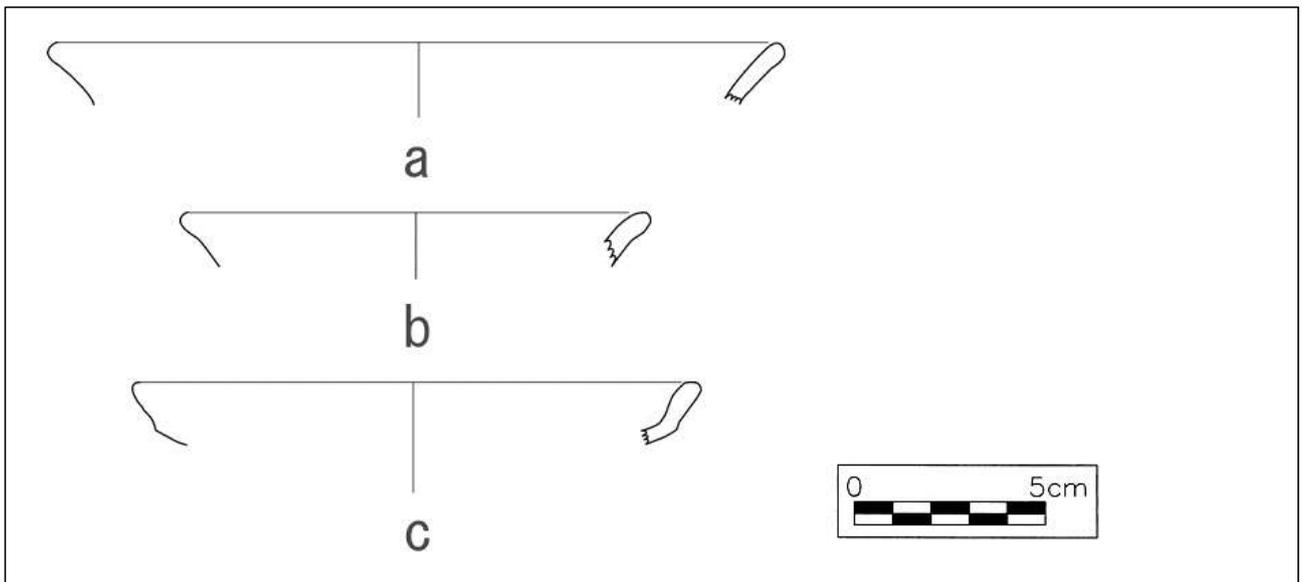


図 5-3-(1)-1 : 建造物 4 (T2) 出土の碗

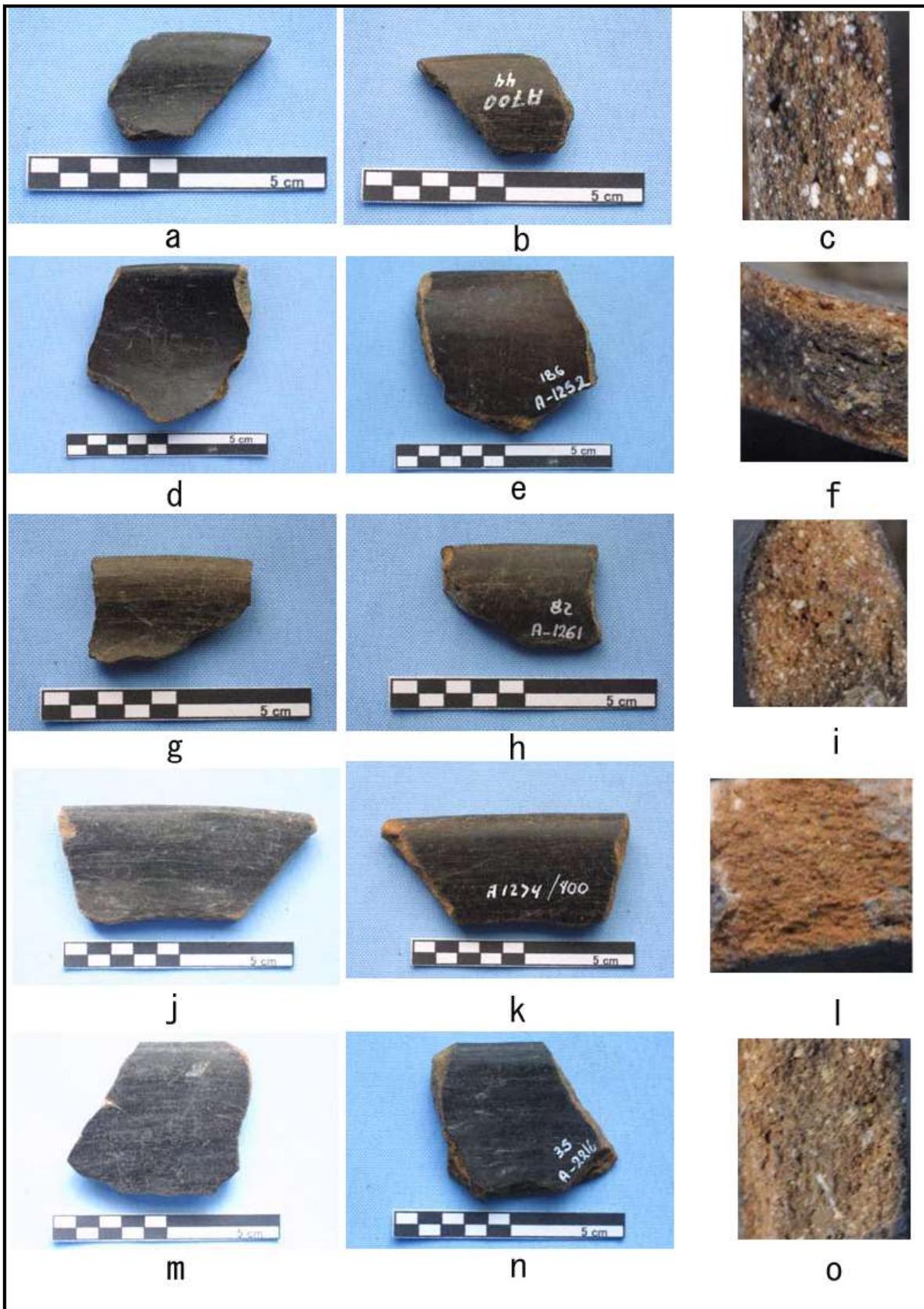


図 5-3-(1)-2 : a-l 建造物 2 (T1) 出土の碗、 m-o 建造物 2 (T4) 出土の碗

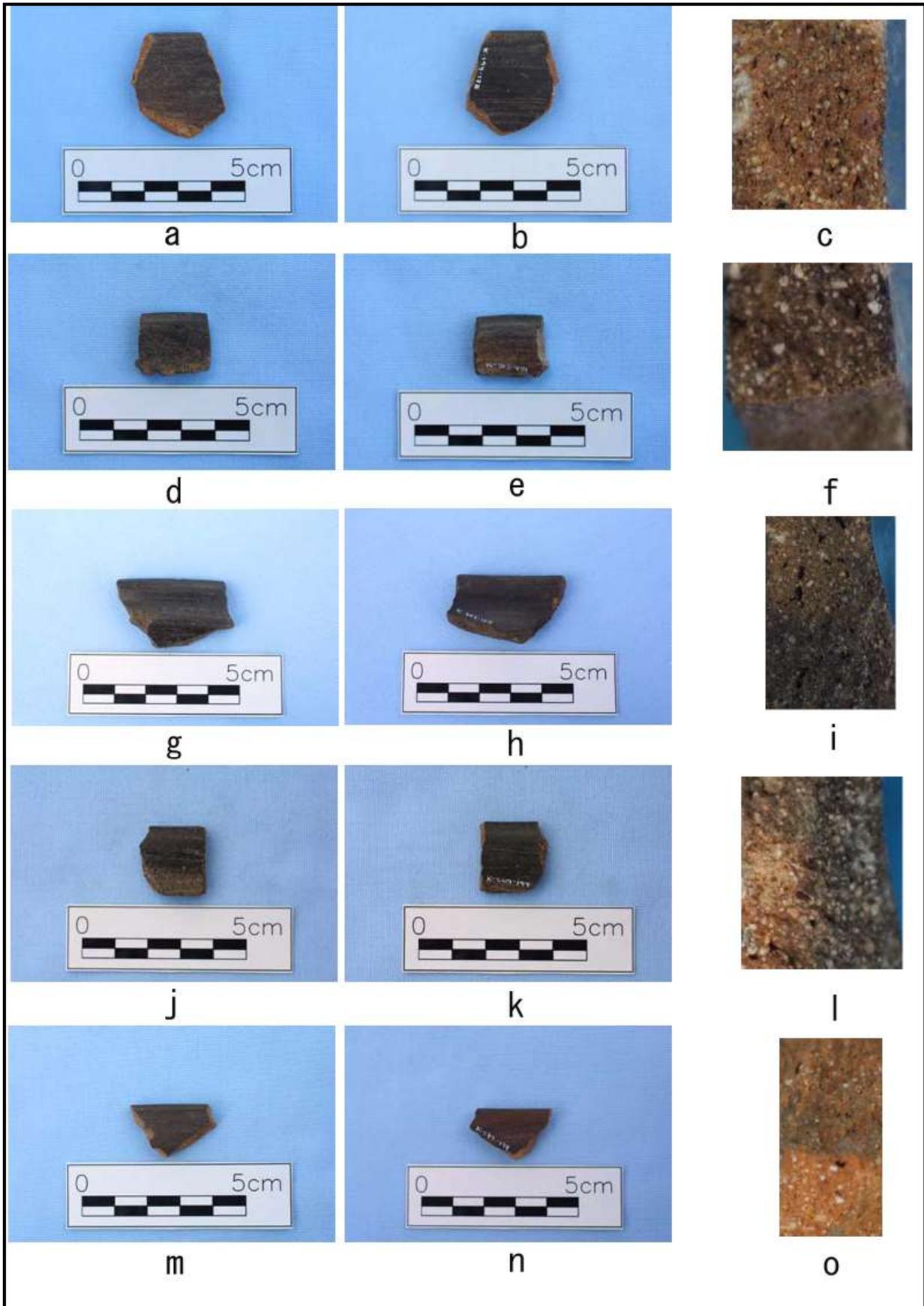


図 5-3-(1)-3 : a-o 建造物 4 (T12) 出土の碗

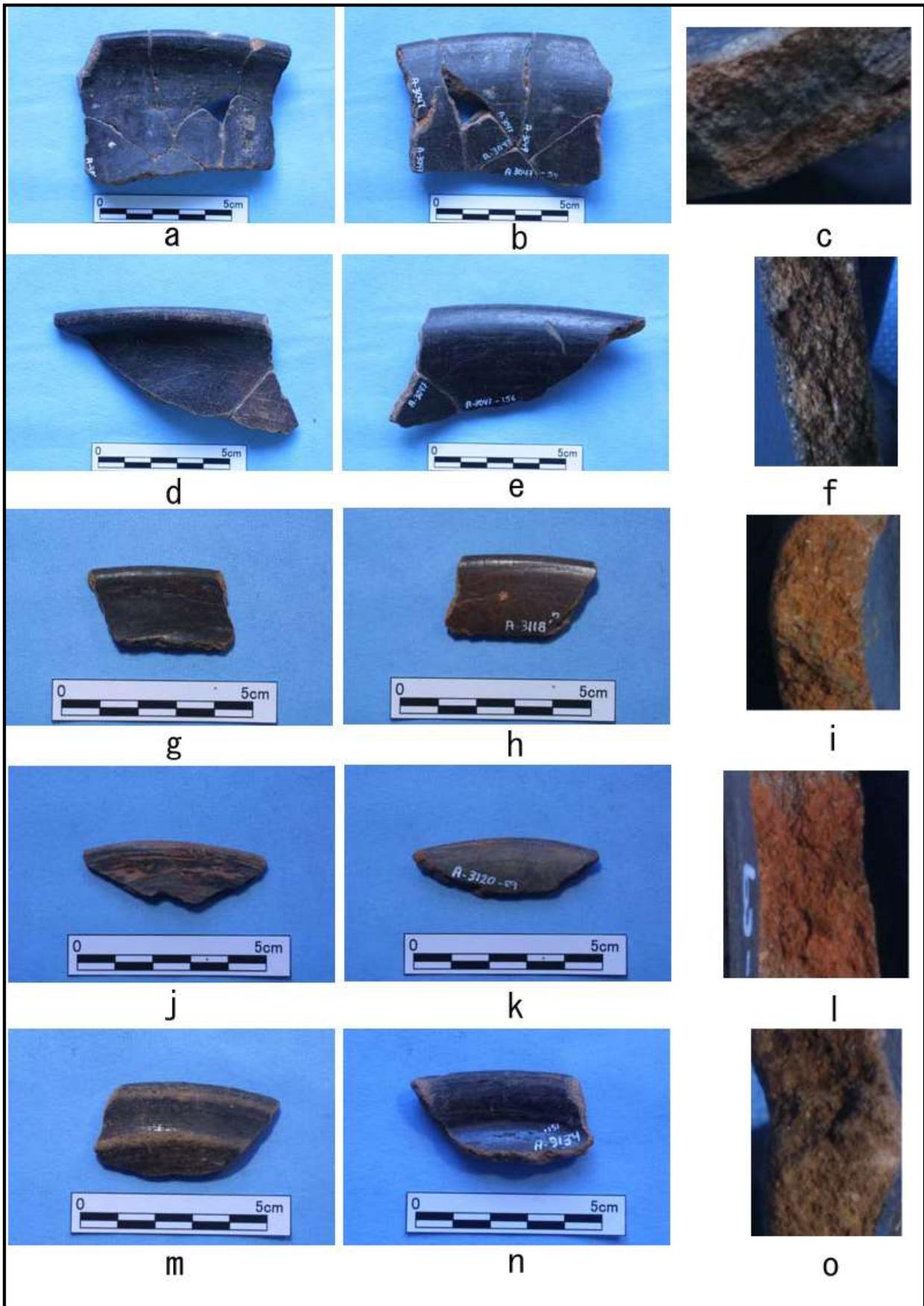


図 5-3-(1)-4 : 建造物 4 (T2) 出土の碗

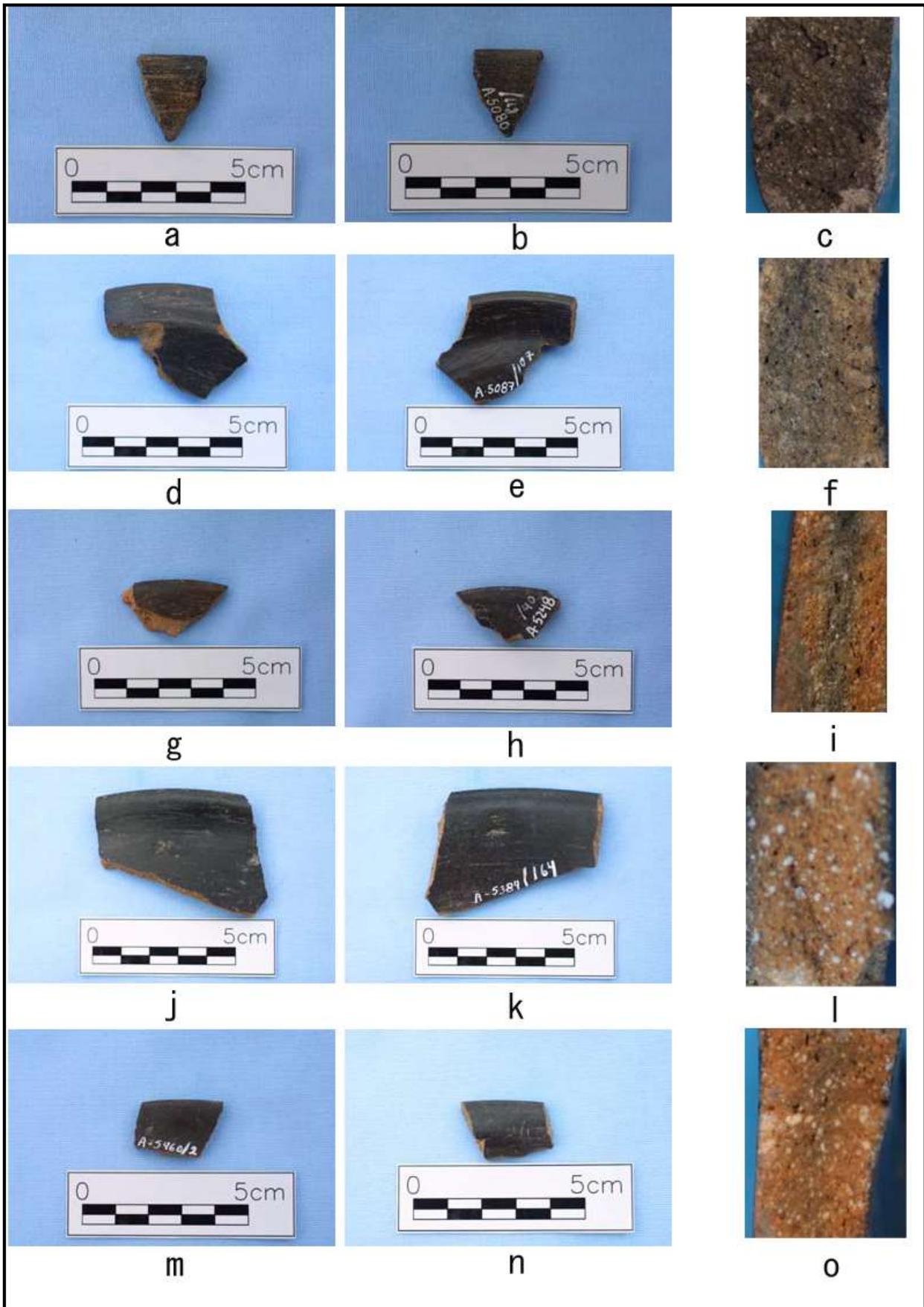


図 5-3-(1)-5 : 建造物 5 (T2) 出土の碗

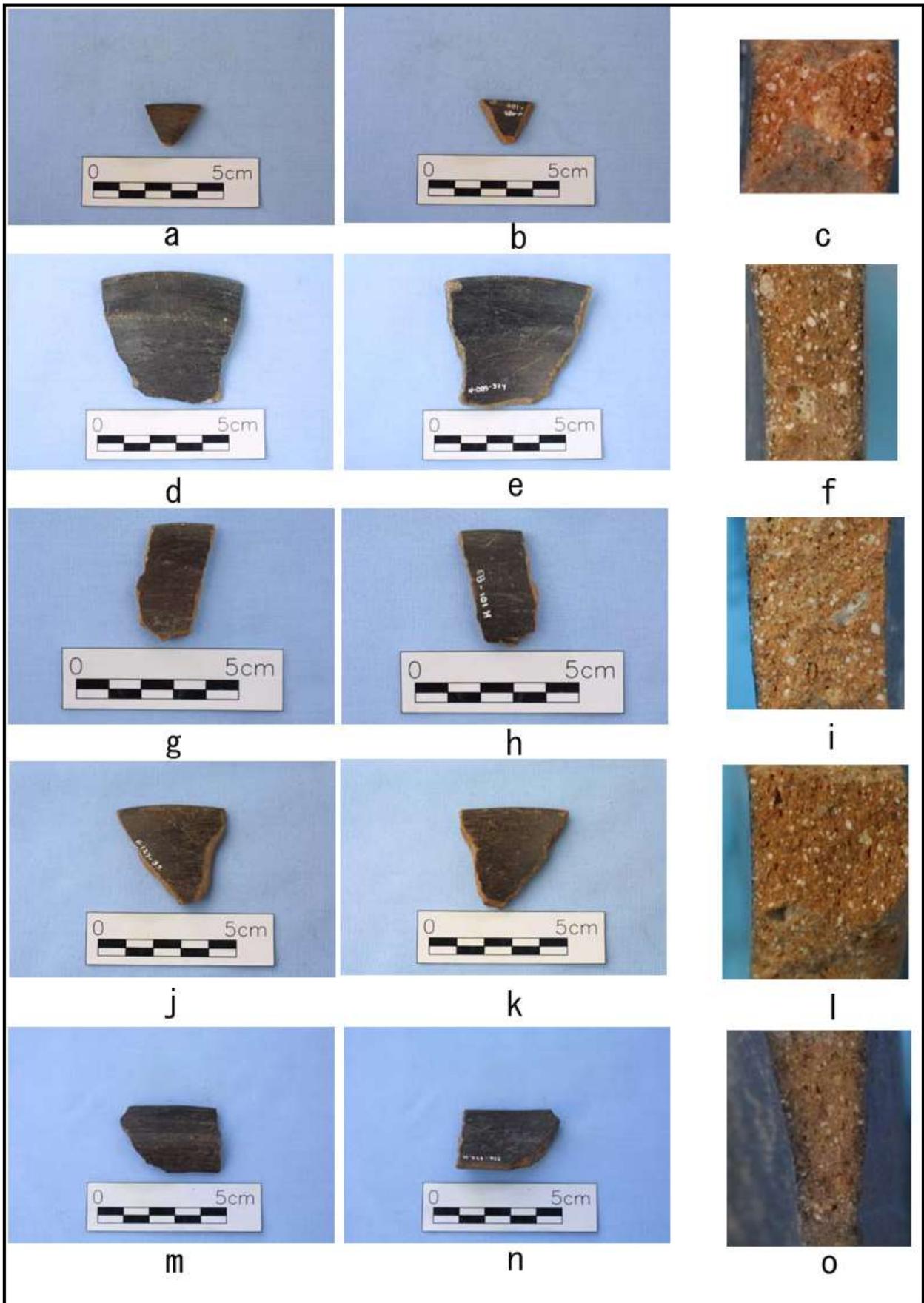


図 5-3-(1)-6 : 建造物 6 (T8) 出土の碗

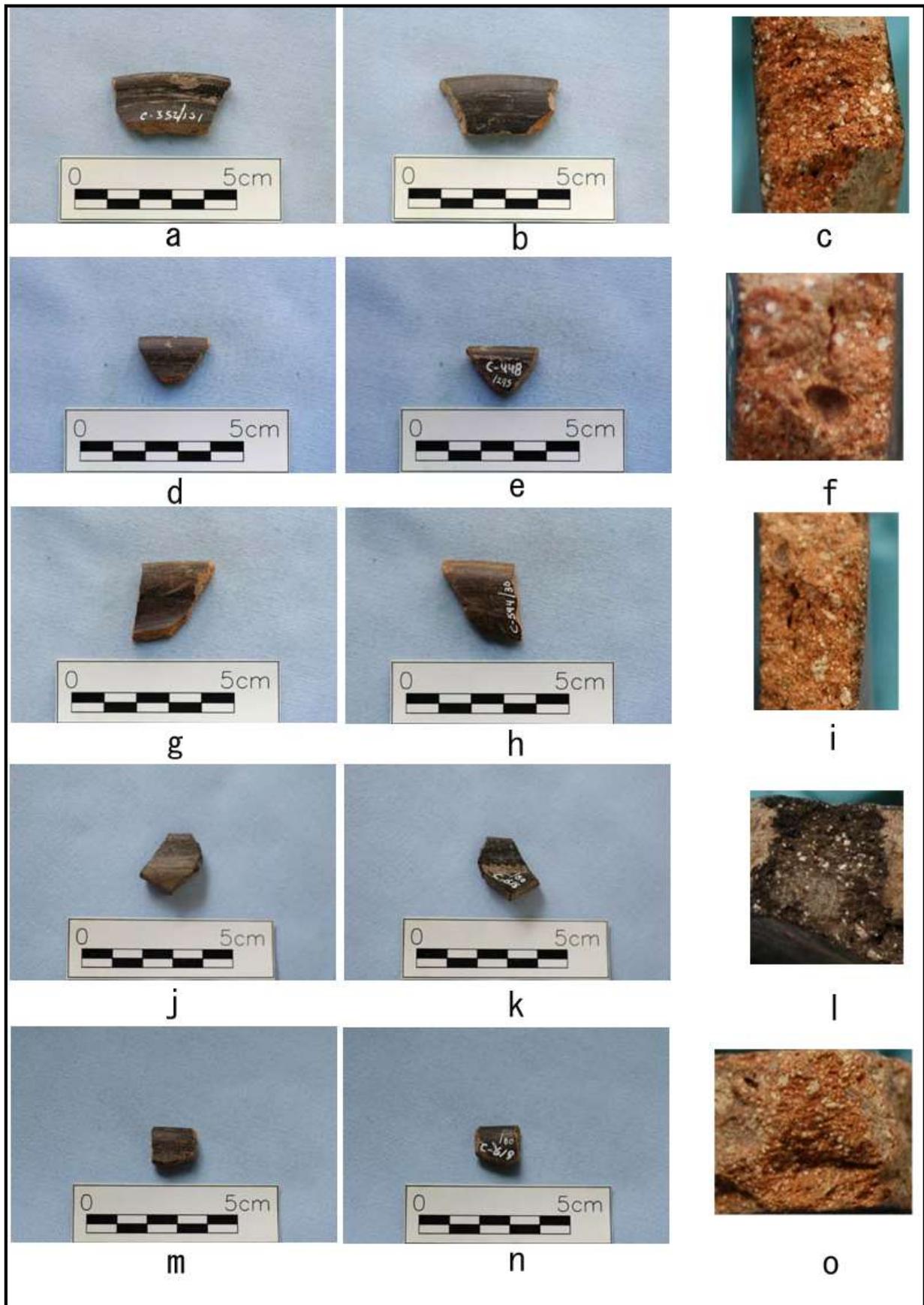


図 5-3-(1)-7 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗

(2) 長頸壺 (Florero)

個体数 : N=7 (サクワリ期の Polished Ware の黒色グループ中で 3.6%)

出土地点 :

表 5-3-(2)-1 : 長頸壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計			
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%		
長頸壺 (Florero)	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	6	85.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	100.0%

図版 : 図 5-3-(2)-1 ~ 図 5-2-(2)-3

胎土 : 胎土は、やや粘土質で含有物はあまり含まない。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/4)、赤褐色系 (5YR 5/6、2.5YR5/8) である。

表面調整 : 表面は内外面とも良く研磨され、黒色 (7.5YR2/1) である。

装飾 : 口縁部の内外面にアップリケの文様をもつものもある (図 5-3-(2)-1)。

器形 : 口縁部が大きく外反し、頸部の長い小型の長頸壺。



図 5-3-(2)-1 : 長頸壺の装飾



図 5-3-(2)-2 : 建造物 1 (T3) 出土の長頸壺

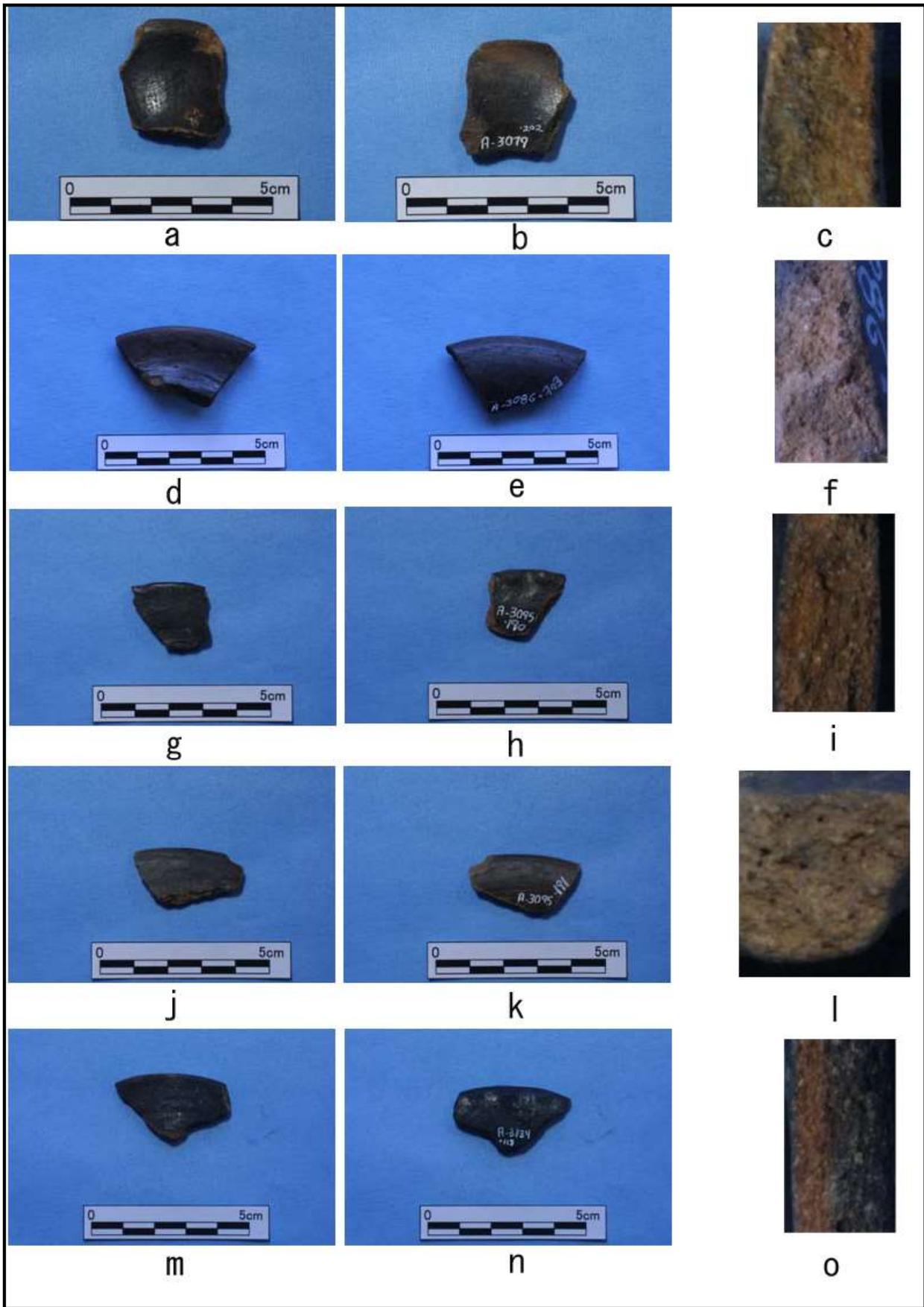


図 5-3-(2)-3 : 建造物 4 (T2) 出土の長頸壺

(3) トラロック (Tlaloc)

個体数 : N=3 (サクワリ期の Polished Ware の黒色グループ中で 1.5%)

出土地点 :

表 5-3-(3)-1 : トラロックの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計			
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%		
トラロック (Tlaloc)	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%

胎土 : 胎土は、やや粘土質で白色含有物を含み、やや柔らかい。胎土の色は、オレンジ系 (2.5YR6/8、7.5YR6/4)、赤褐色系 (2.5YR5/8) である。

表面調整 : 表面は内外面とも良く研磨され、黒色 (7.5YR2/1) である。

装飾 : 口縁部の外面にアップリケの文様をもつ。

器形 : 口縁部が大きく外反する壺である。

<褐色グループ (個体数 N=295) >

(4) 碗 (Bowl)

個体数 : N=283 (サクワリ期の Polished Ware の褐色グループ中で 95.9%)

出土地点 :

表 5-3-(4)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計			
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%		
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	12	4.2%	187	66.1%	24	8.5%	46	16.3%	13	4.6%	0	0.0%	0	0.0%	283	100.0%

図版 : 図 5-3-(4)-1 ~ 図 5-3-(4)-6

胎土 : 胎土は、黒色グループの碗と同様で、やや粘土質で白色含有物を多量に含む。胎土の色は、オレンジ系 (2.5YR6/8、7.5YR6/6、7.5YR6/4)、赤褐色系 (2.5YR5/8) が多い。

表面調整 : 表面は内外面とも良く研磨される。表面の色彩は、褐色系からオレンジ系までバリエーションが多い。

装飾 : 無し。

器形 : 口径が 17.5cm の口縁部が外反する碗がある (図 5-3-(4)-6)。

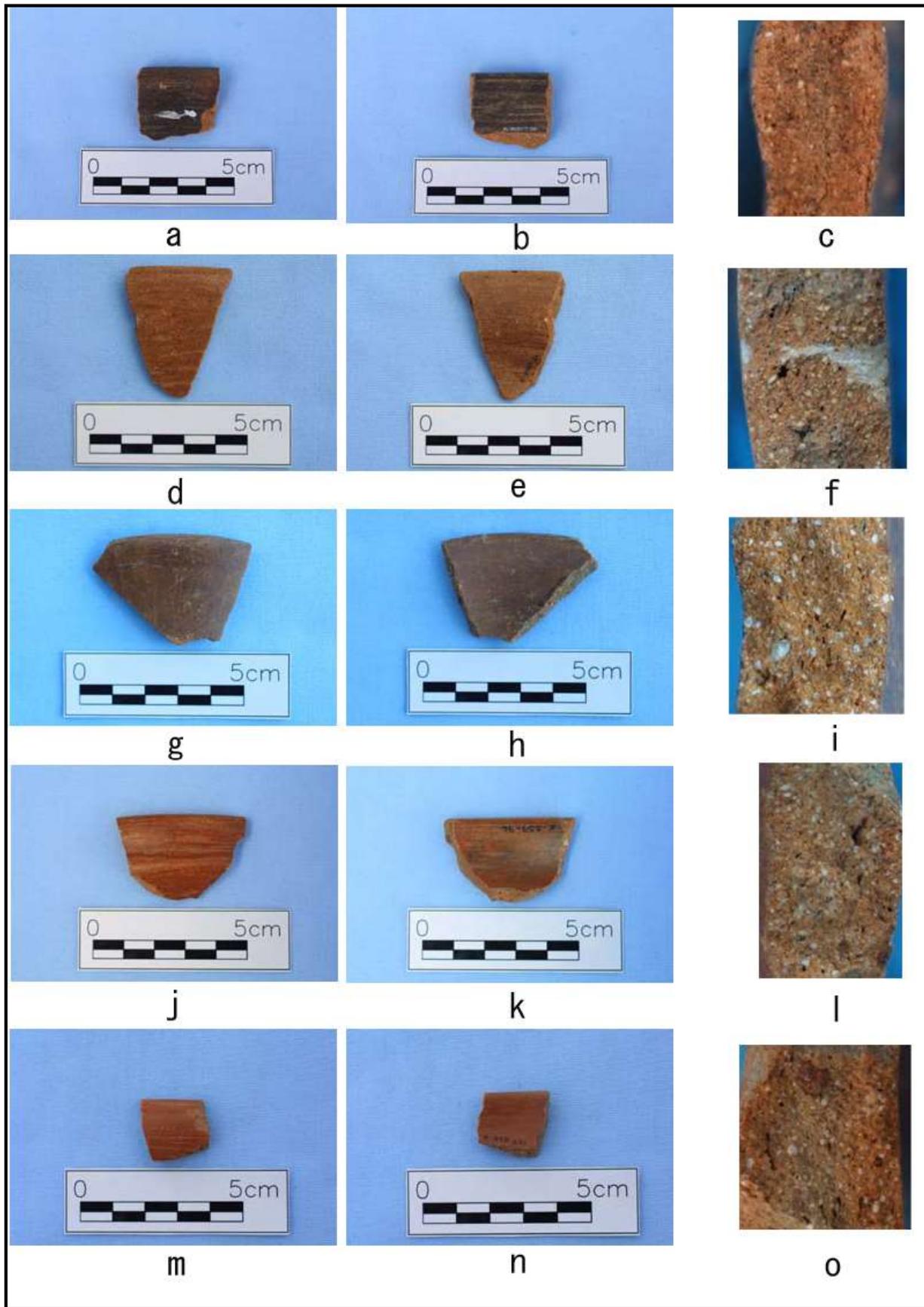


図 5-3-(4)-1 : 建造物 4 (T12) 出土の碗

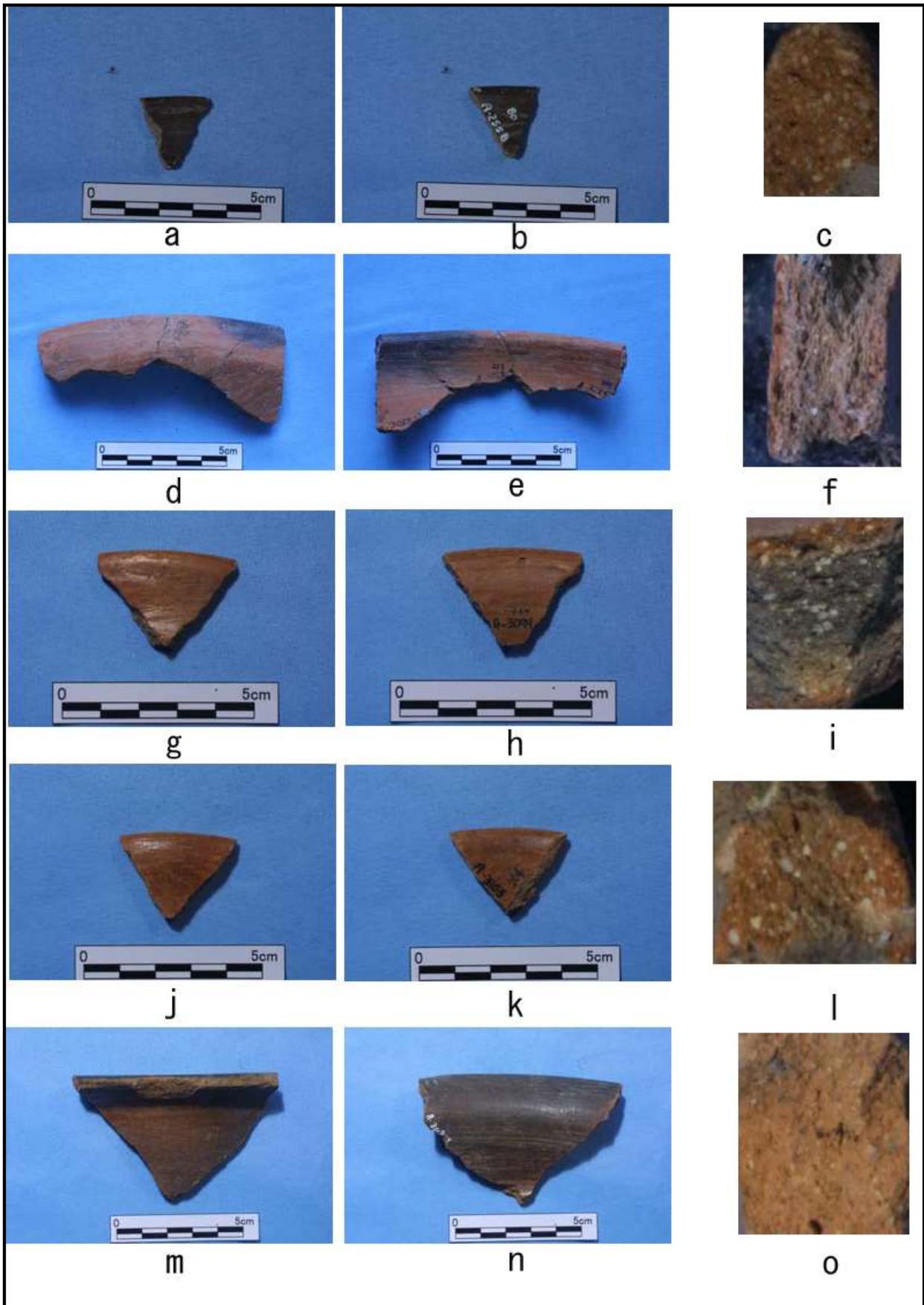


図 5-3-(4)-2 : 建造物 4 (T2) 出土の碗

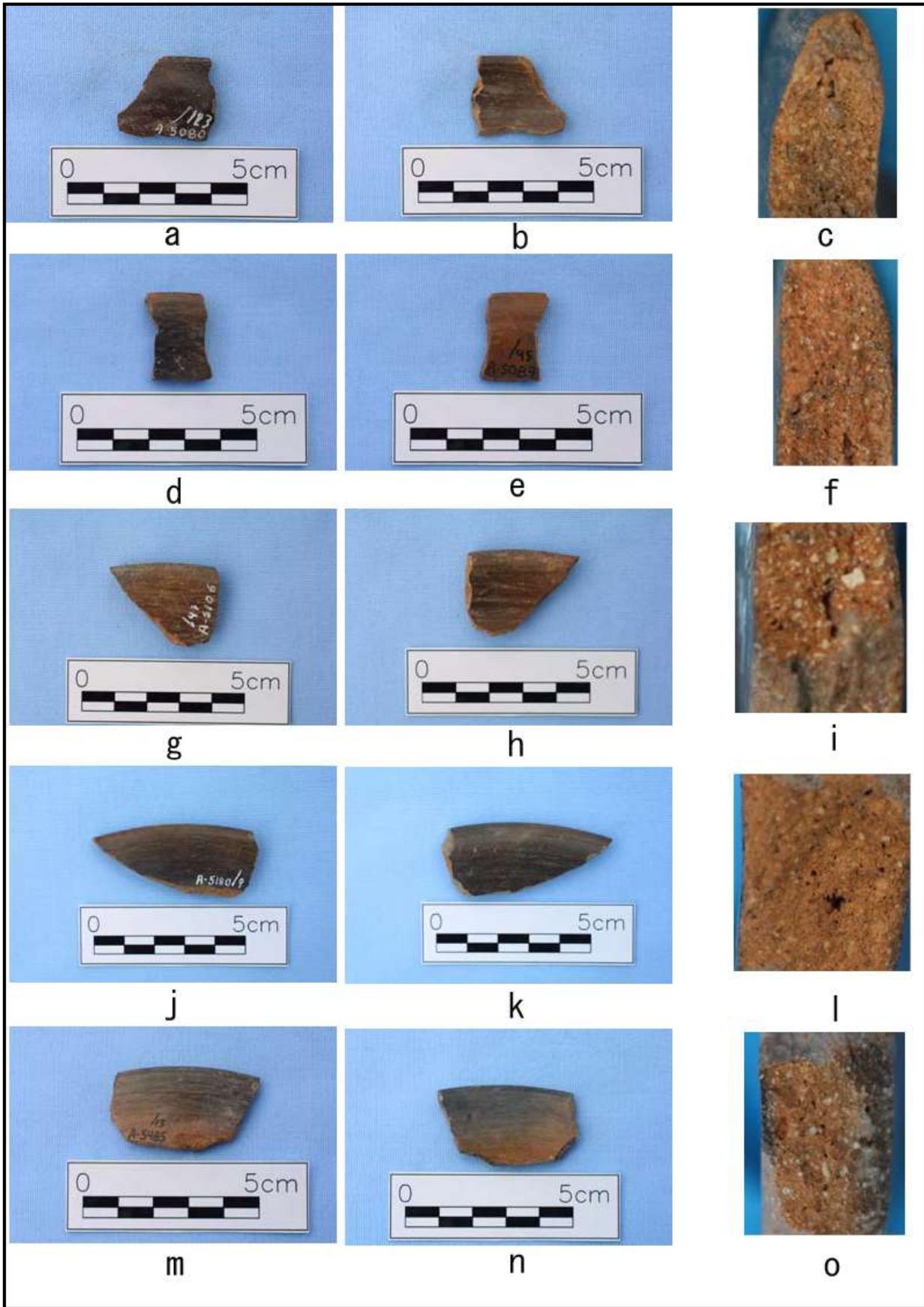


図 5-3-(4)-3 : 建造物 5 (T2) 出土の碗

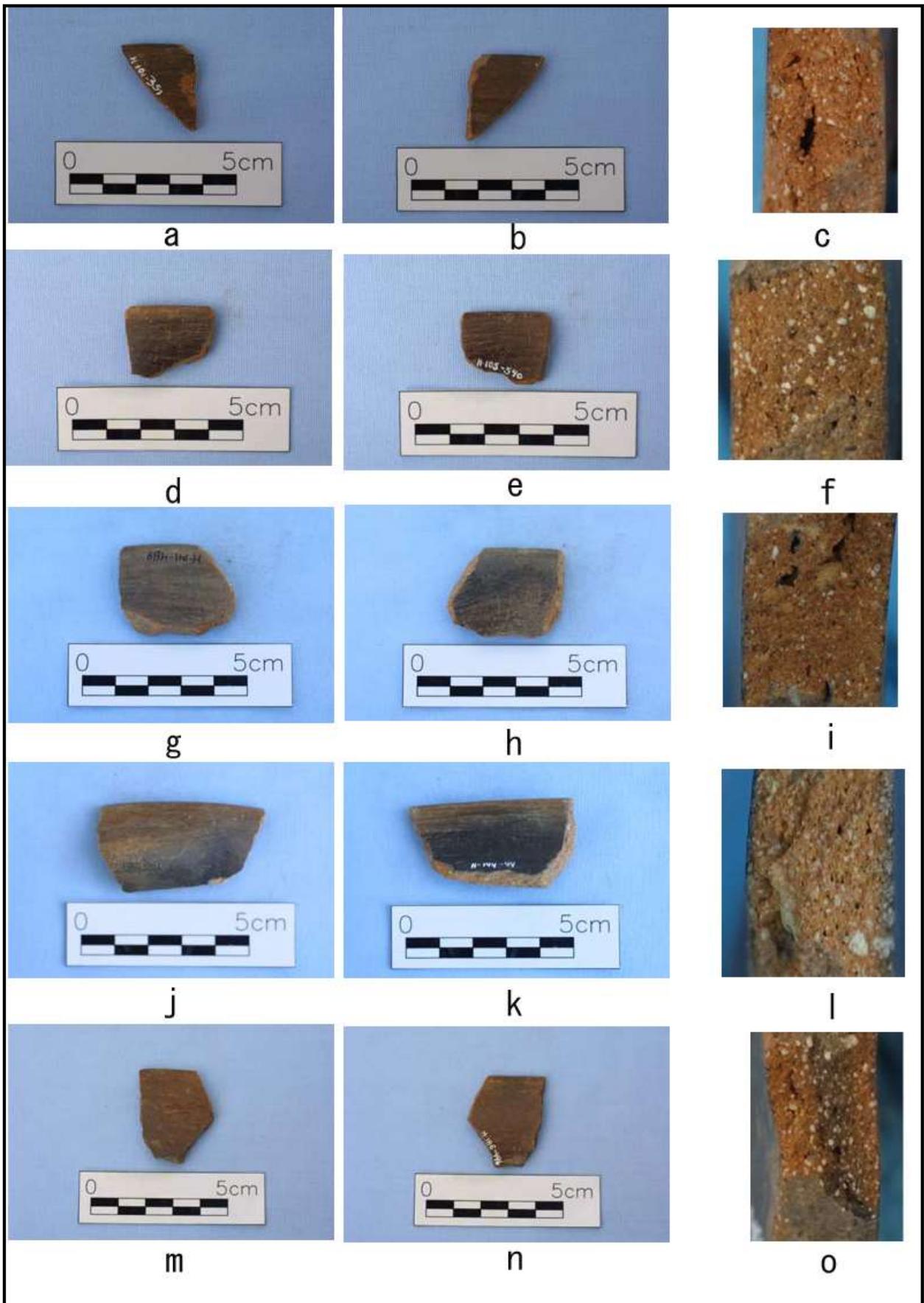


図 5-3-(4)-4 : 建造物 6 (T8) 出土の碗

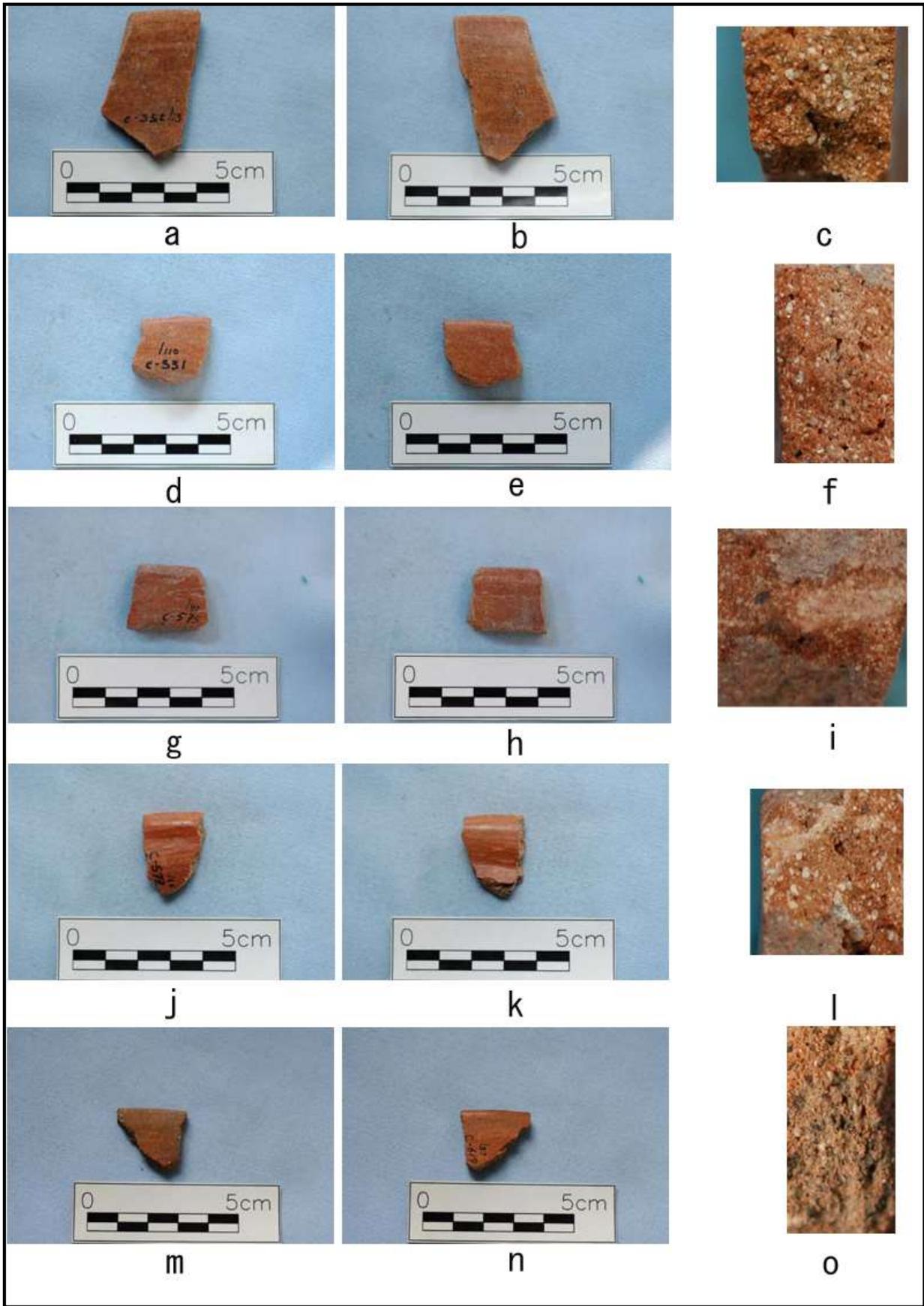


図 5-3-(4)-5 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗

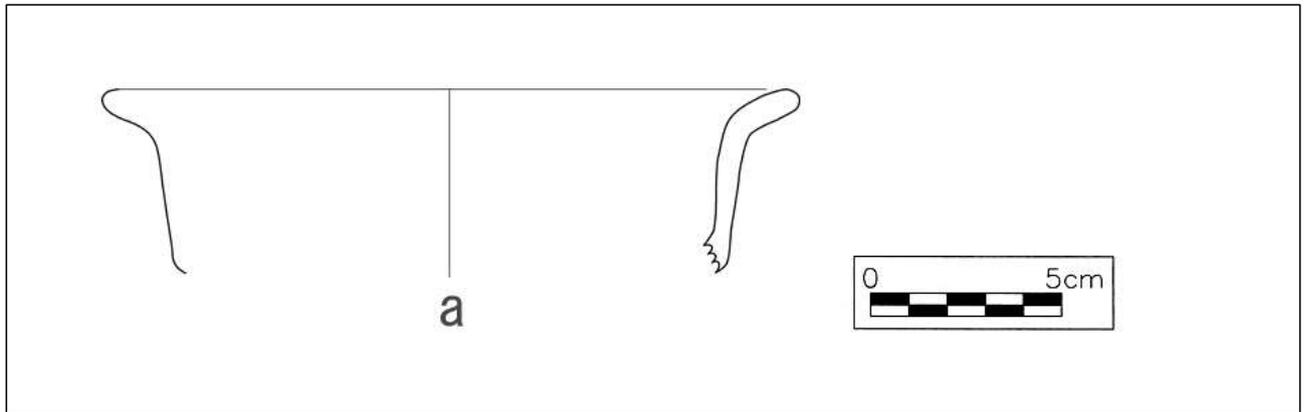


図 5-3-(4)-6 : 建造物 4 (T2) 出土の碗

(5) 長頸壺 (Florero)

個体数 : N=1 (サクワリ期の Polished Ware の褐色グループ中で 0.3%)

出土地点 :

表 5-3-(5)-1 : 長頸壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
長頸壺 (Florero)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%

図版 : 図 5-3-(5)-1

胎土 : 胎土は、やや粘土質で含有物はあまり含まない。胎土の色は、オレンジ系(10YR6/3)である。

表面調整 : 表面は内外面とも良く研磨される。表面の色彩は、にぶい赤褐色(5YR6/3)である。

装飾 : 無し。

器形 : 口縁部が大きく外反する長頸壺である。



図 5-3-(5)-1 : 建造物 4 (T2) 出土の長頸壺

(6) 壺 (Jar)

個体数 : N=1 (サクワリ期の Polished Ware の褐色グループ中で 0.3%)

出土地点 :

表 5-3-(6)-1 : 壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%

図版 : 図 5-3-(6)-1

胎土 : 胎土は、碗同様にやや粘土質で白色含有物を多量に含む。胎土の色は、オレンジ系 (10YR6/3) である。

表面調整 : 表面は内外面とも良く研磨される。外側の表面の色は、赤褐色 (5YR5/8) , 内面は、明褐色 (7.5YR5/8) である。

装飾 : 無し。

器形 : 頸部が短頸壺である。



図 5-3-(6)-1 : 建造物 6 (T8) 出土の壺

(7) 皿 (Dish)

個体数 : N=8 (サクワリ期の Polished Ware の褐色グループ中で 2.7%)

出土地点 :

表 5-3-(7)-1 : 皿の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
皿 (Dish)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	87.5%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	100.0%

図版 : 図 5-3-(7)-1

胎土 : 胎土は、やや粘土質で含有物はあまり含まない。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR 6/6)、褐色系 (7.5YR5/6、5YR4/2)、赤褐色系 (2.5YR5/8、2.5YR5/6、2.5YR4/6) である。

表面調整 : 表面は内外面とも良く研磨される。表面の色彩は褐色系 (5YR3/4、2.5YR5/8、2.5YR5/6) である。一部分黒色を呈するものもある。

装飾 : 無し。
器形 : 胴部が外傾する皿である。



図版 : 図 5-3-(7)-1 : 建造物 4 (T2) 出土の皿

(8) ミニチュア (Miniature)

個体数 : N=1 (サクワリ期の Polished Ware の褐色グループ中で 0.3%)

出土地点 :

表 5-3-(8)-1 : ミニチュアの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計			
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%		
ミニチュア (Miniature)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%

図版 : 図 5-3-(8)-1

胎土 : 胎土は、碗と同様で、やや粘土質で白色含有物を多量に含む。胎土の色は、赤褐色系 (2.5YR5/8) である。

表面調整 : 表面は内外面とも良く研磨される。表面の色彩は赤褐色 (2.5Yr6/8) である。

装飾 : 無し。

器形 : 口縁部が外反する小型の碗である。



図 5-3-(8)-1：建造物 4（T2）出土のミニチュアの碗

（9）トラロック (Tlaloc)

個体数：N=1（サクワリ期の Polished Ware の褐色グループ中で 0.3%）

出土地点：

表 5-3-(9)-1：トラロックの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
トラロック (Tlaloc)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%

胎土：胎土は、やや粘土質で白色含有物を含み、やや柔らかい。胎土の色は、明赤褐色 (2.5YR5/8) である。

表面調整：表面は内外面とも良く研磨され、口縁部の内外面の色は、胎土と同じである。

装飾：口縁部の外面にアップリケの文様をもつ。

器形：胴部から口縁部にかけて外反する壺。

（10）まとめ

表 5-3-(10)-1：Polished Ware の黒色グループの建造物別器種構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	14	93.3%	3	100.0%	119	94.4%	14	93.3%	30	100.0%	5	100.0%	0	0.0%	185	94.9%
長頸壺 (Florero)	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	3.6%
トラロック (Tlaloc)	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	1	0.8%	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.5%
合計	0	0.0%	1	100.0%	15	100.0%	3	100.0%	126	100.0%	15	100.0%	30	100.0%	5	100.0%	0	0.0%	195	98.5%

表 5-3-(10)-2 : Polished Ware の褐色グループの建造物別器種構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	12	100.0%	187	95.4%	24	92.3%	46	97.9%	13	100.0%	0	0.0%	283	95.9%
長頸壺 (Florero)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%
皿 (Dish)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	3.6%	1	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	2.7%
ミニチュア (Miniature)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%
トラロック (Tlaloc)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%
合計	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	12	100.0%	196	100.0%	26	100.0%	47	100.0%	13	100.0%	0	0.0%	295	100.0%

サクワリ期の Polished Ware の黒色グループの器種構成は、碗が最も多く、次に長頸壺 (Florero) が続く (表 5-3-(10)-1)。また、褐色グループでは、黒色グループより器種構成は豊富であるが、碗の出土数が多い (表 5-3-(10)-2)。

ラットレイの報告によると、サクワリ期の前期の器種としては、壺、碗、円筒形壺、皿あり、この時期に始めて長頸壺 (Florero) が出現する。碗では、Flaring Bowl や Shouldered Bowl が一般的な器形であるが、口縁部断面が波型になる Corrugated Bowl が新たな器形として出現する。後期ではトラロックと呼ばれる儀式用の土器で墓の副葬品となる器種が新たに加わるが、他の器種構成は前期と同じである。また、胎土や表面調整の点でも前期の特徴が継続する。沈線を持つ碗や円筒形壺も少数ながら存在する。焼成後に曲線や平行線あるいは Cross-hatching 等の文様が施される (Rattray 2001:123-151)。

「月のピラミッド」出土の Polished Ware の胎土はパトラチケ期と大きく異なり、粘土質でオレンジ系、赤褐色系の色で大量の白色の含有物を含む胎土に変わる。この胎土は、他の時期には見られない胎土であるので、サクワリ期のタイムマーカーになる。ラットレイもこの胎土については Polished Monochrome Ware の特徴として報告している。

<Early Tzacualli>

...the second is the fully oxidized typical “salt and pepper” paste in reddish Brown(2.5YR 6/8,5/8) (Rattray 2001:131) .

<Late Tzacualli>

Paste texture varies from very fine to medium and is oxidized throughout. The familiar “salt and pepper”, red-brown paste with fine black and White particles is common (Rattray 2001:147) .

「月のピラミッド」の出土の土器では、サクワリ期の前期、後期の区別はできないが、この胎土は、サクワリ期の Polished Ware の典型的な胎土である。

5-4 Painted Ware (個体数 N=316、サクワリ期全体の中で 17.3%)

<Monochrome Red グループ (個体数 N=64) >

(1) 碗 (Bowl)

個体数 : N=59 (サクワリ期の Painted Ware の Monochrome Red グループ中で 92.2%)

出土地点 :

表 5-4-(1)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	26	44.1%	0	0.0%	19	32.2%	1	1.7%	13	22.0%	0	0.0%	0	0.0%	59	100.0%

図版 : 図 5-4-(1)-1 ~ 図 5-4-(1)-2

胎土 : 胎土は、やや粘土質で白色含有物は多くない。胎土の色は、オレンジ系 (2.5YR6/8、7.5YR6/6、7.5YR6/4)、赤褐色系 (2.5YR5/8) が多い。中には、黒色のものもある。

表面調整 : 表面は内外面とも良く研磨され、赤色のペイントが施される。

装飾 : 無し。

器形 : 半球形碗 (Simple Bowl) や胴部が外傾する碗 (Flaring Bowl) である。

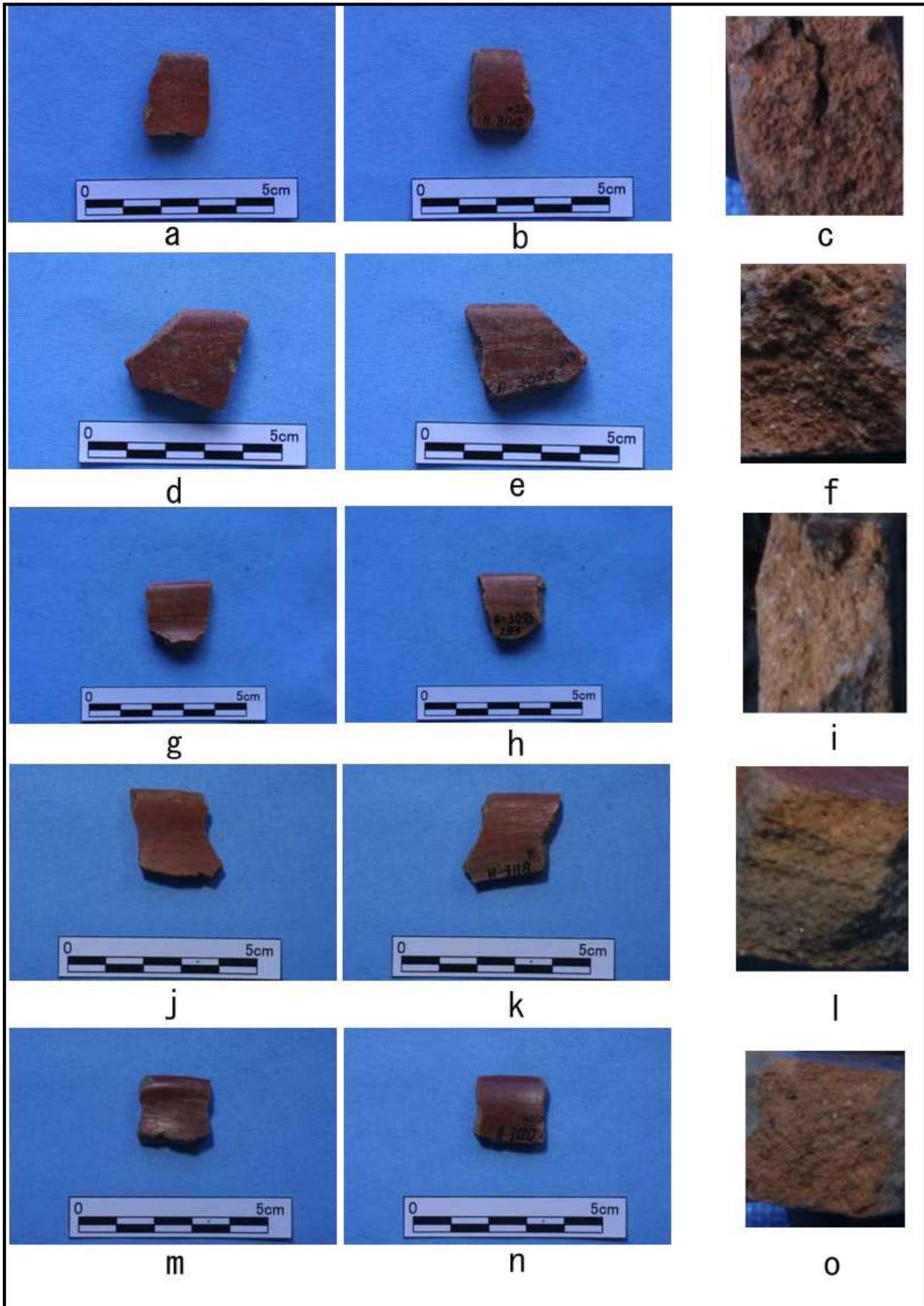


図 5-4-(1)-1 : 建造物 4 (T2) 出土の碗

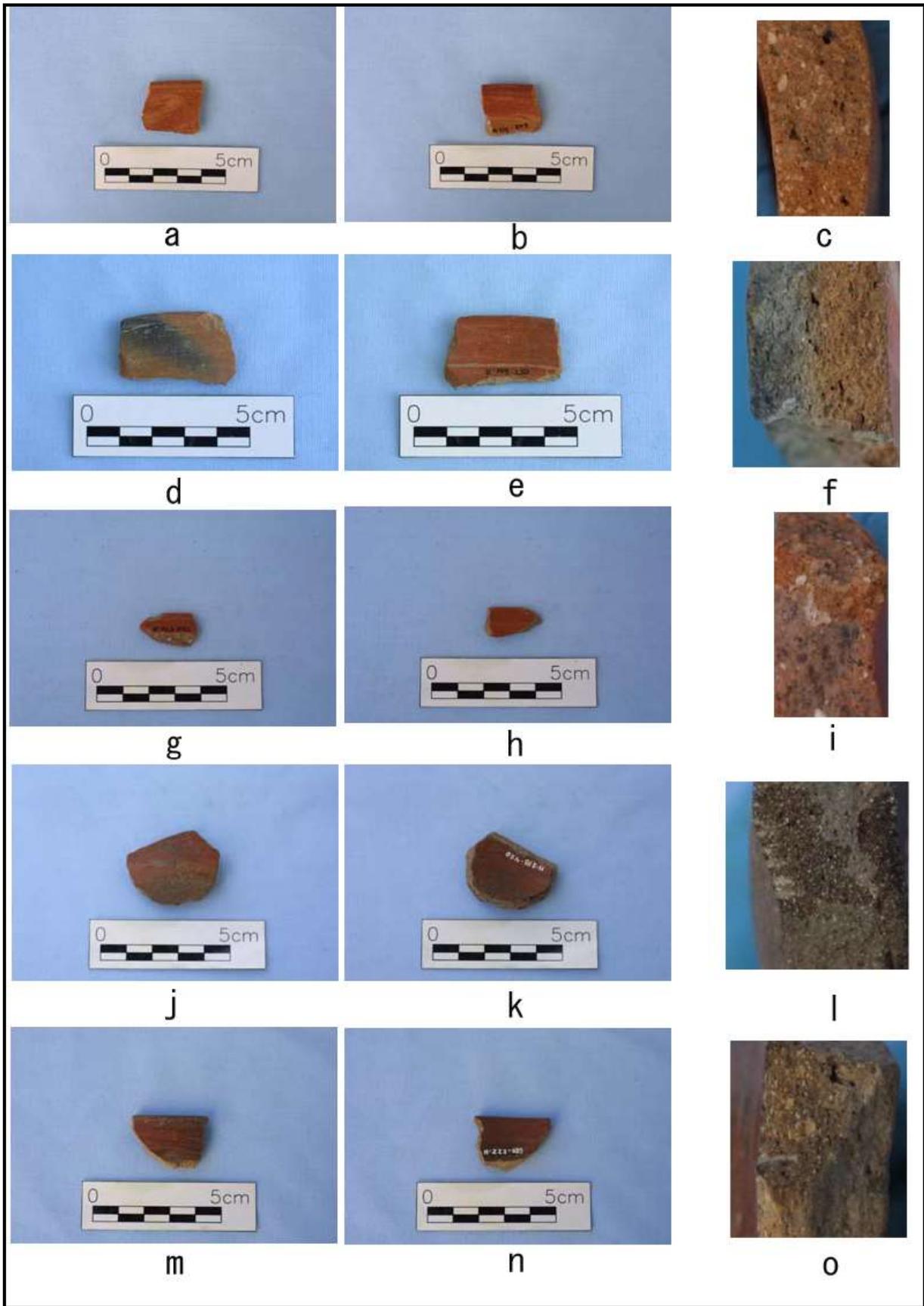


図 5-4-(1)-2 : 建造物 6 (T8) 出土の碗

(2) カスエラ (Cazuela)

個体数 : N=2 (サクワリ期の Painted Ware の Monochrome Red グループ中で 3.1%)

出土地点 :

表 5-4-(2)-1 : カスエラの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計			
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%		
カスエラ (Cazuela)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%

図版 : 図 5-4-(2)-1

胎土 : 胎土は、やや粘土質で白色含有物ほとんど見られない。胎土の色は、赤褐色系 (2.5YR5/8、2.5YR4/8) である。

表面調整 : 表面は内外面とも良く研磨され、赤色のペイントが施される。

装飾 : 無し。

器形 : 口縁部が大きく外側に外反するカスエラである。

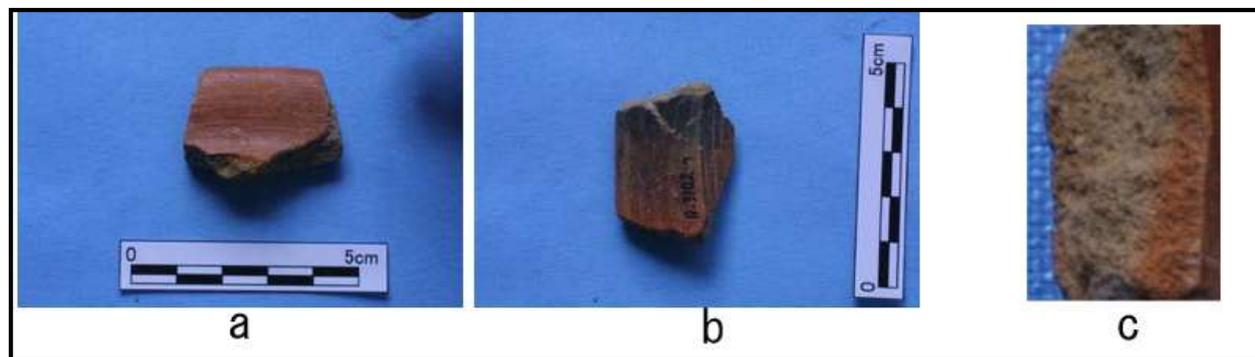


図 5-4-(2)-1 : 建造物 4 (T2) 出土のカスエラ

(3) 壺 (Jar)

個体数 : N=2 (サクワリ期の Painted Ware の Monochrome Red グループ中で 3.1%)

出土地点 :

表 5-4-(3)-1 : 壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計			
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%		
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%

図版 : 図 5-4-(3)-1 ~ 図 5-4-(3)-2

胎土 : 胎土は、やや粘土質で白色の含有物が見られる。胎土の色は、オレンジ系 (2.5YR6/8)、赤褐色系 (2.5YR5/8) である。

表面調整 : 外面は良く研磨され、赤色のペイントが外面および口縁部内面に施される。

装飾 : まれに焼成後の刻文がみられる (図 5-4-(3)-2)。

器形 : 土器片が小さく、全体の器形を復元できない。

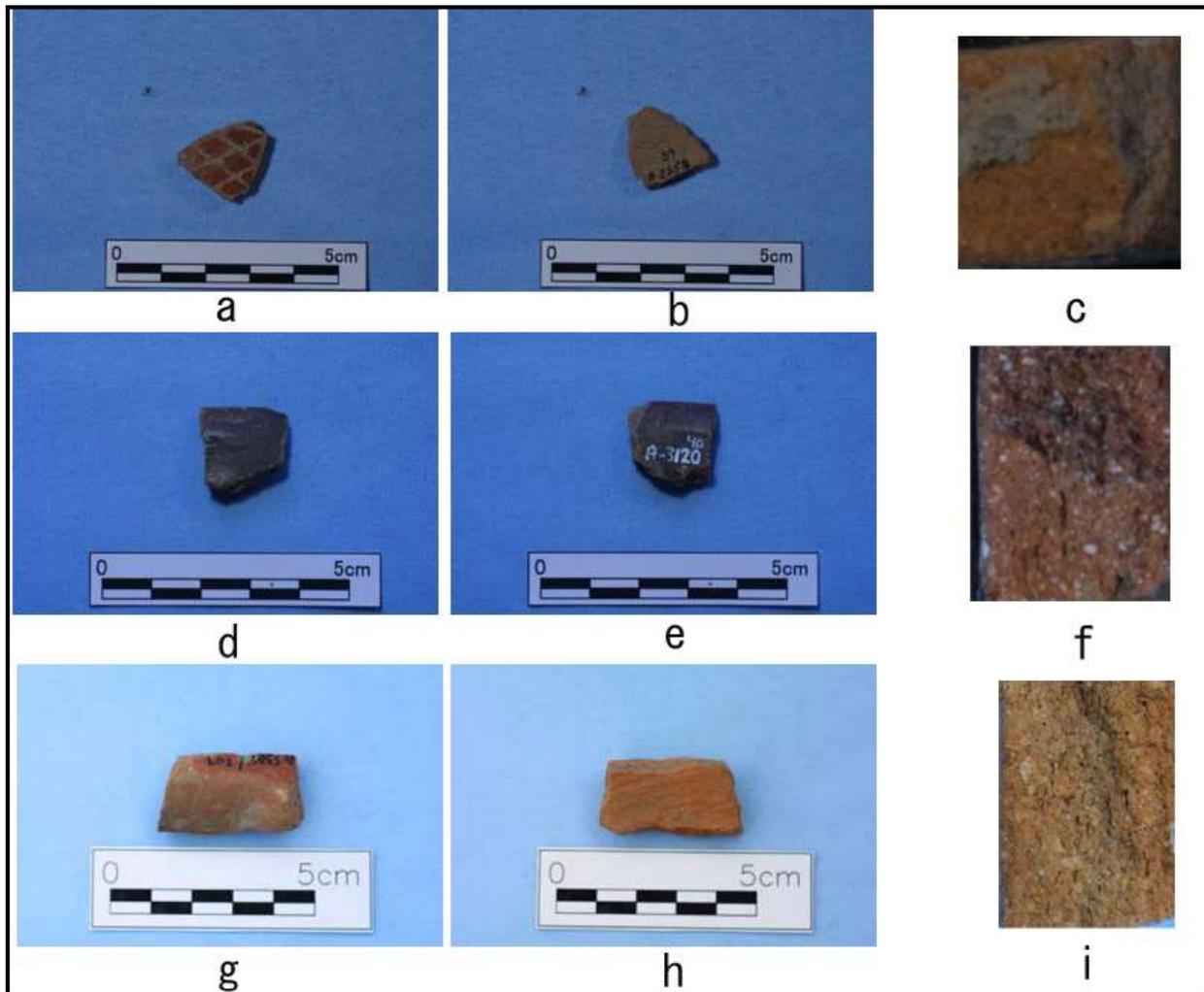


図 5-4-(3)-1 : a-f 建造物 4 (T2) 出土の壺、g-i 建造物 5 (T2) 出土の壺

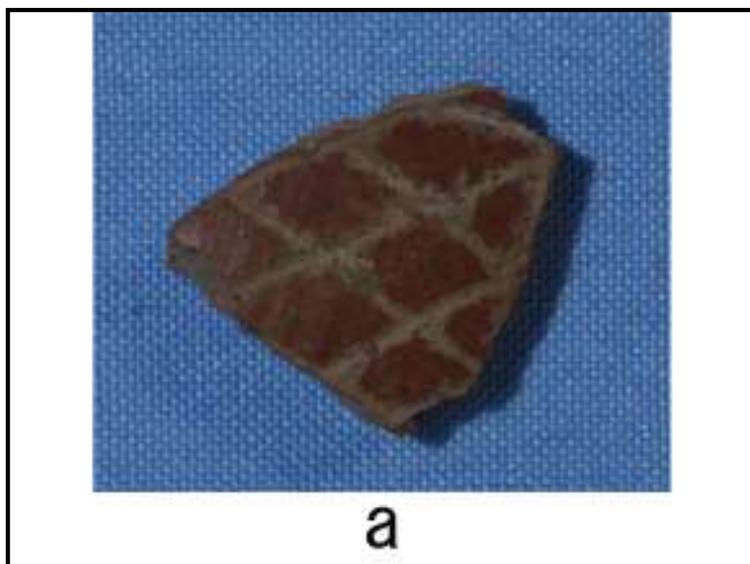


図 5-4-(3)-2 : 焼成後に施文された刻文

(4) 円筒形壺 (Vase)

個体数 : N=1 (サクワリ期の Painted Ware の Monochrome Red グループ中で 1.6%)

出土地点 :

表 5-4-(4)-1 : 円筒形壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計			
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%		
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%

図版 : 図 5-4-(4)-1

胎土 : 胎土は、やや粘土質で白色の含有物は少ない。胎土の色は、オレンジ系(2.5YR6/8)、赤褐色系(5YR5/6、5YR5/8、2.5YR5/8)である。

表面調整 : 外面は良く研磨され、赤色のペイントが外面に施される。

装飾 : 無し。

器形 : 底部が平底の円筒形壺である。

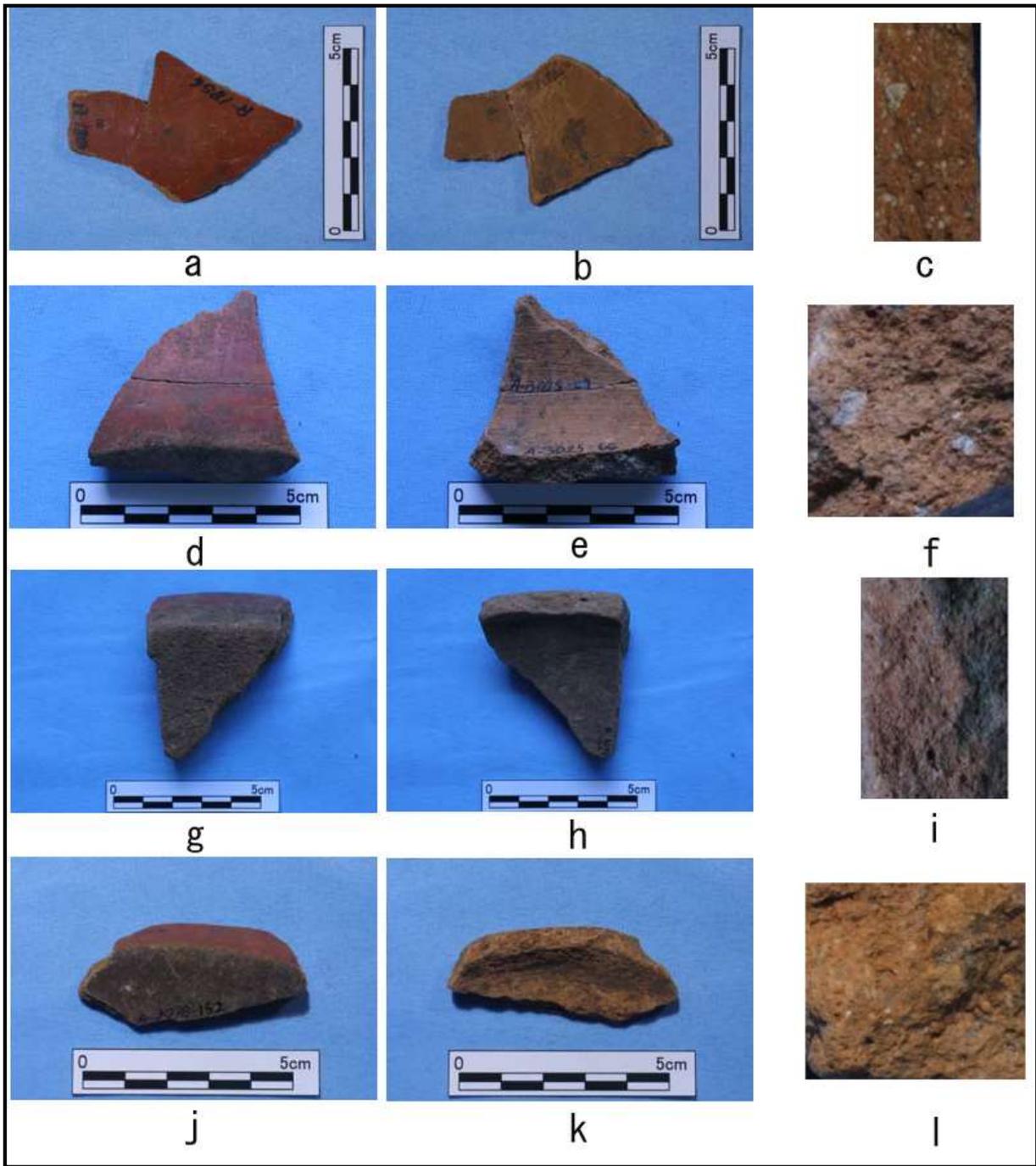


図 5-4-(4)-1 : 建造物 4 (T2) 出土の円筒形壺

< Red on Natural グループ (個体数 N=131) >

(5) 碗 (Bowl)

個体数 : N=130 (サクワリ期の Painted Ware の Red on Natural グループ中で 99.2%)

出土地点：

表 5-4-(5)-1：碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	7	5.4%	0	0.0%	55	42.3%	12	9.2%	41	31.5%	13	10.0%	2	1.5%	130	100.0%

図版：図 5-4-(5)-1～図 5-4-(5)-7

胎土：胎土は、やや粘土質で白色の含有物を多く含む。胎土の色は、オレンジ系 (2.5YR6/8、7.5YR6/6、7.5YR6/4)、赤褐色系 (2.5YR5/8) が多い。

表面調整：表面は内外面とも良く研磨される。色は、胎土と同じである。

装飾：口縁部の内外面に赤色のペイントが施され、さらに内面に赤色の線で文様が描かれる。

器形：口径 18.1cm の Simple Bowl (図 5-4-(5)-7:b)、や口径 20.2cm の胴部が外傾する Flaring Bowl がある (図 5-4-(5)-7:a)。また、直径 13.4cm の平底の底部も出土している (図 5-4-(5)-7:c)。

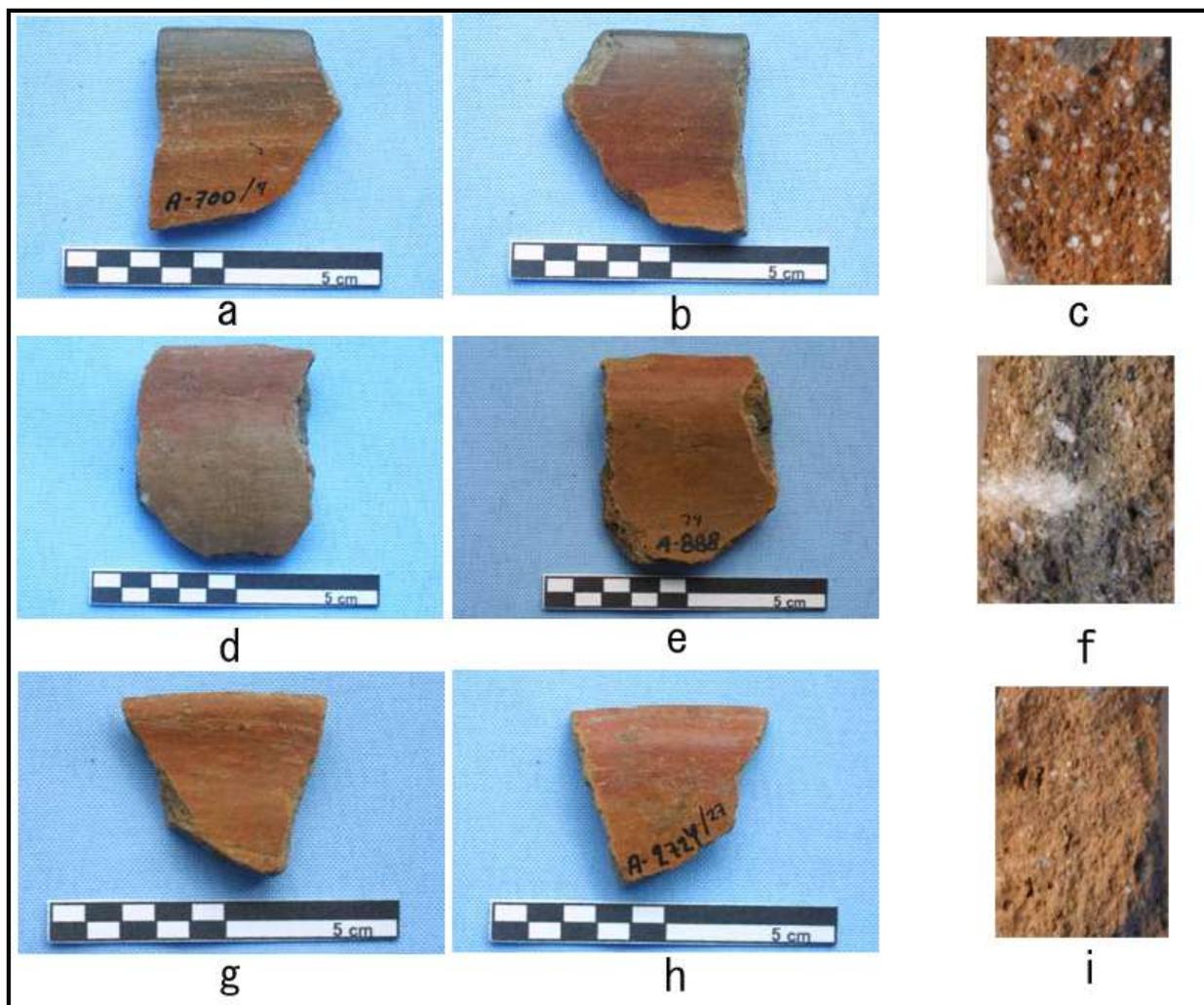


図 5-4-(5)-1：a-c 建造物 2 (T4) 出土の碗、d-i 建造物 2 (T1) 出土の碗

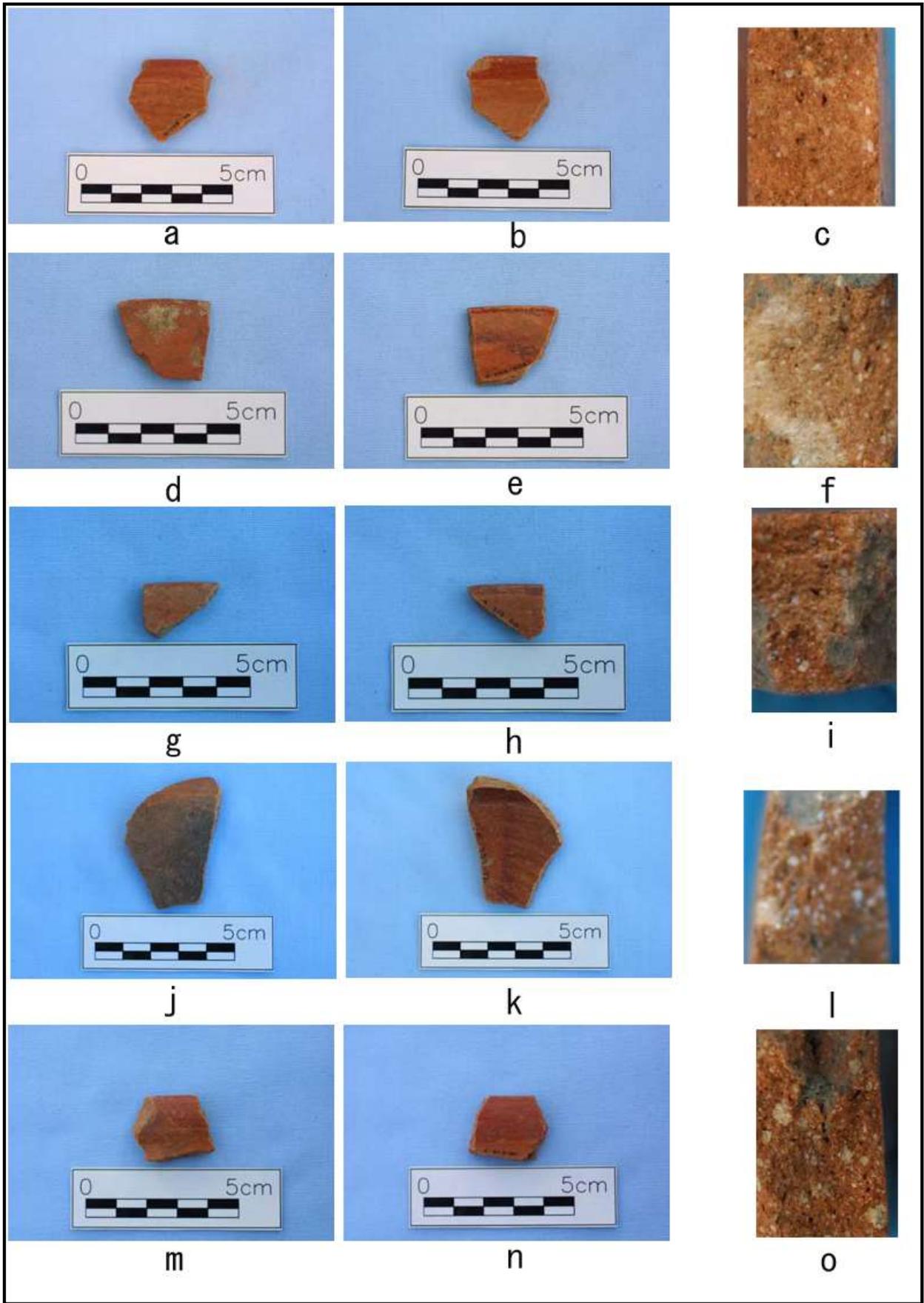


図 5-4-(5)-2 : 建造物 4 (T12) 出土の碗

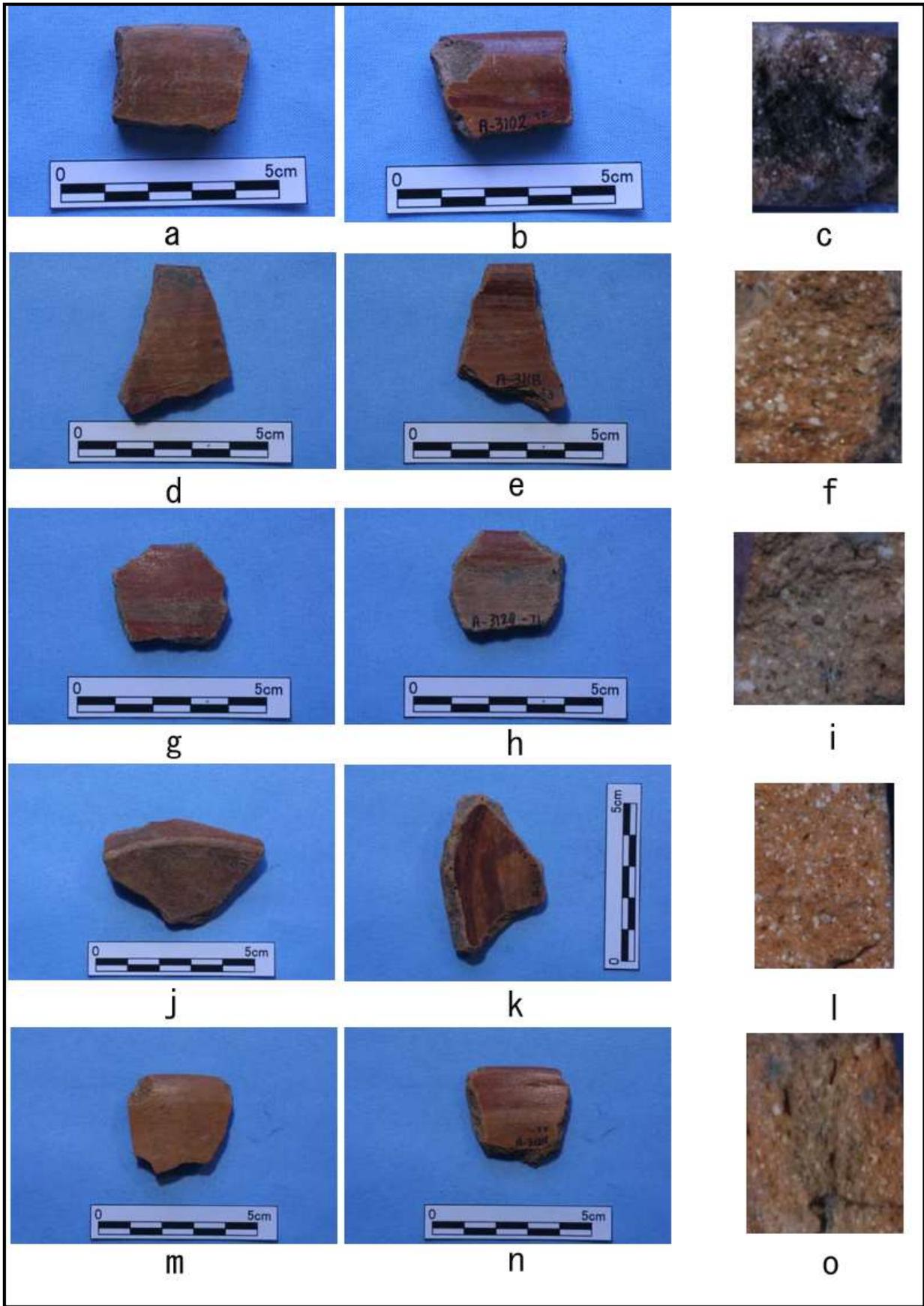


図 5-4-(5)-3 : 建造物 4 (T2) 出土の碗

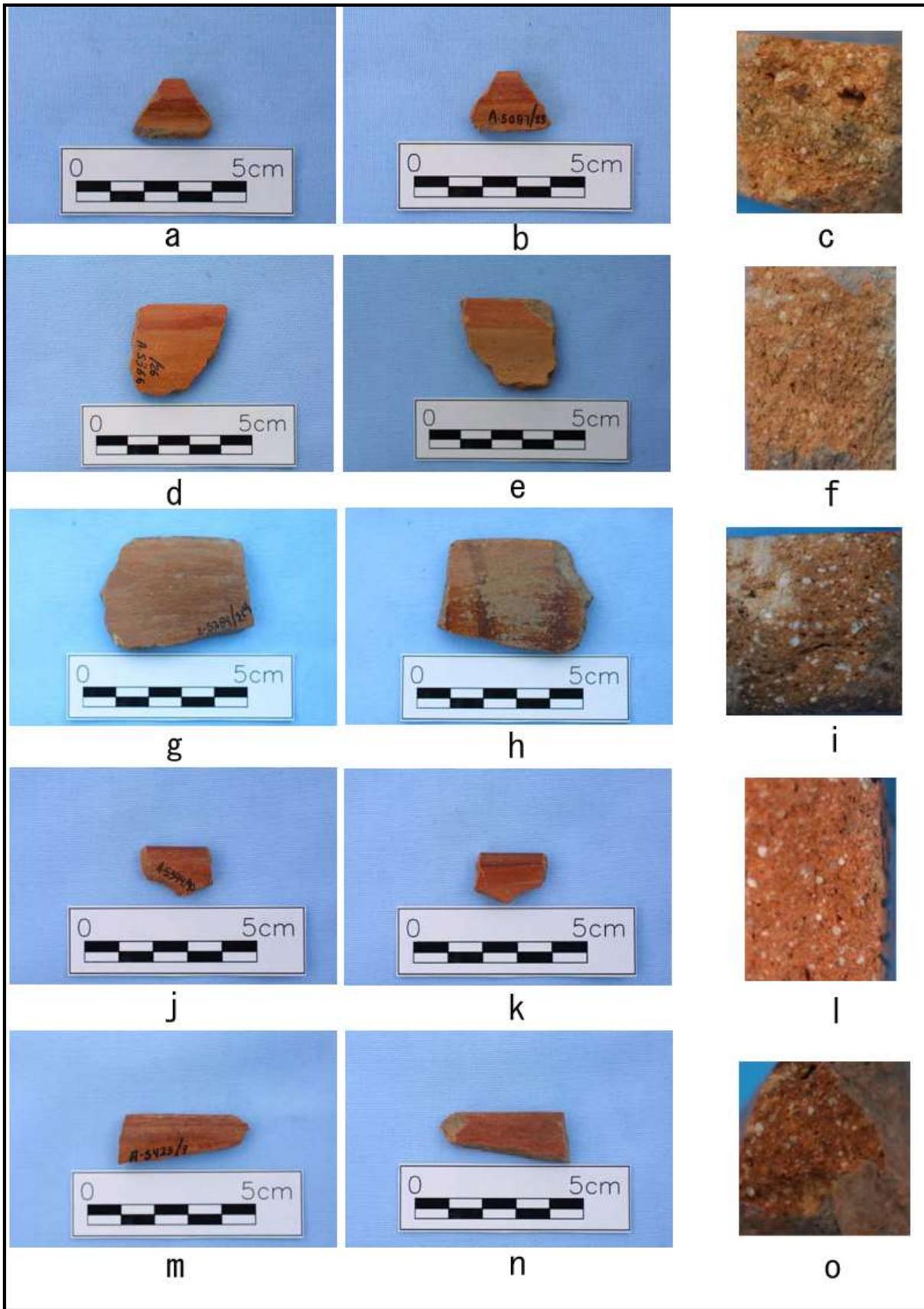


図 5-4-(5)-4 : 建造物 5 (T2) 出土の碗

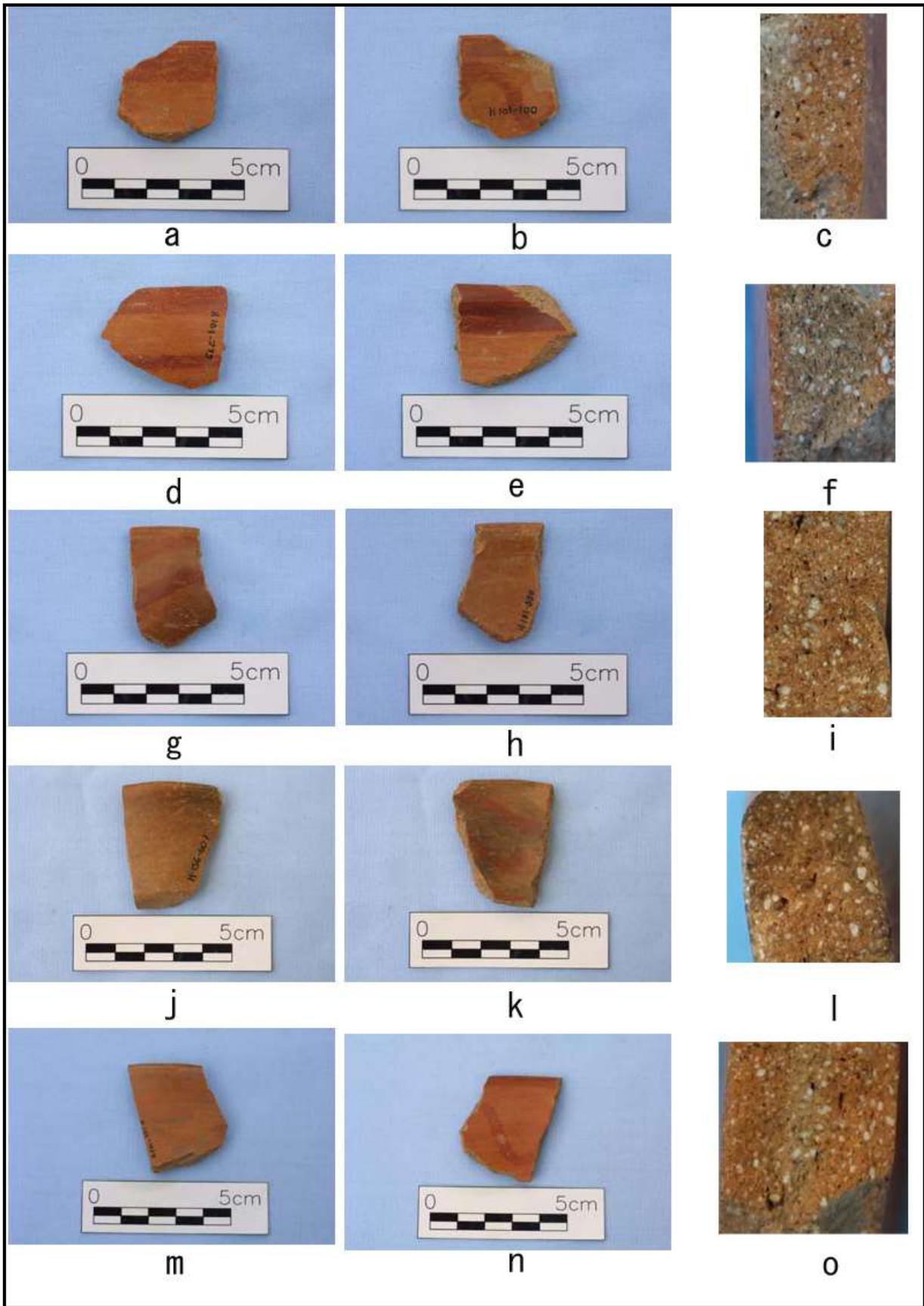


図 5-4-(5)-5 : 建造物 6 (T8) 出土の碗

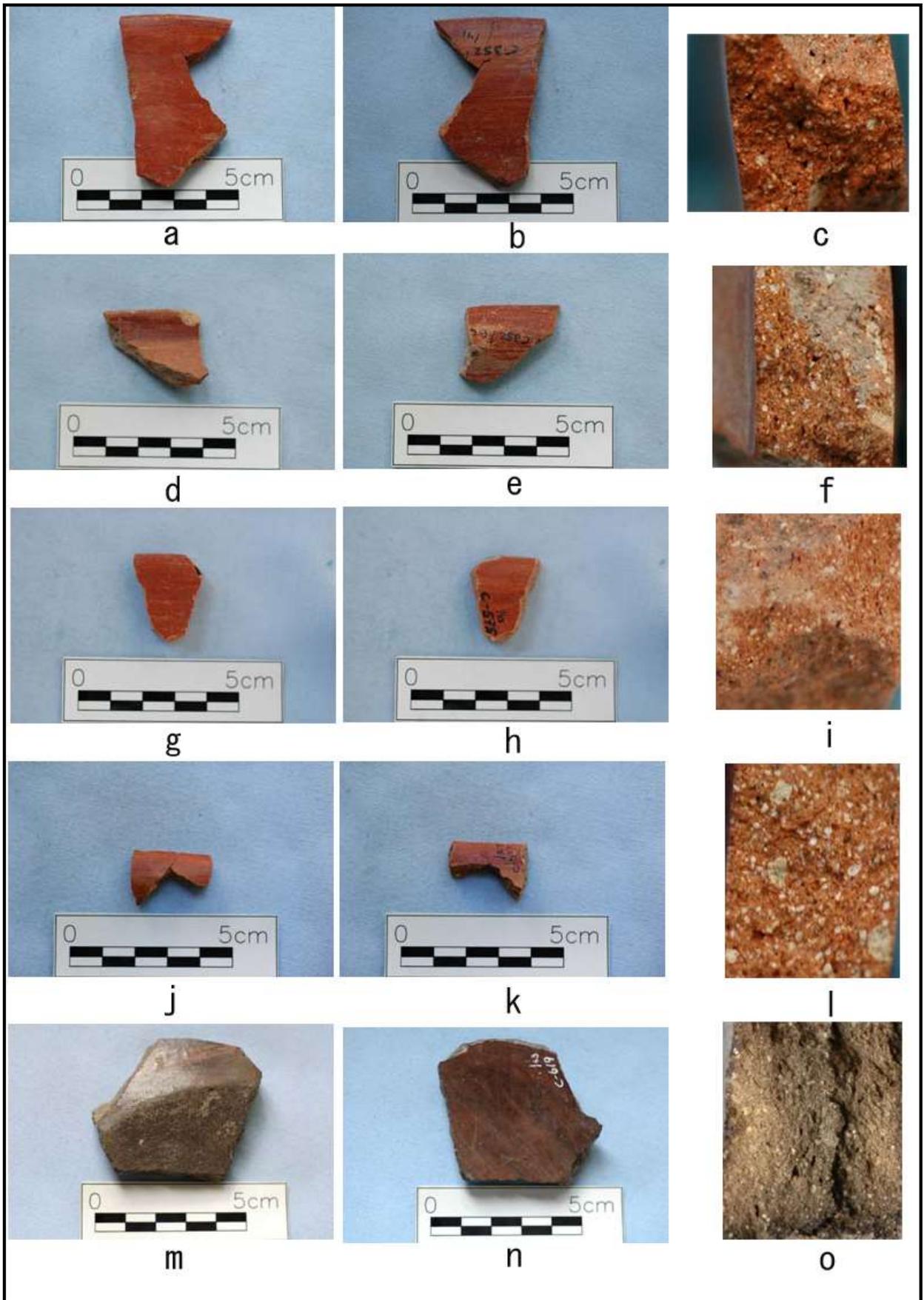


図 5-4-(5)-6 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗

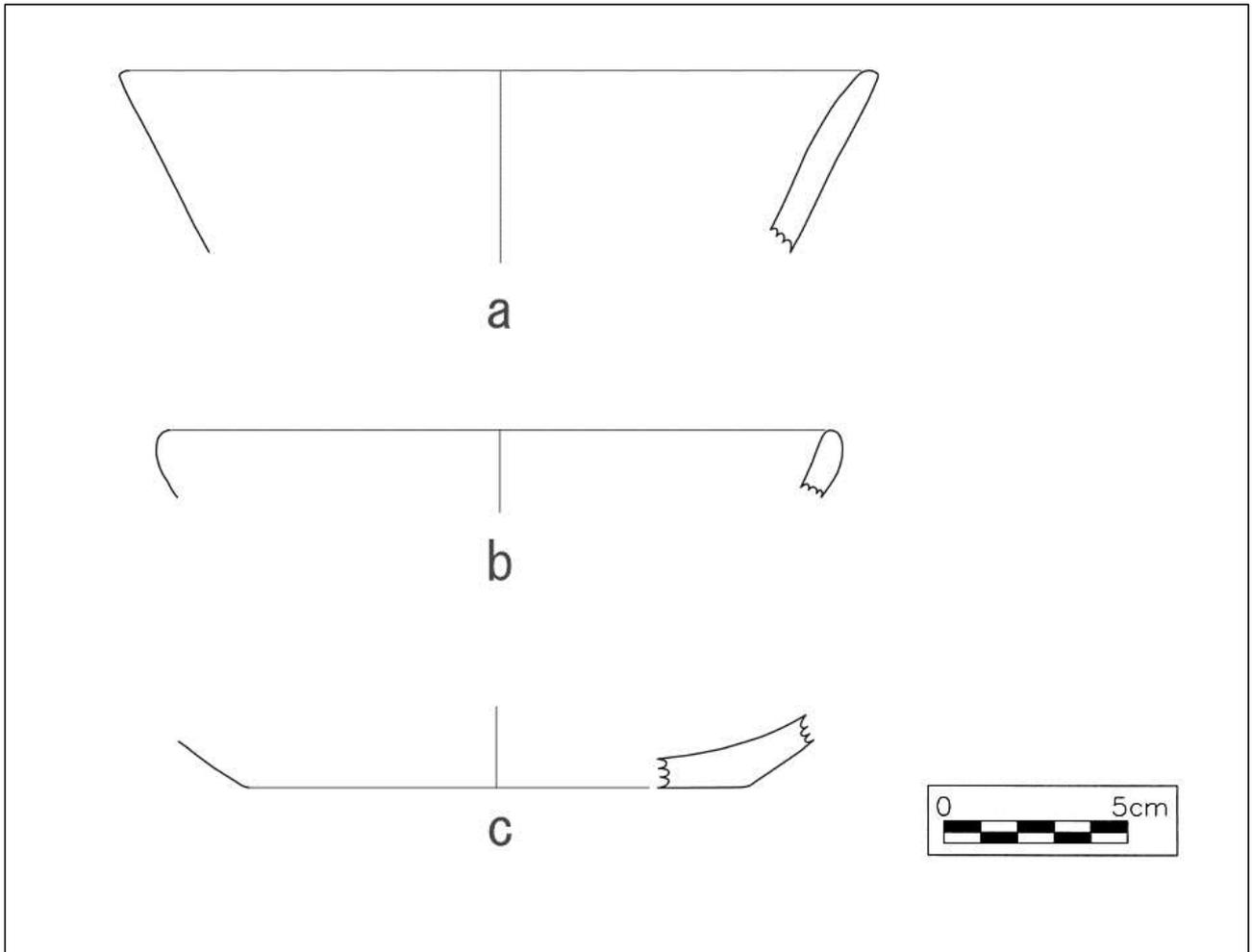


図 5-4-(5)-7 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗

(6) 円筒形壺 (Vase)

個体数 : N=1 (サクワリ期の Painted Ware の Red on Natural グループ中で 0.7%)

出土地点 :

表 5-4-(6)-1 : 円筒形壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%

図版 : 図 5-4-(6)-1

胎土 : 胎土は、やや粘土質で白色の含有物を多く含む。胎土の色は、オレンジ系(5YR6/8)、赤褐色系(5YR5/6)が多い。

表面調整 : 表面は内外面とも良く研磨される。色は、胎土と同じである。

装飾 : 口縁部の内外面に赤色のペイントが施され、さらに外面に赤色の線で文様が描かれる。

器形 : 胴部が直立する円筒形壺である。

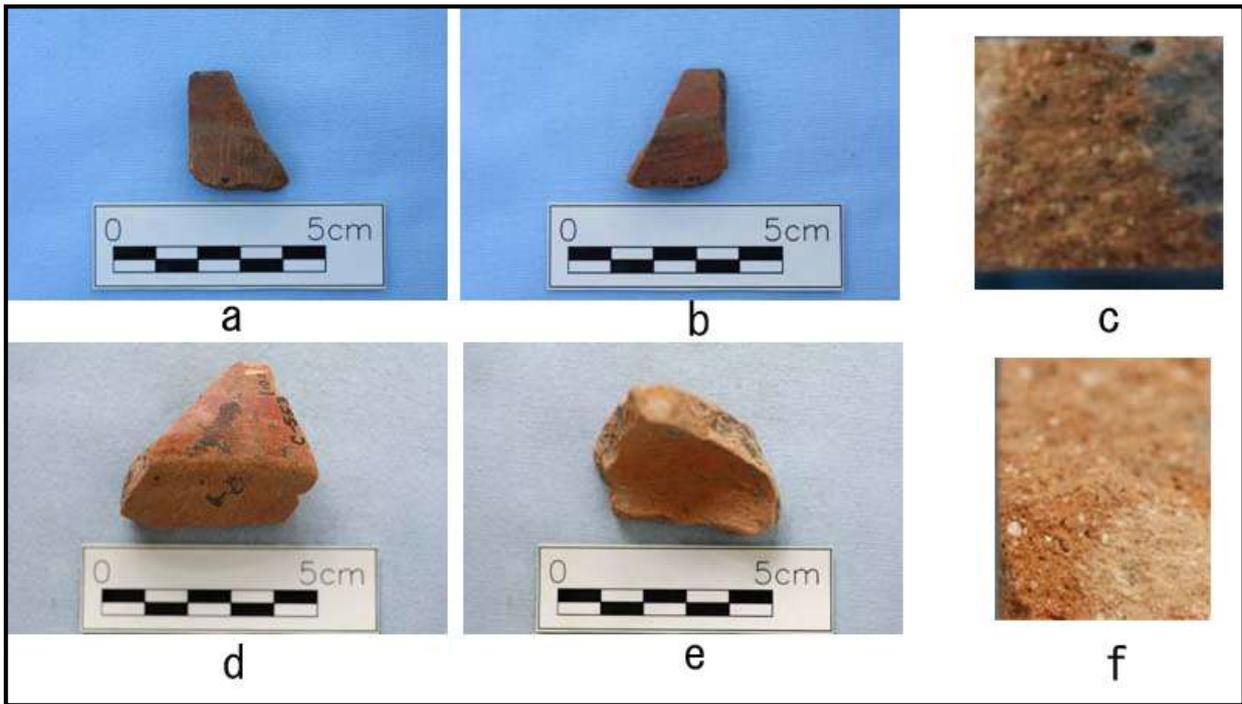


図 5-4-(6)-1: a-c 建造物 4 (T12) 出土の円筒形壺、d-f 建造物 7 (Frente C) 出土の円筒形壺

<Polychrome グループ (個体数 N=92) >

(7) 碗 (Bowl)

個体数 : N=90 (サクワリ期の Painted Ware の Polychrome グループ中で 97.8%)

出土地点 :

表 5-4-(7)-1: 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	2	2.2%	3	3.3%	33	36.7%	14	15.6%	32	35.6%	5	5.6%	1	1.1%	90	100.0%

図版 : 図 5-4-(7)-1～図 5-4-(7)-11

胎土 : 胎土は、やや粘土質で白色の含有物を多く含む。胎土の色は、オレンジ系 (2.5YR6/8、7.5YR6/6、7.5YR6/4、等)、赤褐色系 (2.5YR5/8、等) が多い。

表面調整 : 表面は内外面とも良く研磨される。色は、胎土と同じである。

装飾 : 口縁部の内外面に赤色、白色、時には黒色のペイントが施される。白色では、幾何学文様が描かれる。

器形 : 口径 23.1cm の胴部が外傾する碗 (Flaring Bowl) (図 5-4-(7)-11) をはじめに、半球形の碗 (Simple Bowl) や胴部が外反する碗 (Outcurving Bowl) などが見られる。

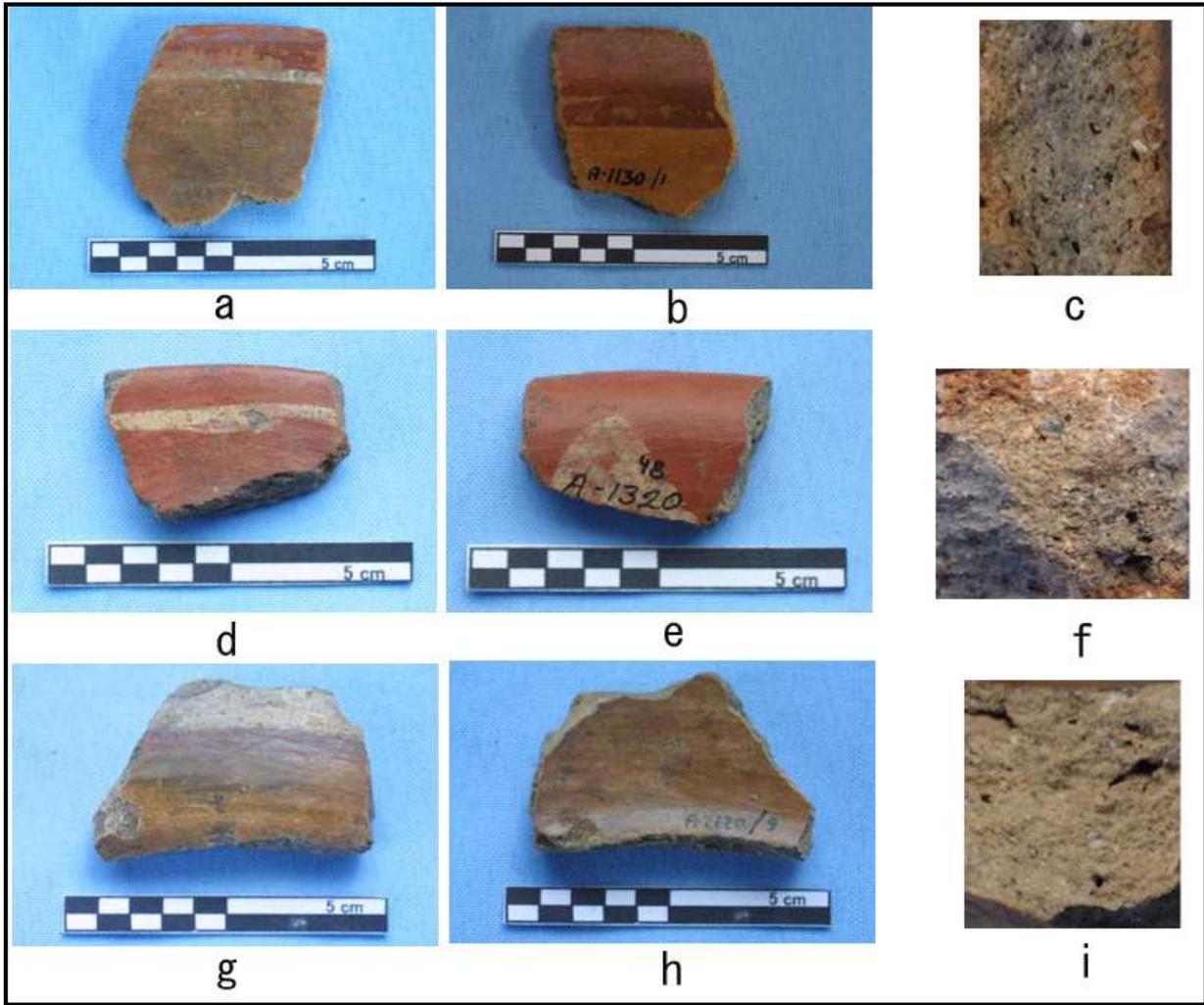


図 5-4-(7)-1: a-f 建造物 2 (T1) 出土の碗、 g-i 建造物 2 (T4) 出土の碗

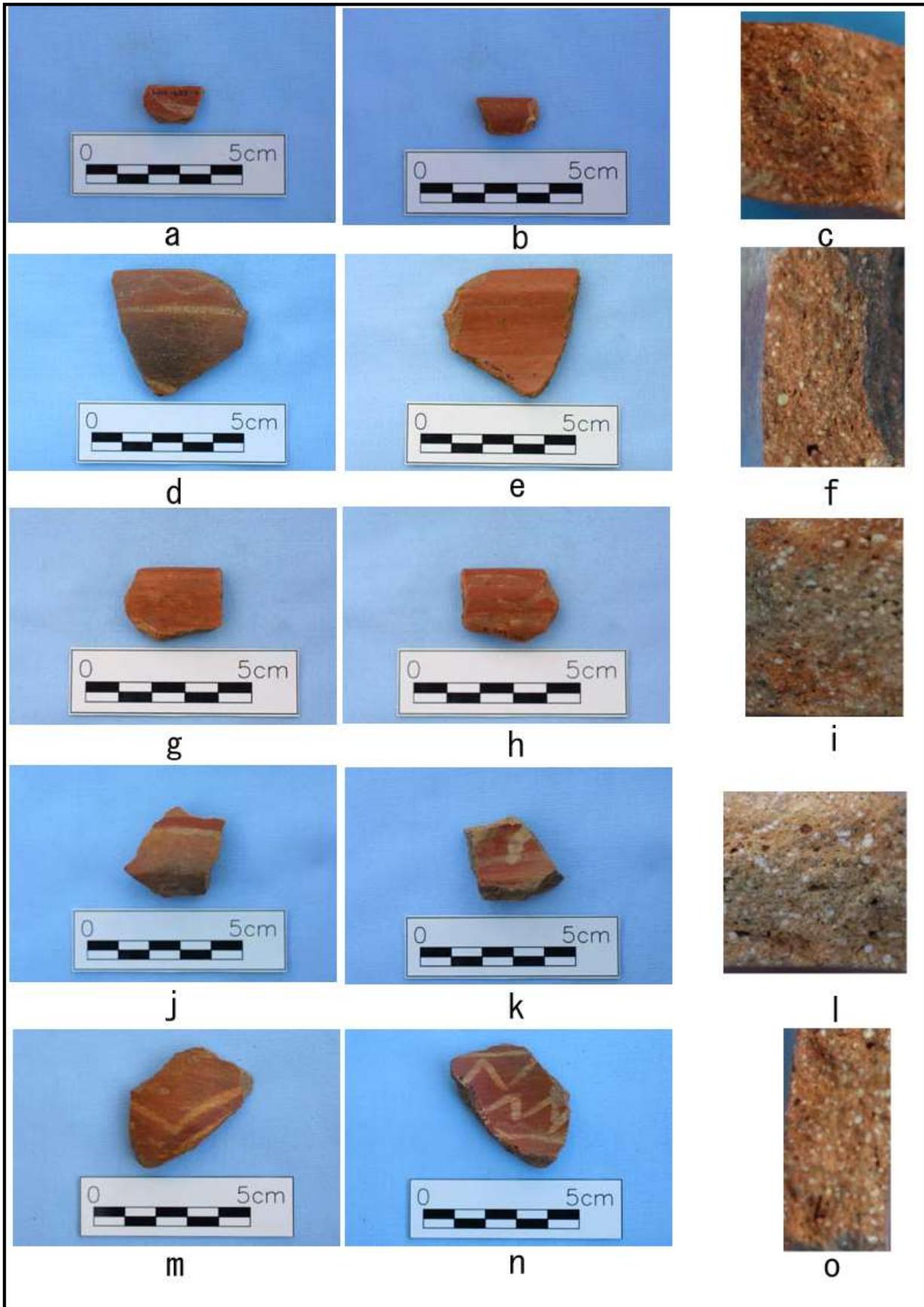


図 5-4-(7)-2 : 建造物 4 (T12) 出土の碗

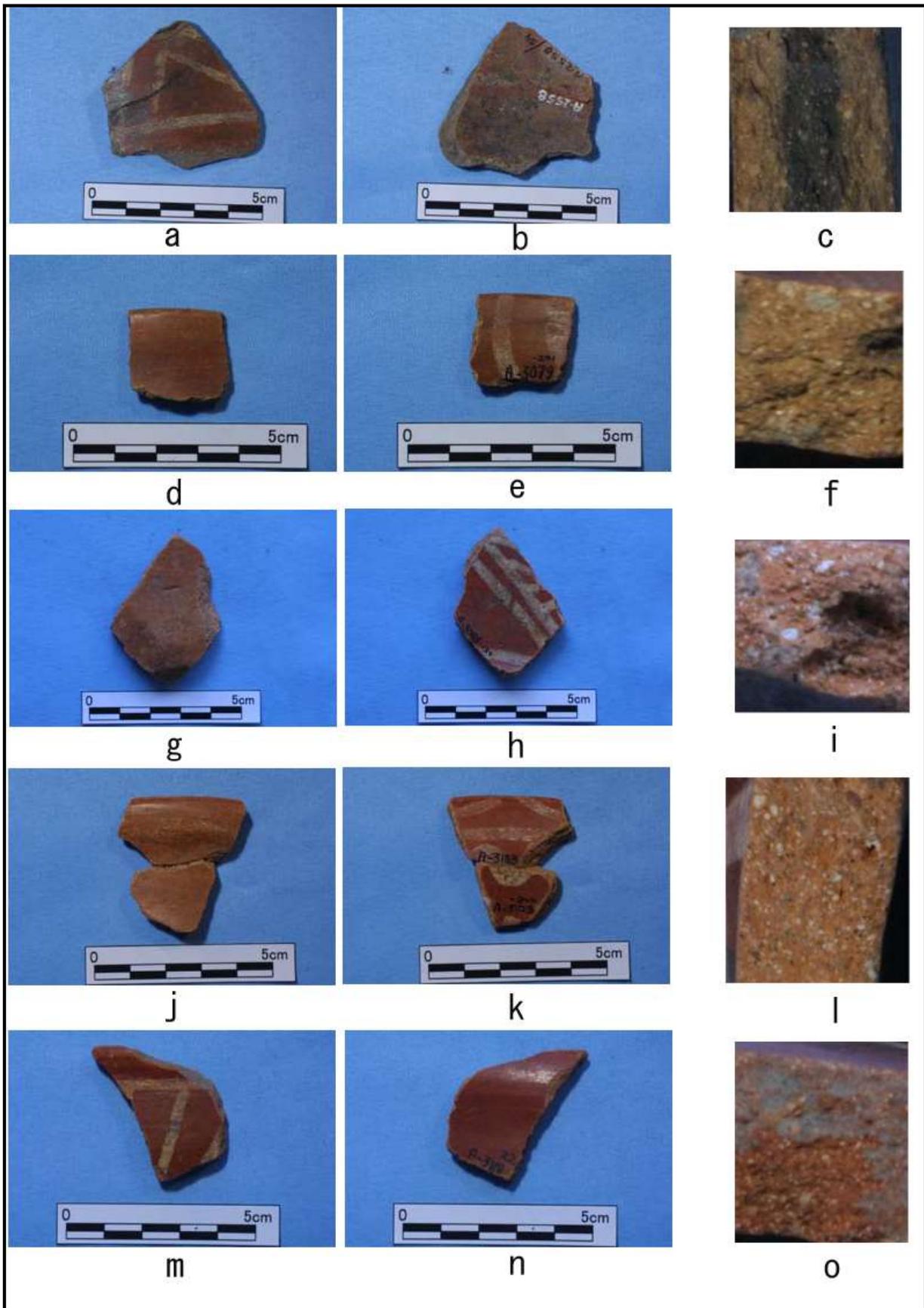


図 5-4-(7)-3 : 建造物 4 (T2) 出土の碗

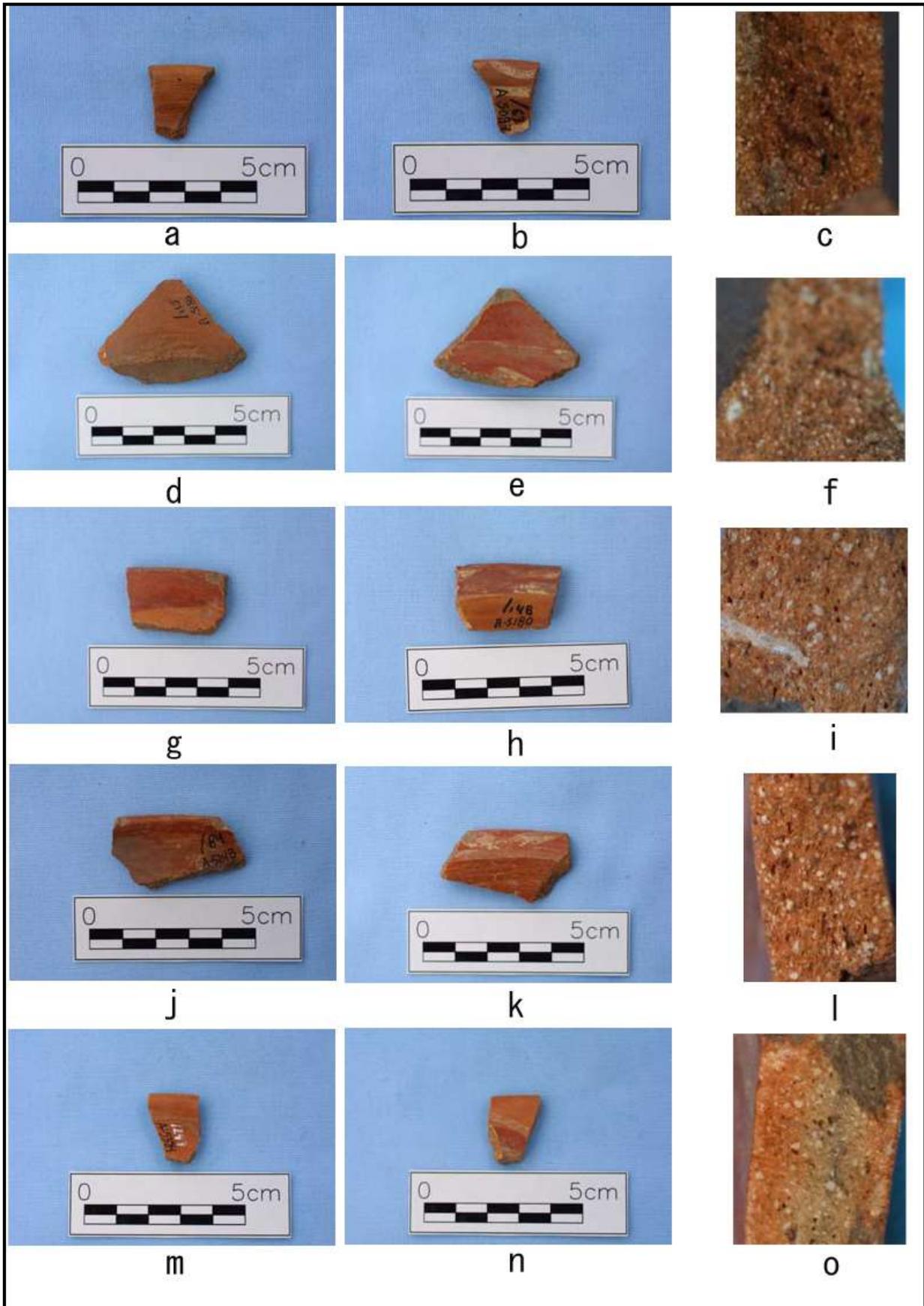


図 5-4-(7)-4 : 建造物 5 (T2) 出土の碗

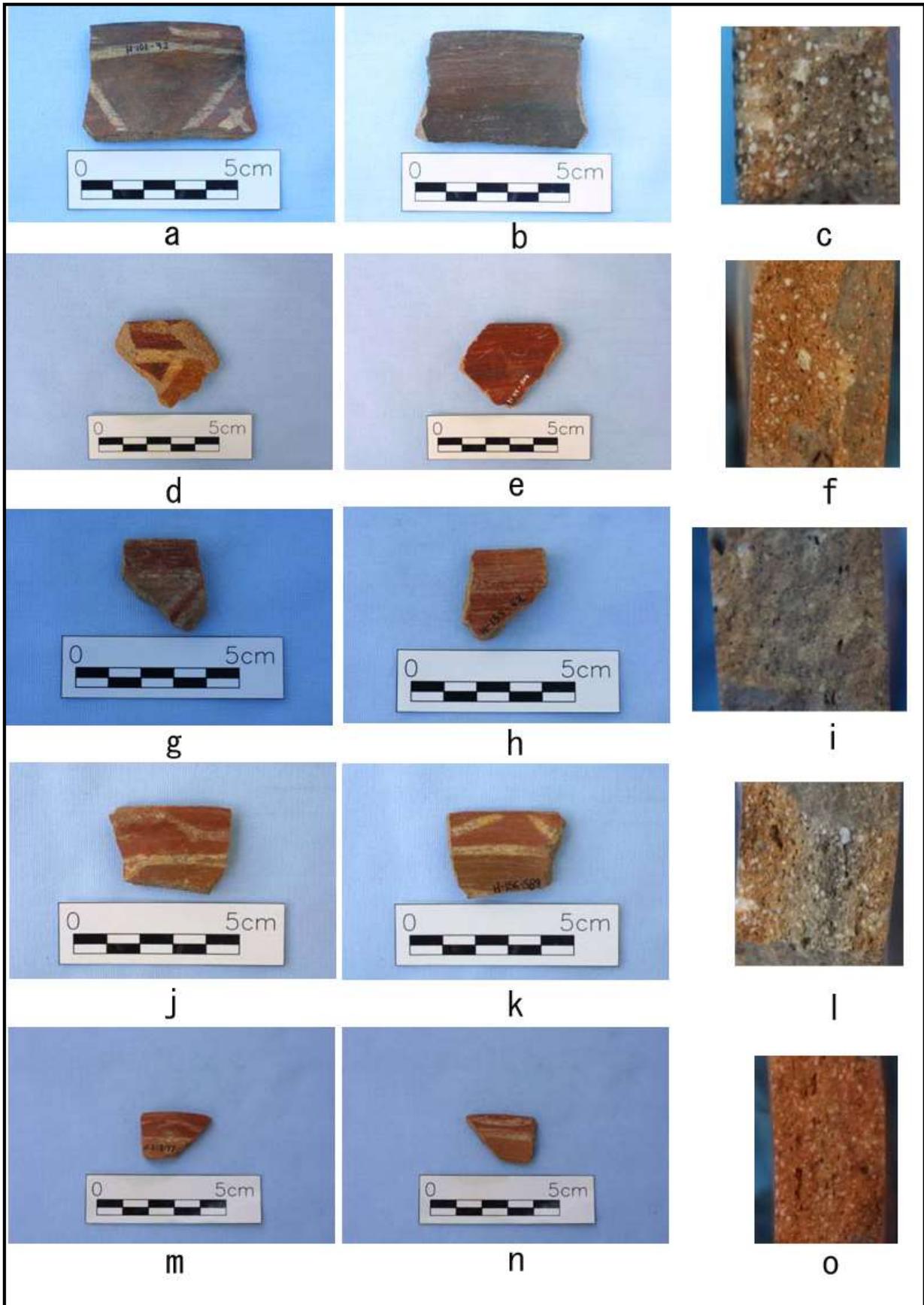


図 5-4-(7)-5 : 建造物 6 (T8) 出土の碗

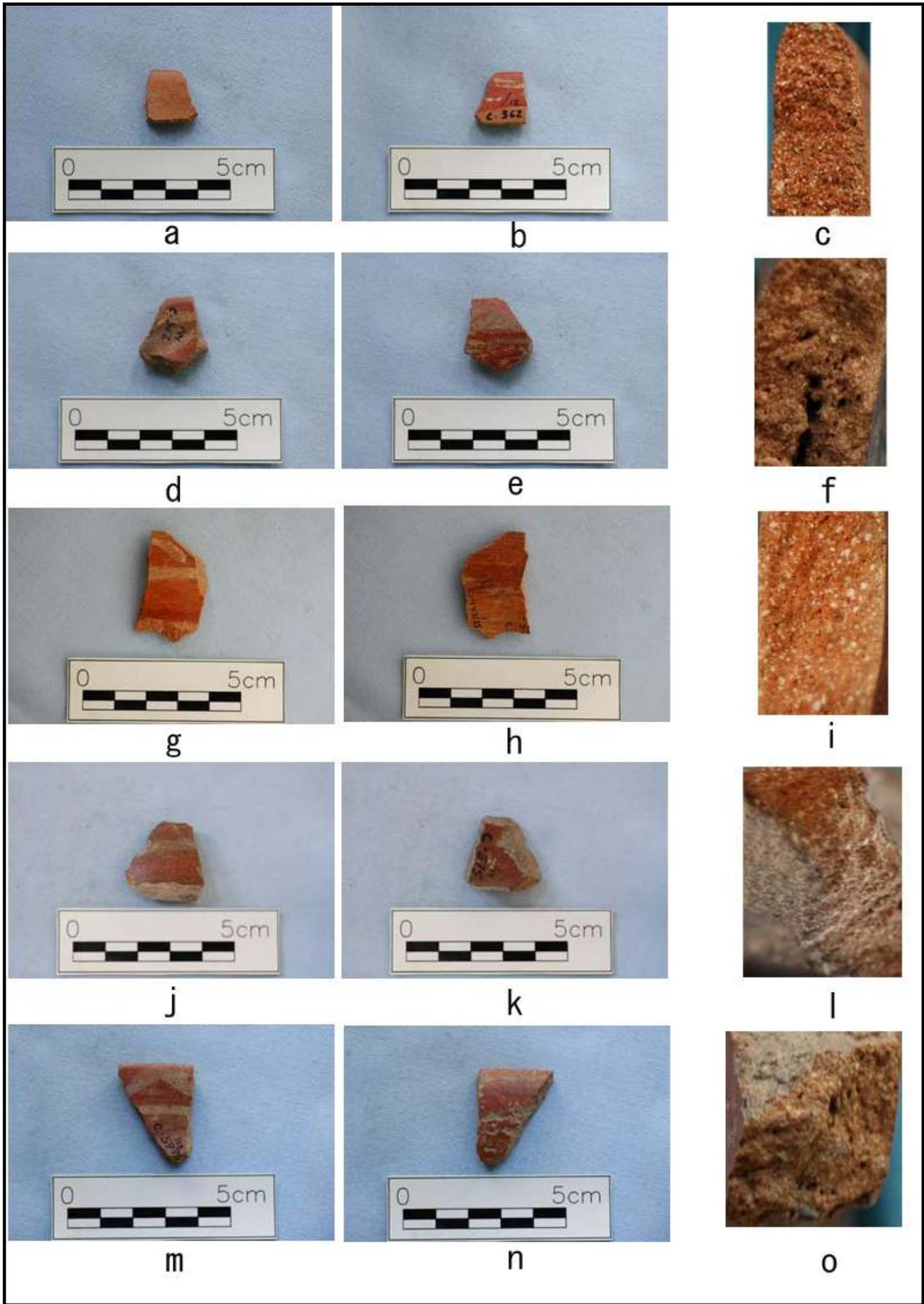


図 5-4-(7)-6 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗

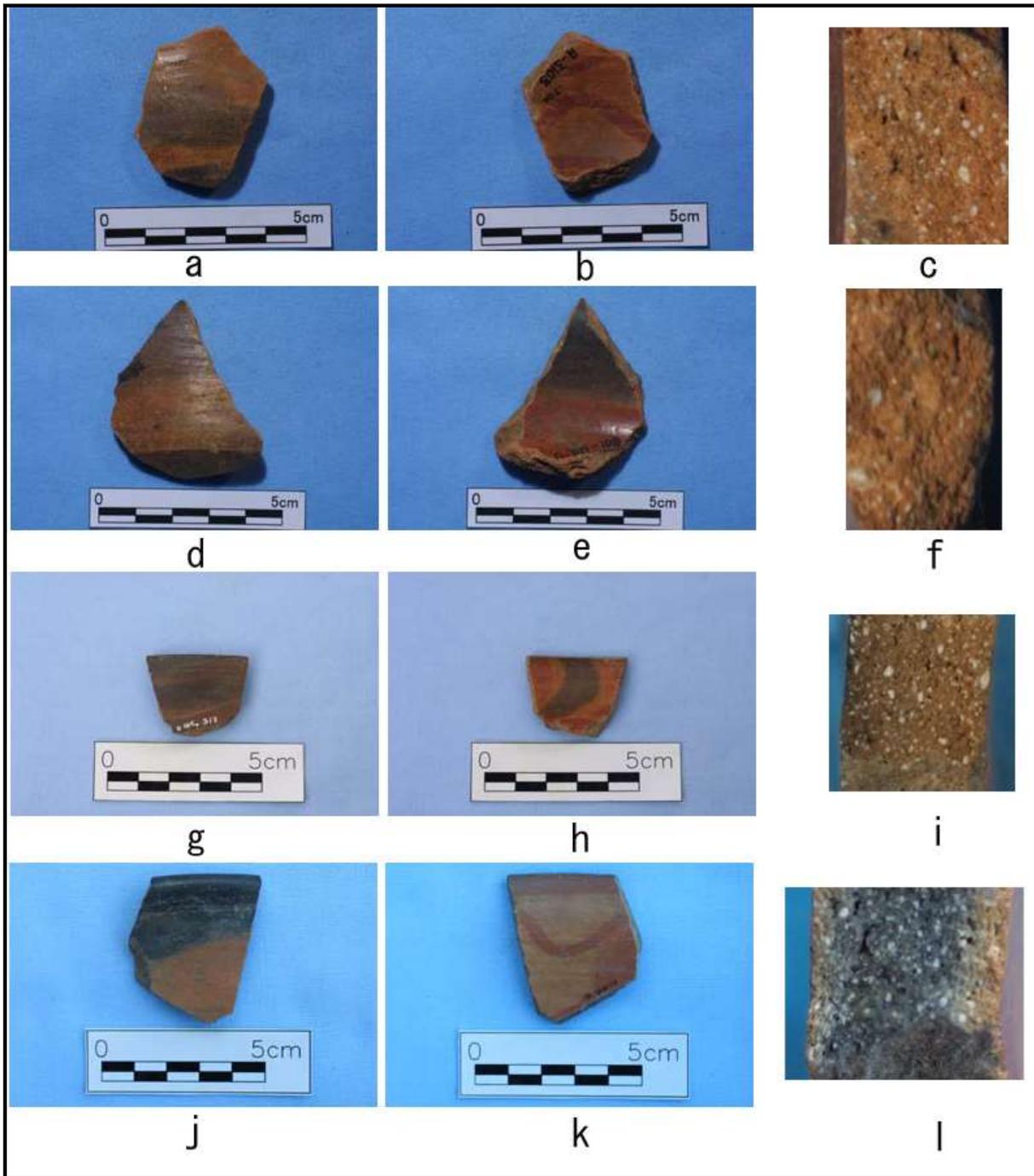


図 5-4-(7)-7: a-f 建造物 4 (T2) 出土の碗、g-i 建造物 6 (T8) 出土の碗、j-l 建造物 4 (T12) 出土の碗

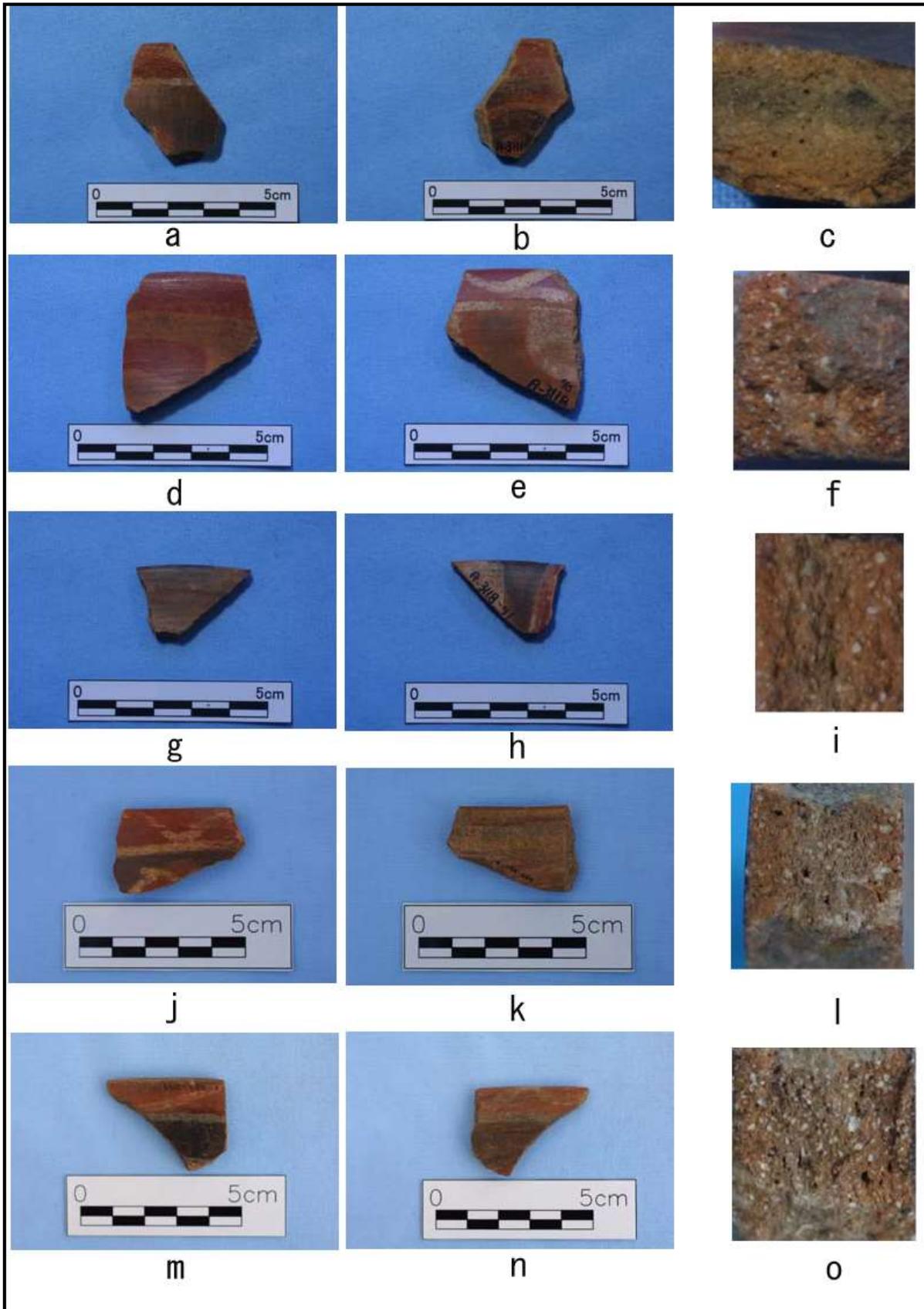


図 5-4-(7)-8 : a-i 建造物 4 (T2) 出土の碗、j-o 建造物 4 (T12) 出土の碗

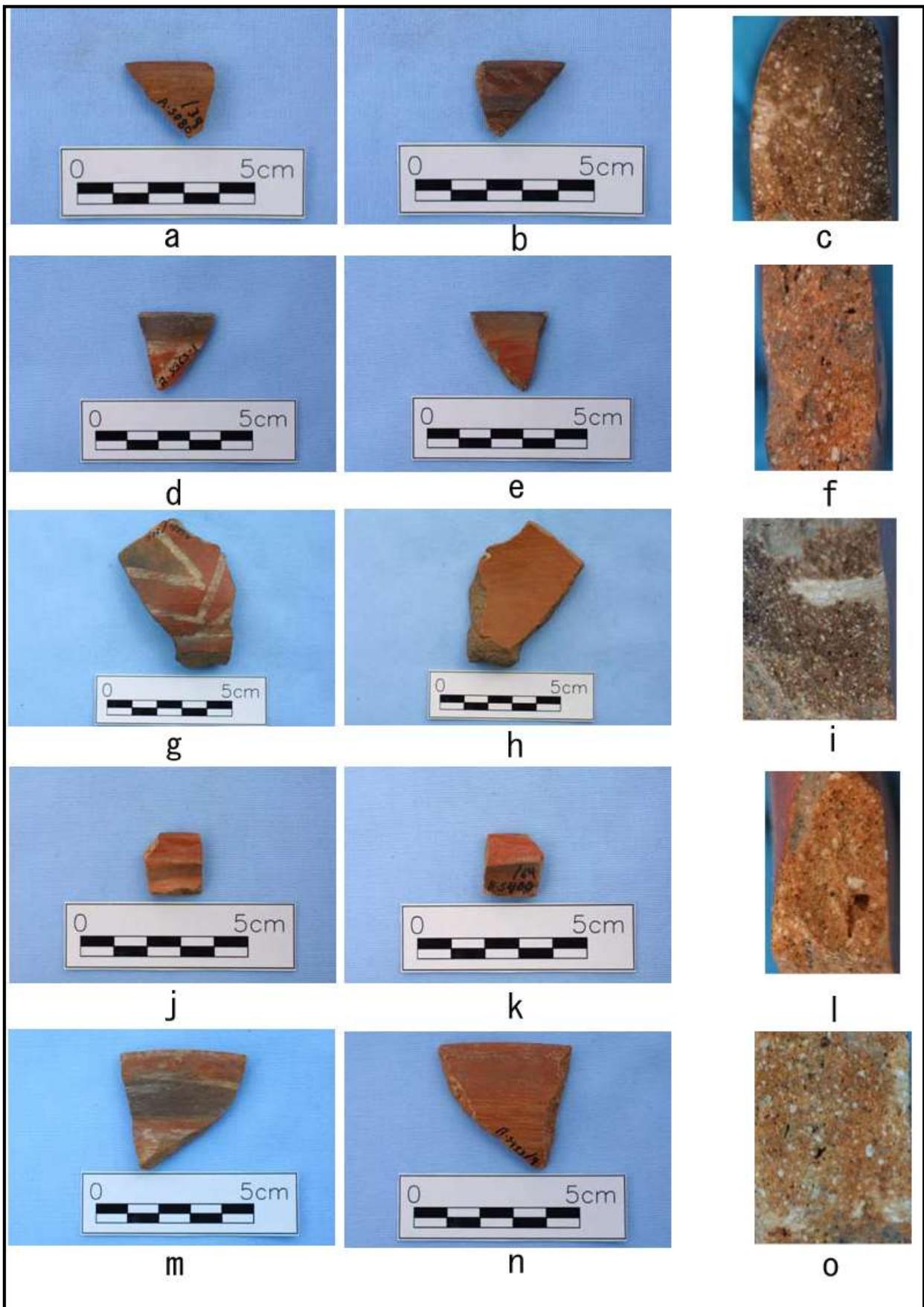


図 5-4-(7)-9 : 建造物 5 (T2) 出土の碗

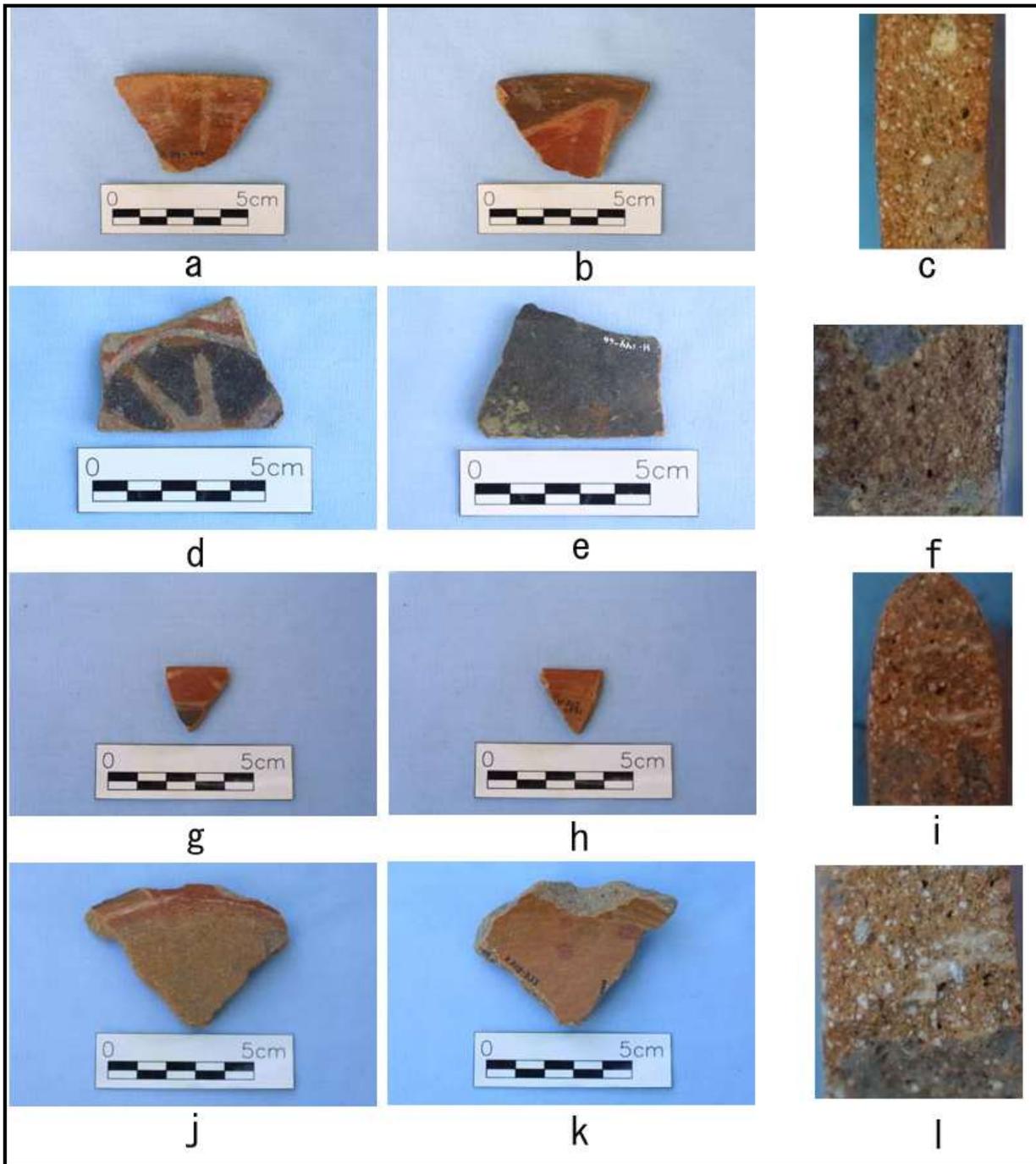


図 5-4-(7)-10 : 建造物 6 (T8) 出土の碗

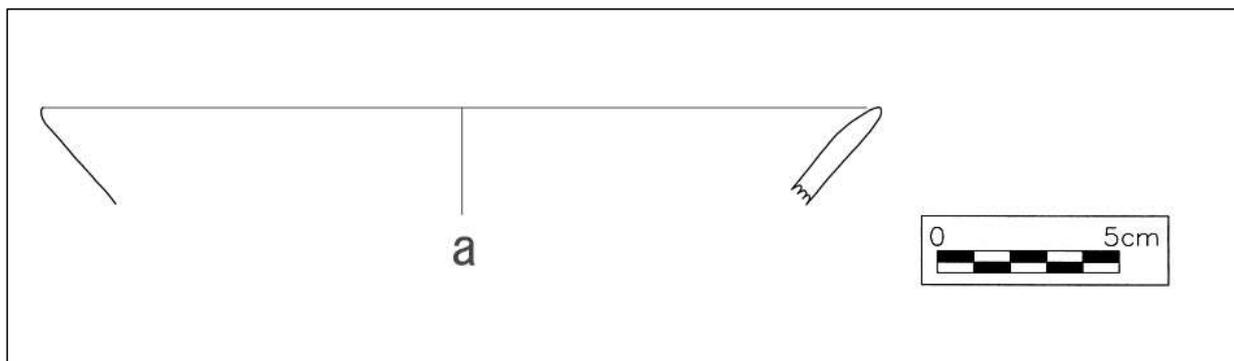


図 5-4-(7)-11 : 建造物 2 (T1) 出土の碗

(8) 壺 (Jar)

個体数 : 壺の口縁部は確認されていない。胴部破片は、建造物4、建造物5、建造物6から出土している。

図版 : 図5-4-(8)-1～図5-4-(5)-2

胎土 : 胎土は、碗同様白色の含有物を多く含むものが主であるが、中には白色の含有物をあまり含まないものも見られる。胎土の色は、赤褐色系(2.5YR5/8、2.5YR5/6、2.5YR5/4)等である。

表面調整 : 外面が良く研磨される。色は、胎土と同じである。

装飾 : 外面に赤色、白色、時には黒色のペイントが施される。白色では、幾何学文様が描かれる。

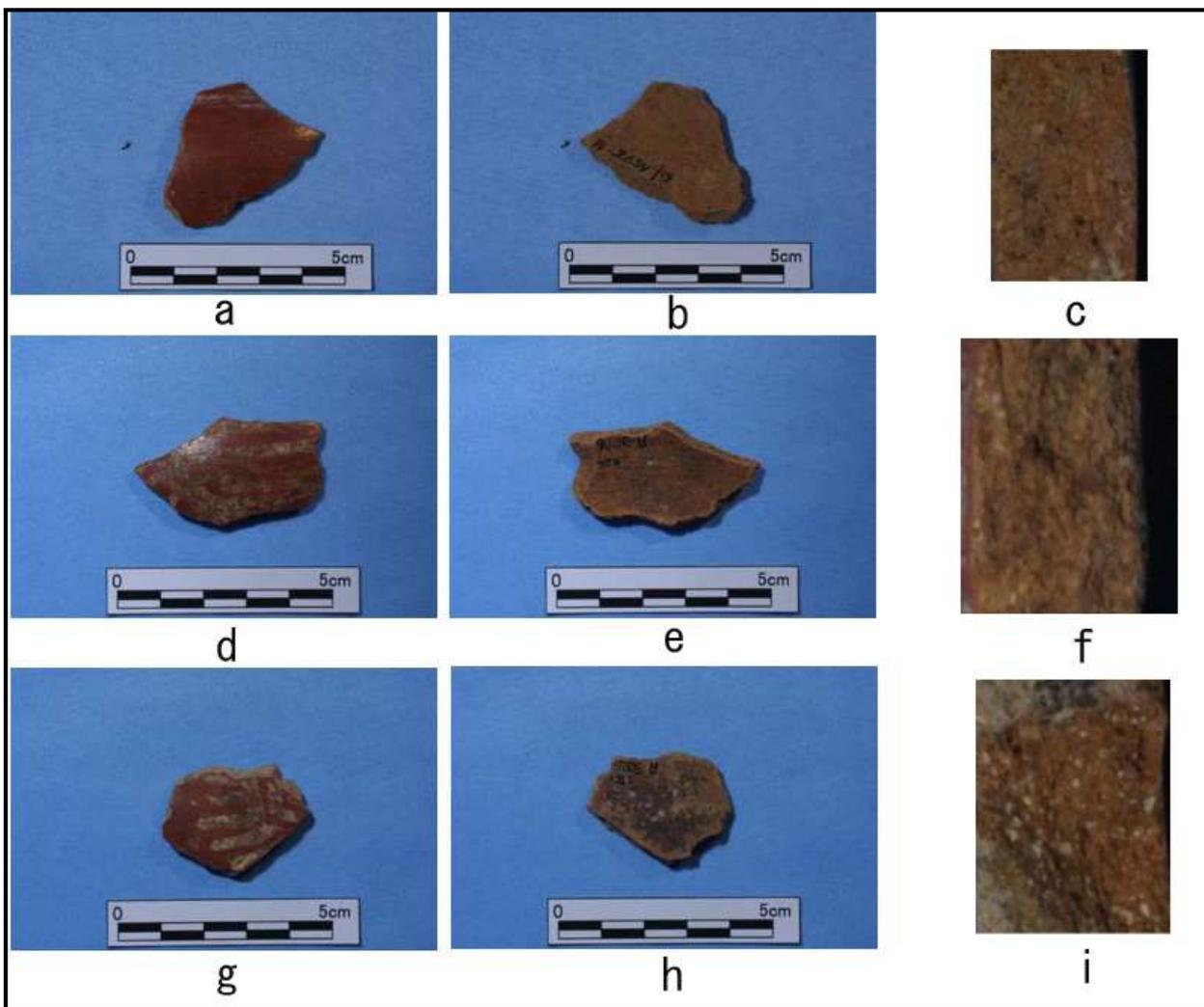


図5-4-(8)-1 : 建造物4 (T2) 出土の壺

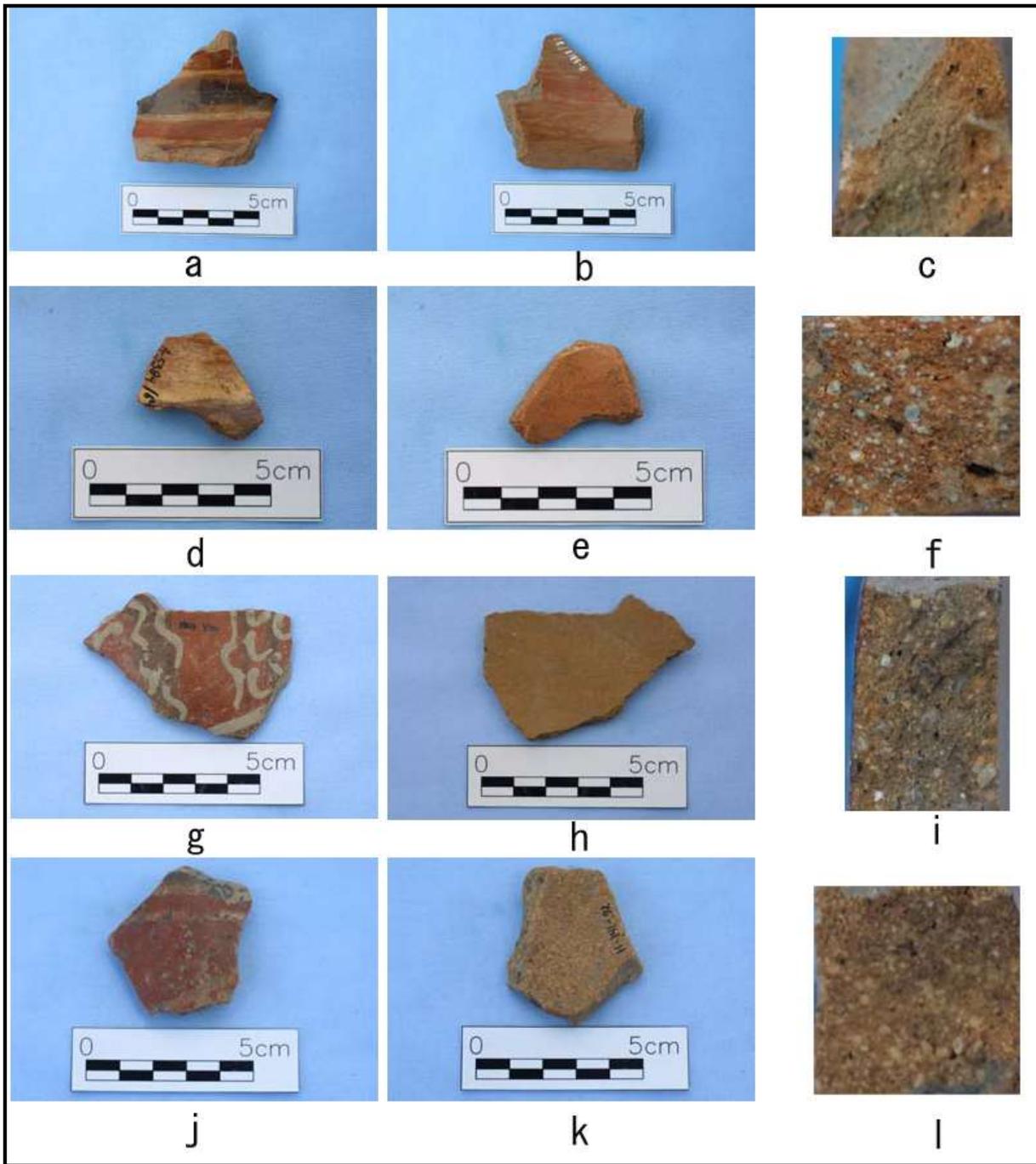


図 5-4-(8)-2 : a-f 建造物 5 (T2) 出土の壺、g-l 建造物 6 (T8) 出土の壺

(9) 円筒形壺 (Vase)

個体数 : N=2 (サクワリ期の Painted Ware の Polychrome グループ中で 2.2%)

出土地点 :

表 5-4-(9)-1 : 円筒形壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%

図版 : 図 5-4-(9)-1～図 5-4-(9)-3

胎土 : 胎土は、やや粘土質で白色の含有物は多くない。胎土の色は、オレンジ系 (2.5YR6/8)、赤褐色系 (2.5YR5/8) が多い。

表面調整 : 表面は内外面とも良く調整され、外面は研磨される。色は、胎土と同じである。

装飾 : 口縁部の内外面に赤色、白色、時には黒色のペイントが施される。白色では、幾何学文様が描かれる。

器形 : 口縁部が外反する円筒形壺が見られる。底部は平底である。

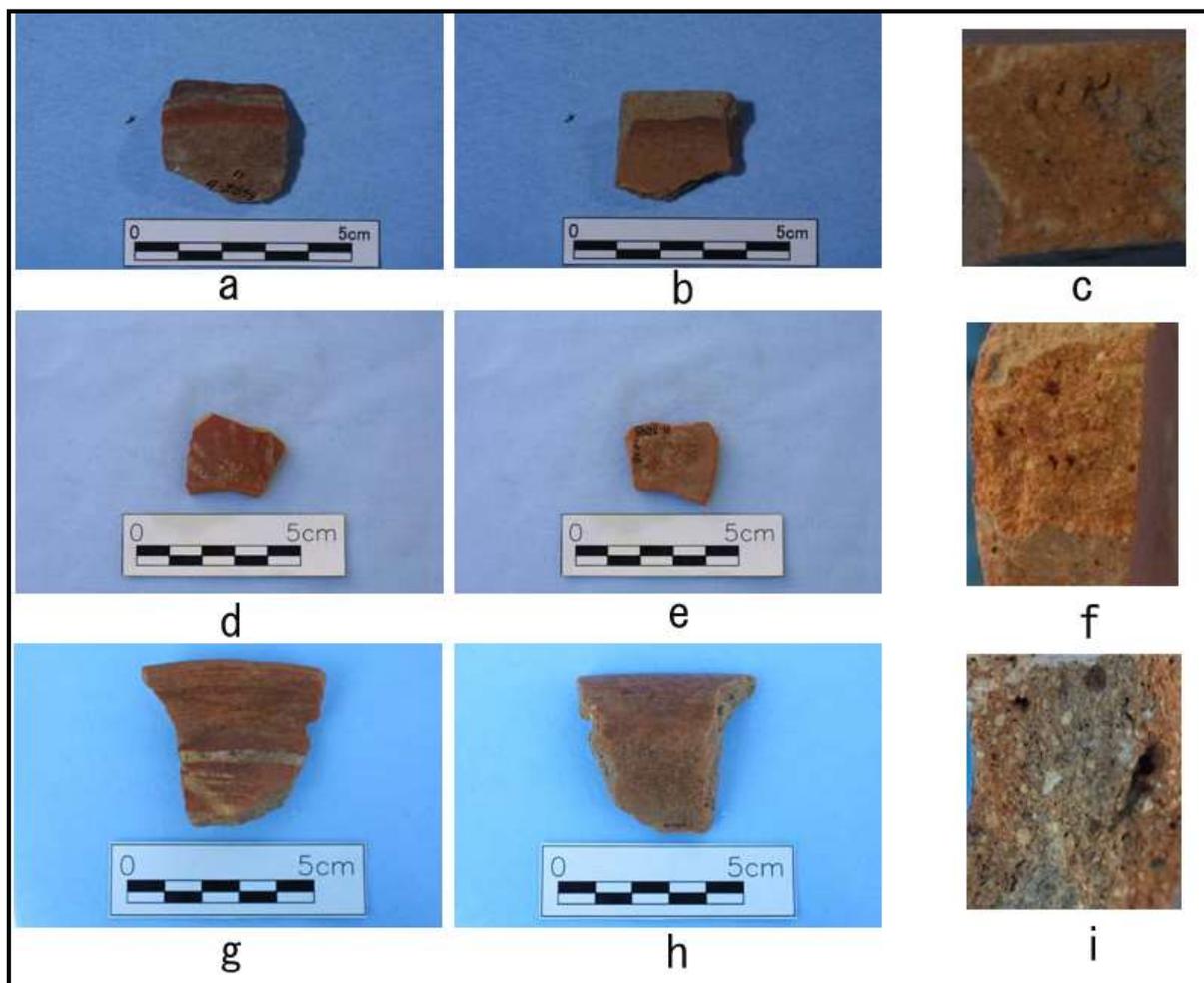


図 5-4-(9)-1 : a-f 建造物 4 (T2) 出土の円筒形壺、g-i 建造物 4 (T12) 出土の円筒形壺



図 5-4-(9)-2 : 建造物 5 (T2) 出土の円筒形壺

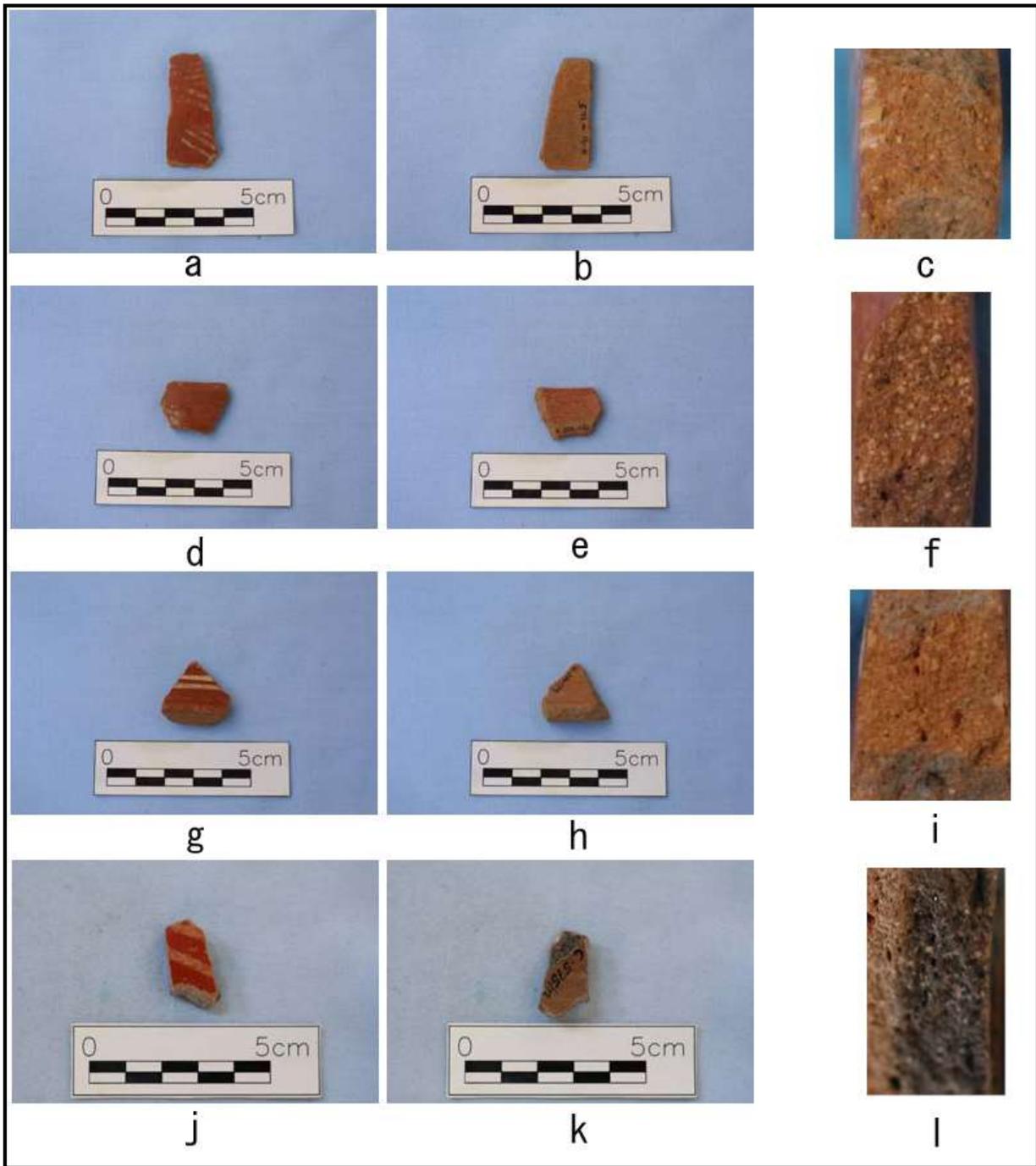


図 5-4-(9)-3 : a-i 建造物 6 (T8) 出土の円筒形壺、j-l 建造物 7 (Frente C) 出土の円筒形壺

<Negative グループ (個体数 N=29) >

(10) 碗 (Bowl)

個体数 : N=28 (サクワリ期の Painted Ware の Negative グループ中で 96.6%)

出土地点 :

表 5-4-(10)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	1	3.6%	0	0.0%	14	50.0%	3	10.7%	8	28.6%	2	7.1%	0	0.0%	28	100.0%

図版 : 図 5-4-(10)-1～図 5-4-(10)-7

胎土 : 胎土は、やや粘土質で白色の含有物を多く含む。胎土の色は、オレンジ系 (2.5YR6/8)、赤褐色系 (2.5YR5/8) 等が多い。

表面調整 : 表面は内外面とも良く研磨される。色は、胎土と同じである。

装飾 : ネガティブの部分に黒色のペイントを施しネガティブ文様を出している。さらに赤色のペイントが口縁部等に施される (図 5-4-(10)-1、図 5-4-(10)-2)。

器形 : 胴部が外傾する碗 (Flaring Bowl)、半球形の碗 (Simple Bowl) などが見られる。

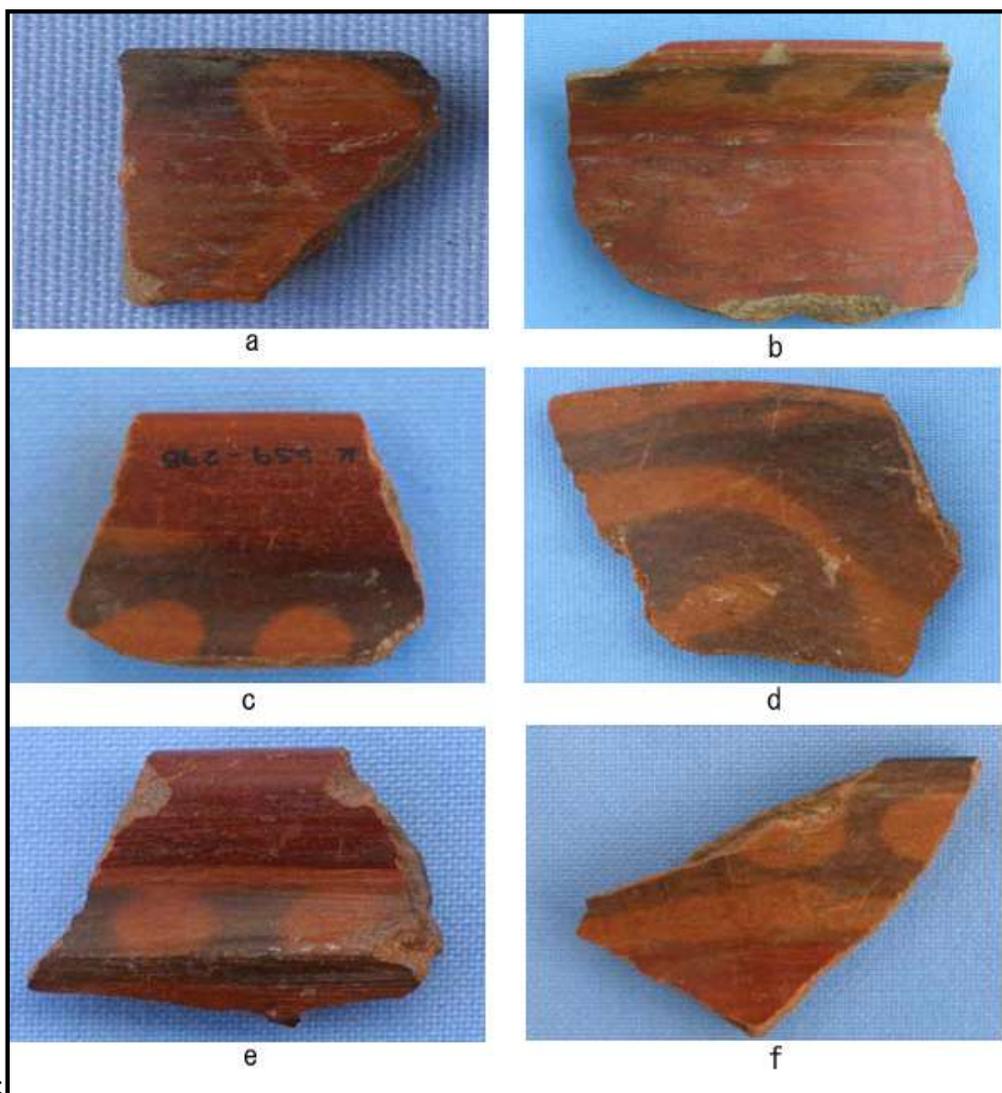


図 5-4-(10)-1 : ネガティブ文様



図 5-4-(10)-2 : ネガティブ文様

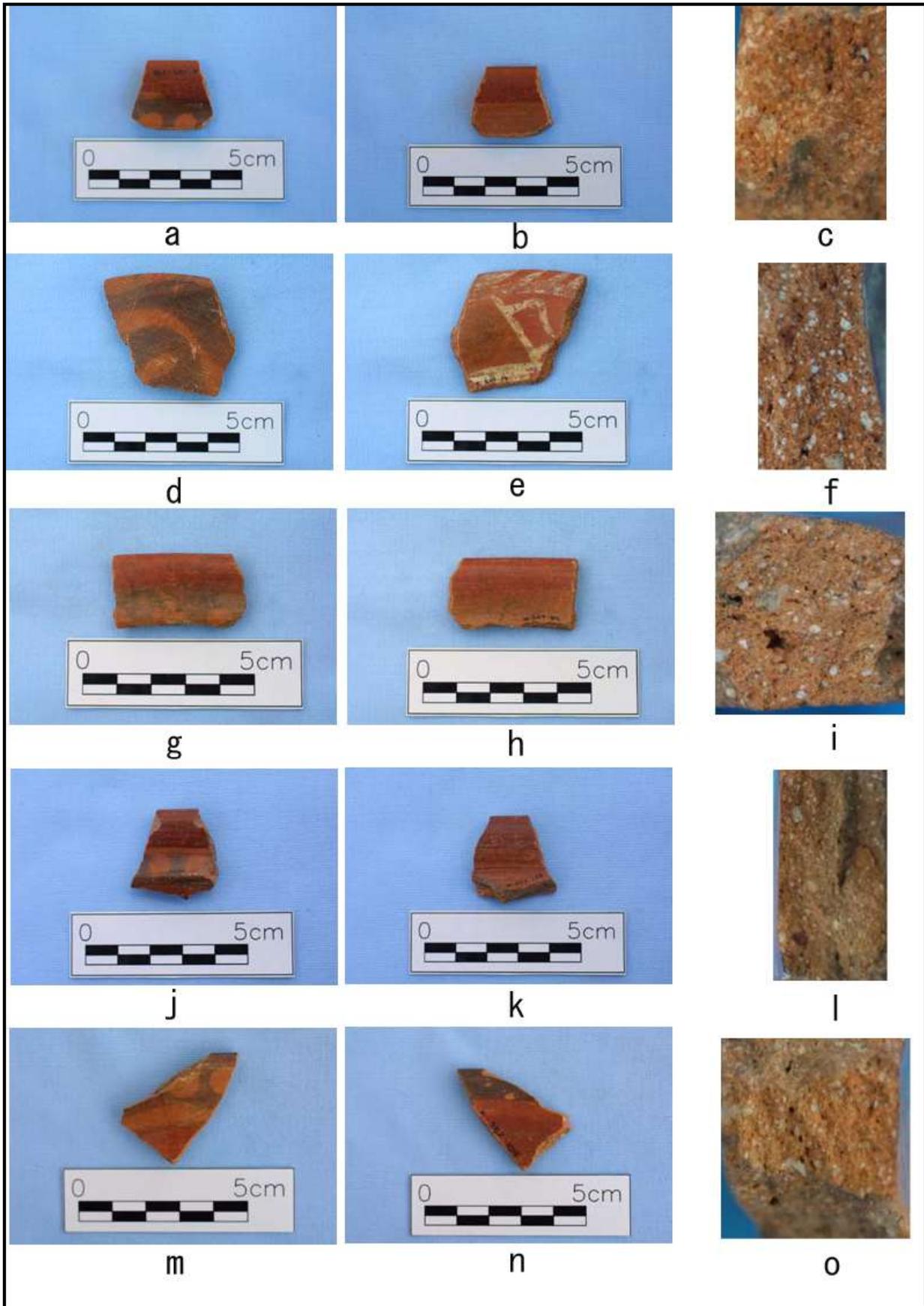


図 5-4-(10)-3 : 建造物 4 (T12) 出土の碗

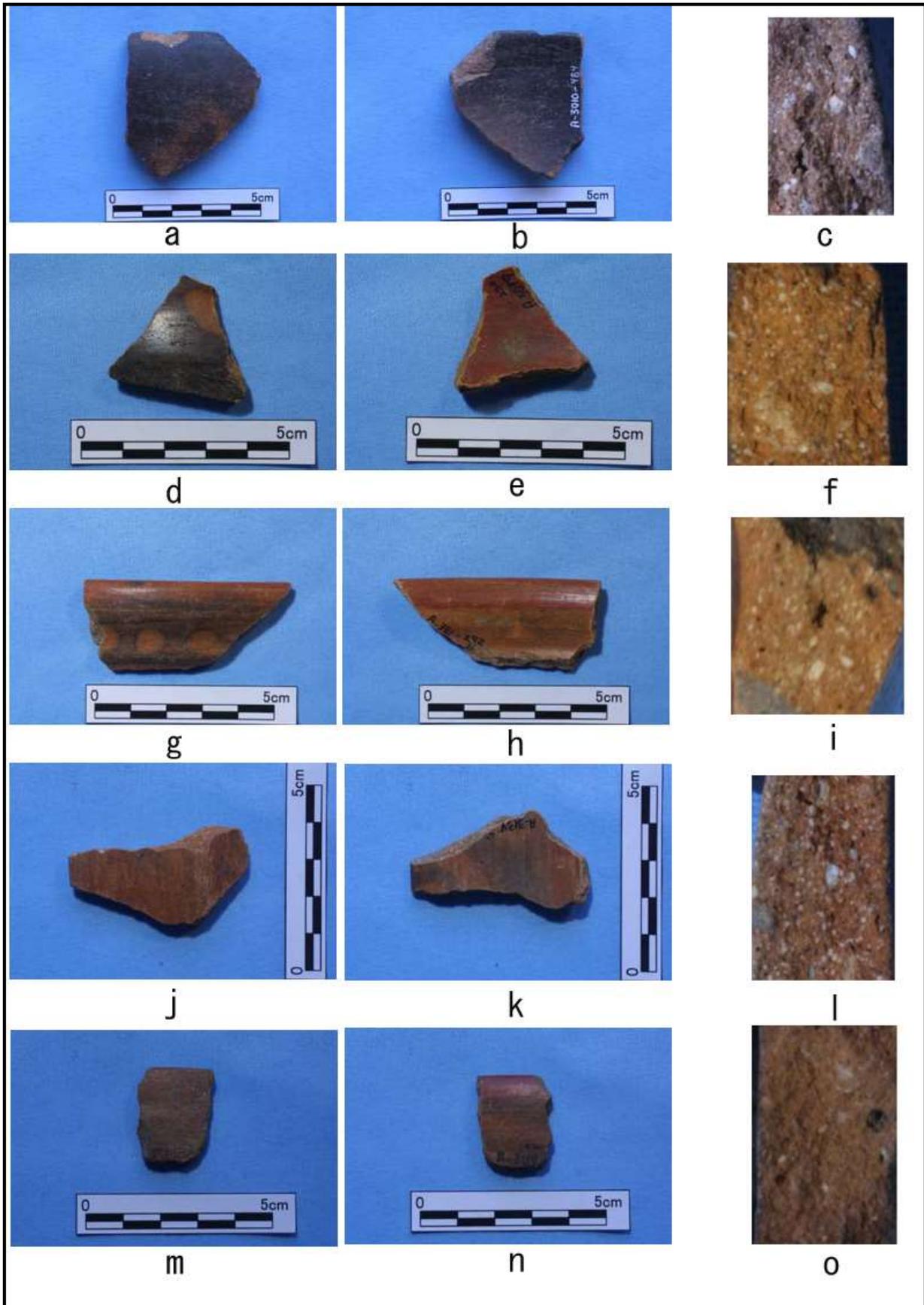


図 5-4-(10)-4 : 建造物 4 (T2) 出土の碗

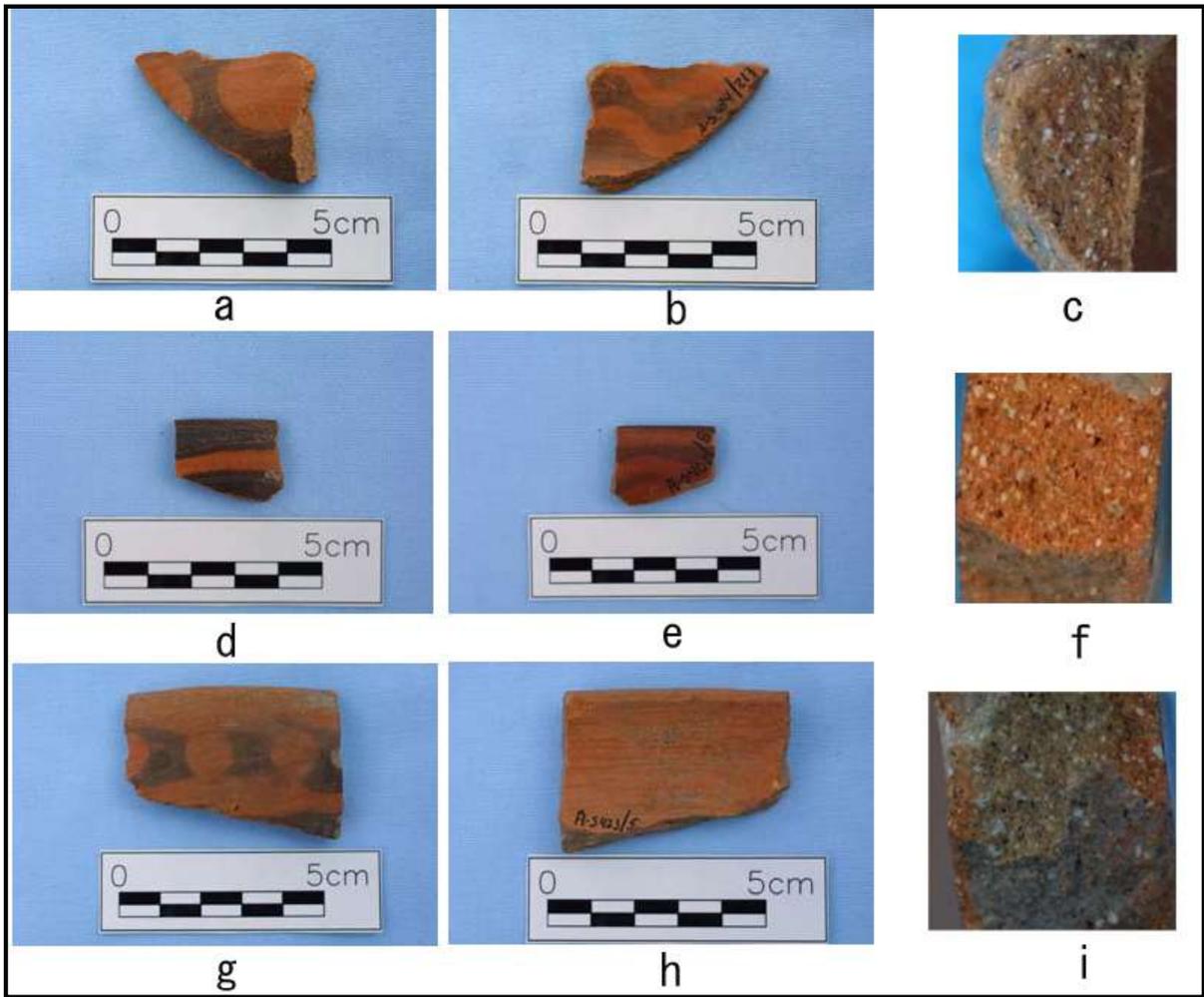


図 5-4-(10)-5 : 建造物 5(T2) 出土の碗

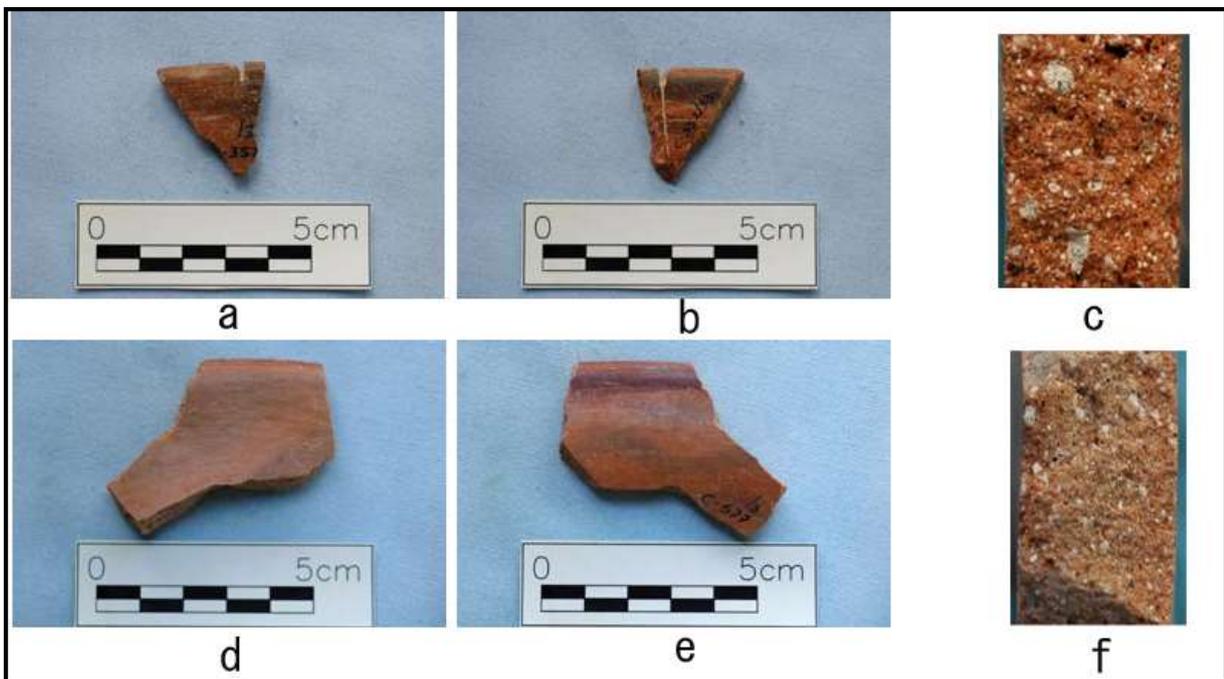


図 5-4-(10)-6 : 建造物 7(Frente C) 出土の碗

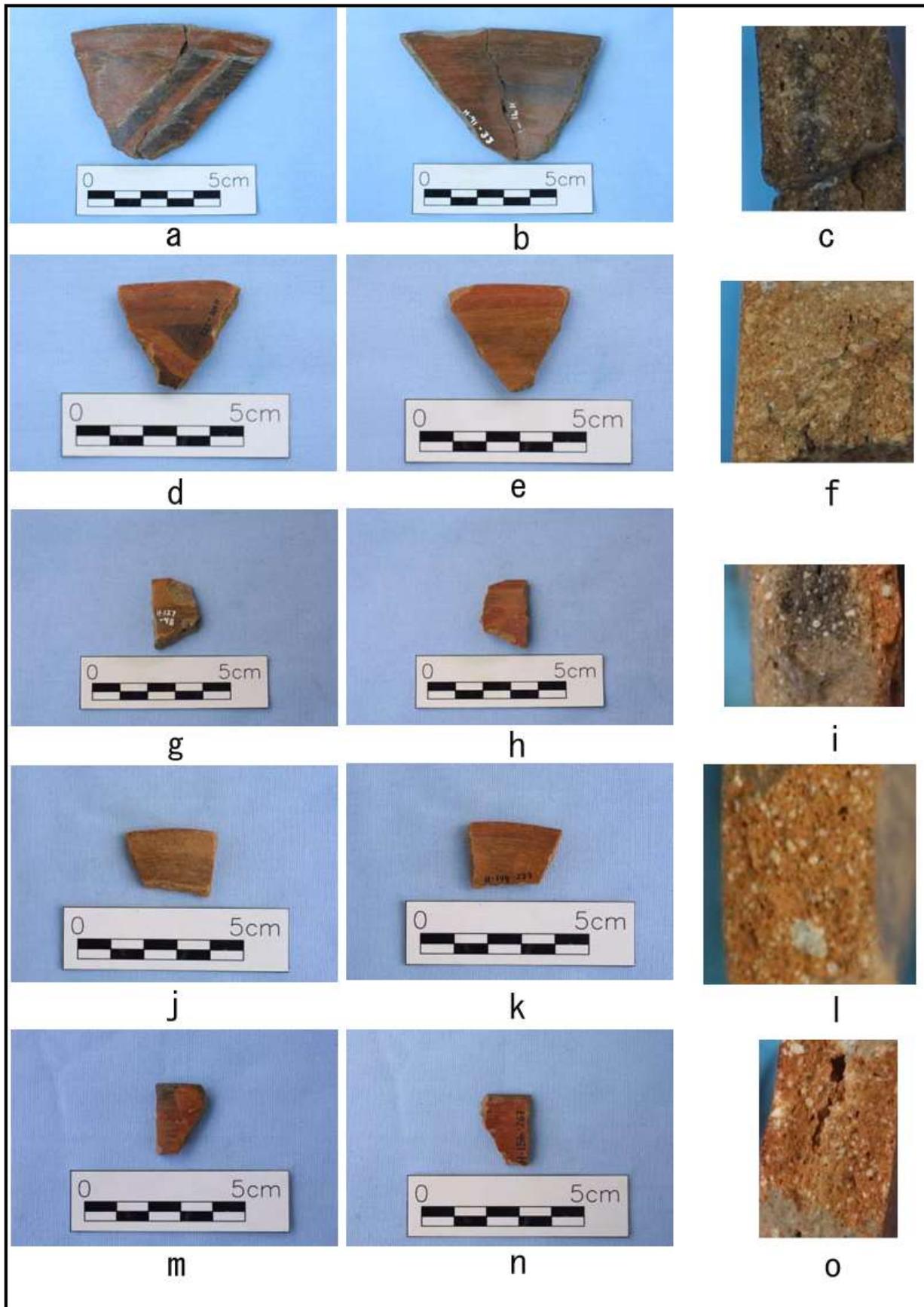


図 5-4-(10)-7 : 建造物 6(T8)出土の碗

(11) 円筒形壺 (Vase)

個体数 : N=1 (サクワリ期の Painted Ware の Negative グループ中で 3.4%)

出土地点 :

表 5-4-(11)-1 : 円筒形壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%

図版 : 図 5-4-(11)-1

胎土 : 胎土は、やや粘土質で白色の含有物を多く含むもの含有物が少量のものが見られる。胎土の色は、オレンジ系 (5YR6/4)、赤褐色系 (2.5YR5/8) である。

表面調整 : 表面は内外面とも良く研磨される。色は、胎土と同じである。

装飾 : ネガティブの部分に黒色のペイントを施しネガティブ文様を出している。さらに赤色のペイントが口縁部等に施される。

器形 : 口縁部が外反する円筒形壺などが見られる。

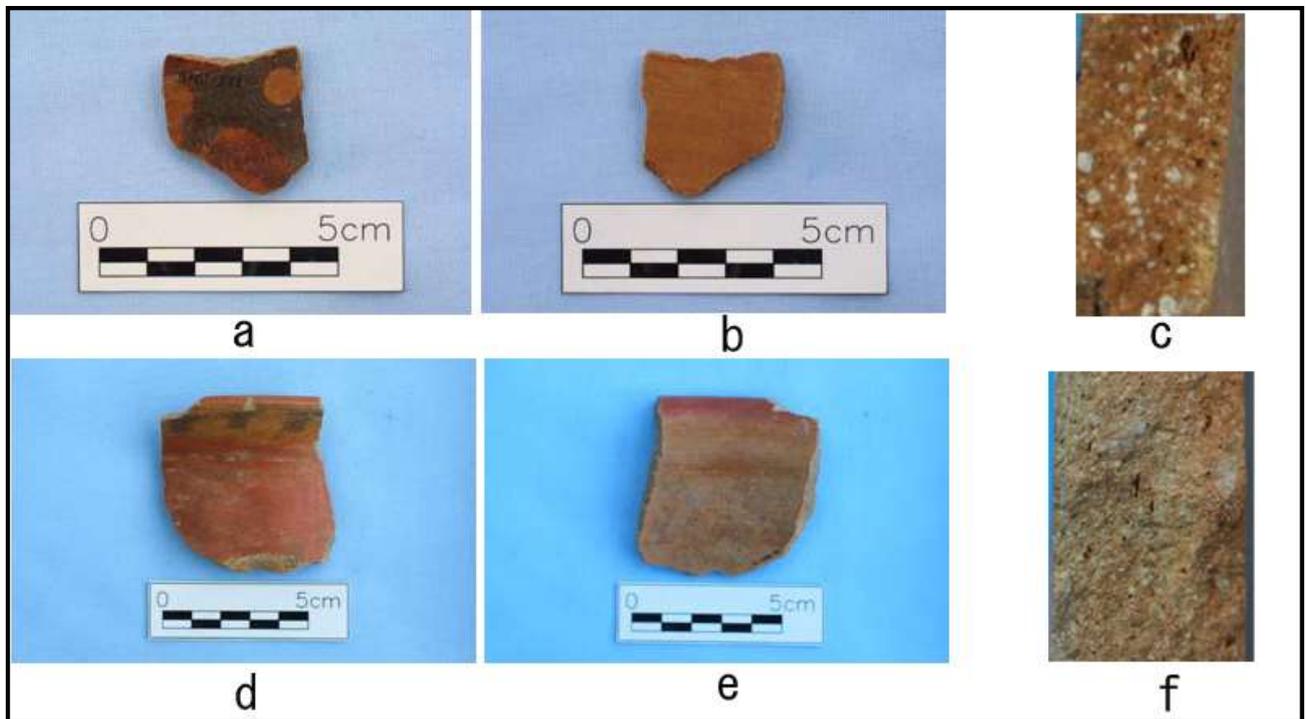


図 5-4-(11)-1 : a-c 建造物 6 (T8)出土の円筒形壺、d-f 建造物 4 (T12)出土の円筒形壺

(12) まとめ

表 5-4-(12)-1 : Monochrome Red グループの建造物別器種構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	26	100.0%	0	0.0%	19	86.4%	1	50.0%	13	92.9%	0	0.0%	0	0.0%	59	92.2%
カスエラ (Cazuela)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.1%
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.1%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%
合計	0	0.0%	0	0.0%	26	100.0%	0	100.0%	22	100.0%	2	100.0%	14	100.0%	0	100.0%	0	0.0%	64	100.0%

表 5-4-(12)-2 : Red on Natural グループの建造物別器種構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	7	100.0%	0	0.0%	55	98.2%	12	100.0%	41	100.0%	13	100.0%	2	100.0%	130	99.2%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%
合計	0	0.0%	0	0.0%	7	100.0%	0	0.0%	56	100.0%	12	100.0%	41	100.0%	13	100.0%	2	0.0%	131	100.0%

表 5-4-(12)-3 : Polychrome グループの建造物別器種構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%	3	100.0%	33	97.1%	14	100.0%	32	97.0%	5	100.0%	1	100.0%	90	97.8%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%	1	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.2%
合計	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%	3	0.0%	34	100.0%	14	100.0%	33	100.0%	5	100.0%	1	0.0%	92	100.0%

表 5-4-(12)-4 : Negative グループの建造物別器種構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	14	93.3%	3	100.0%	8	100.0%	2	100.0%	0	0.0%	28	96.6%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.4%
合計	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	15	100.0%	3	100.0%	8	100.0%	2	100.0%	0	0.0%	29	100.0%

「月のピラミッド」出土の Painted Ware は、4つのグループ (Monochrome Red グループ、Red on Natural グループ、Polychrome グループ、Negative グループ) から構成されそれぞれのグループにおいて碗の出土数が多い (表 5-4-(12)-1~表 5-4-(12)-4)。また、Painted Ware の胎土は、Polished Ware と同様に、オレンジ系あるいは赤褐色系の色で、多くの白色の含有物を含む。

ラットレイによると、Painted Ware では、Monochrome Red、White on Red Bichrome、Red on Natural Bichrome、Polychrome、Tzacualli Resist が見られる (Rattray 2001:133-

137,147-149)。

前期の Monochrome Red は、内外面とも赤色(2.5YR 5/10、5/6)のペイントが施された土器で良く研磨されている。壺は外面のみペイントされ研磨される。器種は壺、円筒形壺、碗 (Shouldered Bowl、Corrugated Bowl)があり、円筒形壺は大きく外反する口縁部を持つ。後期になると円筒形壺では全面にペイントされるのではなく、内面はペイントされないか、途中までのペイントにとどまる。器種では碗 (Flaring Bowls、Shouldered Bowl)が多く、次に壺、円筒形壺と続く。Corrugated Bowl は後期では見られなくなる。

White on Red Bichrome は、良く研磨された赤色(10R 4/6、3/6)のペイントの上に白色の文様が描かれるタイプである。文様のモチーフは平行線などの幾何学文様や動物の図像やS字等である。器種では壺、碗、円筒形壺がある。胎土は多くの黒色や白色のテンパーを含んだやや荒い胎土である。後期になると文様のモチーフでは「鳥の目」を表現したような文様も現れ、前期よりも文様は洗練される。器種では胴部が外傾し、口縁部が大きく外反する円筒形壺がある。

Red on Natural Bichrome は、研磨された赤褐色系(10R 4/6、5/6; 5YR 5/4、5/6)の表面に赤色の文様が描かれるタイプである。文様は主に口縁部に赤色のバンドが施され、胴部外面には幾何学文様が描かれる。器種は碗が最も多く、円筒形壺や壺がそれに続く。胎土は、暗赤褐色の胎土に多くの白色のテンパーを含む特徴的な胎土である。後期もほぼ同じ特徴を示す。

Polychrome は、研磨された黄褐色の表面に赤色と白色で文様を描いたタイプである (Red and White on Natural)。これはサクワリ前期に消滅するタイプで出土量は少ない。

Tzacualli Resist はネガティブ文様をもつタイプである。ネガティブ文様を持つタイプは、サクアリ前期にその出土量はピークに達し、その後減少しミカオトリ期にはほとんど無くなる。ネガティブ文様は、土器の外面のみに描かれるもの、内面のみに描かれるもの、または内外面に描かれるものと様々である。モチーフとしては波型、円、渦巻き文などがあり、口縁部には赤色のペイントが施される。器種は碗 (Shouldered Bowl、Angled Bowl、Flaring Bowl、Pinched Bowl)、円筒形壺、壺である。胎土は、非常に良質であるが、赤褐色の胎土に多くの黒色ならびに白色のテンパーが見られる。後期になると Resist on Natural、Resist and Red on Natural、Resist on Natural with a red rim、Polychrome Resist 等ネガティブ文様と赤色や白色の組み合わせが存在する。器種では碗 (Shouldered Bowl、Pinched Bowl、Flaring Bowl)、円筒形壺、壺があり、器種構成は前期と同じである。

5-5 Dense Ware (個体数 N=25、サクワリ期全体の中で 1.4%)

<Monochrome Brown グループ (個体数 N=25) >

(1) 碗 (Bowl)

個体数 : N=17 (サクワリ期の Dense Ware の Monochrome Brown グループ中で 68.0%)

出土地点 :

表 5-5-(1)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	13	76.5%	3	17.6%	1	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	17	100.0%

図版 : 図 5-5-(1)-1

胎土 : 粘土質で含有物をほとんど含まない良質の胎土である。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR7/6、7.5YR 7/4、7.5YR 6/6、5YR 7/4、10YR 7/3、10YR 7/4) である。

表面調整 : 表面は内外面とも良く調整される。色は、胎土と同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 胴部が外傾する碗 (Flaring Bowl)、半球形の碗 (Simple Bowl) などが見られる。

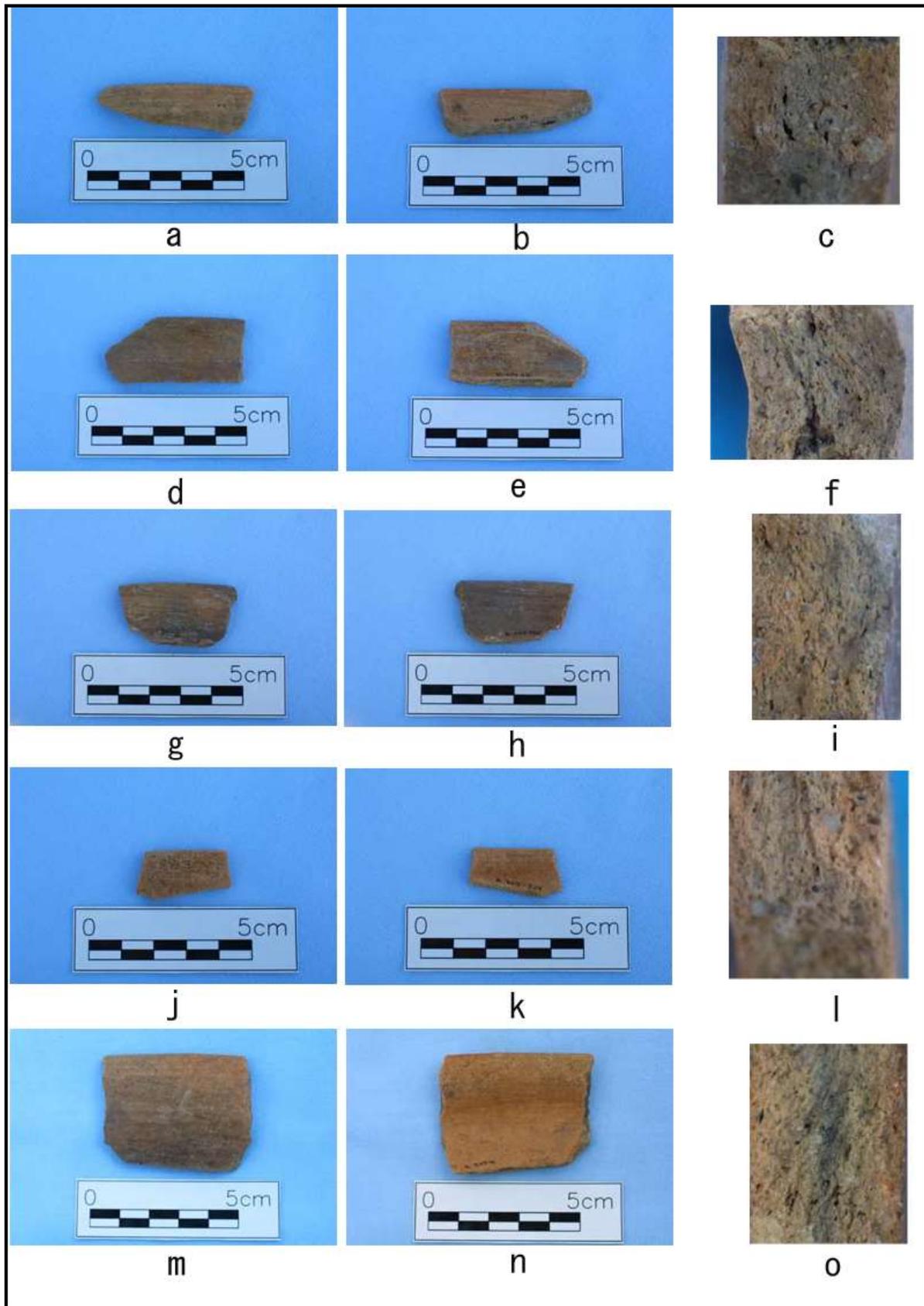


図 5-5-(1)-1 : 建造物 4 (T12) 出土の碗

(2) ミニチュア (Miniature)

個体数 : N=8 (サクワリ期の Dense Ware の Monochrome Brown グループ中で 32.0%)

出土地点 :

表 5-5-(2)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
ミニチュア (Miniature)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	62.5%	2	25.0%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	8	100.0%

図版 : 図 5-5-(2)-1

胎土 : 粘土質で含有物をほとんど含まない良質の態度である。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR 7/4、7.55YR 6/6、7.5YR 6/4)、赤褐色系 (2.5YR 5/8) である。

表面調整 : 表面は内外面とも良く調整される。色は、胎土と同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 壺や碗がある。

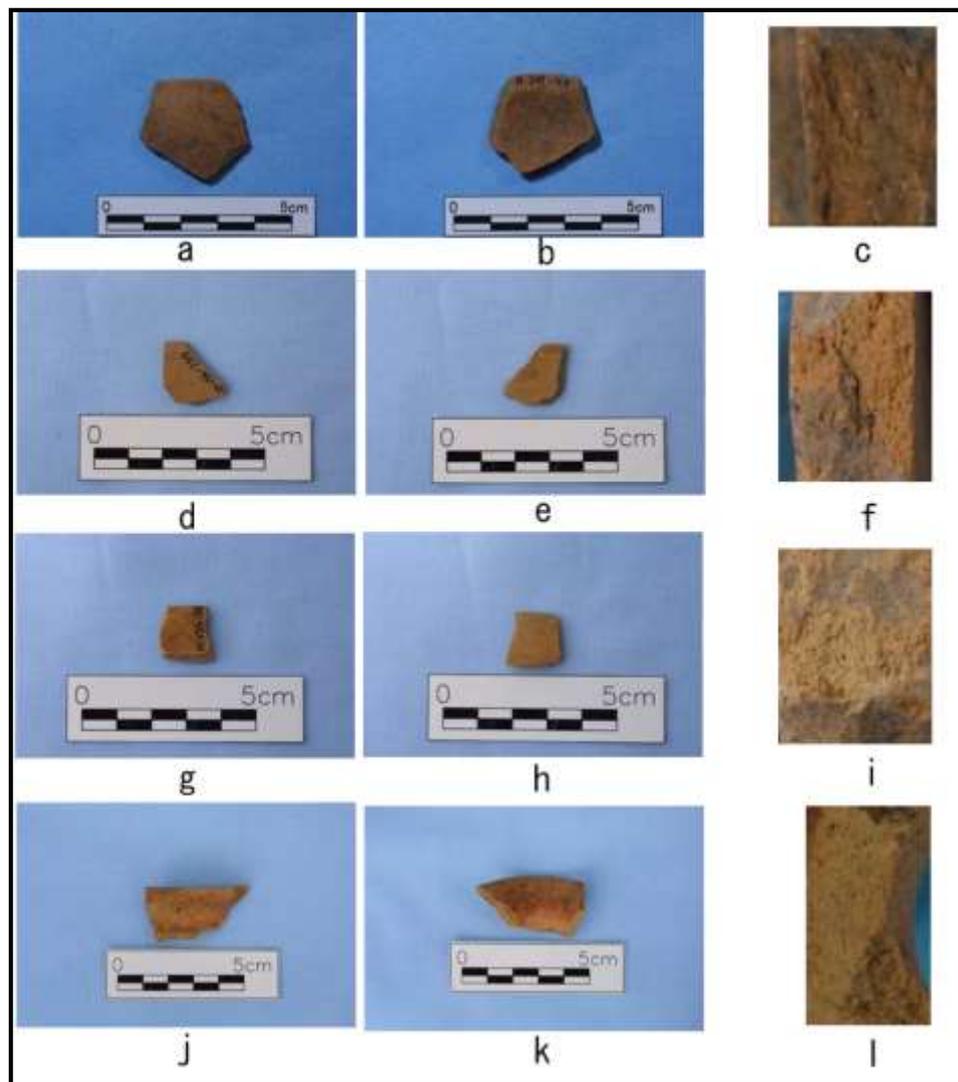


図 5-5-(2)-1: a-c 建造物 4 (T2)出土のミニチュア、d-i 建造物 6 (T8)出土のミニチュア、j-l 建造物 4 (T12)出土のミニチュア

(3) まとめ

表 5-5-(3)-1 : Monochrome Brown グループの出土地別器種構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	13	72.2%	3	60.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	17	68.0%
ミニチュア (Miniature)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	27.8%	2	40.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	32.0%
合計	0	0.0%	0	0.0%	0	100.0%	0	0.0%	18	100.0%	5	100.0%	2	100.0%	0	100.0%	0	0.0%	25	100.0%

「月のピラミッド」のサクワリ期の Dense Ware の器種は、碗とミニチュアである。胎土は、良質で硬く、表面も良く調整されている。同じミニチュア土器でも、Matte Ware で見られるミニチュア土器とは異なる。

Dense Ware はラットレイによると、サクワリ前期に始めて出現するタイプ (Rattray 2001: 119) であり、ブラッチャーのパトラチケ期の土器にある Dense Ware とは異なる Rattray 2001: 119)。サクワリ前期の器種は、ミニチュア土器や碗 (Flaring Bowl、Pinched Bowl) であり、ブラッチャーの報告に見られた大型壺は無い。胎土は硬く非常に良質であり、表面は良く調整されている。後期では碗 (Shouldered Bowl、Flaring Bowl)、壺やミニチュア土器があり、表面は研磨されている (Rattray 2001: 137, 151)。

5-6 その他 (個体数 N=16、サクワリ期全体の中で 0.9%)

<Thin Orange Ware (個体数 N=15) >

(1) 碗 (Bowl)

個体数 : N=15 (サクワリ期の Thin Orange Ware 中で 100.0%)

出土地点 :

表 5-6-(1)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	3	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	73.3%	0	0.0%	15	100.0%

図版 : 図 5-6-(1)-1 ~ 図 5-6-(1)-3

胎土 : 胎土は粘土質で白色の含有物を含む。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR 7/4、5YR 7/8、2.5YR 7/8) である。

表面調整 : 表面は内外面とも良く調整される。色は、胎土と同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 口径 14.2cm~24.0cm の半球形の碗 (Simple Bowl) などが見られる (図 5-6-(1)-3)。

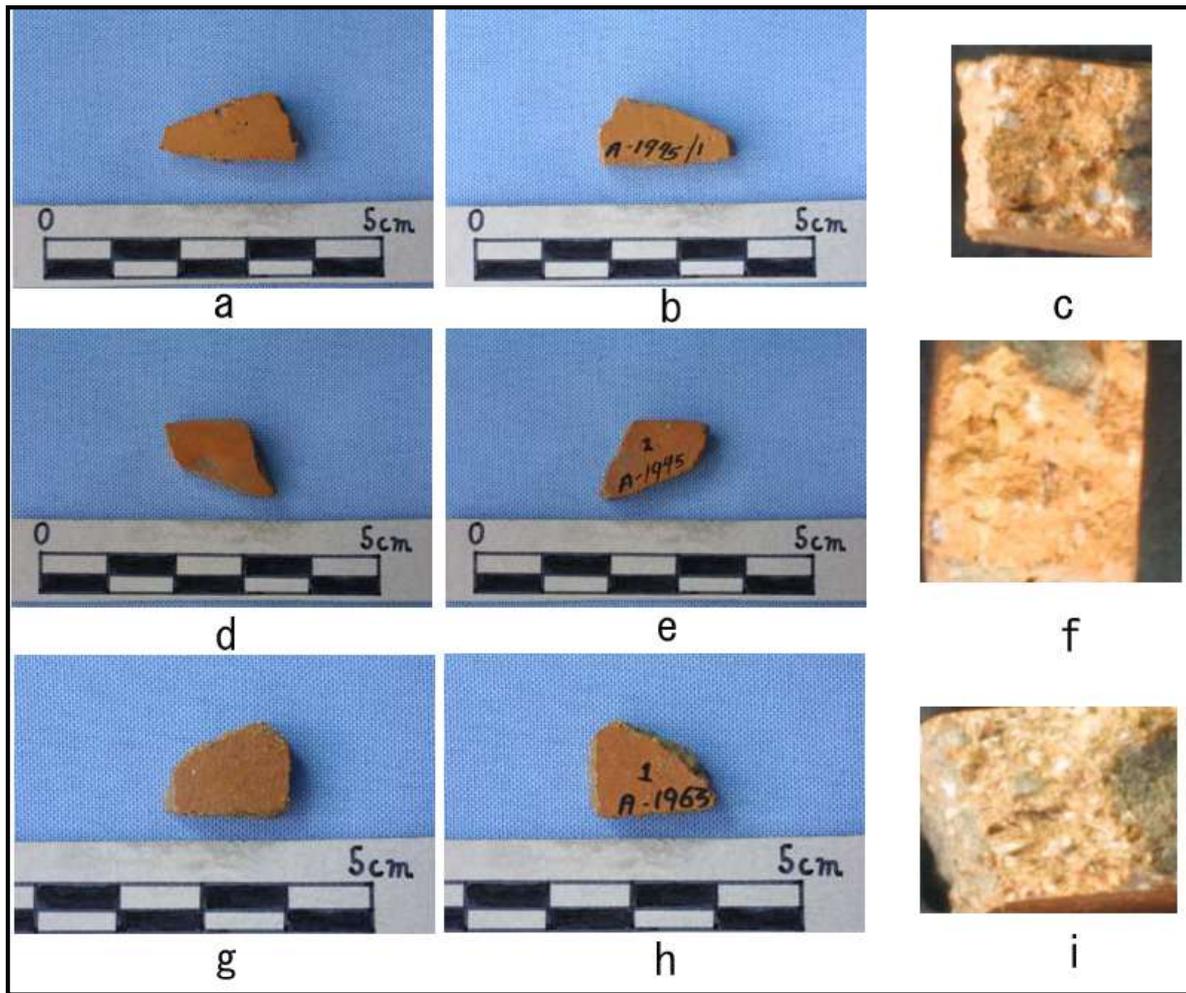


図 5-6-(1)-1 : 建造物 1 (T3) 出土の碗

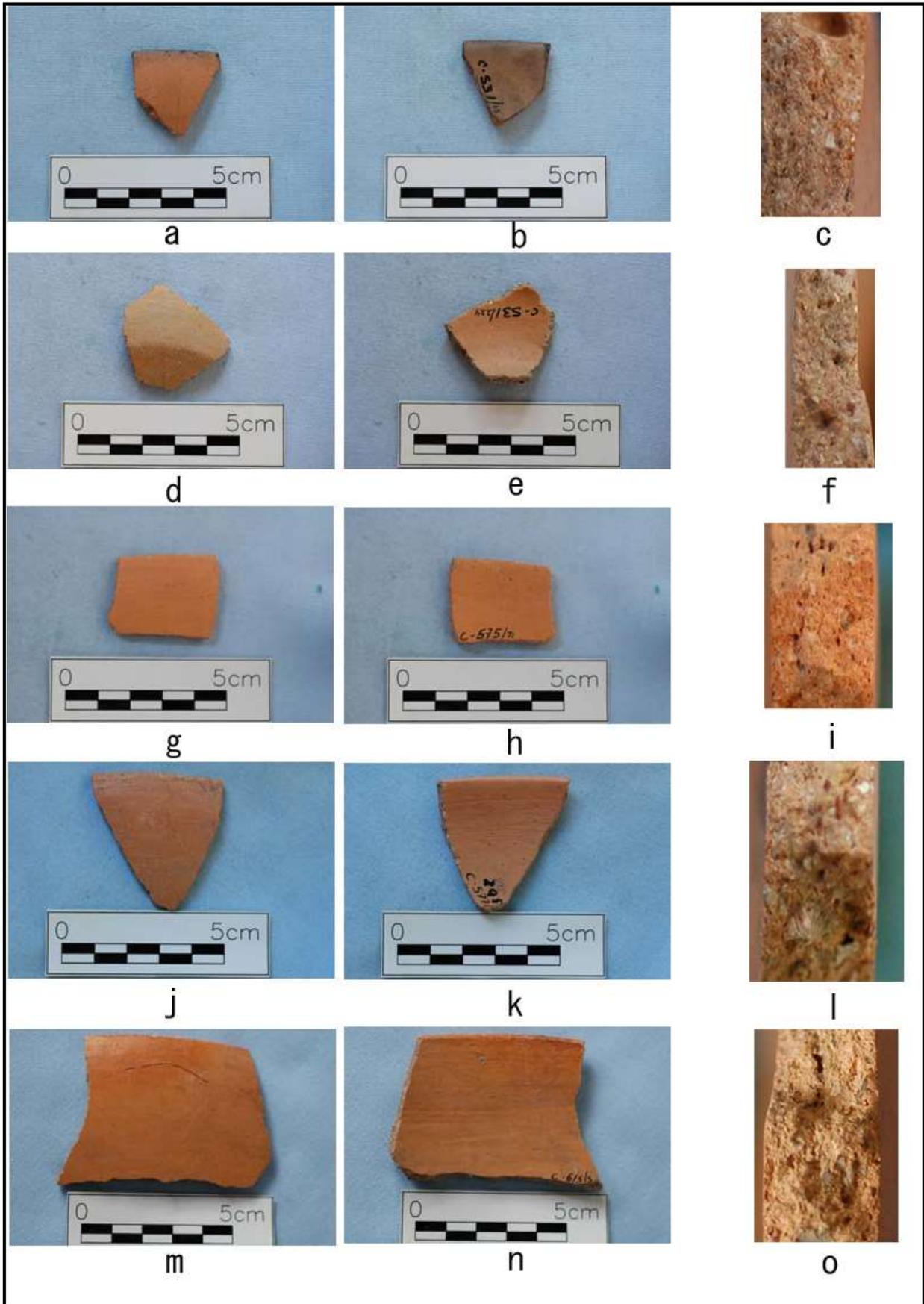


図 5-6-(1)-2 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗

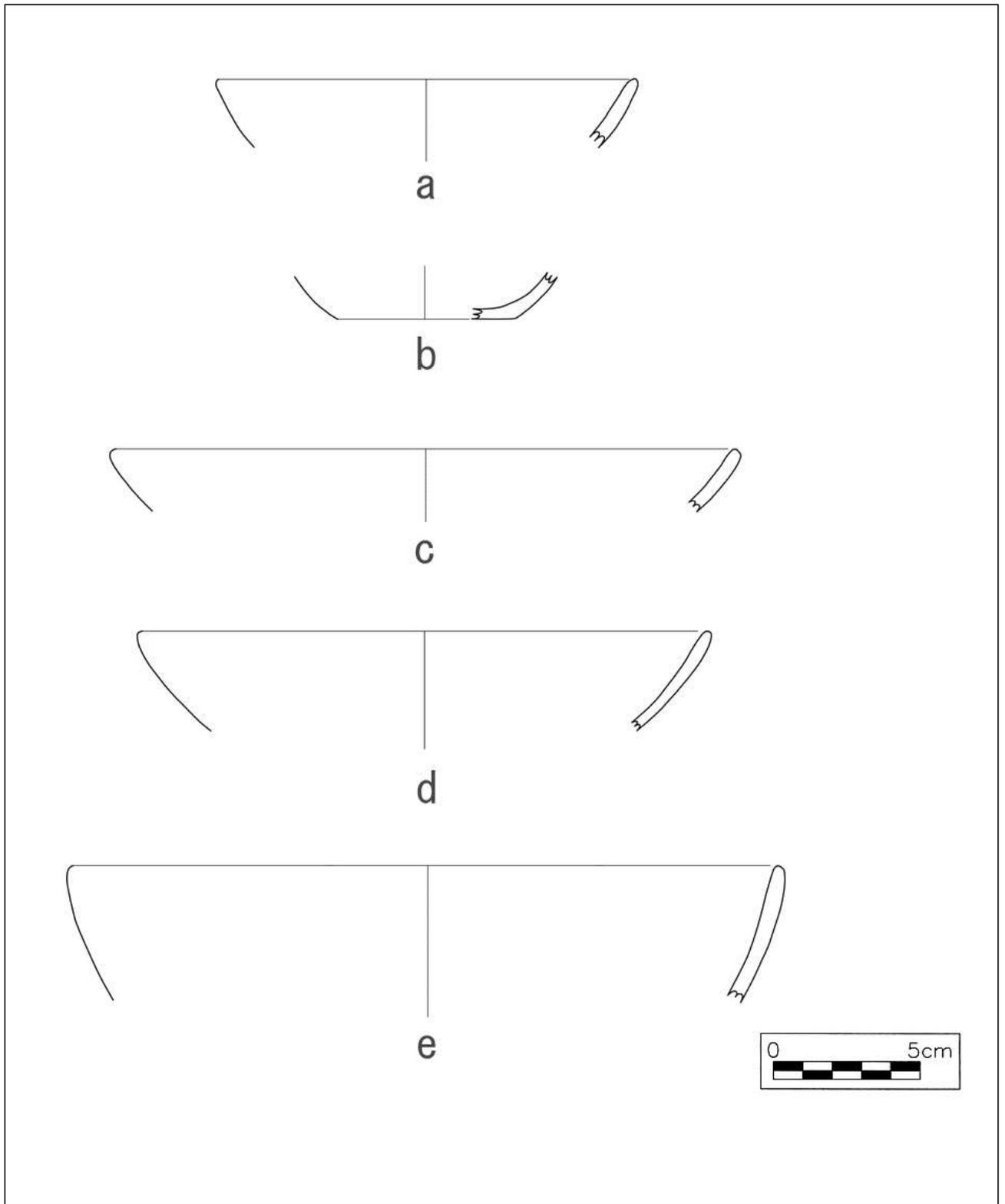


図 5-6-(1)-3 : 建造物 7 (Frente C)出土の碗

<Granular Ware (個体数 N=1) >

(2) 壺 (Anphora)

個体数 : N=1 (サクワリ期の Granular Ware 中で 100.0%)

出土地点 :

表 5-6-(2)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計			
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%		
壺 (Anphora)	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%

図版 : 図 5-6-(2)-1

胎土 : 胎土は粘土質で白色の含有物を含む。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR 7/4、7.5YR 6/6、5YR 8/4、等) である。

表面調整 : 表面は内外面とも良く調整される。外面には、白色のスリップが施される。内面の色は、胎土と同じである。

装飾 : 外面に赤色のペイントが施される場合もある。

器形 : Anphora 型の壺である。

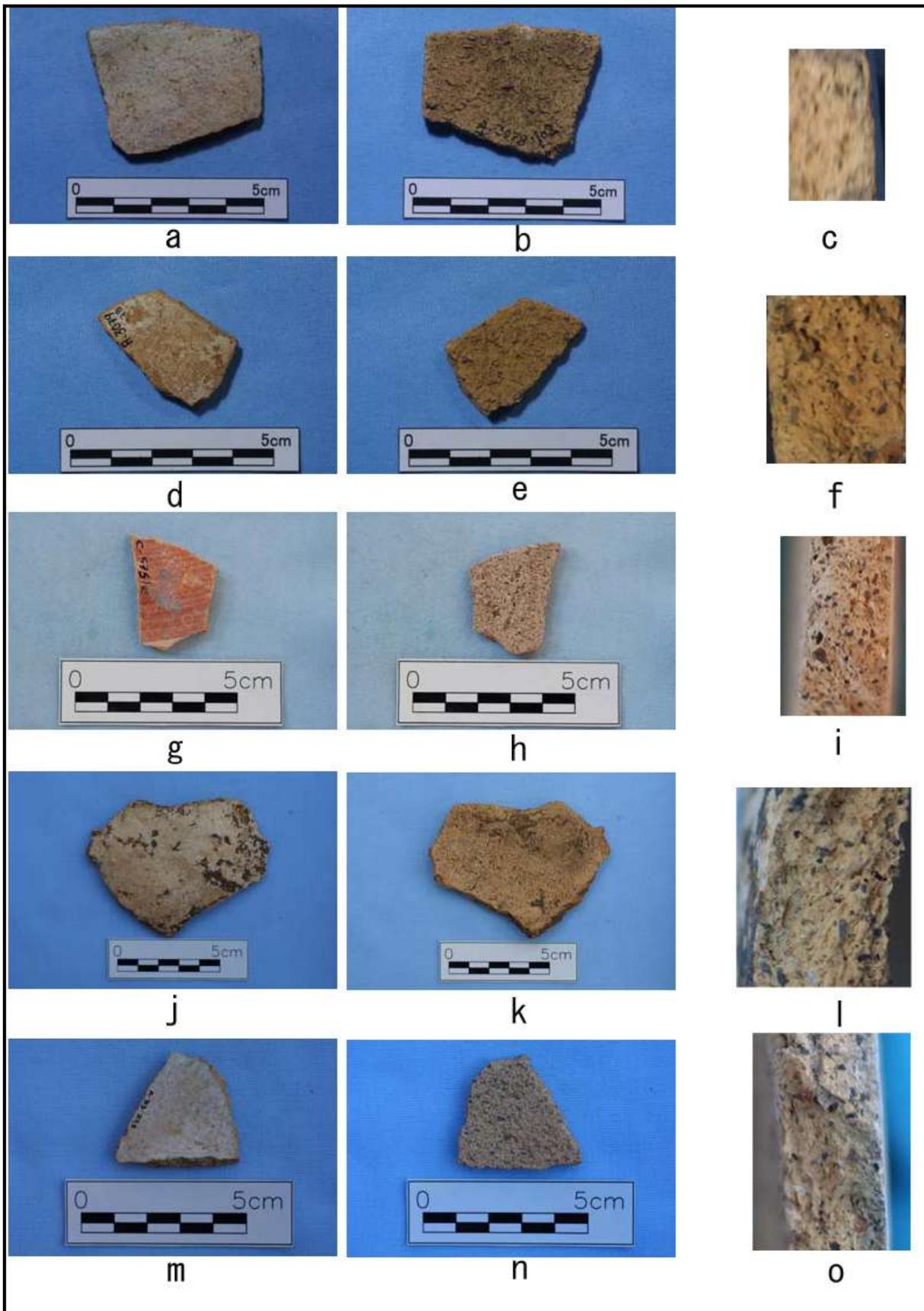


図 5-6-(2)-1: a-f 建造物 4 (T2)出土の Amphora、g-i 建造物 7 (Frente C)出土の Amphora、j-o 建造物 4 (T12)出土の Amphora

5-7 サクワリ期の土器のまとめ

表 5-7-1：サクワリ期の土器の構成比

	Wareレベルの個 体数	%	グループレベル の個体数	%
Matte Ware	261	14.3%		
①Corse Matte グループ			20	1.1%
②Fine Matte グループ			241	13.2%
Burnished Ware	715	39.2%		
①Monochrome Brown グループ			707	38.8%
②Painted Red グループ			8	0.4%
Polished Ware	490	26.9%		
①黒色グループ			195	10.7%
②褐色グループ			295	16.2%
Painted Ware	316	17.3%		
①Monochrome Redグループ			64	3.5%
②Red on Naturalグループ			131	7.2%
③Polychromeグループ			92	5.0%
④Negativeグループ			29	1.6%
Dense Ware	25	1.4%		
①Monochrome Brownグループ			25	1.4%
その他	16	0.9%		
①Thin Orange Ware			15	0.8%
② Granular Ware			1	0.1%
合計	1,823	100.0%	1,823	100.0%

「月のピラミッド」出土のサクワリ期の器種構成は、Burnished Ware が最も多く出土し（39.2%）、次に Polished Ware（26.9%）、Painted Ware（17.3%）と続く（表 5-7-1）。Thin Orange グループが出現する。このタイプは、非常に器厚の薄いオレンジ色の土器で、表面は良く研磨されている。器種は碗のみである。また、サクワリに出現する新しい土器グループである Granular グループは、白色のスリップの上に黒色で文様が描かれる。器種は Anphora と考えら得る壺である。

サクワリ期の土器全体としての特徴は、(1)Burnished Ware の Olla において、パトラチケ期でみられた Round Wedge Rim は減少すること、(2)Polished Ware では、長頸壺やトラロックが新しい器種や器形として加わること、(3)Painted Ware は数量的にはサクワリ全体の土器の中では少ないが、パトラチケ期と比較して、質的にも量的にも豊富になる。

特に、ネガイティブグループは様々な装飾パターンをもつ土器が出土すること、(4)器種や器形の点からは、この時期ではどの器種においても Supports は付けられないことやミニチュア土器が出現すること、(5)新しい土器として Fine Matte グループが加わること、(6)交易品としてもたらされた Granular グループ、Thin Orange グループがテオティワカンで始めて出現すること、(7) Polished Ware や Painted Ware の胎土は、白色の含有物を多く含むオレンジ系、赤褐色系の胎土が一般的であること、等である。

表 5-7-2：サクワリ期の土器の出土地別土器グループ構成比

	56層		建造物 1		建造物 2		建造物 3		建造物 4		建造物 5		建造物 6		建造物 7		その他(墓の埋土)		合計		
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%			
Matte Ware																					
①Corse Matte グループ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.5%	18	1.8%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	20
②Fine Matte グループ	0	0.0%	1	11.1%	4	2.0%	0	0.0%	219	21.5%	2	1.5%	4	1.3%	4	4.5%	7	36.8%	7	36.8%	241
Burnished Ware																					
①Monochrome Brown グループ	14	100.0%	6	66.7%	167	84.3%	2	9.1%	291	28.5%	56	40.9%	132	41.8%	30	34.1%	9	47.4%	9	47.4%	707
②Painted Red グループ	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	6	0.6%	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8
Polished Ware																					
(1)黒色グループ	0	0.0%	1	11.1%	15	7.6%	3	13.6%	126	12.4%	15	10.9%	30	9.5%	5	5.7%	0	0.0%	0	0.0%	195
(2)褐色グループ	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	12	54.5%	196	19.2%	26	19.0%	47	14.9%	13	14.8%	0	0.0%	0	0.0%	295
Painted Ware																					
①Monochrome Redグループ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	38	3.7%	5	3.6%	17	5.4%	4	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	64
②Red on Naturalグループ	0	0.0%	0	0.0%	6	3.0%	1	4.5%	56	5.5%	12	8.8%	41	13.0%	13	14.8%	2	10.5%	2	10.5%	131
③Polychromeグループ	0	0.0%	0	0.0%	2	1.0%	3	13.6%	34	3.3%	14	10.2%	33	10.4%	5	5.7%	1	5.3%	1	5.3%	92
④Negativeグループ	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	15	1.5%	3	2.2%	8	2.5%	2	2.3%	0	0.0%	0	0.0%	29
Dense Ware																					
①Monochrome Brownグループ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	18	1.8%	3	2.2%	3	0.9%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	25
その他																					
①Thin Orange Ware	0	0.0%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	11	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	15
② Granular Ware	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1
Total	14	100.0%	9	100.0%	198	100.0%	22	100.0%	1020	100.0%	137	100.0%	316	100.0%	88	100.0%	19	100.0%	19	100.0%	1,823

サクワリ期は、定説によるとテオティワカンが大きく拡大し、居住地域は北部を中心に 20 平方キロメートルの広さになる (Millon 1973)。この時期に都市建築が開始し、「月のピラミッド」や「太陽のピラミッド」、Pre-Ciudadera が建設されたと考えられている¹⁵(Cowgill 2015:61-78)。土器ではパトラチケの伝統を引き継ぎ、Burnished Ware の大型壺では口縁部や口唇部で類似の要素も多い。また Painted Ware ではこの時期様々な装飾パターンが出現するなど大きく発展する。また他地域からもたらされた土器と考えられる Granular グループや Thin Orange Ware なども加わり交流地域が増えたことが窺える。

¹⁵ 「月のピラミッド」、「太陽のピラミッド」の建設年代に関しては、8章で詳細に論じる。

6章 テオティワカン「月のピラミッド」出土のミカオトリ期の土器

6-1 Matte Ware (個体数 N=15、ミカオトリ期全体の中で 1.8%)

<Coarse Matte グループ (個体数 N=2) >

(1) 香炉(censer)

個体数 : N=2 (ミカオトリ期の Coarse Matte グループの中で 100%)

出土地点 :

表 6-1-(1)-1 : 香炉の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
香炉 (Censer)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	0.0	0.0%	2	100.0%

図版 : 図 6-1-(1)-1

胎土 : 胎土は、やや砂質で柔らかく、含有物を多く含む。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR 6/4)、赤褐色 (5YR5/4) である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、ナデ調整が行われるだけであり、色は胎土とほぼ同じであるが、表面には黒色の焼け跡が見られる場合もある。

装飾 : 口縁部外側にはアップリケの装飾が見られる。また、赤色あるいは白色のペイントを施される場合もある。

器形 : 口縁部が外側に肥厚する香炉である。

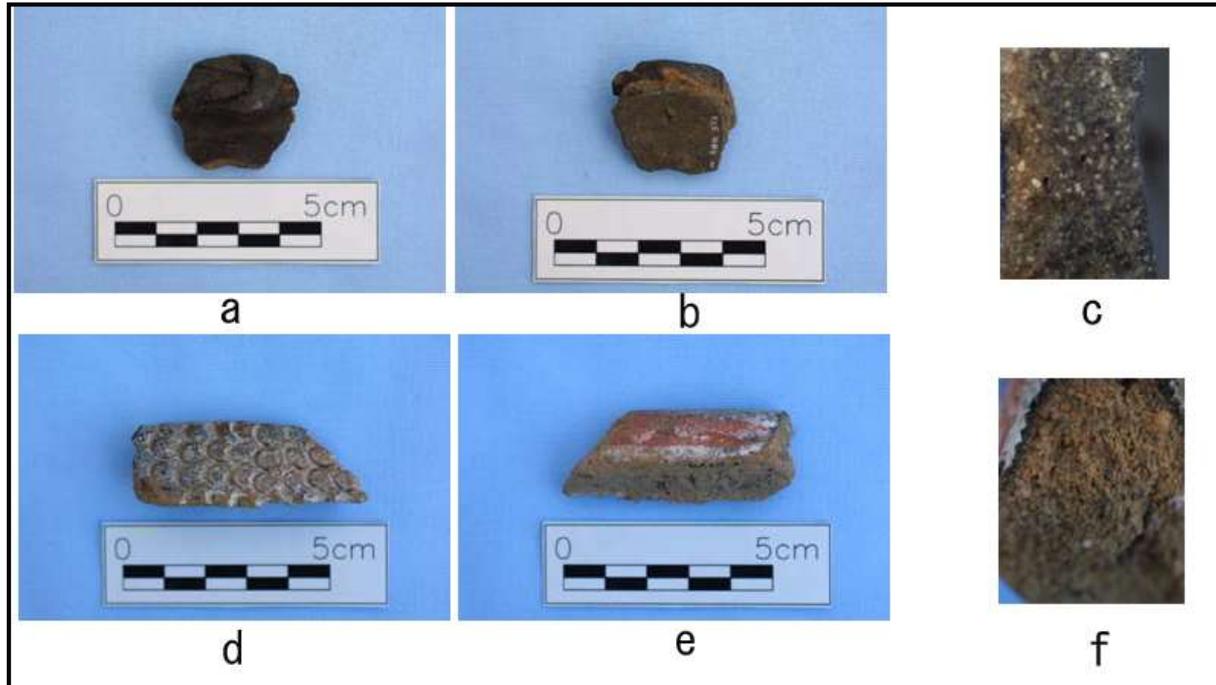


図 6-1-(1)-1 : 建造 4 (T12) 出土の香炉

<Fine Matte グループ (個体数 N=13) >

(2) ミニチュア (Miniature)

個体数 : N=3 (ミカオトリ期の Fine Matte グループの中で 23.1%)

出土地点 :

表 6-1-(2)-1 : ミニチュアの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
ミニチュア (Miniature)	0	0.0%	0	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	2	66.7%	0	0.0%	3	100.0%

図版 : 図 6-1-(2)-1

胎土 : 胎土は、粘土質で硬い。含有物はほとんど含まない。胎土の色は、黄橙系 (10YR 7/4、10YR6/4)、オレンジ系 (5YR6/6) である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、ナデ調整が行われるだけであり、色は胎土とほぼ同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 小型の碗である。

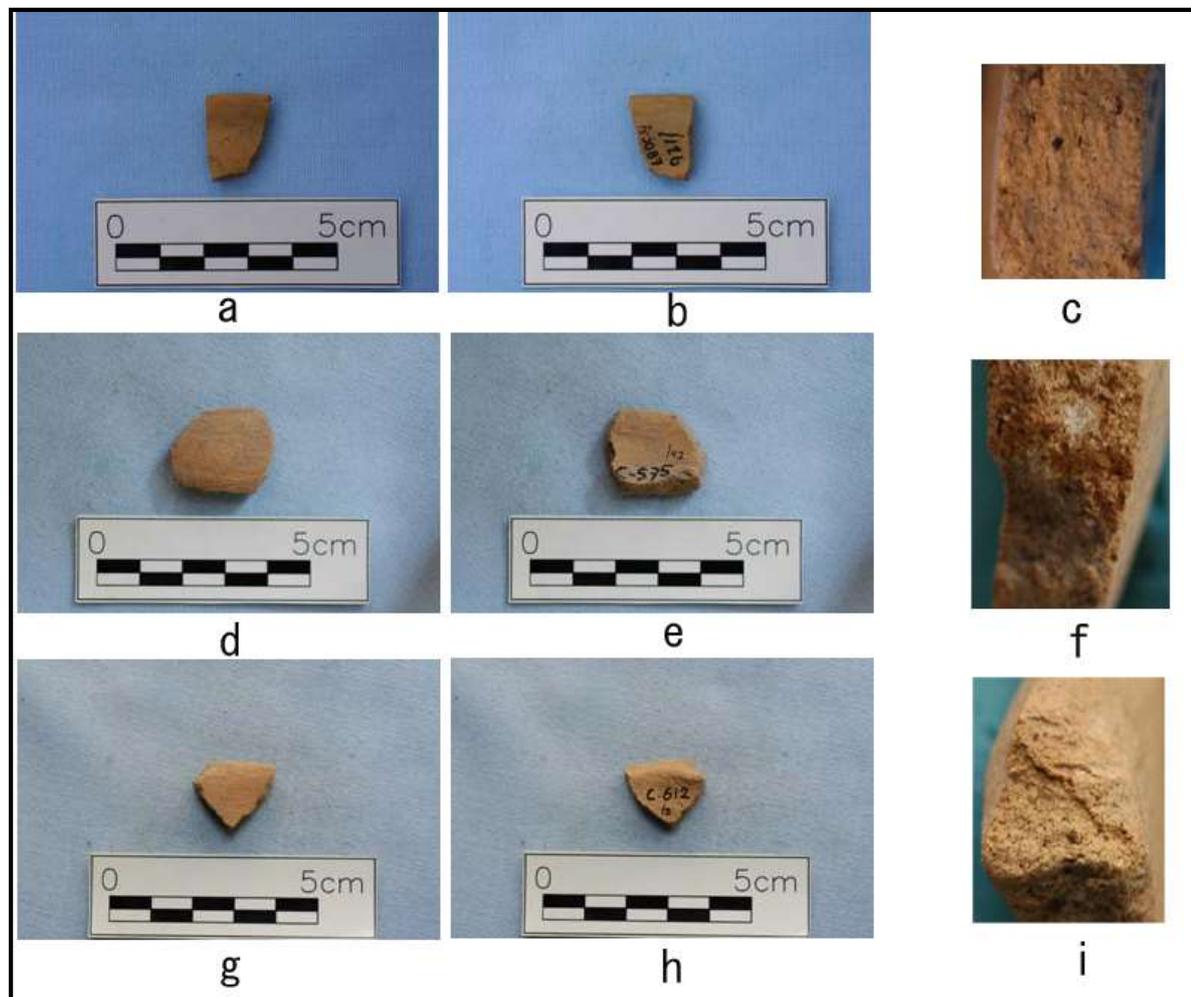


図 6-1-(2)-1 : a-c 建造物 5 (T2) 出土のミニチュア、 d-f 建造物 7 (Frente C) 出土のミニチュア

(3) カバープレート (Cover Plate)

個体数 : N=10 (ミカオトリ期の Fine Matte グループの中で 76.9%)

出土地点 :

表 6-1-(3)-1 : カバープレートの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
カバープレート (Cover Plate)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	80.0%	0	0.0%	1	10.0%	0	0.0%	1	10.0%	10	100.0%

図版 : 図 6-1-(3)-1 ~ 図 6-1-(3)-2

胎土 : 胎土は、粘土質で柔らかいものと硬いものの両方が認められる。含有物はほとんど含まない。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR 7/4、7.5YR 6/6、5YR 7/6、5YR 6/6)、褐色系 (7.5YR 5/3)、赤褐色系 (5YR 5/6、5YR 5/4) である。

表面調整 : 表面の仕上げはやや雑で、ナデ調整が行われるだけであり、色は胎土とほぼ同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 口径 11.8cm のカバープレートがある。また、上部に取手のあるものも見られる (図 6-1-(3)-2 : g)。

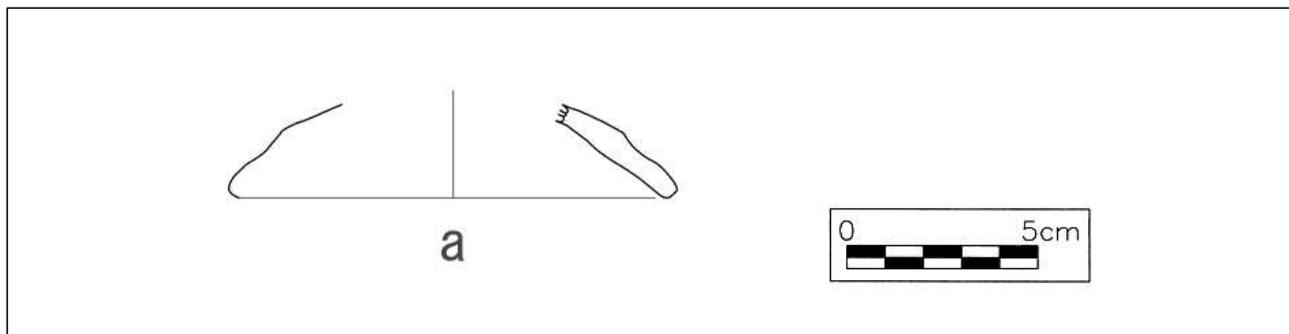


図 6-1-(3)-1 : 建造物 4 (T12) 出土のカバープレート

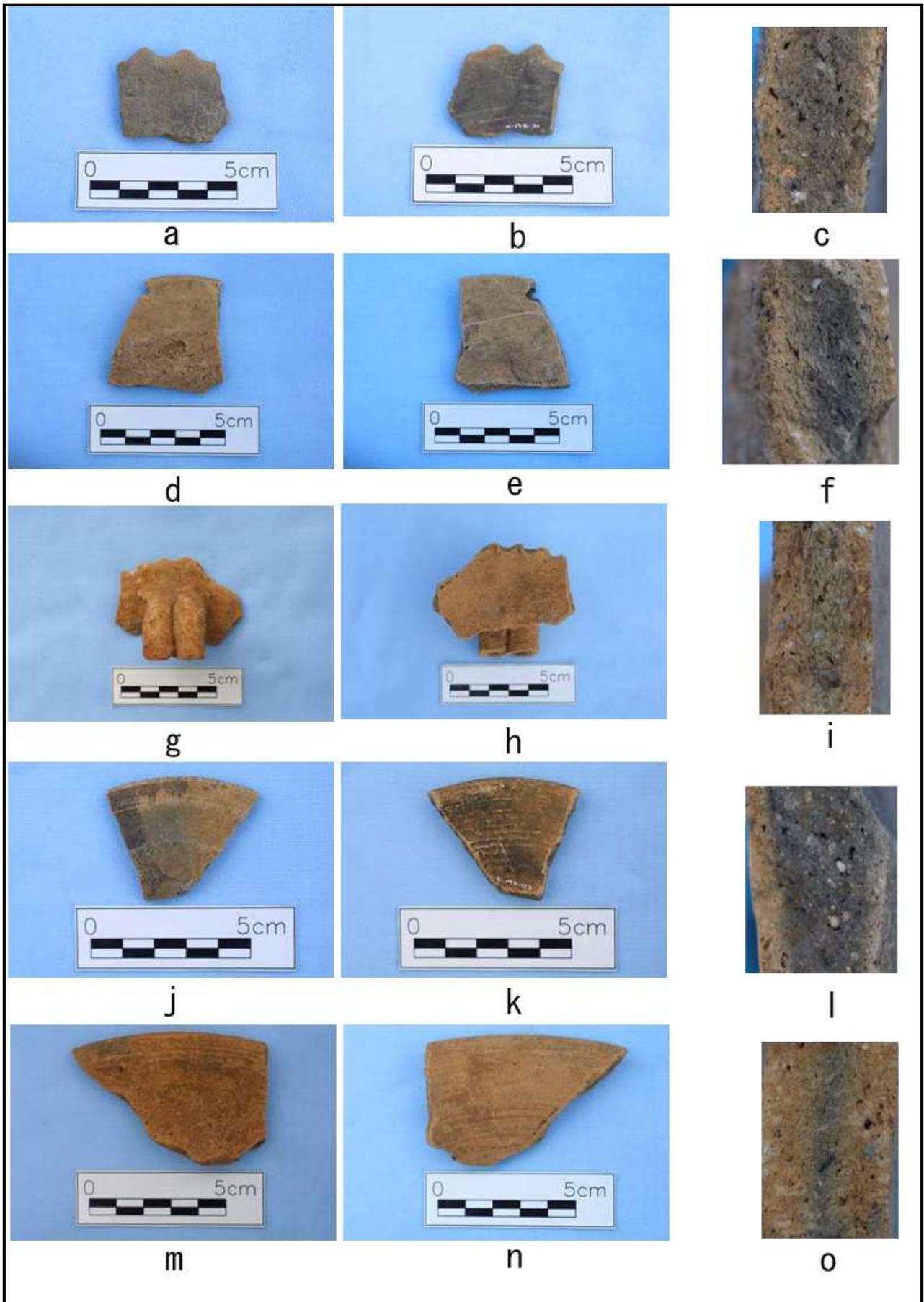


図 6-1-(3)-2 : 建造物 4 (T12) 出土のカバープレート

(4) まとめ

表 6-1-(4)-1 : Coarse Matte グループの器種別、出土地別構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
香炉 (Censer)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0.0	0.0%	2	100.0%
合計	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	2	100.0%

表 6-1-(4)-2 : Fine Matte グループの器種別、出土地別構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
ミニチュア (Miniature)	0	0.0%	0	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	3	23.1%
カバープレート (Cover Plate)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	10	76.9%
合計	0	0.0%	0	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	100.0%	1	100.0%	1	100.0%	2	100.0%	1	100.0%	13	100.0%

Coarse Matte グループでは、機種は鏝のある香炉が見られ、鏝の装飾は刺突文 (Impressin) が施される。Fine Matte グループでは、ミニチュアやカバープレートが見られる。カバープレートには、取手が付けられるものもある。これは、ミカオトリ期に始めて出現する特徴である。

ラットレイは、香炉における装飾をつぎのように述べている。

The decoration on censer flange consists of deep, evenly spaced semi-circular “tool” or “reed” impressions. The decoration, sometimes called “half-reed”, runs in one direction and occurs in rows of three, four, or five. White paint has been rubbed into the crevices and on the bodies of the censers as well (Rattray 2001:153).

6-2 Burnished Ware (個体数 N=105、ミカオトリ期全体の中で 12.5%)

<Monochrome Brown グループ (個体数 N=105) >

(1) 大型壺 (Olla)

個体数 : N=37 (ミカオトリ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループの中で 35.2%)

出土地点 :

表 6-2-(1)-1 : 大型壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
大型壺 (Olla)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	8.1%	2	5.4%	28	75.7%	3	8.1%	1	2.7%	37	100.0%

図版 : 図 6-2-(1)-1～図 6-2-(1)-5

胎土 : 胎土は、やや粘土質で硬い。含有物を若干含む。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR 7/4、7.5YR 6/6、7.5YR 6/4、5YR 6/6、5YR 6/4、2.5YR 6/8、2.5YR 5/8)、褐色系 (7.5YR 5/8、7.5YR 5/6、7.5YR 5/4、7.5YR 5/3)、赤褐色系 (5YR 5/8、5YR 5/6、2.5YR 4/8) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、研磨される。色は胎土とほぼ同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 口径 20.0cm～31.0cm の大型の壺である。口縁部が外反あるいは外側に肥厚するものや口唇部が水平になるものが見られる (図 6-2-(1)-5)。

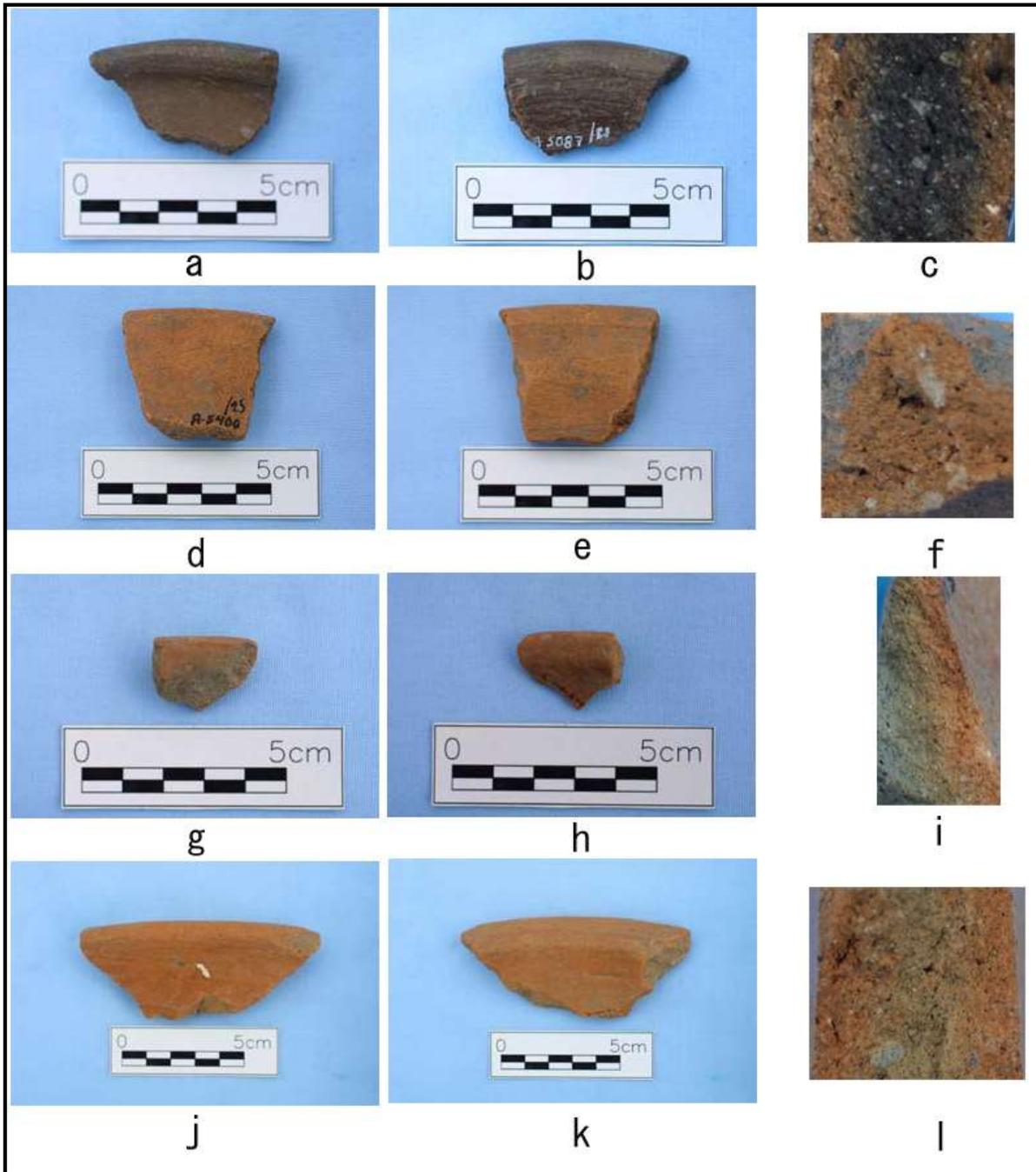


図 6-2-(1)-1 : a-f 建造物 5 (T2) 出土の大型壺、g-l 建造物 4 (T12) 出土の大型壺

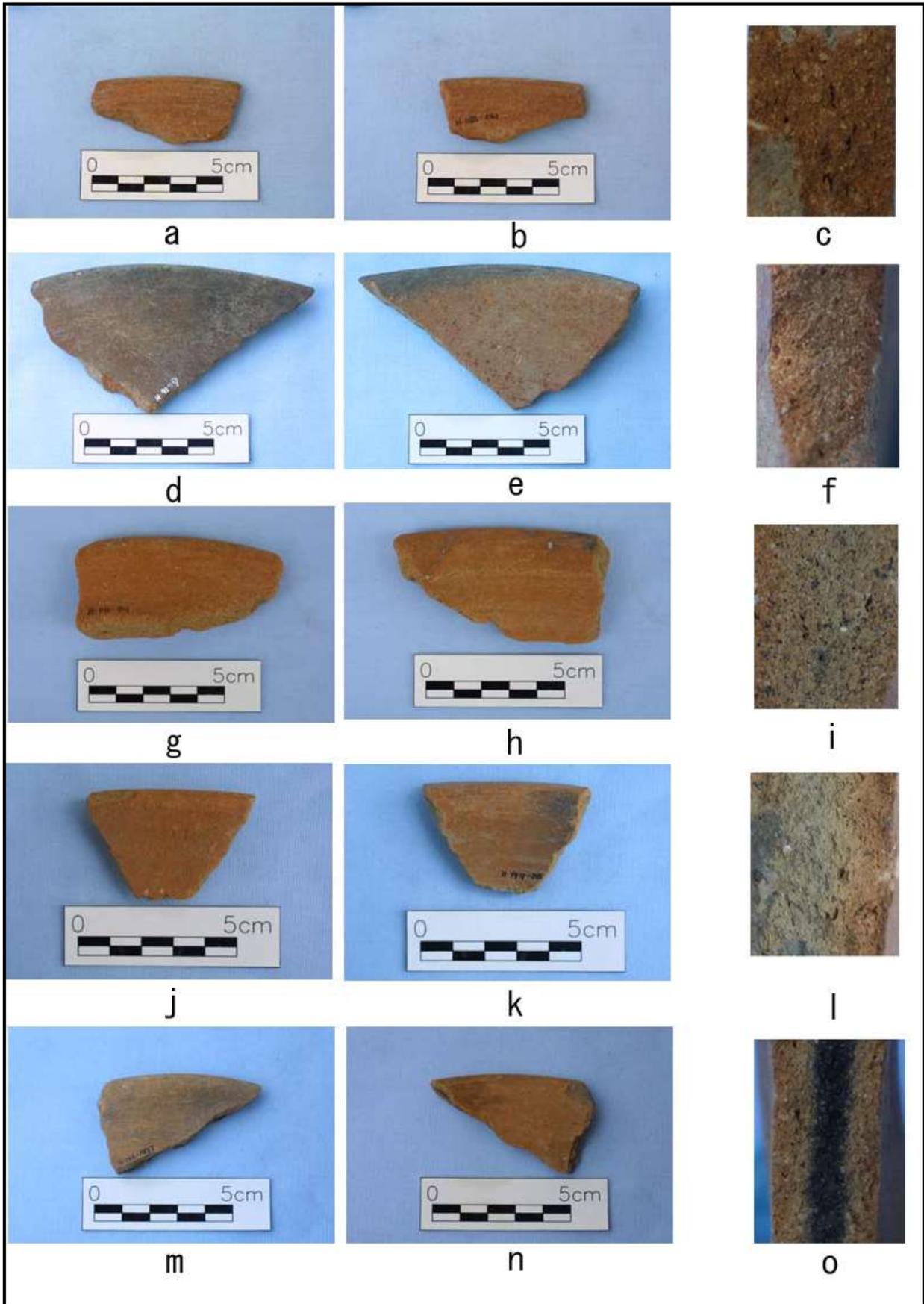


図 6-2-(1)-2 : 建造物 6 (T8) 出土の大型壺

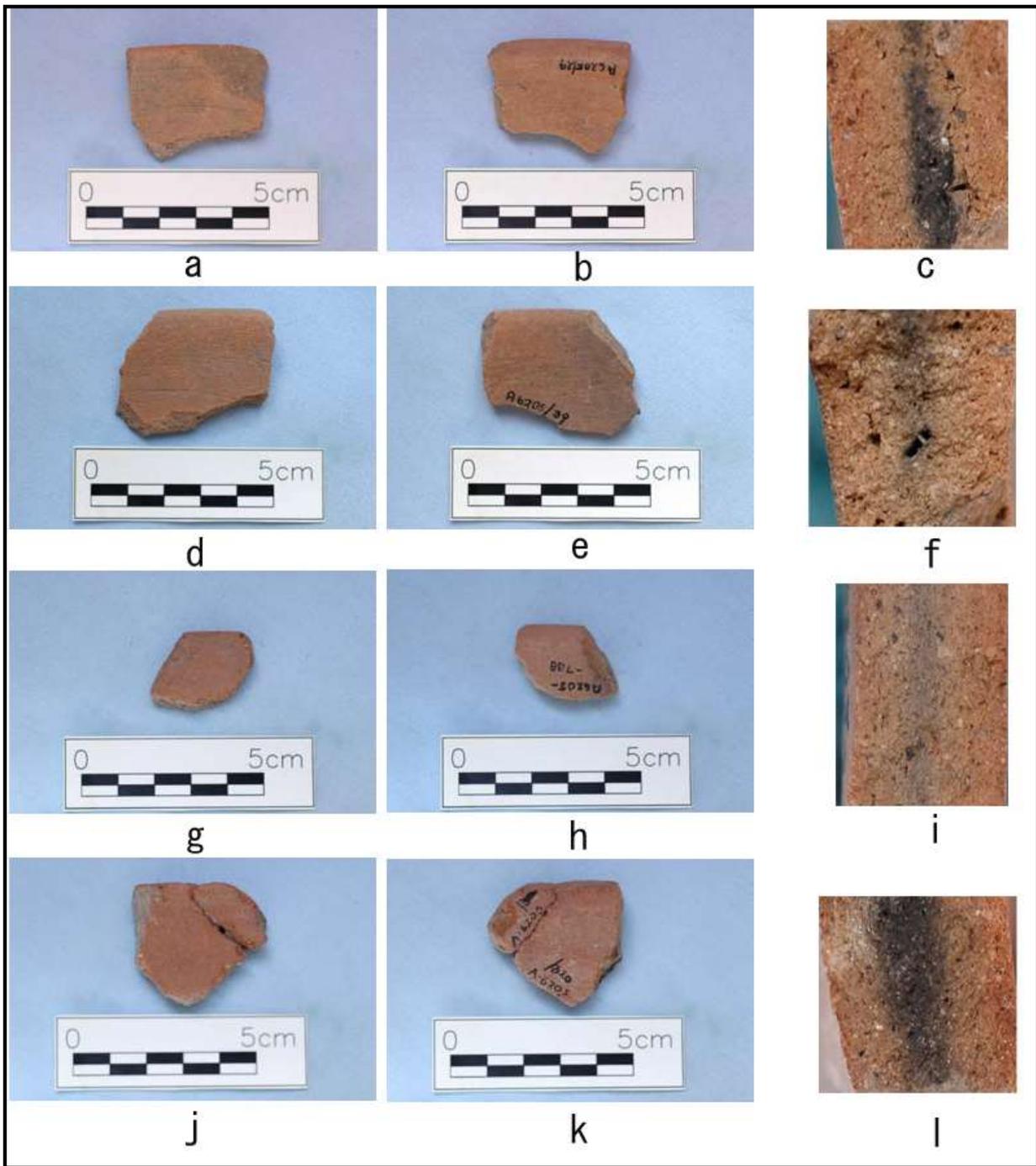


図 6-2-(1)-3 : 建造物 6 (T2) 出土の大型壺



図 6-2-(1)-4 : 建造物 7 (Frente C) 出土の大型壺

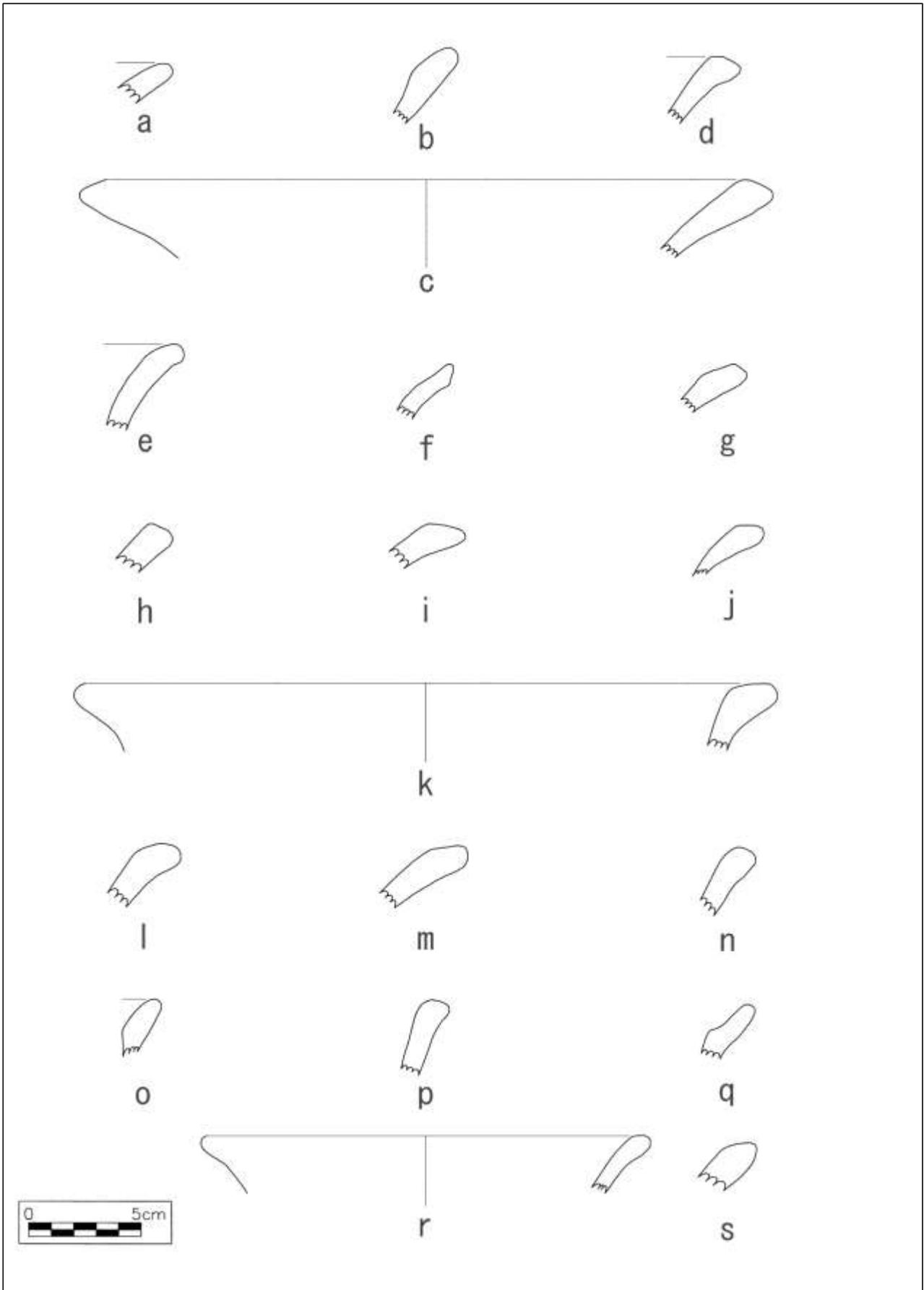


図 6-2-(1)-5 : 建造物 6 (T8) 出土の大型壺

(2) 壺 (Jar)

個体数 : N=19 (ミカオトリ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループの中で 18.1%)

出土地点 :

表 6-2-(2)-1 : 壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	26.3%	2	10.5%	5	26.3%	6	31.6%	1	5.3%	19	100.0%

図版 : 図 6-2-(2)-1~図 6-2-(2)-4

胎土 : 胎土は、大型壺と同様で、やや粘土質で硬い。含有物を若干含むものもある。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR 6/6、7.5YR 6/4、5YR 6/8、5YR 6/6、2.5YR 6/8、2.5YR 5/8)、赤褐色系 (5YR 5/6) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、研磨される。色は胎土とほぼ同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 口径 12.0cm 壺がある。口縁部が外反する場合もある (図 6-2-(2)-4)。



図 6-2-(2)-1 : 建造物 5 (T2) 出土の壺

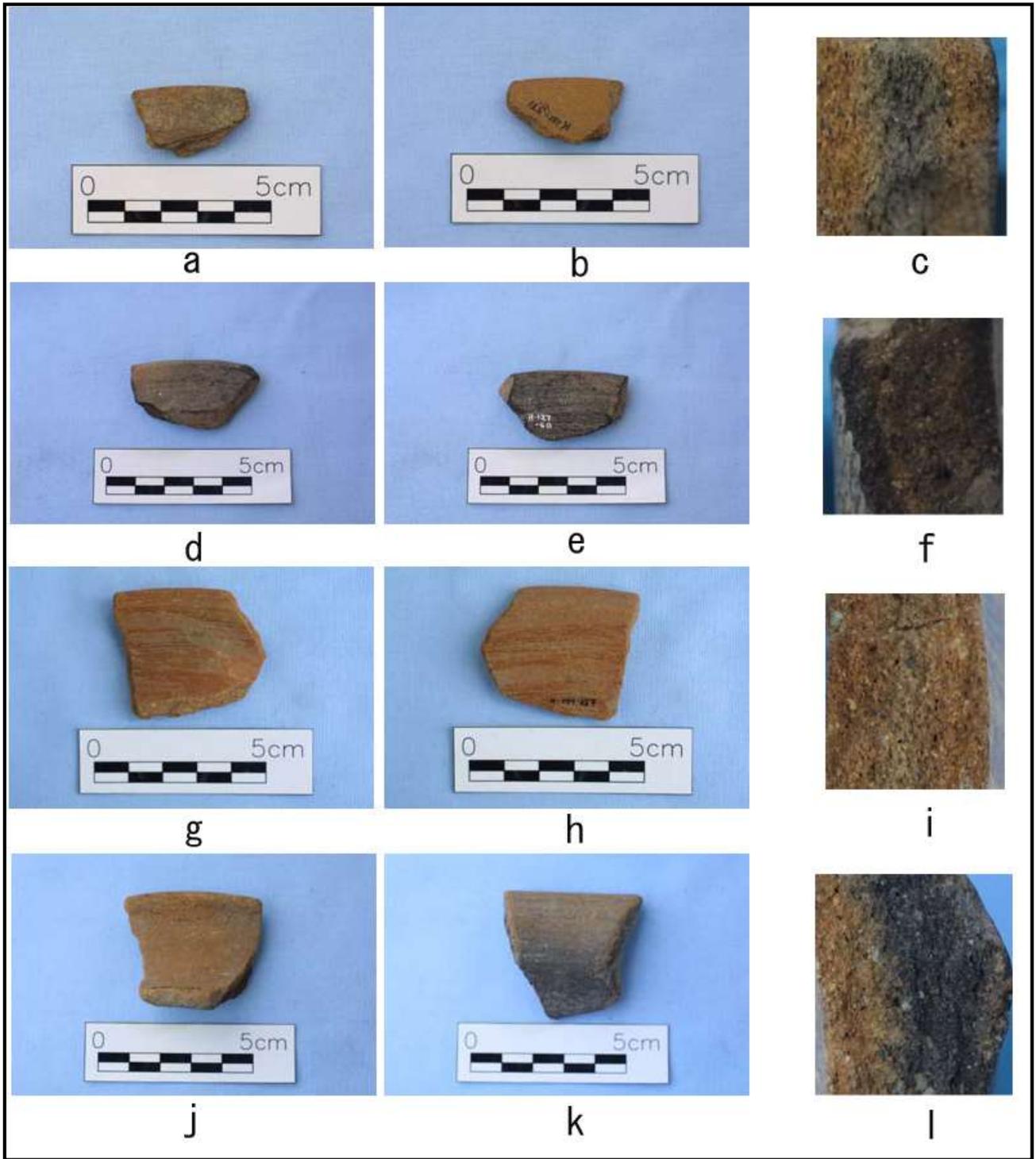


図 6-2-(2)-2 : 建造物 6 (T8) 出土の壺

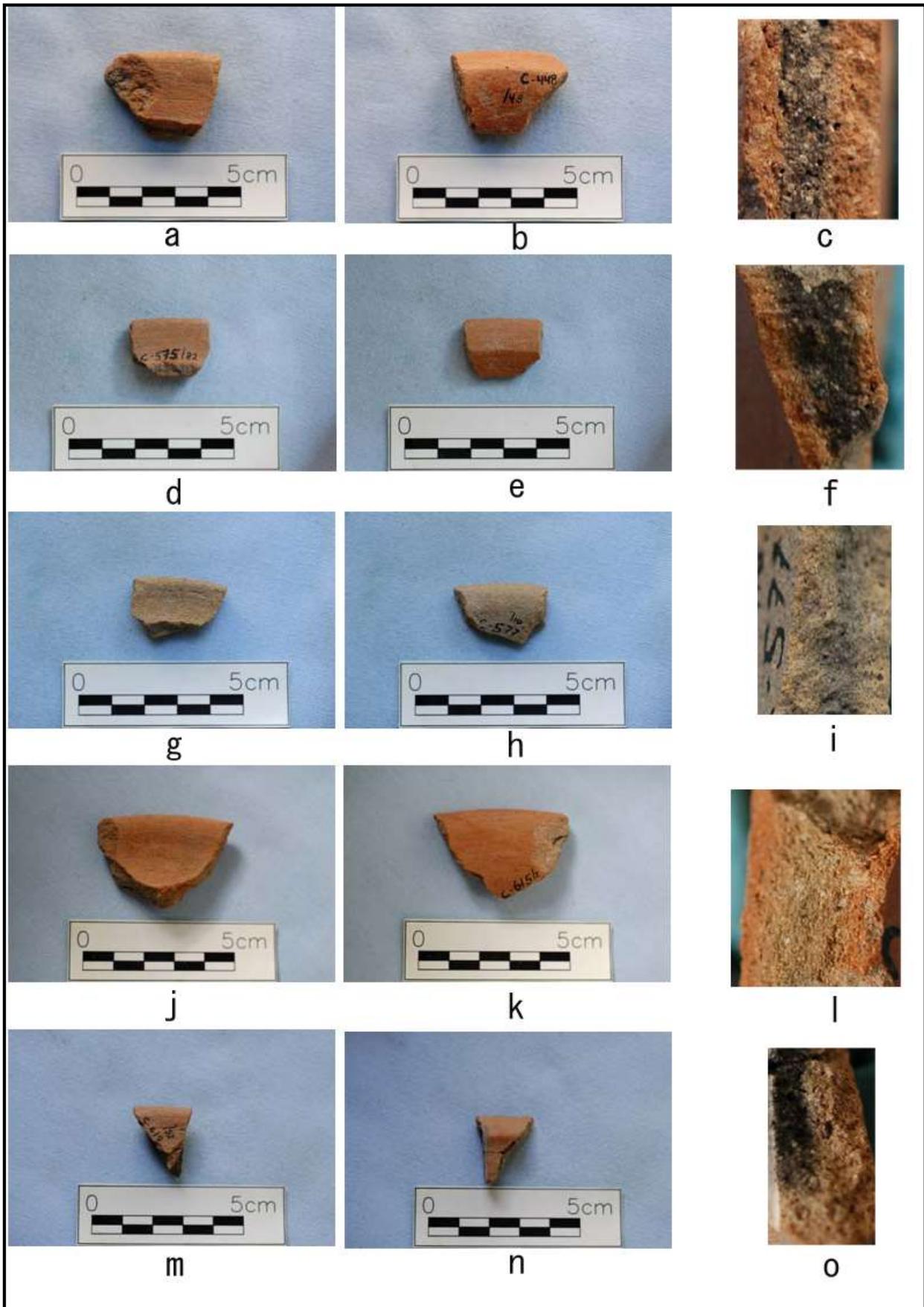


図 6-2-(2)-3 : 建造物 7 (Frente C) 出土の壺

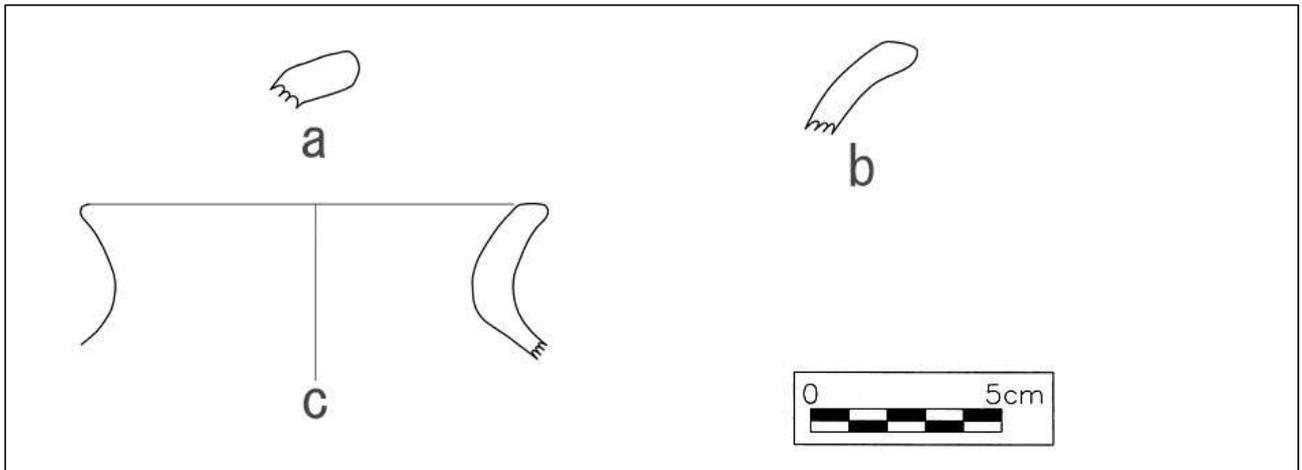


図 6-2-(2)-4 : 建造物 6 (T8) 出土の壺

(3) 碗 (Bowl)

個体数 : N=14 (ミカオトリ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループの中で 13.3%)

出土地点 :

表 6-2-(3)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.1%	8	57.1%	0	0.0%	4	28.6%	1	7.1%	0	0.0%	14	100.0%

図版 : 図 6-2-(3)-1~図 6-2-(3)-5

胎土 : 胎土は、やや粘土質で良質で硬い。含有物を若干含むものもある。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR 7/4、7.5YR 6/6、7.5YR 6/4、5YR 6/8、5YR 6/6、5YR 6/4、2.5YR 5/8)、褐色系 (7.5YR 5/3)、赤褐色系 (5YR 5/8、5YR 5/6) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、研磨される。色は胎土とほぼ同じである。黒色を呈するものもある。

装飾 : 無し。

器形 : 口径 19.0cm の Flaring Bowl がある (図 6-2-(3)-4)。

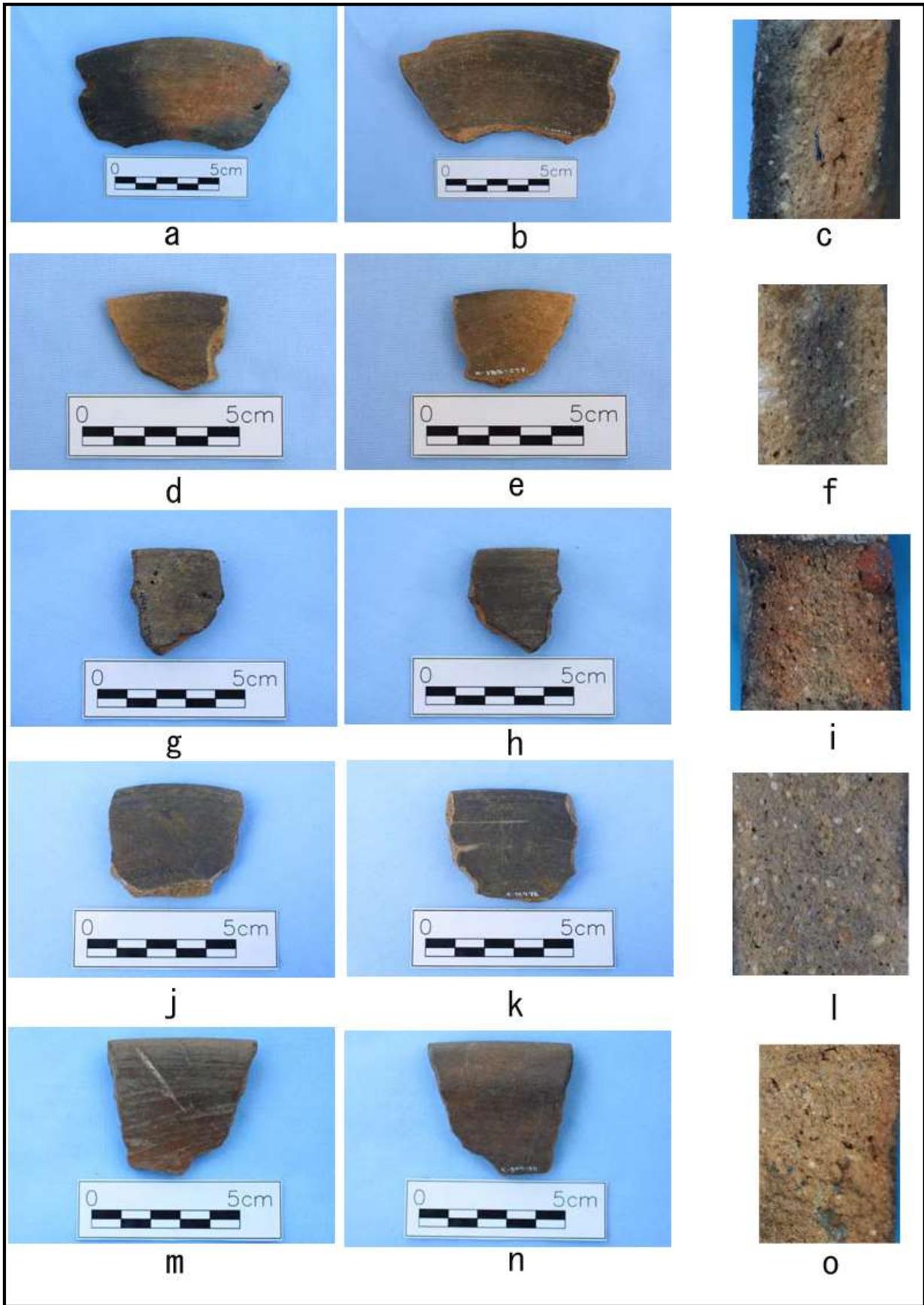


図 6-2-(3)-1 : 建造物 4 (T12) 出土の碗



図 6-2-(3)-2 : 建造物 6 (T8) 出土の碗



図 6-2-(3)-3 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗

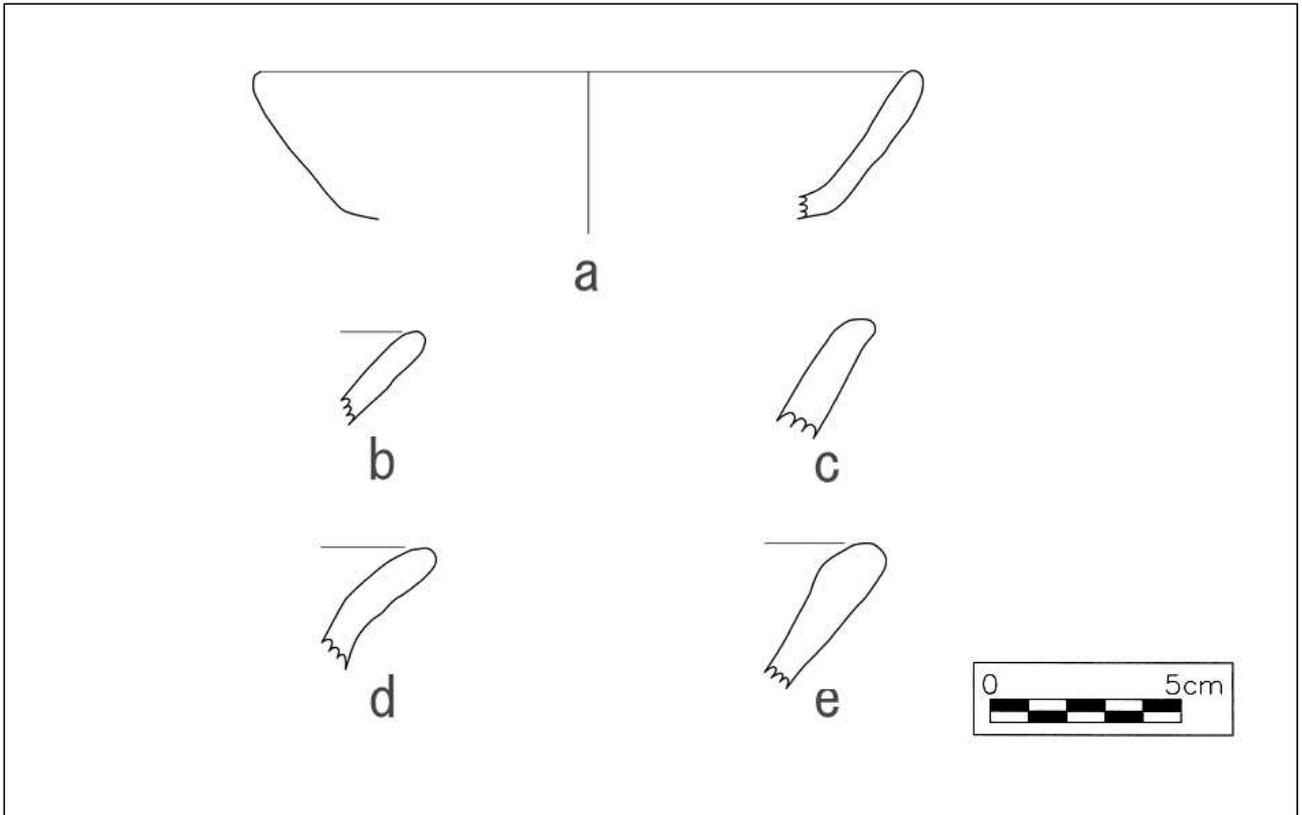


図 6-2-(3)-4 : 建造物 4 (T12) 出土の碗

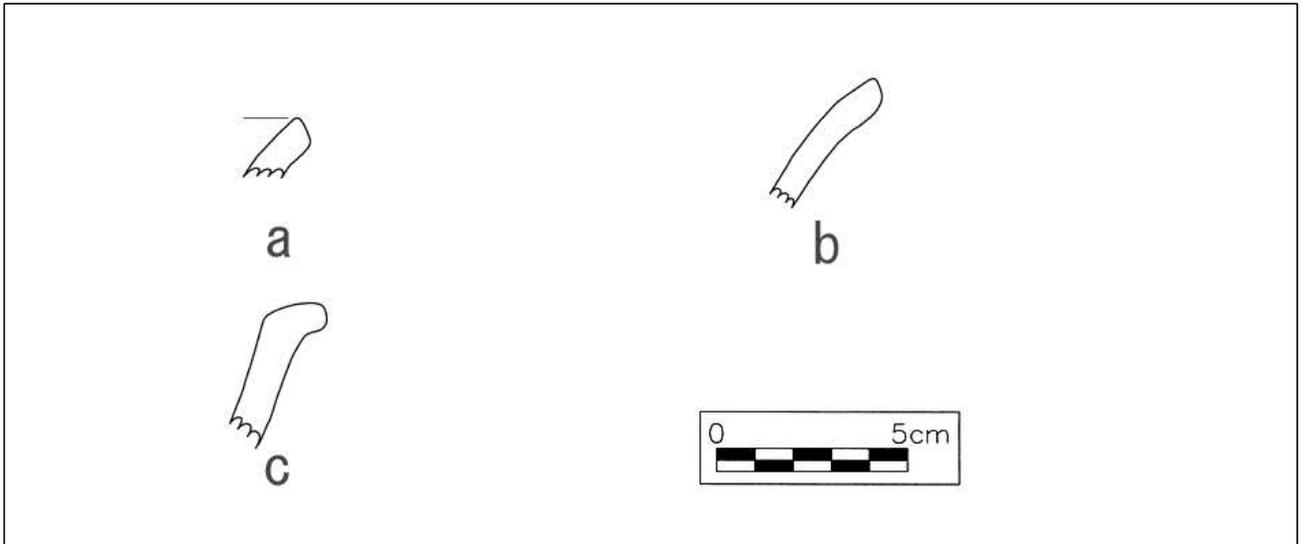


図 6-2-(3)-5 : 建造物 6 (T8) 出土の碗

(4) カスエラ (Cazuela)

個体数 : N=30 (ミカオトリ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループの中で 28.6%)

出土地点 :

表 6-2-(4)-1 : カスエラの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
カスエラ (Cazuela)	0	0.0%	0	0.0%	1	3.3%	0	0.0%	6	20.0%	1	3.3%	17	56.7%	4	13.3%	1	3.3%	30	100.0%

図版 : 図 6-2-(4)-1~図 6-2-(4)-7

胎土 : 胎土は碗と同様で、やや粘土質で硬い。含有物を若干含むものもある。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR 6/6、7.5YR 6/4、5YR 6/8、5YR 6/6、2.5YR 6/8、2.5YR 5/8)、褐色系 (7.5YR 5/4、)、赤褐色系 (7.5YR 5/8、7.5YR 5/6、5YR 5/8、5YR 5/6、2.5YR 5/6、2.5YR 4/8) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、研磨される。口縁部の内面は外面よりも良く研磨される。色は胎土とほぼ同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 口縁部が大きく外反する器形である (図 6-2-(4)-5~図 6-2-(4)-7)。

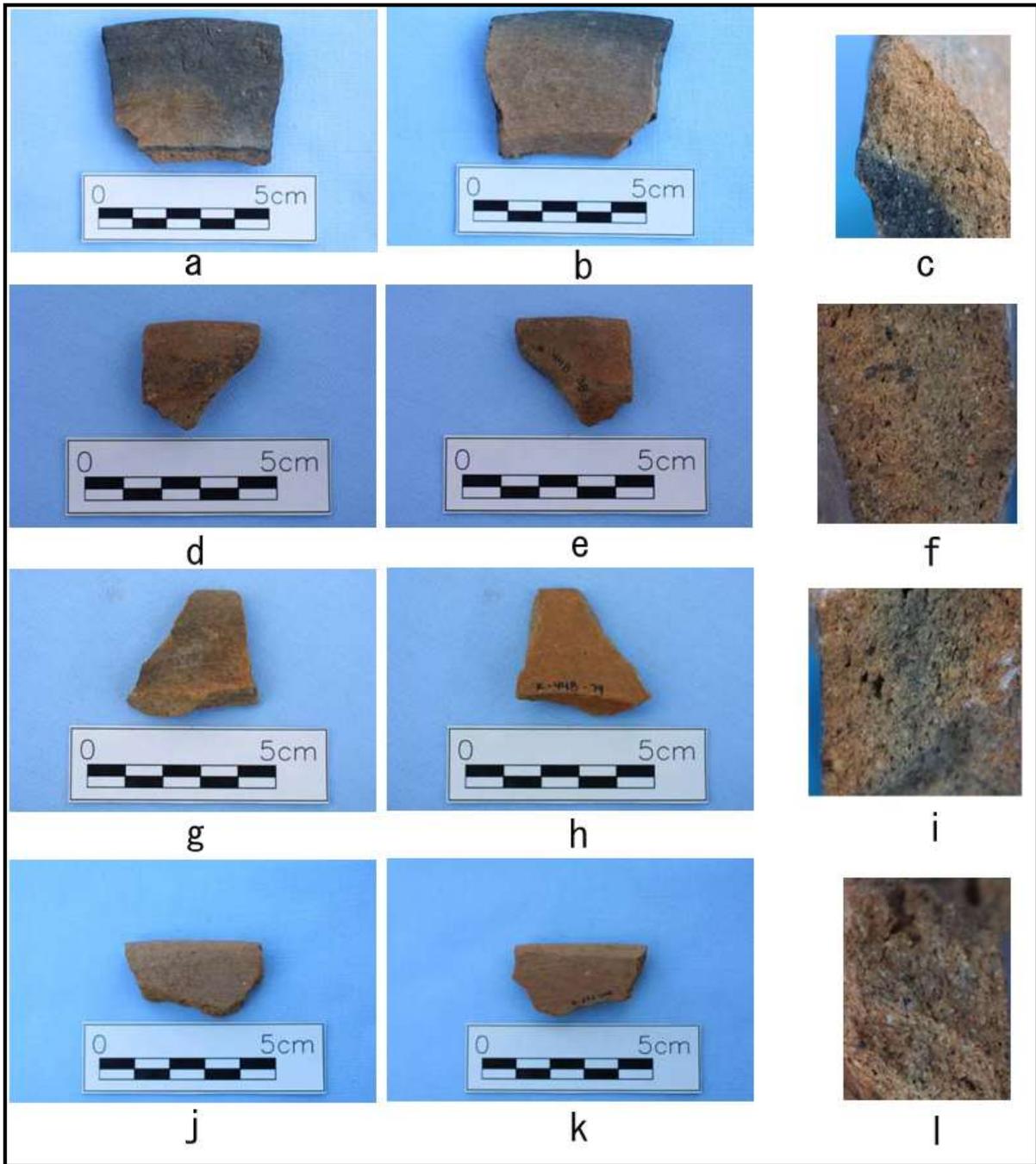


図 6-2-(4)-1 : 建造物 4 (T12) 出土のカスエラ

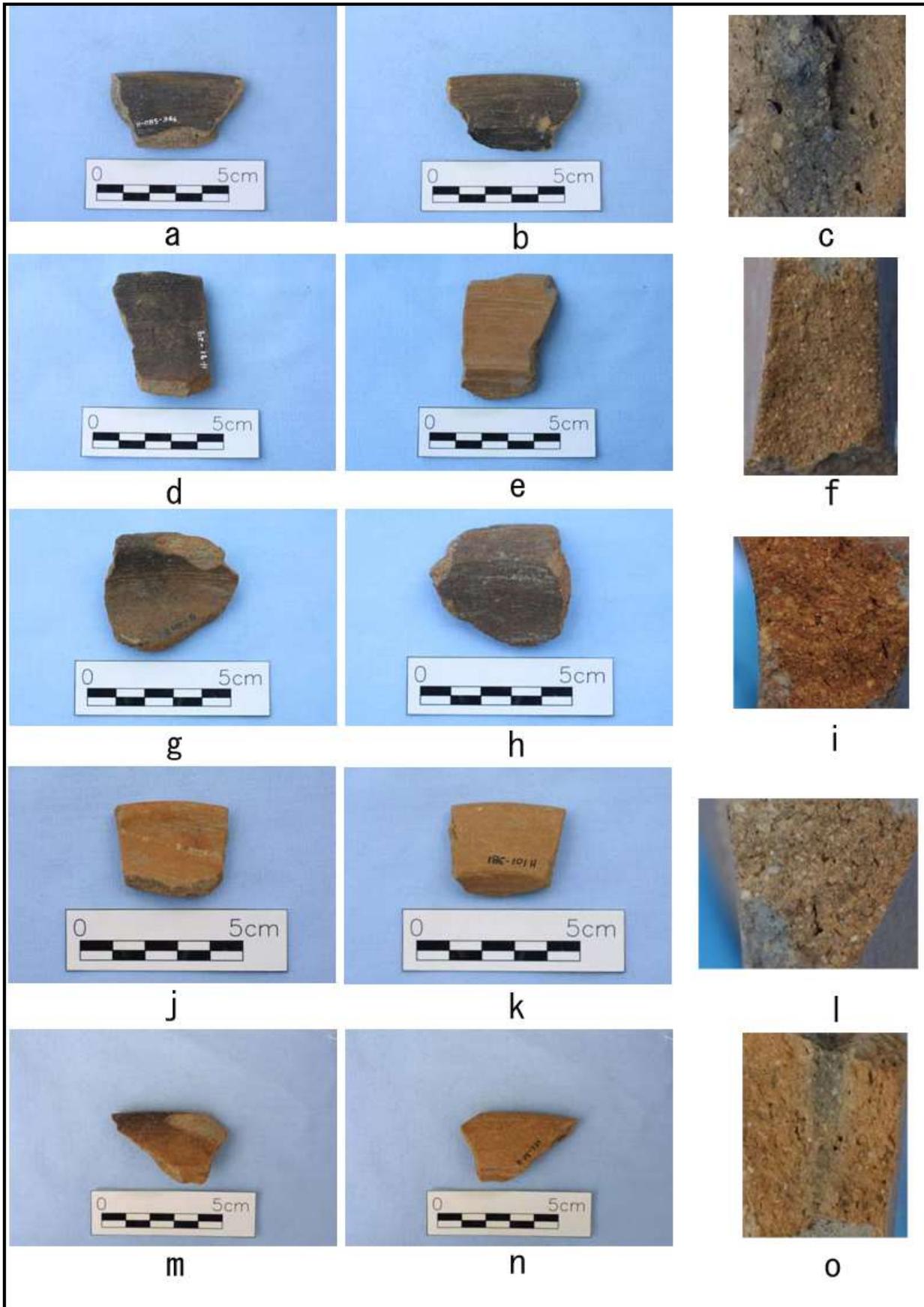


図 6-2-(4)-2 : 建造物 6 (T8) 出土のカスエラ

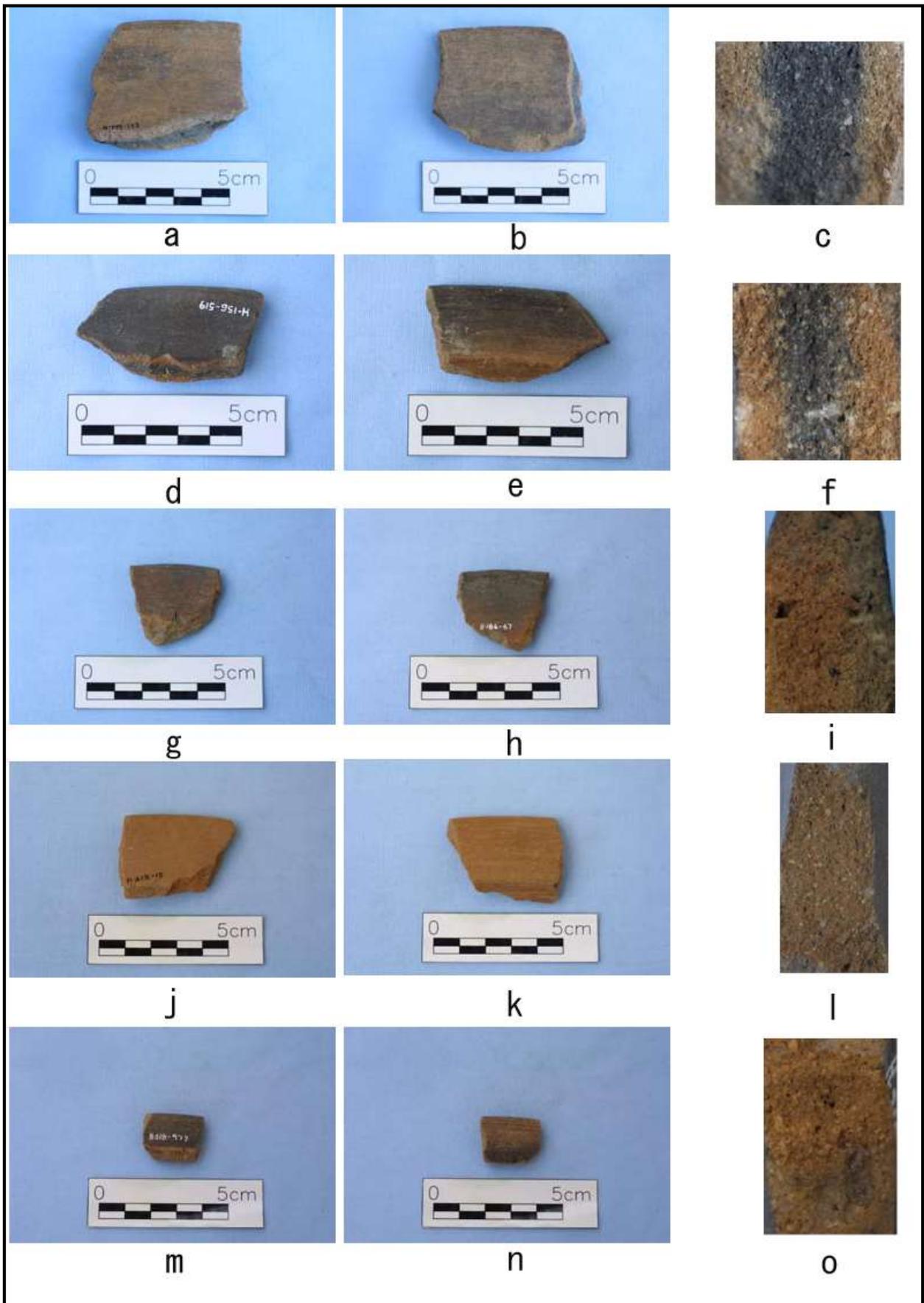


図 6-2-(4)-3 : 建造物 6 (T8) 出土のカスエラ

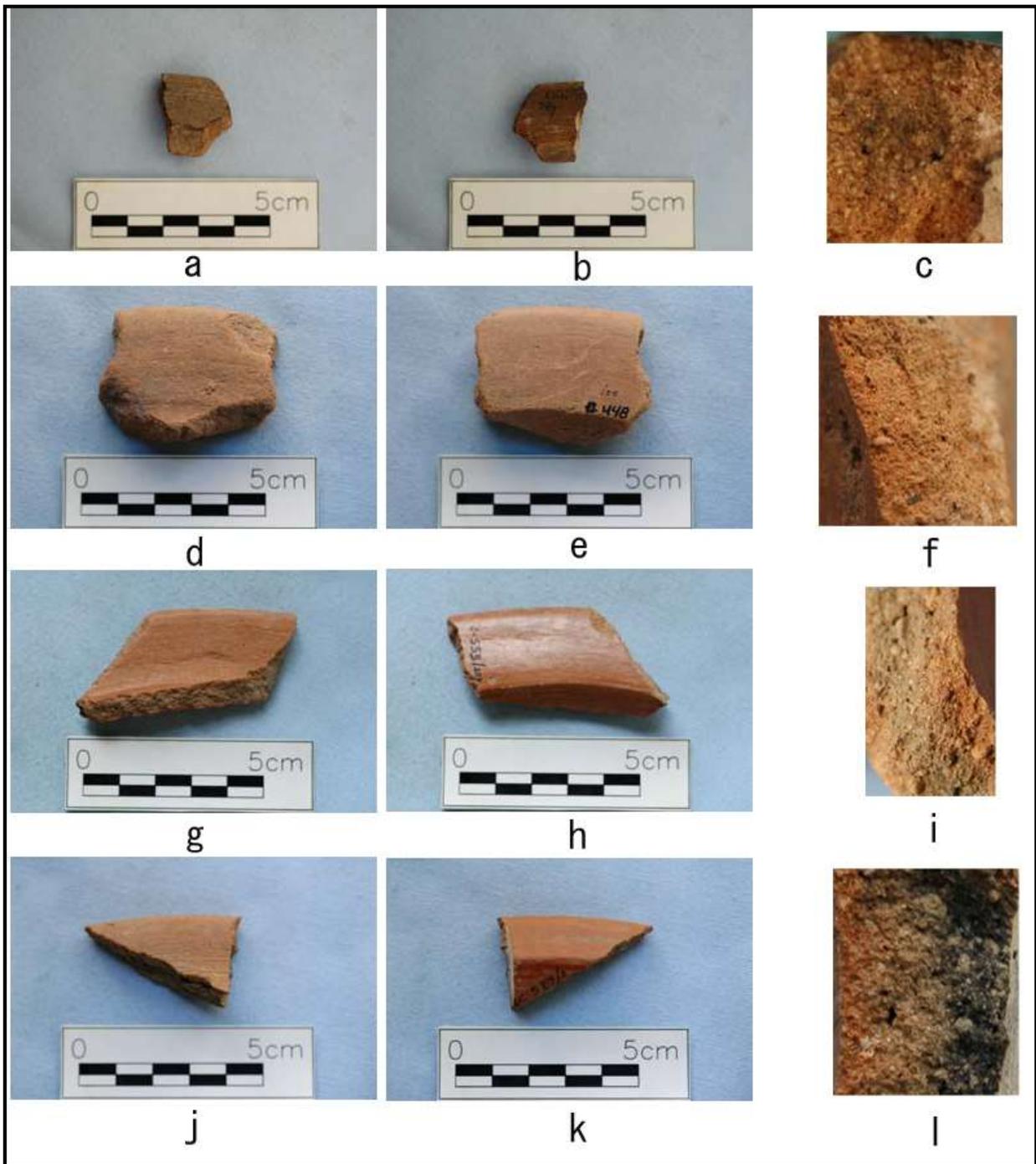


図 6-2-(4)-4 : 建造物 7 (Frente C)出土のカスエラ

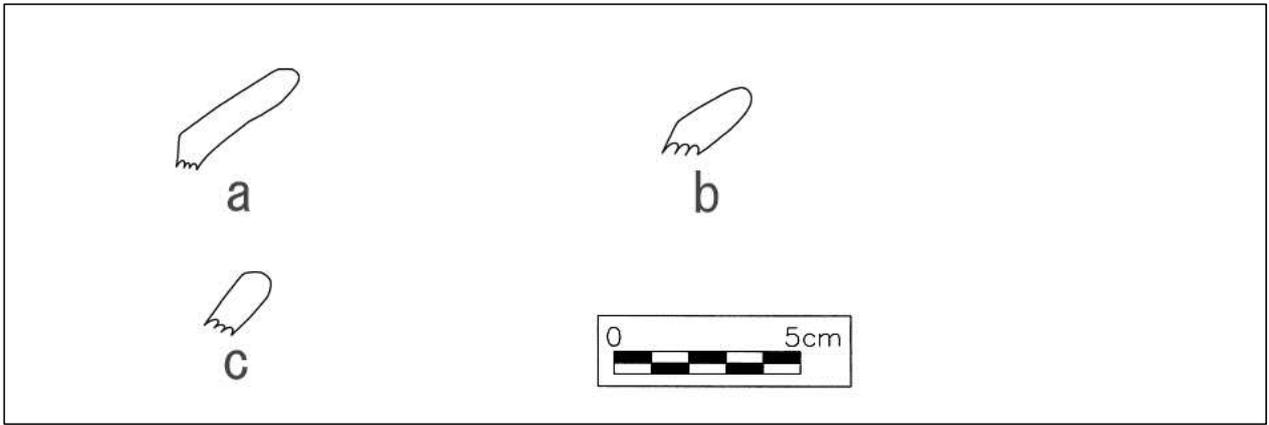


図 6-2-(4)-5 : 建造物 4 (T12) 出土のカスエラ

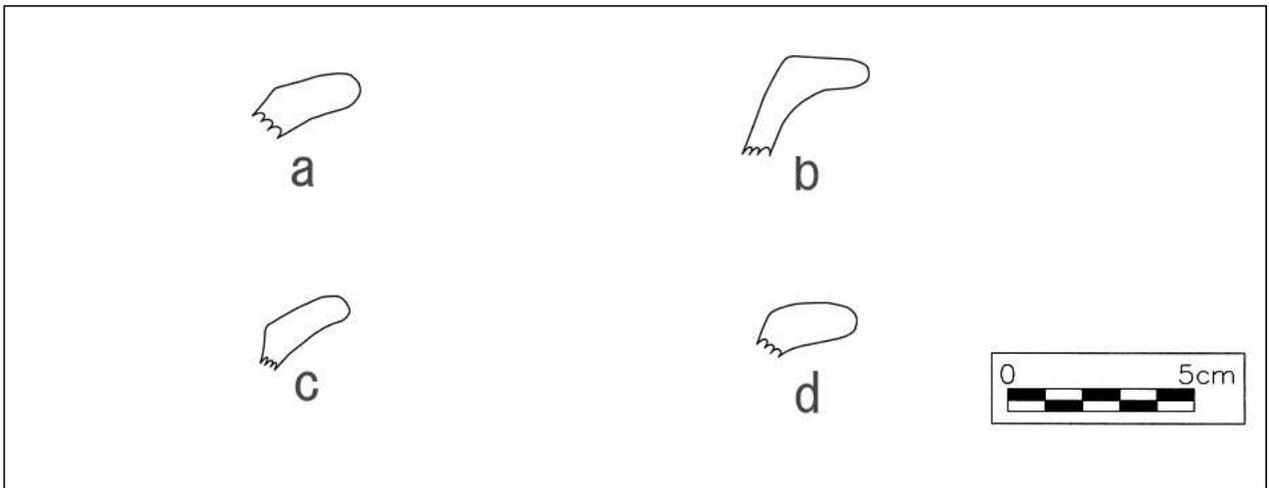


図 6-2-(4)-6 : 建造物 6 (T8) 出土のカスエラ

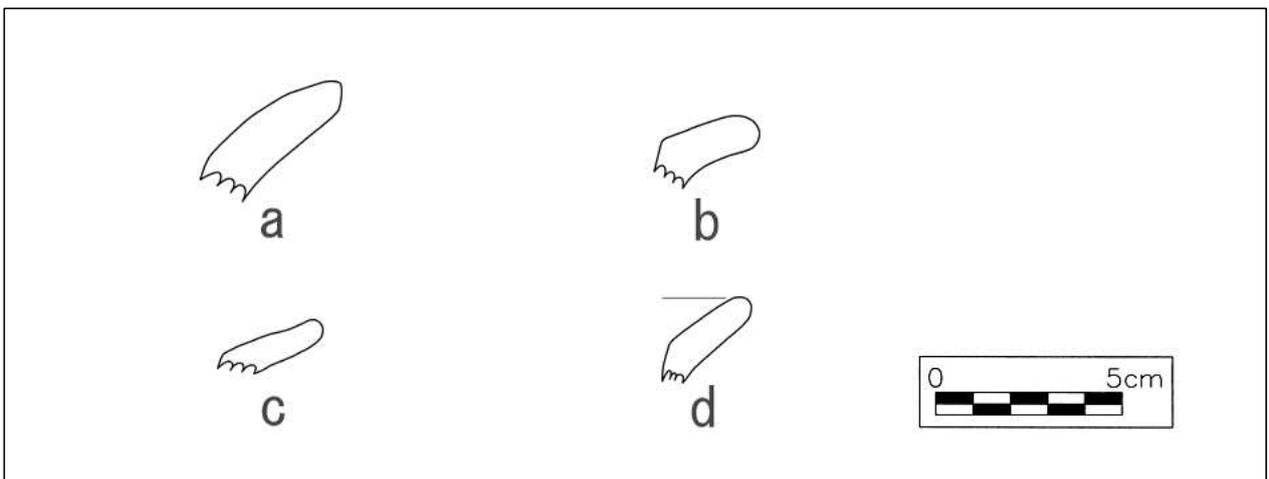


図 6-2-(4)-7 : 建造物 6 (T8) 出土のカスエラ

(5) ベーズン (Basin)

個体数 : N=2(ミカオトリ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループの中で 1.9%)

出土地点 :

表 6-2-(5)-1 : ベーズンの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
ベーズン (Basin)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%

図版 : 図 6-2-(5)-1

胎土 : 胎土は、やや粘土質で硬い。含有物を含む。胎土の色は、オレンジ系 (5YR 6/8、5YR 6/6、2.5YR 6/8、2.5YR 5/8) である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、研磨される。色は胎土とほぼ同じであるが、黒色を呈するものもある。

装飾 : 無し。

器形 : 大型の碗である。

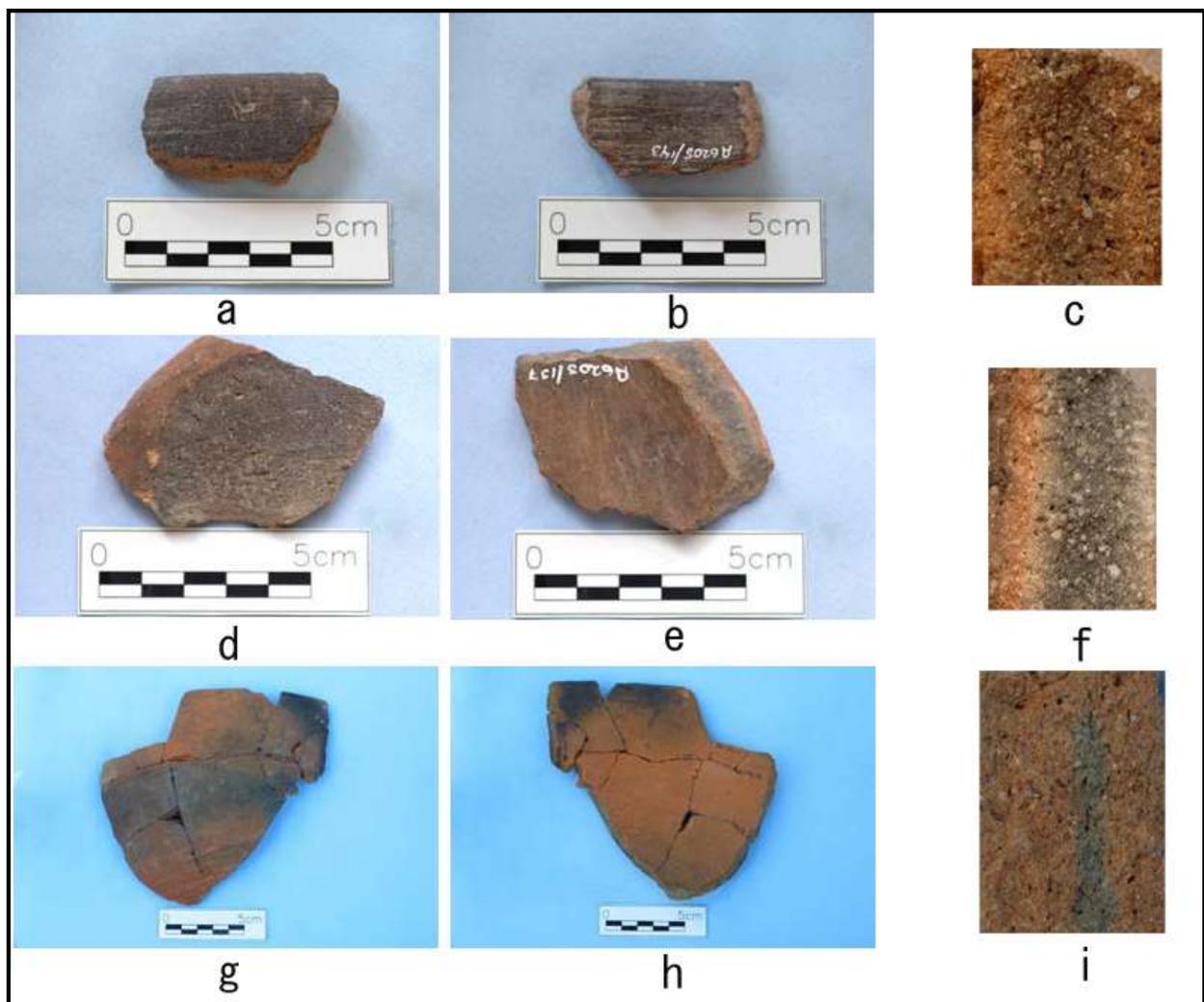


図 6-2-(5)-1 : a-f 建造物 6 (T2)出土のベーズン、g-i 建造物 4 (T12)出土のベーズン

(6) コマル (Comal)

個体数 : N=3(ミカオトリ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループの中で 2.9%)

出土地点 :

表 6-2-(6)-1 : コマルの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
コマル (Comal)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	66.7%	1	33.3%	0	0.0%	3	100.0%

図版 : 図 6-2-(6)-1~図 6-2-(6)-2

胎土 : 胎土は、やや粘土質で硬い。含有物を若干含む。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR 6/6、2.5YR 5/8)、褐色系 (7.5YR 5/4) である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、研磨される。色は胎土とほぼ同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 器厚のあつい大型の皿である。

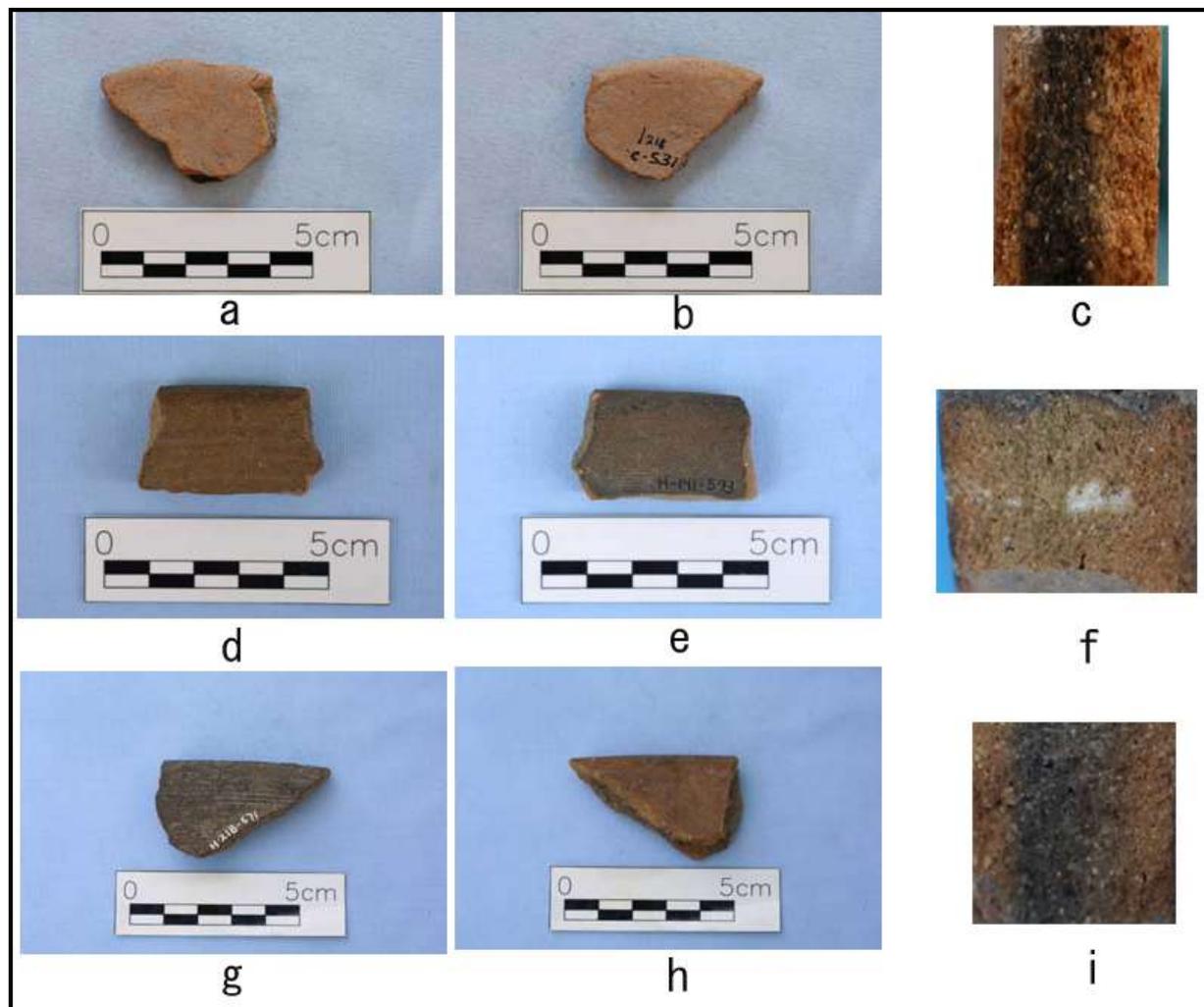


図 6-2-(6)-1 : a-c 建造物 7 (Frente C)出土のコマル、d-i 建造物 6 (T8)出土のコマル

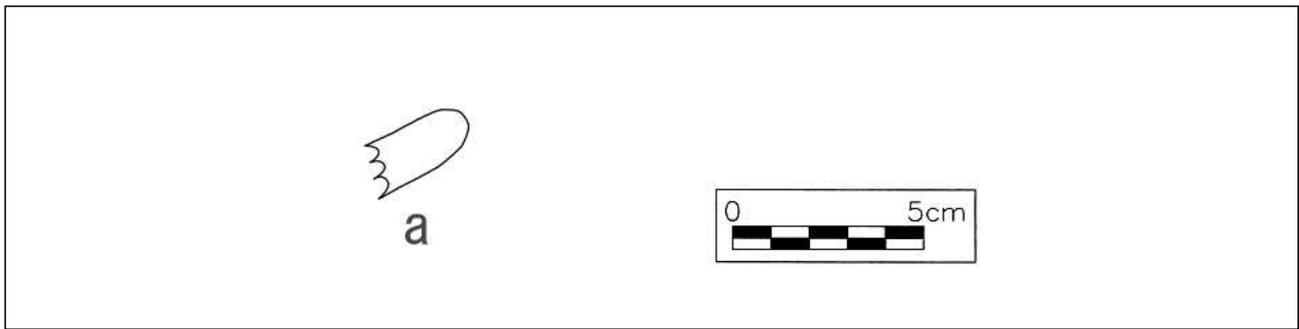


図 6-2-(6)-2 : 建造物 6 (T8)出土のコマル

(7) まとめ

表 6-2-(7)-1 : Burnished Ware の Monochrome Brown グループの器種別、出土地別構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
大型壺 (Olla)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	13.0%	2	40.0%	28	49.1%	3	20.0%	1	33.3%	37	35.2%
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	21.7%	2	40.0%	5	8.8%	6	40.0%	1	33.3%	19	18.1%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	8	34.8%	0	0.0%	4	7.0%	1	6.7%	0	0.0%	14	13.3%
カスエラ (Cazuela)	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	6	26.1%	1	20.0%	17	29.8%	4	26.7%	1	33.3%	30	28.6%
ベースン (Basin)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.3%	0	0.0%	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.9%
コマル (Comal)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.5%	1	6.7%	0	0.0%	3	2.9%
合計	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	1	100.0%	23	100.0%	5	100.0%	57	100.0%	15	100.0%	3	100.0%	105	100.0%

ミカオトリ期の Burnished Ware では、サクワリ期まであった Painted Red グループが消滅し、Monochrome Brown グループのみがみられる。Monochrome Brown グループの器種構成は、大型壺が最も多く、次にカスエラ、壺、碗と続く (表 6-2-(7)-1)。ミカオトリ期の Burnished Ware の特徴は、胎土の面ではサクワリ期より含有物が少ない胎土であり、大型壺や壺では口縁部が大きく外反するようになることである。

ラットレイによると、ミカオトリ期の Burnished Ware では大型壺、壺、カスエラ、碗、コマルの器種がある。大型壺や壺では、口縁部が水平になるサクワリ期の伝統を引き継いでいるが、この時期には口縁部が大きく外反する器形も見られる。表面は赤褐色 (5YR 4/4、5/6) で、良く調整されている。胎土は多くの白色のテンパーを含む。カスエラは、大きく外反する口縁部を持つ器形は、サクワリ期と比較して大きな変化はない。碗は出土数が少ないが、Flaring Bowl や Incurving Bowl 等の器形がある。ミカオトリ期のコマルは、大型になり器厚も厚くなる (1-2cm)。そして、中心部より口縁部付近が最も器厚が厚くなる (Rattray 2001:155-159)。

6-3 Polished Ware (個体数 N=609、ミカオトリ期全体の中で 72.7%)

<黒色グループ (個体数 N=261) >

(1) 碗 (Bowl)

個体数 : N=234 (ミカオトリ期の Polished Ware の黒色グループの中で 89.7%)

出土地点 :

表 6-3-(1)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	15	6.4%	0	0.0%	97	41.5%	7	3.0%	76	32.5%	35	15.0%	4	1.7%	234	100.0%

図版 : 図 6-3-(1)-1~図 6-3-(1)-17

胎土 : 胎土は、やや粘土質で含有物を若干含む。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR 7/4、7.5YR 6/4、5YR 6/6、5YR 6/4、2.5YR 6/8)、褐色系 (7.5YR 5/4)、赤褐色系 (5YR 5/8、5YR 5/6、2.5YR 5/8) 等である。パトラチケ期の Polished Black グループの土器と比較して、胎土はオレンジ系や赤褐色系の色が多く、また焼成も良好である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、研磨される。色は黒色である (7.5YR 2/1)。

装飾 : 装飾のない土器が大部分であるが、焼成後に沈線を施したものもある (図 6-3-(1)-4; j)。また、口縁部断面が波状になる装飾 (Corrugated Bowl) も見られる (図 6-3-(1)-2 ; g、図 6-3-(1)-12)。

器形 : 口径の計れる破片は少ないが、口径 23.0cm の Outcurving Bowl (図 6-3-(1)-8; f)、口径 20.0cm および 27.0cm の Flaring Bowl (図 6-3-(1)-10; d、図 6-3-(1)-15; c) が見られる。底部は、平底かボタン状の脚 (Nubbin Supports) (図 6-3-(1)-17; a) が付けられる。

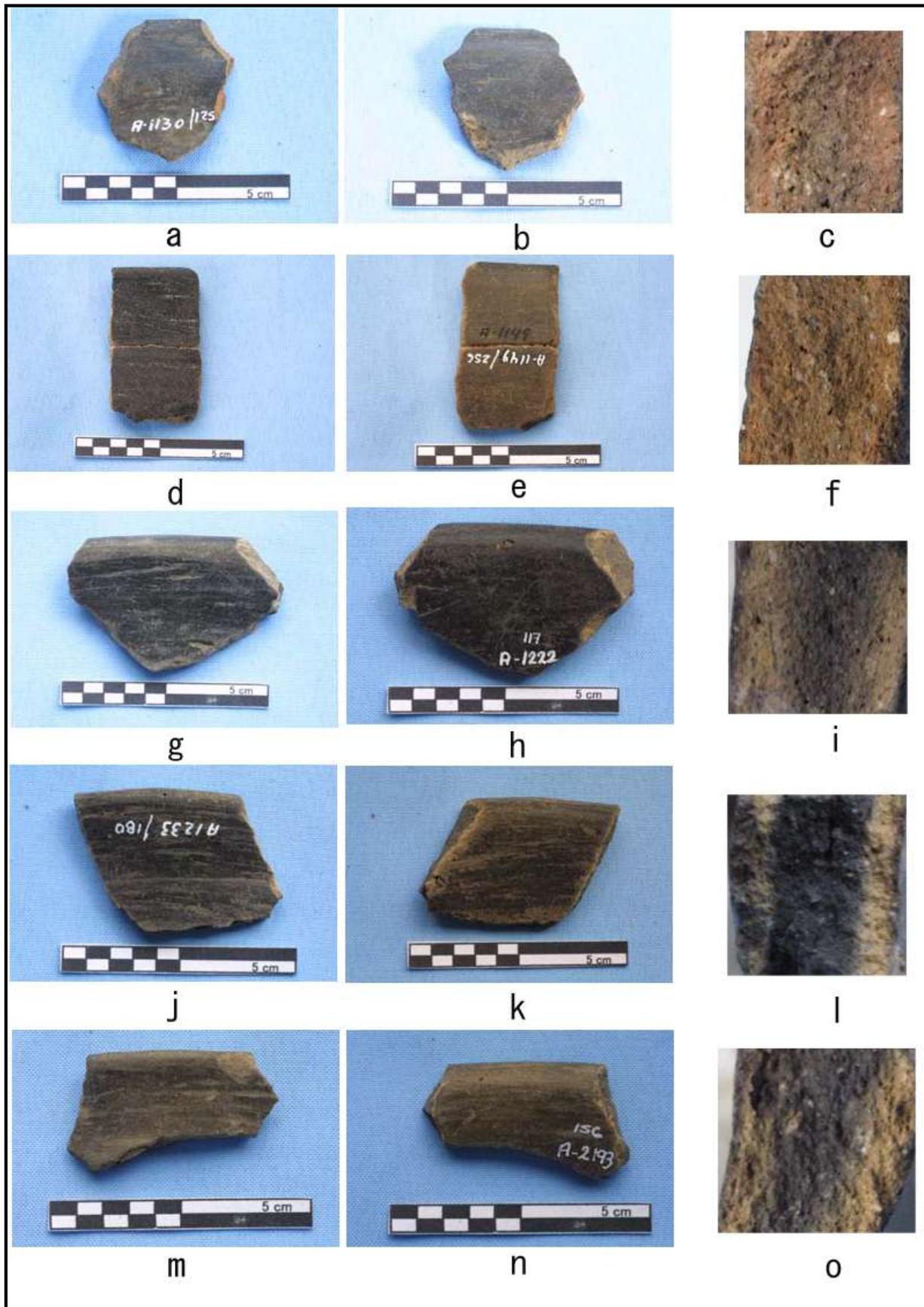


図 6-3-(1)-1 : 建造物 2 (T1) 出土の碗

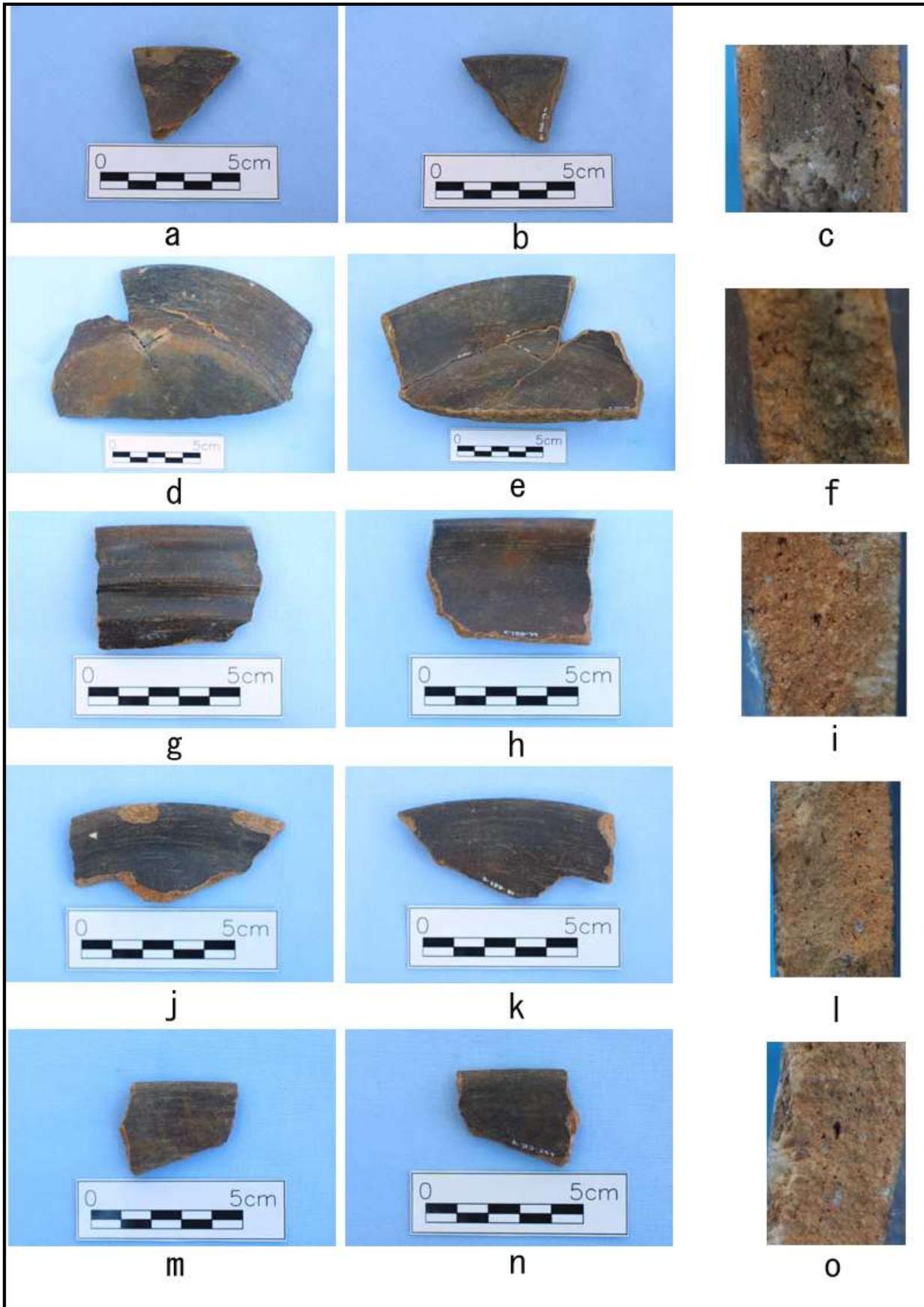


図 6-3-(1)-2 : 建造物 4 (T12) 出土の碗

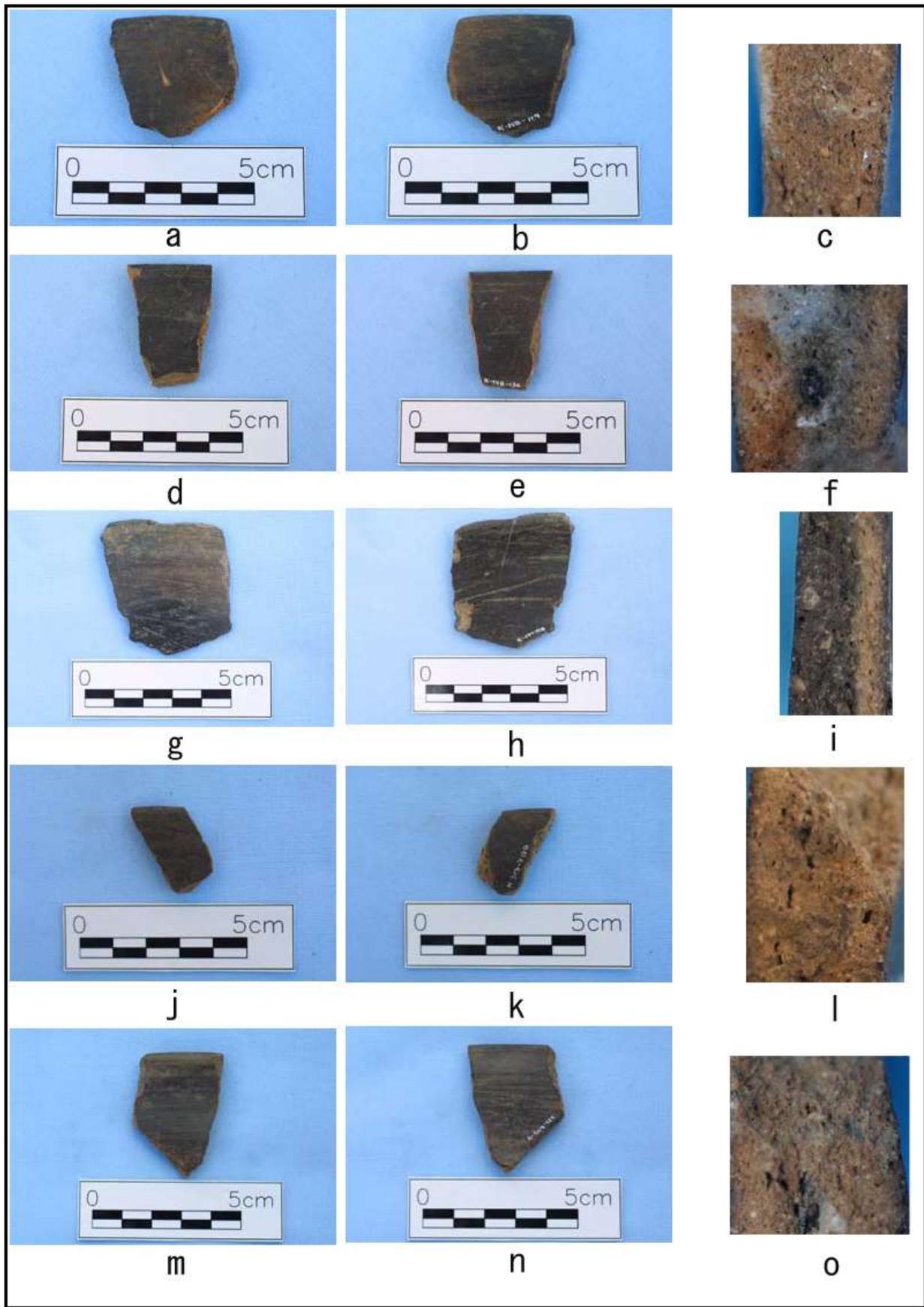


図 6-3-(1)-3 : 建造物 4 (T2) 出土の碗

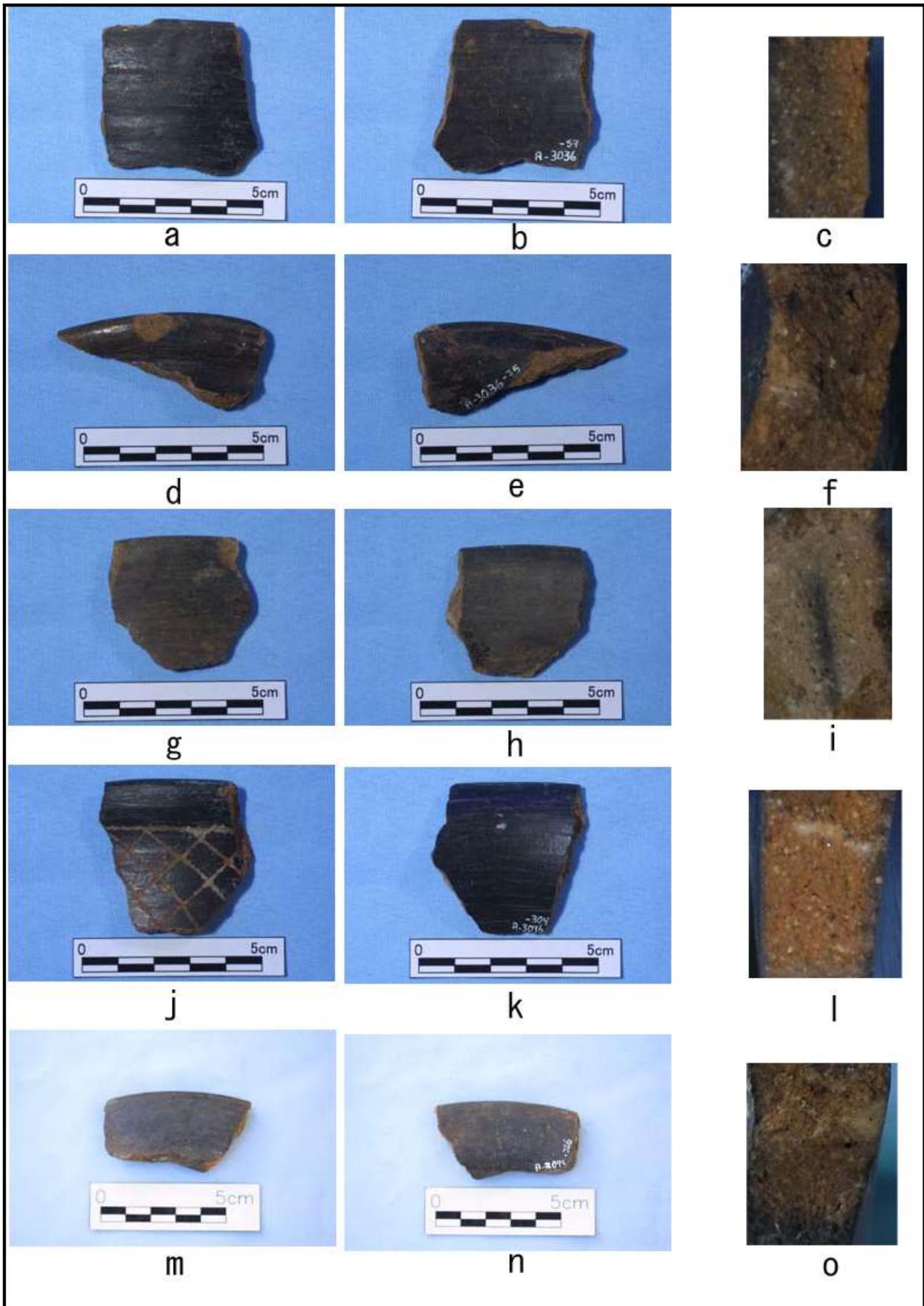


図 6-3-(1)-4 : 建造物 5 (T2) 出土の碗

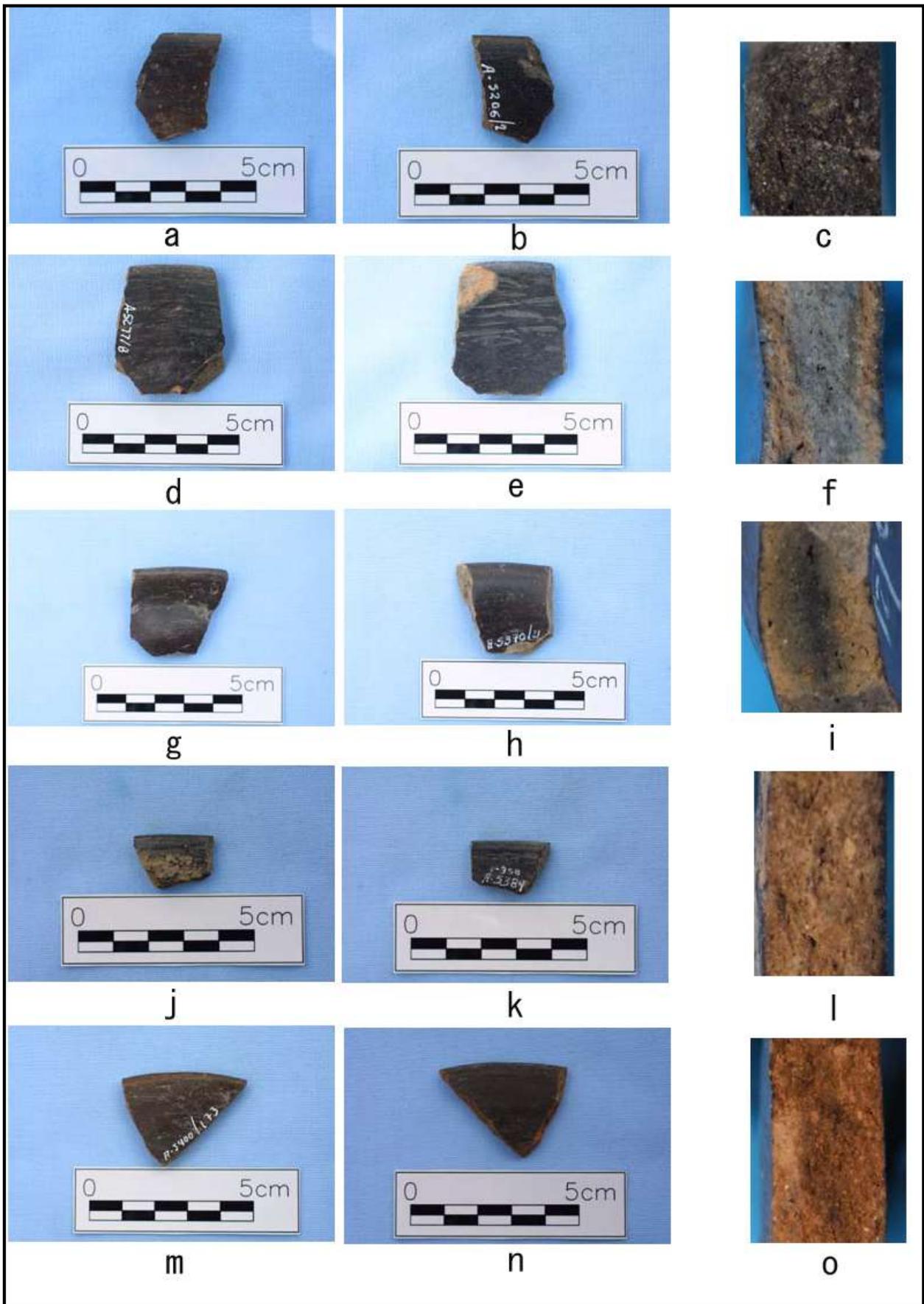


図 6-3-(1)-5 : 建造物 5 (T2) 出土の碗

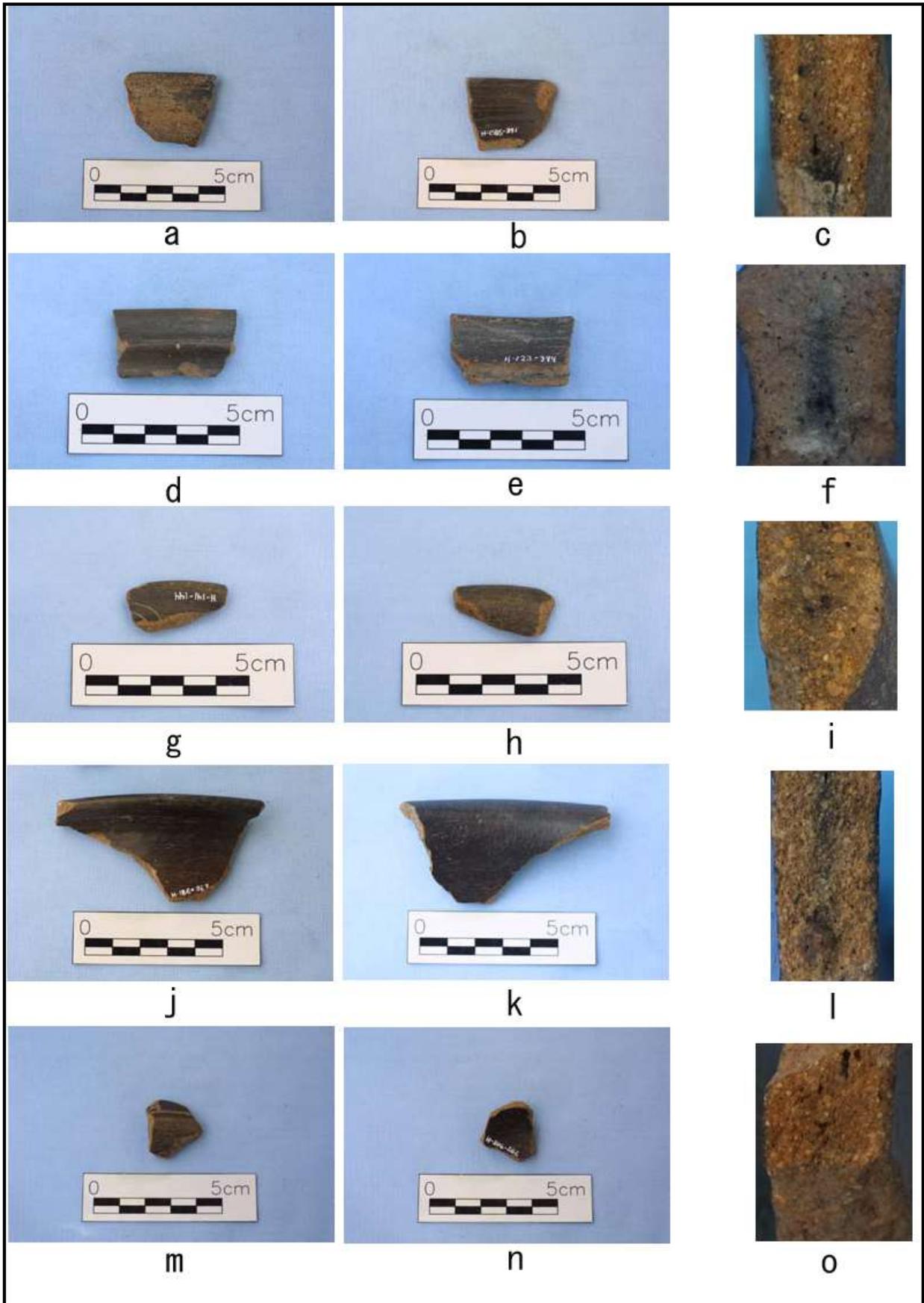


図 6-3-(1)-6 : 建造物 6 (T8) 出土の碗

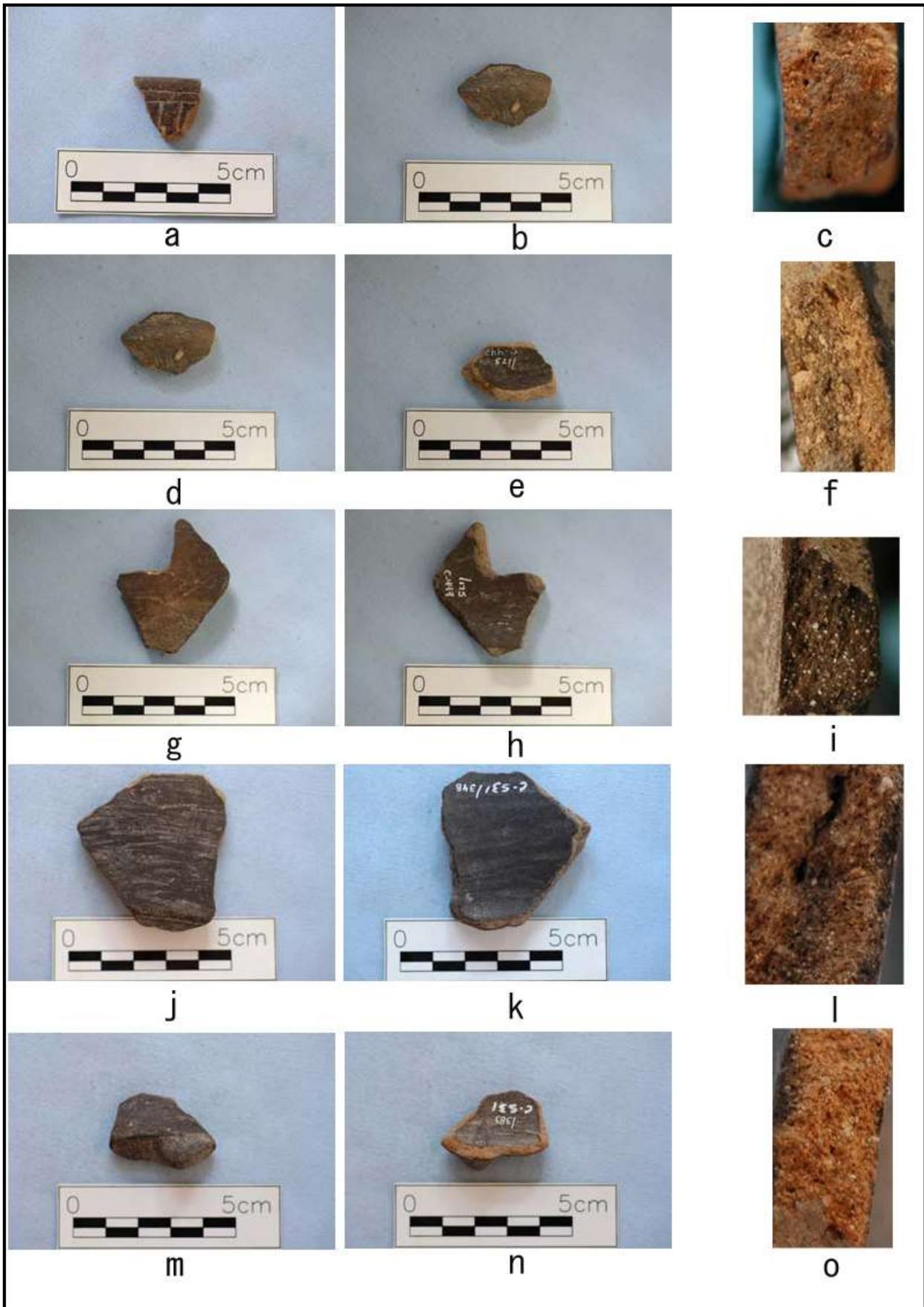


図 6-3-(1)-7 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗

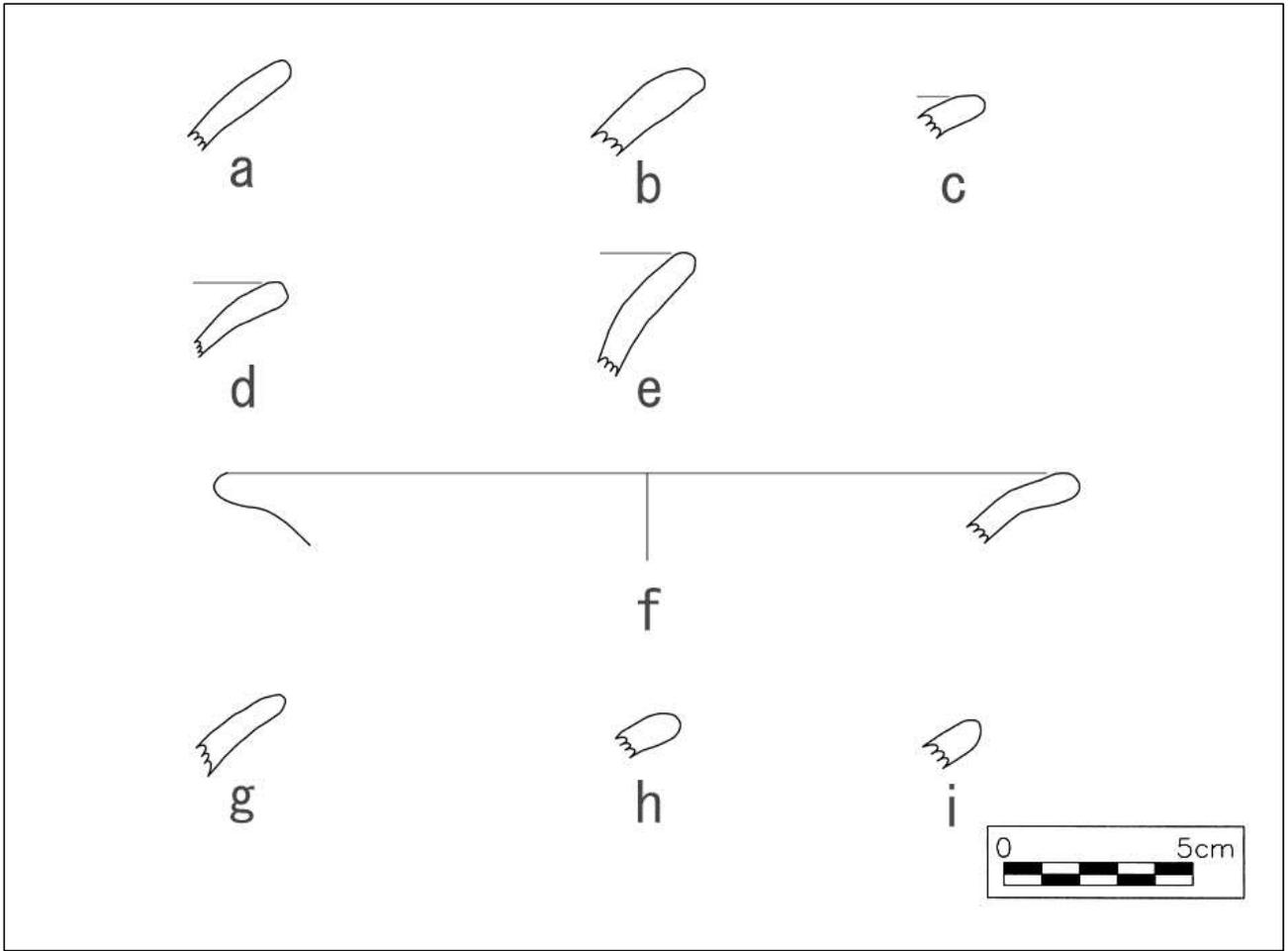


図 6-3-(1)-8 : 建造物 4 (T12) 出土の碗 (Outcurving Bowl)

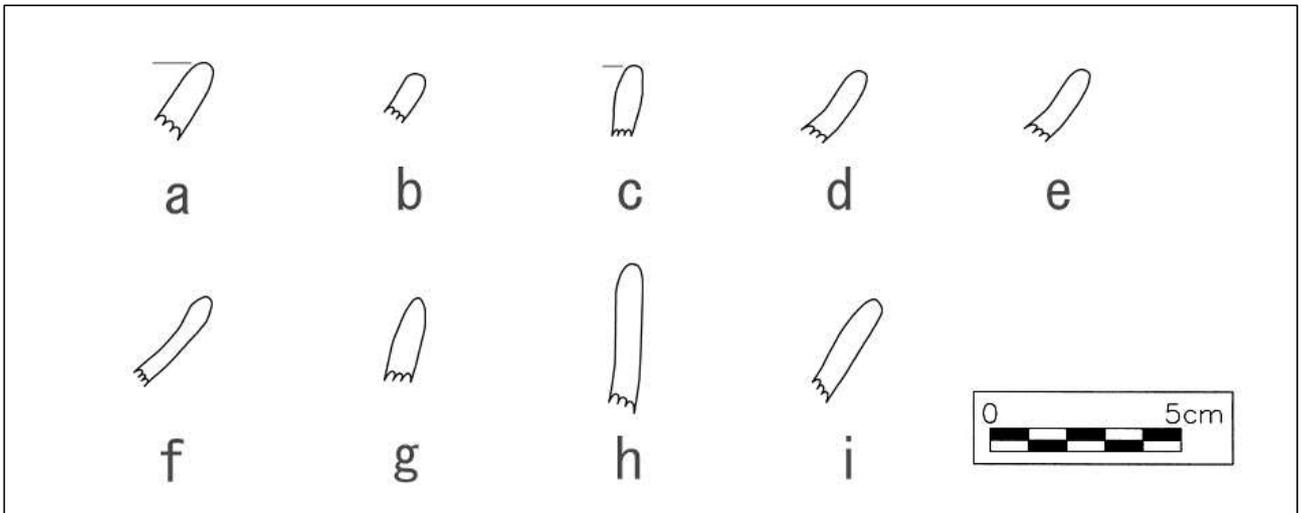


図 6-3-(1)-9 : 建造物 4 (T12) 出土の碗 (Simple Bowl)

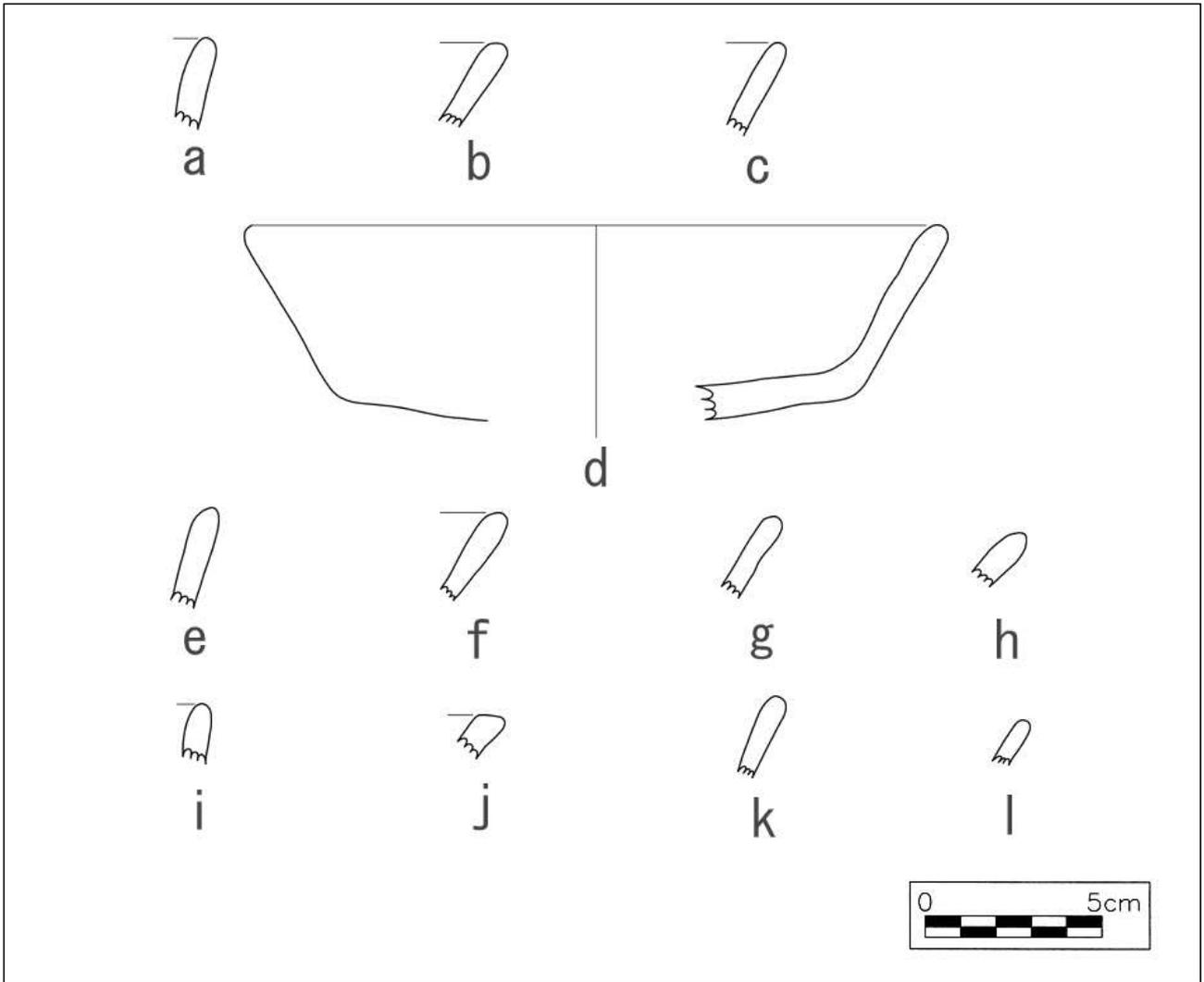


図 6-3-(1)-10 : 建造物 4 (T12) 出土の碗 (Flaring Bowl)

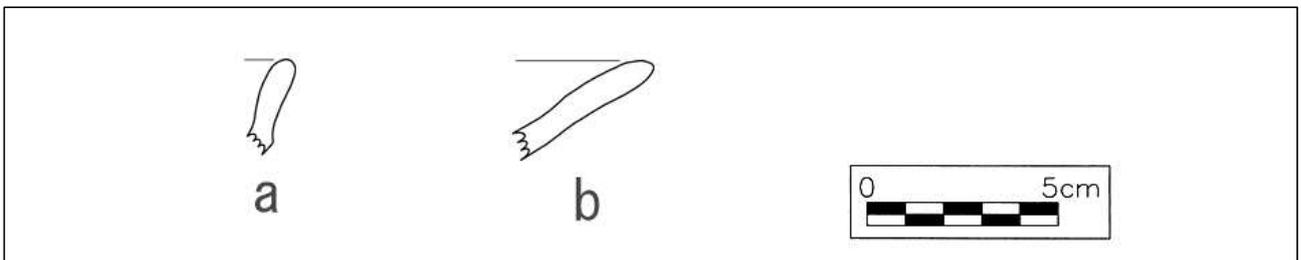


図 6-3-(1)-11 : 建造物 4 (T12) 出土の碗 (Shouldered Bowl)

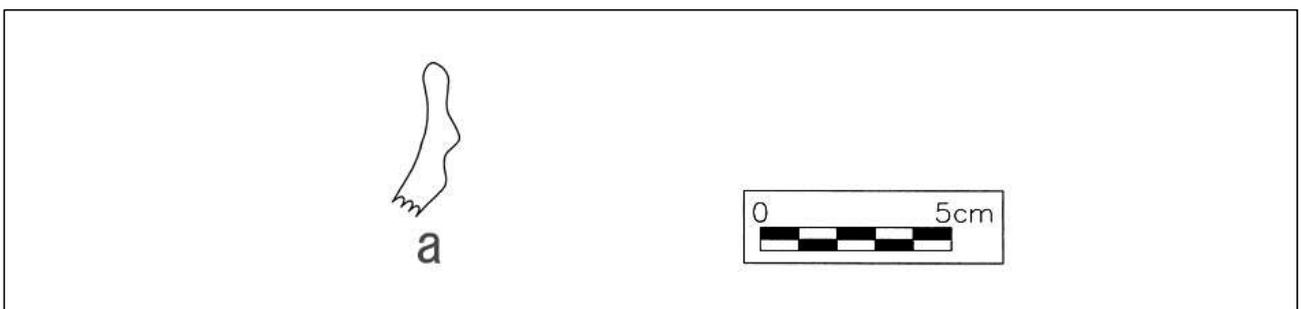


図 6-3-(1)-12 : 建造物 4 (T12) 出土の碗 (Corrugated Bowl)

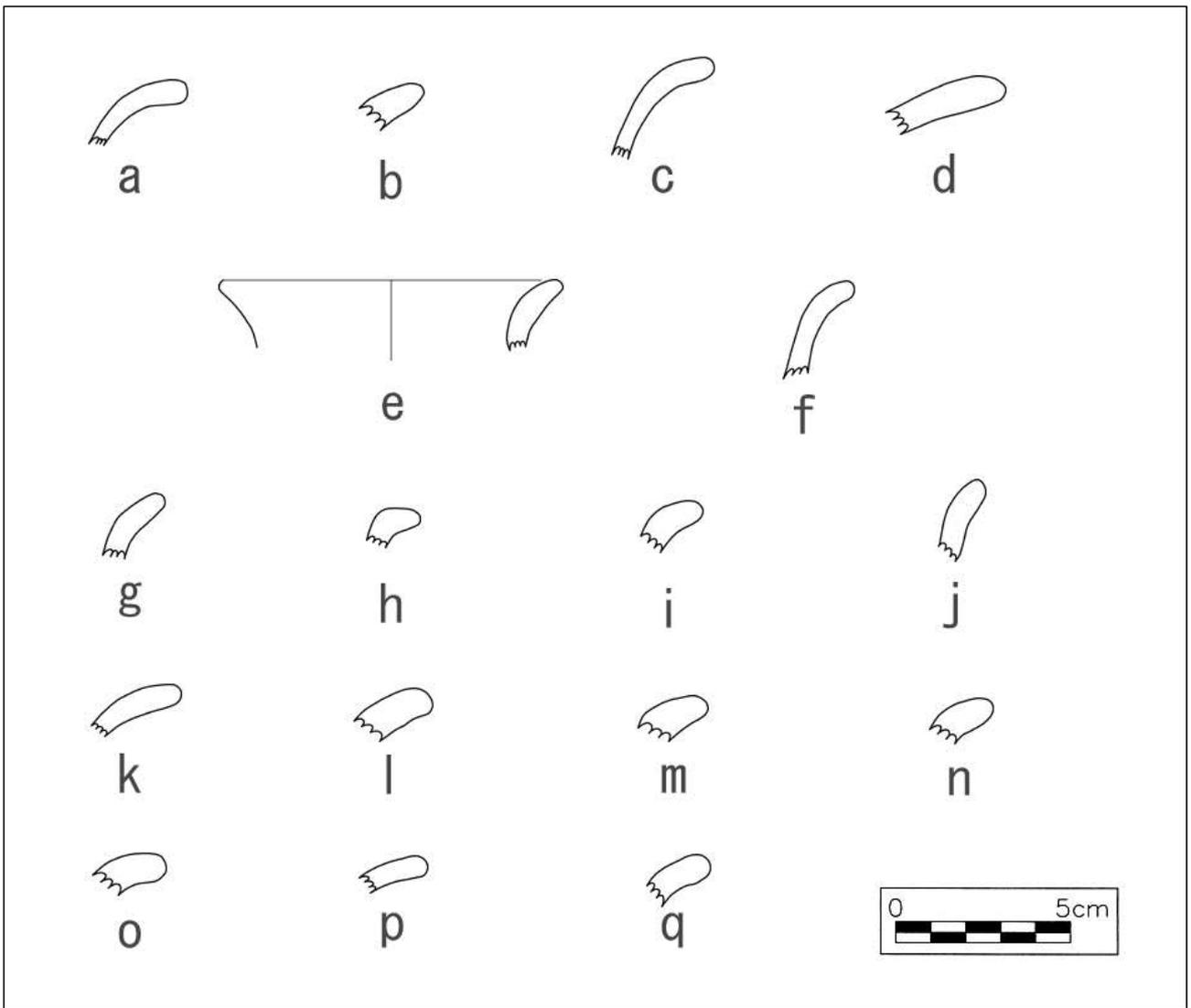


図 6-3-(1)-13 : 建造物 6 (T8)、建造物 7 出土の碗 (Outcurving Bowl)

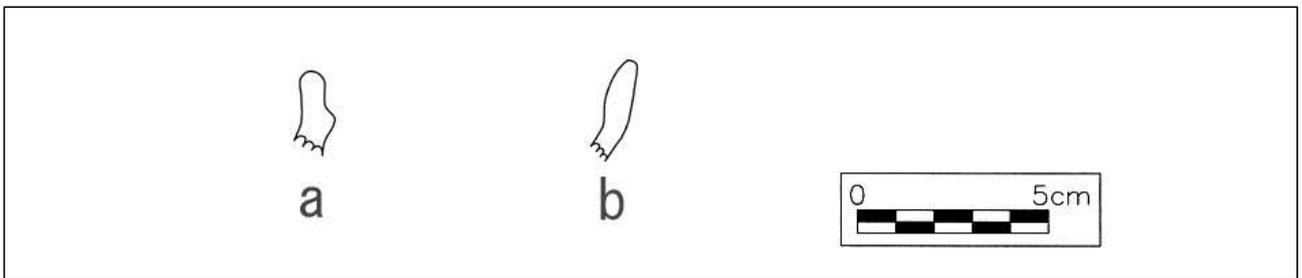


図 6-3-(1)-14 : 建造物 6 (T8)、建造物 7 出土の碗 (Simple Bowl)

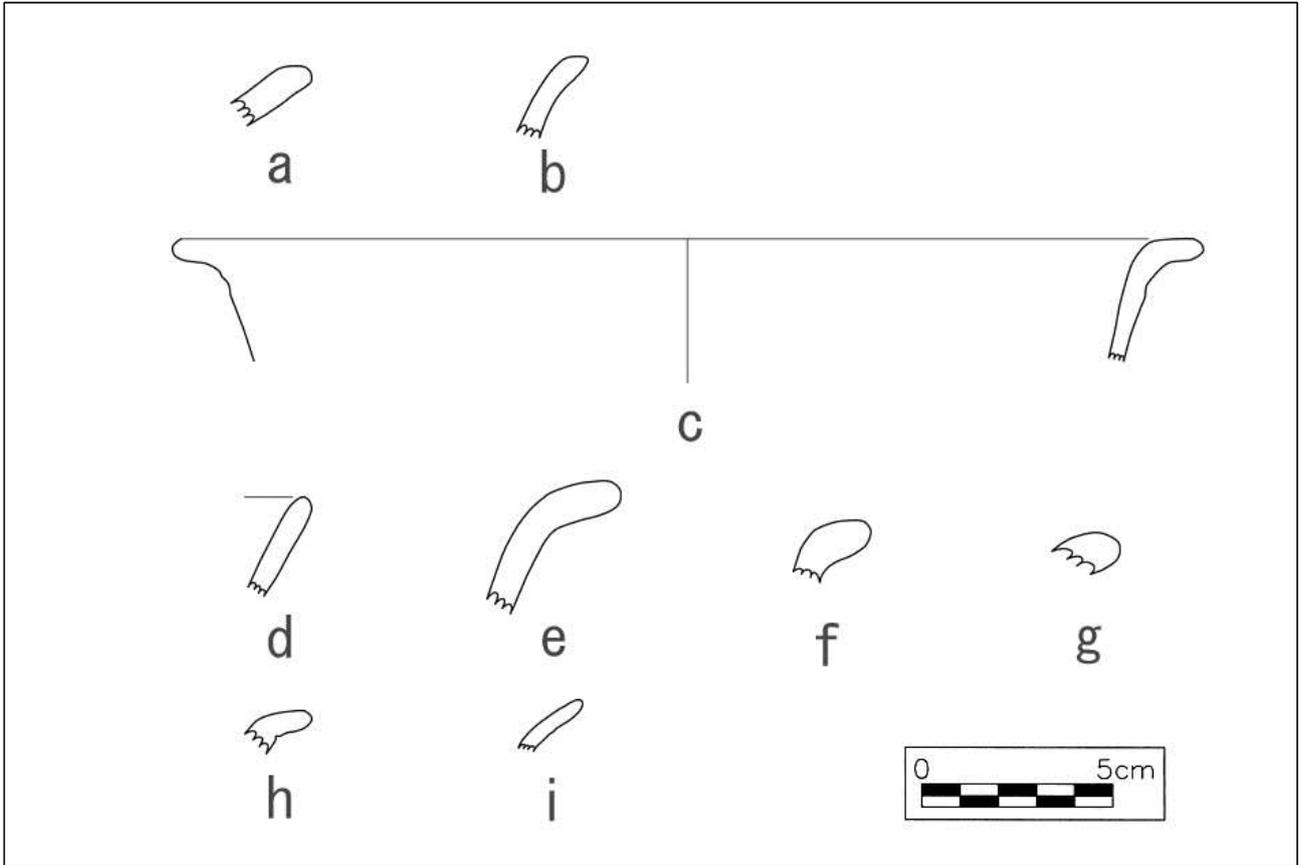


図 6-3-(1)-15 : 建造物 6 (T8)、建造物 7 出土の碗 (Flaring Bowl)

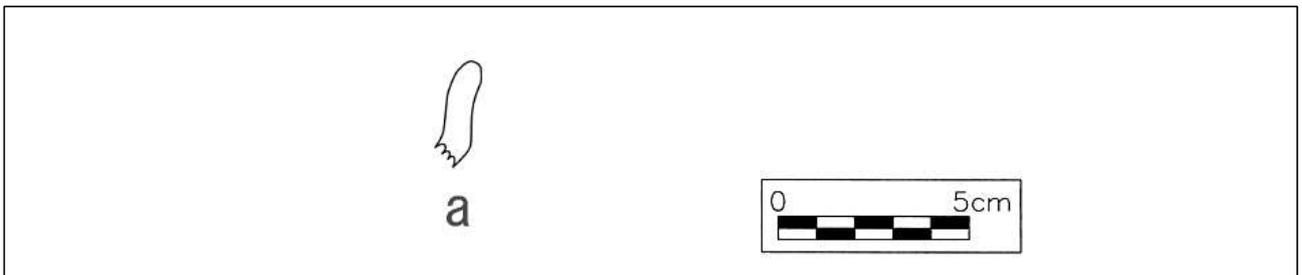


図 6-3-(1)-16 : 建造物 6 (T8)、建造物 7 出土の碗 (Shouldered Bowl)

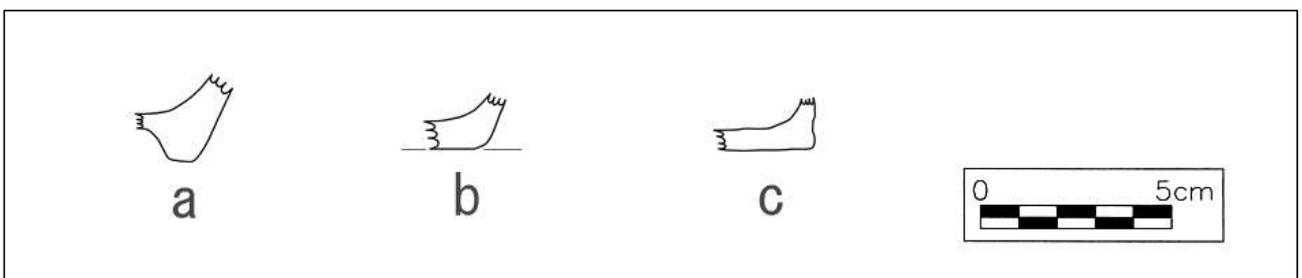


図 6-3-(1)-17 : 建造物 6 (T8)、建造物 7 出土の碗の底部 (Base)

(2) 壺 (Jar)

個体数 : N=3 (ミカオトリ期の Polished Ware の黒色グループの中で 1.1%)

出土地点 :

表 6-3-(2)-1 : 壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%

図版 : 図 6-3-(2)-1 ~ 図 6-3-(2)-2

胎土 : 胎土は、やや粘土質で含有物を若干含む。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR 7/4、7.5YR 6/6、5YR7/8、5YR6/4)、褐色系 (7.5YR 5/6、7.5YR4/3) 等である。パトラチケ期の Polished Black 系の土器と比較して、胎土はオレンジ系や赤褐色系の色が多く、また焼成も良好である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、研磨される。色は黒色である (7.5YR 2/1)。

装飾 : 無し。

器形 : 口縁部が外反し底部が平底の壺である。

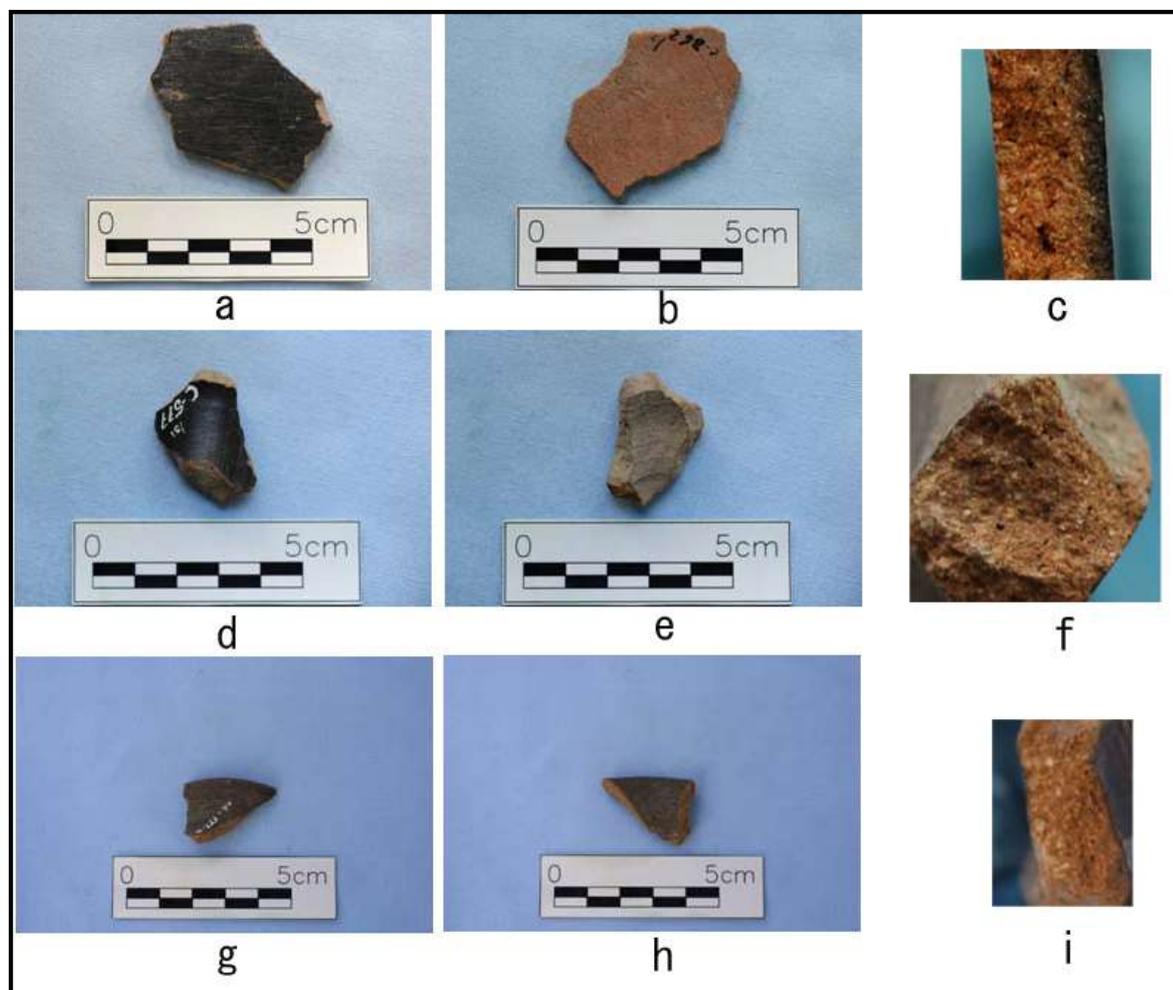


図 6-3-(2)-1 : a-f 建造物 7 (Frente C) 出土の壺、 g-i 建造物 6 (T8) 出土の壺

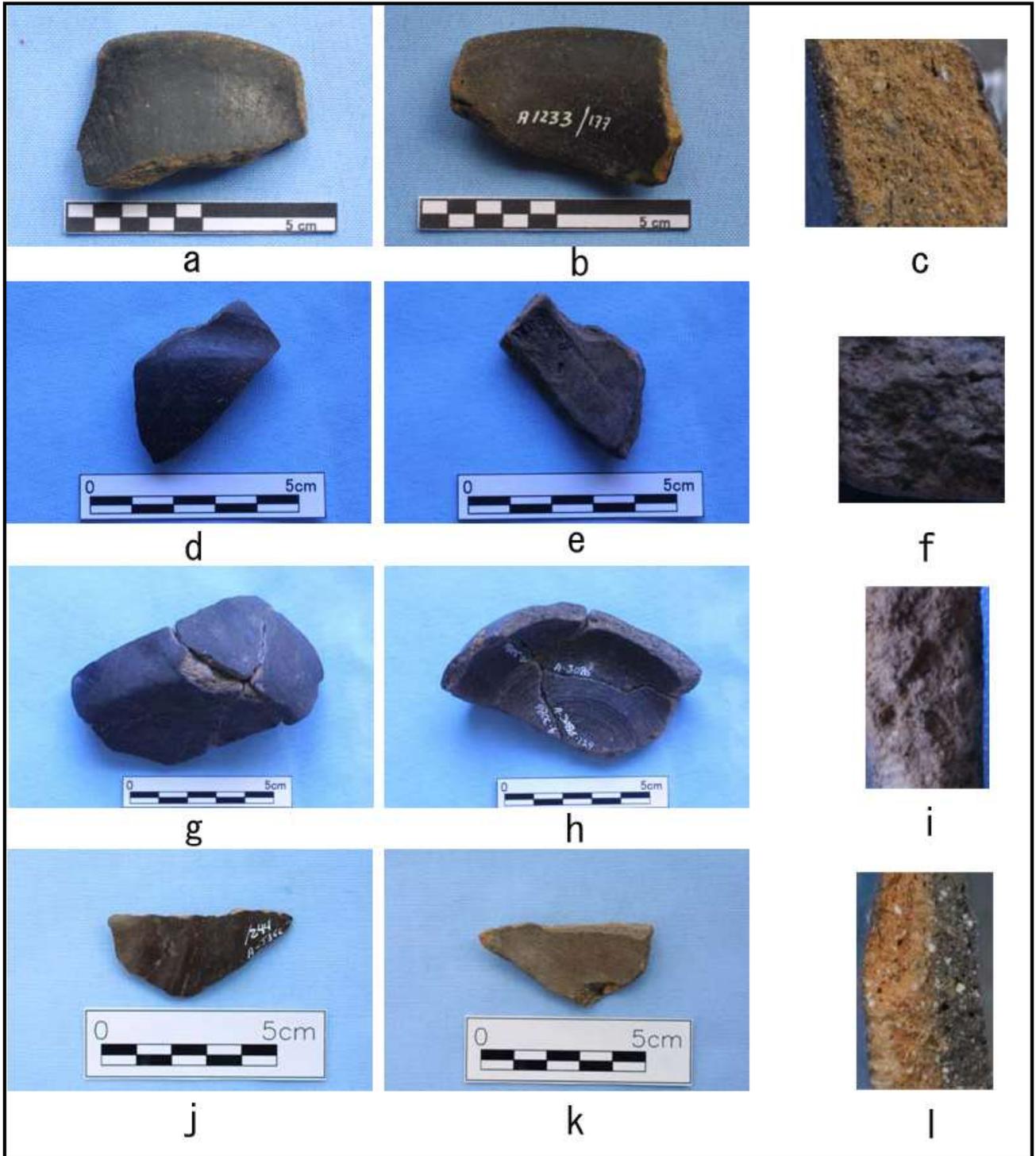


図 6-3-(2)-2 : a-c 建造物 2 (T1) 出土の壺、d-i 建造物 4 (T2) 出土の壺、j-l 建造物 5 (T2) 出土の壺

(3) 皿 (Dish)

個体数 : N=13 (ミカオトリ期の Polished Ware の黒色グループの中で 5.0%)

出土地点 :

表 6-3-(3)-1 : 皿の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
皿 (Dish)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	30.8%	1	7.7%	7	53.8%	1	7.7%	0	0.0%	13	100.0%

図版 : 図 6-3-(3)-1~図 6-3-(3)-5

胎土 : 胎土は、やや粘土質で含有物を若干含む。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/6、5YR6/4、2.5YR6/8)、褐色系 (7.5YR5/4)、赤褐色系 (5YR5/6、2.5YR5/8) 等である。パトラチケ期の Polished Black 系の土器と比較して、胎土はオレンジ系や赤褐色系の色が多く、また焼成も良好である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、研磨される。色は黒色である (7.5YR 2/1)。

装飾 : 無し。

器形 : 器高が低く、平底あるいはやや丸みを帯びた底部を持つ皿、口径 15.0cm (図 6-3-(3)-1:c)、9.6cm (図 6-3-(3)-2:a) のものが見られる。

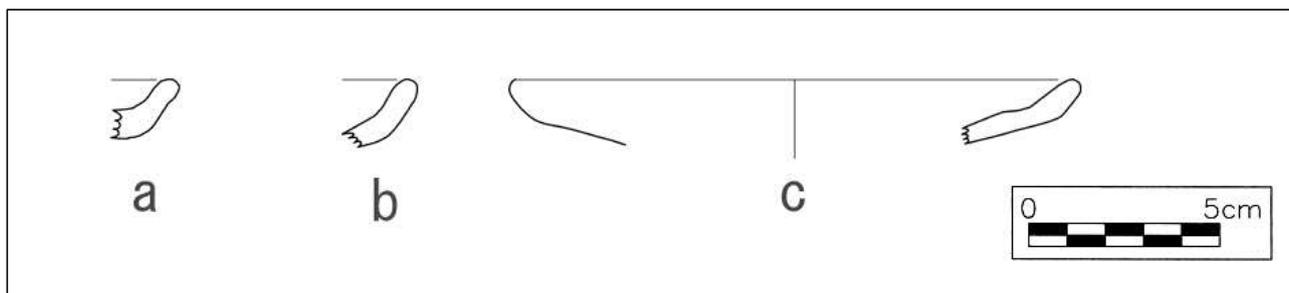


図 6-3-(3)-1: 建造物 4 (T12) 出土の皿

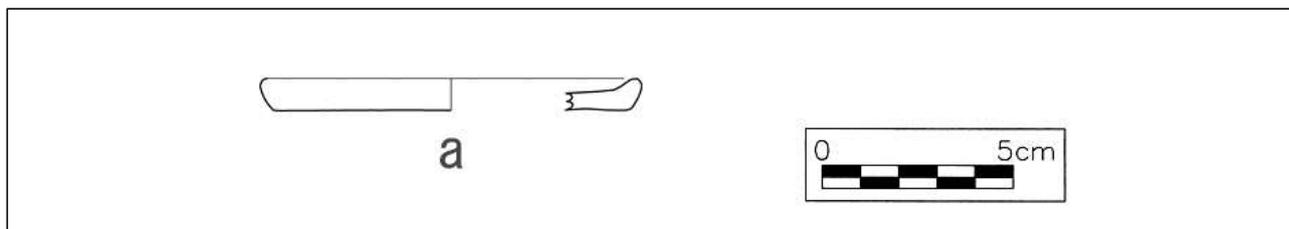


図 6-3-(3)-2: 建造物 7 (Frente C) 出土の皿

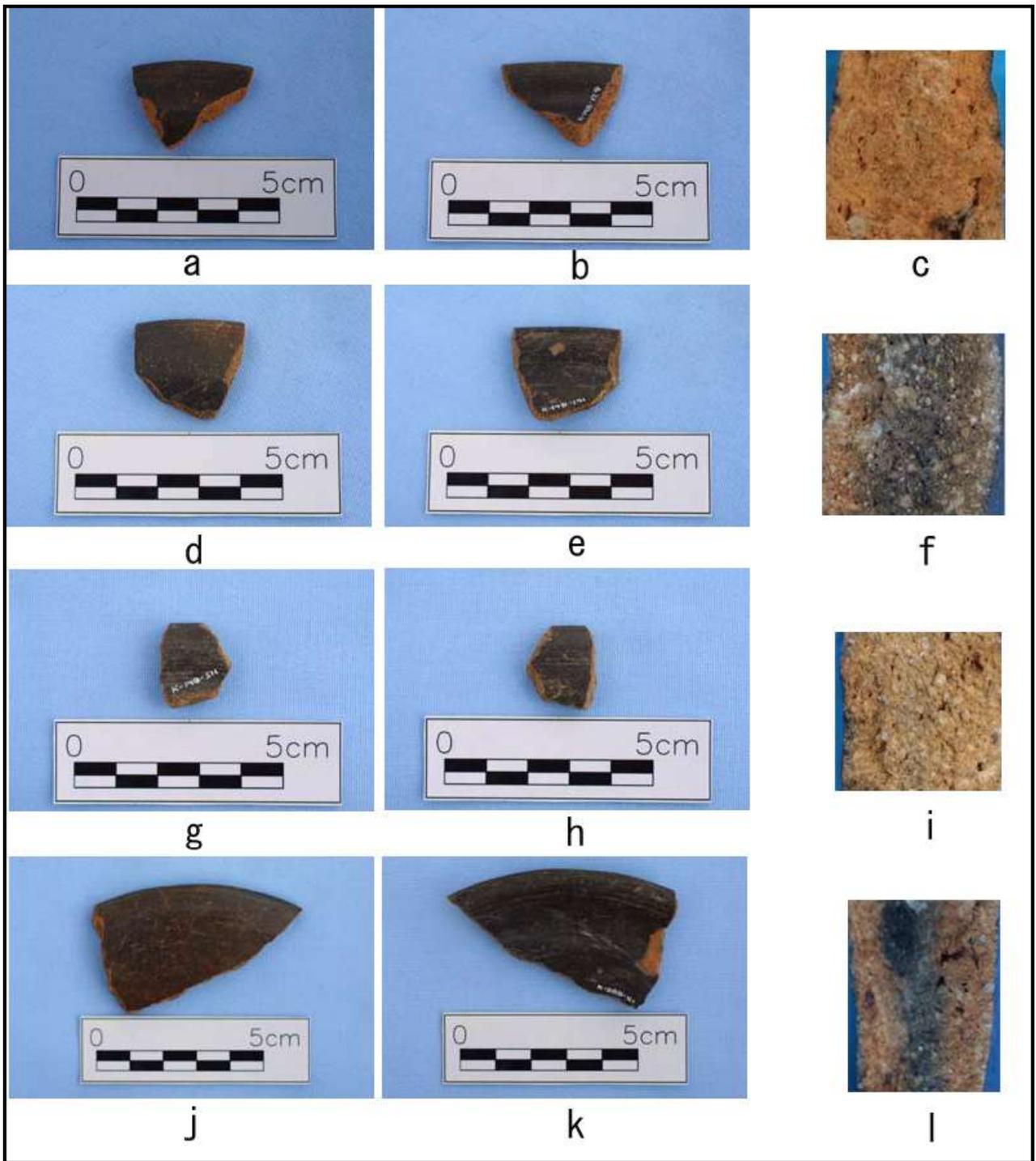


図 6-3-(3)-3: 建造物 4 (T2) 出土の皿

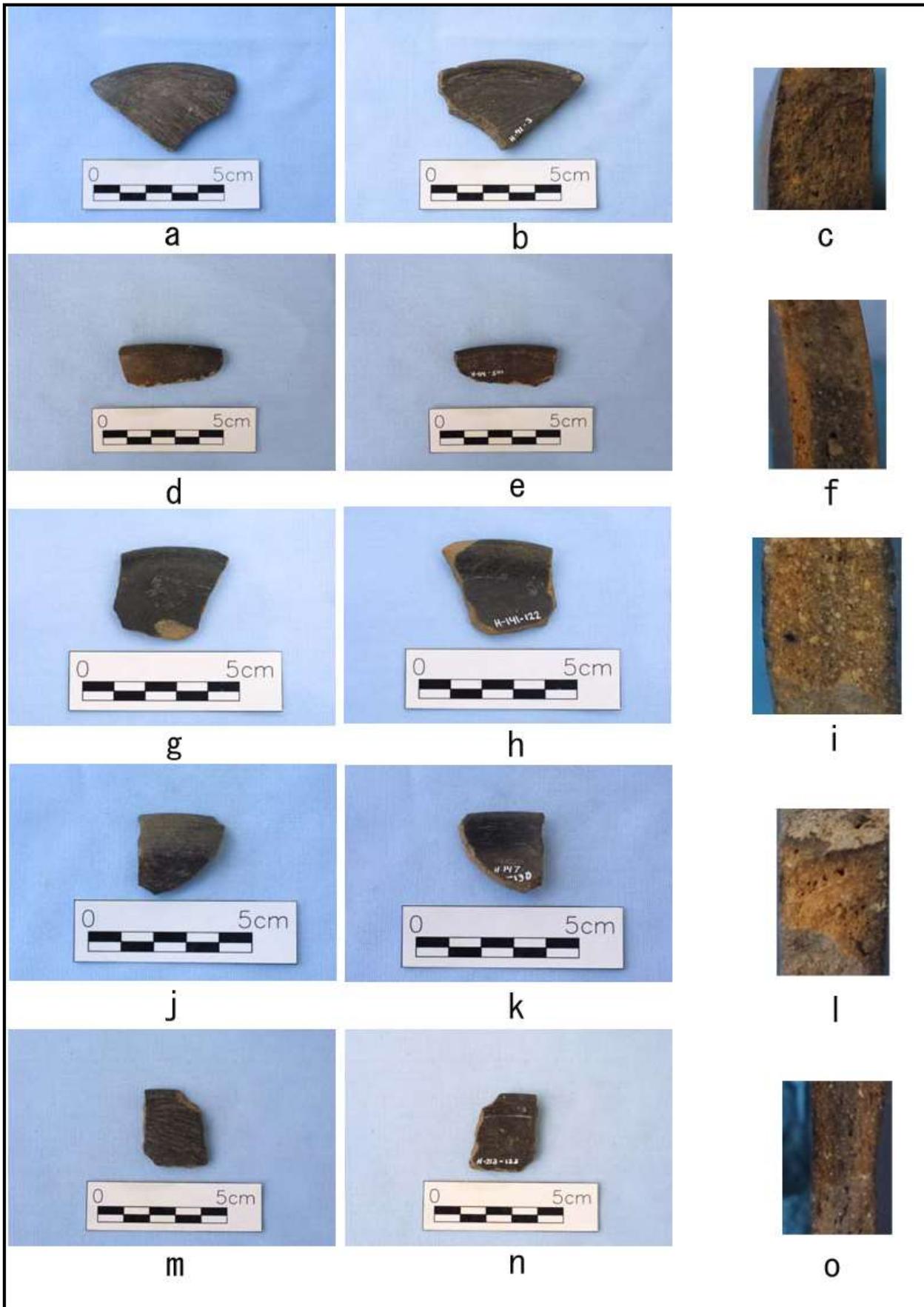


図 6-3-(3)-4: 建造物 6 (T8) 出土の皿



図 6-3-(3)-5: a-c 建造物 5 (T2) 出土の皿、d-f: 建造物 7 (Frente C) 出土の皿

(4) 円筒形壺 (Vase)

個体数 : N=5 (ミカオトリ期の Polished Ware の黒色グループの中で 1.9%)

出土地点 :

表 6-3-(4)-1 : 円筒形壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	80.0%	1	20.0%	0	0.0%	5	100.0%

図版 : 図 6-3-(4)-1~図 6-3-(4)-5

胎土 : 胎土は、やや粘土質で含有物を若干含む。胎土の色は、オレンジ系 (5YR6/4、5YR6/6、5YR6/8、2.5YR6/8)、褐色系 (7.5YR5/4)、赤褐色系 (5YR5/6、2.5YR5/8) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、研磨される。色は黒色である (7.5YR 2/1)。

装飾 : 焼成後に沈線を施したのものも見られる (図 6-3-(4)-1:a、図 6-3-(4)-3:m、等)。

器形 : 器高は不明であるが、口径 22.0cm の円筒形壺が見られる (図 6-3-(4)-5:a)。また、底部は平底 (図 6-3-(4)-5;b) あるいはボタン状の脚 (nubbin suport) (図 6-3-(4)-2;b) が見られる。



図 6-3-(4)-1 : a-c 建造物 4 (T2) 出土の円筒形壺、d-i 建造物 4 (T12) 出土の円筒形壺

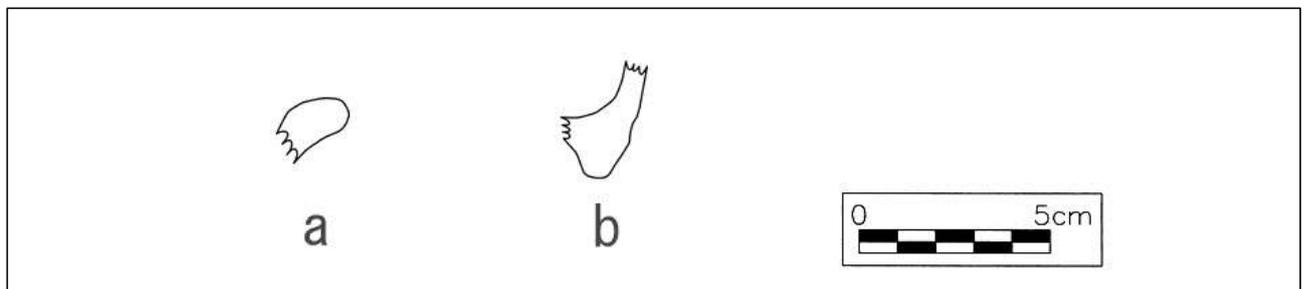


図 6-3-(4)-2 : 建造物 6 (T8) 出土の円筒形壺

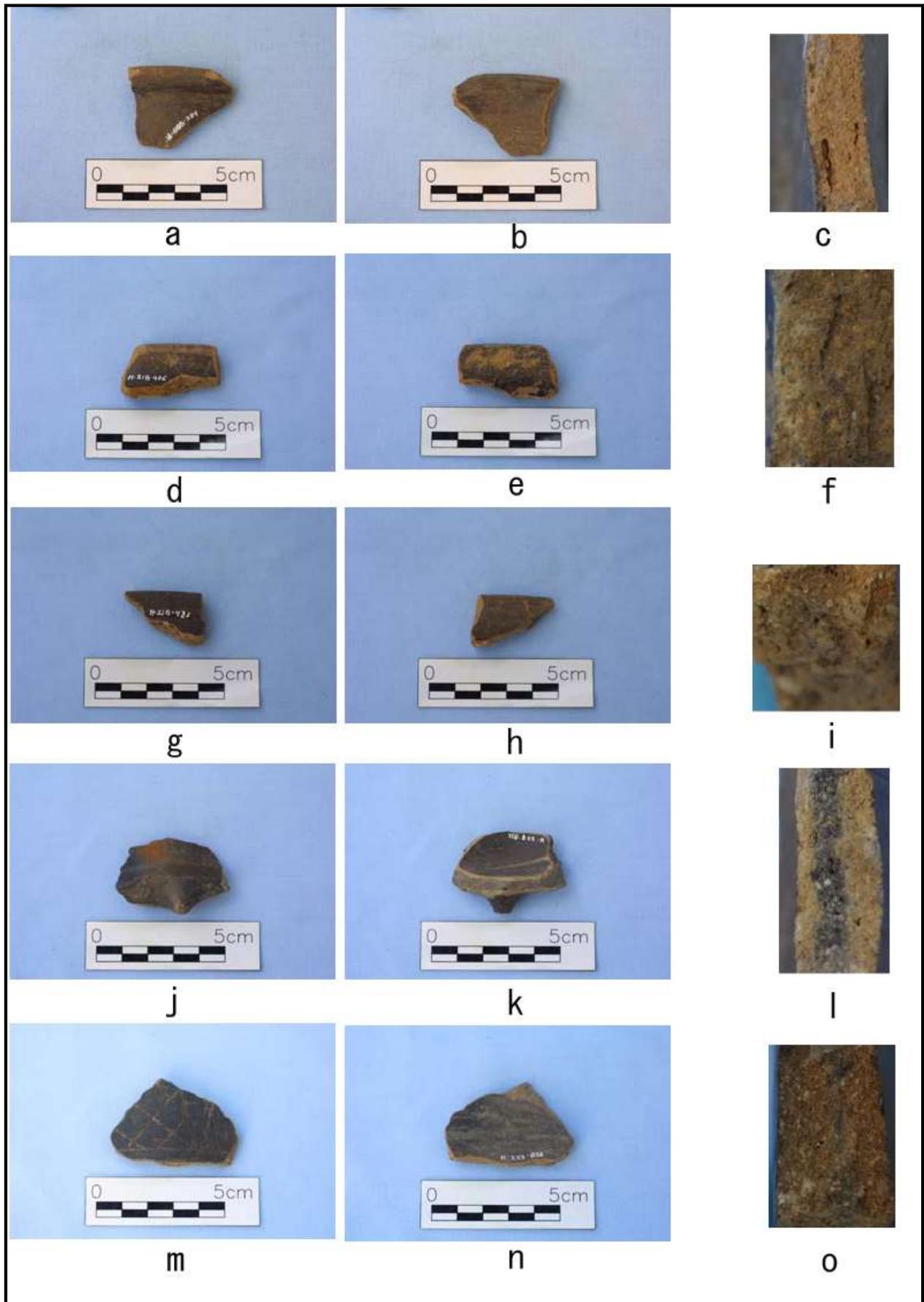


図 6-3-(4)-3 : 建造物 6 (T8) 出土の円筒形壺



図 6-3-(4)-4 : 建造物 7 (Frente C) 出土の円筒形壺

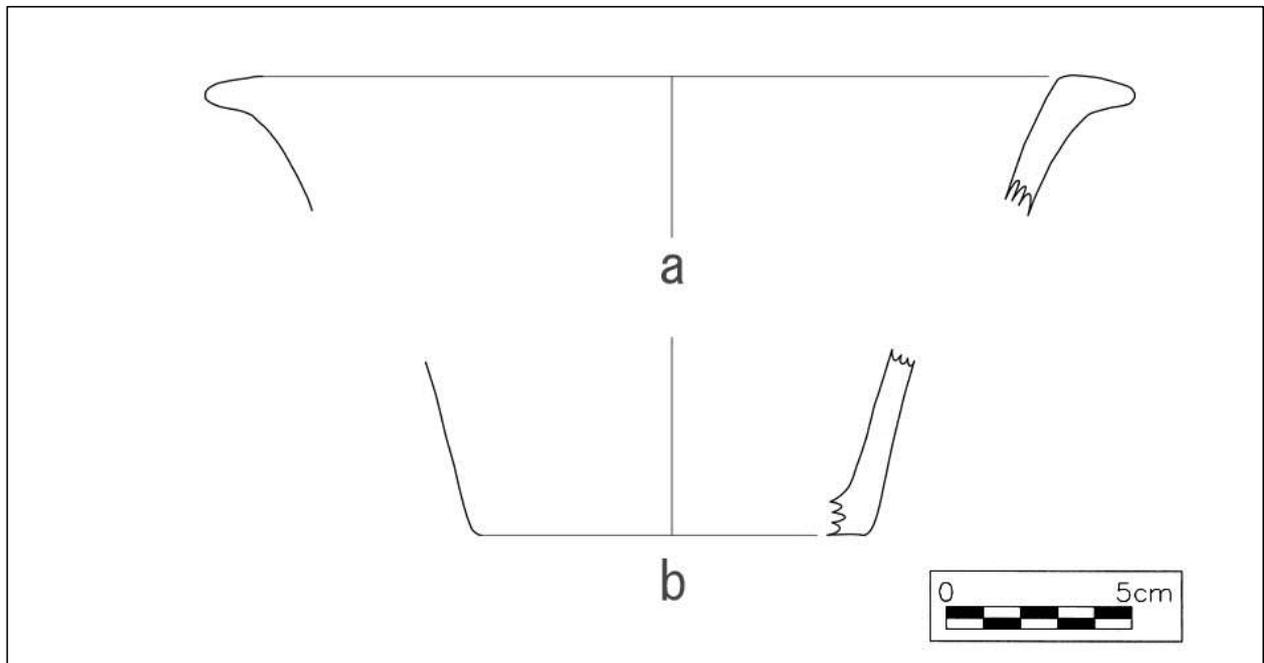


図 6-3-(4)-5 : 建造物 7 (Frente C) 出土の円筒形壺

(5) 長頸壺 (Florero)

個体数 : N=6 (ミカオトリ期の Polished Ware の黒色グループの中で 2.3%)

出土地点 :

表 6-3-(5)-1 : 長頸壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
長頸壺 (Florero)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	33.3%	0	0.0%	4	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	6	100.0%

図版 : 図 6-3-(5)-1~図 6-3-(5)-2

胎土 : 胎土は、やや雑で含有物を多く含む。胎土の色は、オレンジ系 (5YR6/8)、褐色系 (7.5YR4/3)、赤褐色系 (5YR5/6、5YR4/3、2.5YR5/8) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、研磨される。色は黒色である (7.5YR 2/1)。

装飾 : 無し。

器形 : 口縁部が大きく外反しする長頸の壺である。

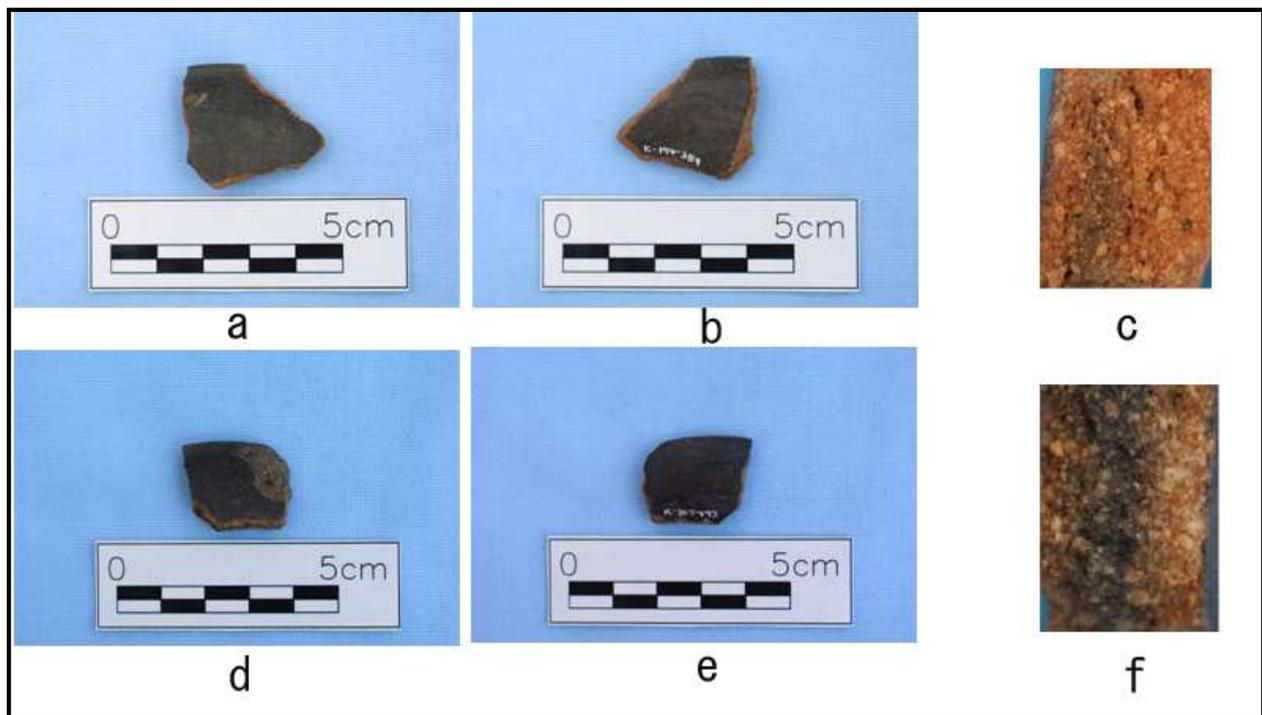


図 6-3-(5)-1 : 建造物 4 (T12) 出土の長頸壺

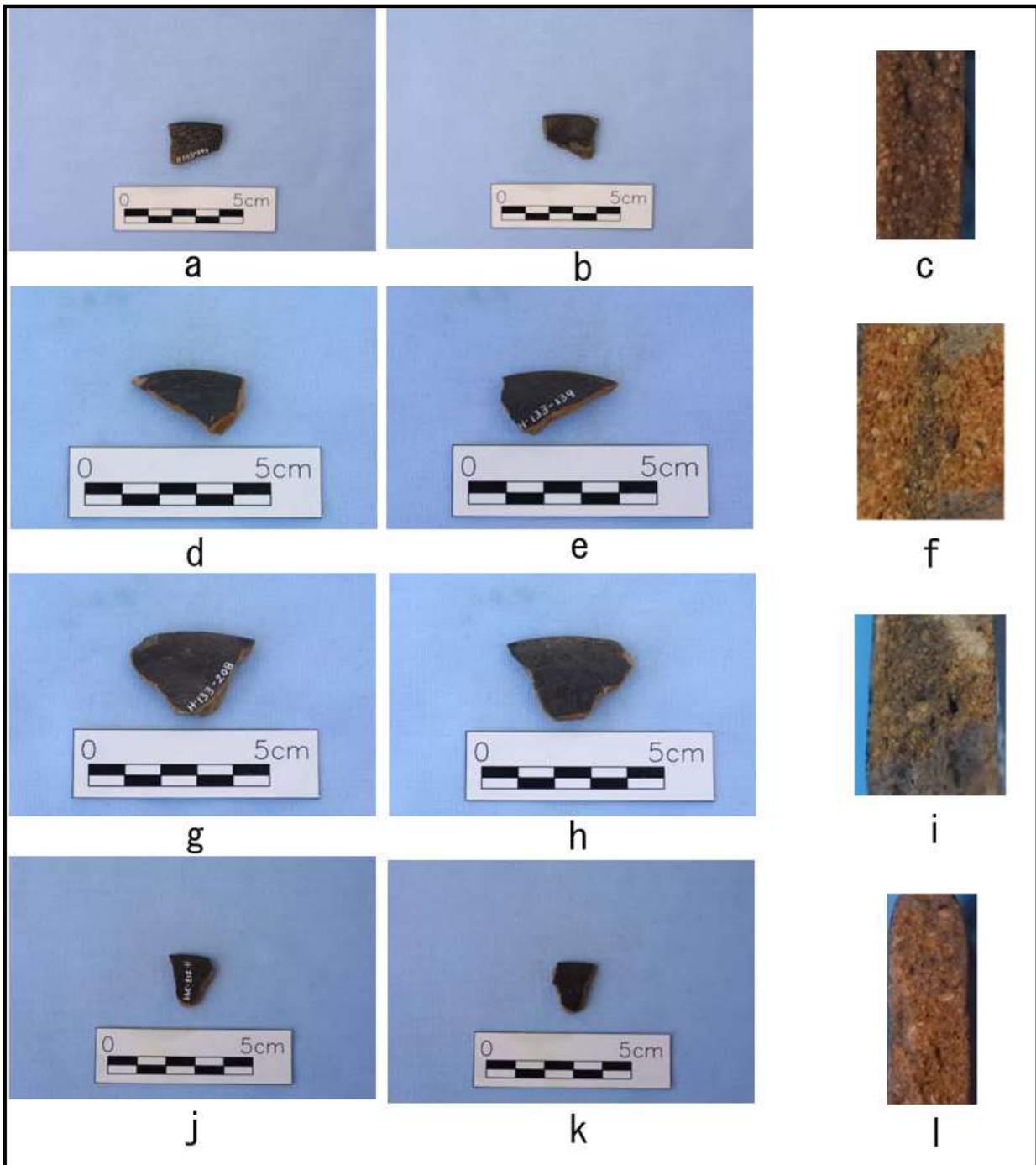


図 6-3-(5)-2 : 建造物 6 (T8) 出土の長頸壺

<褐色グループ（個体数 N=348）>

（6）碗（Bowl）

個体数：N=310（ミカオトリ期の Polished Ware の褐色グループの中で 89.1%）

出土地点：

表 6-3-(6)-1：碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	6	1.9%	4	1.3%	110	35.5%	19	6.1%	128	41.3%	34	11.0%	9	2.9%	310	100.0%

図版：図 6-3-(6)-1～図 6-3-(6)-18

胎土：胎土は、やや粘土質で含有物を若干含む。胎土の色は、オレンジ系（7.5YR6/4、5YR6/8、5YR 6/6、5YR 6/4、2.5YR 6/8）、褐色系（7.5YR 5/4、7.5YR5/2）、赤褐色系（5YR 5/8、5YR 5/6、5YR5/4、5YR5/3、5YR4/4、2.5YR5/8、2.5YR5/6、2.5YR5/4、2.5YR4/6）等である。パトラチケ期の Polished Ware の土器と比較して、胎土はオレンジ系や赤褐色系の色が多く、また焼成も良好である。

表面調整：表面の仕上げは比較的良好で、良く研磨される。色は褐色系であり、暗褐色から赤褐色まで見られる。

装飾：焼成後に沈線を施したものも見られる（図 6-3-(6)-3:a）。

器形：口径 14.8cm～22.6cm の Outcurving Bowl や口径 19.4cm の Simple Bowl，口径 13.0cm から 25.8cm の Flaring Bowl 等がある（表 6-3-(6)-2）。また、底部に Support を持つものも見られる（図 6-3-(6)-9:d）。

表 6-3-(6)-2：碗の口径

実測図	口径(cm)	写真	出土地	個体番号
<Outcurving Bowl>				
図6-3-(6)-10:e	21.2	-	建造物4(T12)	K-288-16
図6-3-(6)-13:d	19.0	-	建造物6(T8)	H-141-425
図6-3-(6)-13:h	22.6	-	建造物6(T8)	H-195-62
図6-3-(6)-16:a	19.8	-	建造物7(Frente C)	C-447-32
図6-3-(6)-16:b	14.8	図6-3-(6)-9:g-i	建造物7(Frente C)	C-531-161
図6-3-(6)-16:c	16.0	-	建造物7(Frente C)	C-575-74
図6-3-(6)-16:d	15.0	-	建造物7(Frente C)	C-615-30
<Simple Bowl>				
図6-3-(6)-17:a	19.4	-	建造物7(Frente C)	C-619-60
<Flaring Bowl>				
図6-3-(6)-18:a	13.0	図6-3-(6)-9:a-c	建造物7(Frente C)	C-531-112
図6-3-(6)-18:b	25.8	-	建造物7(Frente C)	C-531-131
図6-3-(6)-18:c	17.4	-	建造物7(Frente C)	C-575-78

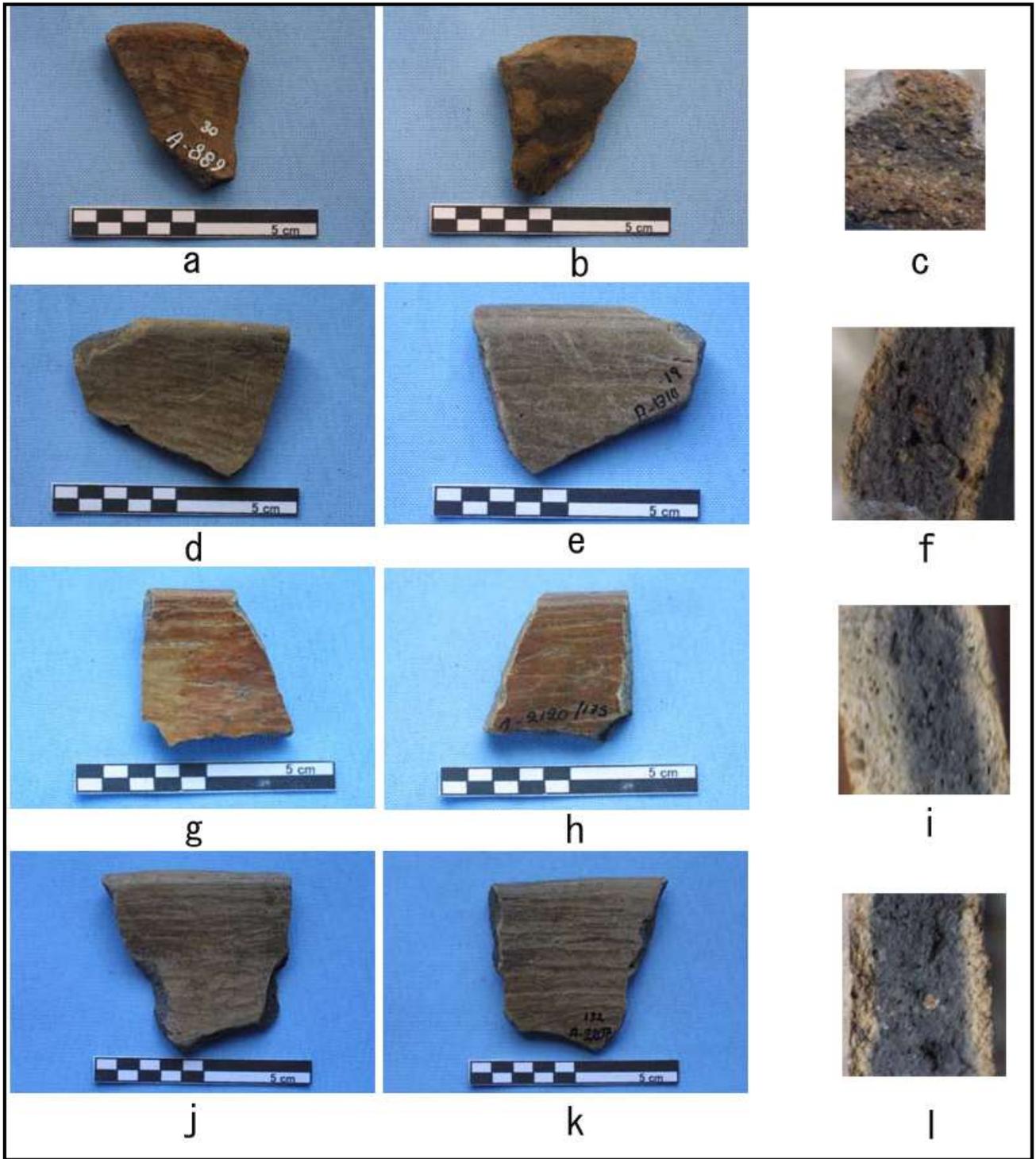


図 6-3-(6)-1 : a-c 建造物 2 (T1) 出土の碗、d-f 建造物 2 (T2) 出土の碗、
g-l 建造物 2 (T4) 出土の碗

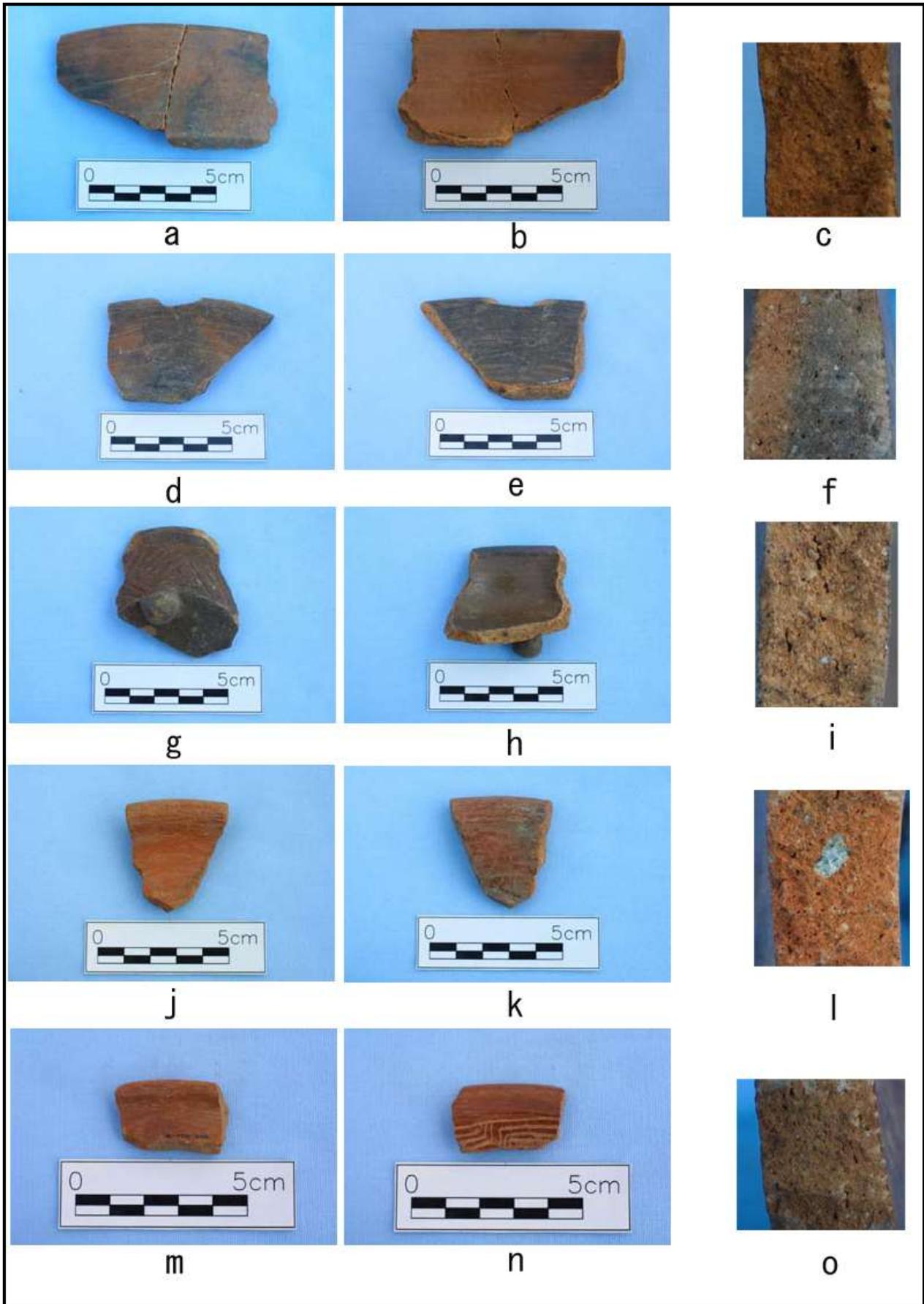


図 6-3-(6)-2 : 建造物 4 (T12) 出土の碗

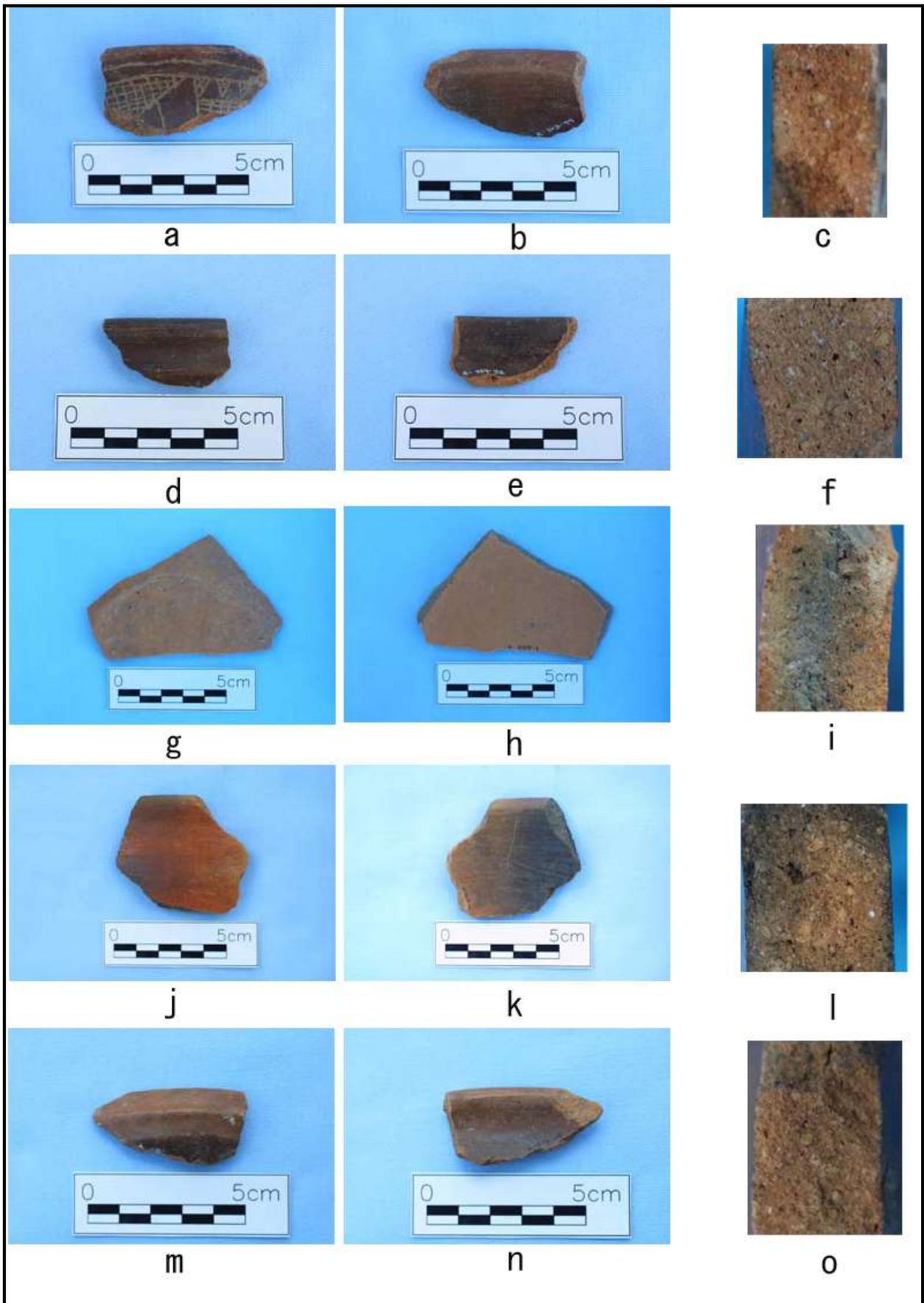


図 6-3-(6)-3 : 建造物 4 (T12) 出土の碗

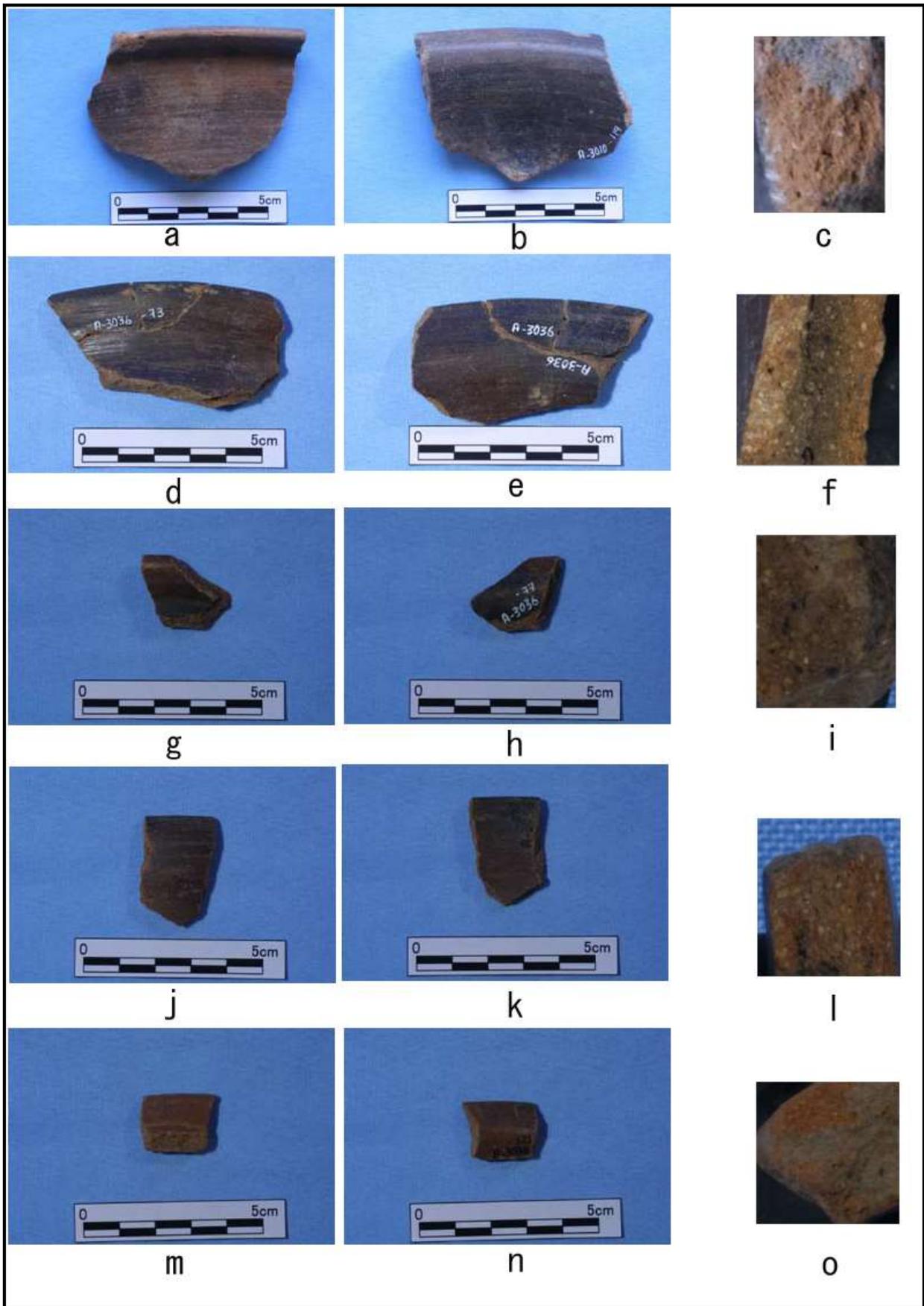


図 6-3-(6)-4 : 建造物 4 (T2) 出土の碗

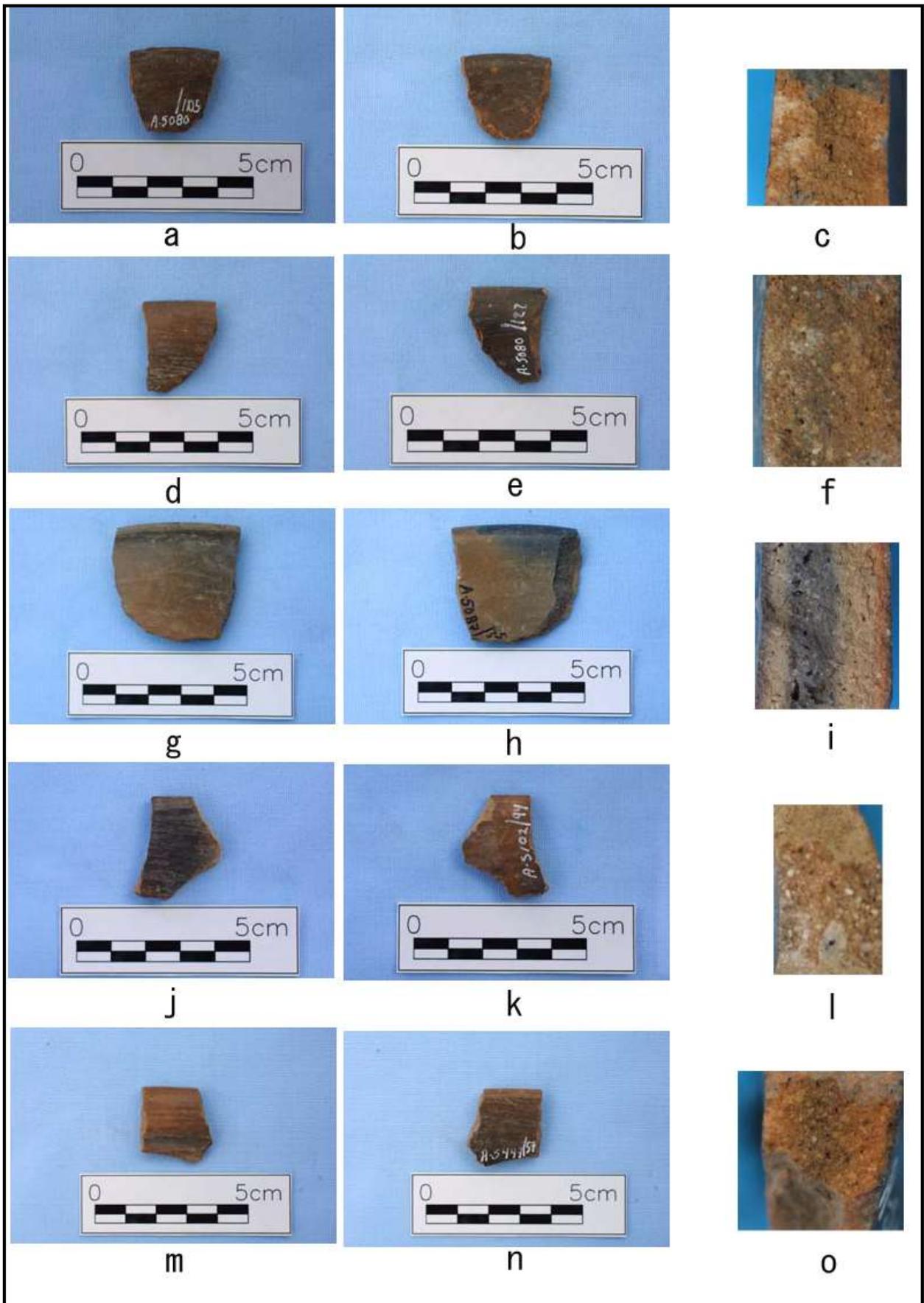


図 6-3-(6)-5 : 建造物 5 (T2) 出土の碗

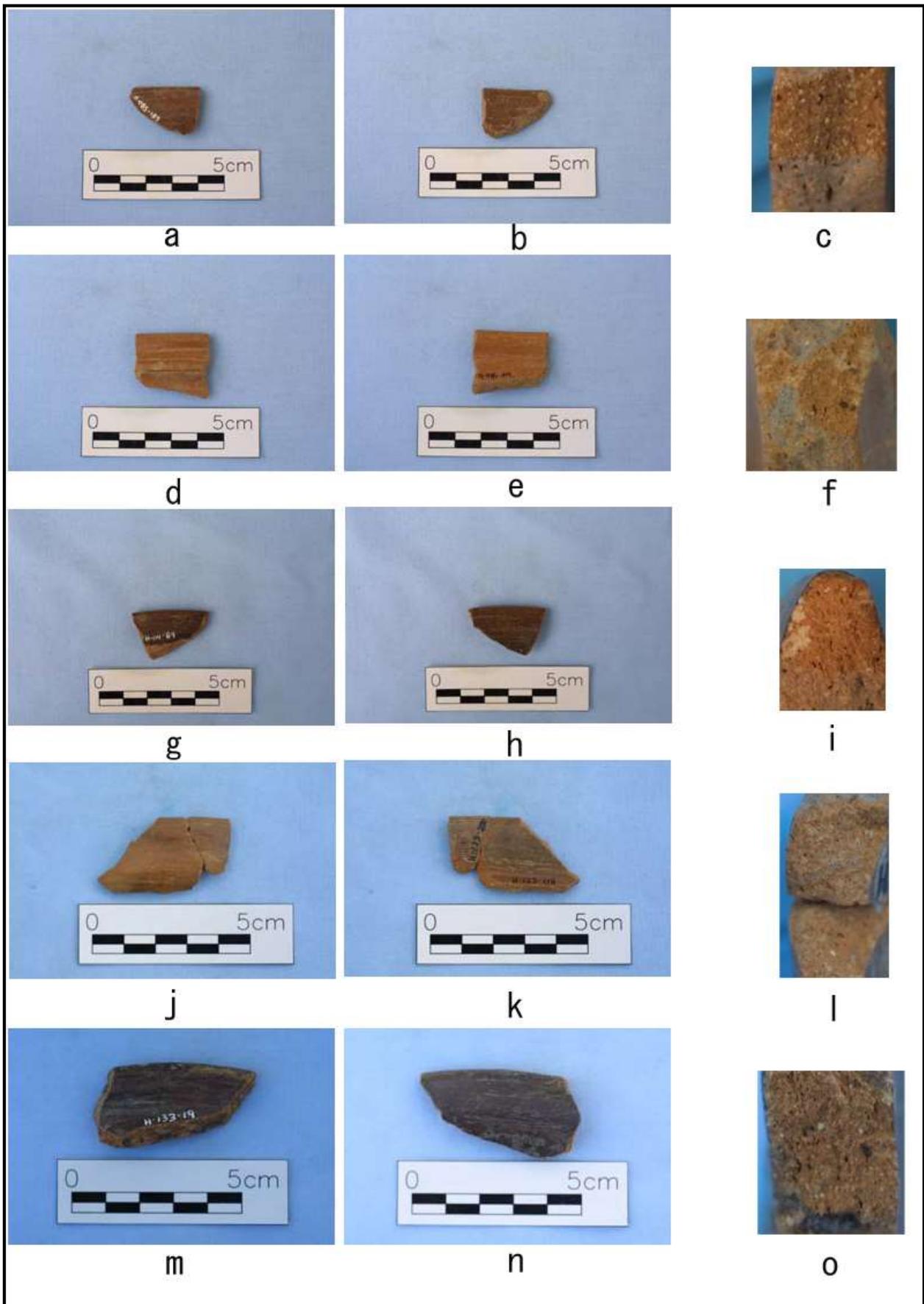


図 6-3-(6)-6 : 建造物 6 (T8) 出土の碗

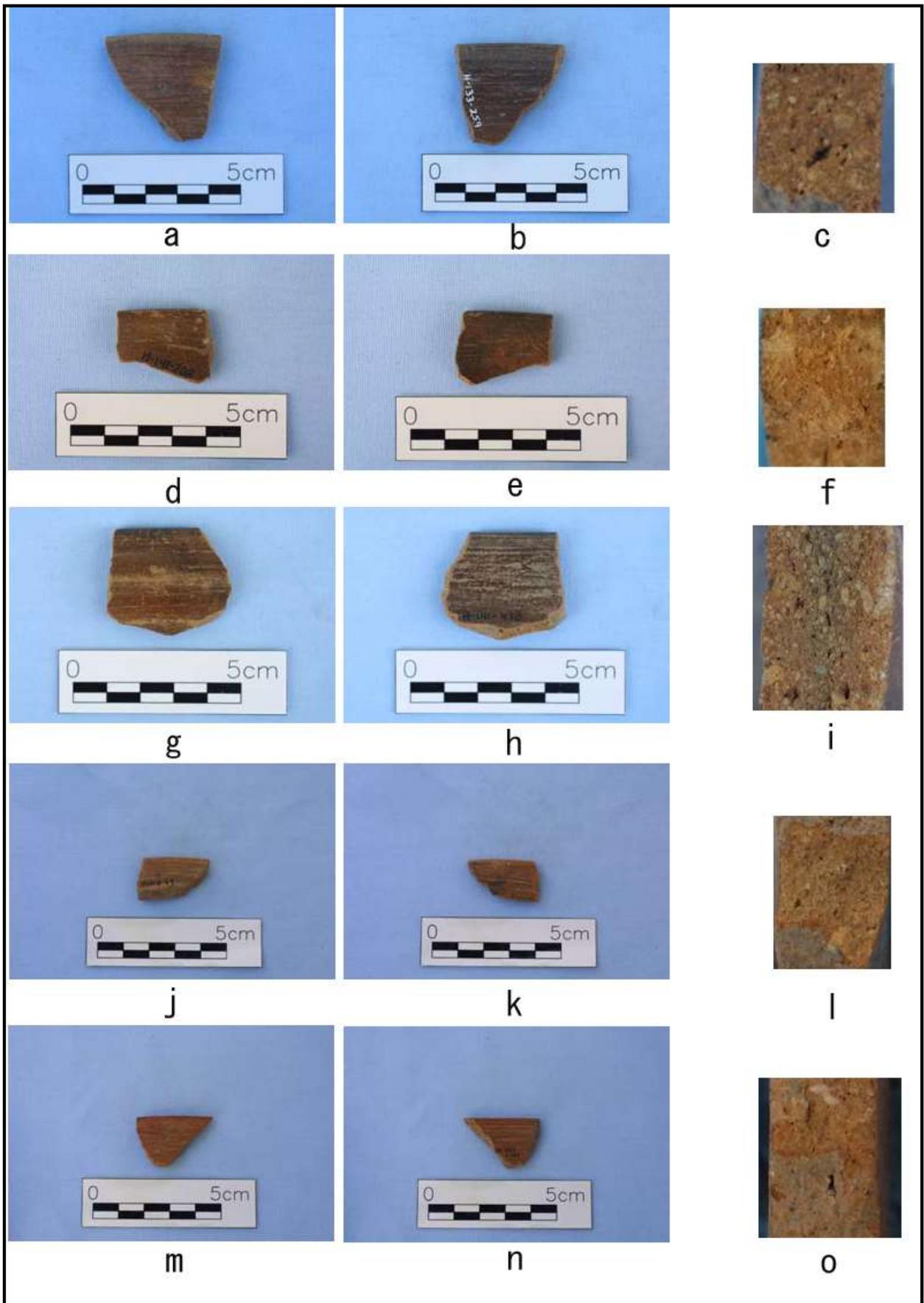


図 6-3-(6)-7 : 建造物 6 (T8) 出土の碗

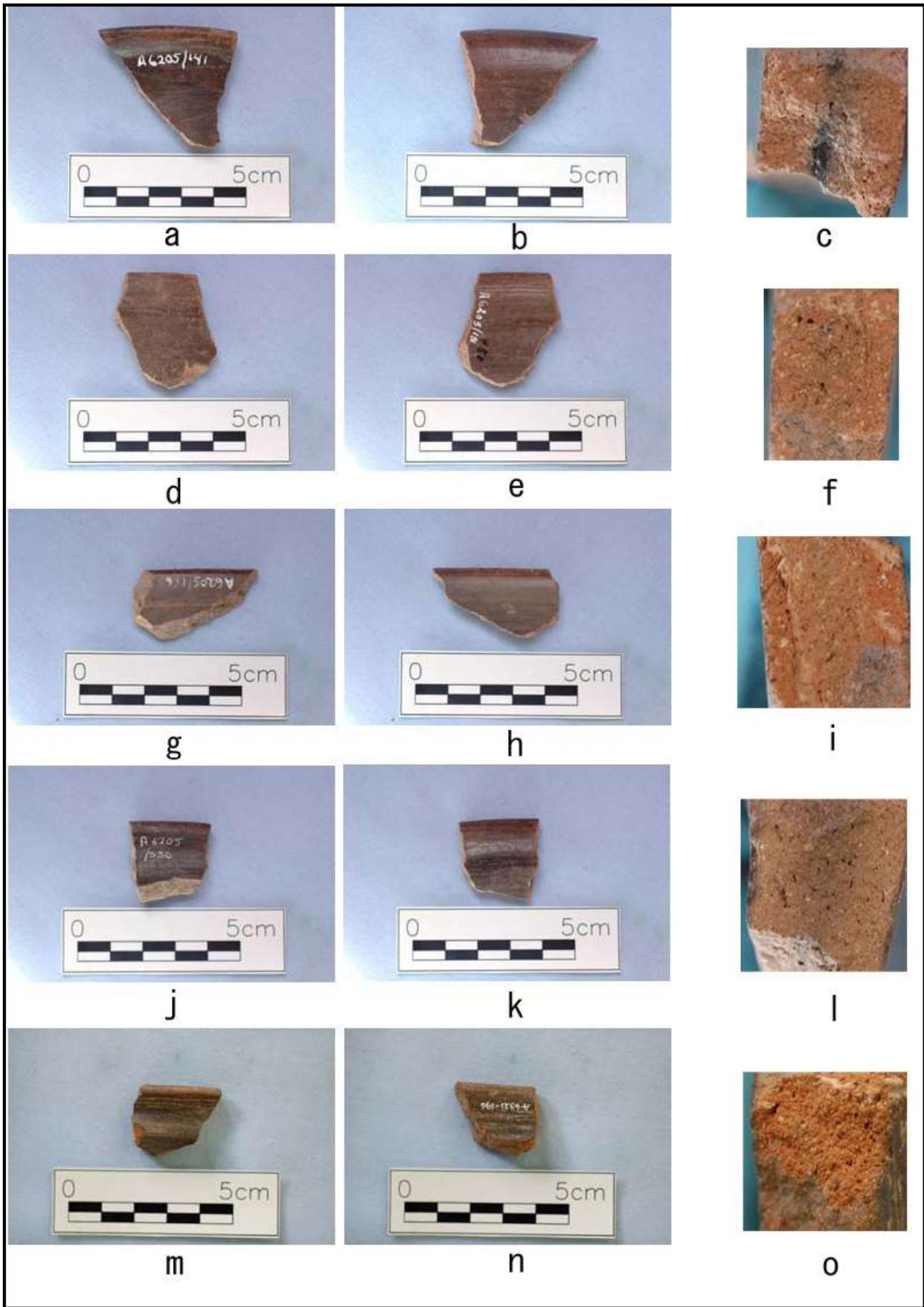


図 6-3-(6)-8 : 建造物 6 (T2) 出土の碗

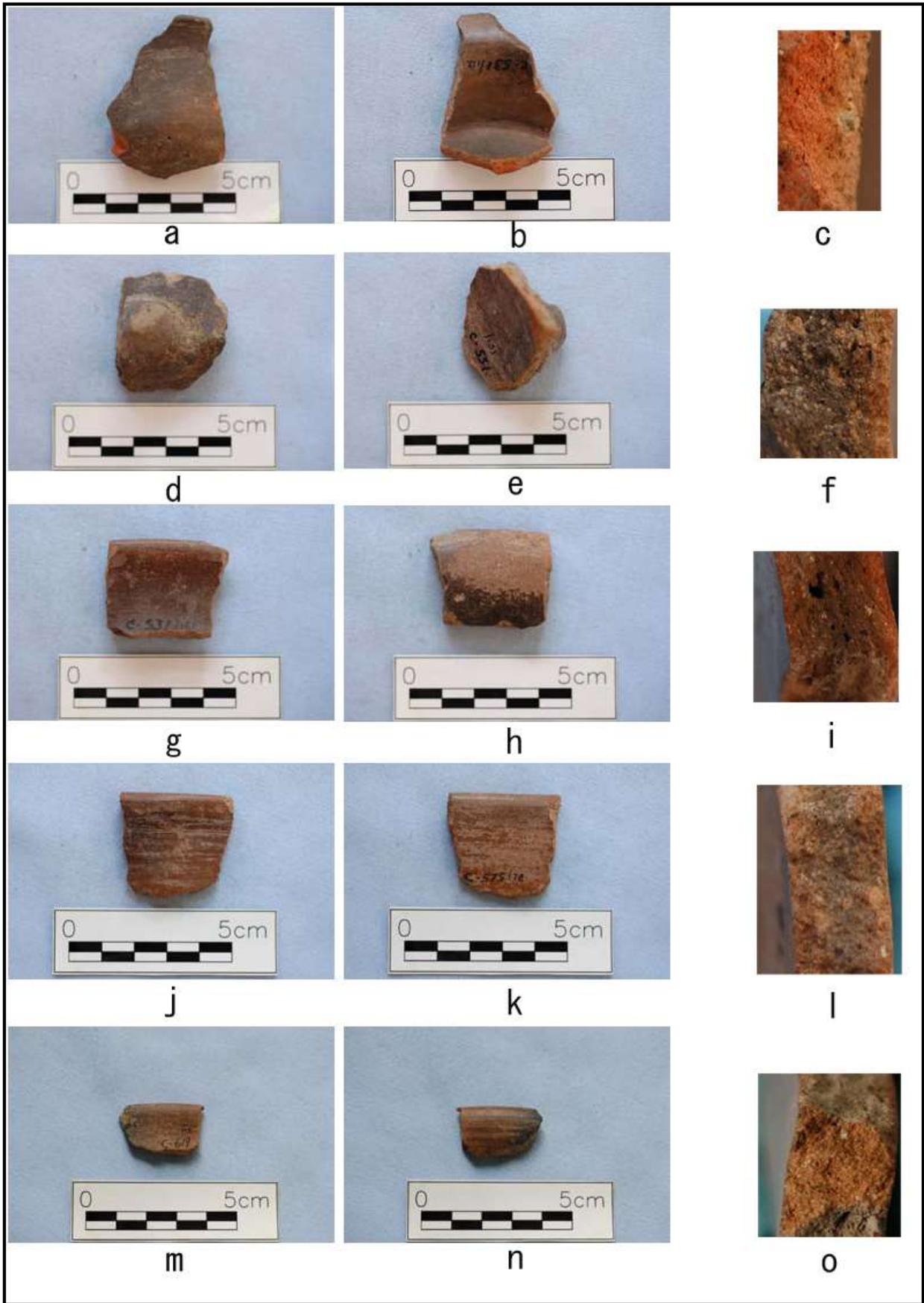


図 6-3-(6)-9 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗

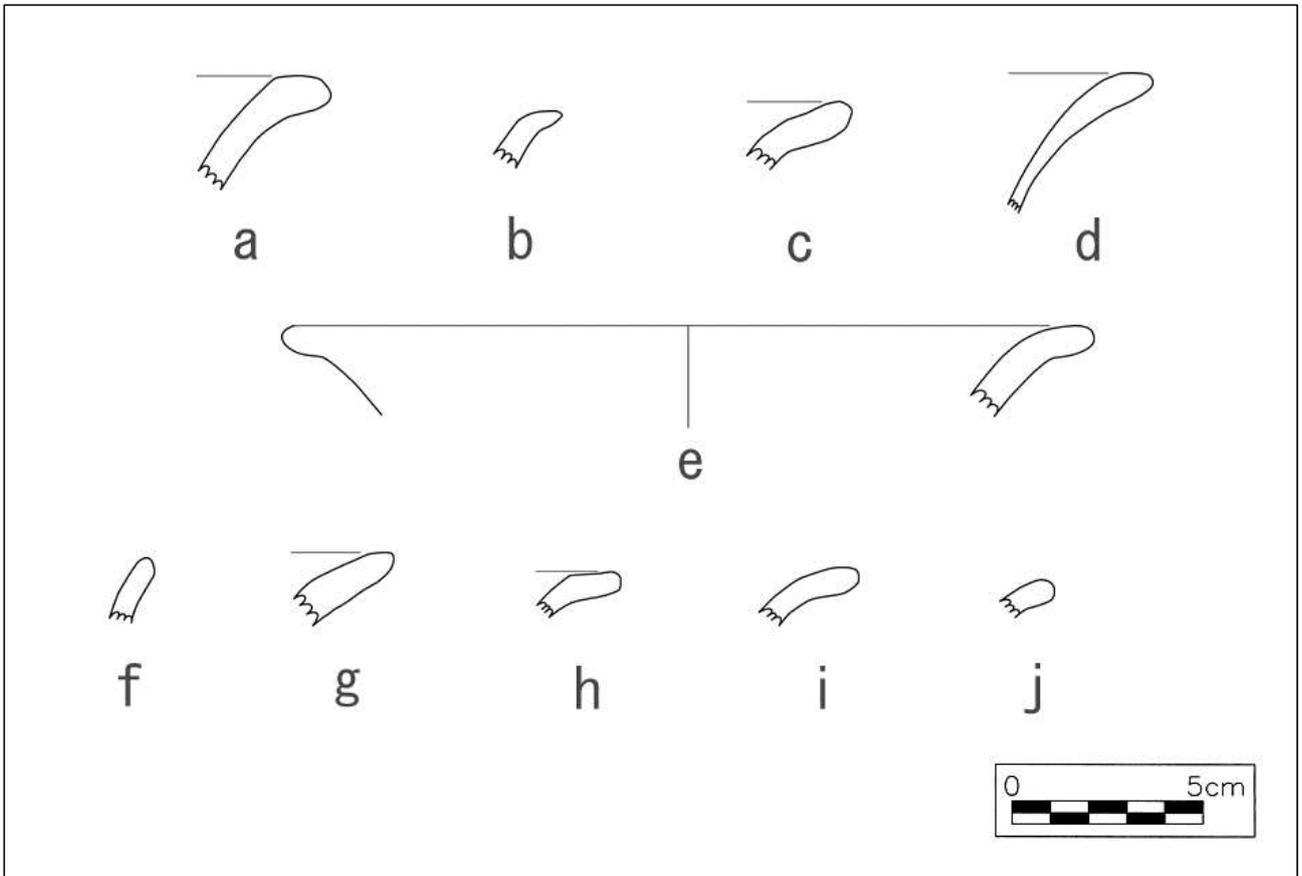


図 6-3-(6)-10 : 建造物 4 (T12) 出土の碗 (Outcurving Bowl)

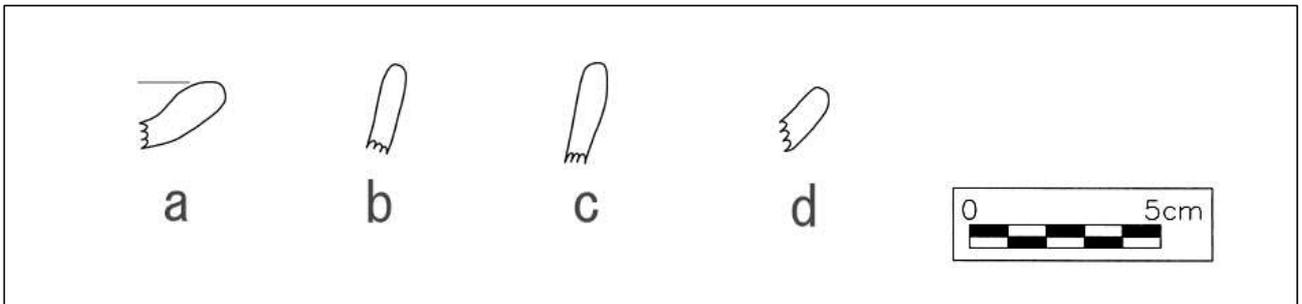


図 6-3-(6)-11 : 建造物 4 (T12) 出土の碗 (Simple Bowl)

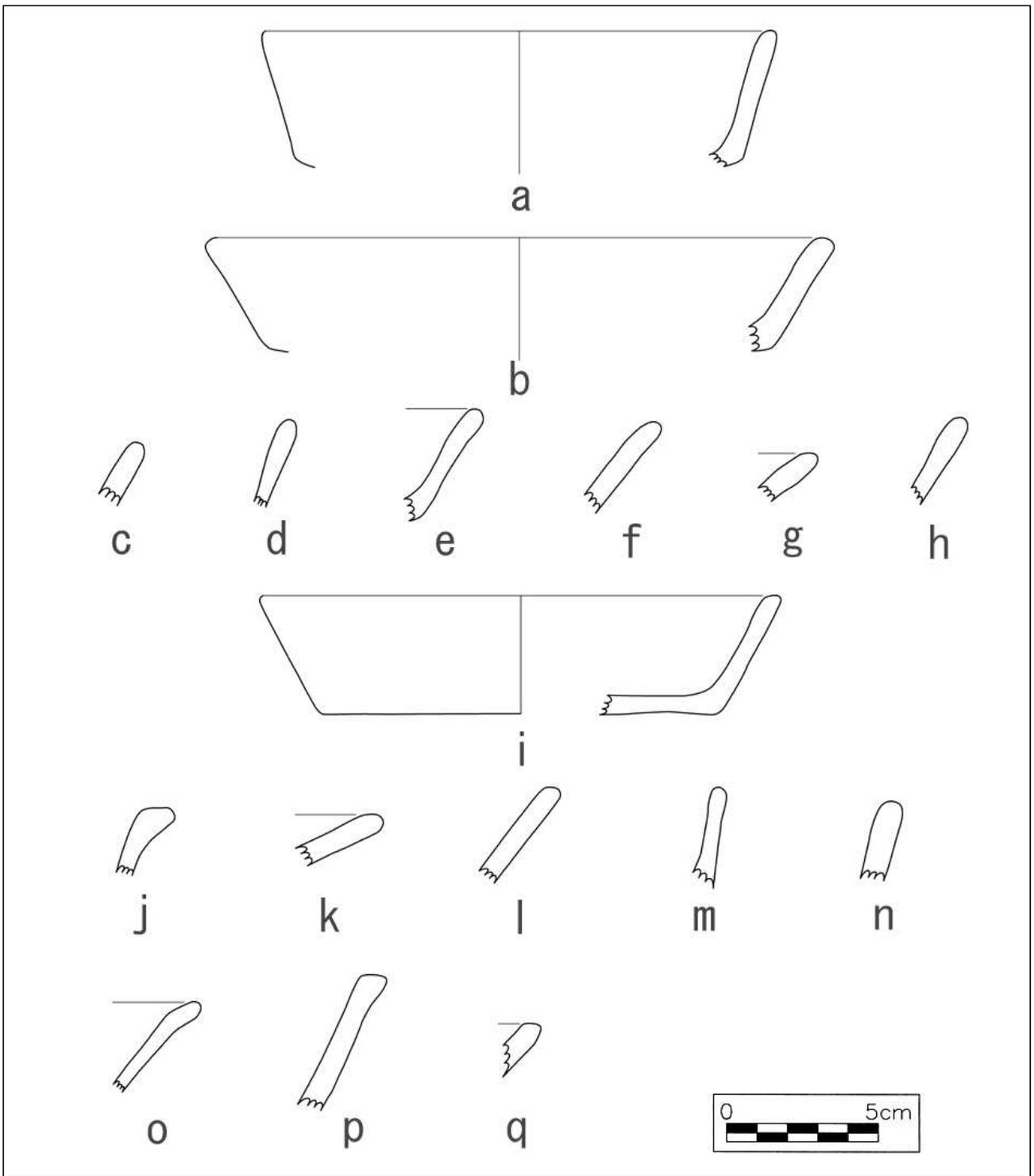


図 6-3-(6)-12 : 建造物 4 (T12) 出土の碗(Flaring Bowl)

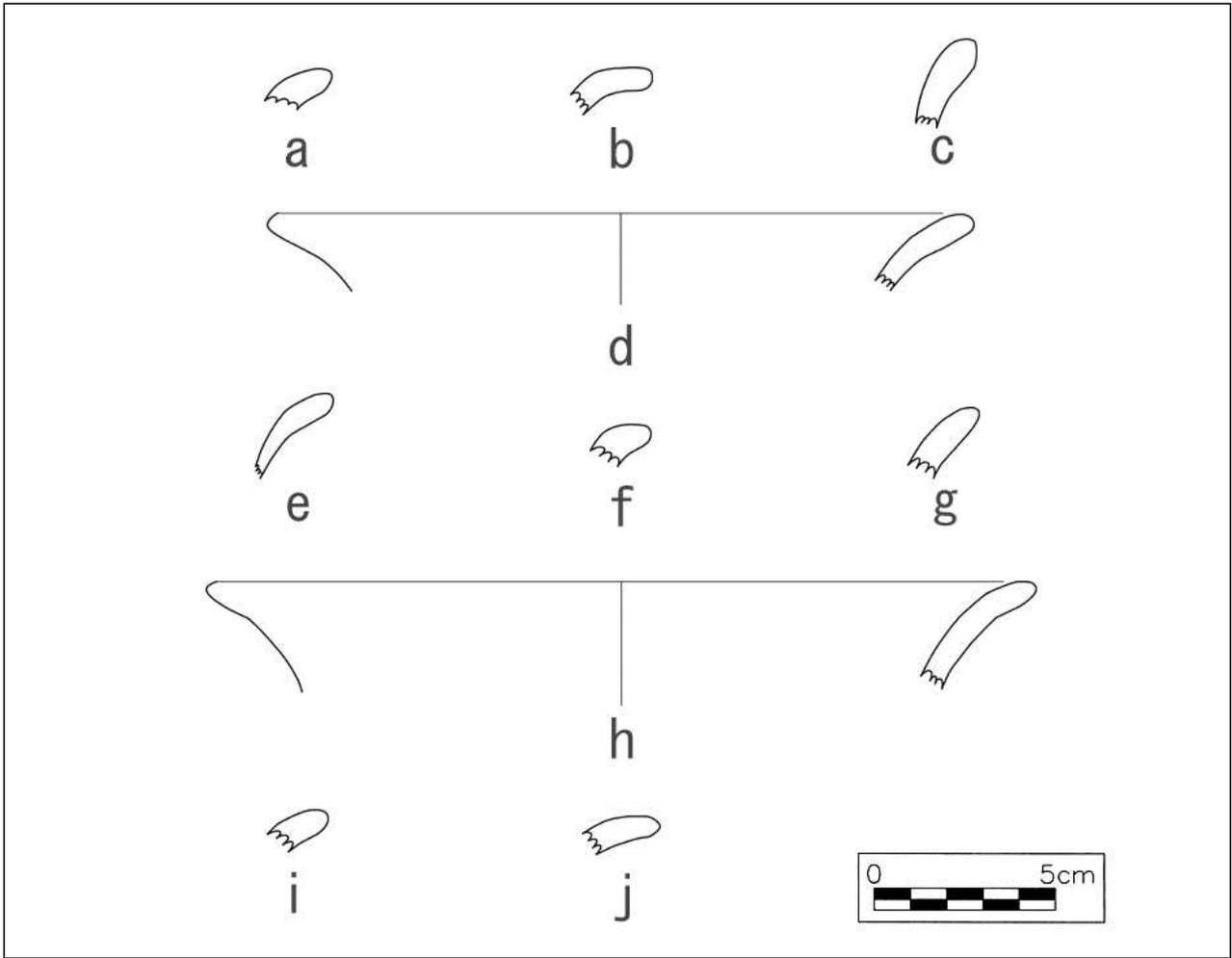


図 6-3-(6)-13 : 建造物 6 (T8) 出土の碗 (Outcurving Bowl)

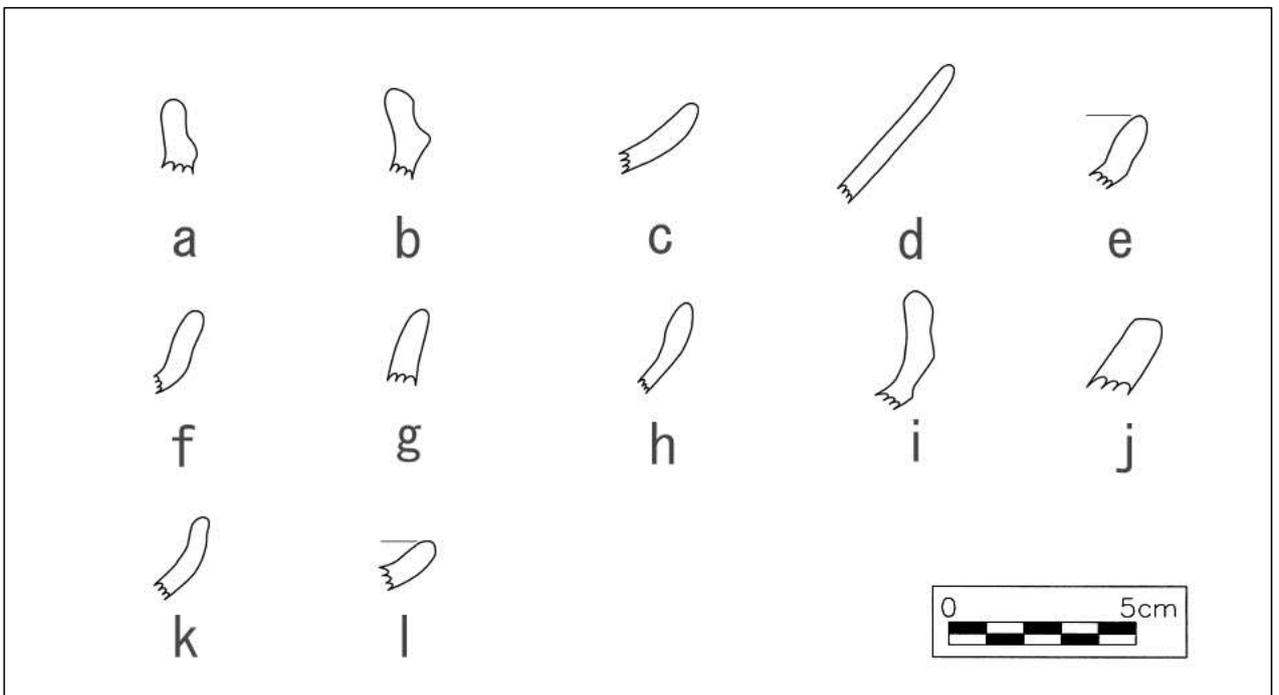


図 6-3-(6)-14 : 建造物 6 (T8) 出土の碗 (Simple Bowl)

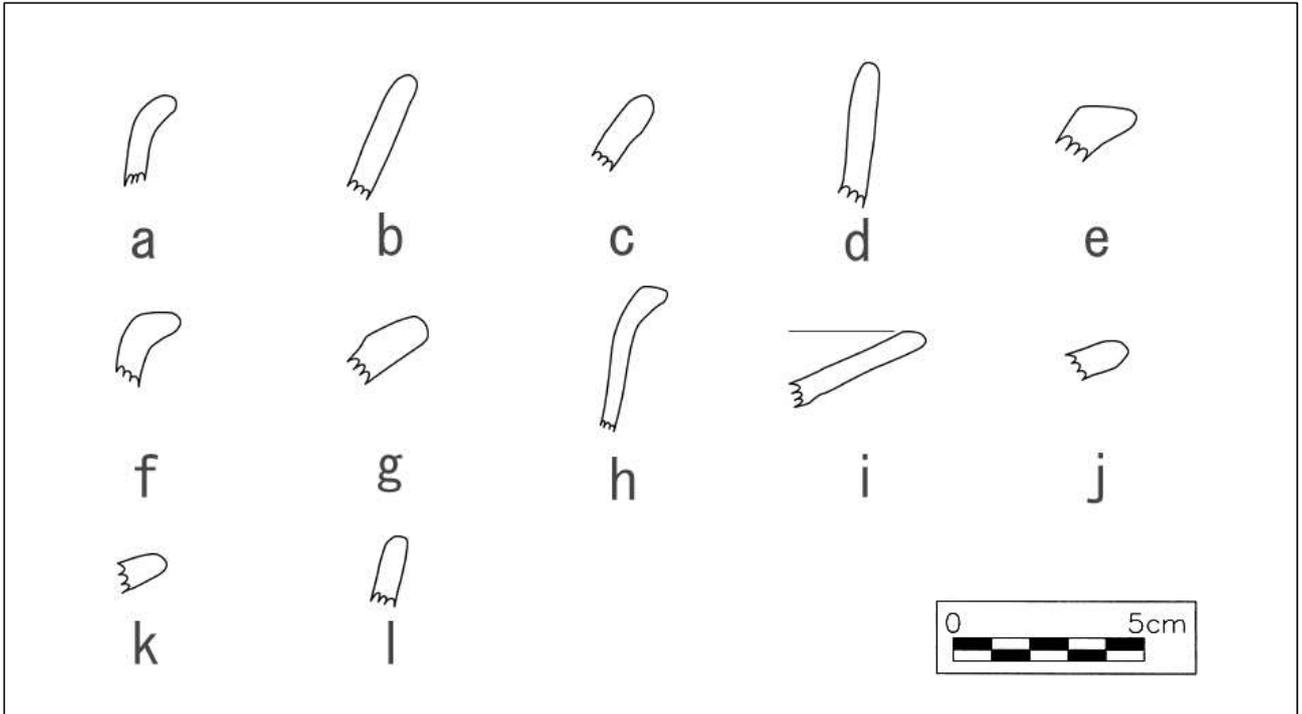


図 6-3-(6)-15 : 建造物 6 (T8) 出土の碗 (Flaring Bowl)

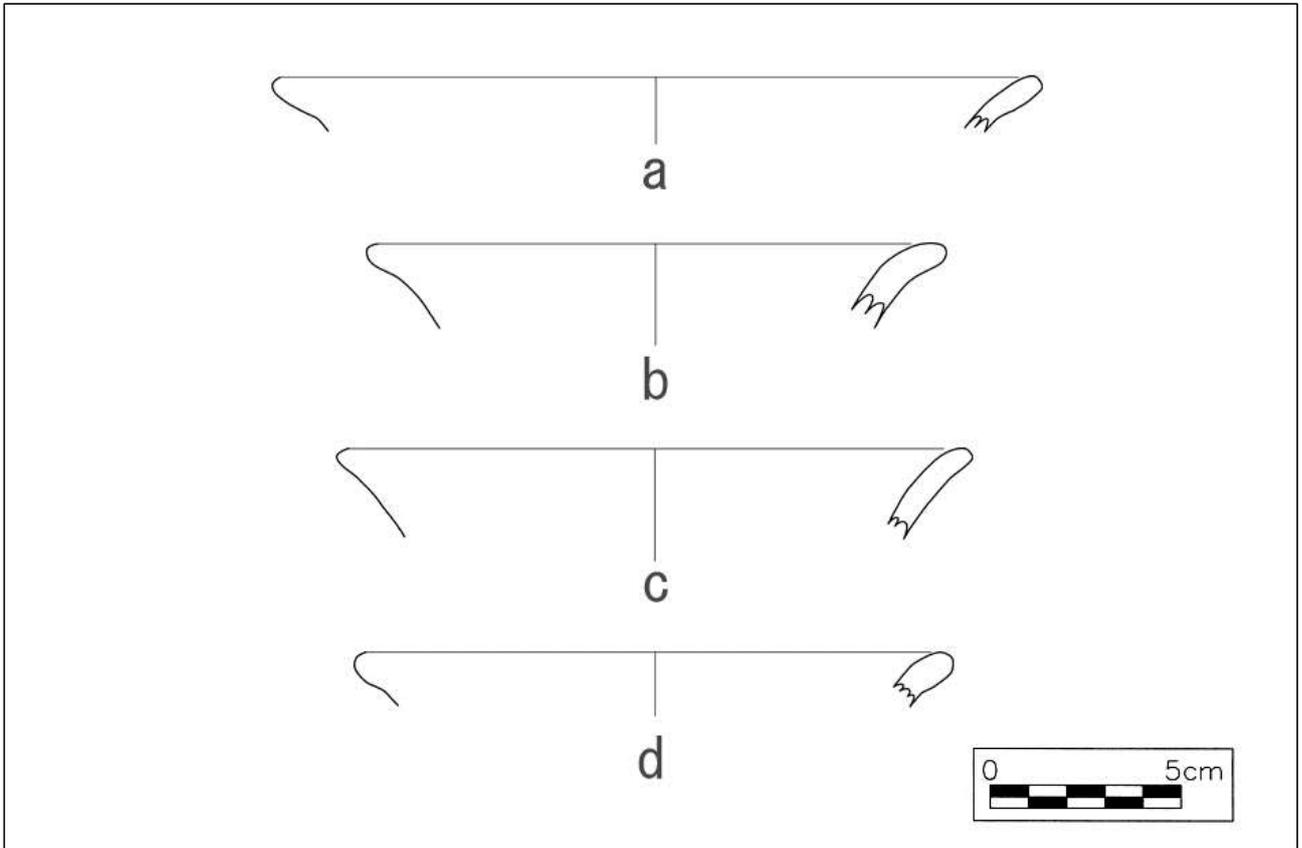


図 6-3-(6)-16 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗 (Outcurving Bowl)



図 6-3-(6)-17 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗 (Simple Bowl)

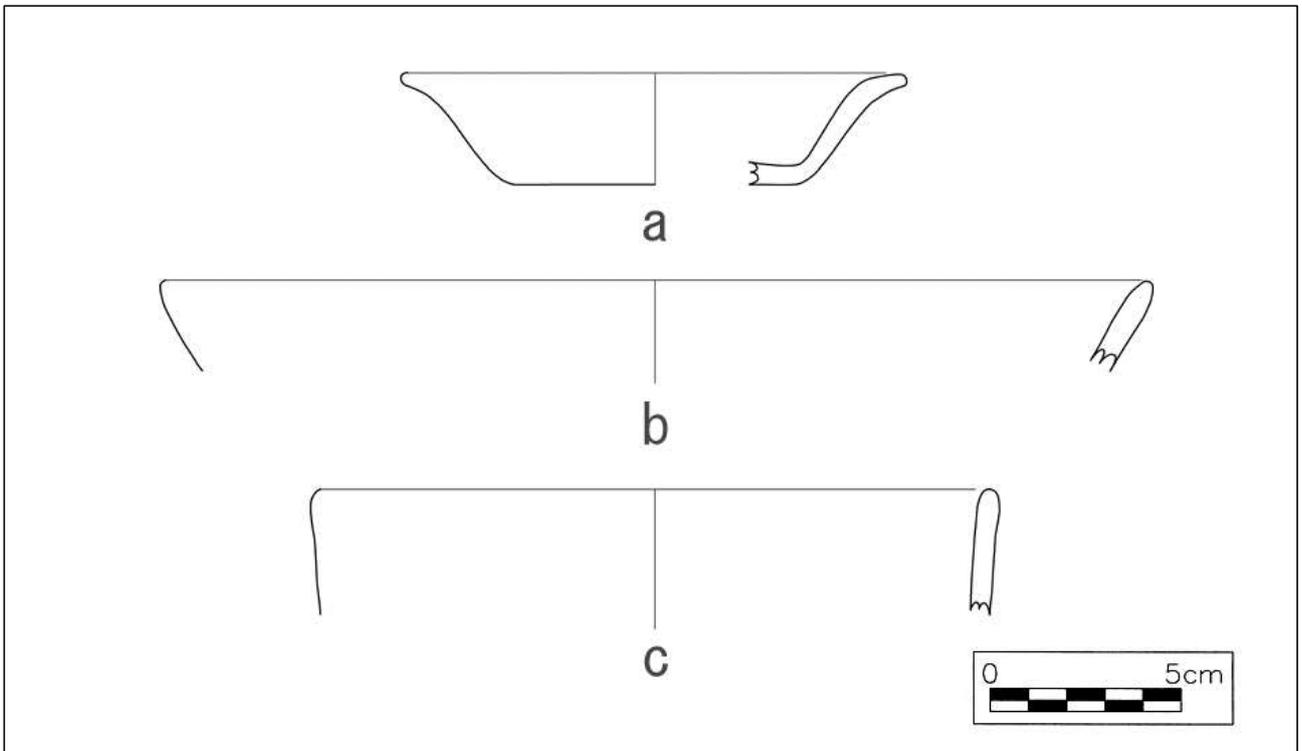


図 6-3-(6)-18 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗 (Flaring Bowl)

(7) 壺 (Jar)

個体数 : N=3 (ミカオトリ期の Polished Ware の褐色グループの中で 0.9%)

出土地点 :

表 6-3-(7)-1 : 壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	1	33.3%	0	0.0%	3	100.0%

図版 : 図 6-3-(7)-1~図 6-3-(7)-2

胎土 : 胎土は、やや粘土質で含有物を若干含む。胎土の色は、オレンジ系 (2.5YR 6/8)、赤褐色系 (5YR 5/6、5YR5/3) 等である。

表面調整 : 外面の仕上げは比較的良好で、良く研磨される。口縁部内面は、研磨されるが胴部内面はナデ調整のみである。色は褐色系であり、暗褐色から赤褐色まで見られる。

装飾 : 胴部に成形による文様が見られるものもある (図 6-3-(7)-2 : a)

器形 : 口縁部は外反する口径 13.6cm の壺が見られる (図 6-3-(7)-1)。

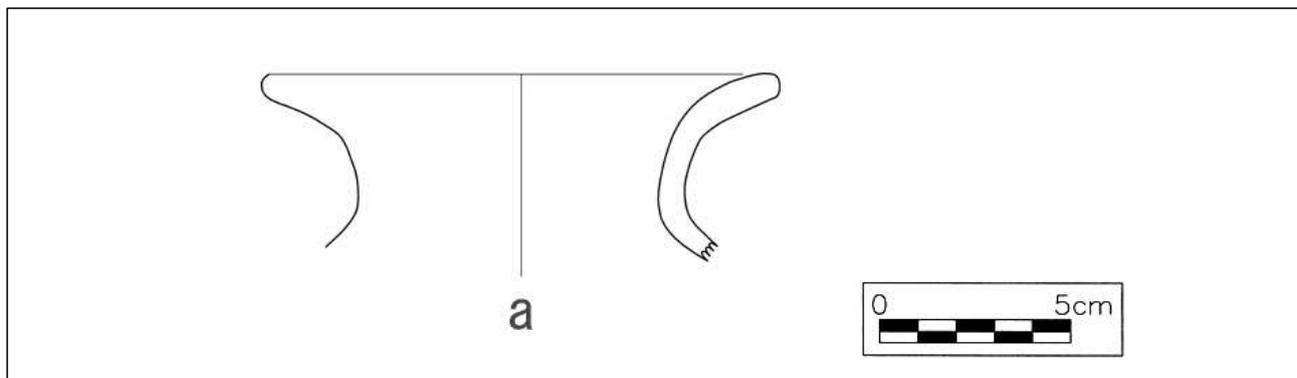


図 6-3-(7)-1 : 建造物 4 (T12) 出土の壺 (図 6-3-(7)-2 : j-1 対応)

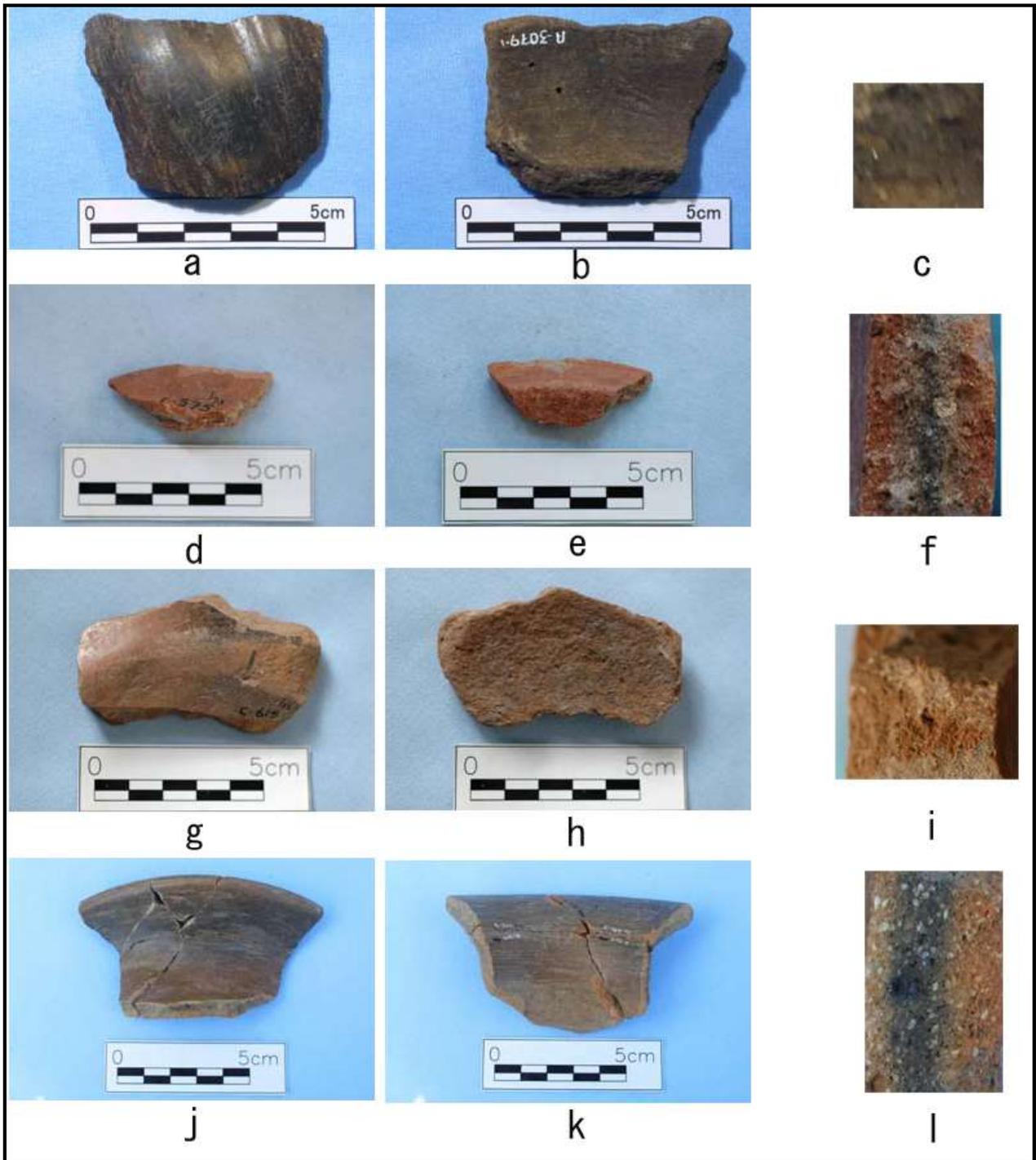


図 6-3-(7)-2 : a-c 建造物 4 (T2) 出土の壺、建造物 7 (Frente C) 出土の壺、
j-l 建造物 4 (T12) 出土の壺

(8) 皿 (Dish)

個体数 : N=12 (ミカオトリ期の Polished Ware の褐色グループの中で 3.4%)

出土地点 :

表 6-3-(8)-1 : 皿の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
皿 (Dish)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	16.7%	0	0.0%	5	41.7%	1	8.3%	4	33.3%	12	100.0%

図版 : 図 6-3-(8)-1 ~ 図 6-3-(8)-2

胎土 : 胎土は、やや粘土質で含有物を若干含む。胎土の色は、オレンジ系 (5YR6/6、2.5YR 6/8)、赤褐色系 (5YR 5/6、5YR5/4、2.5YR5/8) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、良く研磨される。色は褐色系であり、暗褐色から赤褐色まで見られる。

装飾 : 無し。

器形 : 口径 25.4cm で平底の皿が見られる (図 6-3-(8)-1 : c、図 6-3-(8)-1 : j-1)。

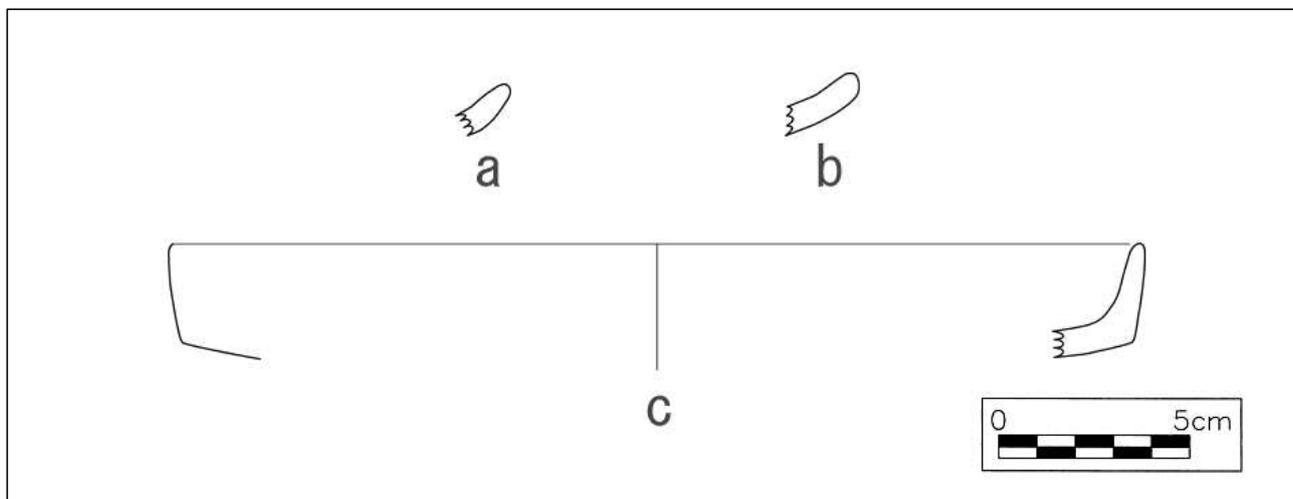


図 6-3-(8)-1 : a-b 建造物 6 (T8) 出土の皿、c 建造部 4 (T12) 出土の皿

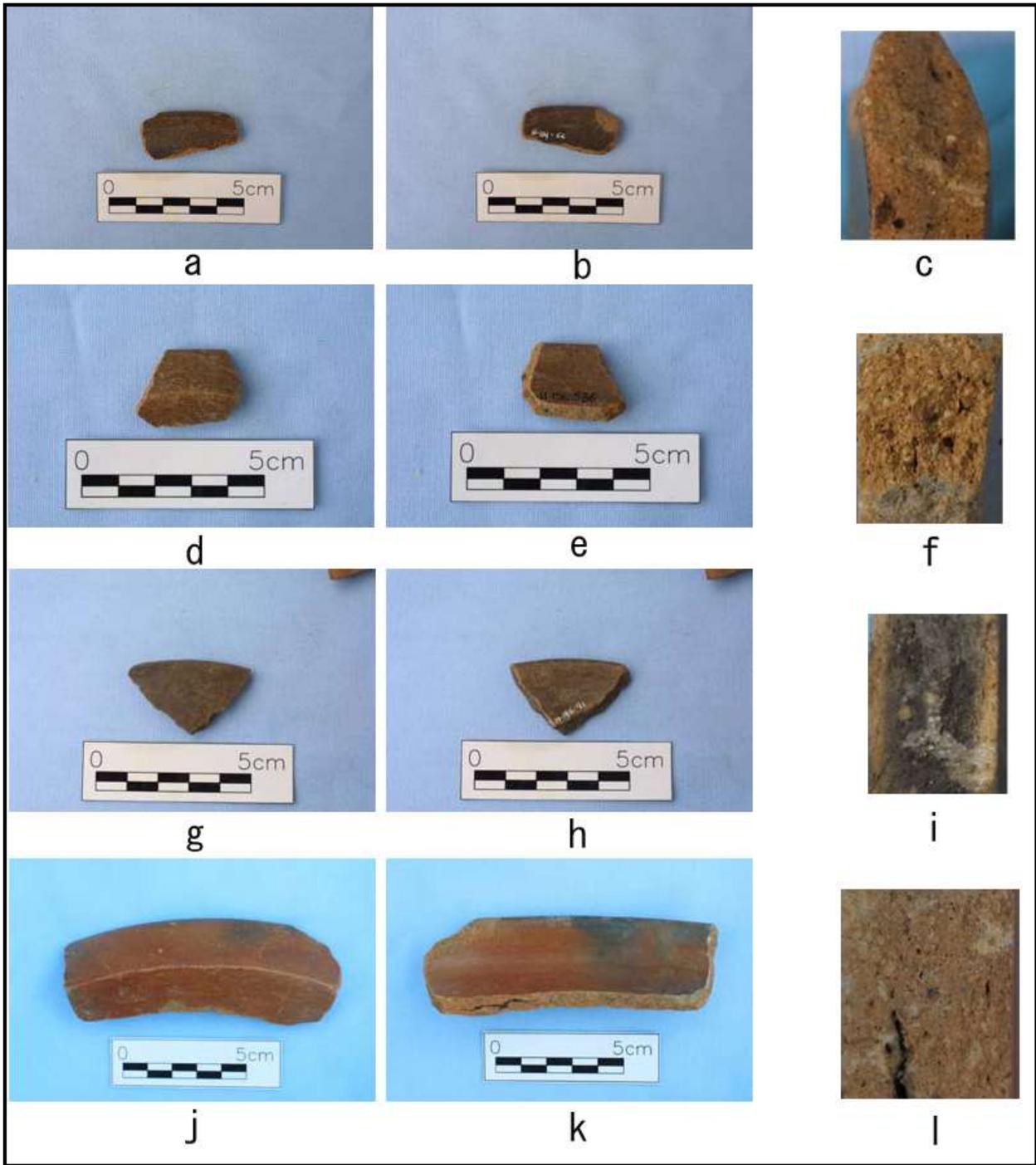


図 6-3-(8)-2 : a-i 建造物 6 (T8) 出土の皿、j-l 建造部 t4 (T12) 出土の皿

(9) ベーズン (Basin)

個体数 : N=7 (ミカオトリ期の Polished Ware の褐色グループの中で 2.0%)

出土地点 :

表 6-3-(9)-1 : ベーズンの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
ベーズン (Basin)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	28.6%	1	14.3%	4	57.1%	0	0.0%	7	100.0%

図版 : 図 6-3-(9)-1~図 6-3-(9)-2

胎土 : 胎土は、やや粘土質で含有物を若干含む。胎土に不燃焼の黒色バンドは見られない。胎土の色は、オレンジ系 (5YR6/6、2.5YR 6/8、2.5YR6/8)、赤褐色系 (5YR 5/6) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは良好で、内外面とも良く研磨される。色はオレンジ系が多い。

装飾 : 無し。

器形 : 口縁部が大きく外反する大型碗であり、口径 35.2cm、32.0cm のものが見られる (図 6-3-(9)-1、図 6-3-(9)-2 : g-1)。

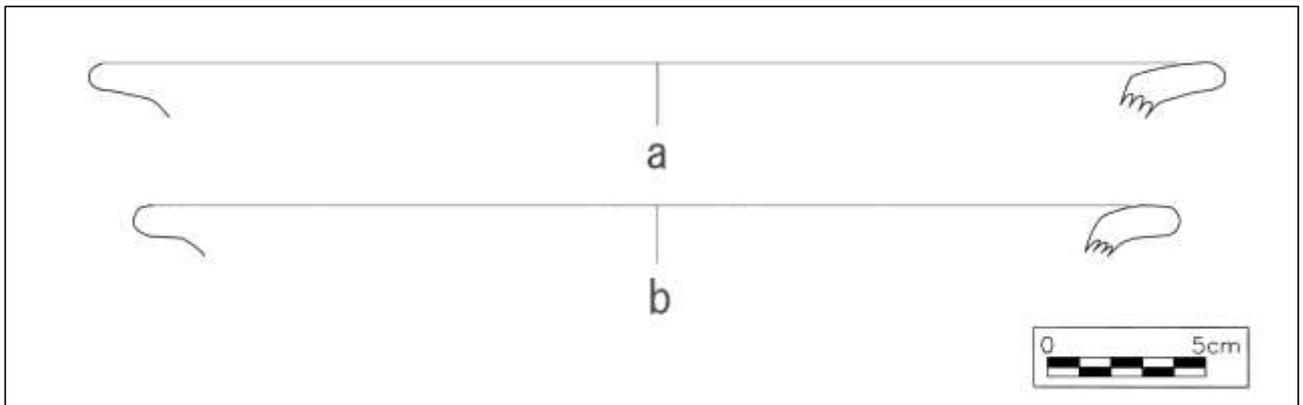


図 6-3-(9)-1 : 建造物 7 (Frente C) 出土のベーズン

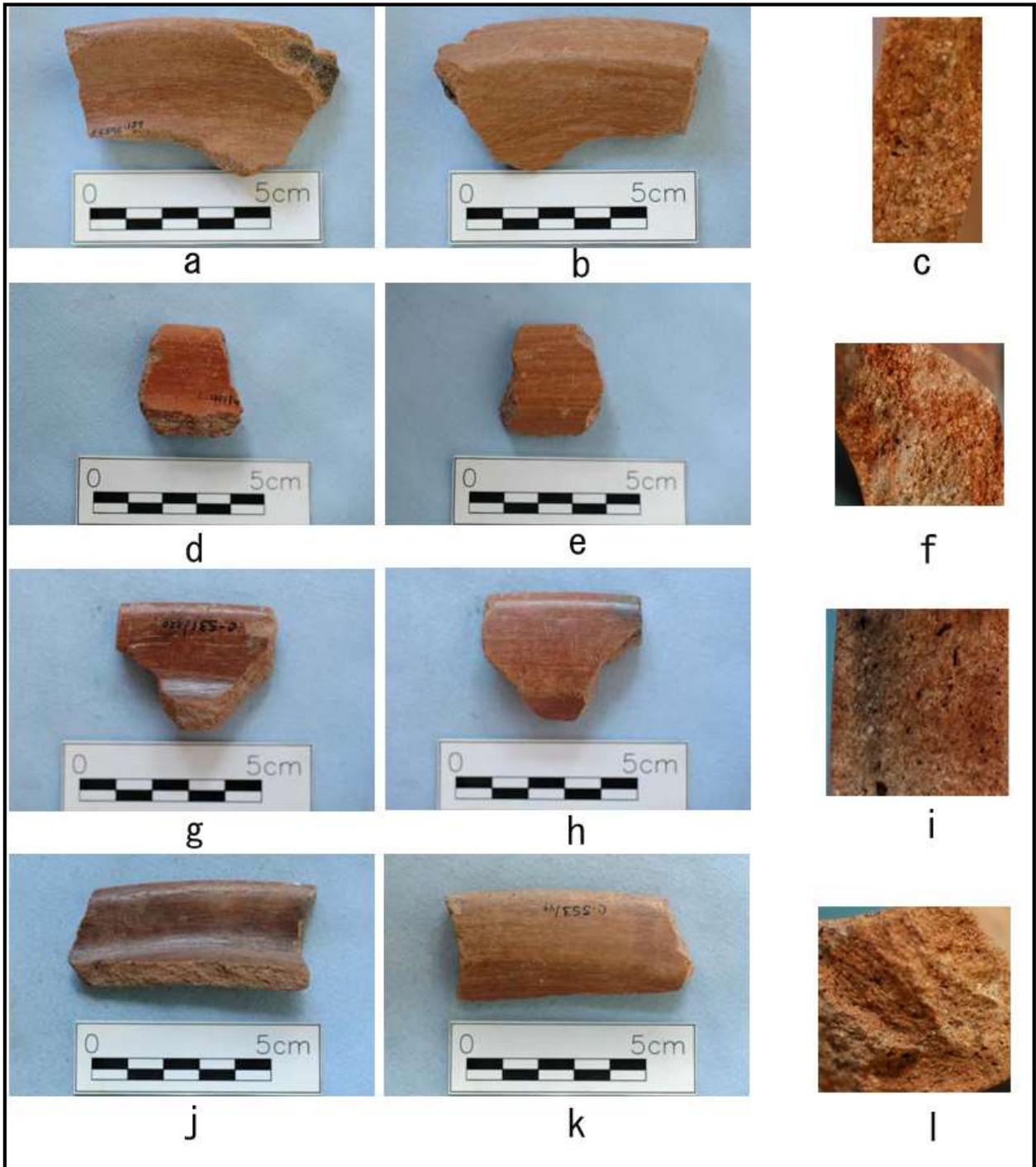


図 6-3-(9)-2 : a-c: 建造物 6 (T2) 出土のベースン、d-l 建造物 7 (Frente C) 出土のベースン

(10) 円筒形壺 (Vase)

個体数 : N=11 (ミカオトリ期の Polished Ware の褐色グループの中で 3.2%)

出土地点 :

表 6-3-(10)-1 : 円筒形壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	9.1%	1	9.1%	4	36.4%	2	18.2%	3	27.3%	11	100.0%

図版 : 図 6-3-(10)-1~図 6-3-(10)-5

胎土 : 胎土は、やや粘土質で含有物を若干含む。胎土に不燃焼の黒色バンドは時々見られる。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/6、5YR6/6、2.5YR 6/8、2.5YR6/8)、赤褐色系 (5YR5/8、5YR 5/6) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは良好で、外面は良く研磨される。色は褐色系が多い。

装飾 : 数は少ないが焼成後の沈線 (図 6-3-(10)-4:a、図 6-3-(10)-5:g) がある。

器形 : 口縁部は大きく外反し、底部は平底である。口径 22.0 のものが見られる (図 6-3-(10)-2)。器厚は碗より厚い。

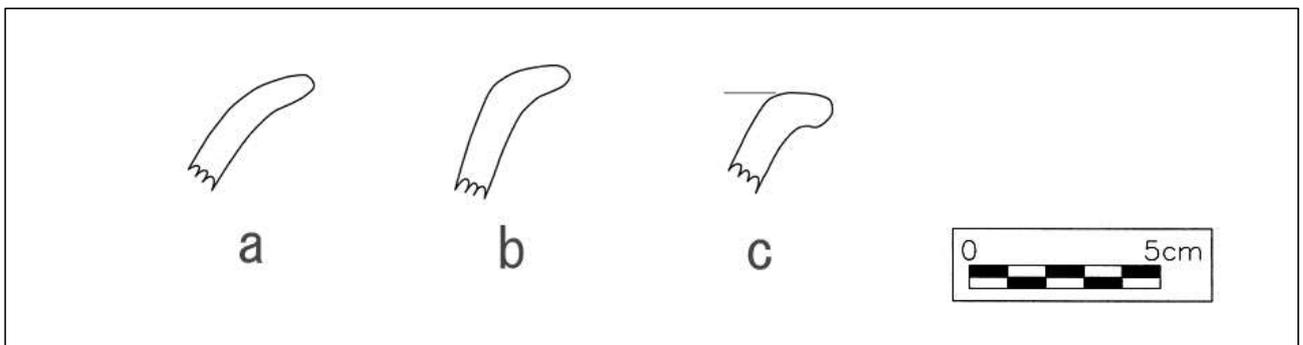


図 6-3-(10)-1 : 建造物 6 (T8) 出土の円筒形壺

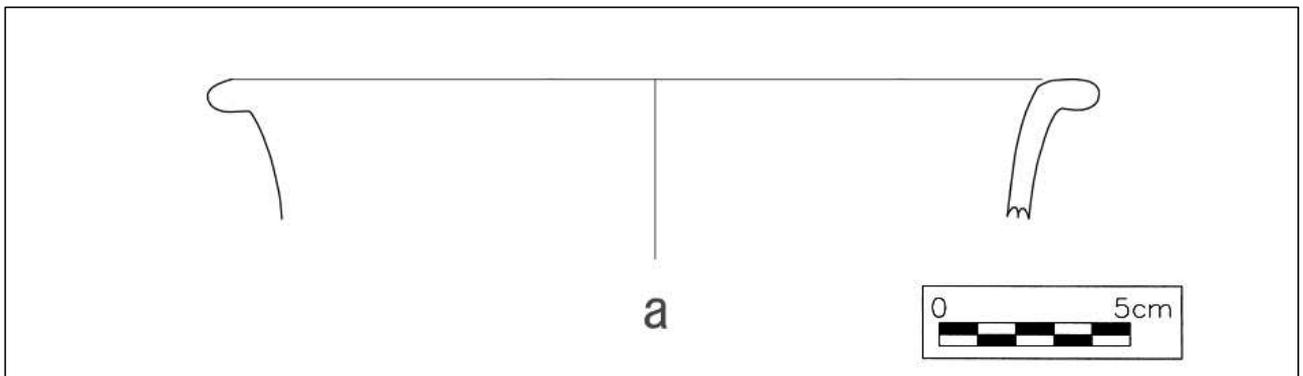


図 6-3-(10)-2 : 建造物 7 (Frente C) 出土の円筒形壺

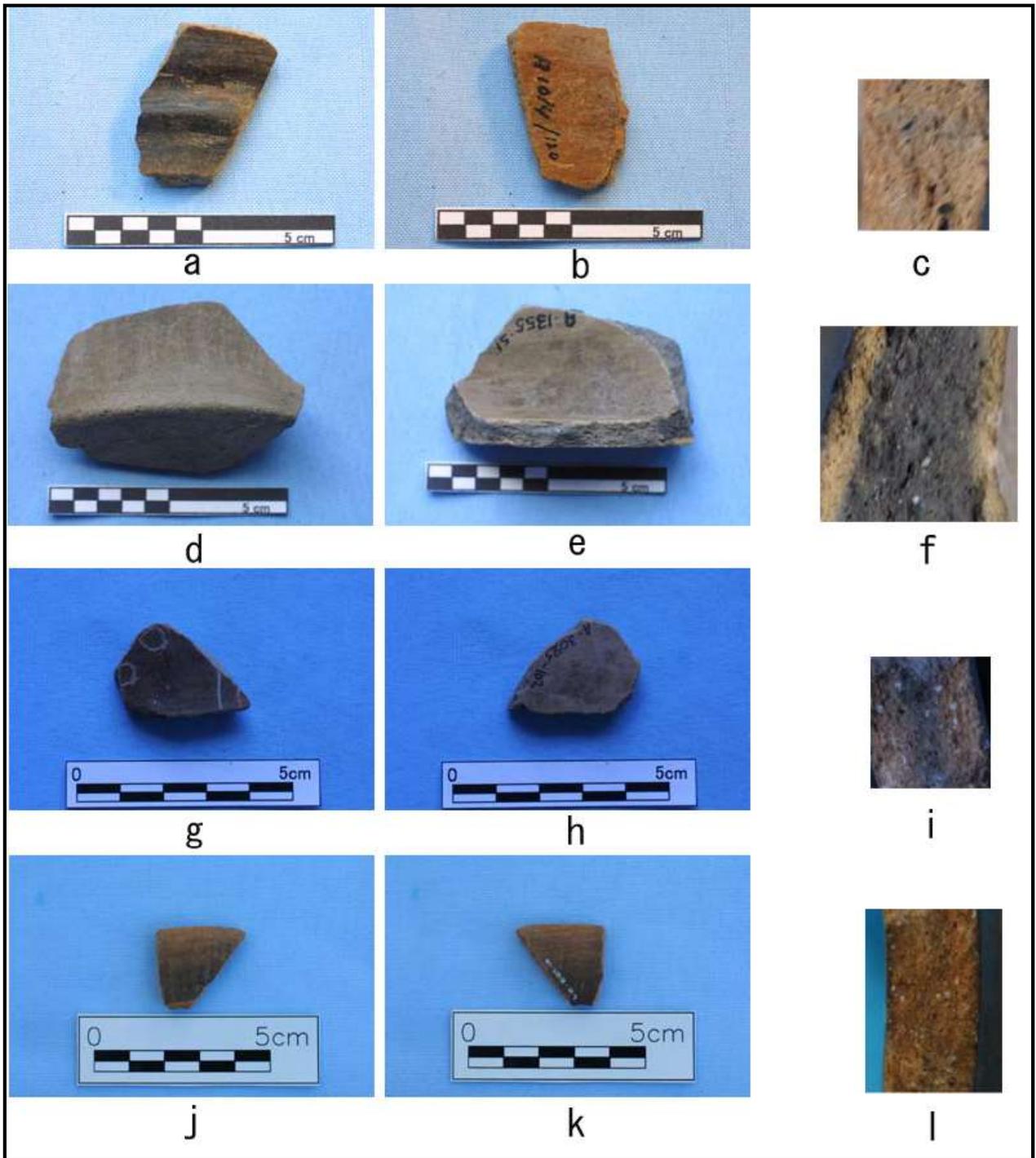


図 6-3-(10)-3 : a-c 建造物 2 (T1) 出土の円筒形壺、
 d-f 建造物 2 (T2) 出土の円筒形壺、
 g-i 建造物 4 (T2) 出土の円筒形壺、
 j-l 建造物 4 (T12) 出土の円筒形壺

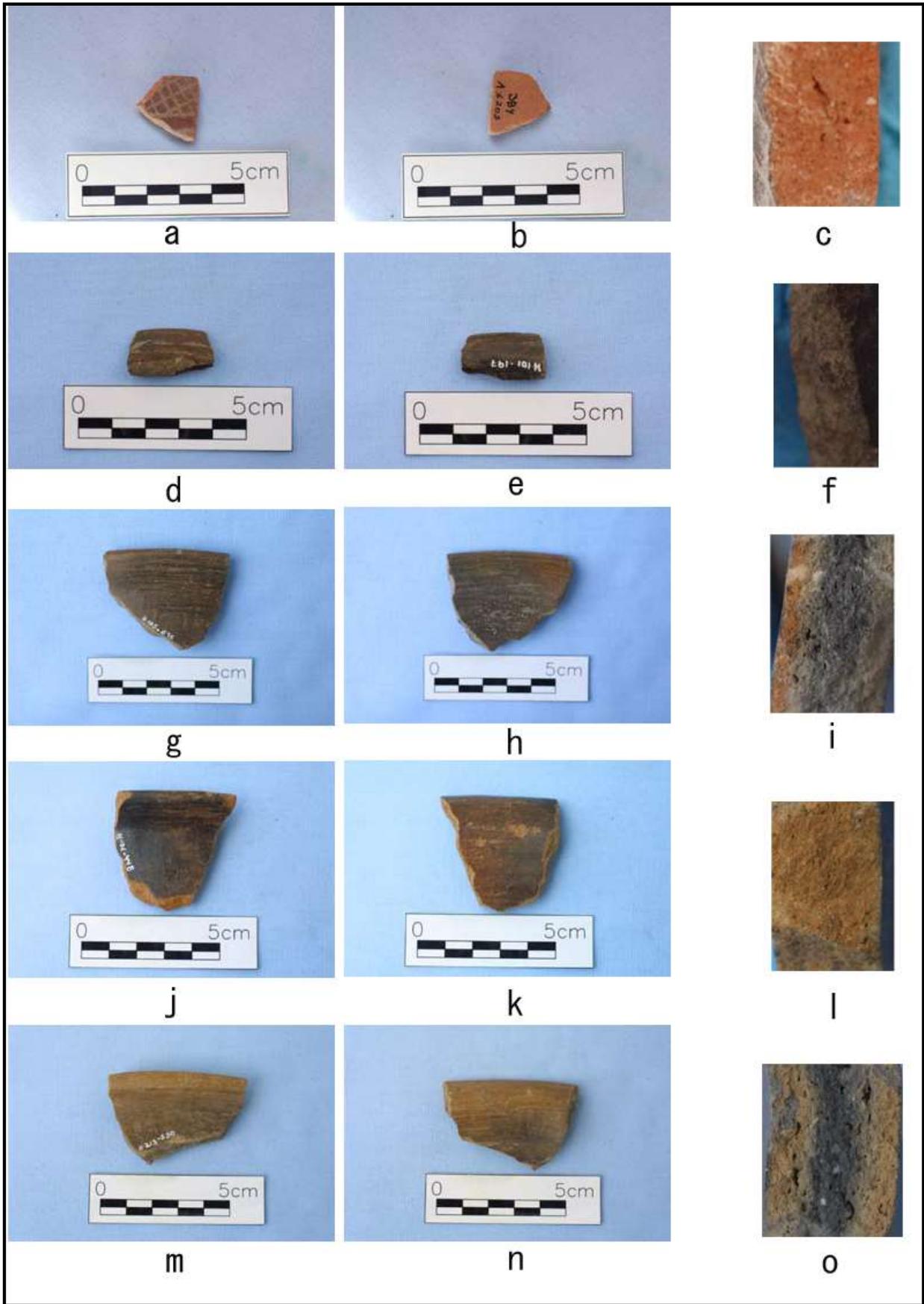


図 6-3-(10)-4 : a-c 建造物 6 (T2) 出土の円筒形壺、d-l 建造物 6 (T8) 出土の円筒形壺

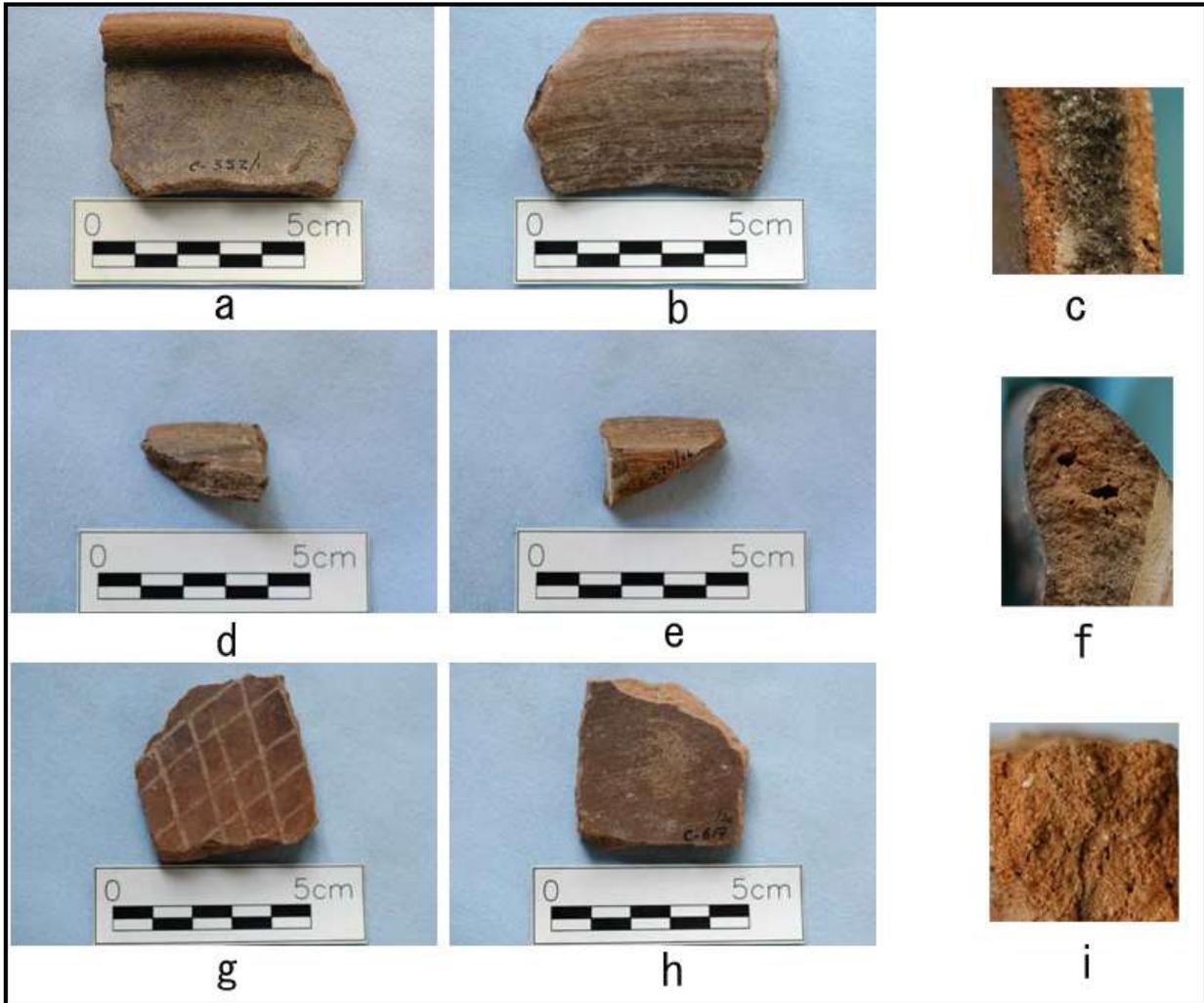


図 6-3-(10)-5 : 建造物 7 (Frente C)出土の円筒形壺

(11) 長頸壺 (Florero)

個体数 : N=5 (ミカオトリ期の Polished Ware の褐色グループの中で 1.4%)

出土地点 :

表 6-3-(11)-1 : 長頸壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
長頸壺 (Florero)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	40.0%	0	0.0%	3	60.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%

図版 : 図 6-3-(11)-1~図 6-3-(11)-2

胎土 : 胎土は、やや粘土質で含有物はほとんど含まない。胎土に不燃焼の黒色バンドは見られない。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/6、7.5YR6/4、5YR6/4)、赤褐色系 (5YR 5/6) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは良好で、外面と口縁部内側は良く研磨される。色は褐色系が多い。

装飾 : 無し。
 器形 : 口縁部は大きく外反しする。

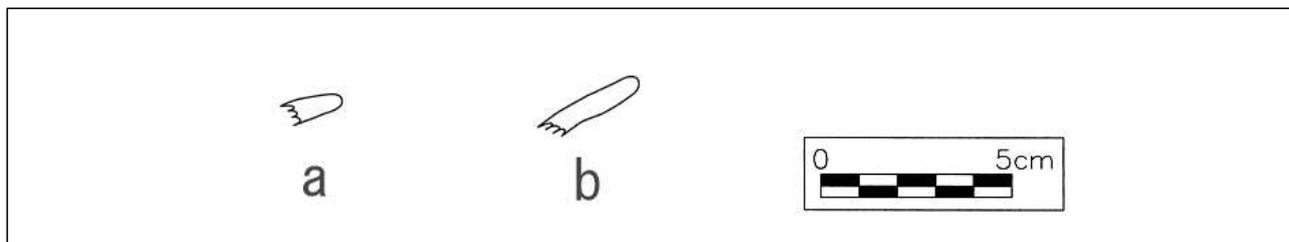


図 6-3-(11)-1 : 建造物 6 (T8) 出土の長頸壺

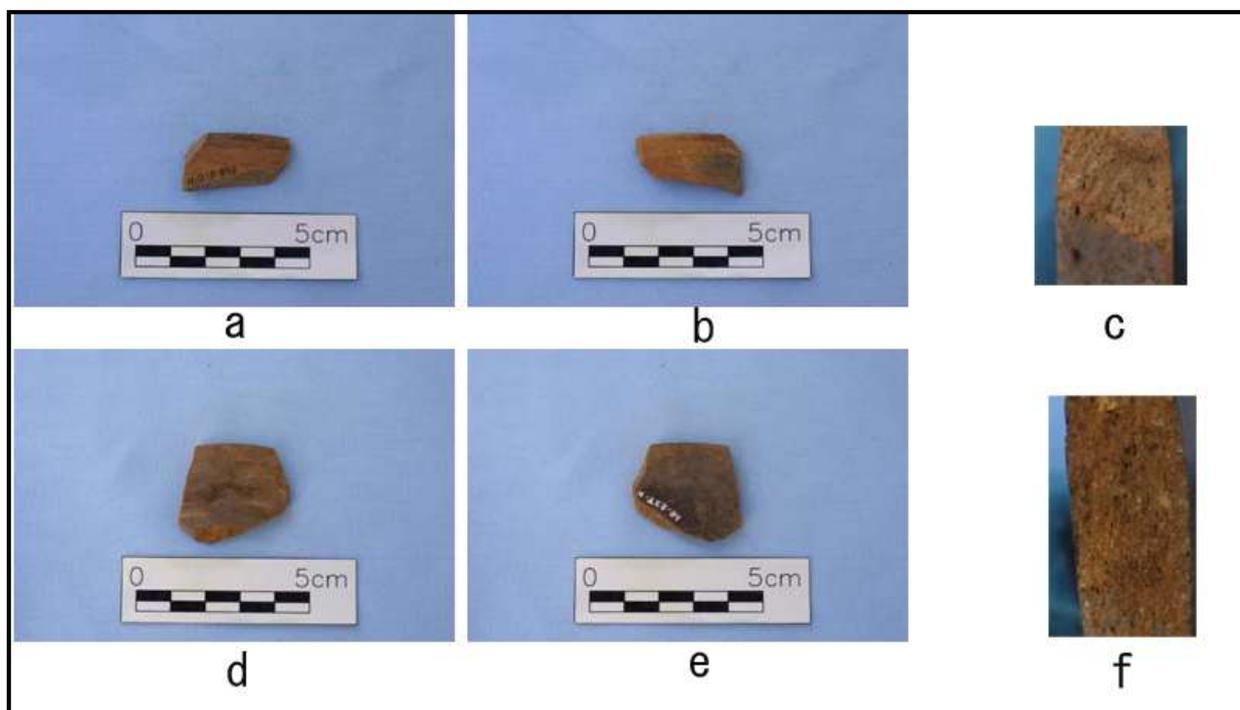


図 6-3-(11)-2 : 建造物 6 (T8) 出土の長頸壺 (図 6-3-(11)-1 と同一個体)

(12) まとめ

「月のピラミッド」出土のミカオトリ期の Polished Ware は、黒色グループや褐色グループの両グループにおいて、器種では碗が最も多く出土している (表 6-3-(12)-1、表 6-3-(12)-2)。また、この時期の胎土は、サクワリ期のような多くの白色の含有物を含むオレンジ系や赤褐色系の胎土はなくなり、含有物の比較的少ない良質の胎土に変わる。また、碗や円筒形壺では、Nubbin Supports を有する土器が見られる。装飾は、焼成後に沈線が施されるものも見られ、そのモチーフは平行線やクロスハッチなどである (図 6-3-(12)-1)。

表 6-3-(12)-1 : Polished Ware の黒色グループの器種別、出土地別構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	15	93.8%	0	0.0%	97	93.3%	7	87.5%	76	82.6%	35	94.6%	4	100.0%	234	89.7%
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	1	6.3%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.1%
皿 (Dish)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	3.8%	1	12.5%	7	7.6%	1	2.7%	0	0.0%	13	5.0%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	4.3%	1	2.7%	0	0.0%	5	1.9%
長頸壺 (Florero)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.9%	0	0.0%	4	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	6	2.3%
合計	0	0.0%	0	0.0%	16	100.0%	0	0.0%	104	100.0%	8	100.0%	92	100.0%	37	100.0%	4	100.0%	261	100.0%

表 6-3-(12)-2 : Polished Ware の褐色グループの器種別、出土地別構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	6	100.0%	4	100.0%	110	94.8%	19	86.4%	128	90.1%	34	81.0%	9	56.3%	310	89.1%
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	1	0.7%	1	2.4%	0	0.0%	3	0.9%
皿 (Dish)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.7%	0	0.0%	5	3.5%	1	2.4%	4	25.0%	12	3.4%
ベーズン (Basin)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	9.1%	1	0.7%	4	9.5%	0	0.0%	7	2.0%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	1	4.5%	4	2.8%	2	4.8%	3	18.8%	11	3.2%
長頸壺 (Florero)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.7%	0	0.0%	3	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	5	1.4%
合計	0	0.0%	0	0.0%	6	100.0%	4	100.0%	116	100.0%	22	100.0%	142	100.0%	42	100.0%	16	0.0%	348	100.0%

ラットレイによると、Polished Ware では、大きな変化が認められる。表面の色により、黒色系、褐色系(5YR 3/4、2.5YR 3/6)そして Chocolate Brown(5YR 4/4)の3種類のグループに分けられる。特に、Chocolate Brown は、ミカオトリ期の特徴的な色であり、良く研磨された光沢のある表面となり、碗や円筒形壺の器種が見られる。Polished Ware の器種としては、壺、碗(Simple Bowl、Flaring Bowl、Outcurving Bowl)、円筒形壺、皿、長頸壺、トラロックがある。口縁部が大きく外反し、平底の底部に Nubbin Supports が付く Outcurving Bowl は、この時期に出現する。また、Nubbin Support のついた Flaring Bowl もこの時期の典型的な器形である。Nubbin Supports の形は、丸いものから三角錐状のものまで様々であり、底部の縁に3個つけられる。壺は黒色系、褐色系の両方のグループに見られるが、ミカオトリ期には胴部に縦の溝を掘り込んだ Fluted Jar が出現する。表面が良く研磨され光沢のある黒色の長頸壺は、一般に無装飾のタイプが主であるが、胴部に Fluting の装飾が施されるものもある。沈線の装飾は碗や円筒形壺の器種に見られ、デザインは Cross-hatched Triangles、階段状のモチーフ、2本の平行線で描いた花の文様等が

ある。また、新しいスタイルとしては、土器のある部分を研磨せず無光沢の状態にしておいて、その部分を沈線で囲み無光沢の部分強調する”Zoned and Incised”がこの時期に出現する。胎土は、多少のテンパーを含むが良質で、明褐色（7.5YR 6/6、5YR 5/6）から赤褐色(5YR 7/8)の色で、未焼成の黒色バンドが時々見られる（Rattray 2001:157-159）。

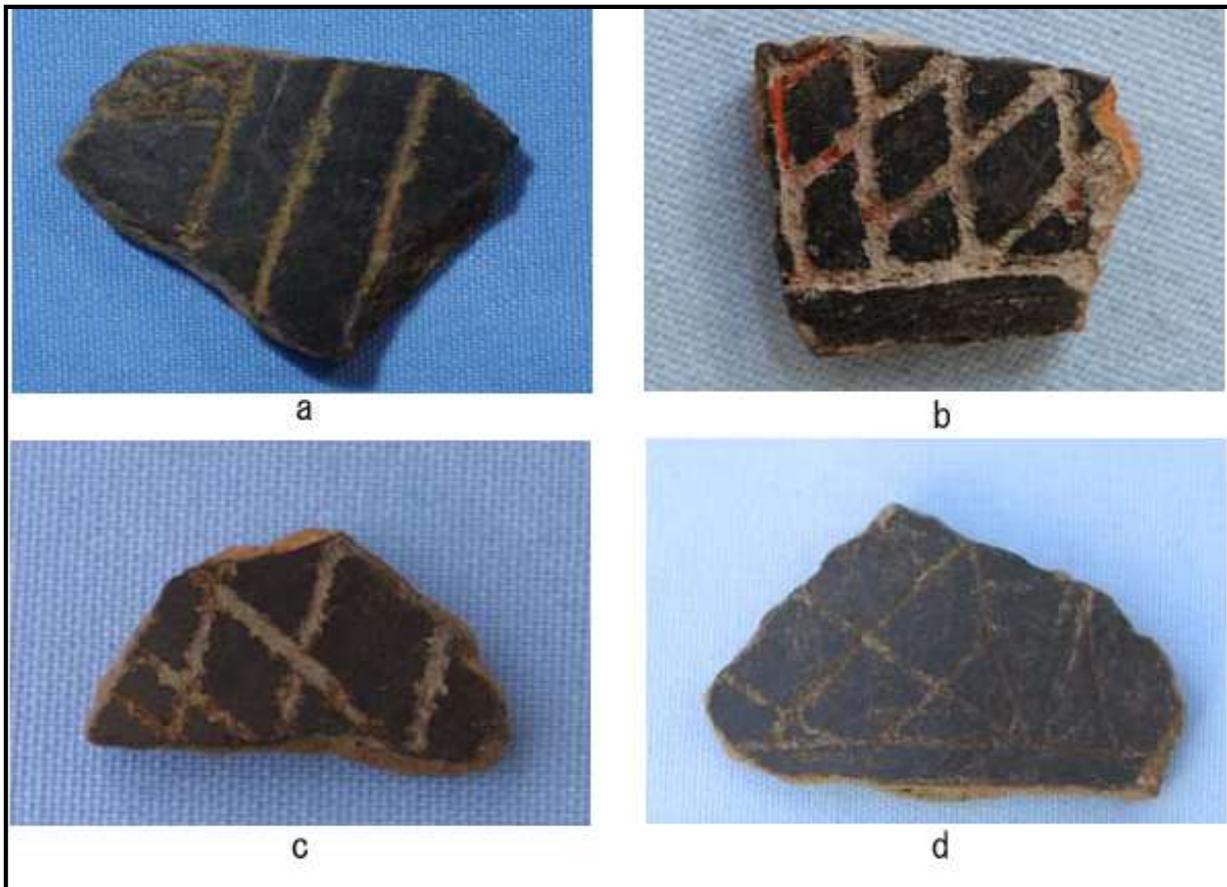


図 6-3-(12)-1 : 「月のピラミッド」出土の沈線文様

6-4 Painted Ware (個体数 N=70、ミカオトリ期全体の中で 8.4%)

<Monochrome Red グループ (個体数 N=33) >

(1) 碗 (Bowl)

個体数 : N=27 (ミカオトリ期の Painted Ware の Monochrome Red グループの中で 81.8%)

出土地点 :

表 6-4-(1)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	29.6%	6	22.2%	10	37.0%	3	11.1%	0	0.0%	27	100.0%

図版 : 図 6-4-(1)-1 ~ 図 6-4-(1)-6

胎土 : 胎土は、やや粘土質で含有物はほとんど含まれない。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR 6/4、5YR6/8、5YR 6/6、5YR 6/4、2.5YR 6/8)、褐色系 (7.5YR 5/6)、赤褐色系 (5YR 5/8、5YR 5/6、2.5YR5/8、2.5YR5/6) 等である。パトラチケ期の Monochrome Red グループの土器と比較して、胎土はオレンジ系や赤褐色系の色が多く、また焼成も良好である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、研磨される。外面の色は赤色、内面はオレンジ系の胎土の色である。

装飾 : 一般的に、外面および口縁部内面に赤色のペイントが施される。

器形 : 半球形の Simple Bowl がある (図 6-4-(1)-1)。

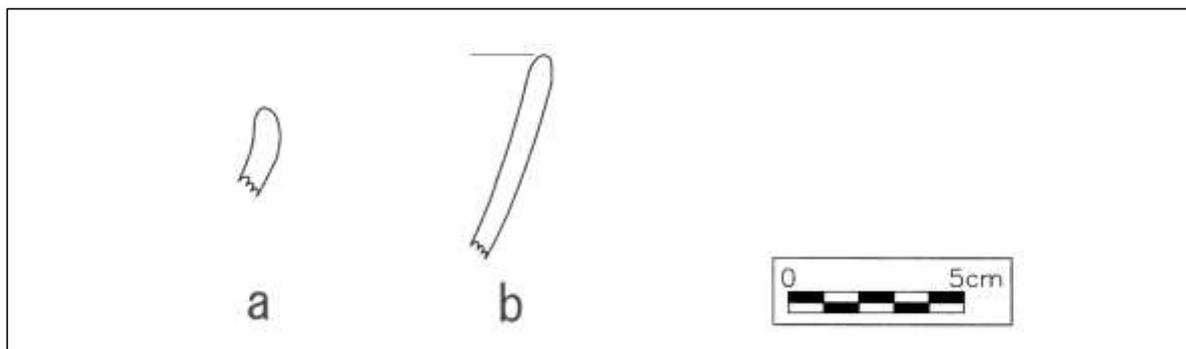


図 6-4-(1)-1 : 建造物 4 (T12) 出土の碗 (Simple Bowl)

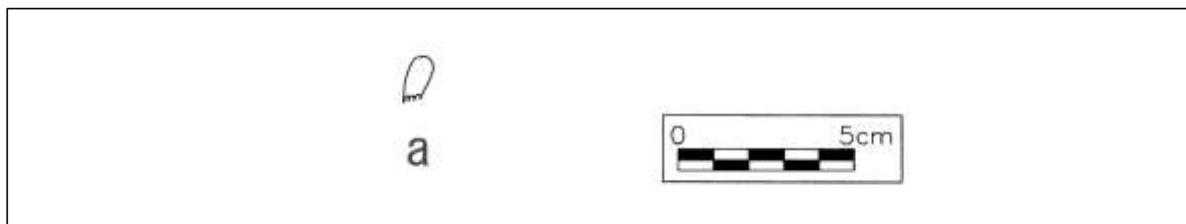


図 6-4-(1)-2 : 建造物 4 (T12) 出土の碗

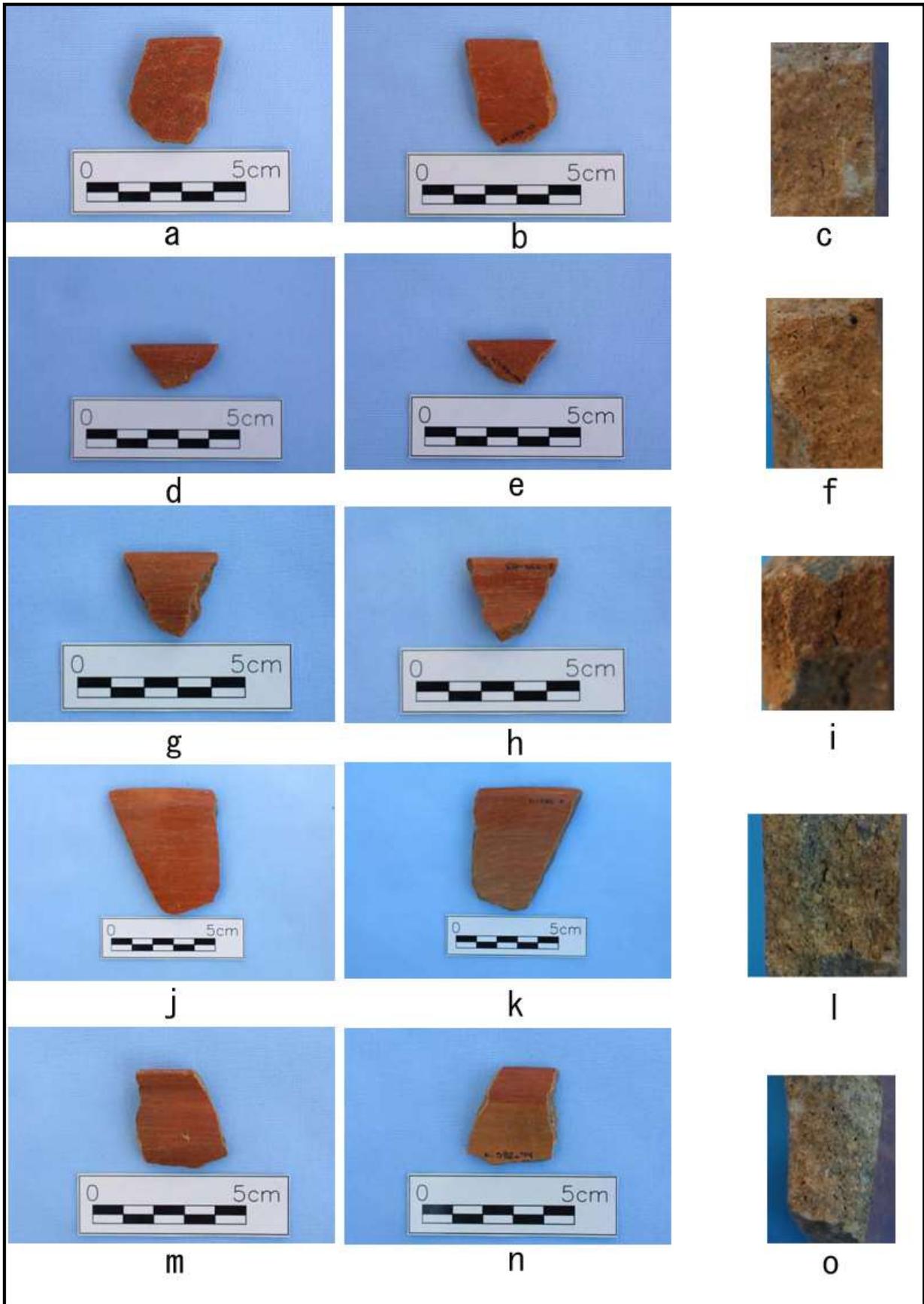


図 6-4-(1)-3 : 建造物 4 (T12) 出土の碗

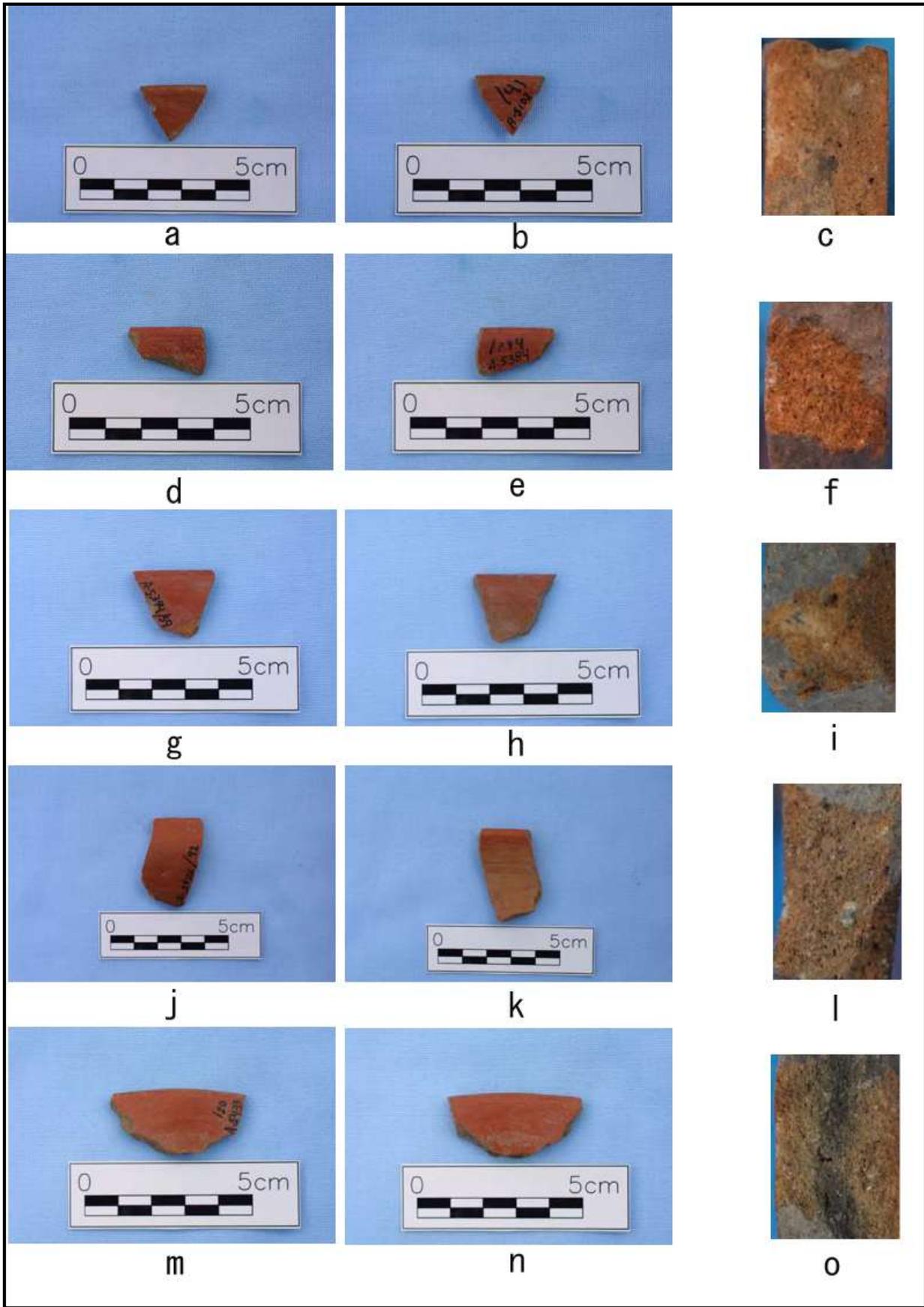


図 6-4-(1)-4 : 建造物 5 (T2) 出土の碗

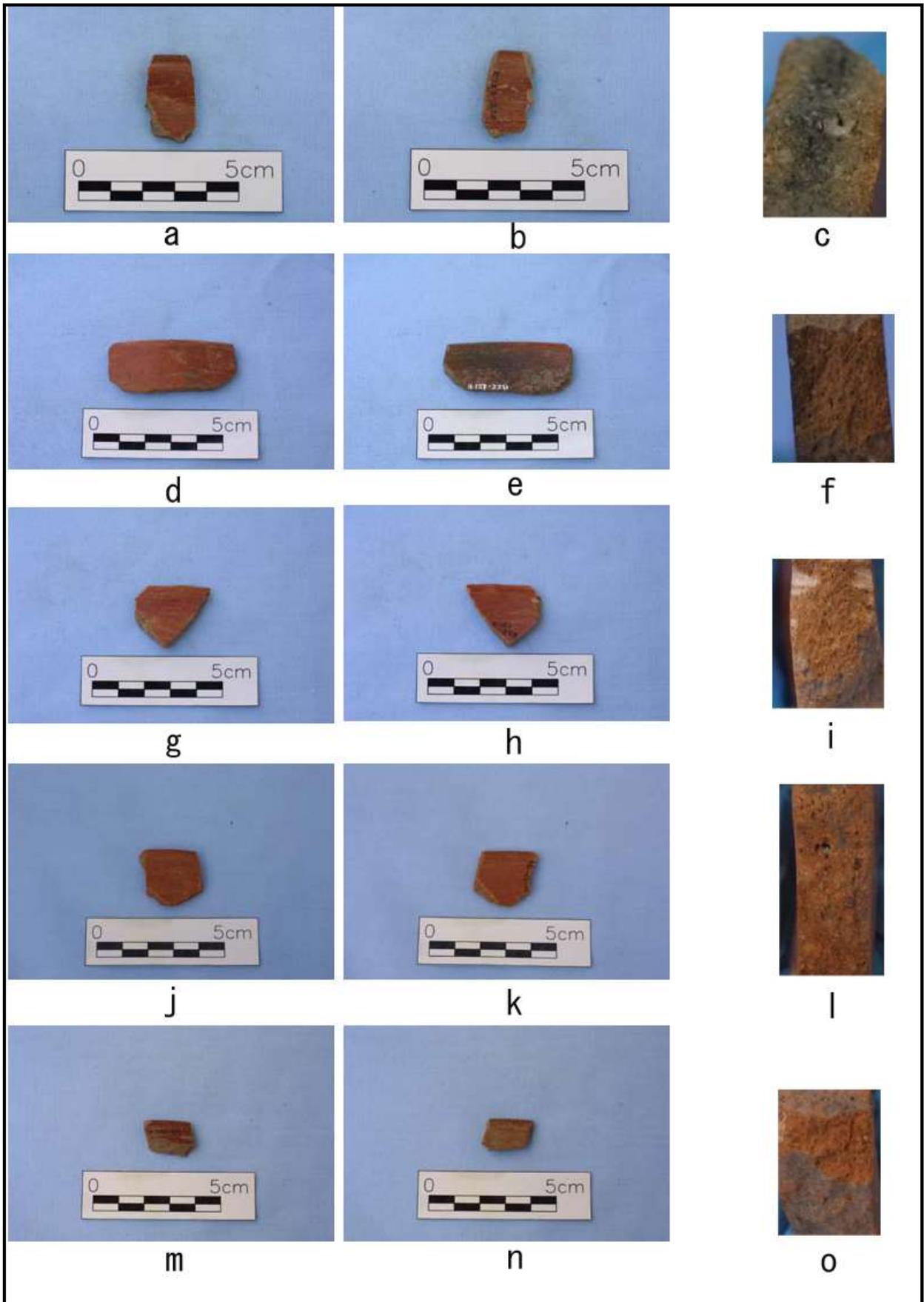
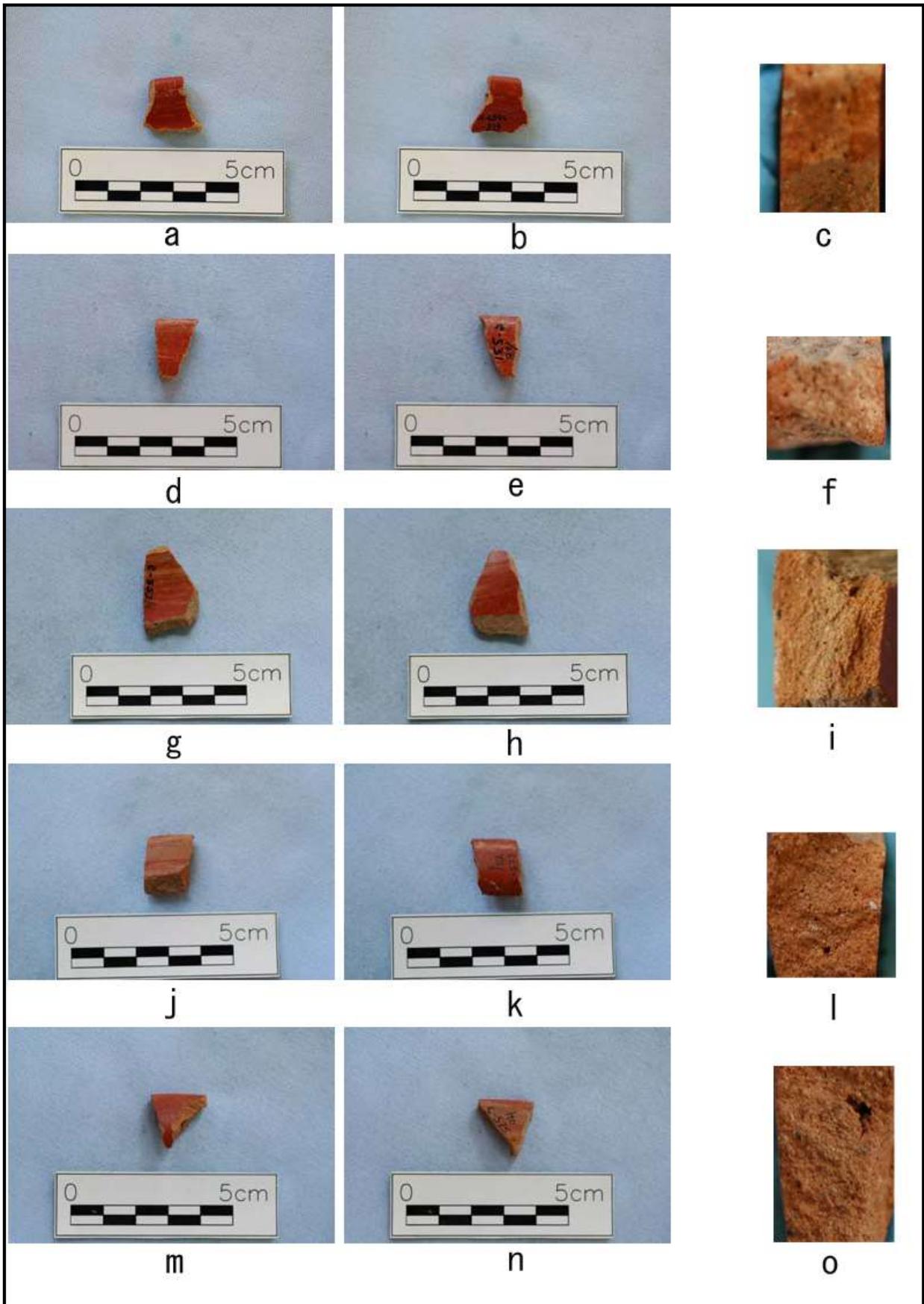


図 6-4-(1)-5 : 建造物 6 (T8) 出土の碗



図

6-4-(1)-6 : a-c 建造物 6 (T2) 出土の碗、d-o 建造物 7 (Frente C) 出土の碗

(2) 円筒形壺 (Vase)

個体数 : N=6 (ミカオトリ期の Painted Ware の Monochrome Red グループの中で 18.2%)

出土地点 :

表 6-4-(2)-1 : 円筒形壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	16.7%	1	16.7%	1	16.7%	2	33.3%	1	16.7%	6	100.0%

図版 : 図 6-4-(2)-1~図 6-4-(2)-2

胎土 : 胎土は、やや粘土質で含有物はほとんど含まれない。胎土の色は、オレンジ系 (2.5YR 6/8)、赤褐色系 (5YR 5/8) 等である。パトラチケ期の Monochrome Red グループの土器と比較して、胎土は含有物が少なくまたオレンジ系や赤褐色系の色が多く、また焼成も良好である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、研磨される。外面の色は赤色、内面はオレンジ系の地の胎土の色である。

装飾 : 一般的に、外面および口縁部内面に赤色のペイントが施される。

器形 : 口縁部は肥厚し、水平まで外反する (図 6-4-(2)-2)。

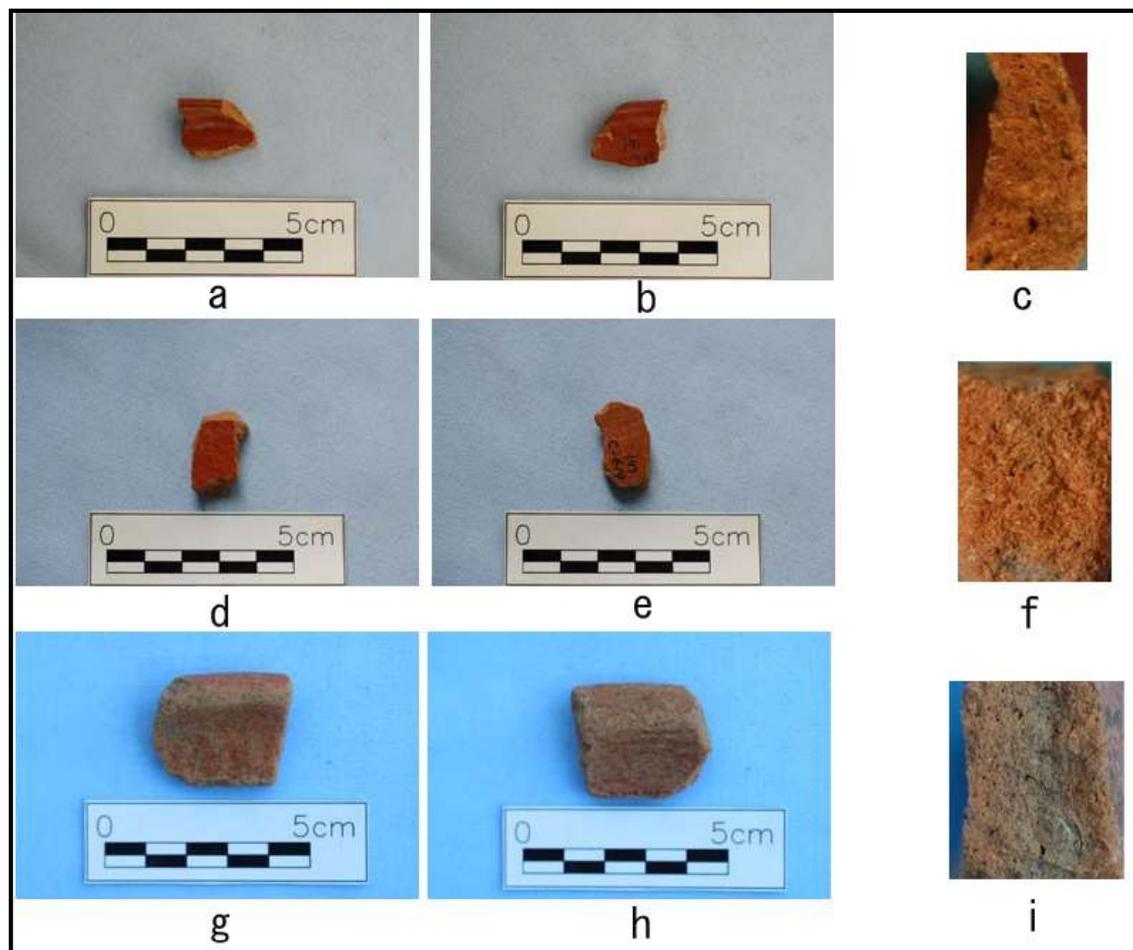


図 6-4-(2)-1 : a-f 建造物 7 (Frente C)出土の円筒形壺、g-i 建造物 4 (T12) 出土の円筒形壺

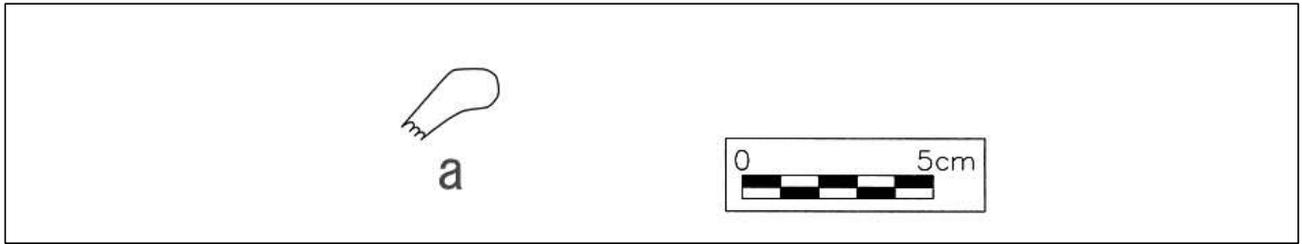


図 6-4-(2)-2: 建造物 4 (T12) 出土の円筒形壺

<Red on Natural グループ (個体数 N=37) >

(3) 碗 (Bowl)

個体数 : N=33 (ミカオトリ期の Painted Ware の Red on Natural グループの中で 89.2%)

出土地点 :

表 6-4-(3)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	16	48.5%	3	9.1%	12	36.4%	2	6.1%	0	0.0%	33	100.0%

図版 : 図 6-4-(3)-1 ~ 図 6-4-(3)-5

胎土 : 胎土は、やや粘土質で含有物はほとんど含まれない。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR 7/4、7.5YR 6/4、5YR 7/6、5YR 7/4、5YR6/8、5YR 6/6、5YR 6/4、2.5YR 6/8)、赤褐色系 (5YR 5/8、5YR 5/6、5YR4/8、2.5YR5/8、2.5YR5/6、) 等である。パトラチケ期の Red on Natural グループの土器と比較して、胎土はオレンジ系や赤褐色系の色が多く、また焼成も良好である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、研磨される。内外面ともオレンジ系の胎土の色である。

装飾 : 一般的に、口縁部の内外面に赤色のペイントが施される。

器形 : 胴部から口縁部にかけて大きく外反する Outcurving Bowl が一般的である。口径 25.0cm の碗が見られる (図 6-4-(3)-5)。

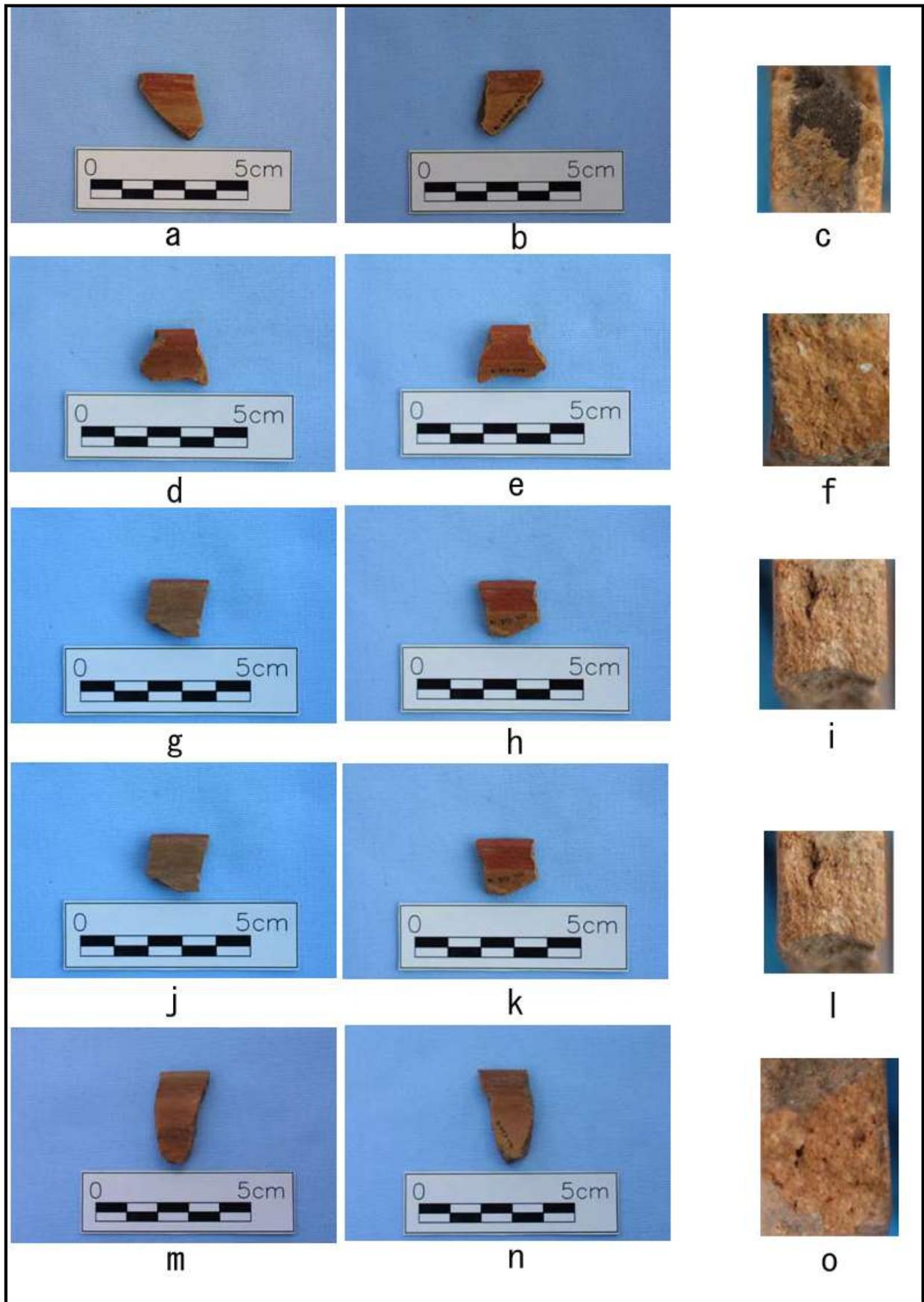


図 6-4-(3)-1 : 建造物 4 (T12) 出土の碗

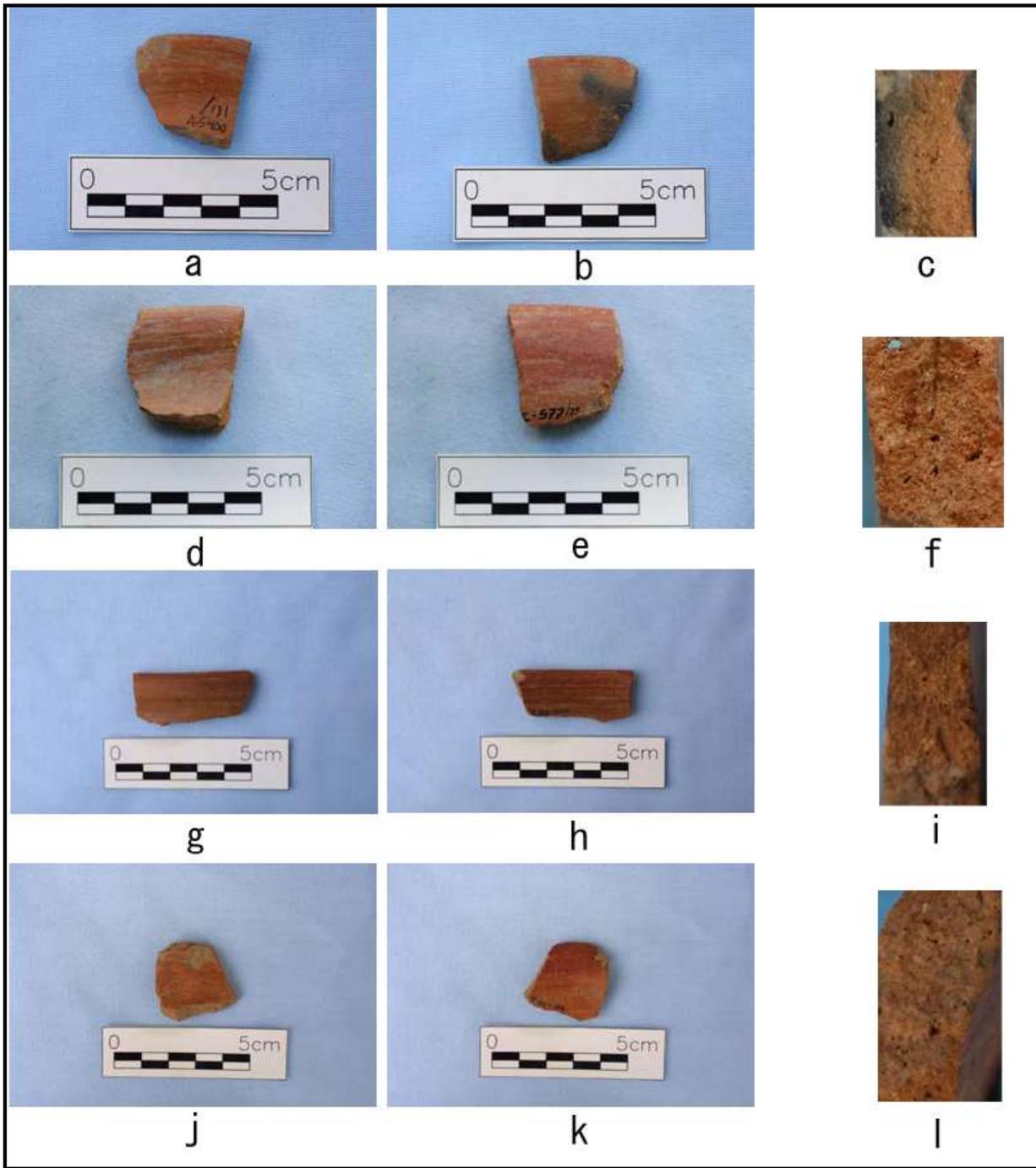


図 6-4-(3)-2 : a-c 建造物 5 (T2) 出土の碗、d-f 建造物 7 (Frente C) 出土の碗、
g-l 建造物 6 (T8) 出土の碗

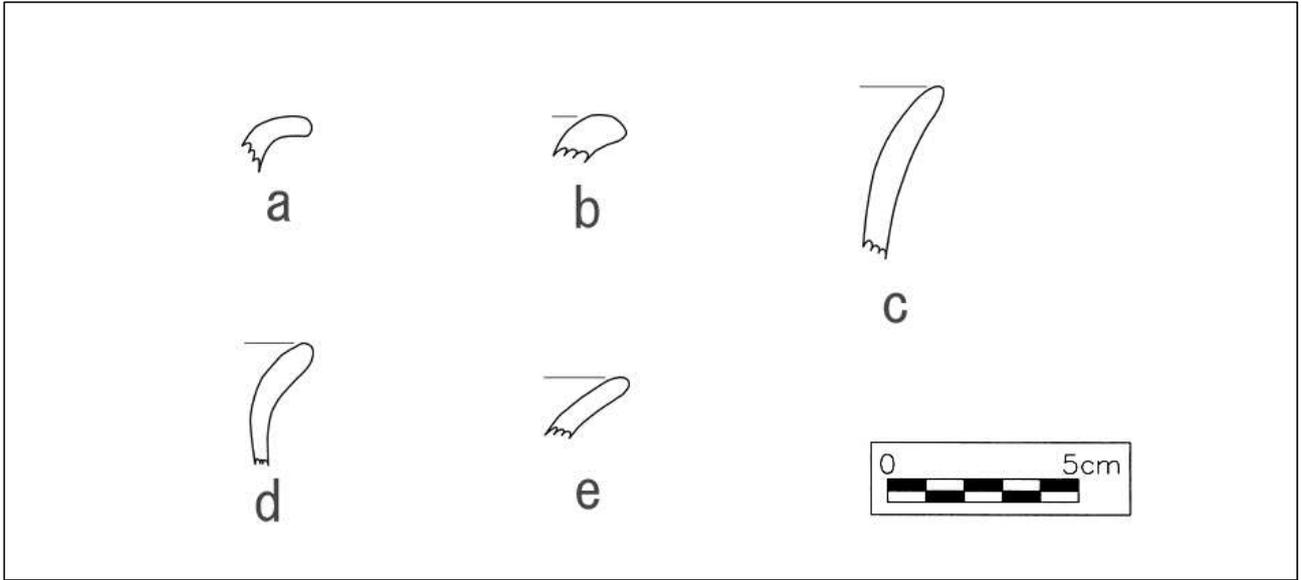


図 6-4-(3)-3 : 建造物 4 (T12) 出土の碗 (Outcurving Bowl)

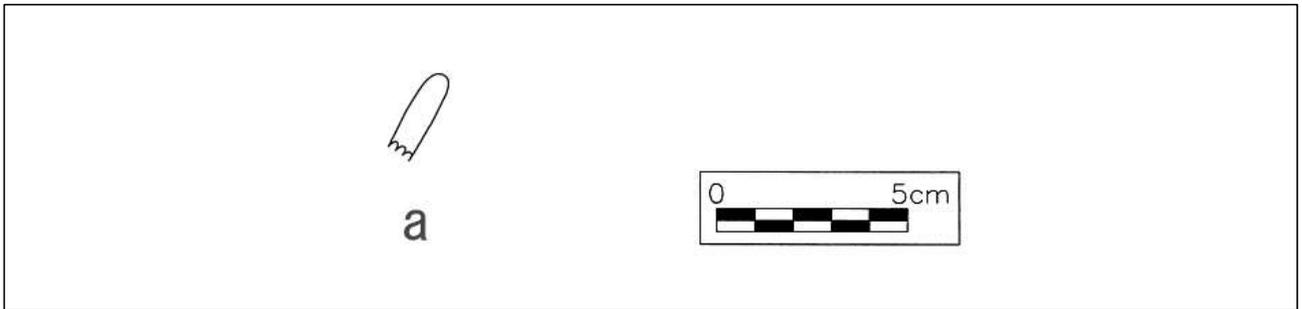


図 6-4-(3)-4 : 建造物 4 (T12) 出土の碗 (Flaring Bowl)

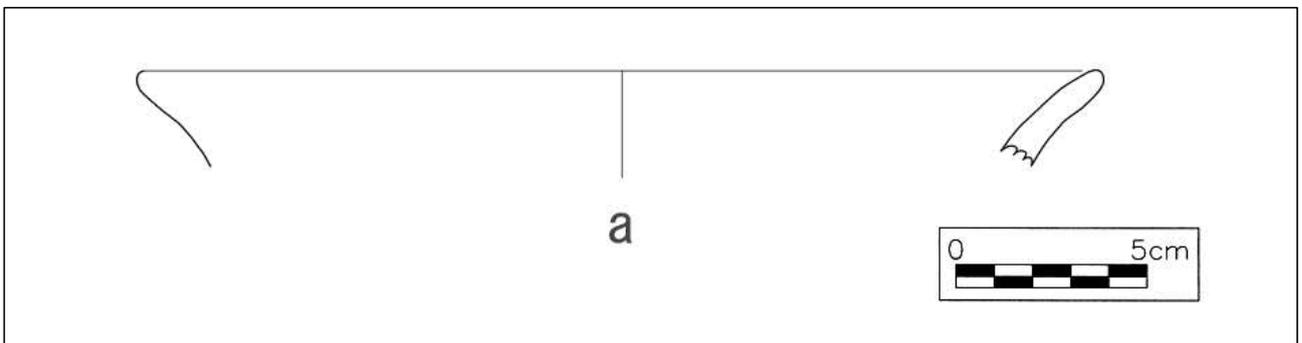


図 6-4-(3)-5 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗 (Outcurving Bowl)

(4) 皿 (Dish)

個体数 : N=1 (ミカオトリ期の Painted Ware の Red on Natural グループの中で 2.7%)

出土地点 :

表 6-4-(4)-1 : 皿の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
皿 (Dish)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%

図版 : 図 6-4-(4)-1

胎土 : 胎土は、やや粘土質で含有物はほとんど含まれない。胎土の色は、オレンジ系 (2.5YR 6/8) である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、研磨される。内外面ともオレンジ系の胎土の色である。

装飾 : 口縁部の内外面に赤色のペイントが施される。

器形 : やや丸みを帯びた底部を持つ皿である。

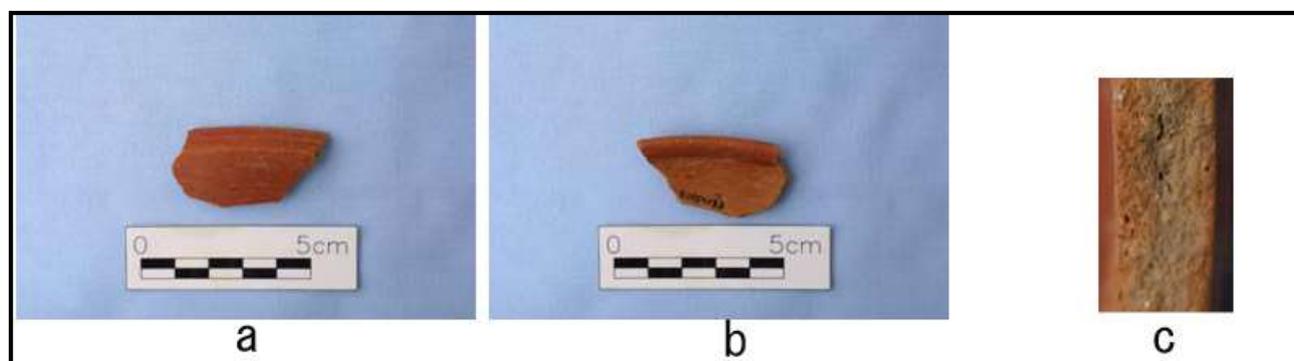


図 6-4-(4)-1 : 建造物 6 (T8) 出土の皿

(5) ベーズン (Basin)

個体数 : N=1 (ミカオトリ期の Painted Ware の Red on Natural グループの中で 2.7%)

出土地点 :

表 6-4-(5)-1 : ベーズンの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
ベーズン (Basin)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%

図版 : 図 6-4-(5)-1

胎土 : 胎土は、やや粘土質で含有物はほとんど含まれない。胎土の色は、赤褐色系 (5YR 5/6) である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、研磨される。内外面ともオレンジ系の胎土の色

である。

装飾 : 口縁部の外面に赤色のペイントが施される。

器形 : 口縁部が大きく外反する大型碗である。

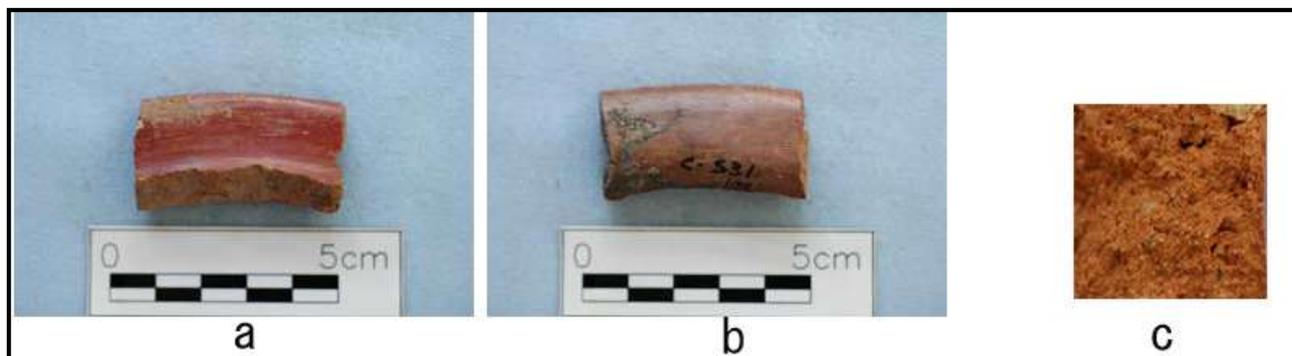


図 6-4-(5)-1 : 建造物 7 (Frente C) 出土のベーズン

(6) 円筒形壺 (Vase)

個体数 : N=2 (ミカオトリ期の Painted Ware の Red on Natural グループの中で 5.4%)

出土地点 :

表 6-4-(6)-1 : 円筒形壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%

図版 : 図 6-4-(6)-1～図 6-4-(6)-2

胎土 : 胎土は、やや粘土質で含有物はほとんど含まれない。胎土の色は、赤褐色系(2.5YR 5/8)である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、研磨される。内外面ともオレンジ系の胎土の色である。

装飾 : 外側の胴部ならびに口縁部内側に赤色のペイントが施される。

器形 : 口縁部が大きく外反し、口径 18.0cm の円筒形壺が見られる(図 6-4-(6)-1:d-f、図 6-4-(6)-2)。

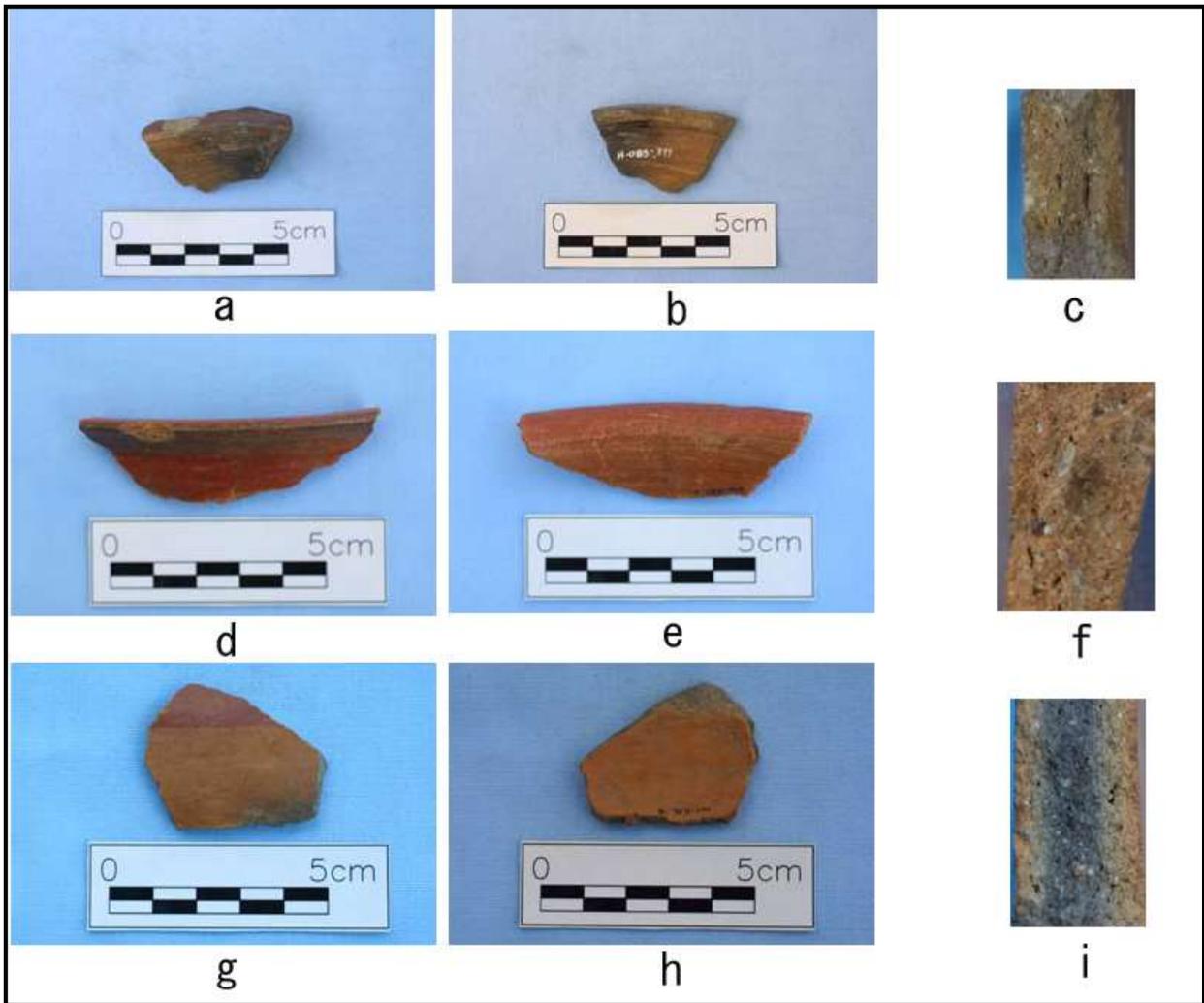


図 6-4-(6)-1 : a-c 建造物 6 (T8) 出土の円筒形壺、d-i 建造物 4 (T12) 出土の円筒形壺

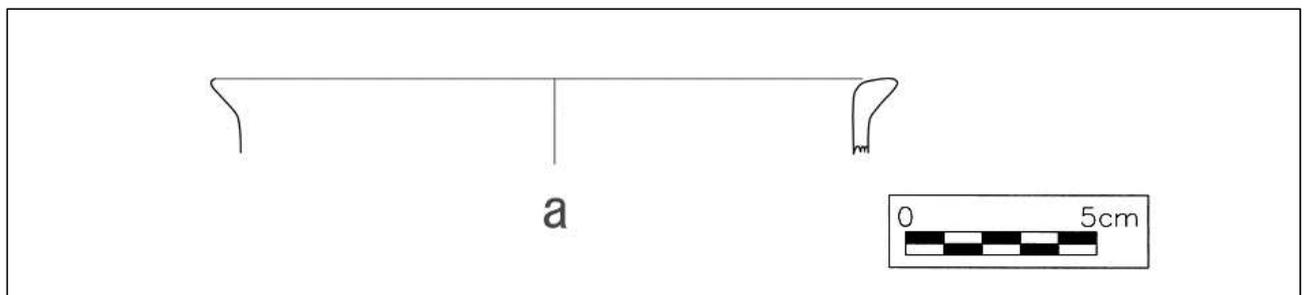


図 6-4-(6)-2 : 建造物 4 (T12) 出土の円筒形壺

(7) まとめ

表 6-4-(7)-1 : Painted Ware の Monochrome Red グループの器種別、出土地別構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	88.9%	6	85.7%	10	90.9%	3	60.0%	0	0.0%	27	81.8%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	11.1%	1	14.3%	1	9.1%	2	40.0%	1	100.0%	6	18.2%
合計	0	0.0%	0	0.0%	0	100.0%	0	100.0%	9	100.0%	7	100.0%	11	100.0%	5	100.0%	1	0.0%	33	100.0%

表 6-4-(7)-2 : Painted Ware の Red on Natural グループの器種別、出土地別構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	16	94.1%	3	100.0%	12	85.7%	2	66.7%	0	0.0%	33	89.2%
皿 (Dish)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.7%
ベースン (Basin)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	1	2.7%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.9%	0	0.0%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	5.4%
合計	0	0.0%	0	0.0%	0	100.0%	0	0.0%	17	100.0%	3	100.0%	14	100.0%	3	100.0%	0	0.0%	37	100.0%

「月のピラミッド」出土のミカオトリ期の Painted Ware には、Monochrome Red グループと Red on Natural グループがある。両グループとも碗の出土数が多い。また、胎土は含有物をほとんど含まない良質の胎土であり、色はオレンジ系、赤褐色系が多い。この時期の Painted Ware は、サクワリ期と比較して Polychrome グループが消滅するなど装飾技法の種類や技法において衰退していると考えられる。また、Negative グループも「月のピラミッド」からは出土していない。

ラットレイによると、Painted Ware は、Monochrome Red、White on Red Bichrome、Red on Natural Bichrome、Miccaotli Resist があるが、数量的には減少し具体的な特徴を捉えるのは難しい。Monochrome Red では碗(Flaring Bowl、Shouldered Bowl)、円筒形壺が、Miccaotli Resist では円筒形壺が存在する。胎土は典型的なミカオトリ期の胎土で、色は赤褐色(2.5YR 7/8、6/8)から明褐色(5YR 8/4、7/4)で多くの細かいテンパーを含む。焼成は良好で未焼成の黒色バンドは見られない (Rattray 2001:159-161)。

6-5 Dense Ware (個体数 N=27、ミカオトリ期全体の中で 3.2%)

<Monochrome Brown グループ (個体数 N=27) >

(1) 碗 (Bowl)

個体数 : N=27 (ミカオトリ期の Dense Ware の中で 100.0%)

出土地点 :

表 6-5-(1)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	40.7%	2	7.4%	13	48.1%	0	0.0%	1	3.7%	27	100.0%

図版 : 図 6-5-(1)-1~図 6-5-(1)-6

胎土 : 胎土は、硬い粘土質で含有物はほとんど含まれない。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR7/4、7.5YR6/4、5YR7/8、5YR6/8、5YR 6/6、5YR 6/4、2.5YR 6/8)、赤褐色系 (5YR 5/8)、黄橙系 (10YR7/4、10YR7/3) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは良好で、良く調整されている。内外面の色は胎土とほぼおなじである。

装飾 : 無し。

器形 : Simple Bowl や Shouldered Bowl の他に口縁部が直立する Rim Angled Bowl 等が見られる (図 6-5-(1)-3~図 6-5-(1)-6)。

(2) まとめ

表 6-5-(2)-1 : Dense Ware の器種別、出土地別構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	100.0%	2	100.0%	13	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	27	100.0%
合計	0	0.0%	0	0.0%	0	100.0%	0	0.0%	11	100.0%	2	100.0%	13	100.0%	0	100.0%	1	0.0%	27	100.0%

「月のピラミッド」出土の Dense Ware の器種は、碗のみである。良質の胎土を有し、表面は内外面とも良く研磨されているが Polished Ware のような光沢はない。特徴的な碗の器形として Shouldered Bowl の他に口縁部が直立する Rim Angled Bowl が見られる。

ラットレイによると、Dense Ware はサクワリ期では明褐色の土器であったが、この時期にはオレンジ (2.5YR 5/4、5YR 6/6) に変わる。器種には壺、碗 (Simple Bowl、Incurving Bowl、Shouldered Bowl)、ミニチュア土器があり、碗には小さな Nubbin Supports が付くこともある (Rattray 2001: 161)。

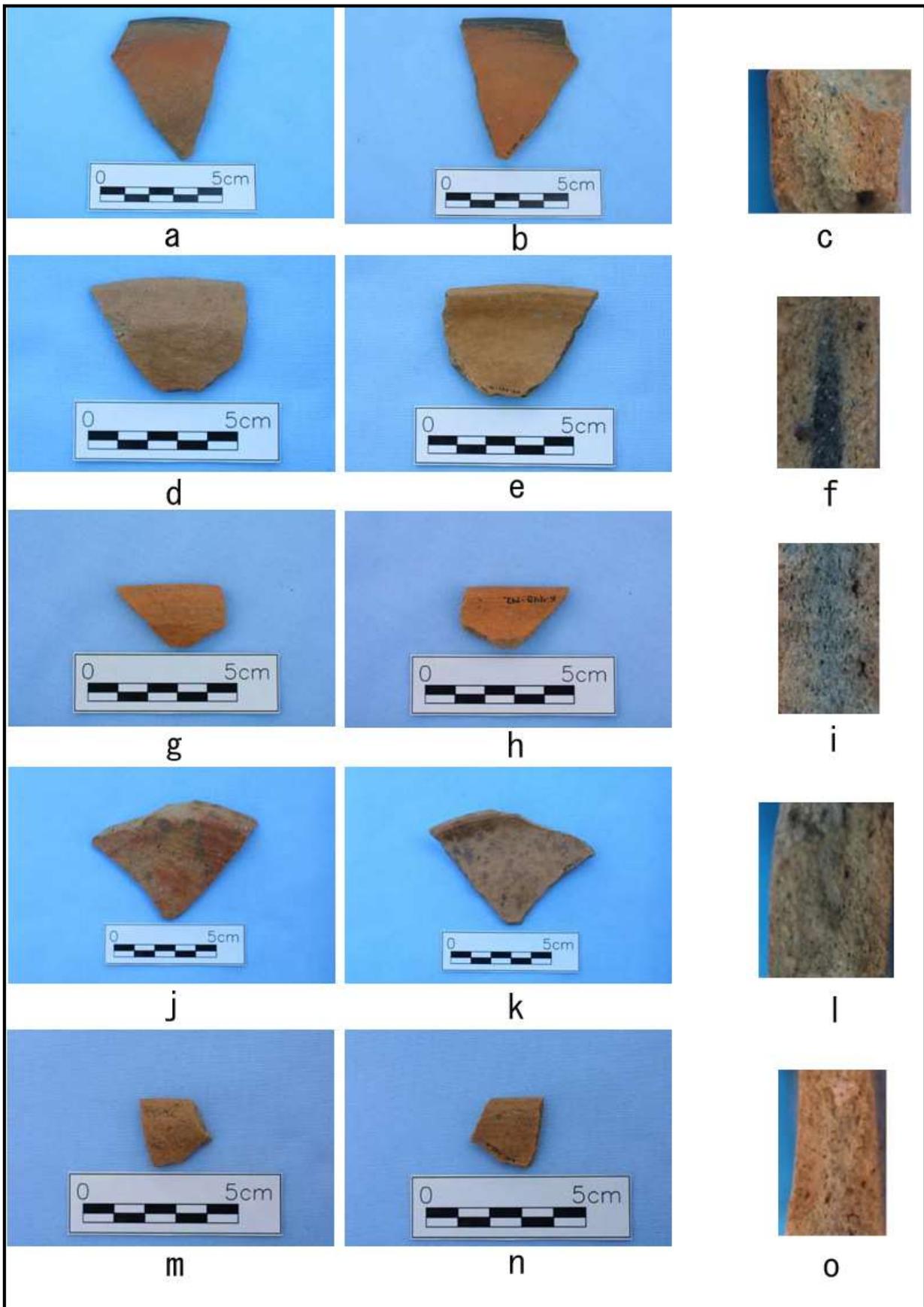


図 6-5-(1)-1 : 建造物 4 (T12) 出土の碗

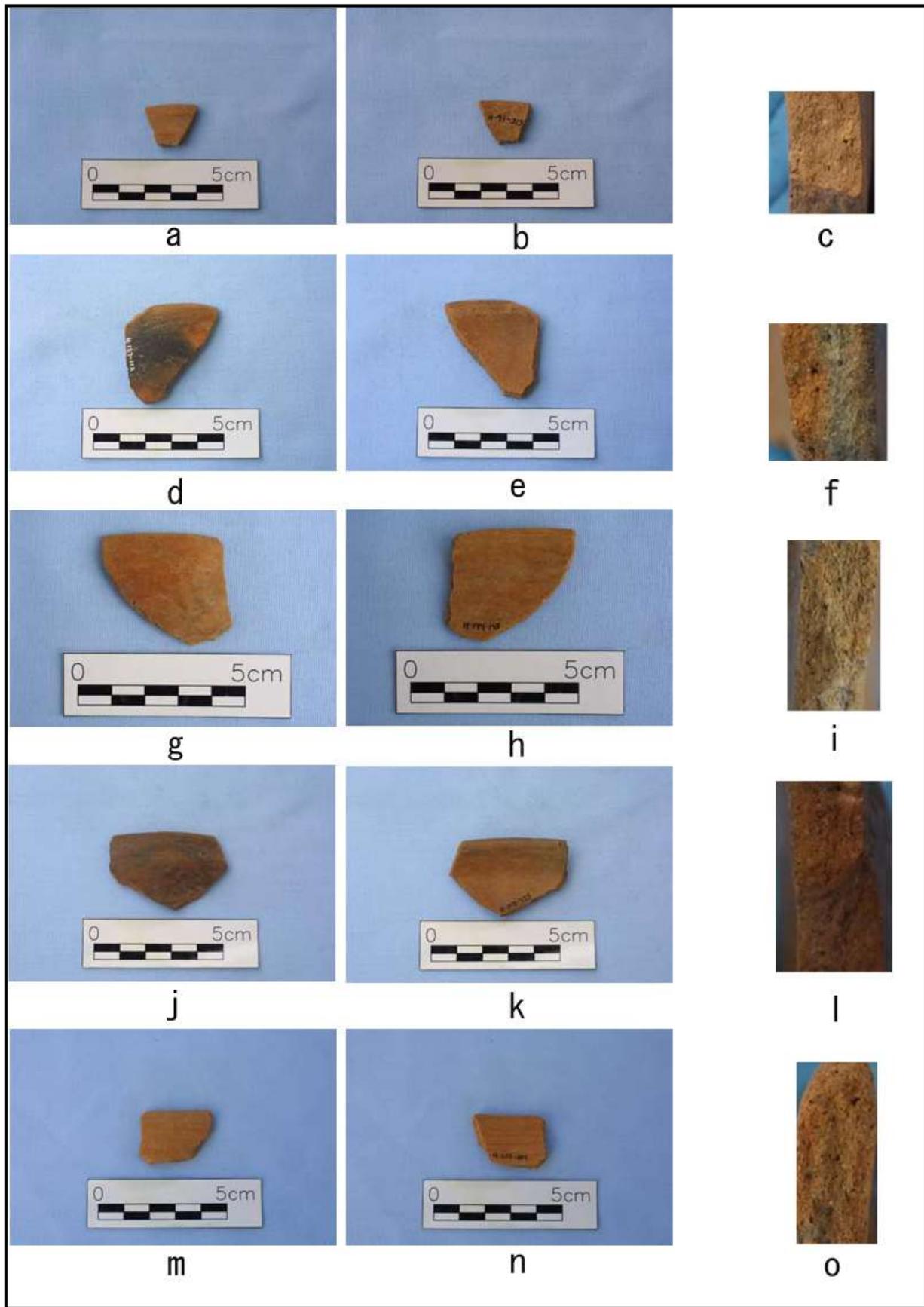


図 6-5-(1)-2 : 建造物 6 (T8) 出土の碗

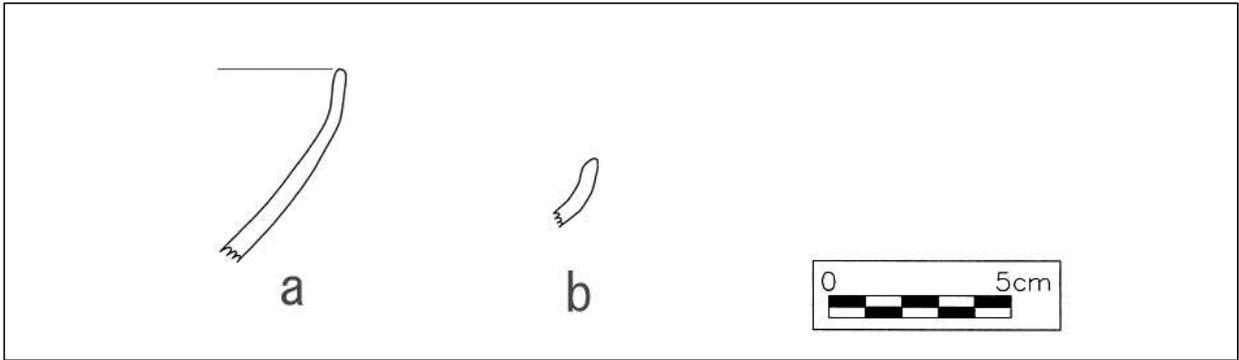


図 6-5-(1)-3 : 建造物 4 (T12) 出土の碗 (Simple Bowl)

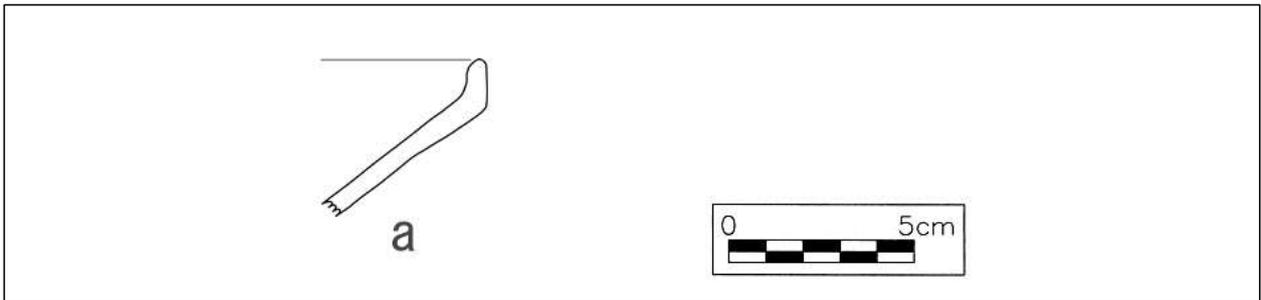


図 6-5-(1)-4 : 建造物 4 (T12) 出土の碗 (Rim Angled Bowl)

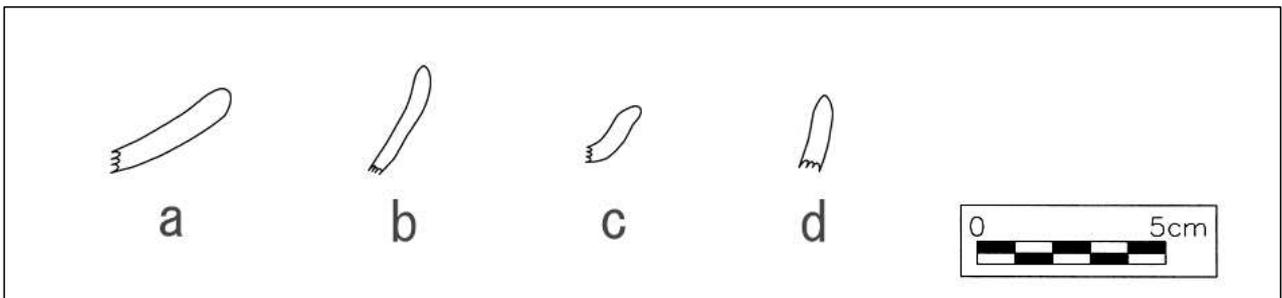


図 6-5-(1)-5 : 建造物 6 (T8) 出土の土器 (Simple Bowl)

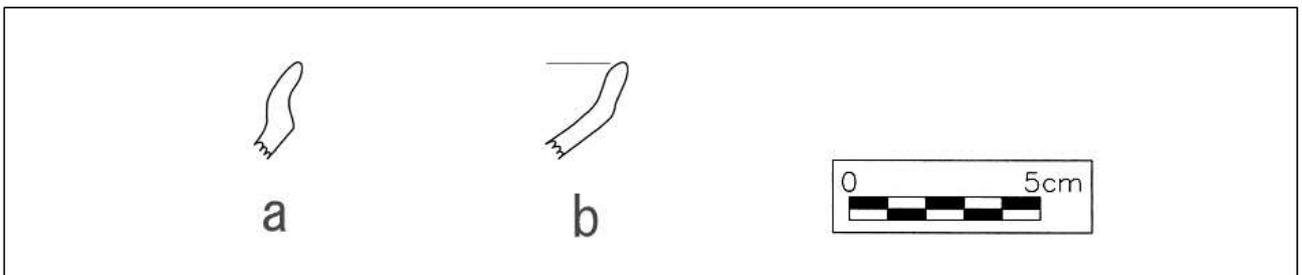


図 6-5-(1)-6 : 建造物 6 (T8) 出土の土器 (Shouldered Bowl)

6-6 その他（個体数 N=12、ミカオトリ期全体の中で 1.4%）

<Thin Orange Ware（個体数 N=12）>

（1）碗（Bowl）

個体数：N=12（ミカオトリ期の Thin Orange Ware の中で 100.0%）

出土地点：

表 6-6-(1)-1：碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	41.7%	2	16.7%	5	41.7%	0	100.0%	0	100.0%	12	100.0%

図版：図 6-6-(1)-1～図 6-6-(1)-4

胎土：胎土の肌理は粗く、含有物も多い。胎土の色は、オレンジ系（7.5YR7/4、7.5YR6/4、5YR7/8、5YR6/8、5YR 6/6、2.5YR 6/8）、赤褐色系（2.5YR 5/8）、等である。

表面調整：表面の仕上げは良好で、良く調整されている。内外面の色は胎土とほぼおなじである。

装飾：口縁部に赤色あるいはオレンジのペイントが施されるものも見られる（図 6-6-(1)-1）。

器形：Flaring Bowl や Simple Bowl が見られる（図 6-6-(1)-3～図 6-5-(1)-4）。

（2）まとめ

表 6-6-(2)-1：Thin Orange Ware の器種別、出土地別構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%	2	100.0%	5	100.0%	0	100.0%	0	100.0%	12	100.0%
合計	0	0.0%	1	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%	2	100.0%	5	100.0%	0	100.0%	0	0.0%	12	100.0%

Thin Orange Ware は、特徴的な黒色や白色の含有物を含むやや粗い胎土を有し、器厚の薄い土器である。ミカオトリ期の特徴は、口縁部に赤色あるいはオレンジのペイントが施される土器が見られることである。

ラットレイの報告によると、器種としては碗と壺が出土している。また、この時期の表面調整の特徴として次のように述べている。

Diagnostic modes for the Miccaotli phase are the bright orange rims (2.5YR 6/8) and reddish yellow interiors (7.5YR 6/6). These modes appear on the Tlaxcala vessels (Rattray 2001: 3)

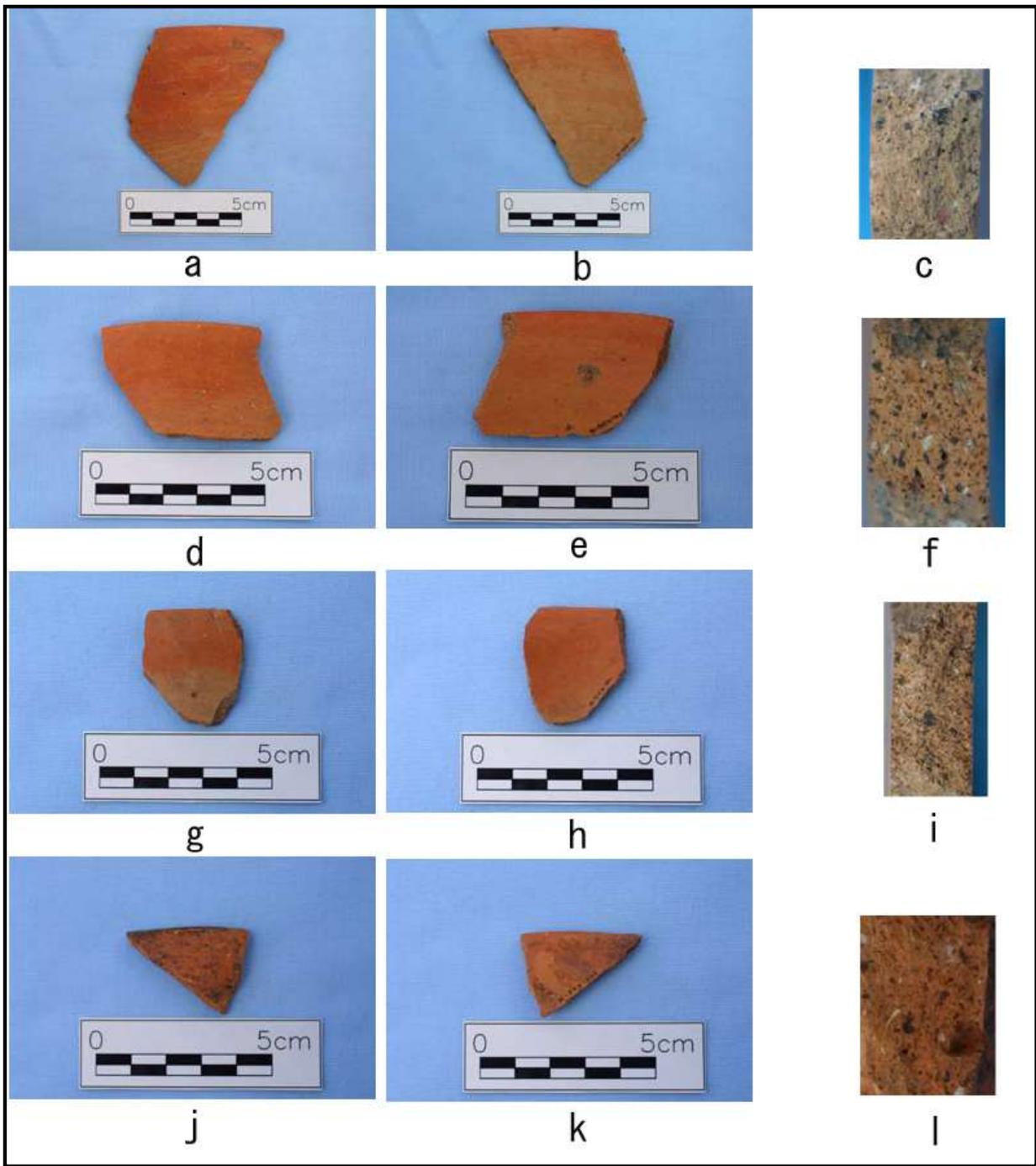


図 6-6-(1)-1 : 建造物 4 (T12) 出土の碗

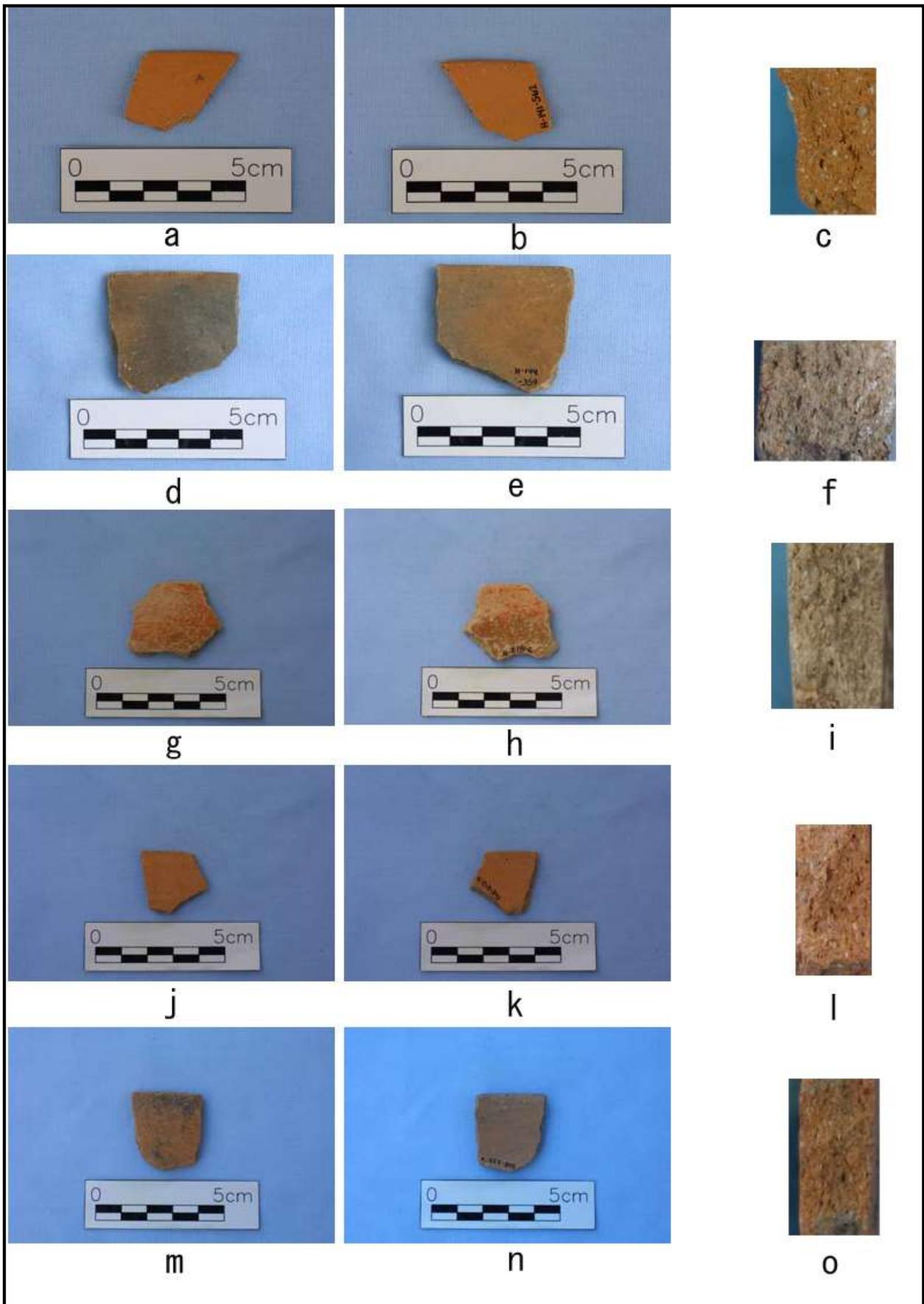


図 6-6-(1)-2 : 建造物 6 (T8) 出土の碗

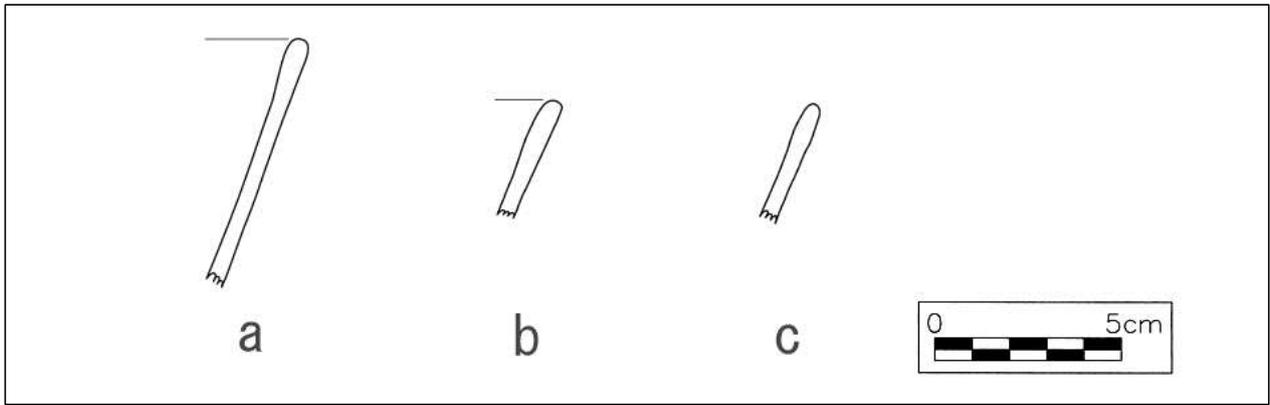


図 6-6-(1)-3 : 建造物 4 (T12) 出土の碗 (Flaring Bowl)



図 6-6-(1)-4 : 建造物 4 (T12) 出土の碗 (Simple Bowl)

6-7 ミカオトリ期の土器のまとめ

「月のピラミッド」出土のミカオトリ期の土器は、Polished Ware の出土数が最も多く、次に Burnished Ware、Painted Ware、Dense Ware が続く (表 6-7-1)。ミカオトリ期の土器全体としての特徴をまとめると、(1)Polished Ware が質的にも量的にも豊富になること、碗では Outcurving Bowl が代表的な器形として存在すること、(2)器形の点からは、サクワリ期に無かった Support が碗や円筒形壺の器種に付くこと、(3)Polished Ware とは対照的に、サクワリ期に豊富だった Painted Ware は減少すること、(4)Burnished Ware の壺では口縁部が大きく外反する土器が出現すること等があげられる。

ラットレイによると、土器では Polished Ware が質的にも量的にも豊富になり、Outcurving Bowl が代表的な器形となる。また、Dense Ware の出土数も増加するが、一方 Resist Ware や Painted Ware は減少する。Burnished Ware の壺では次のトラミミロールパ以降に発展する外反する口縁部が出現する。この時期は、パトラチケ期からサクワリ期まで続く伝統とトラミミロールパ以降発展する伝統が混在する時期である (Rattray 2001: 369-371)。

ミカオトリ期の都市の広さは、約 20 平方キロメートルとサクワリ期とほぼ同じであるが、サクワリ期の居住があった北西部では人が住まなくなり、ミカオトリ期では南側や東側に居住地域が広がる (Millon 1973)。定説によると、この時期に「死者の通り」の南側に「シウダデラ」や「羽毛の生えた蛇神殿 (ケツァアルコアトル神殿)」が作られ、また「月のピラミッド」や「太陽のピラミッド」の増改築が行われテオティワカンにおける 3 つのモニュメントの基本的な建築は完成する時期である。

表 6-7-1 : ミカオトリ期の土器の構成比

	Wareレベルの個 体数	%	グループレベル の個体数	%
Matte Ware	15	1.8%		
①Corse Matte グループ			2	0.2%
②Fine Matte グループ			13	1.6%
Burnished Ware	105	12.5%		
Monochrome Brown グループ			105	12.5%
Polished Ware	609	72.7%		
①黒色グループ			261	31.1%
②褐色グループ			348	41.5%
Painted Ware	70	8.4%		
①Monochrome Redグループ			33	3.9%
②Red on Naturalグループ			37	4.4%
Dense Ware	27	3.2%		
①Monochrome Brownグループ			27	3.2%
その他	12	1.4%		
①Thin Orange Ware			12	1.4%
合計	838	100.0%	838	100.0%

表 6-7-2 : ミカオトリ期の土器の出土地別構成比

	56層		建造物 1		建造物 2		建造物 3		建造物 4		建造物 5		建造物 6		建造物 7		その他(墓の 埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%		
Matte Ware																				
①Corse Matte グループ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	2	
②Fine Matte グループ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	2.7%	1	2.0%	1	0.3%	2	1.9%	1	3.8%	13	
Burnished Ware																				
①Monochrome Brown グループ	0	0.0%	0	0.0%	1	4.3%	1	20.0%	23	7.8%	5	10.0%	57	17.0%	15	14.3%	3	11.5%	105	
Polished Ware																				
①黒色グループ	0	0.0%	0	0.0%	16	69.6%	0	0.0%	104	35.4%	8	16.0%	92	27.5%	37	35.2%	4	15.4%	261	
②褐色グループ	0	0.0%	0	0.0%	6	26.1%	4	80.0%	116	39.5%	22	44.0%	142	42.4%	42	40.0%	16	61.5%	348	
Painted Ware																				
①Monochrome Redグループ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	3.1%	7	14.0%	11	3.3%	5	4.8%	1	3.8%	33	
②Red on Naturalグループ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	17	5.8%	3	6.0%	14	4.2%	3	2.9%	0	0.0%	37	
Dense Ware																				
①Monochrome Brownグループ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	3.7%	2	4.0%	13	3.9%	0	0.0%	1	3.8%	27	
その他																				
①Thin Orange Ware	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	1.7%	2	4.0%	5	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	12	
合計	0	0.0%	0	0.0%	23	100.0%	5	100.0%	294	100.0%	50	100.0%	335	100.0%	105	100.0%	26	100.0%	838	

7章 テオティワカン「月のピラミッド」出土のトラミミロルパ期の土器

7-1 Matte Ware (個体数 N=18、トラミミロルパ期全体の中で 4.3%)

<Coarse Matte グループ (個体数 N=9) >

(1) 香炉(Censer)

個体数 : N=9 (トラミミロルパ期の Coarse Matte グループの中で 100%)

出土地点 :

表 7-1-(1)-1 : 香炉の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
香炉 (Censer)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	44.4%	5	55.6%	0	0.0%	9	100.0%

図版 : 図 7-1-(1)-1~図 7-1-(1)-3

胎土 : 胎土は、やや砂質で柔らかい。含有物を含む。胎土の色は、オレンジ系(7.5YR6/6、7.5YR 6/4、10YR6/4)、灰褐色(5YR6/2)等である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、ナデ調整が行われるだけであり、色は胎土とほぼ同じであるが、表面には黒色の焼け跡が見られる場合もある。

装飾 : 口縁部外側は肥厚し鏢状の形になり、その鏢の上には刺突文装飾が見られるものもある。また、白色のペイントを施される場合もある。

器形 : 一般的には口縁部が外側に肥厚する香炉である。中には、口径 22.3cm で碗の形状をしたものも見られる(図 7-1-(1)-1、図 7-1-(1)-3:a-c)。

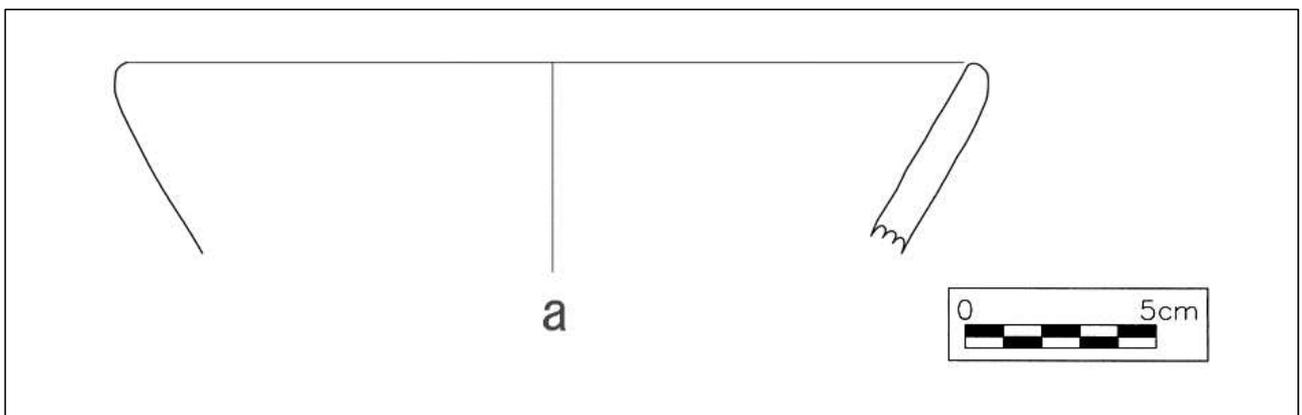


図 7-1-(1)-1 : 建造物 7 (Frente C) 出土の香炉

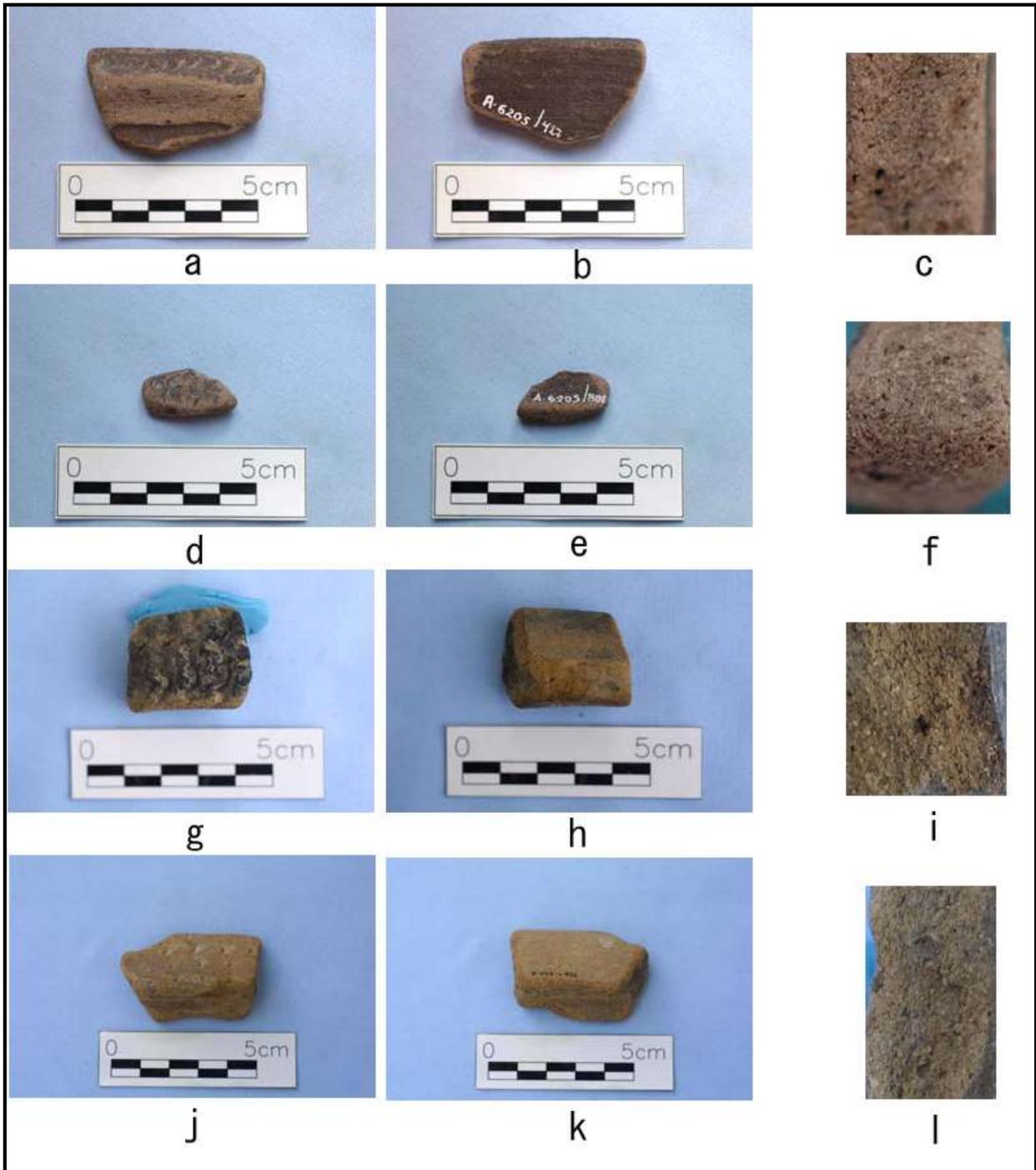


図 7-1-(1)-2 : a-f 建造物 6 (T2) 出土の香炉、g-l 建造物 6 (T8) 出土の香炉

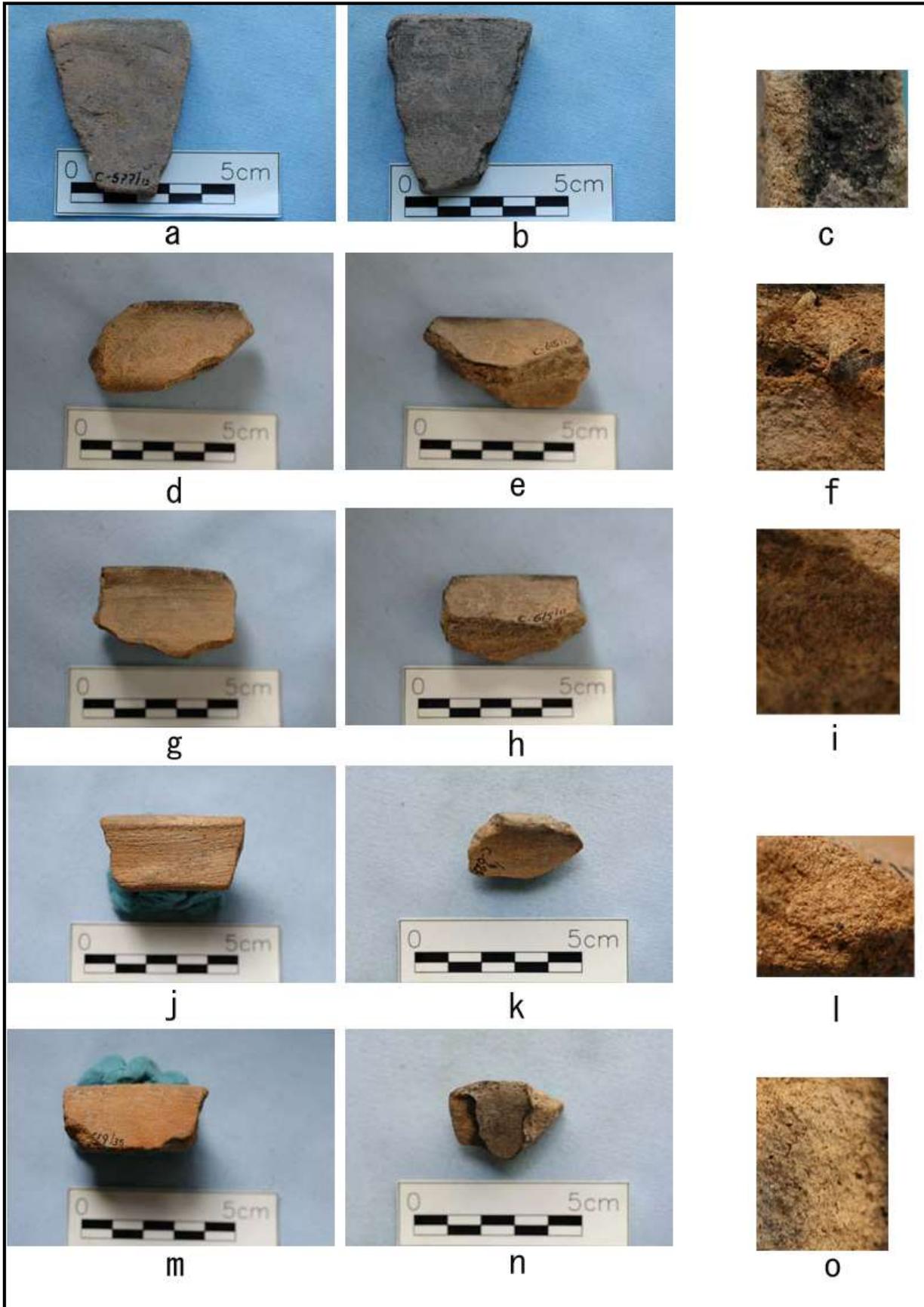


図 7-1-(1)-3 : 建造物 7 (Frente C) 出土の香炉

<Fine Matte グループ (個体数 N=9) >

(2) ミニチュア (Miniature)

個体数 : N=8 (トラミミロルパ期の Fine Matte グループの中で 88.9%)

出土地点 :

表 7-1-(2)-1 : ミニチュアの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
ミニチュア (Miniature)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	12.5%	4	50.0%	3	37.5%	0	0.0%	8	100.0%

図版 : 図 7-1-(2)-1 ~ 図 7-1-(2)-2

胎土 : 胎土は粘土質で、含有物はほとんど含まない。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR7/6、7.5YR6/6、7.5YR 6/3、5YR6/4、10YR6/4)、赤褐色 (5YR5/8) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、ナデ調整が行われるだけであり、色は胎土とほぼ同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 小型の壺や碗が見られる。

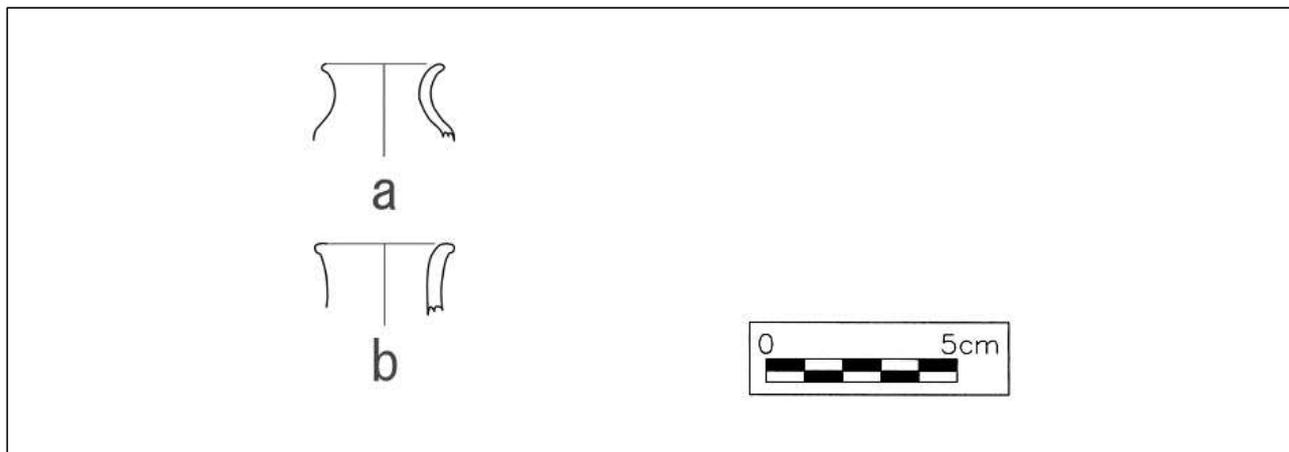


図 7-1-(2)-1 : 建造物 7 (Frente C) 出土のミニチュア土器

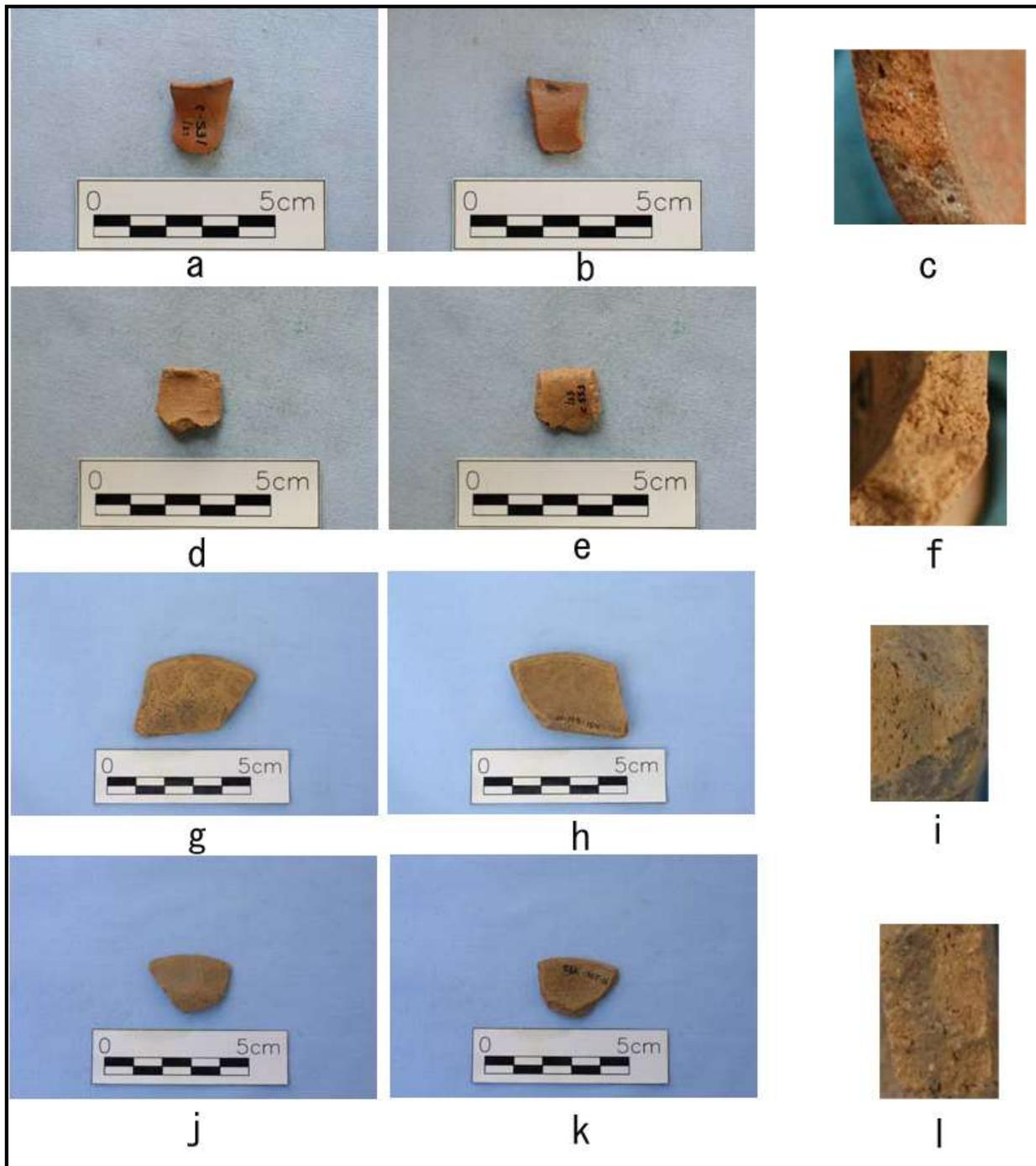


図 7-1-(2)-2: a-f 建造物 6 (T8) 出土のミニチュア土器、g-l 建造物 7 (Frente C) 出土のミニチュア土器

(3) カバープレート(Cover Plate)

個体数 : 胴部破片のみ出土 (建造物 7)

図版 : 図 7-1-(3)-1

胎土 : 胎土は粘土質で、含有物はほとんど含まない。胎土の色は、オレンジ系(7.5YR7/6、5YR6/6)である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、ナデ調整が行われるだけであり、色は胎土とほ

ば同じである。

装飾 : 無し。

器形 : ループ状の取手を有する蓋である。

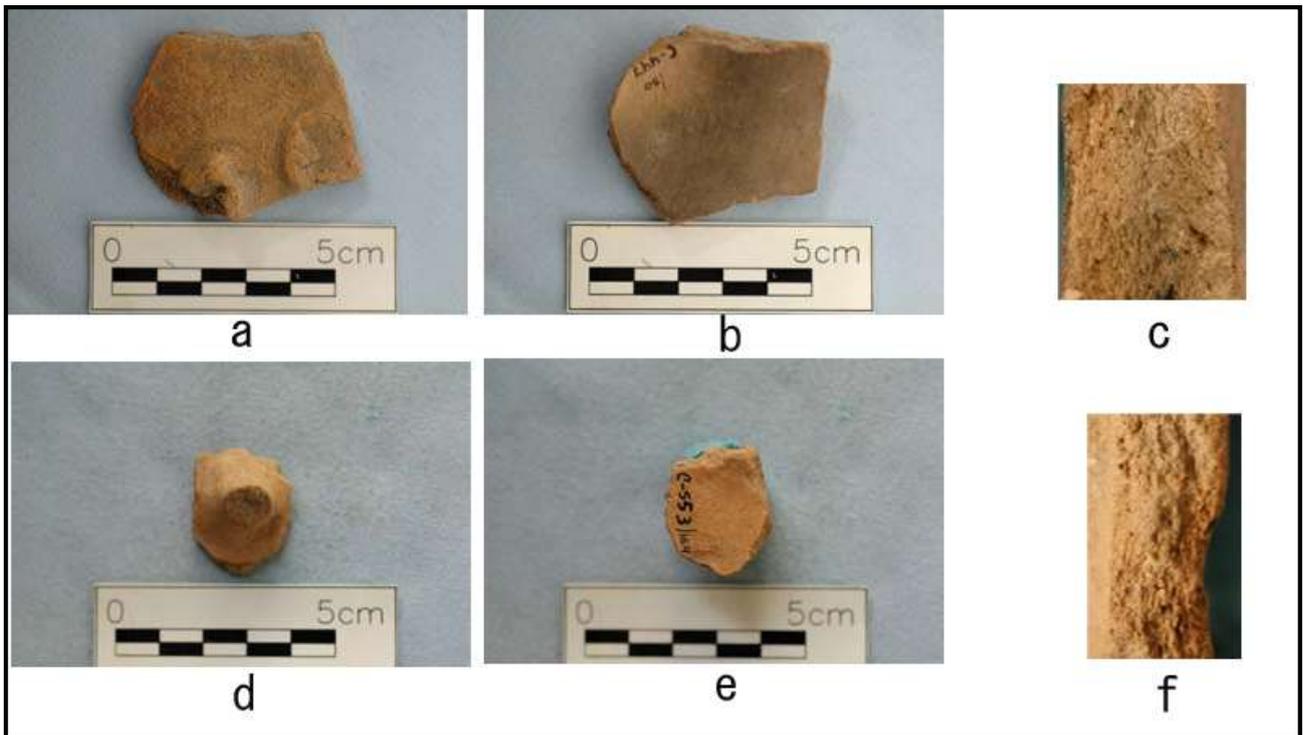


図 7-1-(3)-1 : 建造物 7 (Frente C) 出土のカバープレート

(4) まとめ

表 7-1-(4)-1 : Coarse Matte グループの器種別、出土地別構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
香炉 (Censer)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%	5	100.0%	0	0.0%	9	100.0%
合計	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%	5	100.0%	0	0.0%	9	100.0%

表 7-1-(4)-2 : Fine Matte グループの器種別、出土地別構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
ミニチュア (Miniature)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	4	100.0%	3	75.0%	0	0.0%	8	88.9%
不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%	1	11.1%
合計	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	4	100.0%	4	100.0%	0	0.0%	9	100.0%

Corse Matte グループでは、機種は鏝のある香炉と碗型の香炉の両方が見られる。鏝の装飾は刺突文が主であるが、トラミミロルパ期には無装飾のものもある。Fine Matte グループでは、ミニチュアが見られる。また、破片のみの出土であるがカバープレートには、取手が付けられる。

ラットレイの報告によると、Coarse Matte Ware は、やや荒い胎土で表面もナデ調整が行われるだけである。器種は香炉で胴部が直立あるいは外傾し、底部は平底、口縁部は鏝状の口縁(Flanged Rim)を持つ。また、この時期に新しい器形として Three-prong Burner が出現する。後期になると香炉の鏝が大きくなり、鏝の部分が胴部からより離れるようになる。Three-prong Burner は、前期とほとんど変化はない。後期になって新たに加わる器種は、カンデレロ(Candelerio)である。カンデレロは、携帯用の香炉あるいはランプと考えられている。大きさは、高さ約 5 cm、幅約 2 cm、長さ 5～6 cm であり、器形は炉の部分が 1 個のものと、2 個のものの 2 種類がある。表面は刺突文で装飾される (Rattray 2001:163-165、179-185)。

また、Fine Matte Ware は、テンパーの無い良質の胎土で未焼成の黒色のバンドを持つ。前期にはカバープレート、ミニチュアの器種がある。カバープレートは、香炉の蓋またはそれ自体香炉として使用された。器形は浅い皿を逆にした形で口唇部がしばしば装飾される。ミニチュアは、皿、碗、壺などの器種が見られる。後期になるとミニチュアにはアンフォラ、カバープレート、Three-prong Burner が器種として加わる。Cover Plate は、ほとんど変化が無い。また、Adorno と呼ばれる香炉を装飾するパーツが後期になって新たに出現する (Rattray 2001:163-165、179-185)。

「月のピラミッド」の Matte Ware は、トラミミロルパ前期、後期の区別は出来ないが、Three-prong Burner やカンデレロが出土していないことなどから、トラミミロルパ前期の土器であると考えられる。

7-2 Burnished Ware (個体数 N=9、トラミミロルパ期全体の中で 2.2%)

<Monochrome Brown グループ (個体数 N=9) >

(1) 大型壺(Olla)

個体数 : N=5 (トラミミロルパ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループの中で 55.6%)

出土地点 :

表 7-2-(1)-1 : 大型壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
大型壺(Olla)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	20.0%	3	60.0%	1	20.0%	0	0.0%	5	100.0%

図版 : 図 7-2-(1)-1~図 7-2-(1)-2

胎土 : 胎土は、粘土質で比較的含有物は少なく硬い。胎土の色は、オレンジ系(7.5YR6/6、7.5YR 6/4、2.5YR6/4)、赤褐色(5YR5/6)等である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、軽く研磨される。色は胎土とほぼ同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 口縁部が外販する短頸壺で、口径 16.8cm のものが見られる (図 7-2-(1)-1:b)。また取手があるものも見られる (図 7-2-(1)-2:d-f)。

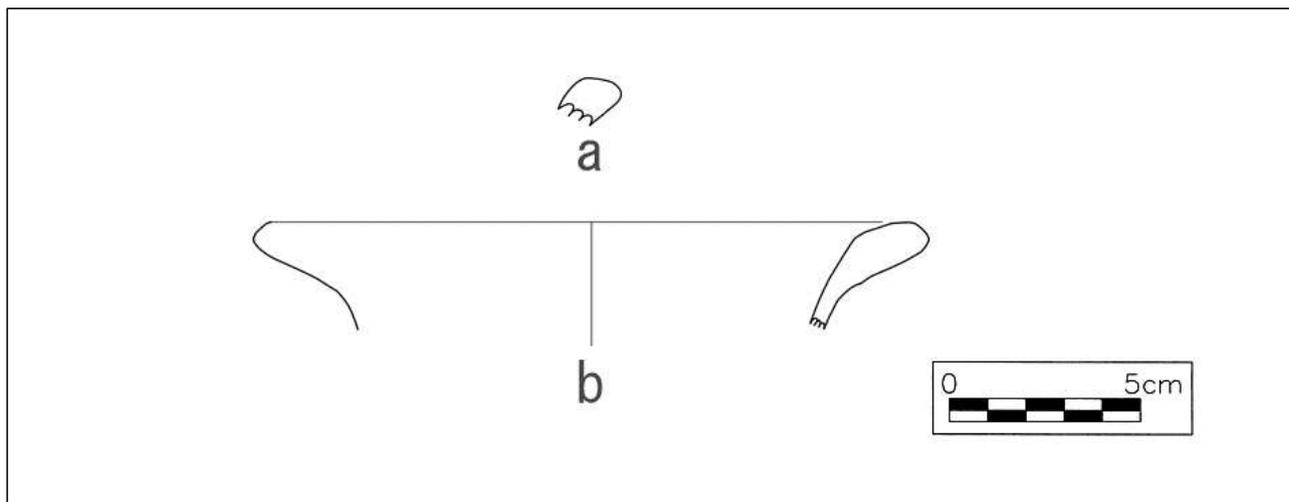


図 7-2-(1)-1 : 建造物 6 (T8) 出土の大型壺

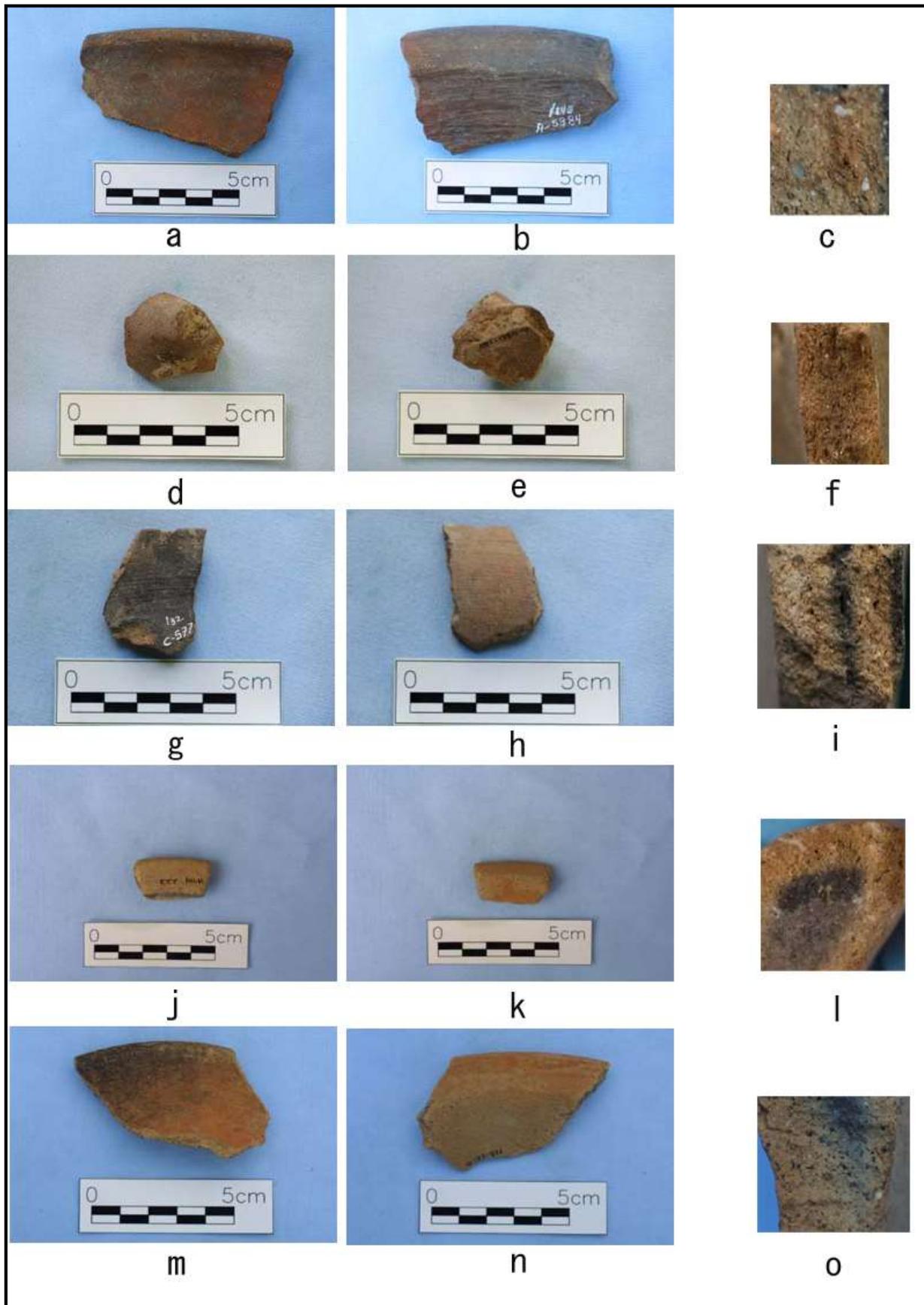


図 7-2-(1)-2 : a-c 建造物 5 (T2) 出土の大型壺、d-f 建造物 6 (T2) 出土の大型壺、g-i 建造物 7 (Frente C) 出土の大型壺、j-o 建造物 6 (T8) 出土の大型壺

(2) 碗(Bowl)

個体数 : N=1 (トラミミロルパ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループの中で 11.1%)

出土地点 :

表 7-2-(2)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗(Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%

図版 : 図 7-2-(2)-1~図 7-2-(2)-2

胎土 : 胎土は、粘土質で比較的含有物は少なく硬い。胎土の色は、赤褐色(5YR5/6)である。

表面調整 : 表面の仕上げは比較的良好で、軽く研磨される。色は胎土とほぼ同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 胴部が外反する碗である(図 7-2-(2)-1、図 7-2-(2)-2:a-c)。

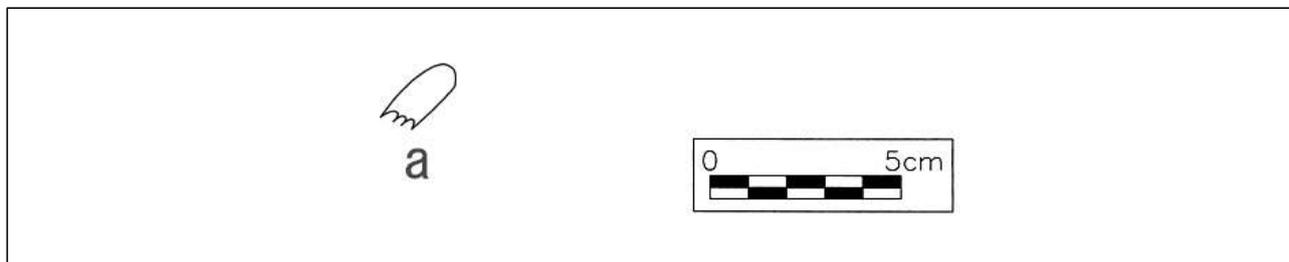


図 7-2-(2)-1 : 建造物 6 (T8) 出土の碗



図 7-2-(2)-2 : 建造物 6 (T8) 出土の碗

(3) カスエラ(Cazuela)

個体数 : N=3 (トラミミロルパ期の Burnished Ware の Monochrome Brown グループの中で 33.3%)

出土地点：

表 7-2-(3)-1：カスエラの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
カスエラ (Cazuela)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	2	66.7%	0	0.0%	3	100.0%

図版：図 7-2-(3)-1

胎土：胎土は、粘土質で比較的含有物は少なく硬い。胎土の色は、オレンジ系(5YR 6/4、10YR6/4)等である。

表面調整：表面の仕上げは比較的良好で口縁部内側は良く研磨され、外面との違いが明確である。色は胎土とほぼ同じである。

装飾：無し。

器形：口縁部が大きく外反する大型の鉢である。

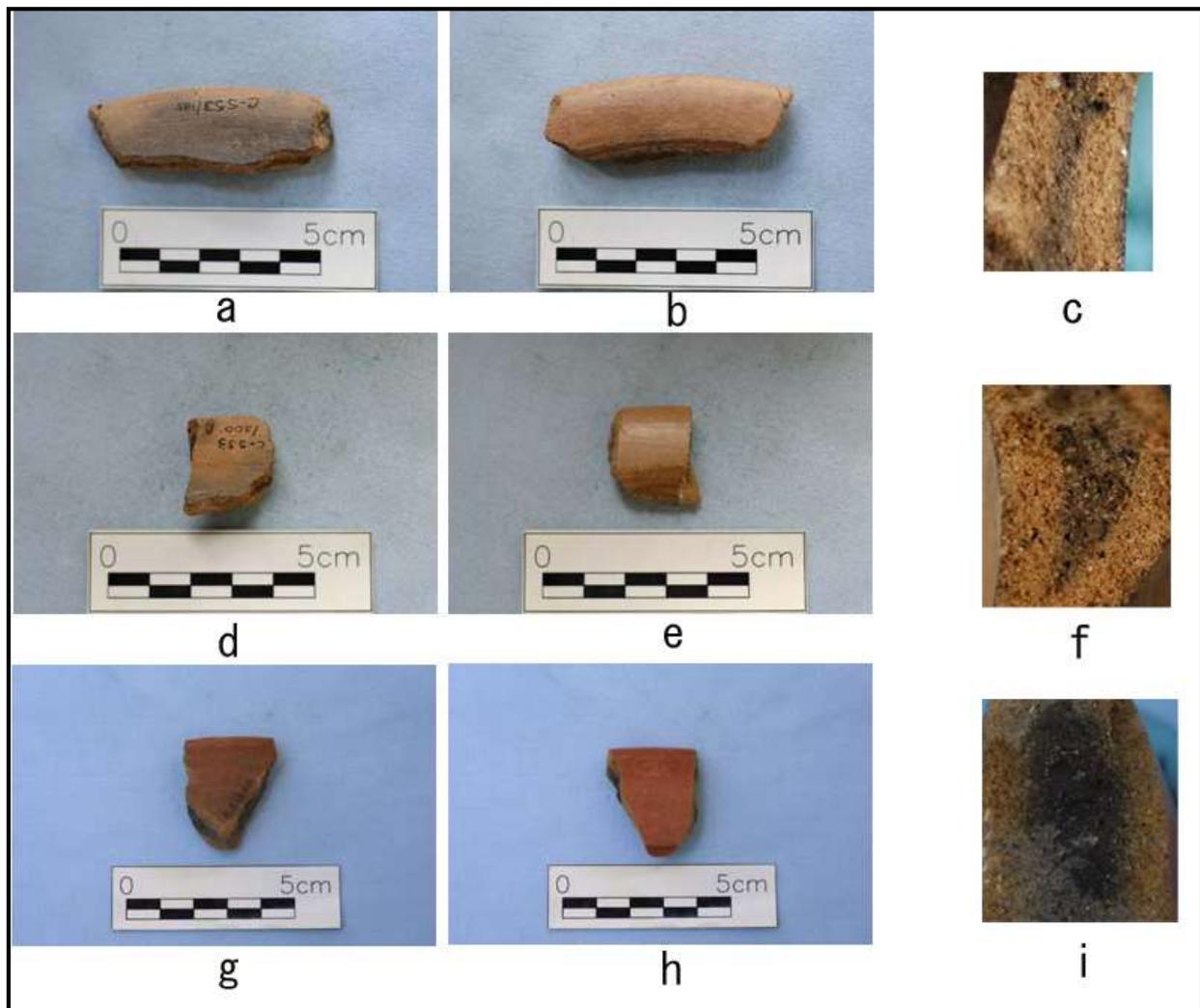


図 7-2-(3)-1：a-f 建造物 7 (Frente C)出土のカスエラ、g-i 建造物 6 (T8) 出 d のカスエラ

(4) まとめ

表 7-2-(4)-1 : Burnished Ware の Monochrome Brown グループの器種別、出土地別構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
大型壺 (Olla)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	3	60.0%	1	33.3%	0	0.0%	5	55.6%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	11.1%
カスエラ (Cazuela)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	20.0%	2	66.7%	0	0.0%	3	33.3%
合計	0	0.0%	0	0.0%	0	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	5	100.0%	3	100.0%	0	0.0%	9	100.0%

「月のピラミッド」出土のトラミミロルパ期の **Burnished Ware** は出土数も少なく、大型壺、碗、カスエラの 3 器種のみである。ラットレイの報告にあるような大型壺の口縁部に赤いスリップが施されたものは無い。

ラットレイによると **Burnished Ware** では、大型壺、コマル、大型鉢(**Crater**)、碗が器種として存在する。大型壺では、前期に口縁部の内外面に赤いスリップが施された土器(**Slipped Red-orange Olla**)が出現する。口縁部の形では、ミカオロリ期と類似の口縁部が肥厚する **Wedge Rim** が存在する他、新たに口縁部が水平まで外反する器形が見られる。後期になると、口縁部が水平になるまで外反する器形に赤いスリップが施される。また、ミカオトリ期までは無かった大型鉢(**Crater**)が前期に出現し、後期にも継続する。碗は、以前の時期と比べて器種の種類が減少し、前期では胴部が内湾する **Simple Bowl** が見られるのみである。後期になると碗は無くなる。また、後期には中空の三脚を持つ器高の低いベズンが再び出現する。この器種は、乾燥させた食糧を入れる容器とし機能していたと考えられている。胎土は、一般的に多くの細かい白色のテンパーを含むが、大型壺では穴のあいている胎土が見られることから植物性のテンパーが使用されたことが窺われる。また、大型壺の場合は、胎土の中央に焼成が不十分なため生じる黒色バンドが見られる (**Rattray 2001:165-169,185-189**)。

7-3 Polished Ware (個体数 N=308、トラミミロルパ期全体の中で 74.0%)

<黒色グループ (個体数 N=190) >

(1) 碗(Bowl)

個体数 : N=184 (トラミミロルパ期の Polished Ware の黒色グループの中で 96.8%)

出土地点 :

表 7-3-(1)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗(Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	107	58.2%	77	41.8%	0	0.0%	184	100.0%

図版 : 図 7-3-(1)-1~図 7-3-(1)-14

胎土 : 胎土は、粘土質で含有物は少なく硬い。一般的に胎土の中央部に黒色バンドを有する。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/8、7.5YR6/6、5YR6/6、5YR 6/4)、褐色系 (7.5YR6/3、7.5YR5/3、7.5YR5/4)、灰褐色 (10YR6/6、10YR6/4)、赤褐色 (5YR5/6、5YR5/4、5YR5/3) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは良好で良く研磨される。色は黒色である。

装飾 : 無し。

器形 : 復元できた Outcurving Bowl の口径は 9.4cm から 30.0cm の範囲である (表 7-3-(1)-2)。

表 7-3-(1)-2 : Outcurving Bowl の口径

実測図	口径(cm)	出土地	個体番号
図7-3-(1)-6	24.0	建造物6(T8)	H-101-248
図7-3-(1)-10:a	15.0	建造物7(Frente C)	C-362-103
図7-3-(1)-10:b	16.0	建造物7(Frente C)	C-447-136
図7-3-(1)-10:c	24.6	建造物7(Frente C)	C-448-274
図7-3-(1)-10:d	17.0	建造物7(Frente C)	C-531-321
図7-3-(1)-10:e	11.0	建造物7(Frente C)	C-531-337
図7-3-(1)-10:f	24.0	建造物7(Frente C)	C-531-383
図7-3-(1)-10:g	20.8	建造物7(Frente C)	C-531-392
図7-3-(1)-10:h	9.6	建造物7(Frente C)	C-553-281
図7-3-(1)-10:i	19.0	建造物7(Frente C)	C-553-296
図7-3-(1)-10:j	20.8	建造物7(Frente C)	C-553-309
図7-3-(1)-10:k	16.6	建造物7(Frente C)	C-553-312
図7-3-(1)-11:l	11.0	建造物7(Frente C)	C-553-345
図7-3-(1)-11:m	20.2	建造物7(Frente C)	C-553-384
図7-3-(1)-11:n	15.6	建造物7(Frente C)	C-553-402
図7-3-(1)-11:o	14.6	建造物7(Frente C)	C-553-438
図7-3-(1)-11:p	14.8	建造物7(Frente C)	C-553-447
図7-3-(1)-11:q	9.4	建造物7(Frente C)	C-575-13
図7-3-(1)-11:r	11.0	建造物7(Frente C)	C-575-22
図7-3-(1)-11:s	18.2	建造物7(Frente C)	C-577-30
図7-3-(1)-11:t	15.4	建造物7(Frente C)	C-577-37
図7-3-(1)-11:u	14.6	建造物7(Frente C)	C-594-28
図7-3-(1)-11:v	30.0	建造物7(Frente C)	C-615-48

表 7-3-(1)-3 : Flaring Bowl の口径

実測図	口径(cm)	出土地	個体番号
図7-3-(1)-12:a	17.6	建造物7(Frente C)	C-447-148
図7-3-(1)-12:b	17.4	建造物7(Frente C)	C-553-303
図7-3-(1)-12:c	28.6	建造物7(Frente C)	C-553-347
図7-3-(1)-12:d	8.6	建造物7(Frente C)	C-553-501

表 7-3-(1)-4 : Simple Bowl の口径

実測図	口径(cm)	出土地	個体番号
図7-3-(1)-13	17.8	建造物7(Frente C)	C-553-431

表 7-3-(1)-5 : 碗の底部の径

実測図	径(cm)	出土地	個体番号
図7-3-(1)-14:a	13.4	建造物7(Frente C)	C-553-292
図7-3-(1)-14:b	9.8	建造物7(Frente C)	C-553-31

また、Flaring Bowl の場合は、8.6cm から 28.6cm (表 7-3-(1)-3)、Simple Bowl では 17.8cm である (表 7-3-(1)-4)。底部は平底でその径は、13.4cm と 9.8cm のものが見られた。

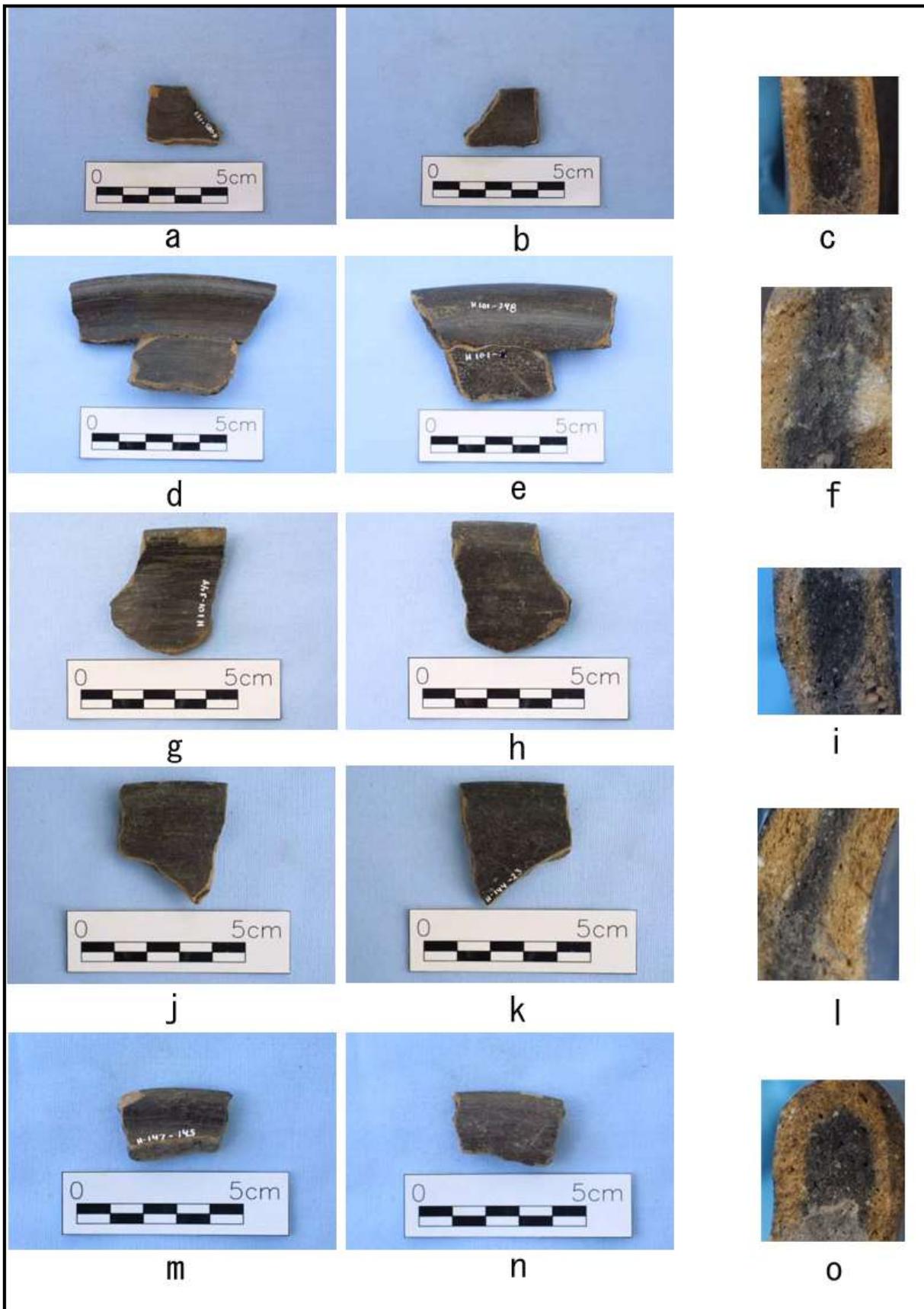


図 7-3-(1)-1 : 建造物 6 (T8) 出土の碗

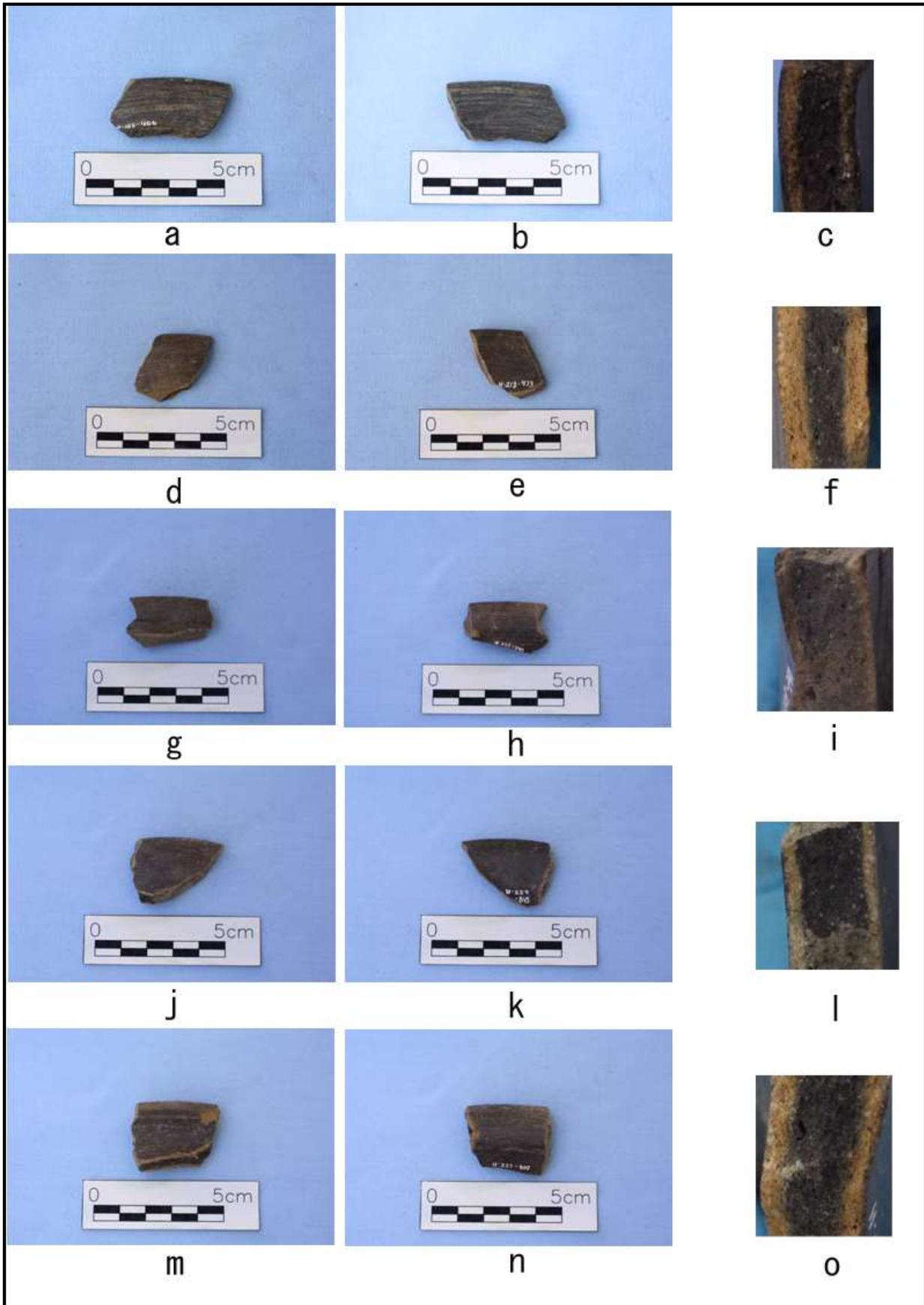


図 7-3-(1)-2 : 建造物 6 (T8) 出土の碗

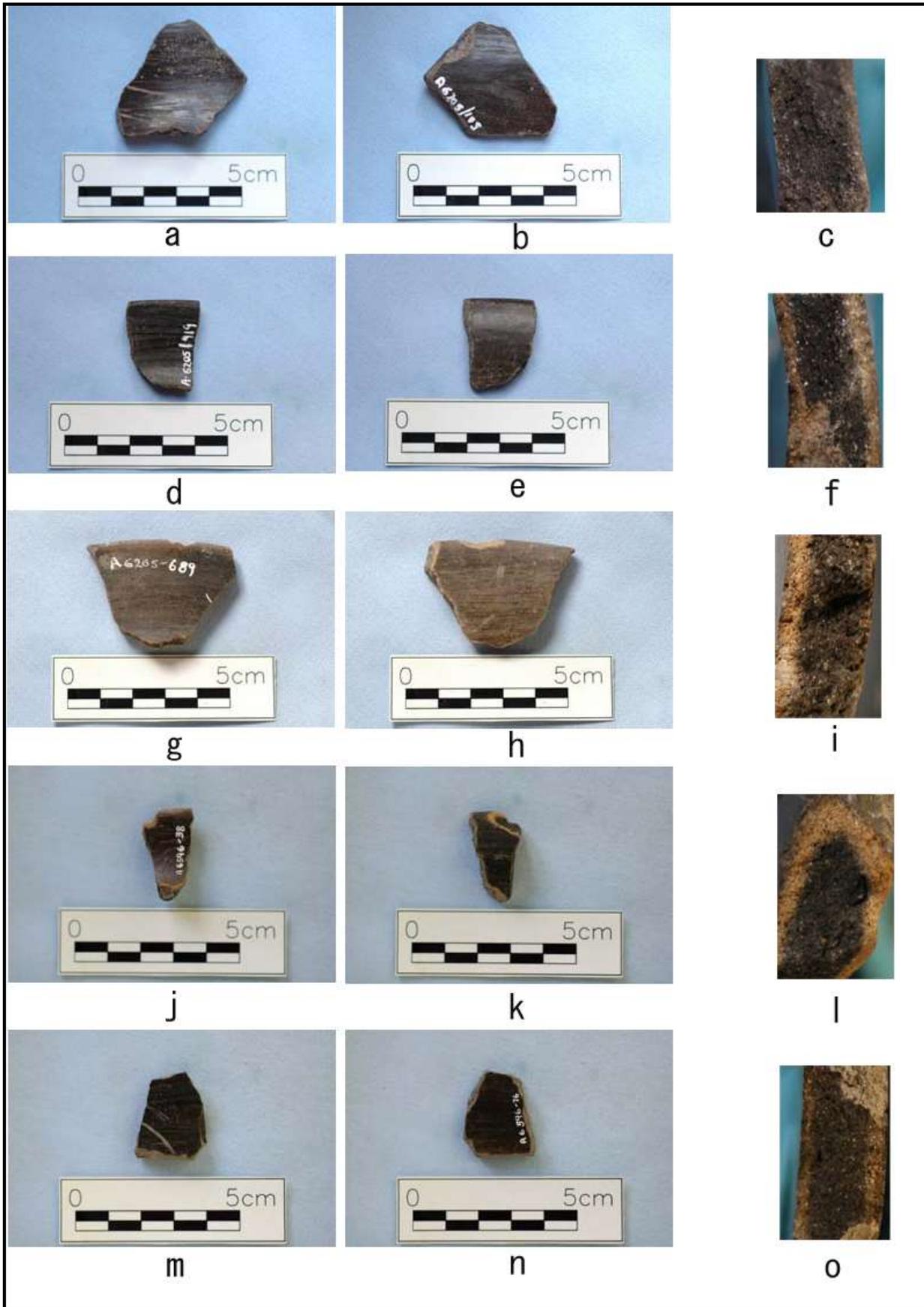


図 7-3-(1)-3 : 建造物 6 (T2) 出土の碗

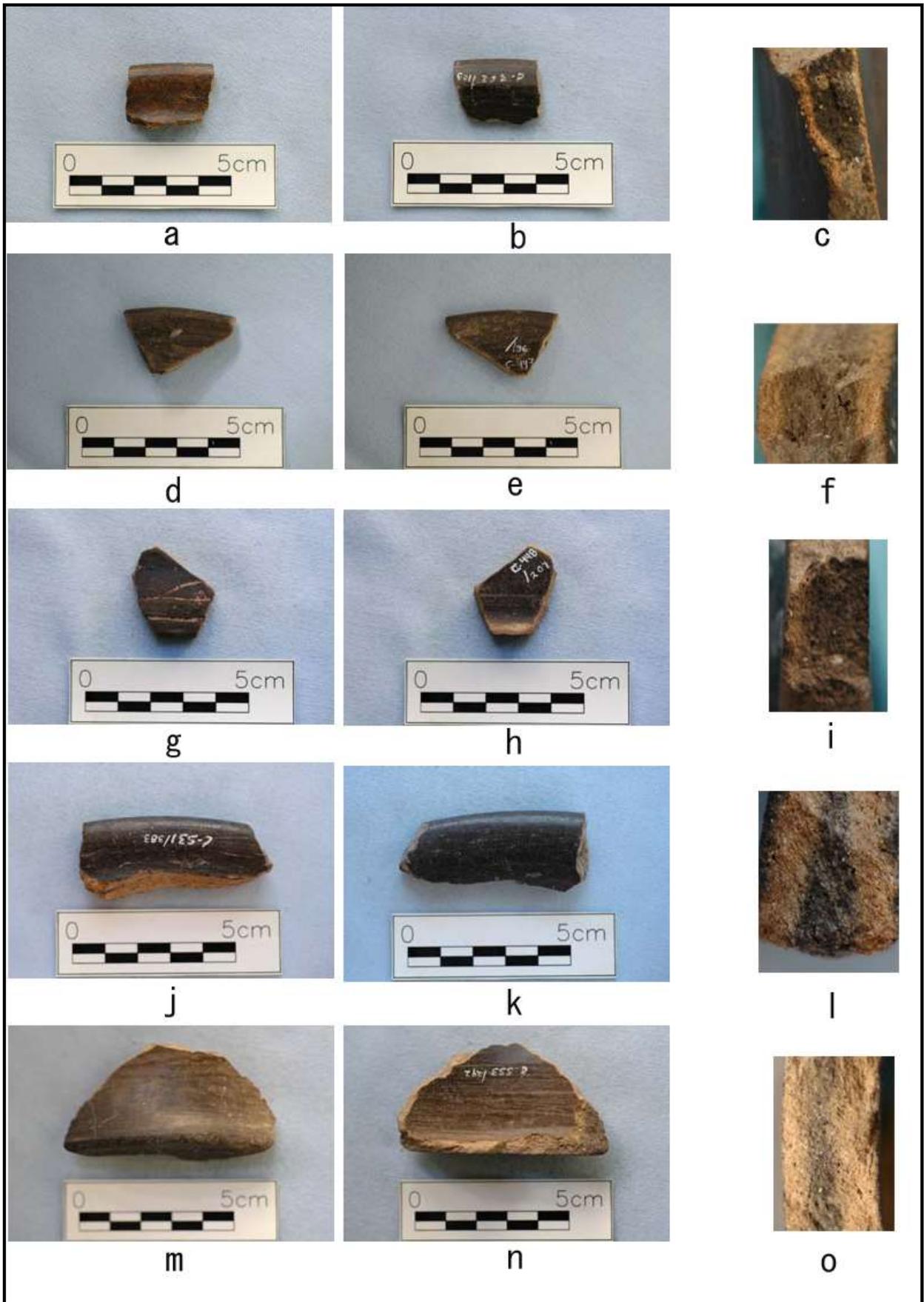


図 7-3-(1)-4 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗

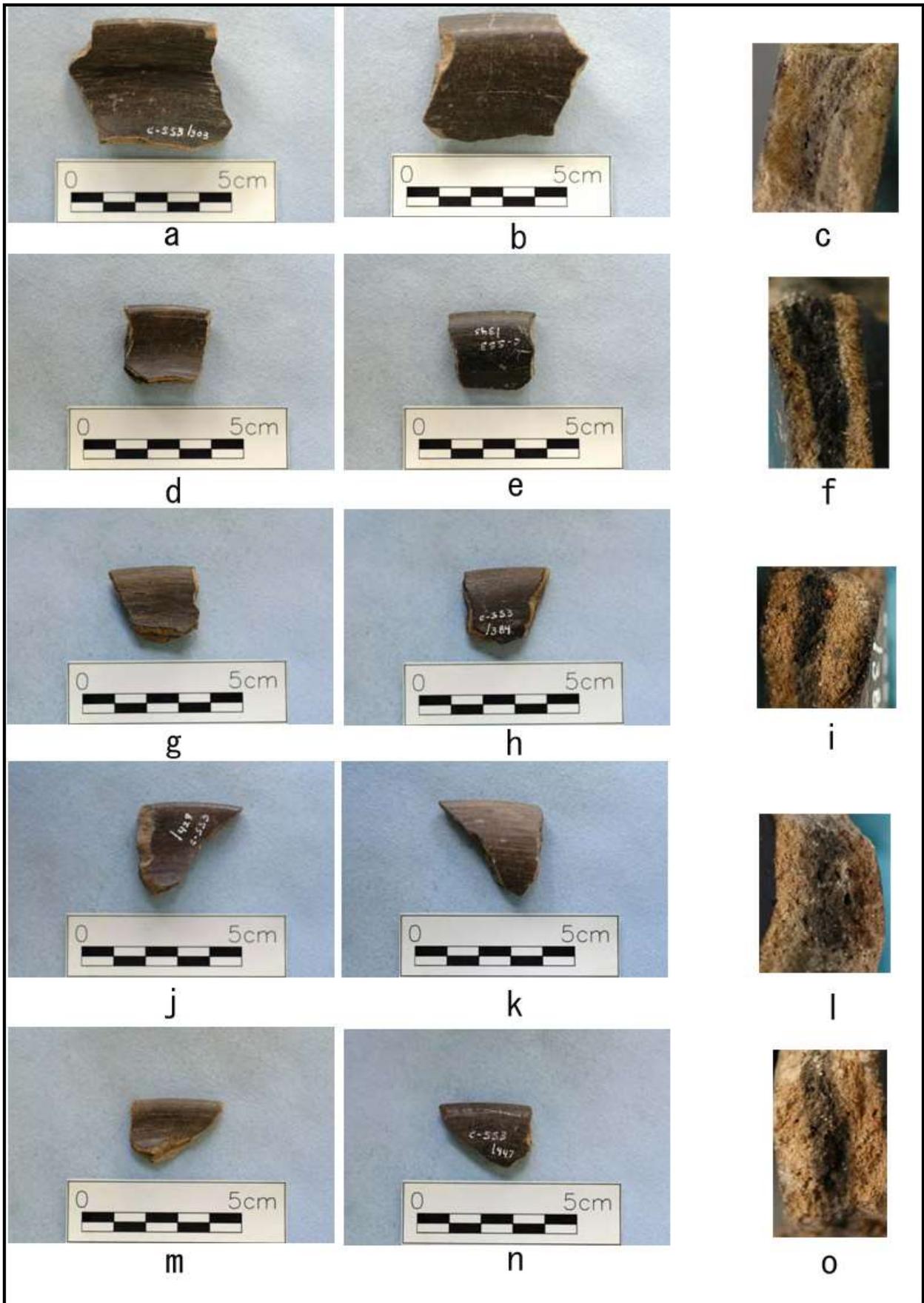


図 7-3-(1)-5 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗

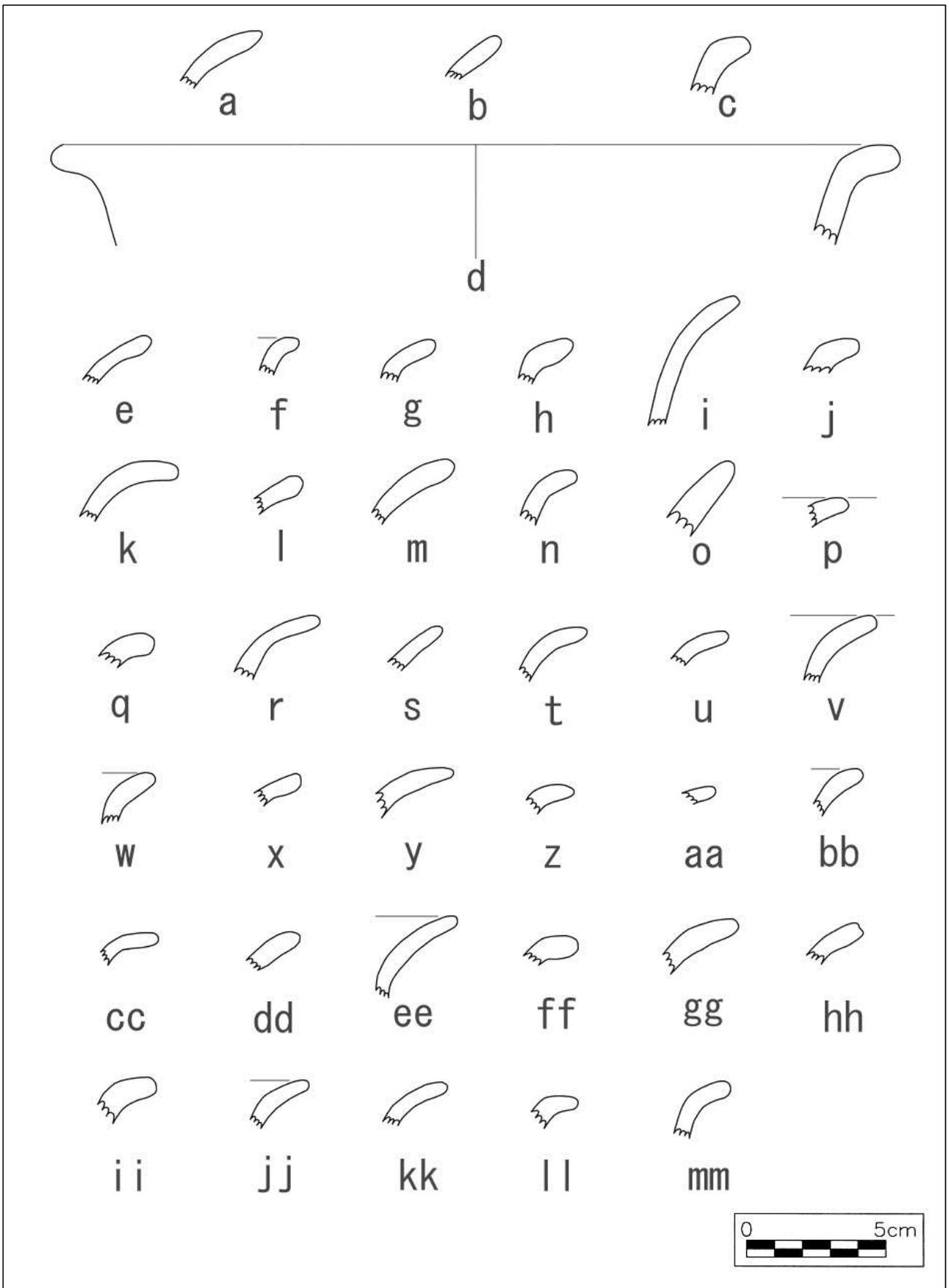


図 7-3-(1)-6 : 建造物 6 (T8) 出土の碗 (Outcurving Bowl)

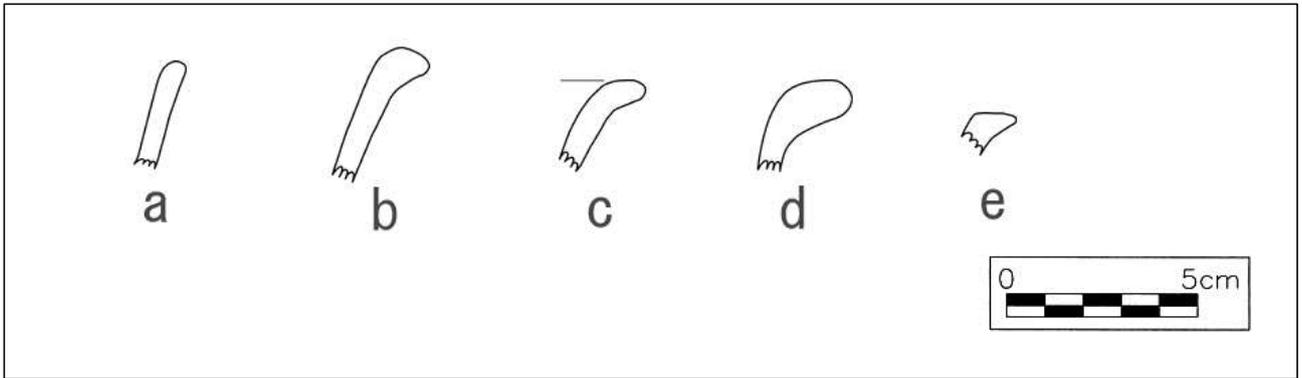


図 7-3-(1)-7 : 建造物 6 (T8) 出土の碗(Flaring Bowl)

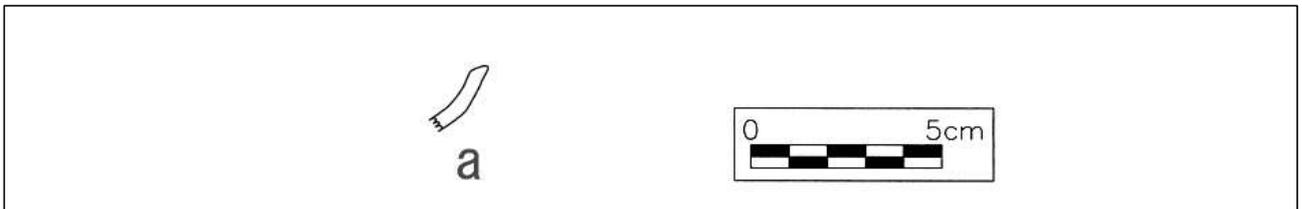


図 7-3-(1)-8 : 建造物 6 (T8) 出土の碗(Simple Bowl)

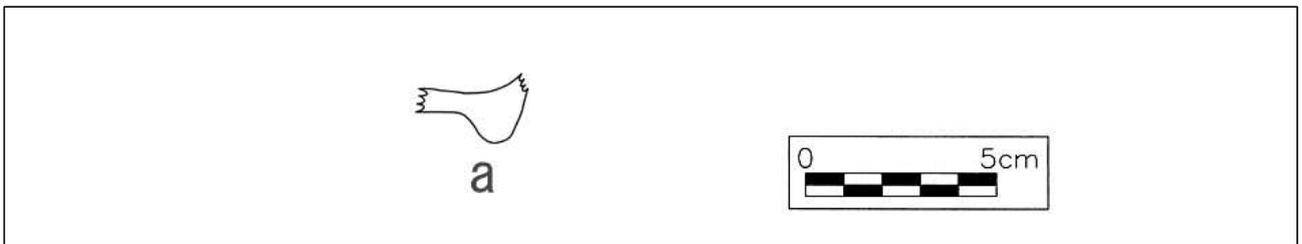


図 7-3-(1)-9 : 建造物 6 (T8) 出土の碗の底部

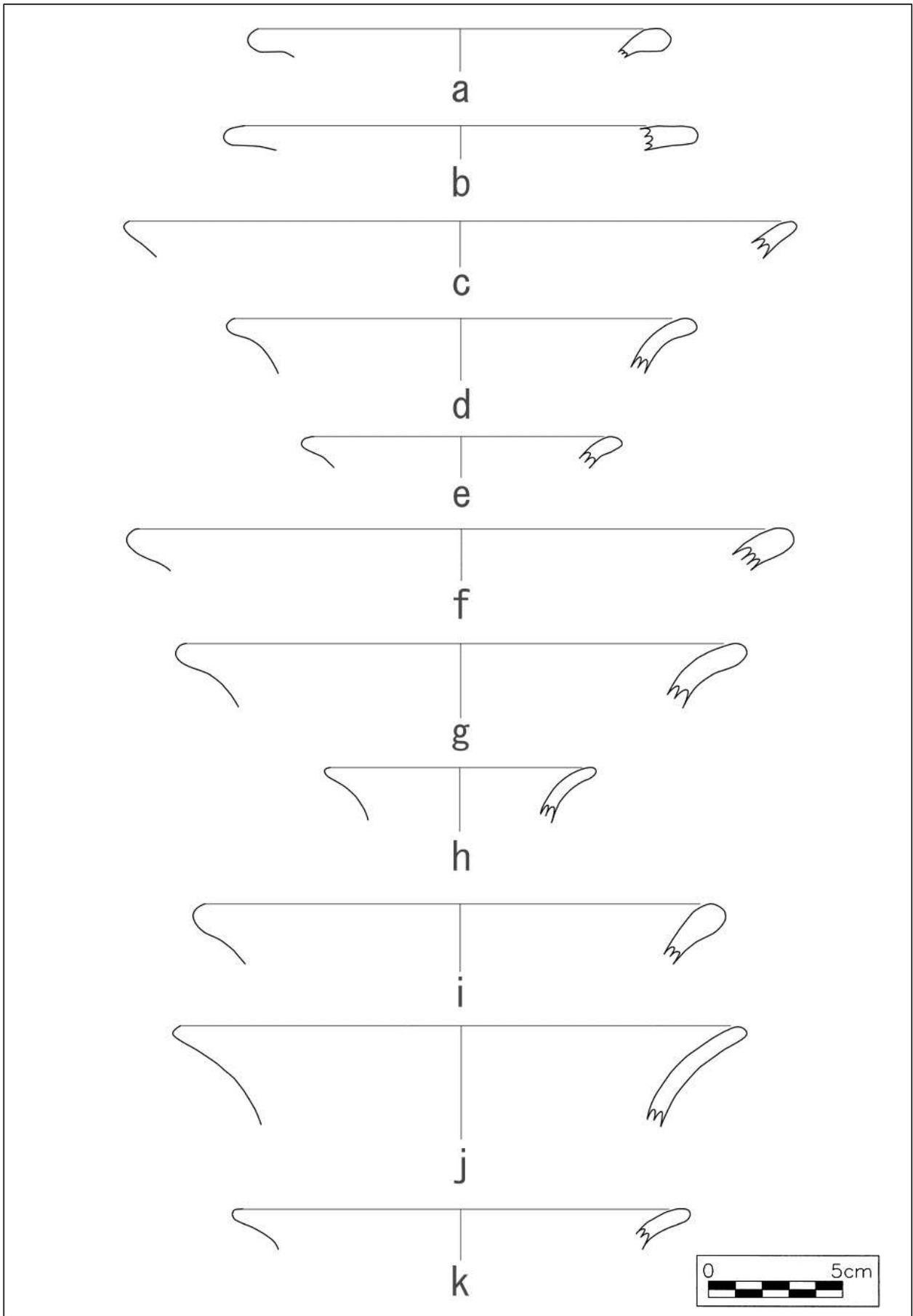


図 7-3-(1)-10 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗 (Outcurving Bowl)

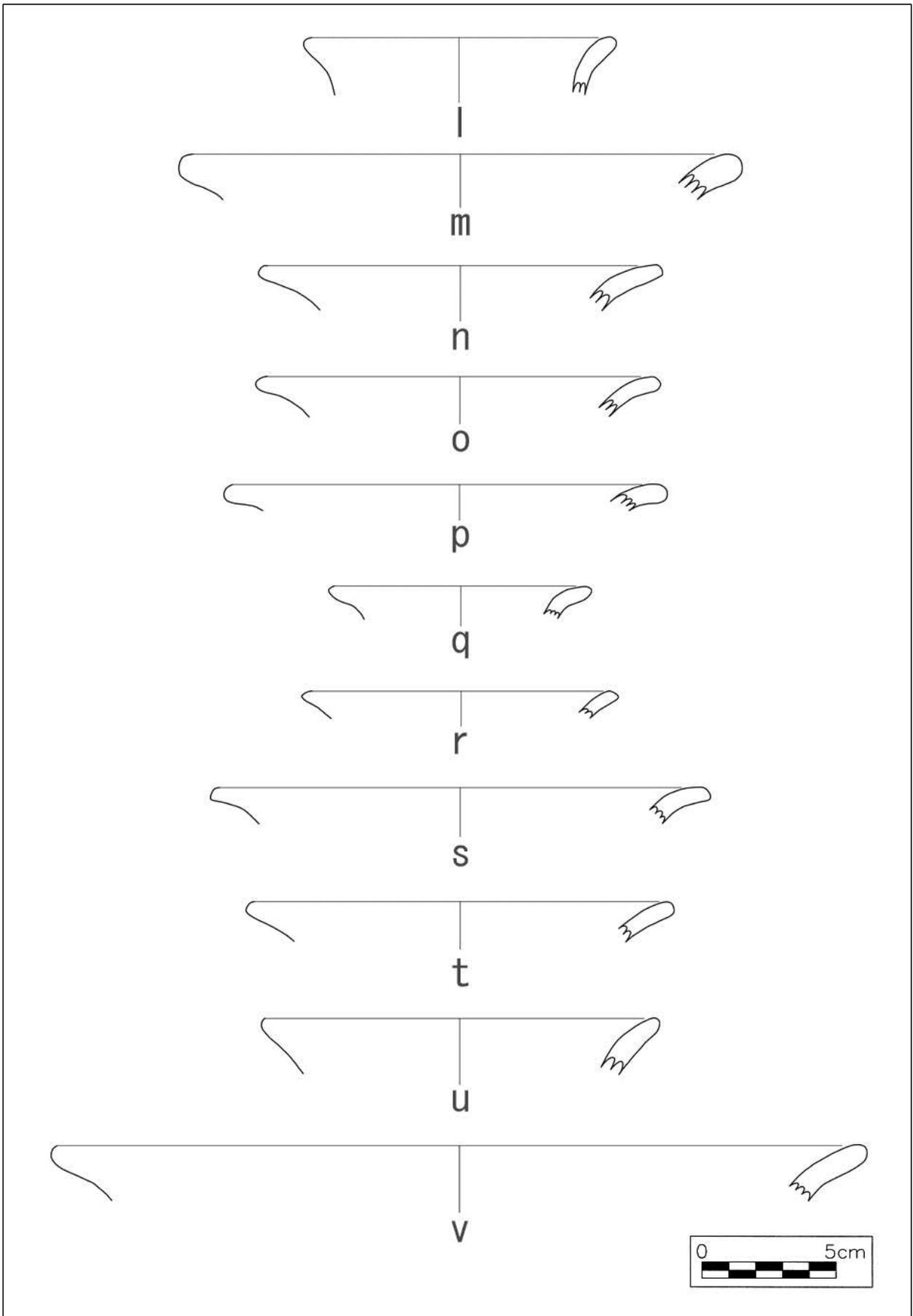


図 7-3-(1)-11 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗 (Outcurving Bowl)

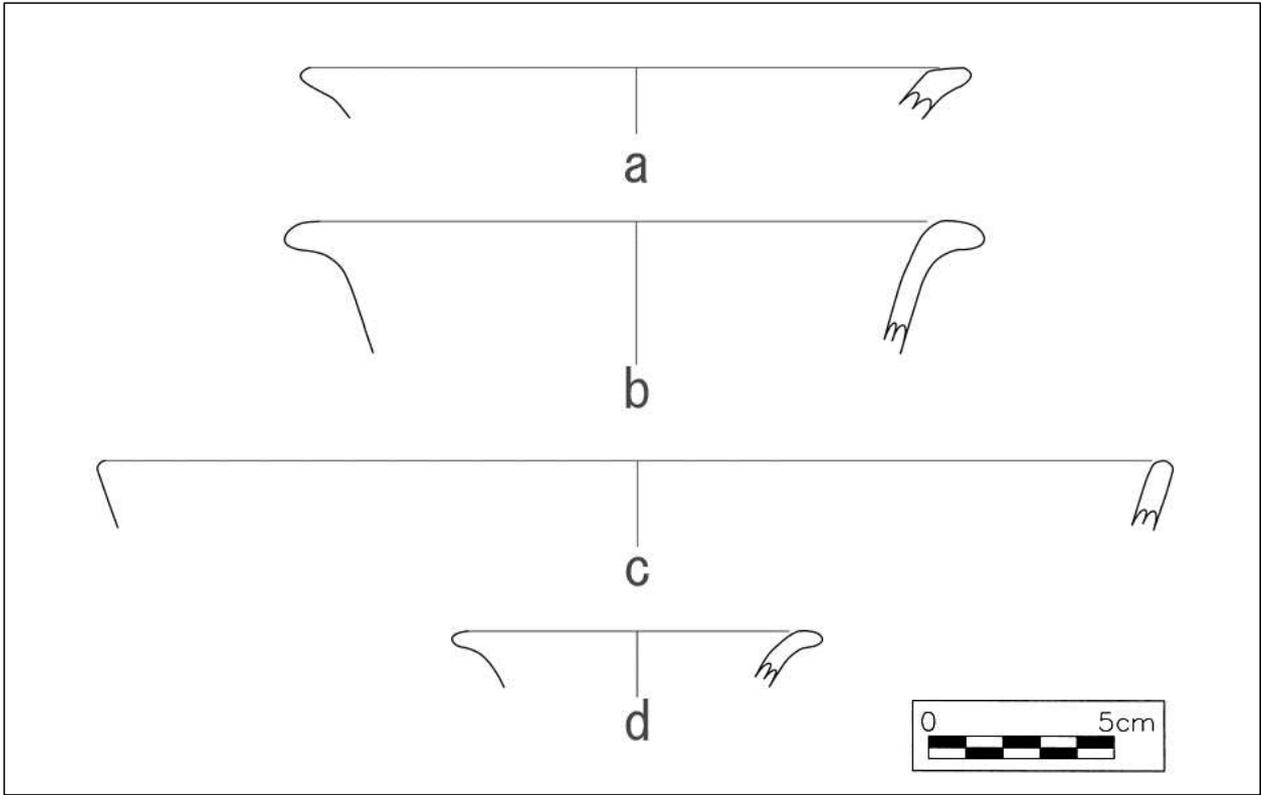


図 7-3-(1)-12 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗 (Flaring Bowl)



図 7-3-(1)-13 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗 (Simple Bowl)

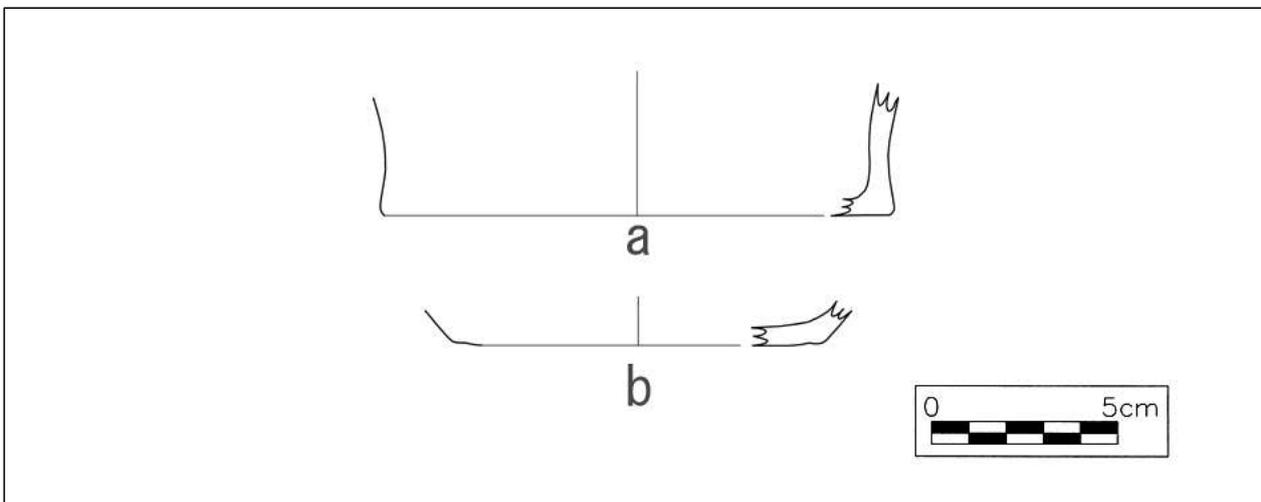


図 7-3-(1)14 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗の底部

(2) 皿(Dish)

個体数 : N=2 (トラミミロルパ期の Polished Ware の黒色グループの中で 1.1%)

出土地点 :

表 7-3-(2)-1 : 皿の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
皿(Dish)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%

図版 : 図 7-3-(2)-1 ~ 図 7-3-(2)-2

胎土 : 胎土は、粘土質で含有物は少なく硬い。一般的に胎土の中央部に黒色バンドを有する。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/8) である。

表面調整 : 表面の仕上げは良好で良く研磨される。色は黒色である。

装飾 : 無し。

器形 : 胴部がなだらかに内湾する碗である (図 7-3-(2)-2)。

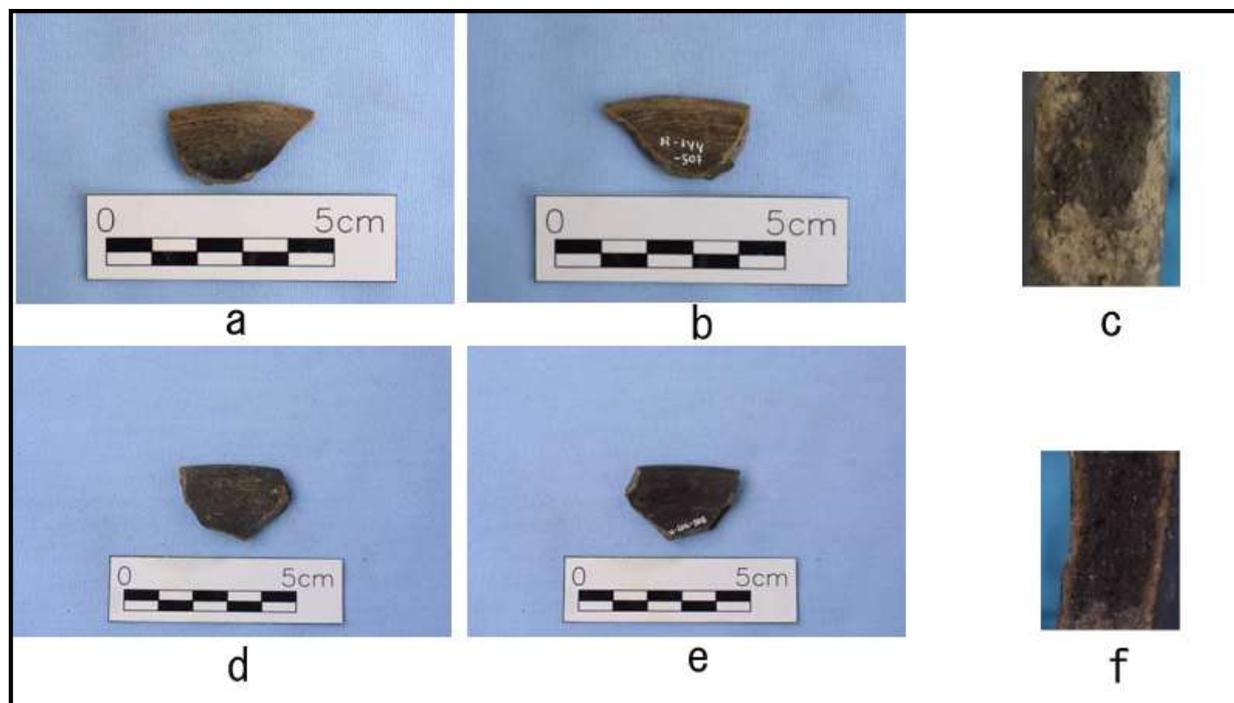


図 7-3-(2)-1 : 建造物 8 (T6) 出土の皿



図 7-3-(2)-2 : 建造物 8 (T6) 出土の皿

(3) 円筒形壺(Vase)

個体数 : N=4 (トラミミロルパ期の Polished Ware の黒色グループの中で 2.1%)

出土地点 :

表 7-3-(3)-1 : 円筒形壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
円筒形壺(Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	75.0%	1	25.0%	0	0.0%	4	100.0%

図版 : 図 7-3-(3)-1~図 7-3-(3)-2

胎土 : 胎土は、粘土質で含有物は少なく硬い。他の器種同様、胎土の中央部に黒色バンドを有する。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/6、7.5YR6/4)、赤褐色 (5YR5/6、) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは良好で良く研磨される。色は黒色である。

装飾 : 焼成後の施文された沈線が見られる場合もある (図 7-3-(3)-2:a)。

器形 : 口縁部が外反し底部が平底の円筒形壺が見られる (図 7-3-(3)-1)。

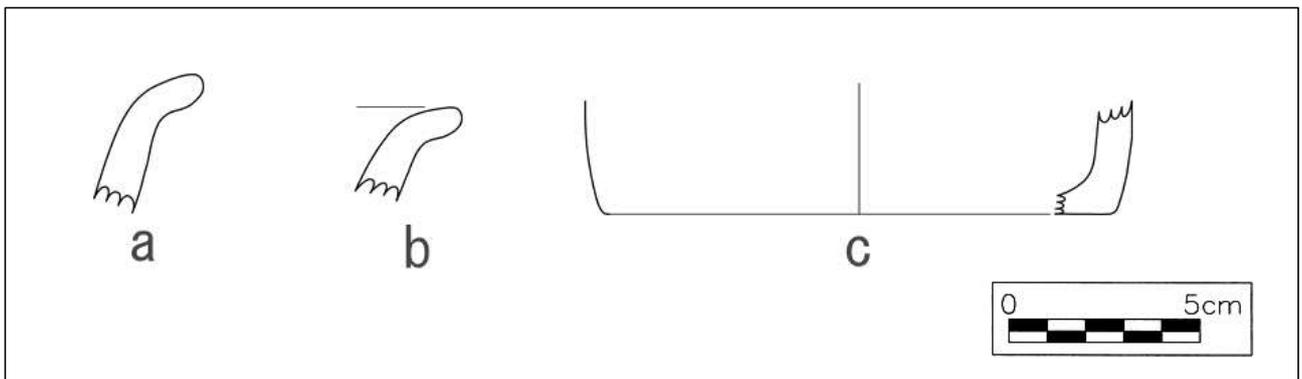


図 7-3-(3)-1 : 建造物 6 (T8) 出土の円筒形壺

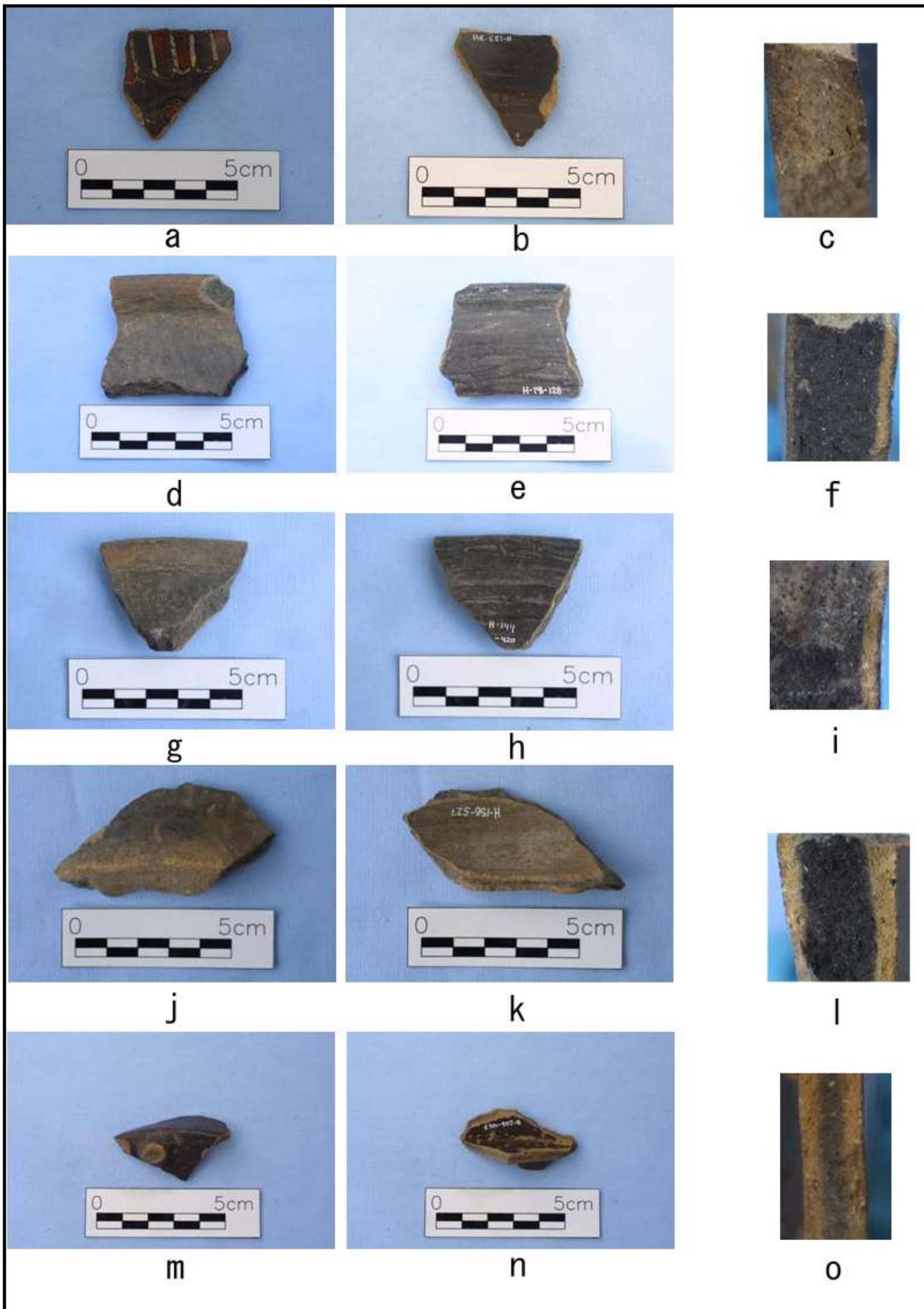


図 7-3-(3)-2 : 建造物 6 (T8) 出土の円筒形壺

<褐色グループ（個体数 N=118）>

（４）碗(Bowl)

個体数：N=111（トラミミロルパ期の Polished Ware の褐色グループの中で 94.1%）

出土地点：

表 7-3-(4)-1：碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗(Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	74	66.7%	36	32.4%	0	0.0%	111	100.0%

図版：図 7-3-(4)-1～図 7-3-(4)-12

胎土：胎土は、粘土質で含有物は少なく硬い。一般的に胎土の中央部に黒色バンドを有する。胎土の色は、オレンジ系（7.5YR7/6、7.5YR7/4、7.5YR6/8、7.5YR6/6、5YR6/6、5YR 6/4）、褐色系（7.5YR5/4、7.5YR4/3）、灰褐色（10YR6/4、10YR6/2）、赤褐色（5YR5/6、5YR5/4）等である。

表面調整：表面の仕上げは良好で良く研磨される。色は褐色である。

装飾：無し。

器形：口縁部が大きく外反する Outcurving Bowl（図 7-3-(4)-6、図 7-3-(4)-12）は、口径 9.0cm から 24.6cm である（表 7-3-(4)-2）。また、胴部が外傾する Flaring Bowl は、口径 16.0cm の

表 7-3-(4)-2：Outcurving Bowl の口径

実測図	口径(cm)	出土地	個体番号
図7-3-(4)-12:a	22.6	建造物7(Frente C)	C-367-76
図7-3-(4)-12:b	16.8	建造物7(Frente C)	C-448-237
図7-3-(4)-12:c	16.4	建造物7(Frente C)	C-531-2
図7-3-(4)-12:d	-	建造物7(Frente C)	C-531-136
図7-3-(4)-12:e	21.7	建造物7(Frente C)	C-553-50
図7-3-(4)-12:f	9.0	建造物7(Frente C)	C-553-88
図7-3-(4)-12:g	16.0	建造物7(Frente C)	C-575-46
図7-3-(4)-12:h	24.6	建造物7(Frente C)	C-594-13
図7-3-(4)-12:i	22.2	建造物7(Frente C)	C-615-4
図7-3-(4)-12:j	13.6	建造物7(Frente C)	C-615-28

ものが見られる（図 7-3-(4)-7:a）。Simple Bowl は、口径 29.4cm、19.8cm である（図 7-3-(4)-10、図 7-3-(4)-11）。

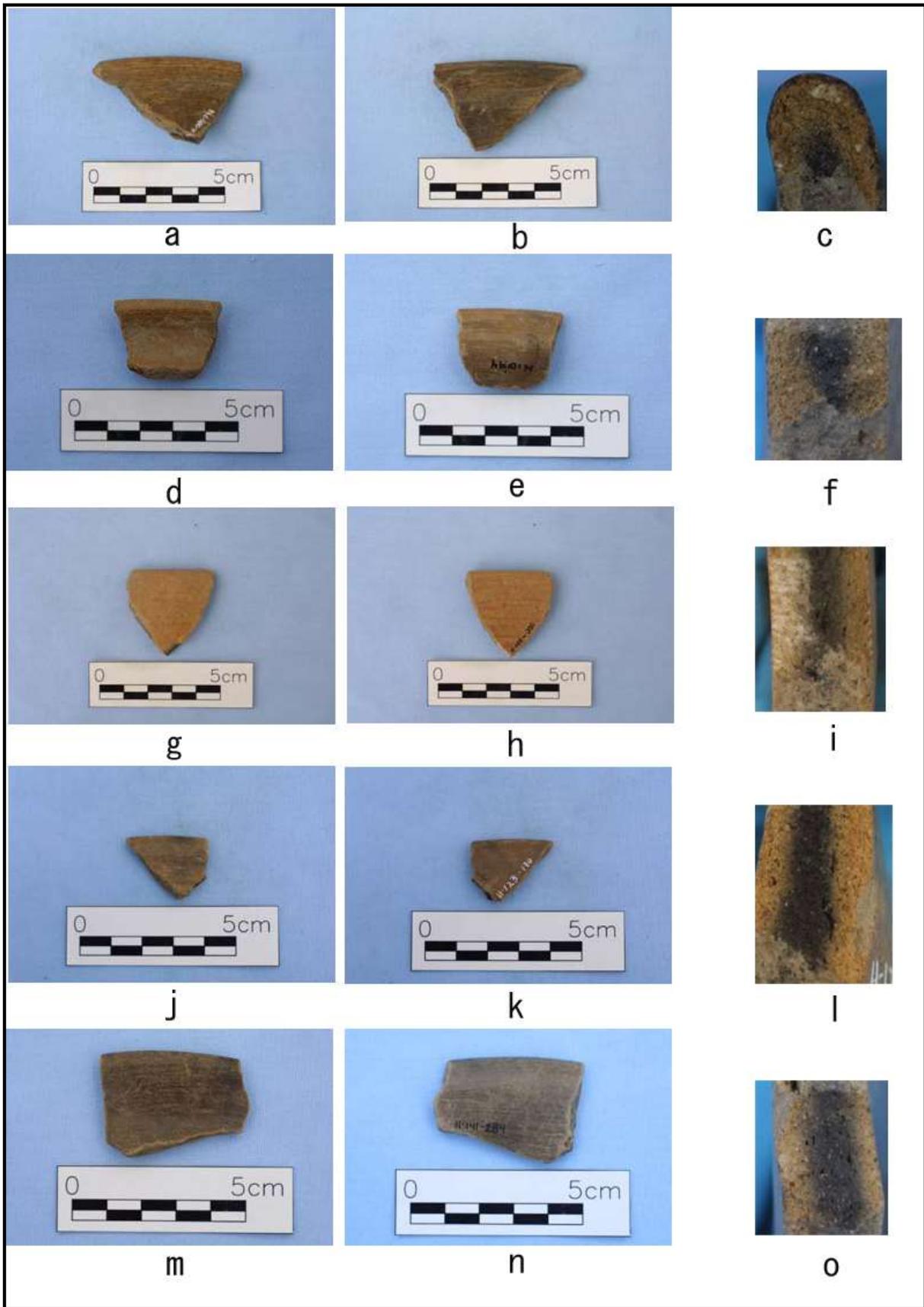


図 7-3-(4)-1 : 建造物 6 (T8) 出土の碗

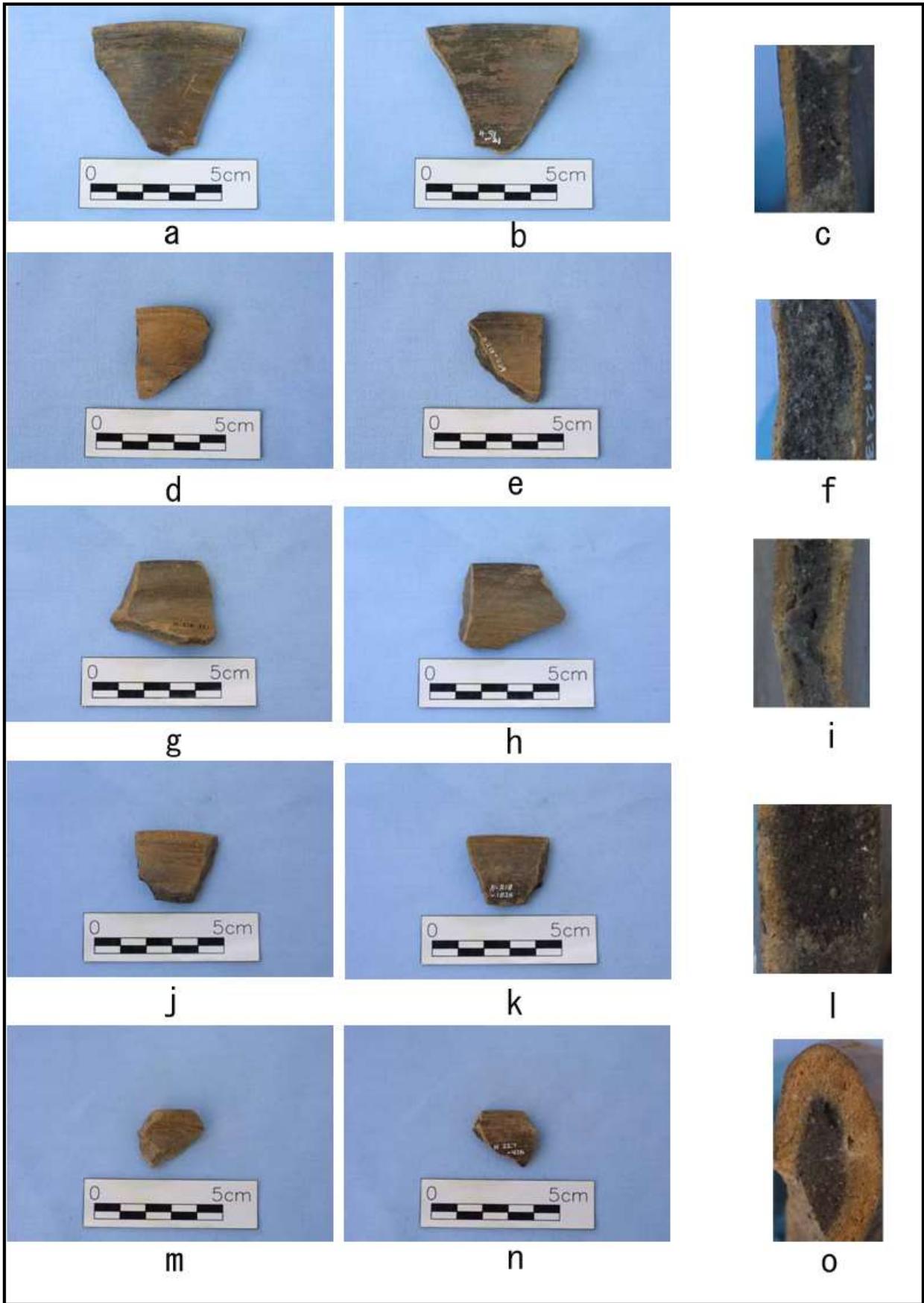


図 7-3-(4)-2 : 建造物 6 (T8) 出土の碗

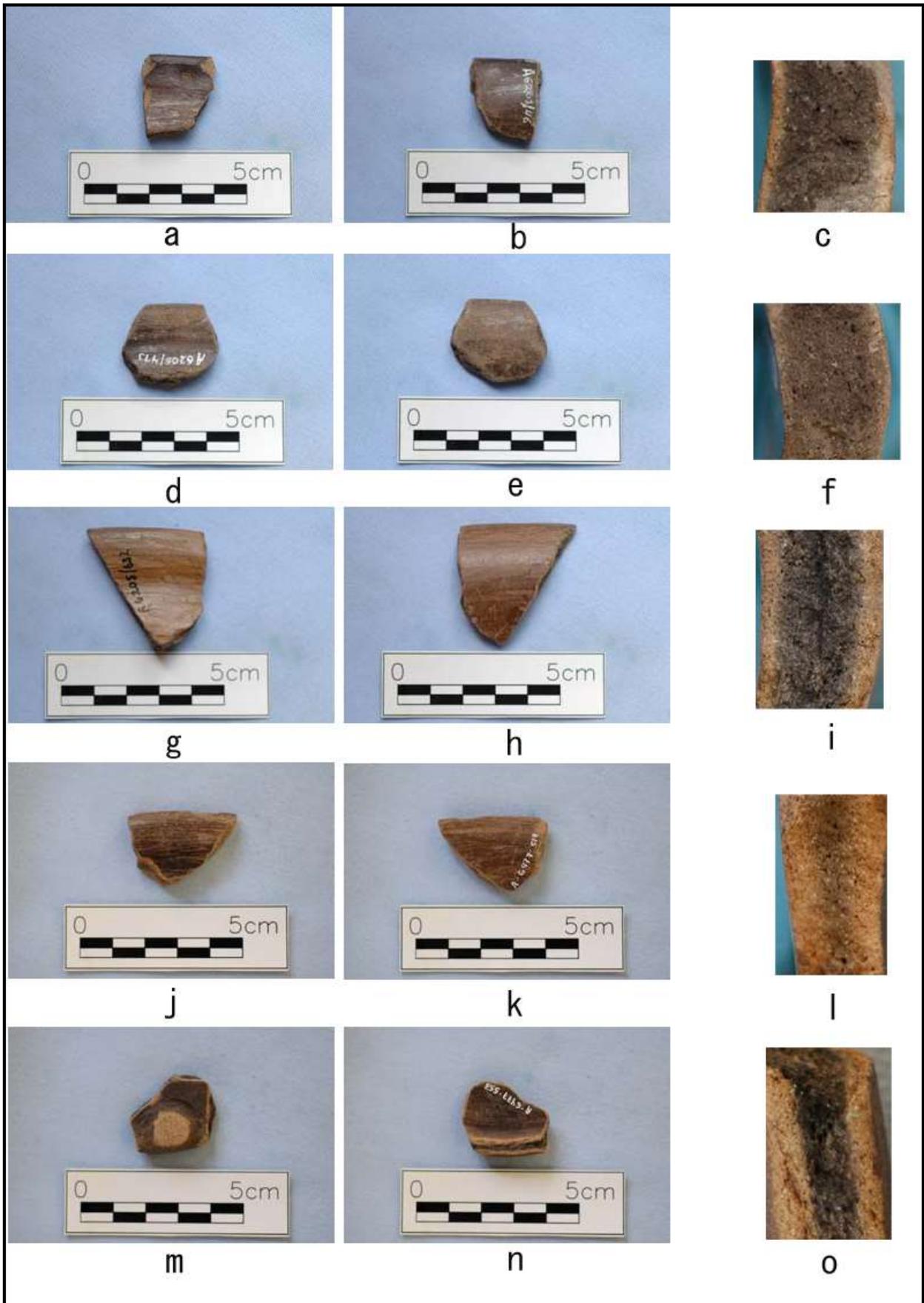


図 7-3-(4)-3 : 建造物 6 (T2) 出土の碗

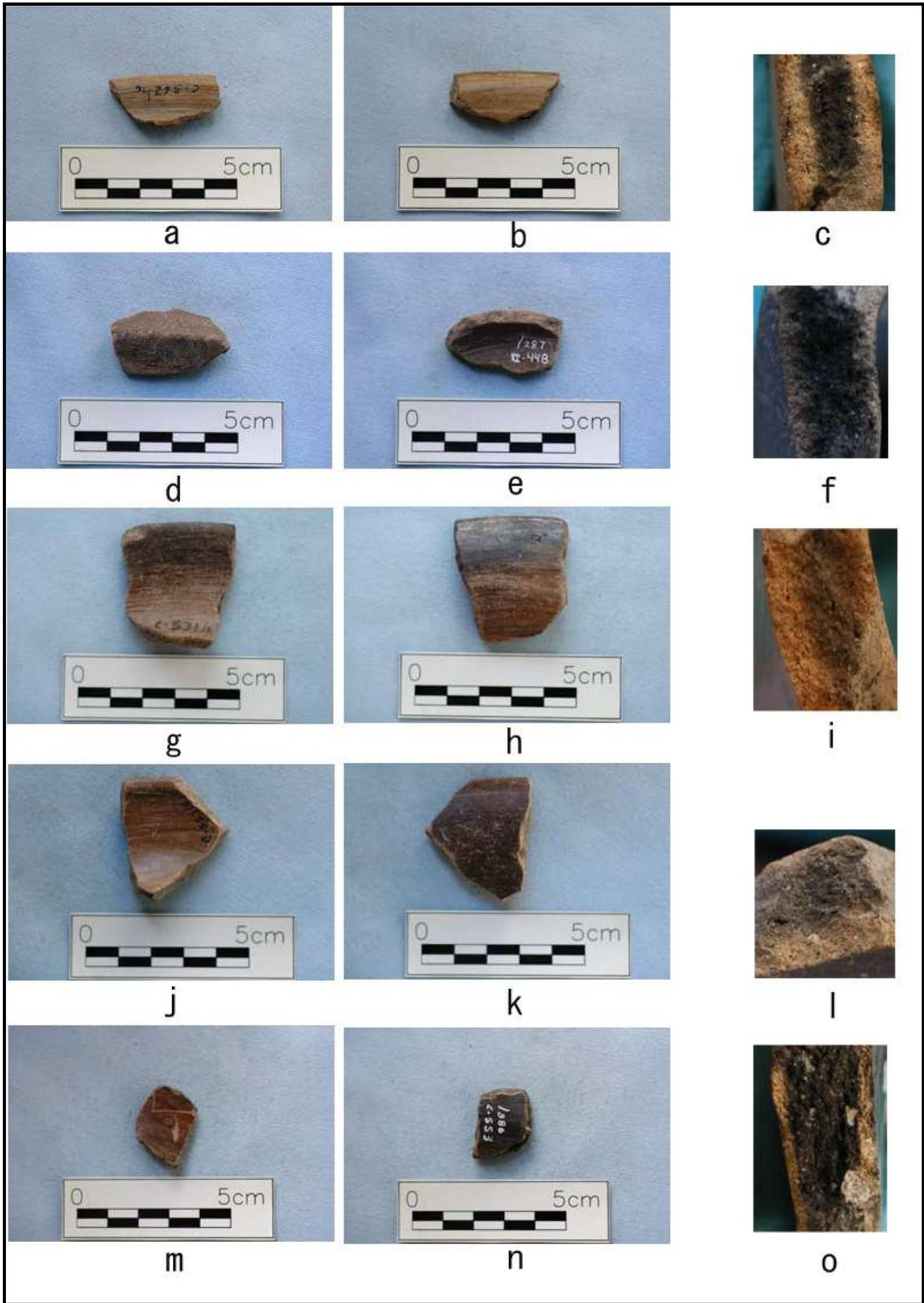


図 7-3-(4)-4 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗

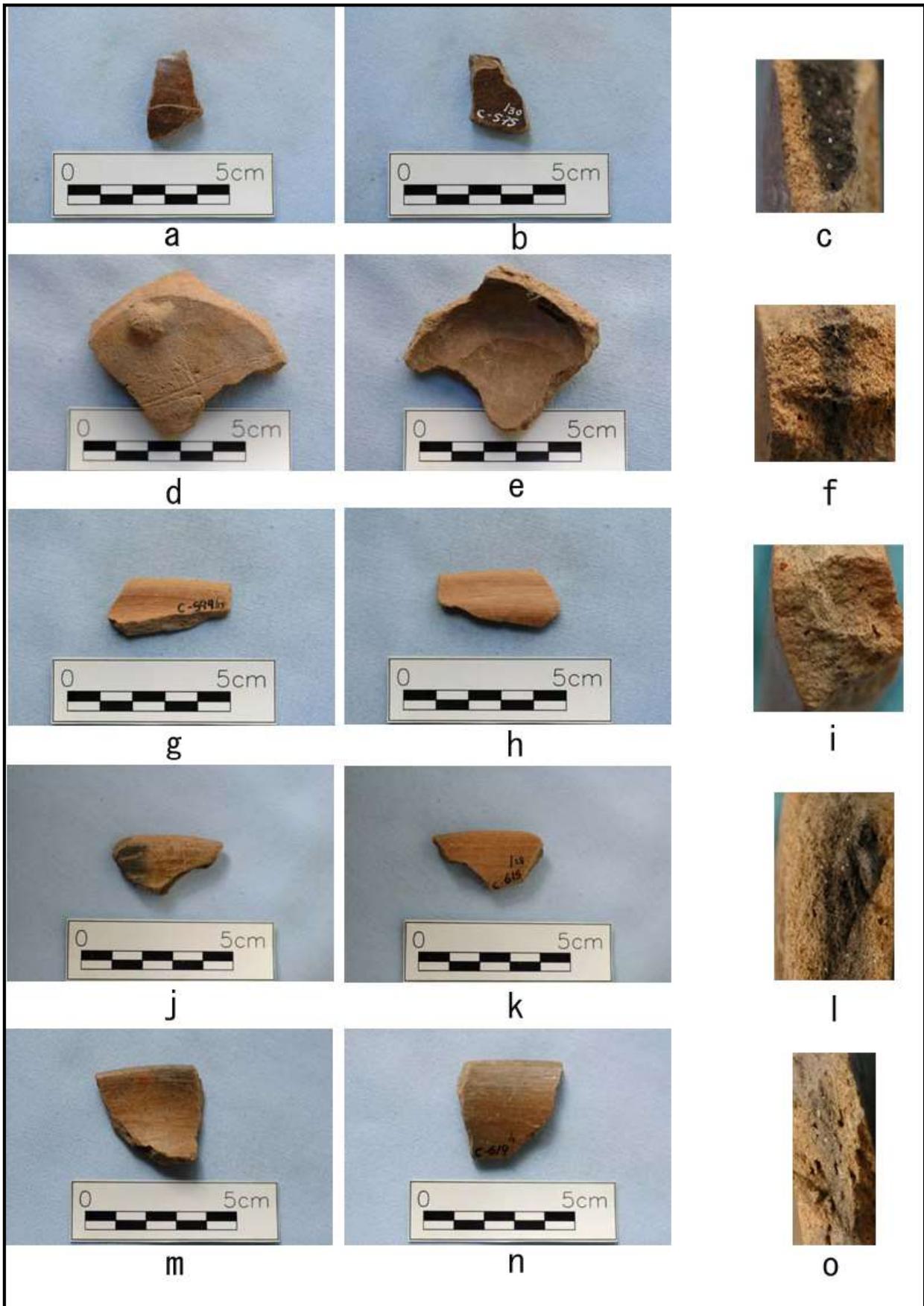


図 7-3-(4)-5 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗

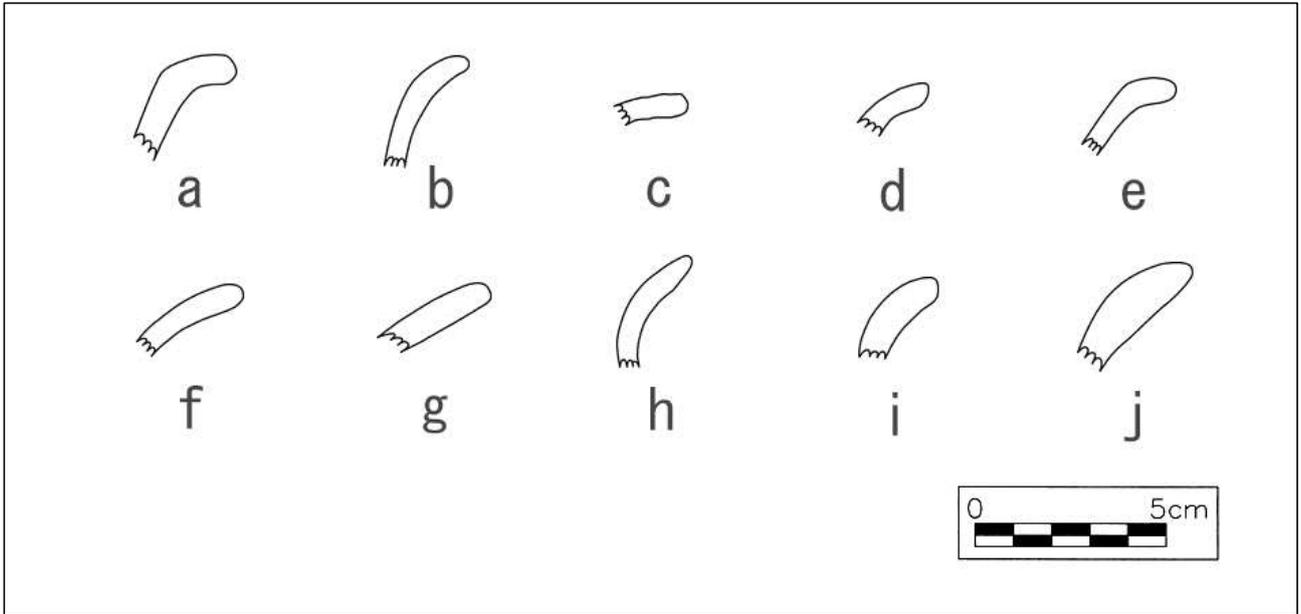


図 7-3-(4)-6 : 建造物 6 (T8) 出土の碗 (Outcurving Bowl)

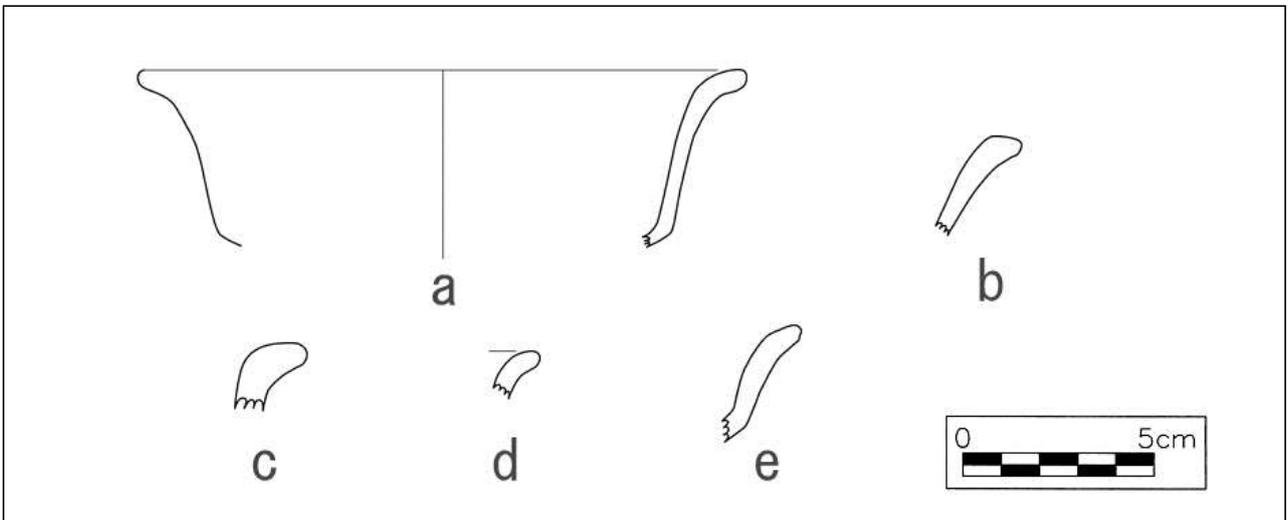


図 7-3-(4)-7 : 建造物 6 (T8) 出土の碗 (Flaring Bowl)

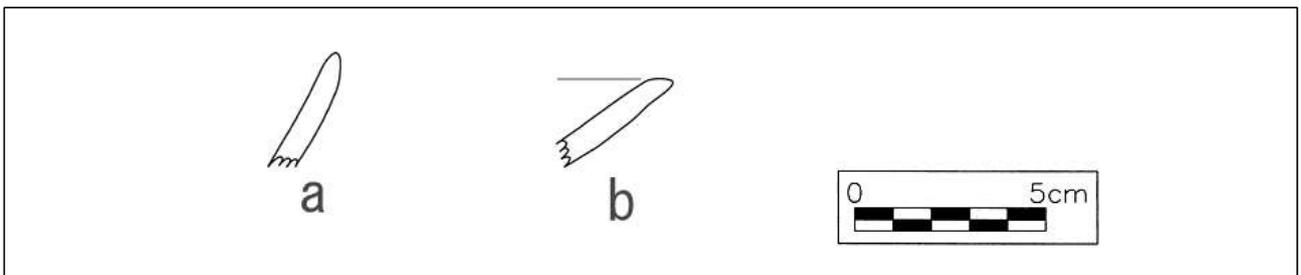


図 7-3-(4)-8 : 建造物 6 (T8) 出土の碗 (Simple Bowl)

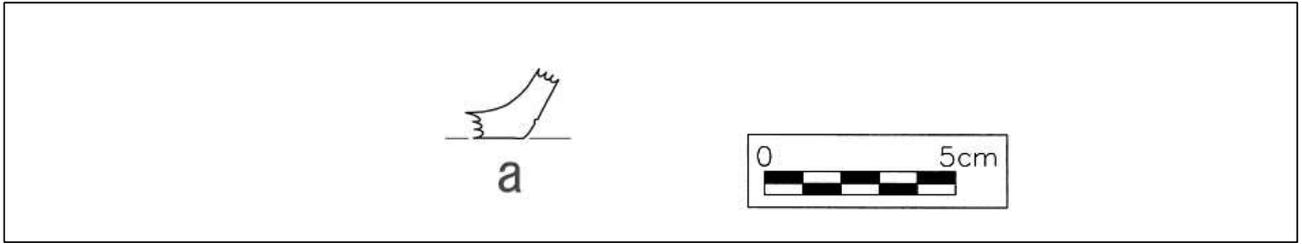


図 7-3-(4)-9 : 建造物 6 (T8) 出土の碗の底部 (Base)

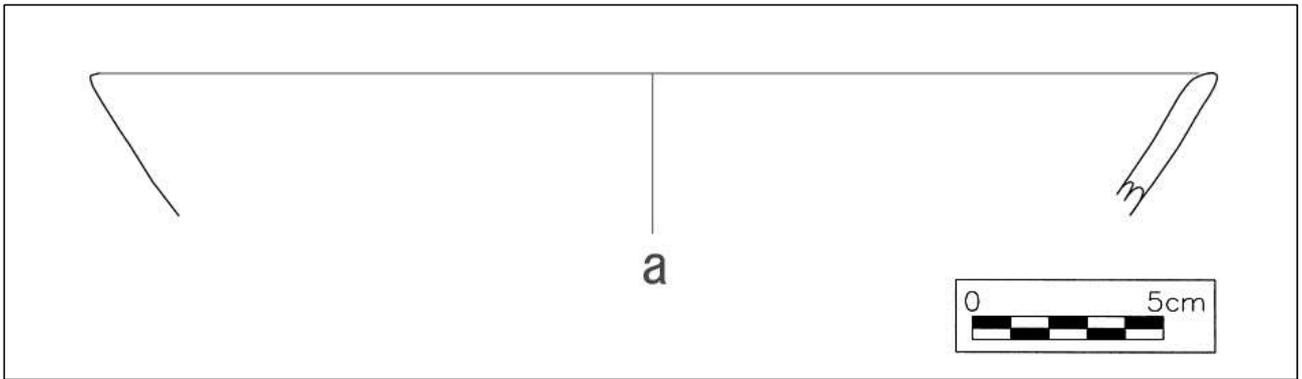


図 7-3-(4)-10 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗 (Simple Bowl)

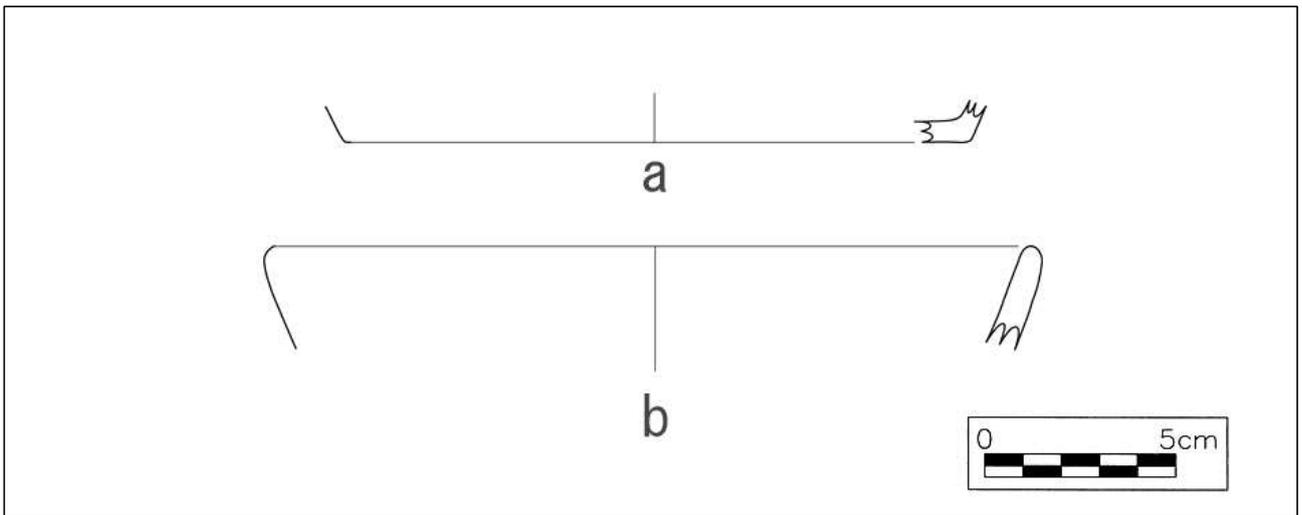


図 7-3-(4)-11 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗の底部と碗 (Simple Bowl)

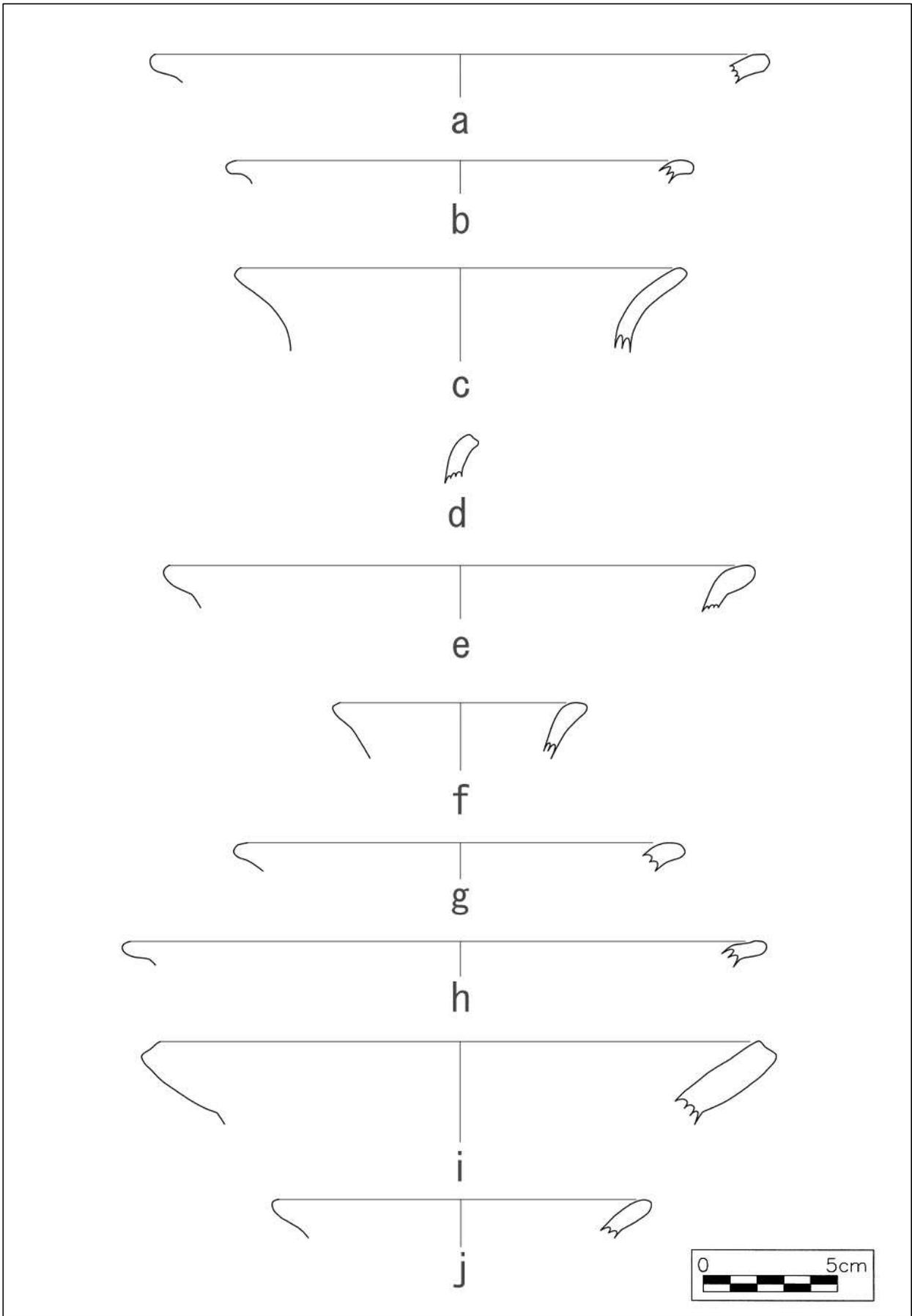


図 7-3-(4)-12 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗 (Outcurving Bowl)

(5) 壺(Jar)

個体数 : N=2 (トラミミロルパ期の Polished Ware の褐色グループの中で 1.7%)

出土地点 :

表 7-3-(5)-1 : 壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%

図版 : 無し。

胎土 : 胎土は、粘土質で含有物は少なく硬い。胎土の中央部に黒色バンドを有する。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR7/4、5YR6/6) である。

表面調整 : 表面の仕上げは良好で良く研磨される。色は褐色である。

装飾 : 無し。

器形 : 頸部が直立するあるいはやや外傾する壺が見られる。

(6) 円筒形壺(Vase)

個体数 : N=4 (トラミミロルパ期の Polished Ware の褐色グループの中で 3.4%)

出土地点 :

表 7-3-(6)-1 : 円筒形壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	50.0%	2	50.0%	0	0.0%	4	100.0%

図版 : 図 7-3-(6)-1~図 7-3-(6)-4

胎土 : 胎土は、粘土質で含有物は少なく硬い。一般的に胎土の中央部に黒色バンドを有する。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/8、7.5YR6/4) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは良好で内外面とも良く研磨される。色は暗褐色である。

装飾 : 無し。

器形 : 口縁部が大きく外反する (図 7-3-(6)-1)。底部の径は、11.8cm から 19.2cm である (図 7-3-(6)-1、図 7-3-(6)-2)

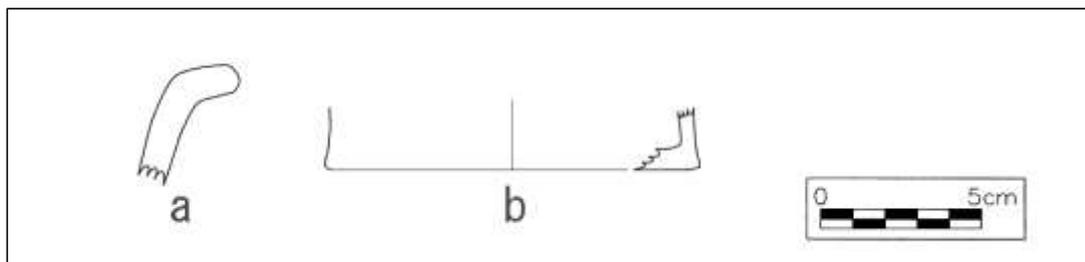


図 7-3-(6)-1 : 建造物 6 (T8) 出土の円筒形壺

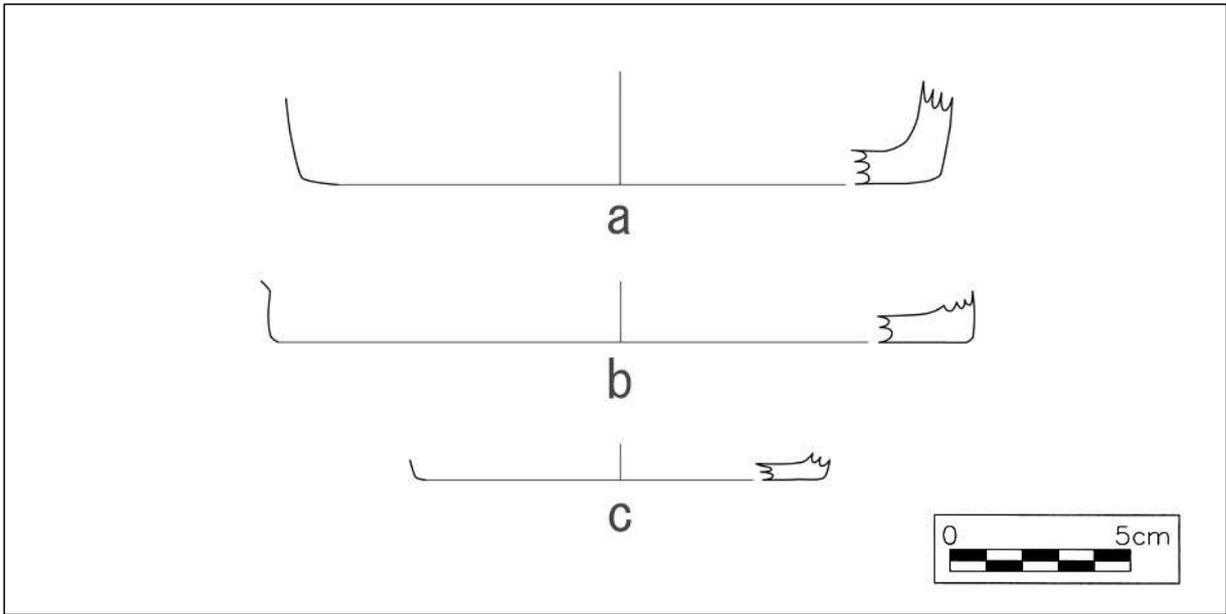


図 7-3-(6)-2 : 建造物 7 (Frente C) 出土の円筒形壺

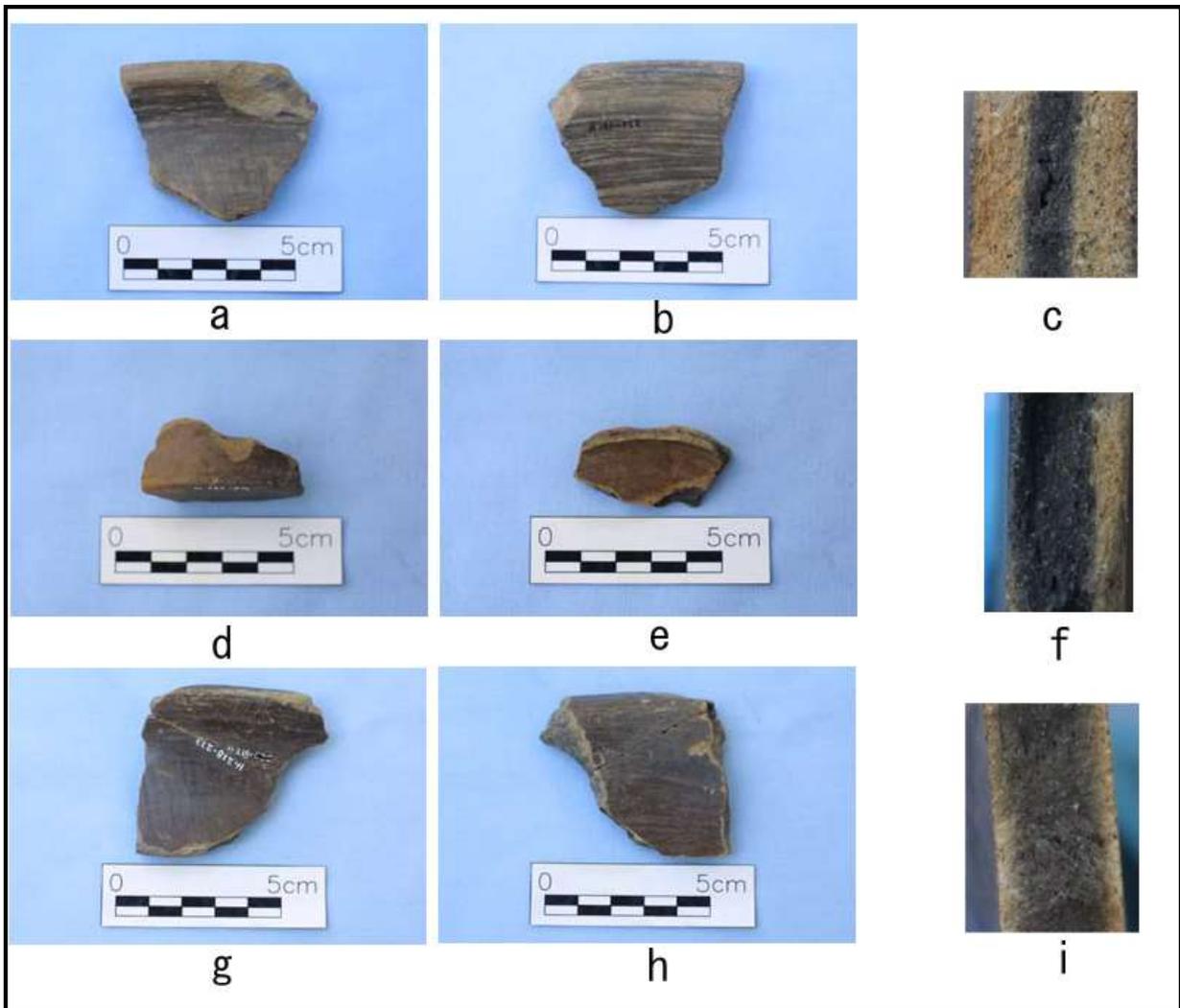


図 7-3-(6)-3 : 建造物 6 (T8) 出土の円筒形壺

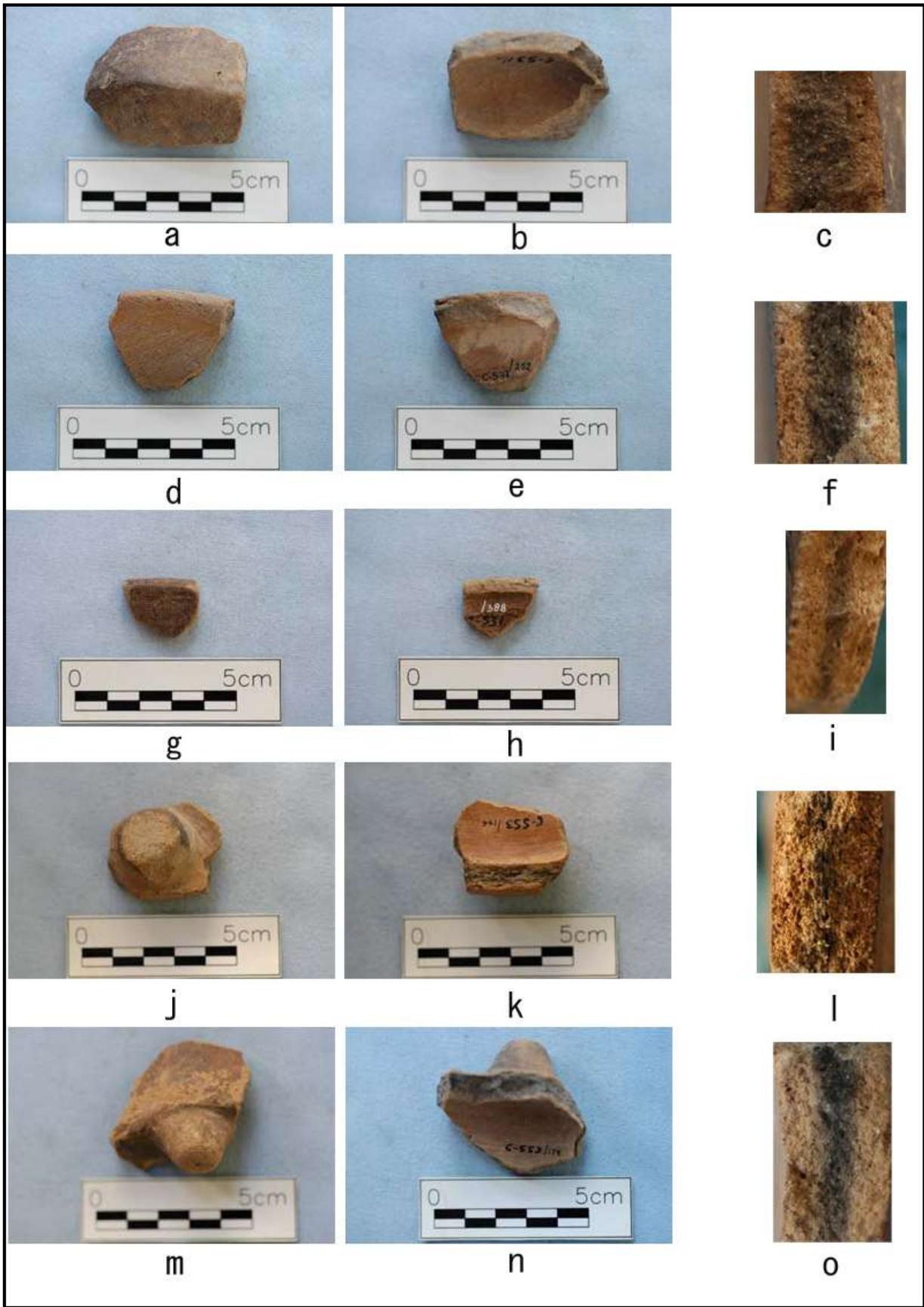


図 7-3-(6)-4 : 建造物 7 (Frente C) 出土の円筒形壺

(7) 長頸壺(Florero)

個体数 : N=1 (トラミミロルパ期の Polished Ware の褐色グループの中で 0.8%)

出土地点 :

表 7-3-(7)-1 : 長頸壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
長頸壺 (Florero)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%

図版 : 図 7-3-(7)-1

胎土 : 胎土は、粘土質で含有物は少なく硬い。胎土の中央部に黒色バンドを有する。胎土の色は、オレンジ系 (5YR 6/4 である。

表面調整 : 表面の仕上げは良好で良く研磨される。色は赤褐色である。

装飾 : 無し。

器形 : 口縁部水平まで外反する



図 7-3-(7)-1 : 建造物 6 (T8) 出土の長頸壺

(8) まとめ

表 7-3-(8)-1 : Polished Ware の黒色グループの器種別、出土地別構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	107	95.5%	77	98.7%	0	0.0%	184	96.8%
皿 (Dish)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.1%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.7%	1	1.3%	0	0.0%	4	2.1%
合計	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	112	100.0%	78	100.0%	0	0.0%	190	100.0%

表 7-3-(8)-2 : Polished Ware の褐色グループの器種別、出土地別構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	74	94.9%	36	92.3%	0	0.0%	111	94.1%
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.7%
円筒形壺 (Vase)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.6%	2	5.1%	0	0.0%	4	3.4%
長頸壺 (Florero)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.6%	0	0.0%	1	0.8%
合計	0	0.0%	0	0.0%	0	100.0%	0	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	78	100.0%	39	100.0%	0	0.0%	118	100.0%

「月のピラミッド」出土のトラミミロルパ期の Polished Ware は、黒色グループや褐色グループの両グループにおいて、器種では碗が最も多く出土している（表 7-3-(8)-1、表 7-3-(8)-2）。また、この時期の胎土の特徴は、含有物の少ない粘土質の胎土に焼成不良のための生じた黒色バンドを有することである。

ラットレイによると、Polished Ware は、文様の無い Monochrome グループと文様のある Incised グループに細分される。Monochrome グループは、表面の色により褐色系と黒色系に分類される。器種としては、碗、円筒形壺、壺、長頸壺などが一般的な器種で、皿やトラロックは少数である。トラミミロルパ期の胎土は、硬くて前の時期に比べてテンパーは少ない。灰褐色の胎土に細い黒色バンドが見られる。Outcurving Bowl は水平まで外反する口縁部を持ちやや大型の円錐形三脚(Nubbin Support)が付く (Rattray 2001:169-171)。

また、後期になると口唇部は前期より丸くなり、また口縁部は薄くなり、円錐形三脚(Nubbin Support)も小さくなる。胎土も前期ほど良好ではない。円筒形壺も大きく外反する口縁部や直立する口縁部を持つ。小型の円筒形壺には円錐形三脚が付くようになり、また新しい三脚として中空の四角の三脚が出現する。沈線の装飾は、中型の円錐形三脚の付く碗の下部に主に見られ、その他円筒形壺や壺にも施される。また、ミカオトリ期から継続する研磨された部分と研磨されない部分を沈線によって区別する装飾や様々な幾何学文様が描かれる。また、沈線の施文の技法としては、焼成前に施文しその文様の上からさらに表面を磨く場合と、焼成後に先の細い施文道具を使って施文する場合の2通りの方法がある。後期には、円筒形壺に Plano-relief が施される。この技法は、沈線と削り取りにより土器に浮き彫りの文様を施す技法であり次のショラルパン期に発展する (Rattray 2001:189-195)。

7-4 Painted Ware (個体数 N=26、トラミミロルパ期全体の中で 6.3%)

<Monochrome Red グループ (個体数 N=16) >

(1) 碗(Bowl)

個体数 : N=15 (トラミミロルパ期の Monochrome Red グループの中で 93.8%)

出土地点 :

表 7-4-(1)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	53.3%	7	46.7%	0	0.0%	15	100.0%

図版 : 図 7-4-(1)-1~図 7-4-(1)-5

胎土 : 胎土は、粘土質で含有物は少なく硬い。一般的に胎土の中央部に黒色バンドを有する。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR7/4、7.5YR6/6、7.5YR6/4、5YR 6/4)、赤褐色 (7.5YR5/6) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは良好で良く研磨される。

装飾 : 内外面とも赤色のペイントが施される。赤色顔料は、Specular Red が使用される場合もある。

器形 : 口径が 23.6cm で口縁部が水平まで外反する Outcurving Bowl (図 7-4-(1)-1) や、口径が 17.8cm の Flaring Bowl (図 7-4-(1)-2) が見られる。

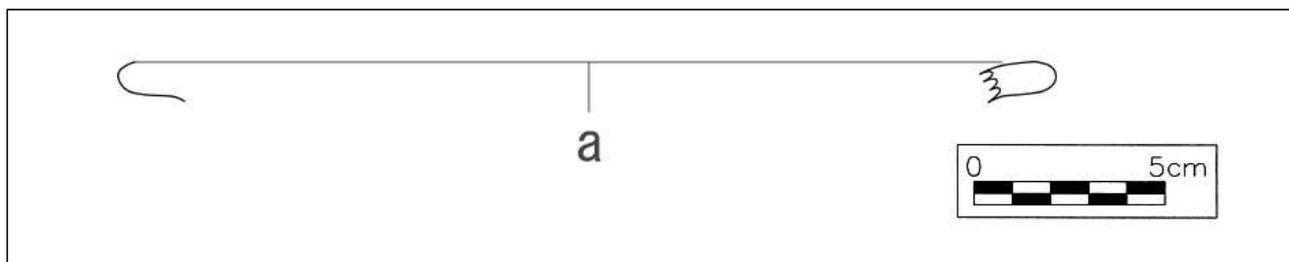


図 7-4-(1)-1 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗 (Outcurving Bowl)

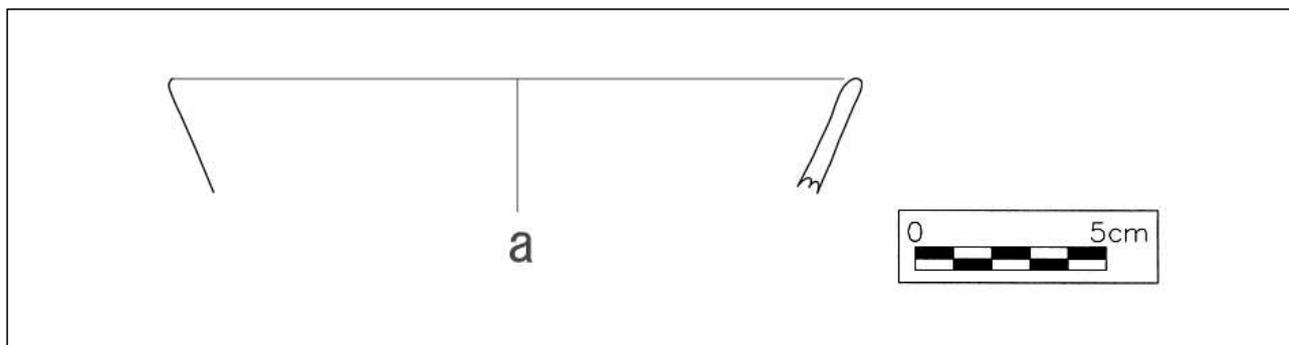


図 7-4-(1)-2 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗 (Flaring Bowl)

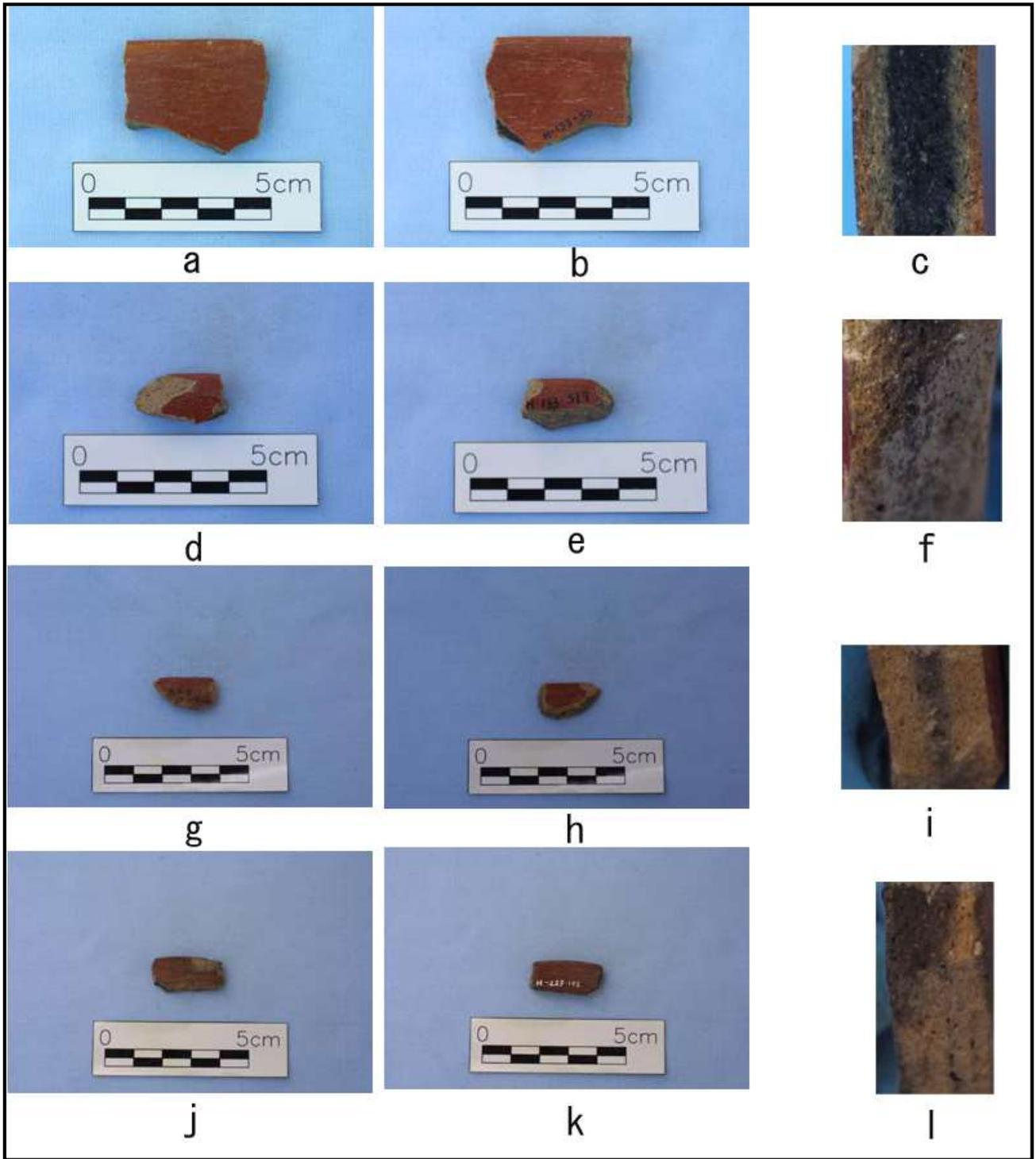


図 7-4-(1)-3 : 建造物 6 (T8) 出土の碗

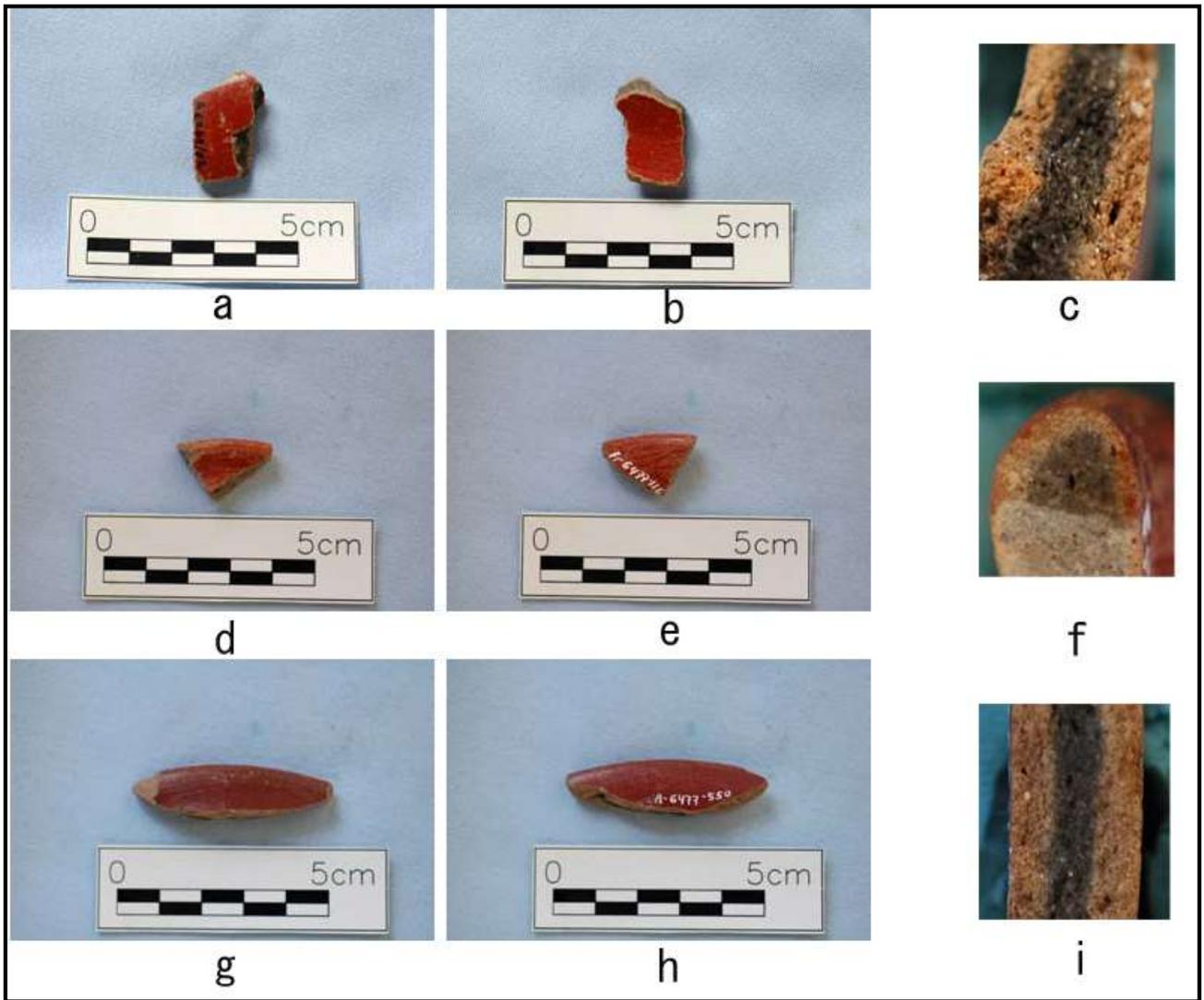


図 7-4-(1)-4 : 建造物 6 (T2) 出土の碗

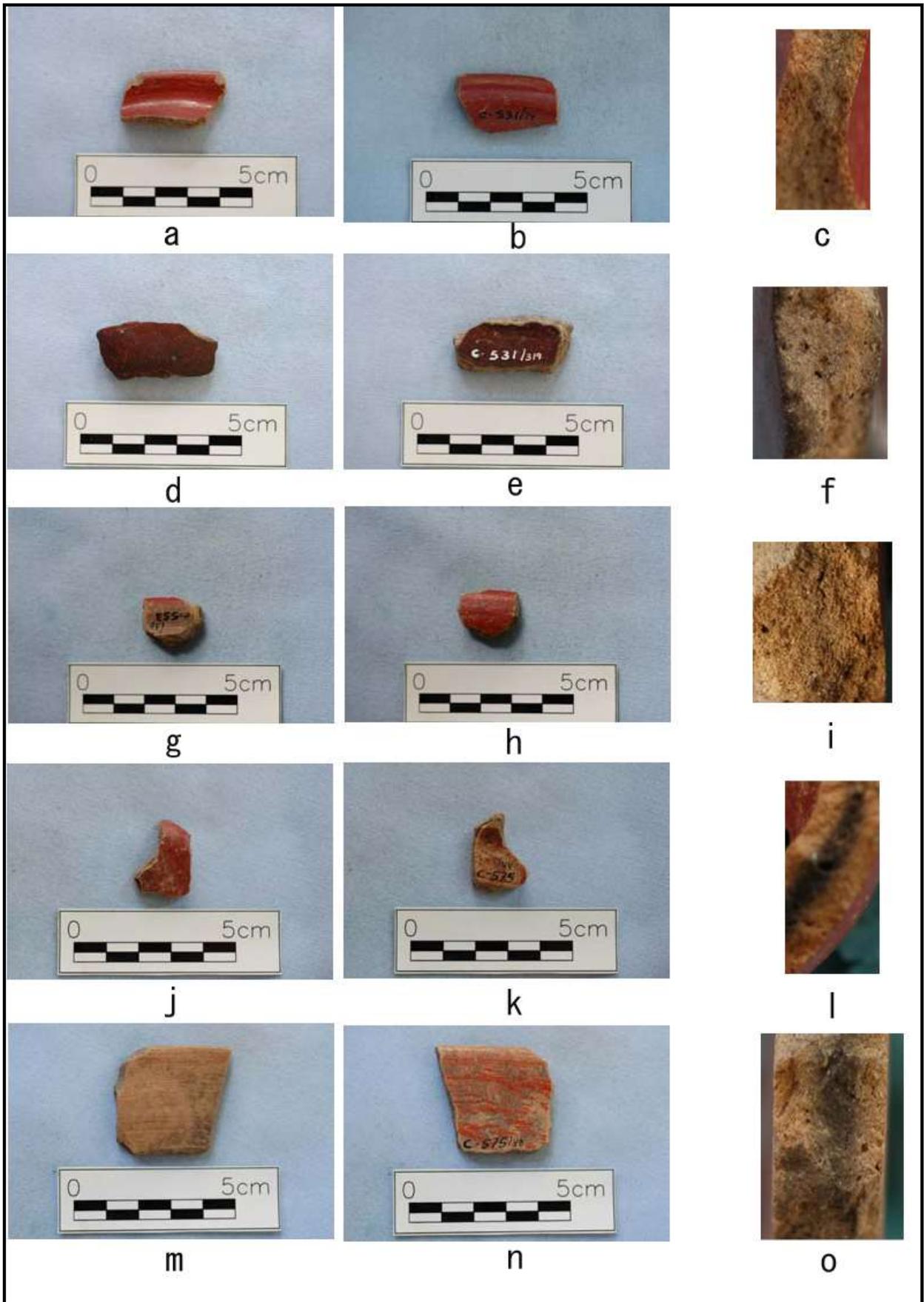


図 7-4-(1)-5 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗

(2) 壺(Jar)

個体数 : N=1 (トラミミロルパ期の Monochrome Red グループの中で 6.3%)

出土地点 :

表 7-4-(2)-1 : 壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%

図版 : 図 7-4-(2)-1

胎土 : 胎土は、粘土質で含有物は少なく硬い。一般的に胎土の中央部に黒色バンドを有する。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR6/4) である。

表面調整 : 表面の仕上げは良好で良く研磨される。

装飾 : 外面および口縁部内側とも赤色のペイントが施される。

器形 : 短頸の壺が見られる。



図 7-4-(2)-1 : 建造物 7 (Frente C) 出土の壺

(3) 円筒形壺(Vase)

個体数 : 胴部破片のみ出土

図版 : 図 7-4-(3)-1~図 7-4-(3)-2

胎土 : 胎土は、粘土質で含有物は少なく硬い。一般的に胎土の中央部に黒色バンドを有する。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR7/6、7.5YR6/6、7.5YR6/4、5YR 6/4) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは良好で外面が良く研磨される。

装飾 : 外面には赤色のペイント (10R4/8) が施される。内面にはペイントが施されない。また、焼成後沈線が施文される場合もある (図 7-4-(3)-1:d, j)。

器形 : 平底で胴部が直立する円筒形壺である。

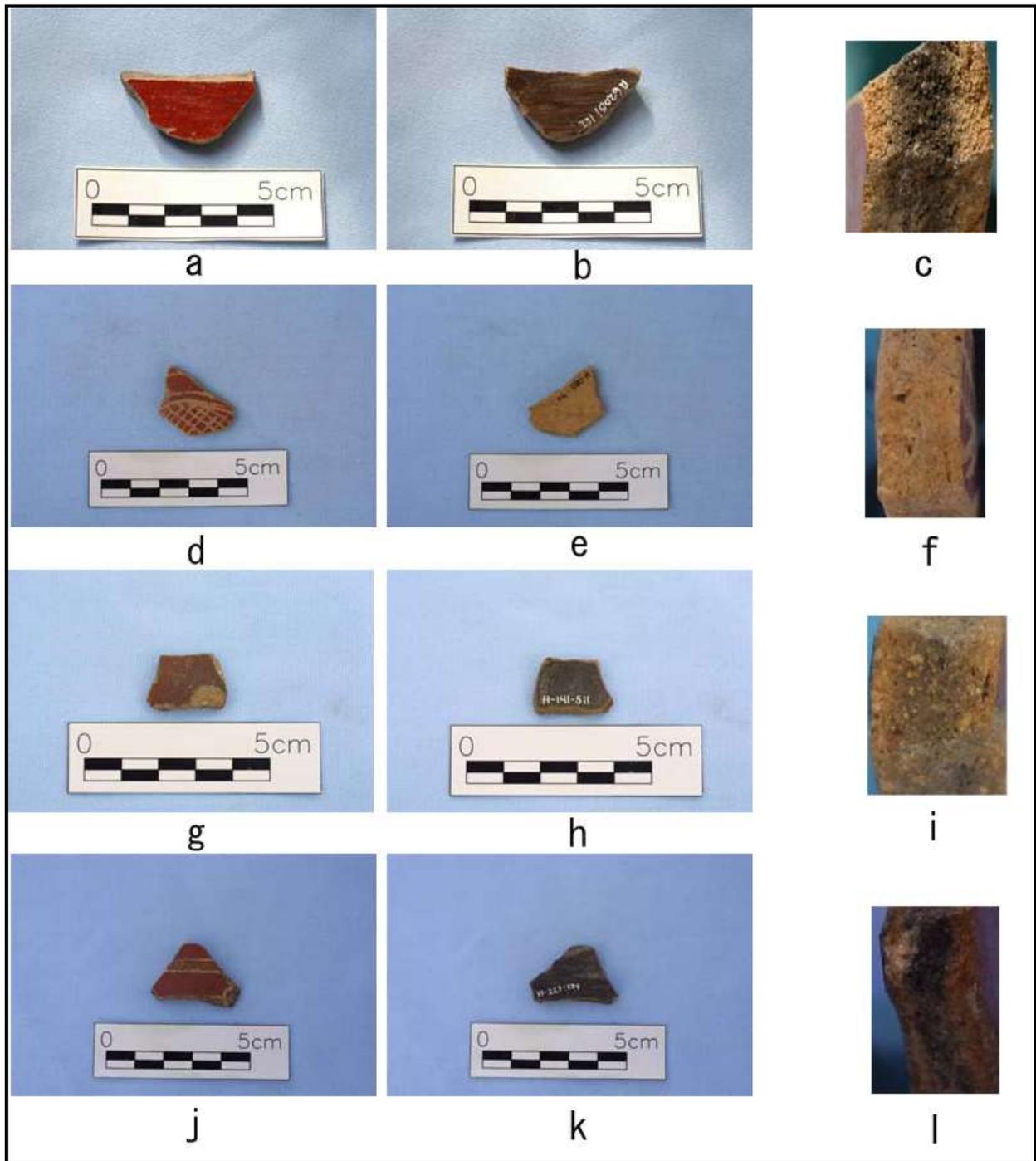


図 7-4-(3)-1 : a-c 建造物 6 (T2) 出土の円筒形壺、d-l 建造物 6 (T8) 出土の円筒形壺

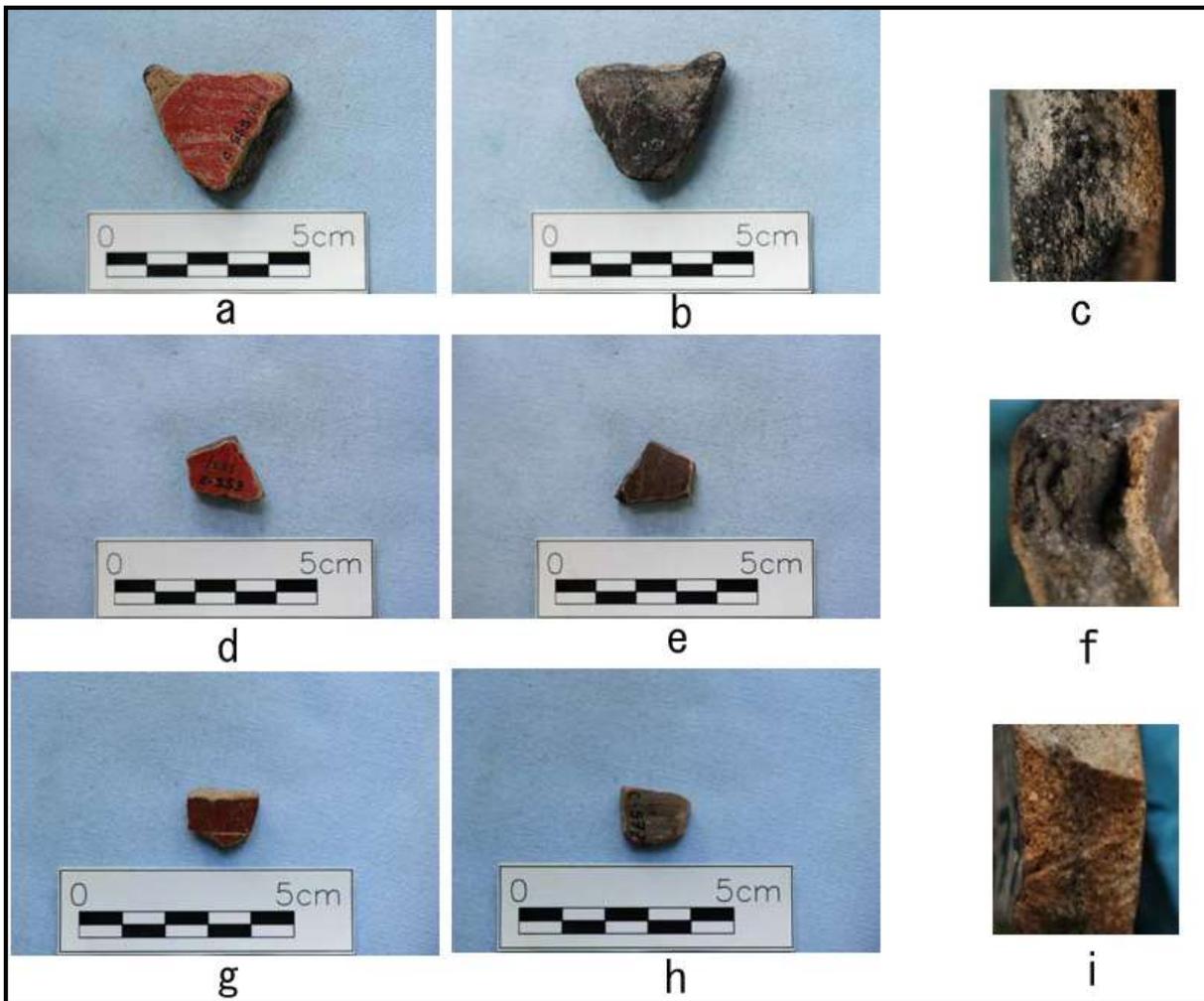


図 7-4-(3)-2 : 建造物 7 (Frente C) 出土の円筒形壺

<Red on Natural グループ (個体数 N=10) >

(4) 碗(Bowl)

個体数 : N=10 (トラミミロルパ期の Red on Natural グループの中で 100.0%)

出土地点 :

表 7-4-(4)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	70.0%	3	30.0%	0	0.0%	10	100.0%

図版 : 図 7-4-(4)-1 ~ 図 7-4-(4)-2

胎土 : 胎土は、粘土質で含有物は少なく硬い。一般的に胎土の中央部に黒色バンドを有する。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR7/4、7.5YR6/6、7.5YR6/4、5YR 6/8)、赤褐色 (2.5YR5/6、2.5YR5/6) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは良好で内外面とも良く研磨される。

装飾 : 一般的に口縁部の内外面に赤色のペイントが施される。また、時には胴部に赤色ペイントで文様が描かれる場合もある (図 7-4-(4)-1:a)。

器形 : 口縁部が大きく外反する碗が見られる。

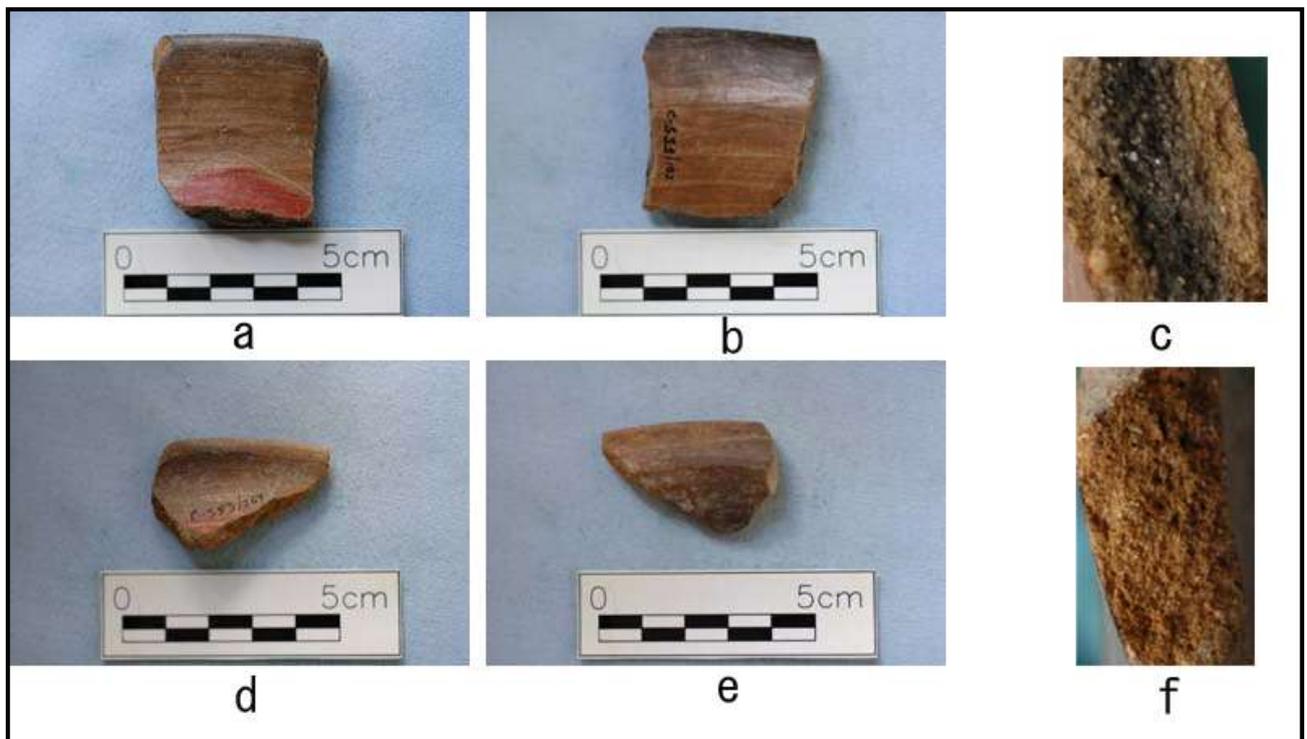


図 7-4-(4)-1 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗

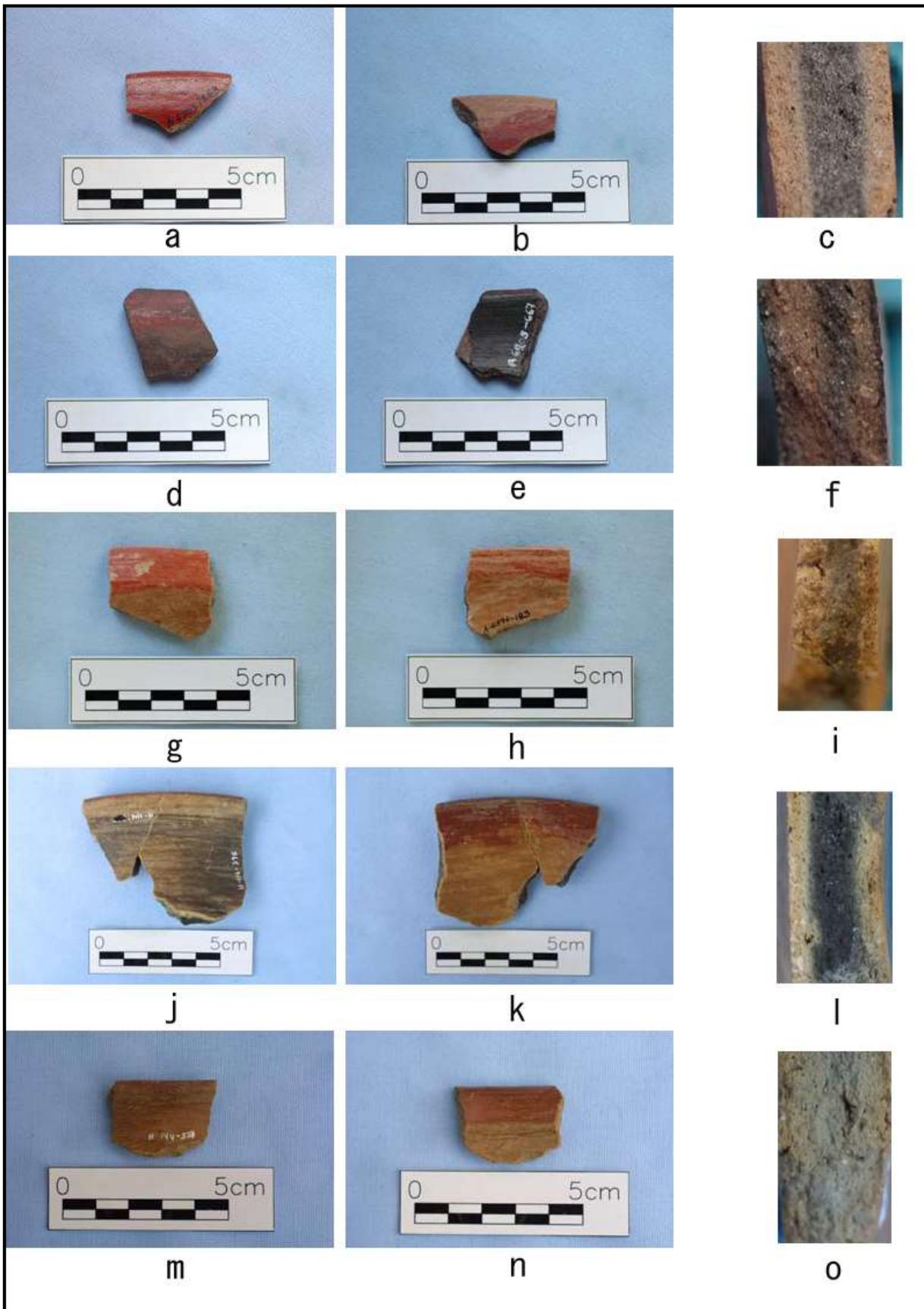


図 7-4-(4)-2 : a-i 建造物 6 (T2) 出土の碗、j-o 建造物 6 (T8) 出土の碗

(5) 壺(Jar)

個体数 : 胴部破片のみ出土

図版 : 図 7-4-(5)-1

胎土 : 胎土は、粘土質で含有物は少なく硬い。一般的に胎土の中央部に黒色バンドを有する。胎土の色は、赤褐色系 (5YR5/6) である。

表面調整 : 胴部外面が良く研磨されるが、内面は粗いままである。

装飾 : 外面に赤色のペイント (10R4/8) が施される。

器形 : 不明



図 7-4-(5)-1 : 建造物 6 (T8) 出土の壺

(6) 円筒形壺(Vase)

個体数 : 胴部破片のみ出土

図版 : 図 7-4-(6)-1

胎土 : 胎土は、粘土質で含有物は少なく硬い。一般的に胎土の中央部に黒色バンドを有する。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR7/6, 7.5YR6/4, 5YR6/8, 5YR 6/4) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは良好で外面が良く研磨される。

装飾 : 外面には赤色のペイント (10R4/8) が施される。口縁部をのぞく内面にはペイントが施されない。また、焼成後沈線が施文される場合もある (図 7-4-(6)-g, j, m)。

器形 : 平底で胴部が直立する円筒形壺と考えられる。

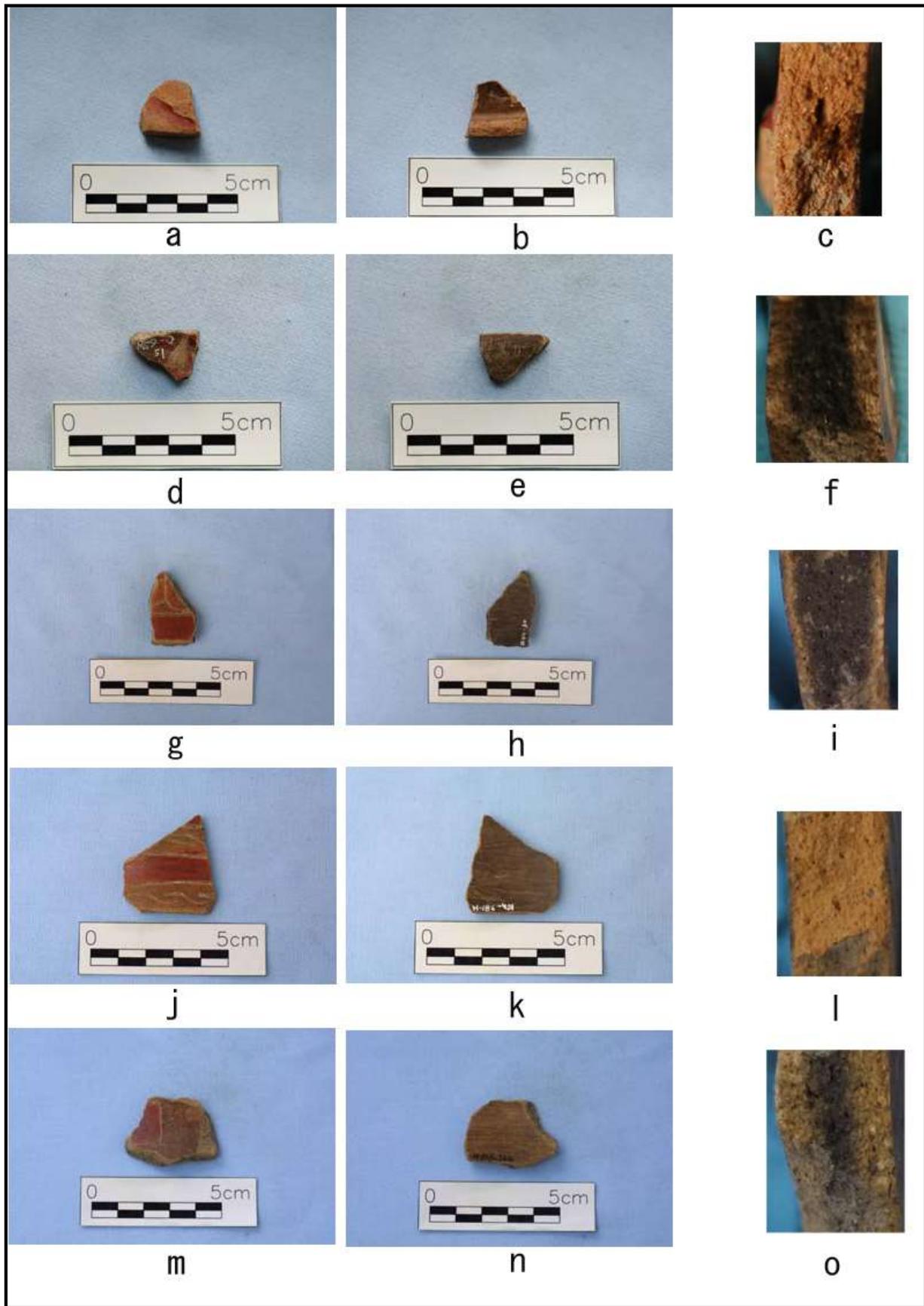


図 7-4-(6)-1 : a-f 建造物 7 (Frente C)出土の円筒形壺、g-o 建造物 6 (T8) 出土の円筒形壺

(7) まとめ

表 7-4-(7)-1 : Painted Ware の Monochrome Red グループの器種別、出土地別構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	100.0%	7	87.5%	0	0.0%	15	93.8%
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	12.5%	0	0.0%	1	6.3%
合計	0	0.0%	0	0.0%	0	100.0%	0	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	100.0%	8	100.0%	0	0.0%	16	100.0%

表 7-4-(7)-2 : Painted Ware の Red on Natural グループの器種別、出土地別構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	100.0%	3	100.0%	0	0.0%	10	100.0%
合計	0	0.0%	0	0.0%	0	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	100.0%	3	100.0%	0	0.0%	10	100.0%

「月のピラミッド」出土の Painted Ware には、Monochrome Red グループと Red on Natural グループがある。両グループとも碗の出土数が多い。また、胎土は Polished Ware とほぼ同じである。装飾技法では、この時期のタイムマーカーと考えられている赤鉄鉱を使用した Specular Red が両グループで出現し、また Red on Natural グループの碗では、沈線によって縁取りされた中にペイントを施す技法が見られる。

ラットレイによると Painted Ware は、赤色が土器の全面に施された Monochrome Red グループと Bichrome グループ (Red on Natural, Red on Natural Incised, White on Red) に細分される。前期の Painted Ware に使用される赤色顔料には、赤鉄鉱を使用した Specular Red が出現し、この特徴は時期を定める指標として重要である。器種としては、両グループとも碗 (Outcurving Bowl, Simple Bowl), 円筒形壺、ミニチュア土器などがある。胎土は良質で、灰褐色の胎土に黒色のバンドが見られる。後期になると器種は、壺や皿、そして口縁部が赤くペイントされた大型鉢 (Red Crater) が前期の器種に加わる。特に Red Crater は後期にはじめて出現するタイプである。胎土は、良質で硬いが黒色バンドを持つタイプと、やや粗いが良く焼かれ黒色バンドの無いタイプの2種類がある。後期になると、赤のペイントは前期に比べて厚く塗られ、また Specular Red が一般的になる。また、Red on Natural Incised の土器では、沈線によって縁取りされた中にペイントを施す技法が見られる。Resist Ware は、少数ながら存在する。器種は、碗 (Outcurving Bowl) と円筒形壺の2種類である。パトラチケ期から続いていたネガティブ文様の伝統は、トラミミロルパ前期でテオティワカンでは無くなる (Rattray 2001:171-173, 197-199)。

7-5 Dense Ware (個体数 N=48、トラミミロルパ期全体の中で 11.5%)

<Monochrome Brown グループ (個体数 N=48) >

(1) 碗 (Bowl)

個体数 : N=34 (トラミミロルパ期の Monochrome Brown グループの中で 70.8%)

出土地点：

表 7-5-(1)-1：碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.9%	27	79.4%	3	8.8%	3	8.8%	34	100.0%

図版：図 7-5-(1)-1～図 7-5-(1)-4

胎土：胎土は、粘土質で非常に硬く含有物はほとんど見られない。一般的に胎土の中央部に黒色バンドを有する。胎土の色は、オレンジ系(7.5YR7/6、7.5YR7/4、7.5YR6/6、7.5YR6/4、5YR7/8、5YR6/8、5YR6/6、5YR 6/4、2.5YR6/8)、赤褐色(5YR5/8、5YR4/3、2.5YR5/8、2.5YR5/4) 等である。

表面調整：表面の仕上げは良好で研磨される。色は、胎土と同じである。

装飾：無し。

器形：口径が 14.2cm で口縁部が水平まで外反する Flaring Bowl (図 7-5-(1)-2:a) や、口径が 22.2cm の Simple Bowl (図 7-5-(1)-2:b) が見られる。

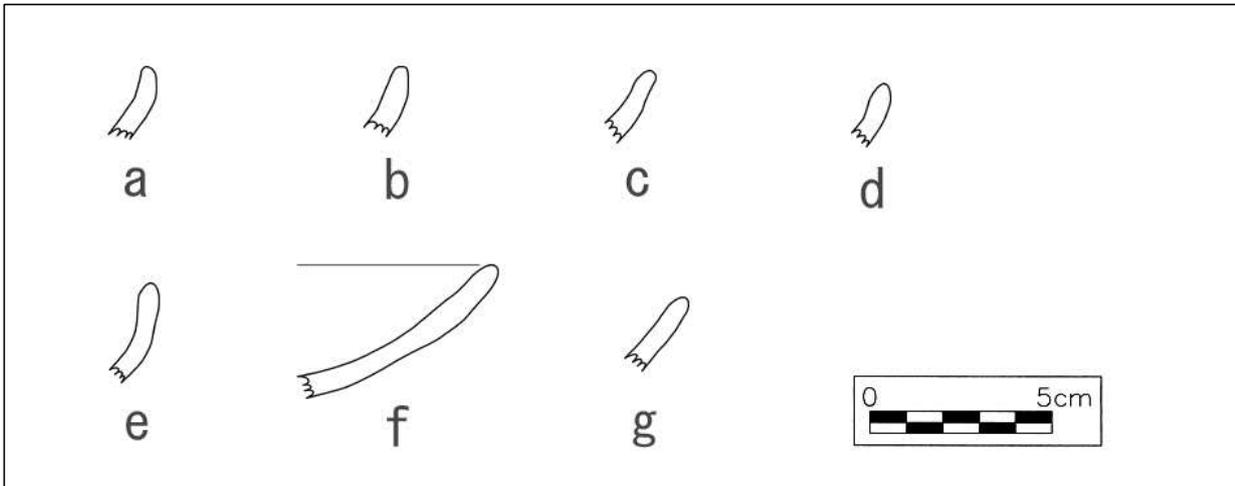


図 7-5-(1)-1：建造物 6 (T8) 出土の碗 (Simple Bowl)

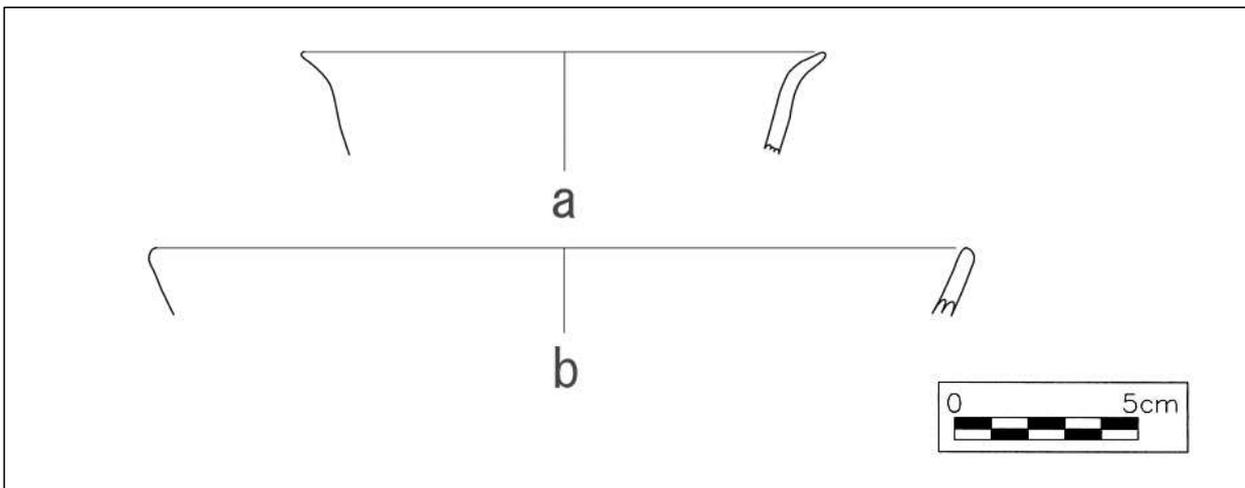


図 7-5-(1)-2：建造物 7 (Frente C) 出土の碗 (a:Flaring Bowl, b:Simple Bowl)

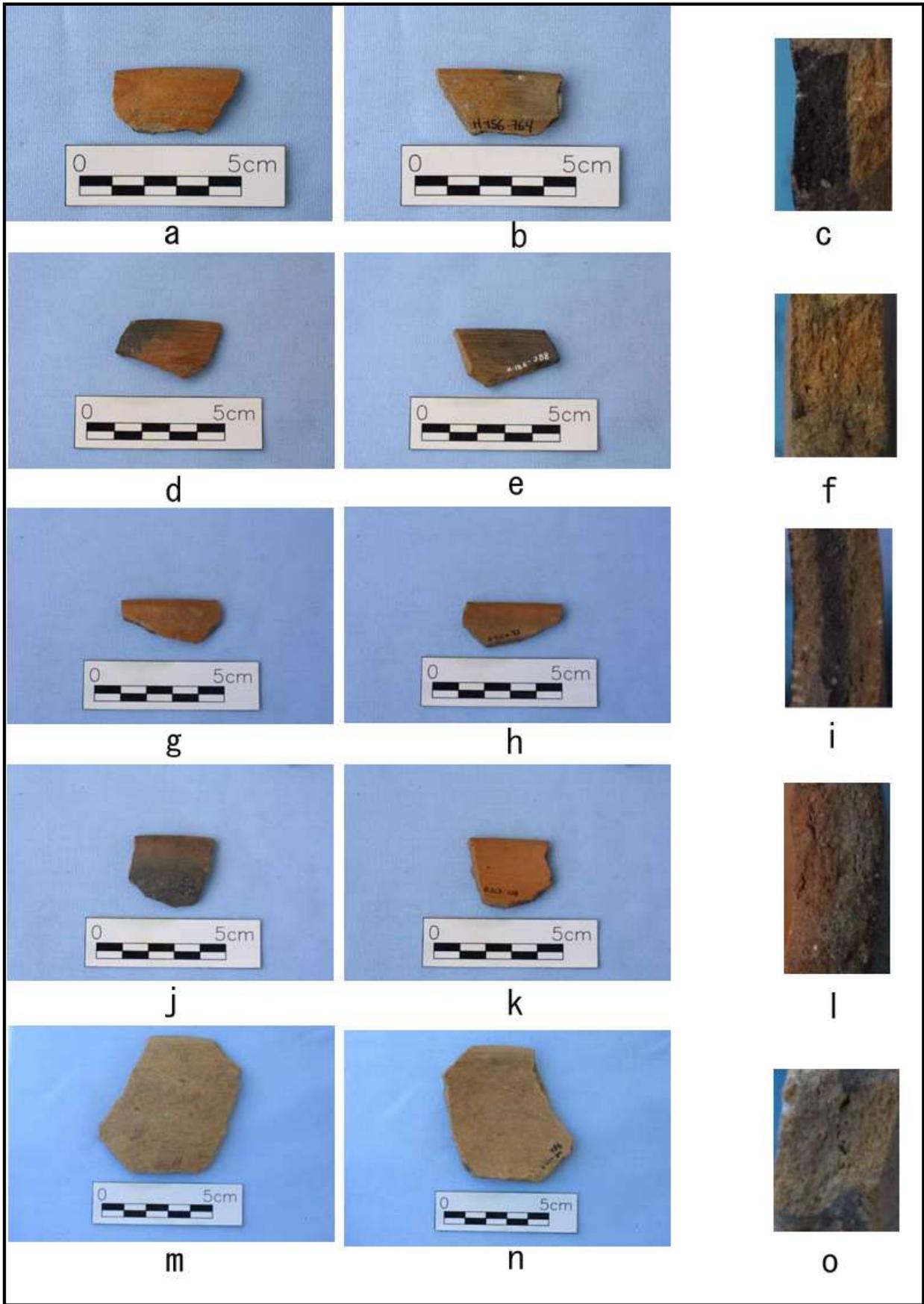


図 7-5-(1)-3 : 建造物 6 (T8) 出土の碗

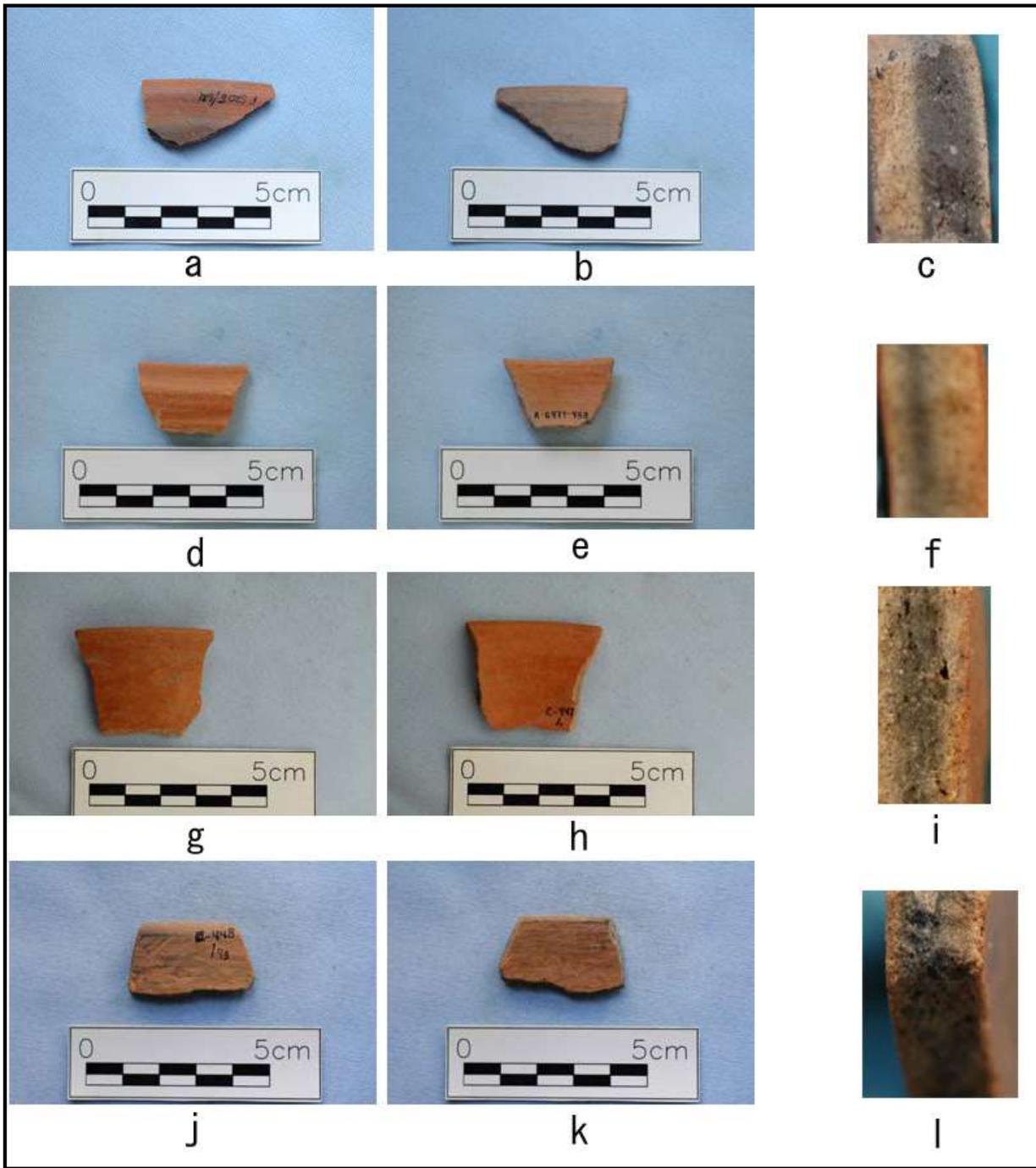


図 7-5-(1)-4 : a-f 建造物 6 (T2) 出土の碗、g-l 建造物 7 (Frente C) 出土の碗
 (図 7-5-(1)-4 : a, b 対応)

(2) 皿(Dish)

個体数 : N=3 (トラミミロルパ期の Monochrome Brown グループの中で 6.3%)

出土地点 :

表 7-5-(2)-1 : 皿の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
皿 (Dish)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	66.7%	1	33.3%	0	0.0%	3	100.0%

図版 : 図 7-5-(2)-1~図 7-5-(2)-2

胎土 : 胎土は、碗と同様に粘土質で非常に硬く含有物はほとんど見られない。一般的に胎土の中央部に黒色バンドを有する。胎土の色は、オレンジ系(7.5YR7/6、5YR6/8、5YR6/4) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは良好で研磨される。色は、胎土と同じである。

装飾 : 無し。

器形 : 口径が 12.0cm の皿 (図 7-5-(2)-2:b) が見られる。

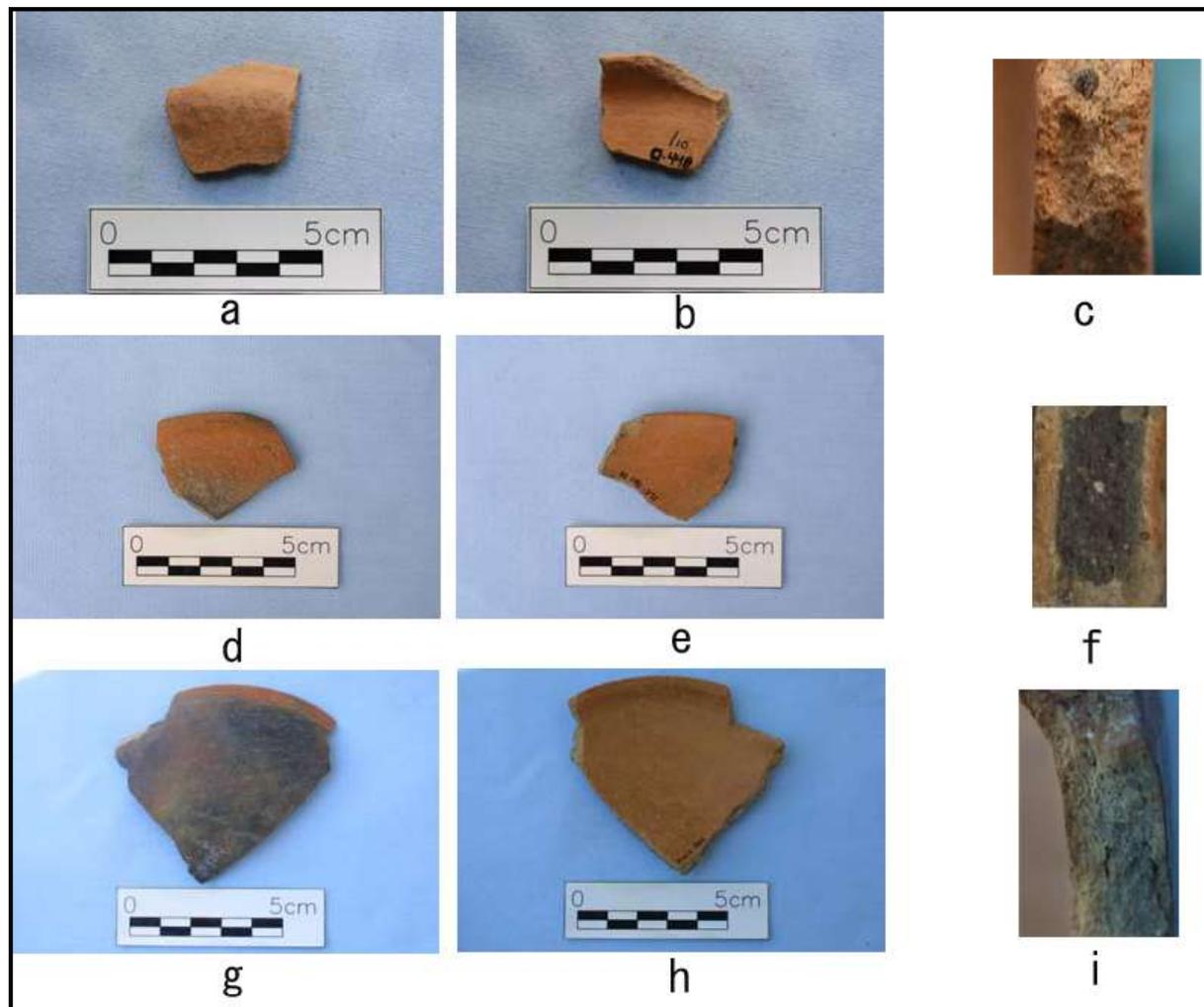


図 7-5-(2)-1 : a-c 建造物 7 (Frente C)出土の皿、d-i 建造物 6 (T8) 出土の皿 (図 7-5-(2)-2;a, b に対応)

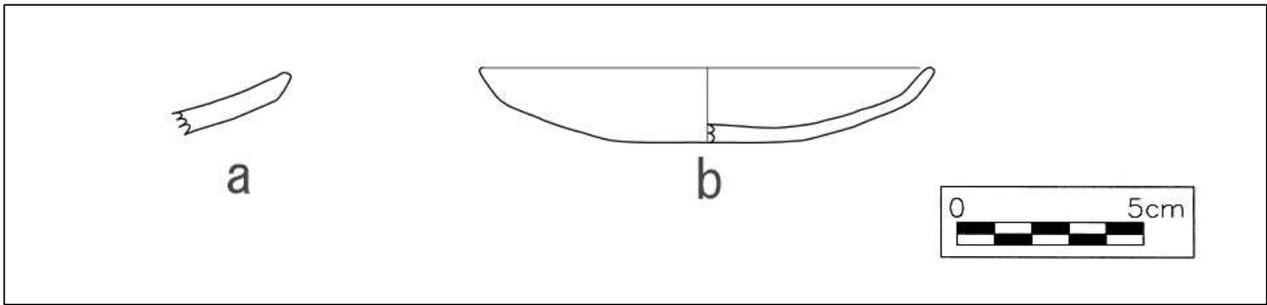


図 7-5-(2)-2 : 建造物 6 (T8) 出土の皿

(3) ミニチュア (Miniature)

個体数 : N=11 (トラミミロルパ期の Monochrome Brown グループの中で 22.9%)

出土地点 :

表 7-5-(3)-1 : ミニチュアの出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
ミニチュア (Miniature)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	81.8%	2	18.2%	0	0.0%	11	100.0%

図版 : 図 7-5-(3)-1 ~ 図 7-5-(3)-3

胎土 : 胎土は、碗と同様に粘土質で非常に硬く含有物はほとんど見られない。胎土の中央部の黒色バンドもあまり見られない。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR7/4、7.5YR6/4、7.5YR5/4、5YR7/6、5YR6/4) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは良好で研磨される。色は、胎土と同じである。

装飾 : 一般的には装飾はないが、一部口縁部に赤色のペイントが施されたものも見られる (図 7-5-(3)-2:g)。

器形 : 大部分が碗である。

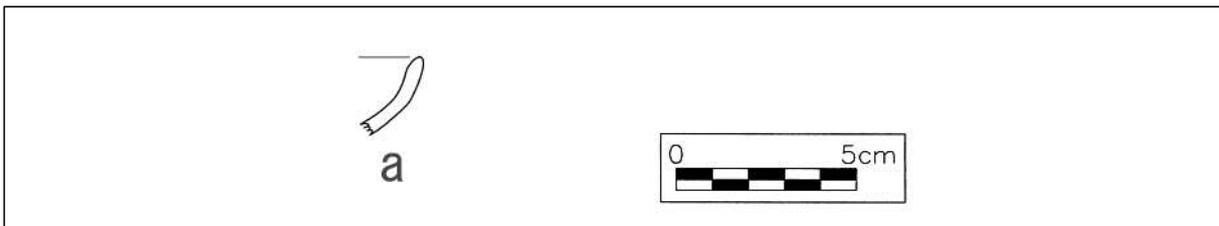


図 7-5-(3)-1 ; 建造物 6 (T8) 出土のミニチュアの碗

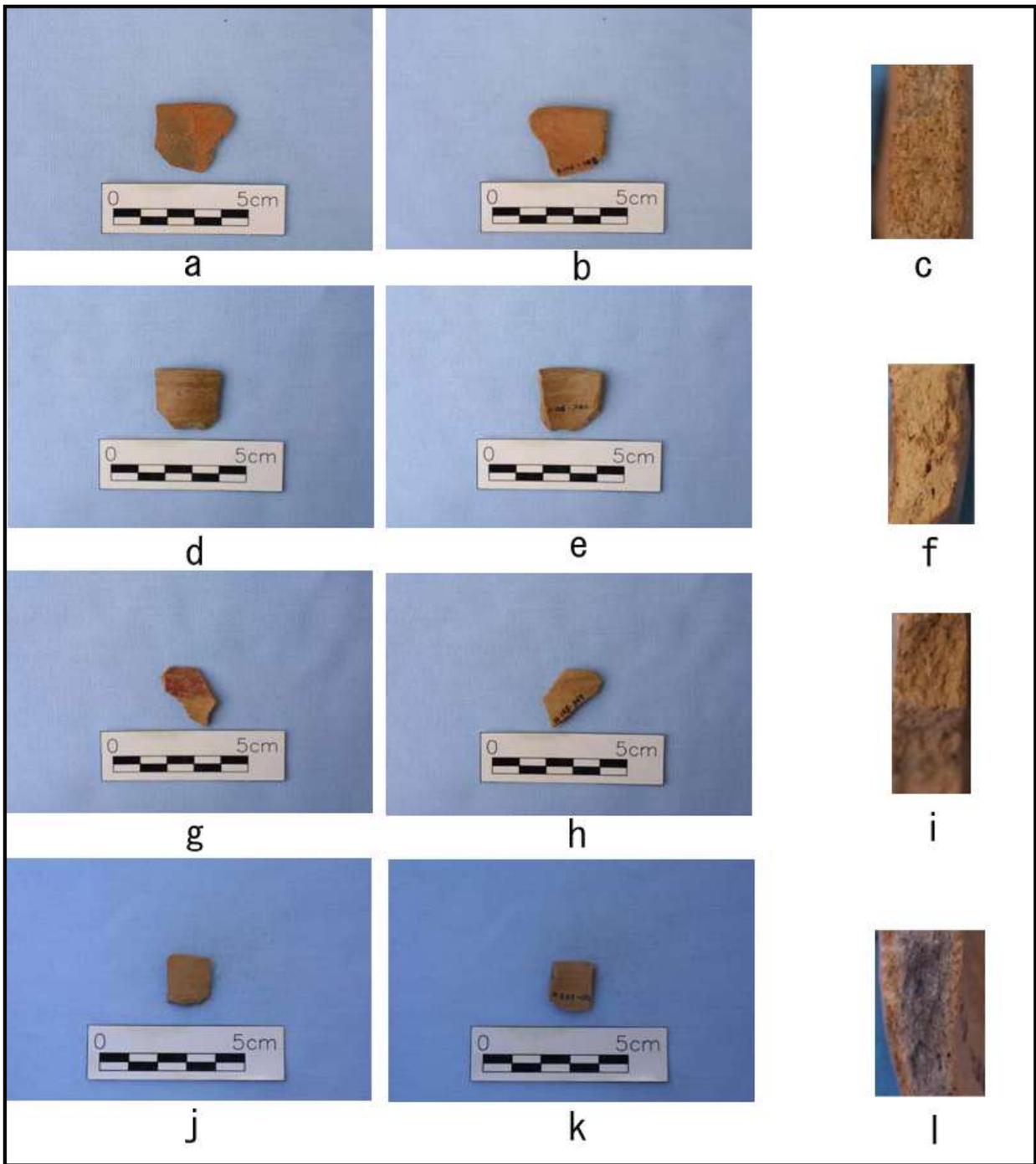


図 7-5-(3)-2 : 建造物 6 (T8) 出土のミニチュアの碗

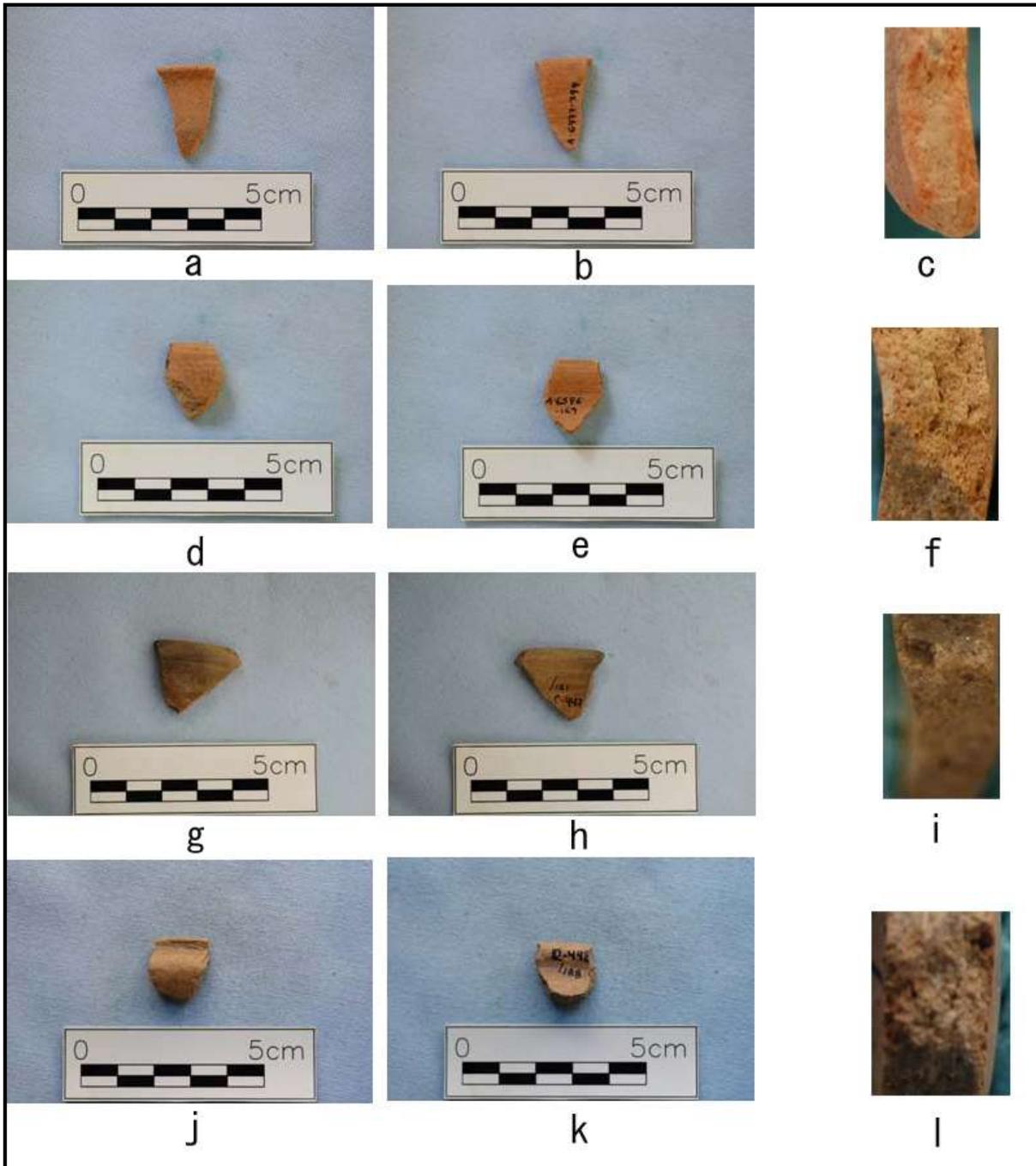


図 7-5-(3)-3 ; a-f 建造物 6 (T2) 出土のミニチュア、g-l 建造物 7 (Frente C) 出土のミニチュアの碗

(4) まとめ

「月のピラミッド」出土のトラミミロルパ期の Dense Ware は、碗が最も多く出土し、ミニチュア、皿が続く (表 7-5-(4)-1)。胎土は、硬く含有物の無い良質なもので、黒色バンドがしばしば見られる。

ラットレイによると、Dense Ware は、サクワリ期に出現しトラミミロルパ前期にかけて増加しその後徐々に減少してゆくグループである。器種は、ほとんどが小型で器高の低い

碗 (Simple Bowl) であるが、わずかながら壺が存在する。胎土は、硬く含有物の無い良質なもので、黒色バンドがしばしば見られる。後期になると碗の特徴は徐々に薄れ Polished Ware の碗と同じようになる。器種としては、壺、碗 (Simple Bowl, Incurved Bowl) がある (Rattray 2001:173、195-197)

表 7-5-(4)-1 : Dense Ware の Monochrome Brown グループの器種別、出土地別構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	27	71.1%	3	50.0%	3	100.0%	34	70.8%
皿 (Dish)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	5.3%	1	16.7%	0	0.0%	3	6.3%
ミニチュア (Miniature)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	23.7%	2	33.3%	0	0.0%	11	22.9%
合計	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	100.0%	38	100.0%	6	100.0%	3	0.0%	48	100.0%

7-6 その他 (個体数 N=7、トラミミロルパ期全体の中で 1.7%)

<Thin Orange Ware (個体数 N=7)>

(1) 碗 (Bowl)

個体数 : N=5 (トラミミロルパ期の Thin Orange Ware の中で 71.4%)

出土地点 :

表 7-6-(1)-1 : 碗の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	80.0%	1	20.0%	0	0.0%	5	100.0%

図版 : 図 7-6-(1)-1~図 7-6-(1)-2

胎土 : 胎土は、やや粗く含有物が多い。一般的に胎土の中央部に黒色バンドは見られない。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR7/8、7.5YR6/4、5YR7/8、2.5YR6/8) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは良好で研磨される。色は、胎土と同じである。

装飾 : 口縁部に赤色のペイントが施される場合がある。

器形 : 器厚が薄い Simple Bowl が大部分である。高台を持つものも見られる (図 7-6-(1)-2:a, d, g)。

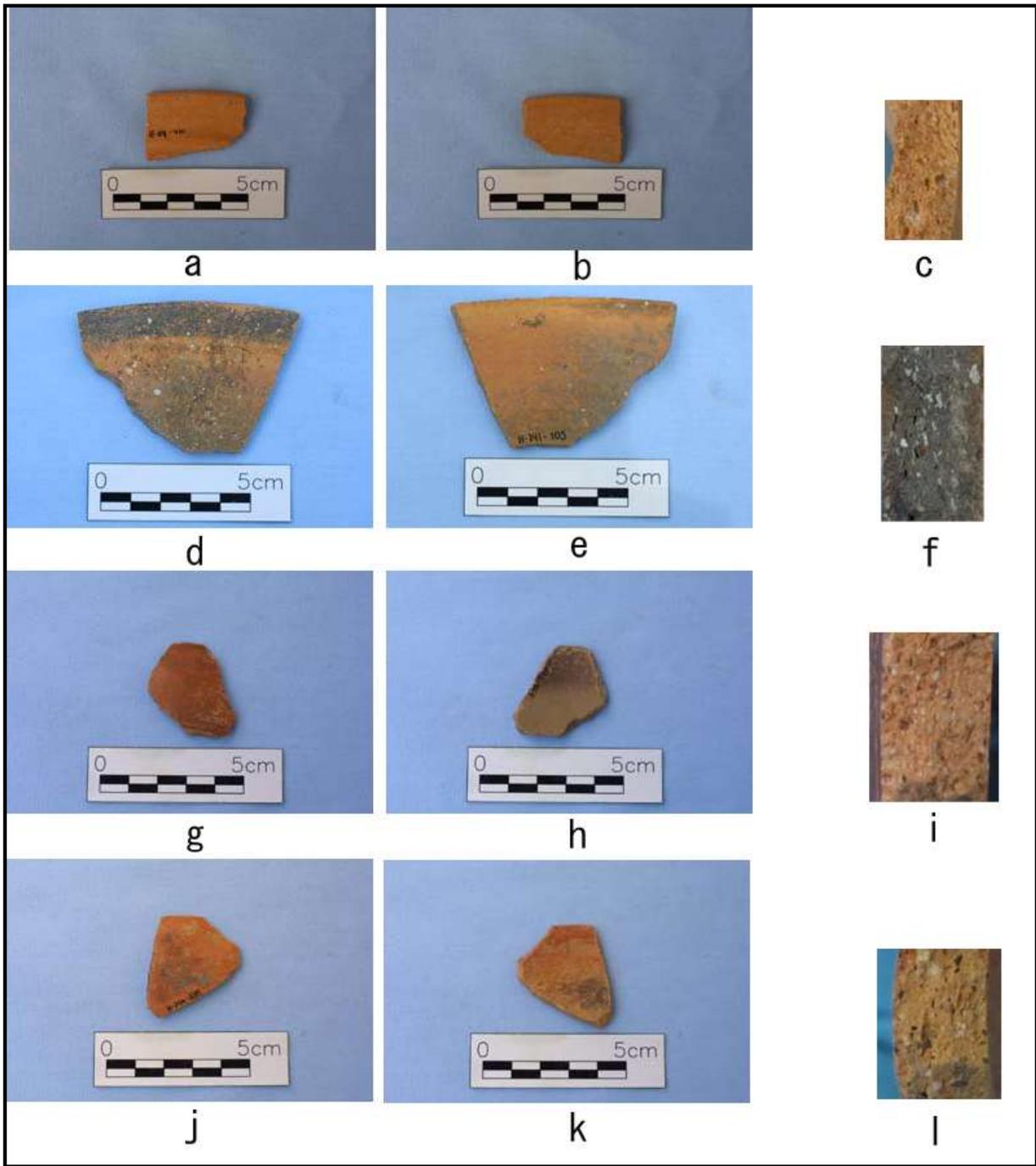


図 7-6-(1)-1 : 建造物 6 (T8) 出土の碗

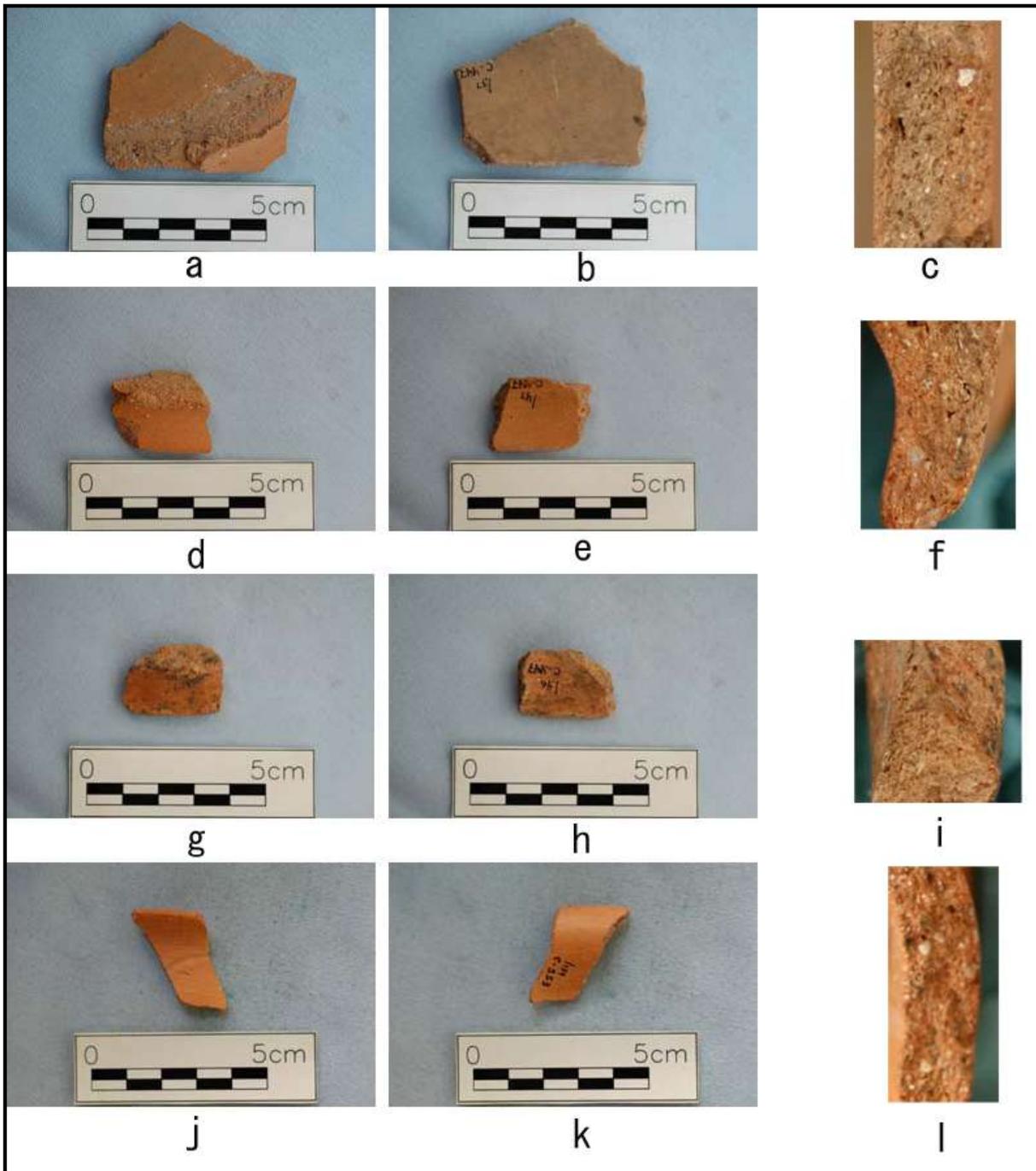


図 7-6-(1)-2 : 建造物 7 (Frente C) 出土の碗

(2) 壺 (Jar)

個体数 : N=2 (トラミミロルパ期の Thin Orange Ware の中で 28.6%)

出土地点 :

表 7-6-(2)-1 : 壺の出土状況

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%

図版 : 図 7-6-(2)-1

胎土 : 胎土は、やや粗く含有物が多い。一般的に胎土の中央部に黒色バンドは見られない。胎土の色は、オレンジ系 (7.5YR7/8、7.5YR6/4、) 等である。

表面調整 : 表面の仕上げは良好で研磨される。色は、胎土と同じである。

装飾 : 外面に比較的太い沈線が見られるものもある。

器形 : 口縁部が外反する壺と直立する壺と考えられる。

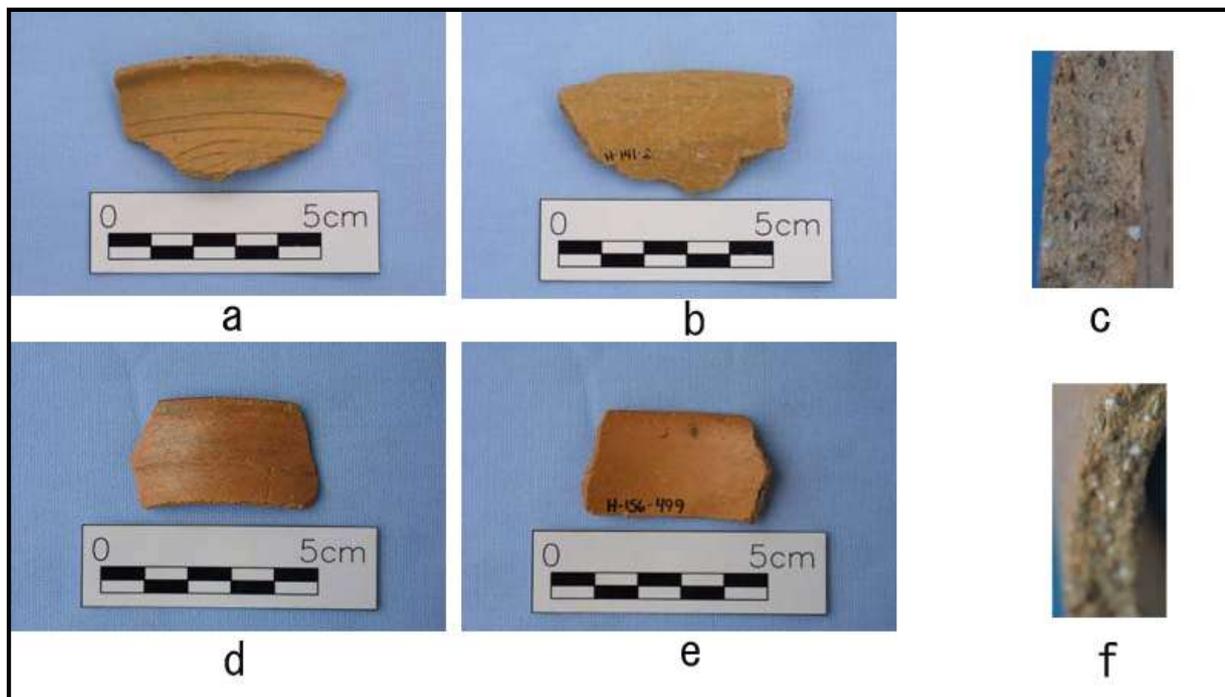


図 7-6-(2)-1 : 建造物 6 (T8) 出土の壺

(3) まとめ

表 7-6-(3)-1 : Thin Orange グループの器種別、出土地別構成比

	56層		建造物1		建造物2		建造物3		建造物4		建造物5		建造物6		建造物7		その他(墓の埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
碗 (Bowl)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	66.7%	1	100.0%	0	0.0%	5	71.4%
壺 (Jar)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	28.6%
合計	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	100.0%	1	100.0%	0	0.0%	7	100.0%

「月のピラミッド」出土のトラミミロルパ期の Thin Orange Ware では、碗と壺の 2 器種が出土している。胎土や表面調整の属性ではミカオトリ期と大きな変化は無いが、碗の口縁部に赤色のペイントが施された土器も見られる。また、壺の頸部の外面に比較的幅の広い沈線がみられるものもある。

7-7 トラミミロルパ期の土器のまとめ

表 7-7-1：トラミミロルパ期の土器の構成比

	Wareレベルの個 体数	%	グループレベル の個体数	%
Matte Ware	18	4.3%		
①Corse Matte グループ			9	2.2%
②Fine Matte グループ			9	2.2%
Burnished Ware	9	2.2%		
①Monochrome Brown グループ			9	2.2%
Polished Ware	308	74.0%		
①黒色グループ			190	45.7%
②褐色グループ			118	28.4%
Painted Ware	26	6.3%		
①Monochrome Redグループ			16	3.8%
②Red on Naturalグループ			10	2.4%
Dense Ware	48	11.5%		
①Monochrome Brownグループ			48	11.5%
その他	7	1.7%		
①Thin Orangeグループ			7	1.7%
合計	416	100.0%	416	100.0%

表 7-7-2：トラミミロルパ期の土器の出土地別構成比

	56層		建造物 1		建造物 2		建造物 3		建造物 4		建造物 5		建造物 6		建造物 7		その他(墓の 埋土)		合計	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%		
Matte Ware																				
①Corse Matte グループ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.5%	5	3.4%	0	0.0%		9
②Fine Matte グループ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	4	1.5%	4	2.7%	0	0.0%		9
Burnished Ware																				
①Monochrome Brown グループ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	5	1.9%	3	2.0%	0	0.0%		9
Polished Ware																				
①黒色グループ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	112	42.7%	78	53.1%	0	0.0%		190
②褐色グループ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	78	29.8%	39	26.5%	0	0.0%		118
Painted Ware																				
①Monochrome Redグループ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	3.1%	8	5.4%	0	0.0%		16
②Red on Naturalグループ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	2.7%	3	2.0%	0	0.0%		10
Dense Ware																				
①Monochrome Brownグループ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	38	14.5%	6	4.1%	3	100.0%		48
その他																				
①Thin Orangeグループ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	2.3%	1	0.7%	0	0.0%		7
合計	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%	262	100.0%	147	100.0%	3	100.0%		416

「月のピラミッド」のトラミミロルパ期の土器は、Polished Ware の出土数が最も多く、次に Dense Ware、Painted Ware が続く（表 7-7-1）。Polished Ware では、良質の胎土でありかつ黒色バンドを有することがこの時期のタイムマーカーとなると考えられる。また、Painted Ware では、赤鉄鉱を使用した Specular Red のペイントがタイムマーカーとなる。

ラットレイによると、トラミミロルパ期は、テオティワカンの土器製作において新しい器種や装飾技法が出現するなど大きく変化する時期である。Three-prong Burner、組み合わせ式の香炉(Composite Censer)やカンデレロ(Candelero)などの香炉において新器種が見られる。また、装飾技法では前時代の Cross-hatch Incising や Fluting の技法が無くなり、Groove Incising、Plano-relief や赤鉄鉱を使用した Specular Red のペイント等がこの時期に出現する。また、Burnished Ware の Olla は、口縁部が水平まで外反するようになり、後期になるとそれに赤いペイントが施されるようになる。また、Polished Ware では、黒色バンドを持つ硬い胎土がこの時期の特徴である(Rattray 2001:373-375,377-379)。

トラミミロルパ期は、建築活動が盛んになり、新しい建築技術も生まれ、一般の居住地では集合住宅が出現するなど都市全体がリニューアルされた。また、ケツァルコアトルの神殿では、正面にアドサダと呼ばれる付属の建造物が作られ神殿の正面が覆われた。また、イダルゴ州のパチューカからもたらされた緑色の黒曜石は、この時期に増加する。テオティワカンで製品化されたと考えられる緑色の黒曜石のナイフ等は、メソアメリカ各地で発見されている(Millon 1973)。

8章 土器研究の成果と今後の課題

本研究では、1章3節に述べたように、3つの研究目的があった。第1の目的は、「月のピラミッド」の土器の分類を通して、テオティワカンの土器編年を洗練し、より客観的な土器資料の提示をすることであった。第2の目的は、「月のピラミッド」の各建造物の年代決定を土器の分析から行うこと、第3の目的は、「月のピラミッド」と他のモニュメントの関係を検討することであった。8章では、それぞれの目的に関しての検討内容を述べる。

8-1 「月のピラミッド」の土器の同定の基準

4章ではパトラチケ期、5章ではサクワリ期、6章ではミカオトリ期、7章ではトラミミロルパ期の土器を記述した。この記述は、従来の文字中心の記述ではなく、写真を活用し、より客観的な資料提示を行った。発掘によって大量に出土する土器は、本稿の資料と比較することにより誰でも容易に土器の分類や器種の決定、時期の決定ができるようになる。

また、本研究の成果の一つは、4章で記述したようにパトラチケ期の豊富な土器資料を提示出来たことである。パトラチケ期の資料は、テオティワカン遺跡内での発掘調査のみならず、メキシコ盆地の様々な地域との比較も今後可能となる。

最後に、土器の胎土の特徴が土器の時期決定に有効と考え検討した。**Burnished Ware** の大型壺、**Polished Ware** の碗、**Painted Ware** の碗はパトラチケ期からメテペック期まで出現する器種である。「月のピラミッド」のトンネル発掘では、トラミミロルパ期までの土器のみ出土しているので、トラミミロルパ期までの比較とする。

(1) Burnished Ware

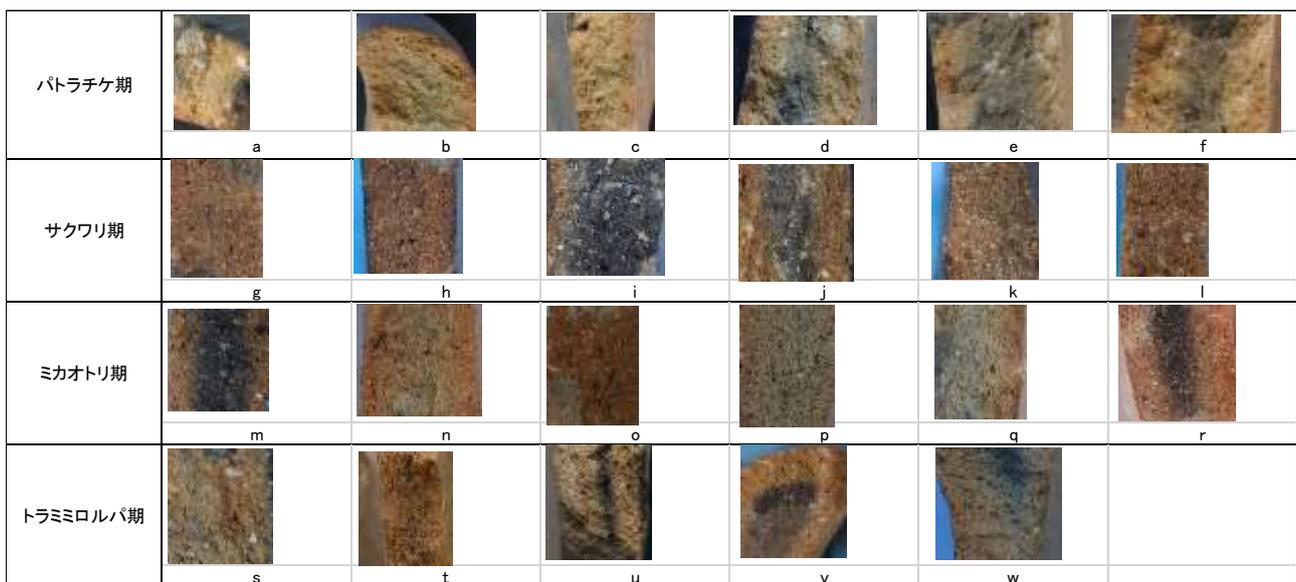


図 8-1-(1)-1 : Burnished Ware の大型壺 (Olla) の時期ごとの胎土の特徴

発掘調査で大量に出土する **Burnished Ware** の大型壺は、口縁部の特徴である程度時期を決定できるが、さらに時期ごとにその胎土に特徴が見られる。パトラチケ期の胎土は、粘土質で良好、サクワリ期には砂質の胎土になり含有物を多く含む。ミカオトリ期やトラ

ミミロルパ期は、含有物は少なくなるが、パトラチケ期ほど粘土質ではない。

(2) Polished Ware

パトラチケ期						
	a	b	c	d	e	f
サクワリ期						
	g	h	i	j	k	l
ミカオトリ期						
	m	n	o	p	q	r
トラミミロルパ期						
	s	t	u	v	w	x

図 8-1-(2)-1 : Polished Ware、黒色グループの碗の時期ごとの胎土の特徴

パトラチケ期						
	a	b	c	d	e	f
サクワリ期						
	g	h	i	j	k	l
ミカオトリ期						
	m	n	o	p	q	r
トラミミロルパ期						
	s	t	u	v	w	x

図 8-1-(2)-2 : Polished Ware、褐色グループの碗の時期ごとの胎土の特徴

Polished Ware の碗も大量に出土する器種である。この碗の胎土も、パトラチケ期には、粘土質で含有物の少ない胎土であるが、サクワリ期になると多くの白色の含有物を含む粗い胎土に変化し、色も赤褐色系に変わる。ミカオトリ期になるとやややわらかい胎土であるが、サクワリ期のように多くの白色の含有物は含まない。トラミミロルパ期の胎土は、中央部に焼成不良による黒色バンドを有する粘土質の胎土に変化する。

(3) Painted Ware

パトラチケ期						
	a	b	c	d	e	f
サクワリ期						
	g	h	i	j	k	l
ミカオトリ期						
	m	n	o	p	q	r
トラミミロルバ期						
	s	t	u	v	w	x

図 8-1-(3)-1 : Painted Ware、Monochrome Red グループの碗の時期ごとの胎土の特徴

パトラチケ期						
	a	b	c	d	e	f
サクワリ期						
	g	h	i	j	k	l
ミカオトリ期						
	m	n	o	p	q	r
トラミミロルバ期						
	s	t	u	v		

図 8-1-(3)-2 : Painted Ware、Red on Natural グループの碗の時期ごとの胎土の特徴

パトラチケ期						
	a	b	c	d	e	f
サクワリ期						
	g	h	i	j	k	l

図 8-1-(3)-2 : Painted Ware、Polychrome グループの碗の時期ごとの胎土の特徴

パトラチケ期						
	a	b	c	d	e	f
サクワリ期						
	g	h	i	j	k	l

図 8-1-(3)-3 : Painted Ware、Negative グループの碗の時期ごとの胎土の特徴

Painted Ware も Polished Ware とほぼ同様で、どのグループでもパトラチケ期の胎土は、粘土質で硬いのが特徴である。サクワリ期の胎土は、赤褐色系の色で多くの含有物を含む。トラミミロルパ期まで継続する Monochrome Red グループや Red on Natural グループでは、ミカオトリ期の胎土は、含有物が少なくなり、トラミミロルパ期には焼成不良による黒色バンドがみられるようになる。

以上のように、これらの器種においては、口縁部の形や表面調整等と同様に、胎土の特徴によって時期を決定することが可能と思われる。建造物の盛土の発掘調査では、墓や埋納施設を除いて土器の完形品を得ることは難しく、ほとんどの土器が破片である。この土器片においては、胎土の特徴が重要である。

8-2 「月のピラミッド」の建造年代

(1) 56層出土の土器の特徴

表 8-2-(1)-1：56層出土の土器の時期別構成比

層位	パトラチケ期 (口縁部数)		サクワリ期 (口縁部数)		ミカオトリ期 (口縁部数)		トラミミロルパ期 (口縁部数)		同定不能 (口縁部数)		合計 (口縁部数)	
	部数	割合	部数	割合	部数	割合	部数	割合	部数	割合	部数	割合
56層(T1)	98	90.7%	9	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	108	100.0%
56層(T3)	13	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	13	100.0%
56層(T4)	29	78.4%	5	13.5%	0	0.0%	0	0.0%	3	8.1%	37	100.0%
56層(T5)	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
合計	141	88.7%	14	8.8%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.5%	159	100.0%

地山直上の層である56層から出土した土器は、パトラチケ期88.7%、サクワリ期8.8%である(表8-2-(1)-1)。パトラチケ期の土器(N=141)は、Matte Ware(2.1%)、Burnished Ware(51.8%)、Polished Ware(22.0%)、Painted Ware(24.1%)である。この構成比は、パトラチケ期全体の構成比とほぼ同じである。

一方、サクワリ期の14個の土器は、すべてBurnished WareのMonochrome Brownグループに属する土器で、大型壺、壺、碗、ベーズンなどの器種が認められた。トンネル3の56層からは、パトラチケ期の土器しか出土していない。

(2) 建造物1出土の土器の特徴

表 8-2-(2)-1：建造物1出土の土器の時期別構成比

層位	パトラチケ期 (口縁部数)		サクワリ期 (口縁部数)		ミカオトリ期 (口縁部数)		トラミミロルパ期 (口縁部数)		同定不能 (口縁部数)		合計 (口縁部数)	
	部数	割合	部数	割合	部数	割合	部数	割合	部数	割合	部数	割合
56層、79層(T3)	107	97.3%	2	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	110	100.0%
79層(T3)	47	92.2%	3	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	51	100.0%
79層、80層(T3)	43	89.6%	4	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.1%	48	100.0%
合計	197	94.3%	9	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.4%	209	100.0%

「月のピラミッド」の中で最も古い建造物である建造物1の土器の時期別構成比は、パトラチケ期94.3%、サクワリ期4.3%であり、ミカオトリ期、トラミミロルパ期の土器は出土していない(表8-2-(2)-1)。パトラチケ期の土器(N=197)は、Matte Ware(1.0%)、Burnished Ware(26.9%)、Polished Ware(44.7%)、Painted Ware(27.5%)である。この構成比は、パトラチケ期全体の構成比と比較すると、Polished Wareの出土率が高い。

サクワリ期9個の土器は、Burnished WareのMonochrome Brownの大型壺、壺、Matte WareのFine Matteグループのミニチュア土器、Polished Wareの黒色グループの長頸壺、Thin Orange Wareの碗である。

サクワリ期の土器が他の建造物から混入した可能性については、トンネル3が建造物1のみに入れられたトンネルであるので、他の建造物からの混入は考えられない(3章、図3-4-2)。また、ラットレイの報告によると、Fine Matteグループのミニチュア土器(5章、図5-1-(3)-2、図5-1-(3)-3)、Thin Orange Wareの碗は、サクワリ期に新たに出現する土

器であるので(Ratray 2000:125-127, 139-144)、建造物 1 から出土したこれらの土器は、サクワリ期の土器と考えたほうが妥当である。

(3) 建造物 2 出土の土器の特徴

表 8-2-(3)-1：建造物 2 出土の土器の時期別構成比

層位	パトラチケ期 (口縁部数)		サクワリ期 (口縁部数)		ミカオトリ期 (口縁部数)		トラミミロルパ期 (口縁部数)		同定不能 (口縁部数)		合計 (口縁部数)	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
52層 (T1)	4	25.0%	11	68.8%	1	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	16	100.0%
52層、53層 (T1)	180	67.7%	75	28.2%	11	4.1%	0	0.0%	0	0.0%	266	100.0%
52層、53ab層 (T1)	57	65.5%	27	31.0%	1	1.1%	0	0.0%	2	2.3%	87	100.0%
52層、53層、56層 (T1)	44	73.3%	14	23.3%	2	3.3%	0	0.0%	0	0.0%	60	100.0%
53層 (T1)	20	74.1%	5	18.5%	2	7.4%	0	0.0%	0	0.0%	27	100.0%
52層、53層、56層 (T2)	19	86.4%	2	9.1%	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	22	100.0%
52層、53層、58層、59層 (T2)	6	85.7%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	100.0%
52層、53層 (T4)	96	64.0%	49	32.7%	3	2.0%	0	0.0%	2	1.3%	150	100.0%
52層、53層、89層 (T4)	34	68.0%	14	28.0%	2	4.0%	0	0.0%	0	0.0%	50	100.0%
合計	460	67.2%	198	28.9%	23	3.4%	0	0.0%	4	0.6%	685	100.0%

建造物 2 の土器の構成比は、パトラチケ期 67.2%、サクワリ期 28.9%、ミカオトリ期 3.4%である (表 8-2-(3)-1)。パトラチケ期の土器 (N=460) は、Matte Ware (0.2%)、Burnished Ware(43.5%)、Polished Ware(20.7%)、Painted Ware(34.5%)である。この構成比は、パトラチケ期全体の構成比と類似している。

サクワリ期の土器 (N=198) は、Matte Ware (2.0%)、Burnished Ware(84.8%)、Polished Ware(8.1%)、Painted Ware(4.5%)、Dense Ware (0.0%)、Thin Orange Ware (0.0%)、Granular Ware (0.5%) である。この構成比は、サクワリ期全体の構成比と比較すると Burnished Ware の出土率が高い。

ミカオトリ期の土器 (N=23) は、Burnished Ware(4.3%)、Polished Ware(95.7%)であり、Polished Ware の器種では、大部分が碗である。トラミミロルパ期の土器は出土していない。

(4) 建造物 3 出土の土器の特徴

表 8-2-(4)-1：建造物 3 出土の土器の時期別構成比

層位	パトラチケ期 (口縁部数)		サクワリ期 (口縁部数)		ミカオトリ期 (口縁部数)		トラミミロルパ期 (口縁部数)		同定不能 (口縁部数)		合計 (口縁部数)	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
14a層 (T1)	5	20.8%	14	58.3%	5	20.8%	0	0.0%	0	0.0%	24	100.0%
68層 (T2)	3	23.1%	8	61.5%	0	0.0%	0	0.0%	2	15.4%	13	100.0%
合計	8	21.6%	22	59.5%	5	13.5%	0	0.0%	2	5.4%	37	100.0%

建造物 3 の土器の構成比は、パトラチケ期 21.6%、サクワリ期 59.5%、ミカオトリ期 13.5%である (表 8-2-(4)-1)。パトラチケ期の土器は (N=8)、Matte Ware(0.0%)、Burnished Ware(62.5%)、Polished Ware(25.0%)、Painted Ware(12.5%)である。

サクワリ期の土器（N=22）は、Matte Ware（4.5%）、Burnished Ware(9.1%)、Polished Ware(68.1%)、Painted Ware(18.1%)、Dense Ware（0.0%）、Thin Orange Ware（0.0%）、Granular Ware（0.0%）である。

ミカオトリ期の土器（N=5）は、Burnished Ware(20.0%)、Polished Ware(80.0%)であり、トラミミロルパ期の土器は出土していない。

（5）建造物4出土の土器の特徴

表 8-2-(5)-1：建造物4（上層部）出土の土器の時期別構成比

層位	パトラチケ期 (口縁部数)		サクワリ期 (口縁部数)		ミカオトリ期 (口縁部数)		トラミミロルパ期 (口縁部数)		同定不能 (口縁部数)		合計 (口縁部数)	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
72層(T12)	5	6.5%	42	54.5%	30	39.0%	0	0.0%	0	0.0%	77	100.0%
62層(T12)	3	5.0%	36	60.0%	21	35.0%	0	0.0%	0	0.0%	60	100.0%
41層(T12)	22	14.1%	46	29.5%	88	56.4%	0	0.0%	0	0.0%	156	100.0%
29層(T12)	12	6.9%	69	39.9%	91	52.6%	0	0.0%	1	0.6%	173	100.0%
51層、54層(T12)	2	3.3%	31	50.8%	25	41.0%	0	0.0%	3	4.9%	61	100.0%
合計	44	8.3%	224	42.5%	255	48.4%	0	0.0%	4	0.8%	527	100.0%

表 8-2-(5)-2：建造物4（下層部）出土の土器の時期別構成比

層位	パトラチケ期 (口縁部数)		サクワリ期 (口縁部数)		ミカオトリ期 (口縁部数)		トラミミロルパ期 (口縁部数)		同定不能 (口縁部数)		合計 (口縁部数)	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
73層(T2)	0	0.0%	8	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	100.0%
71a層(T2)	0	0.0%	27	93.1%	1	3.4%	0	0.0%	1	3.4%	29	100.0%
82層(T2)	0	0.0%	4	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%
混合層(T2)	1	16.7%	5	83.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	100.0%
149層(T2)	131	19.0%	551	79.9%	8	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	690	100.0%
142層(T2)	23	9.1%	201	79.1%	30	11.8%	0	0.0%	0	0.0%	254	100.0%
合計	155	15.6%	796	80.3%	39	3.9%	0	0.0%	1	0.1%	991	100.0%

建造物4は、トンネル12の建造物上層部とトンネル2の建造物下層部の2つのトンネルから土器が出土している。

上層部の土器の構成比は、パトラチケ期8.3%、サクワリ期42.5%、ミカオトリ期48.4%である。一方下層部の土器の構成比は、パトラチケ期15.6%、サクワリ期80.3%、ミカオトリ期3.9%であり、建造物の上層部と下層部では、構成比に違いが認められる。また、どちらからもトラミミロルパ期の土器は出土していない（表8-2-(5)-1、表8-2-(5)-2）。

パトラチケ期の土器は（N=199、上層部と下層部の合計値、以下同様）、Matte Ware（0.5%）、Burnished Ware(44.7%)、Polished Ware(19.6%)、Painted Ware(35.2%)である。この構成比は、パトラチケ期全体の構成比と類似している。

サクワリ期の土器（N=1020）は、Matte Ware（23.3%）、Burnished Ware(29.1%)、Polished Ware(31.6%)、Painted Ware(14.0%)、Dense Ware（1.8%）、Thin Orange Ware（0.3%）、Granular Ware（0.0%）である。建造物4の下層部からは、多くのFine Matteグループのカバープレートが出土しているのでMatte Wareの比率が高くなっている。

ミカオトリ期の土器 (N=294) は、Matte Ware (3.0%)、Burnished Ware(7.8%)、Polished Ware(74.9%)、Painted Ware (8.9%)、Dense Ware (3.7%)、Thin Orange Ware (1.7%)であり、Polished Ware の比率が高い。また Polished Ware の器種では、大部分が碗である。

(6) 建造物 5 出土の土器の特徴

表 8-2-(6)-1：建造物 5 出土の土器の時期別構成比

層位	パトラチケ期 (口縁部数)		サクワリ期 (口縁部数)		ミカオトリ期 (口縁部数)		トラミミロルパ期 (口縁部数)		同定不能 (口縁部数)		合計 (口縁部数)	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
248層 (T2)	7	18.9%	27	73.0%	3	8.1%	0	0.0%	0	0.0%	37	100.0%
254層 (T2)	9	34.6%	16	61.5%	1	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	26	100.0%
251層 (T2)	1	5.3%	12	63.2%	6	31.6%	0	0.0%	0	0.0%	19	100.0%
254a層 (T2)	12	13.6%	49	55.7%	25	28.4%	2	2.3%	0	0.0%	88	100.0%
247層 (T2)	1	4.8%	11	52.4%	8	38.1%	1	4.8%	0	0.0%	21	100.0%
247層、248層 (T2)	0	0.0%	12	66.7%	5	27.8%	1	5.6%	0	0.0%	18	100.0%
257層 (T2)	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
258層 (T2)	0	0.0%	4	66.7%	2	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	6	100.0%
260層 (T2)	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
252層 (T2)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
254層、255層 (T2)	1	33.3%	2	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%
254層～257層 (T2)	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
混合層 (T2)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	31	14.0%	137	61.7%	50	22.5%	4	1.8%	0	0.0%	222	100.0%

建造物 5 の土器の構成比は、パトラチケ期 14.0%、サクワリ期 61.7%、ミカオトリ期 22.5%、トラミミロルパ 1.8%である (表 8-2-(6)-1)。パトラチケ期の土器 (N=31) は、Matte Ware (0.0%)、Burnished Ware(51.6%)、Polished Ware(9.7%)、Painted Ware(38.7%)である。

サクワリ期の土器 (N=137) は、Matte Ware (1.5%)、Burnished Ware(41.6%)、Polished Ware(29.9%)、Painted Ware(34.8%)、Dense Ware (2.2%)、Thin Orange Ware (0.0%)、Granular Ware (0.0%) である。サクワリ期全体の構成比と比較すると Painted Ware の出土率が高い。

ミカオトリ期の土器 (N=50) は、Matte Ware (2.0%)、Burnished Ware(10.0%)、Polished Ware(60.0%)、Painted Ware (20.0%)、Dense Ware (4.0%)、Thin Orange Ware (4.0%)である。

建造物 5 の盛土からはじめて出土するトラミミロルパ期の土器 (N=4) は、Matte Ware, Burnished Ware, Polished Ware, Dense Ware にそれぞれ 1 片見られた。

(7) 建造物 6 出土の土器の特徴

建造物 6 は、トンネル 8 の建造物上層部とトンネル 2 の建造物下層部の 2 つのトンネルから土器が出土している。

表 8-2-(7)-1：建造物 6（上層部）出土の土器の時期別構成比

層位	パトラチケ期 (口縁部数)		サクワリ期 (口縁部数)		ミカオトリ期 (口縁部数)		トラミミロルパ期 (口縁部数)		同定不能 (口縁部数)		合計 (口縁部数)	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
9層(T8E1)	4	10.3%	20	51.3%	11	28.2%	3	7.7%	1	2.6%	39	100.0%
9層(T8N1)	32	10.9%	106	36.1%	99	33.7%	56	19.0%	1	0.3%	294	100.0%
9層、13層(T8N1)	14	7.7%	66	36.5%	60	33.1%	41	22.7%	0	0.0%	181	100.0%
9層(T8E2)	11	10.1%	39	35.8%	38	34.9%	19	17.4%	2	1.8%	109	100.0%
20層、21層(T8E2)	5	13.9%	10	27.8%	10	27.8%	10	27.8%	1	2.8%	36	100.0%
21層(T8E2)	3	5.2%	17	29.3%	30	51.7%	7	12.1%	1	1.7%	58	100.0%
22層、23層(T8E2)	4	4.4%	14	15.6%	34	37.8%	36	40.0%	2	2.2%	90	100.0%
23層(T8E2)	7	7.1%	22	22.4%	26	26.5%	43	43.9%	0	0.0%	98	100.0%
合計	80	8.8%	294	32.5%	308	34.0%	215	23.8%	8	0.9%	905	100.0%

表 8-2-(7)-2：建造物 6（下層部）出土の土器の時期別構成比

層位	パトラチケ期 (口縁部数)		サクワリ期 (口縁部数)		ミカオトリ期 (口縁部数)		トラミミロルパ期 (口縁部数)		同定不能 (口縁部数)		合計 (口縁部数)	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
280b層(T2)	0	0.0%	17	20.2%	25	29.8%	41	48.8%	1	1.2%	84	100.0%
284層(T2)	1	7.1%	5	35.7%	2	14.3%	6	42.9%	0	0.0%	14	100.0%
合計	1	1.0%	22	22.4%	27	27.6%	47	48.0%	1	1.0%	98	100.0%

上層部の土器の構成比は、パトラチケ期 8.8%、サクワリ期 32.5%、ミカオトリ期 34.0%、トラミミロルパ 23.8%である。一方下層部の土器の構成比は、パトラチケ期 1.0%、サクワリ期 22.4%、ミカオトリ期 27.8%、トラミミロルパ期 48.0%であり、建造物の上層部と下層部では、構成比に違いが認められる（表 8-2-(7)-1、表 8-2-(7)-2）。

パトラチケ期の土器は(N=81、上層部と下層部の合計値、以下同様)、Matte Ware(0.0%)、Burnished Ware(37.0%)、Polished Ware(2.4%)、Painted Ware(60.5%)であり、Painted Ware の比率が高い。

サクワリ期の土器(N=316)は、Matte Ware(1.6%)、Burnished Ware(41.8%)、Polished Ware(24.4%)、Painted Ware(31.3%)、Dense Ware(0.9%)、Thin Orange Ware(0.0%)、Granular Ware(0.0%)である。

ミカオトリ期の土器(N=335)は、Matte Ware(0.3%)、Burnished Ware(17.0%)、Polished Ware(69.9%)、Painted Ware(7.5%)、Dense Ware(3.9%)、Thin Orange Ware(1.5%)であり、Polished Ware の比率が高い。また Polished Ware の器種では、大部分が碗である。

トラミミロルパ期の土器(N=262)は、Matte Ware(3.0%)、Burnished Ware(1.9%)、Polished Ware(72.5%)、Painted Ware(5.8%)、Dense Ware(14.5%)、Thin Orange Ware(2.3%)であり、Polished Ware、Dense Ware の比率が高い。

(8) 建造物 7 出土の土器の特徴

建造物 7 の土器の構成比は、パトラチケ期 1.2%、サクワリ期 25.5%、ミカオトリ期 30.4%、トラミミロルパ 42.6%である。パトラチケ期の土器はほとんど出土しなくなる（表 8-2-(8)-1）。

サクワリ期の土器 (N=88) は、Matte Ware (4.5%)、Burnished Ware(34.1%)、Polished Ware(20.5%)、Painted Ware(27.3%)、Dense Ware (1.1%)、Thin Orange Ware (12.5%)、Granular Ware (0.0%) である。

ミカオトリ期の土器 (N=105) は、Matte Ware (2.9%)、Burnished Ware(14.3%)、Polished Ware(75.2%)、Painted Ware (7.7%)、Dense Ware (0.0%)、Thin Orange Ware (0.0%)であり、Polished Ware の比率が高い。

トラミミロルパ期の土器 (N=147) は、Matte Ware (6.1%)、Burnished Ware(2.0%)、Polished Ware(79.6%)、Painted Ware (7.4%)、Dense Ware (4.1%)、Thin Orange Ware (0.7%)であり、Polished Ware の比率が高い。

表 8-2-(8)-1 : 建造物 7 出土の土器の時期別構成比

層位	パトラチケ期 (口縁部数)		サクワリ期 (口縁部数)		ミカオトリ期 (口縁部数)		トラミミロルパ期 (口縁部数)		同定不能 (口縁部数)		合計 (口縁部数)	
	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率	数	比率
22層	4	2.3%	66	37.5%	60	34.1%	46	26.1%	0	0.0%	176	100.0%
25層	0	0.0%	8	18.2%	13	29.5%	22	50.0%	1	2.3%	44	100.0%
26層	0	0.0%	14	11.2%	32	25.6%	79	63.2%	0	0.0%	125	100.0%
合計	4	1.2%	88	25.5%	105	30.4%	147	42.6%	1	0.3%	345	100.0%

(9) 建造物の年代決定

8章1節の(1)から(8)までの分析を踏まえ、土器の分析の視点から「月のピラミッド」の各建造物の年代決定を行う。建造物の盛土から出土する土器は、複数の時期の土器が混在している場合が多いので、その中で最も新しい時期の土器の特徴、出土数、放射性炭素年代などを検討しながら年代決定を行う。また、比較資料として、杉山等の行った土器の分析資料を使用する¹⁶ (Sugiyama and Cabrera 2007: Table 1、Table 2)。

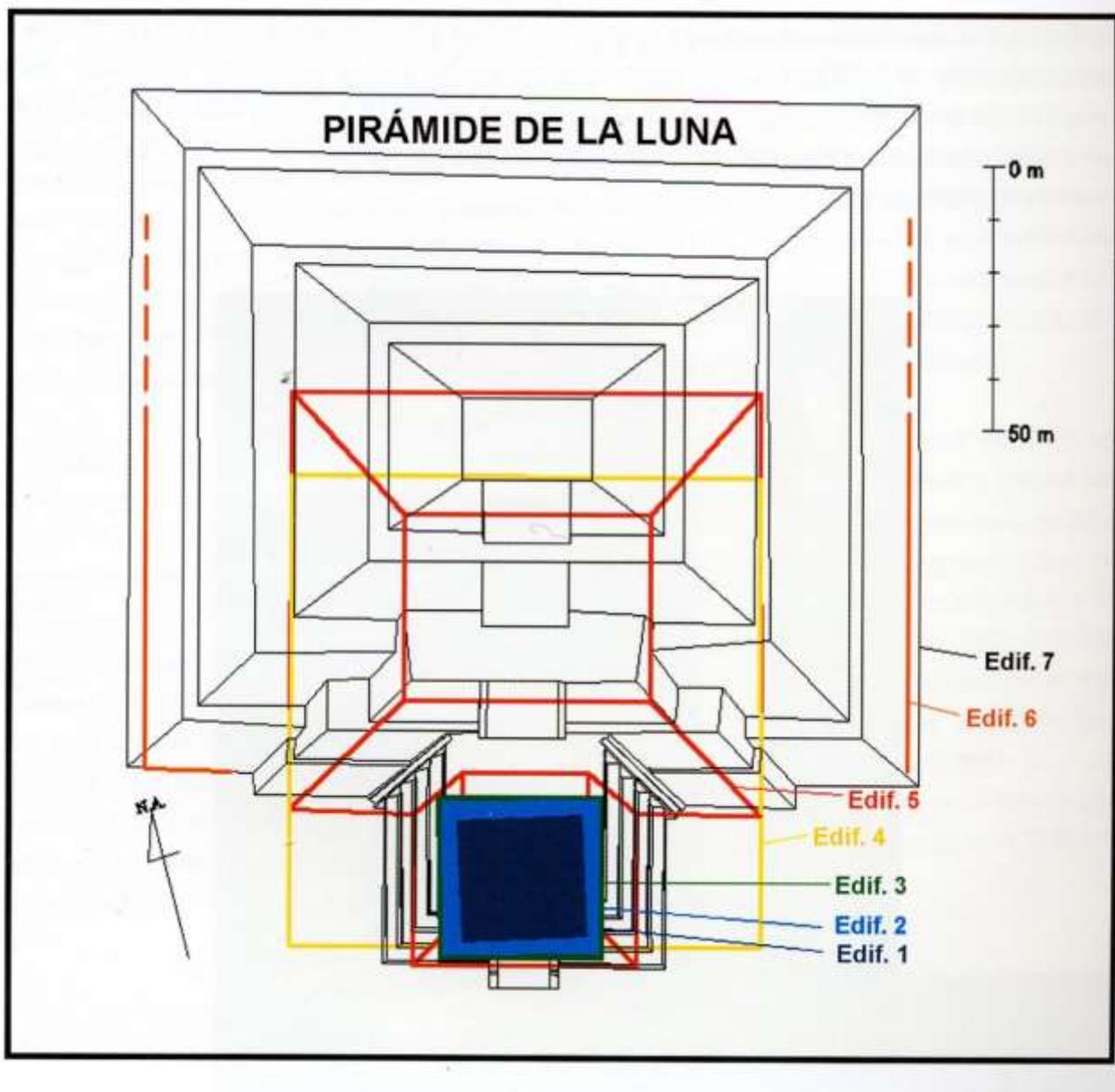


図 8-2-(9)-1 : 「月のピラミッド」の増改築

(註：杉山三郎教授の提供)

Edif.1 は建造物 1、Edif.2 は建造物 2、Edif.3 は建造物 3、Edif.4 は建造物 4、Edif.5 は建造物 5、Edif.6 は建造物 6、Edif.7 は建造物 7 を示す)

¹⁶ 杉山等の土器分析は、胴部は片を含めた全破片数を数えている。また、分析対象とした層位も筆者より多い。筆者は、個体数をだすために口縁部のみを抽出している。

< 建造物 1 >

建造物 1 (トンネル 3) 出土の土器は、パトラチケ期 94.3%、サクワリ期 4.3%、ミカオトリ期 0.0%、トラミミロルパ期 0.0%の構成であった。一方、杉山等による土器分析ではパトラチケ期 96.52%、サクワリ期 2.49%、ミカオトリ期 0.02%、トラミミロルパ期前期 0.46%であった。また、放射性炭素年代では、A.D. 100±50 の年代が出ている (Sugiyama and Cabrera 2007: 116)。コーギルはパトラチケ期の建造物の可能性を示唆しているが (Cowgill 2015:55, 83, Table 6.1)、筆者は、サクワリ期初頭の建造物と考える。建造物



図 8-2-(9)-2 : 建造物 1 の切石の壁
(出所 : Sugiyama and Cabrera 2007: Fig.9, p.120)

1 は、地山直上の層である 56 層の上に築かれた建造物である。従って、56 層の土を盛土として使用していると考えられる。56 層の土器の時期別構成比は、パトラチケ期 89.3%、サクワリ期 8.8%であり、ミカオトリ期やトラミミロルパ期の土器は出土していない。以上のことより、56 層と建造物 1 出土の土器は、時期別構成比においても類似しているので、56 層と建造物 I はサクワリ期の層ならびに建造物と考えられる。

建造物 1 は、「月のピラミッド」の建造物の中で最も古い建造物であり、一般に知られているテオティワカン建造物の東西軸より、東軸が 3 度北にずれていることが報告されている (杉山 2000) ので、テオティワカンの現在見られる都市建設以前の建造物と考えられる。

< 建造物 2 >

建造物 2 (トンネル 1, 2, 4) 出土の土器は、パトラチケ期 67.2%、サクワリ期 28.9%、ミカオトリ期 3.4%、トラミミロルパ期 0.0%の構成であった。一方、杉山等による土器分析ではパトラチケ期 36.75%、サクワリ期 54.57%、ミカオトリ期 8.46%であり、トラミミロルパ期以降の土器は出土していない。また、放射性炭素年代では A.D. 150±50 の年代が出ている (Sugiyama and Cabrera 2007: 117)。従って、建造物 2 は、ミカオトリ期初期の建造物と考えられる。

< 建造物 3 >

建造物 3 (トンネル 1, 2) 出土の土器は、パトラチケ期 21.6%、サクワリ期 59.5%、ミカオトリ期 13.5%であり、トラミミロルパ期 0.0%の構成であった。一方、杉山等による土器分析データは、出土物の数が少ないため示されていない。放射性炭素年代では A.D.

225の年代が出ている（Sugiyama and Cabrera 2007: 117）。以上のことより、建造物3は、ミカオトリ期初期の建造物と考えられる。

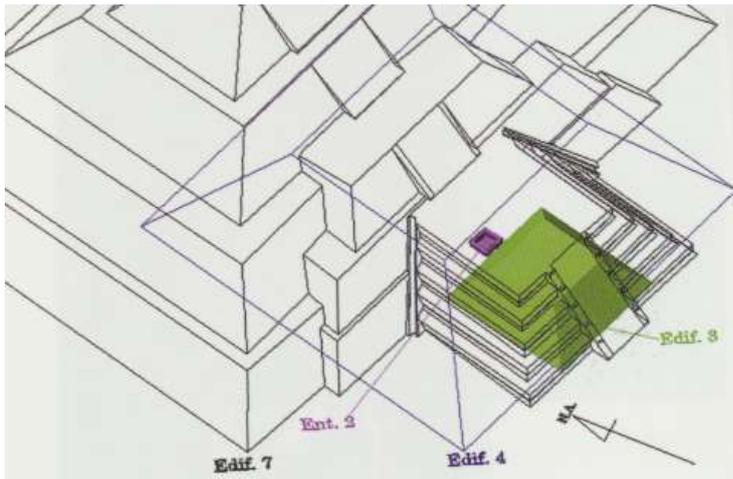


図 8-2-(9)-3 : 建造物 3、建造物 4

（出所：Sugiyama and Cabrera 2004: Fig.26, p.21）

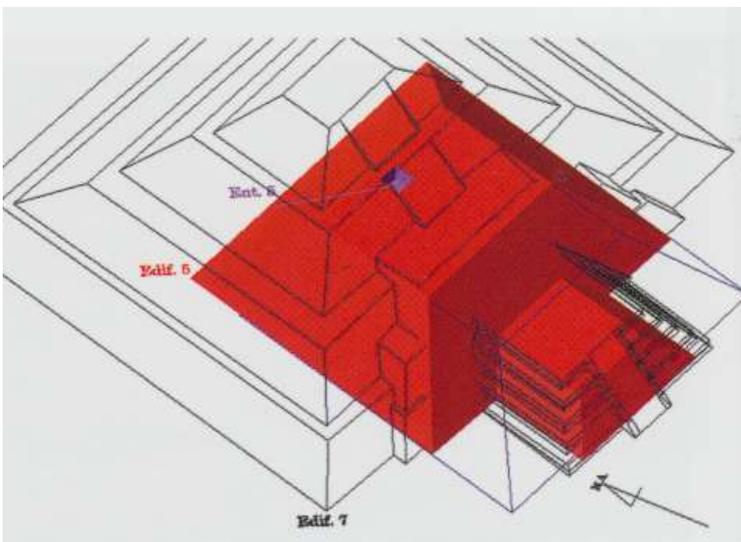


図 8-2-(9)-4 : 建造物 5、建造物 4

（出所：Sugiyama and Cabrera 2004: Fig.45, p.27）

された（図 8-2-(9)-1、図 8-2-(9)-3）。また、この建造物からは、生贄墓として墳墓2、墳墓6¹⁷が発見されている（Sugiyama and López 2007）。これらの墓の副葬品や生贄にされた人物から判断すると、この建造物の建築にあたり、墓の中で儀礼を行い、副葬品を入れることができる強力な力をもった人物の存在が考えられている（Sugiyama and López 2007 : 141）。

建造物2、建造物3は、建造物1の覆うように増改築された建造物である（図 8-2-(9)-1、図 8-2-(9)-3）。これらの建造物は、まだ小規模な建造物であるので、建造物1同様にテオティワカンの都市建設以前の建造物であると思われる。

< 建造物 4 >

建造物4（上層部：トンネル12，下層部：トンネル2）出土の土器は、パトラチケ期13.1%、サクワリ期67.2%、ミカオトリ期19.4%、トラミミロルパ期0.0%の構成であった。一方、杉山等による土器分析（トンネル2）ではパトラチケ期7.21%、サクワリ期86.61%、ミカオトリ期1.82%、トラミミロルパ期前期0.01%であり、トラミミロルパ期後期以降の土器は出土していない。また、放射性炭素年代ではA.D. 250±50である（Sugiyama and Cabrera 2007: 120）。放射性炭素年代はミカオトリ期の年代としては新しいが、土器の構成から判断して、建造物4は、ミカオトリ期の建造物と考えられる。

建造物4は、それ以前の3つの建造物の増改築の規模とは大きく異なり、底辺部の面積で約9倍の規模に改築

¹⁷ 墳墓6の年代については、当初5期の建造物に対応する墓であると考えられていたが（Sugiyama and López 2007:142）、現在は4期の建造物に対応する墓であると解釈されている。

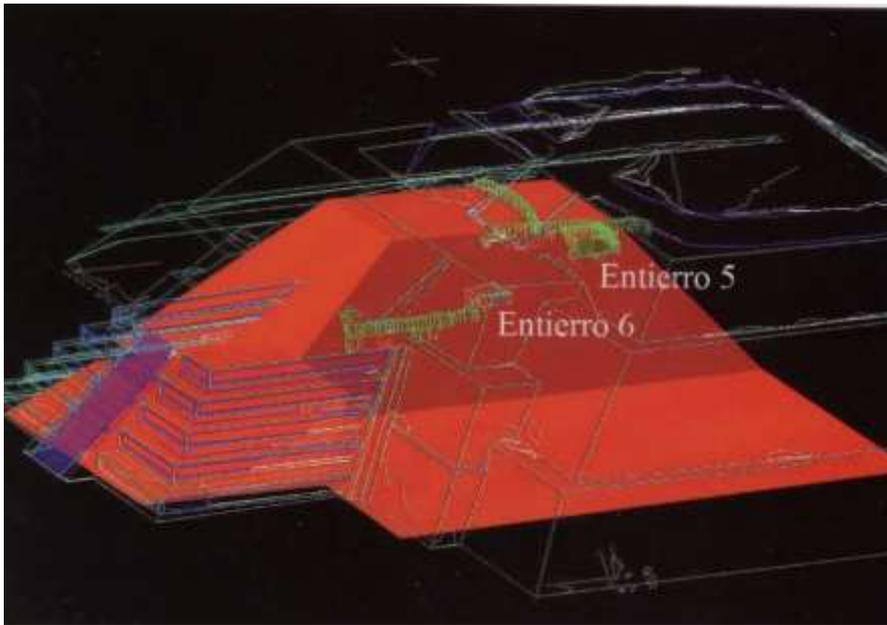


図 8-2-(9)-5 : 「月のピラミッド」の墳墓 5、墳墓 6
 (註 : 杉山三郎教授の提供)

< 建造物 5 >

建造物 5 (トンネル 2) 出土の土器は、パトラチケ期 14.0%、サクワリ期 61.7%、ミカオトリ期 22.5%、トラミミロルパ 1.8%である。一方、杉山等による土器分析(トンネル 2) ではパトラチケ期 5.18%、サクワリ期 71.05%、ミカオトリ期 19.81%であり、トラミミロルパ期前期 2.83%であり、トラミミロルパ期後期以降の土器は出土していない。また、放射性炭素年代は A.D. 300±50 である (Sugiyama and Cabrera

2007: 121)。以上のことより、建造物 5 は、トラミミロルパ期の建造物と考えられる。

建造物 5 の建築様式は、大きく変化する。タルー・タブレロ様式を持つアドサダが建造物の前面に付けられ、現在の「月のピラミッド」と同じ形になる (図 8-2-(9)-4)。この建造物に対応する生贄墓として墳墓 3 があり、高貴な副葬品を身に付け、後ろ手に縛られた 4 体の人骨が発見された (Sugiyama and López 2007 : 130-131)。

< 建造物 6 >

建造物 6 (上層部: トンネル 8, 下層部: トンネル 2) 出土の土器は、パトラチケ期 8.1%、サクワリ期 31.5%、ミカオトリ期 33.4%、トラミミロルパ期 26.1%の構成であった。一方、杉山等による土器分析 (トンネル 2) ではパトラチケ期 0.7%、サクワリ期 20.8%、ミカオトリ期 43.1%であり、トラミミロルパ期前期 31.4%である (Sugiyama and Cabrera 2007: 121)。また、放射性炭素年代は A.D. 350±50 である (Sugiyama and Cabrera 2007: 120)。以上のことより、建造物 6 は、トラミミロルパ期の建造物と考えられる。

建造物 6 は建造物 5 を拡張したもので (図 8-2-(9)-1)、建造物下層部からは墳墓 4、上層部の床面の直下からは、墳墓 5 が発見された (図 8-2-(9)-5)。墳墓 5 には、身に付けていた装飾品から判断してマヤのエリート階級に属する人物が埋葬されたと考えられている (Sugiyama and López 2007 : 132-138)。

< 建造物 7 >

建造物 7 出土の土器は、パトラチケ期 1.2%、サクワリ期 25.5%、ミカオトリ期 30.4%、トラミミロルパ 42.6%であり、パトラチケ期の土器はほとんど出土しなくなる。一方、杉

山等による土器分析（Frente C）ではパトラチケ期 0.3%、サクワリ期 18.37%、ミカオトリ期 41.49%であり、トラミミロルパ期前期 33.97%、トラミミロルパ期後期 0.13%、ショラルパン期 1.77%である。また放射性炭素年代は A.D. 450±50 である（Sugiyama and Cabrera 2007: 120）。建造物 7 は、杉山等のデータではショラルパン期の可能性も否定できないが、筆者が分析した建造物 7 の盛土（22 層、25 層、26 層）からはショラルパン期の土器は出土していないので、建造物 7 はトラミミロルパ期の建造物と解釈される。

層位	パトラチケ期 (口縁部数)		サクワリ期 (口縁部数)		ミカオトリ期 (口縁部数)		トラミミロルパ期 (口縁部数)		同定不能 (口縁部数)		合計 (口縁部数)
	口縁部数	割合	口縁部数	割合	口縁部数	割合	口縁部数	割合	口縁部数	割合	
56層	141	88.7%	14	8.8%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.5%	159
建造物1 (T3)	197	94.3%	9	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.4%	209
建造物2 (T1, T2, T4)	460	67.2%	198	28.9%	23	3.4%	0	0.0%	4	0.6%	685
建造物3 (T1, T2)	8	22.2%	22	58.3%	5	13.9%	0	0.0%	2	5.6%	37
建造物4 (T2, T12)	199	13.1%	1020	67.2%	294	19.4%	0	0.0%	5	0.3%	1,518
建造物5 (T2)	31	14.0%	137	61.7%	50	22.5%	4	1.8%	0	0.0%	222
建造物6 (T2, T8)	81	8.1%	316	31.5%	335	33.4%	262	26.1%	9	0.8%	1,003
建造物7 (Frente C)	4	1.2%	88	25.5%	105	30.4%	147	42.6%	1	0.3%	345
合計	1,121	27.2%	1,804	43.8%	812	19.7%	413	10.0%	28	0.7%	4,178

註)この合計からは墳墓出土の土器は除いてある

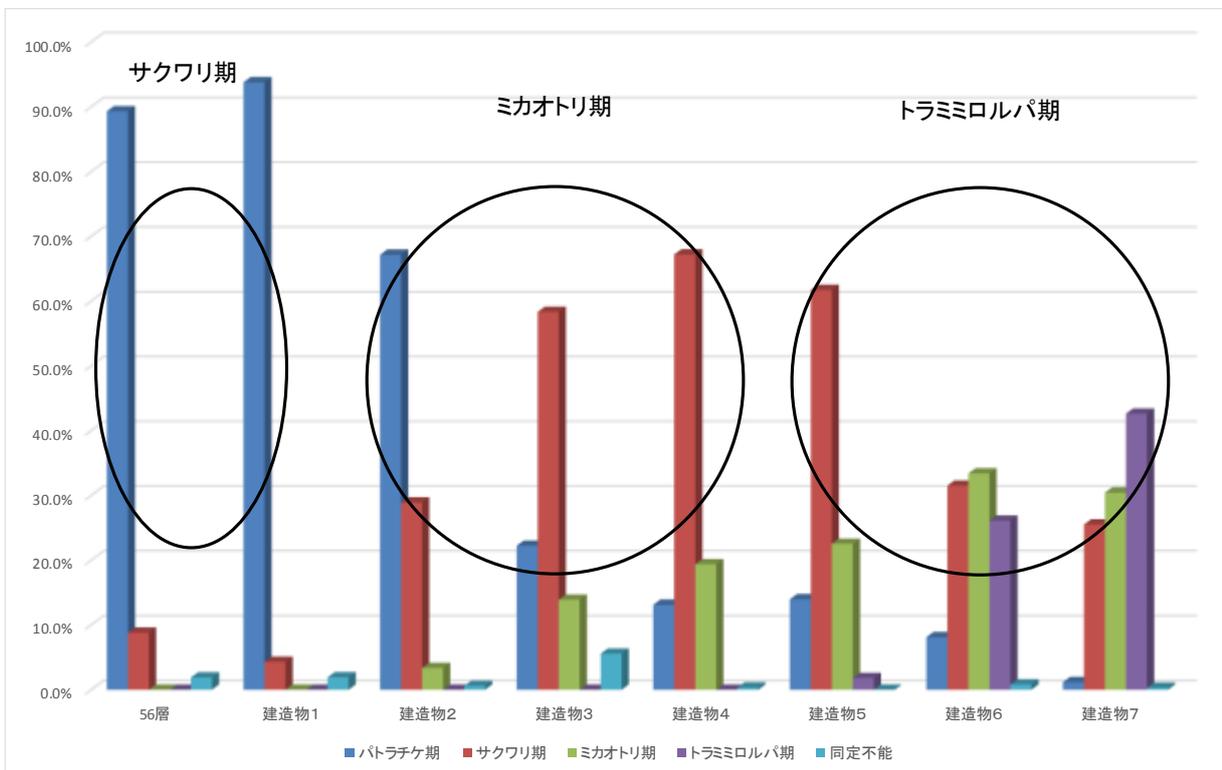


図 8-2-(9)-6 : 「月のピラミッド」の各建造物の建築時期

8-3 「太陽のピラミッド」、「羽毛の生えた蛇神殿（ケツアルコアトル神殿）」の建築年代と「月のピラミッド」

(1) 「太陽のピラミッド」の建築年代に関する論争

高さ約 63m、底辺の 1 辺が 216m (222.7m に拡大) (Sugiyama 2005: 47) の「太陽のピラミッド」は、テオティワカン遺跡の中で最も大きい建造物である。またこの建造物の下には「洞窟」がある (図 8-3-(1)-1、図 8-3-(1)-2)。この「洞窟」は、最近までは自然の「洞窟」と考えられていたが (Millon 1981)、現在では人工的に作られたトンネルと解釈されている。「太陽のピラミッド」の建築年代に関しての定説は、サクワリ期に作られミカオトリ期あるいはトラミミロルパ期前期にピラミッドの正面にアドサダとよばれるプラットフォームが付けられるという説であった (Millon 1992)。

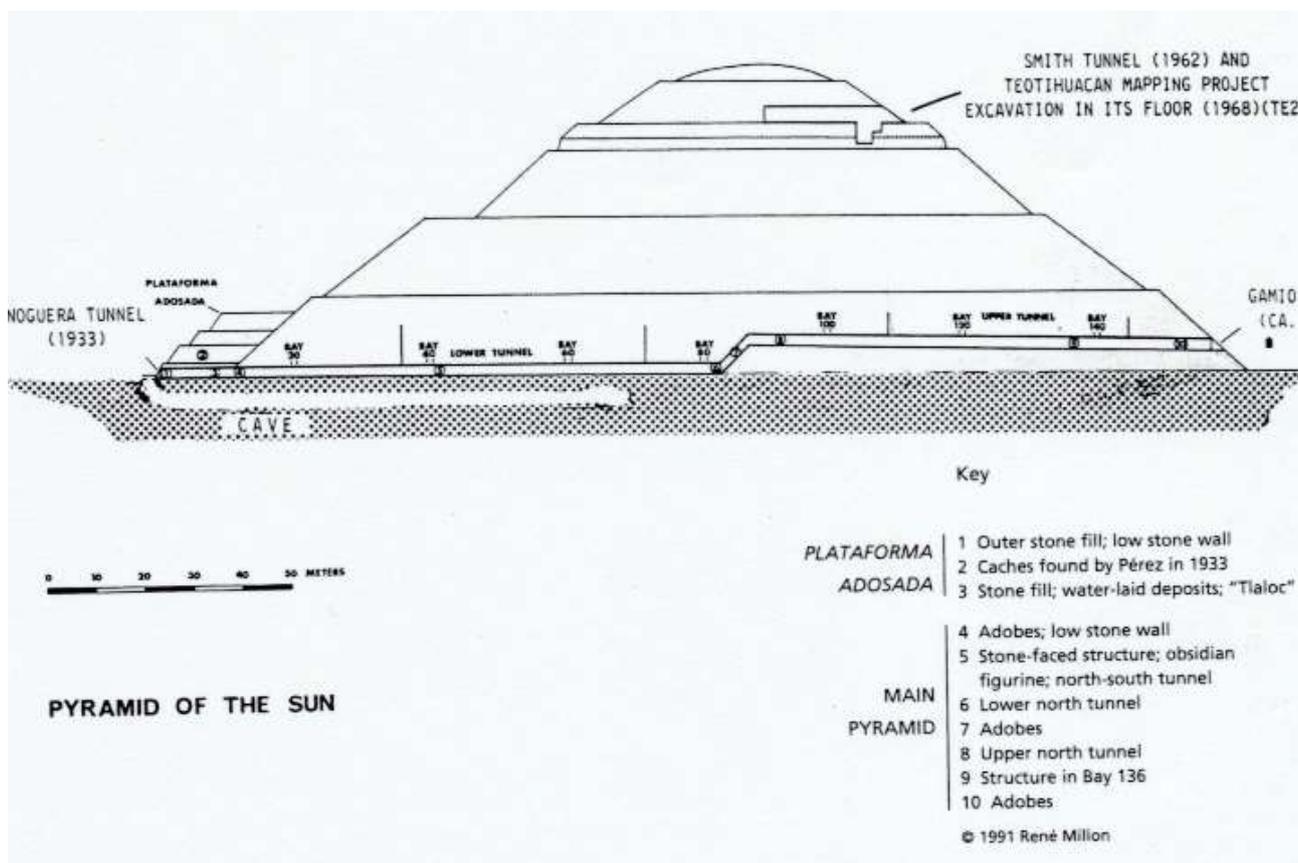


図 8-3-(1)-1 : 「太陽のピラミッド」の断面図

(出所 : Millon 1993 : Fig. 5a, p.22)

このような定説を検証するために、サラビアを団長とする「太陽のピラミッド」プロジェクト (PPS) は、2008 年から 2011 年まで調査を行った。このプロジェクトの中で「太陽のピラミッド」内部 (Front C) や「太陽のピラミッド」の下にある「洞窟」 (Front D) の再調査が行われ、「太陽のピラミッド」の建築に関する 3 つの時期が確認された (Sugiyama et al. 2013)。第一の時期は、「太陽のピラミッド」が建築される以前の小さな建造物 (Structure 1) が作られた時期、第二の時期は「太陽のピラミッド」本体が作られた時期、第 3 時期は「太陽のピラミッド」の正面にアドサダと呼ばれる付属の建造物が

付けられて時期である。

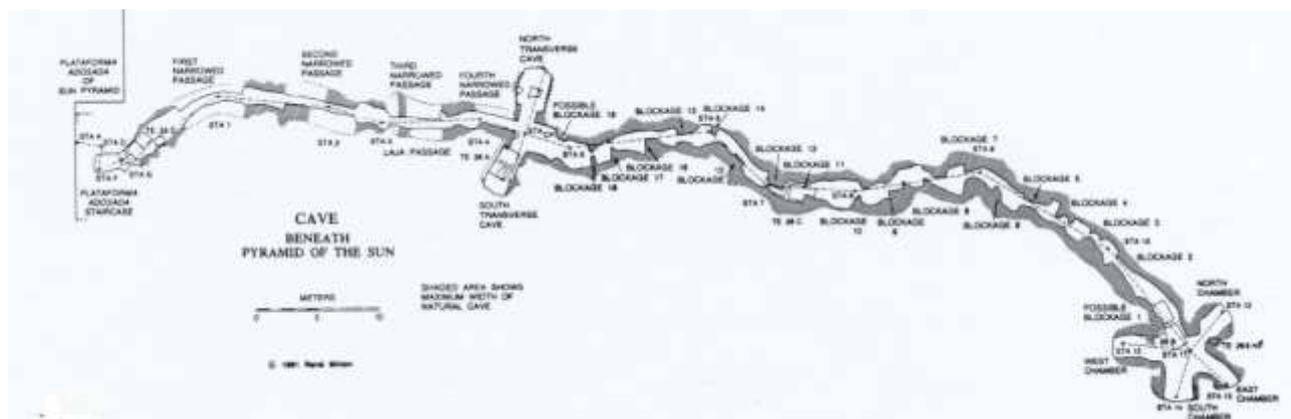


図 8-3-(1)-2 : 「太陽のピラミッド」の地下にある「洞窟」

(出所 : Millon 1993 : Fig. 5b, p.22)

建造物 1 は、ノゲラの発掘したトンネルの入り口から 108m の地点から発見された「太陽のピラミッド」以前に建築された建造物である。建造物 1 の大きさは少なくとも 13.5m 以上あり、斜めの壁に続いて垂直に立ち上がる壁が見られる。壁の表面は、粘土状の土が塗られて平らにされている (aplanado)。また、建造物の方向は、「月のピラミッド」の建造物 1 や pre-Ciudadela の建造物とは異なり、テオティワカンの南北の軸に対応している (Sugiyama et al. 2013 : 413-415)。

「太陽のピラミッド」内部の調査によって得られた 37,746 片の土器片を分析したところ、クアナラン期 0% (N=2)、パトラチケ期 5.2% (N=1985)、サクワリ期 94.7% (N=35736)、ミカオトリ期 0.1% (N=23)、ショラルパン期～アステカ期 0% (N=0) である (Sugiyama et al. 2013 : Table 1)。

また、「太陽のピラミッド」内部からの採取した放射性炭素年代によると、「太陽のピラミッド」の建築時期は、AD.170-310、「洞窟」からのデータでは、A.D. 140-240 (Sugiyama et al. 2013 : 429) と従来の年代より 100 年ほど新しい時期が設定された。

一方、スロードは、「太陽のピラミッド」の下にある「洞窟」から採取された (TE28) 放射性炭素年代を公開した (Sload 2015)。スロードによると、A.D. 30-70/75 年ごろに「洞窟」が作られ、A.D. 85-130 年ごろに「洞窟」が利用され、そして A.D. 213-274 ごろに「洞窟」が放棄されたと考えている。また、「洞窟」での活動と「太陽のピラミッド」での活動は連動しているので、「太陽のピラミッド」の建築年代も「洞窟」の年代と同じと考えた。従って、従来の定説を支持するものであった。

土器の視点から見ると、スミスによって発掘された「太陽のピラミッド」の下層部 (Lower Terrace) 出土の土器は、パトラチケ期 0.1% (N=4)、サクワリ期前期 96.3% (N=9,151)、サクワリ期後期 3.6% (N=344) である (Smith 1987: Table 27)。また、土器の Ware¹⁸の構成では、Teotihuacan Burnished Ware が 25.8%¹⁹ (N=4,348)、Teotihuacan Polished

¹⁸ スミスの定義する Ware は、ラットレイ等の定義する Ware とは異なる (Smith 1987:15-29)。

¹⁹ 比率は、筆者が計算で求めている。

Ware が 42.4% (N=4,024)、Teotihuacan Unslipped Ware が 8.7% (N=826)、Teotihuacan Semipolished Ware が 2.7% (N=258)、Serpiente Hard Ware が、0.4% (N=39)、Thin Orange Ware が 0.04% (N=4) であった (Smith 1987: Table 28)。

「太陽のピラミッド」上層部 (Highest Terrace) からは、サクワリ期前期 89.0% (N=21,165)、サクワリ期後期 6.1% (N=1,459)、ミカオトリ期 2.0% (N=477)、トラミミロル期前期 2.6% (N=615)、トラミミロルパ期後期 0.3% (N=75) の土器が出土している。Ware の構成では、Teotihuacan Burnished Ware が 52.4% (N=12,464)、Teotihuacan Polished Ware が 36.0% (N=8,546)、Teotihuacan Unslipped Ware が 8.1% (N=1,933)、Teotihuacan Semipolished Ware が 1.1% (N=264)、Serpiente Hard Ware が、1.8% (N=420)、Thin Orange Ware が 0.1% (N=33)、Roedor Unslipped Ware が 0.3% (N=81)、Granular White Ware が 0.2% (N=50) であった (Smith 1987: Table 28)。

ラットレイによると、スミスの「太陽のピラミッド」上層部のトンネルを利用して行った発掘 (TE22) からは 5,575 の土器片が得られ、パトラチケ期 2.5%、サクワリ期後期 97.4%、ミカオトリ期 0.5% であった (Rattray 2001:55)。

以上のように、「太陽のピラミッド」は、サクワリ期の土器を多く出土する建造物である。しかし「太陽のピラミッド」の 4 段目、5 段目からはミカオトリ期からトラミミロルパ期の土器も出土しているので、この時期に一回増改築が行われた可能性がある。また、アドサダの建築年代は、ラットレイによるトラミミロルパ前期 (Rattray 2001:375)、一方ミリオンによると、ミカオトリ期で「羽毛の生えた蛇神殿」よりはやや早い時期と考えられている (Millon 1992:393)。

以上のデータをまとめると「太陽のピラミッド」の年代決定に関して次の課題を解決する必要がある。

① 「太陽のピラミッド」建造物 1 の年代決定と「月のピラミッド」との関係

杉山等の調査によって発見された「太陽のピラミッド」建築以前の建造物である建造物 1 の年代決定が必要である。建造物の方向性から考えると、「月のピラミッド」の建造物 1 や pre-Ciudadera の建造物より新しく、「月のピラミッド」の建造物に 2、建造物 3 と対応する可能性が考えられる。「太陽のピラミッド」の建造物 1 の盛土から出土する土器分析が必要である。

② 「太陽のピラミッド」本体の建築時期

「太陽のピラミッド」本体から出土する土器と放射性炭素年代との違いがある。「太陽のピラミッド」の建築時期が、サクワリ期の時期なのかミカオトリ期の時期なのか。出土土器の時期別構成比を見ると、サクワリ期の土器が多く出土していることは、前述した通りである。しかし、杉山等の調査によるとわずかであるが、ミカオトリ期の土器が出している (0.1%)。また、これらの土器の中には典型的なミカオトリ期の土器も見られる (図 8-3-(1)-3)。「月のピラミッド」の建造物 4 の下層部 (トンネル 2) の土器の時期別構成比をでも、杉山等の分析によるとミカオトリ期 1.8%、筆者の分析によると 3.9% と必ずしも多くはない。

筆者は、「太陽のピラミッド」本体の建築時期をミカオトリ期、「月のピラミッド」の

建造物4の時期と対応するのではないかと考えている。その後、トラミミロルパ期にアドサダが付けられ、4段目、5段目の増改築が行われた。これらを実証するためには、「太陽のピラミッド」出土の土器の詳細な分析が必要であり、そのためには本稿の4章～7章で提示した土器資料は有効な比較資料となりうる。



図 8-3-(1)-3 : トンネル1 (Frente C)、VIII、VIIIb 出土の土器

③「太陽のピラミッド」の「洞窟」の年代決定

上述したように、杉山等の放射性炭素年代とスロードの放射性炭素年代では、約100年の違いがある。「洞窟」の利用と「太陽のピラミッド」での活動が同時期であり、また「太陽のピラミッド」本体の建築年代がミカオトリ期であると仮定するならば、杉山等のデータには大きな矛盾はない。

「太陽のピラミッド」の建築年代の変更は、1960年代のテオティワカン地図プロジェクト以来考えられてきたテオティワカン盆地の発展のプロセス²⁰を大きく変えることにもつながるのでより慎重に検討しなければならないが、新しい解釈の可能性も否定できない。

(2)「羽毛の生えた蛇神殿 (ケツアルコアトル神殿)」

1980年以前は、「羽毛の生えた蛇神殿」(Feathered Serpent Pyramid : FSP)を含むシウダデラ (Ciudadela) 地区の発掘調査はあまり行われてこなかった。1960年代のテオティワカン地図プロジェクトでは、シウダデラの東側のプラットフォームを発掘し層位に基づく遺物を得ることができた (Millon 1992)。

1980年から1982年には、国立人類学歴史学研究所 (INAH) による調査が行われた (Cabrera, Rodríguez, and Morelos 1982, 1991)。また、1987年には、カブレラ、コーギル、セラノ、杉山等を中心にした新しい国際プロジェクトが作られ (Project Temple de Quetzalcoatl 1988-1989: PTQ88-89)、集中的に発掘が行われた。その結果、建造物の周辺と内部から合計137体を含む25基の墓が副葬品とともに発見された (図 8-3-(2)-1)。副葬

²⁰ サクワリ期 (A.D.1~150) では、テオティワカンが大きく拡大し、北部を中心に20平方キロメートルの広さ、人口30,000人になる。都市の東西南北の軸、「月のピラミッド」、「太陽のピラミッド」等の公共建造物がつくられる (Millon 1973)。

品、埋葬様式、ピラミッドの彫刻などから、この神殿は軍事的色彩をもつ王権の象徴として、建てられたと考えられている（Sugiyama 1989, 1991a, 1991b, 1992, 2000, 2005）。

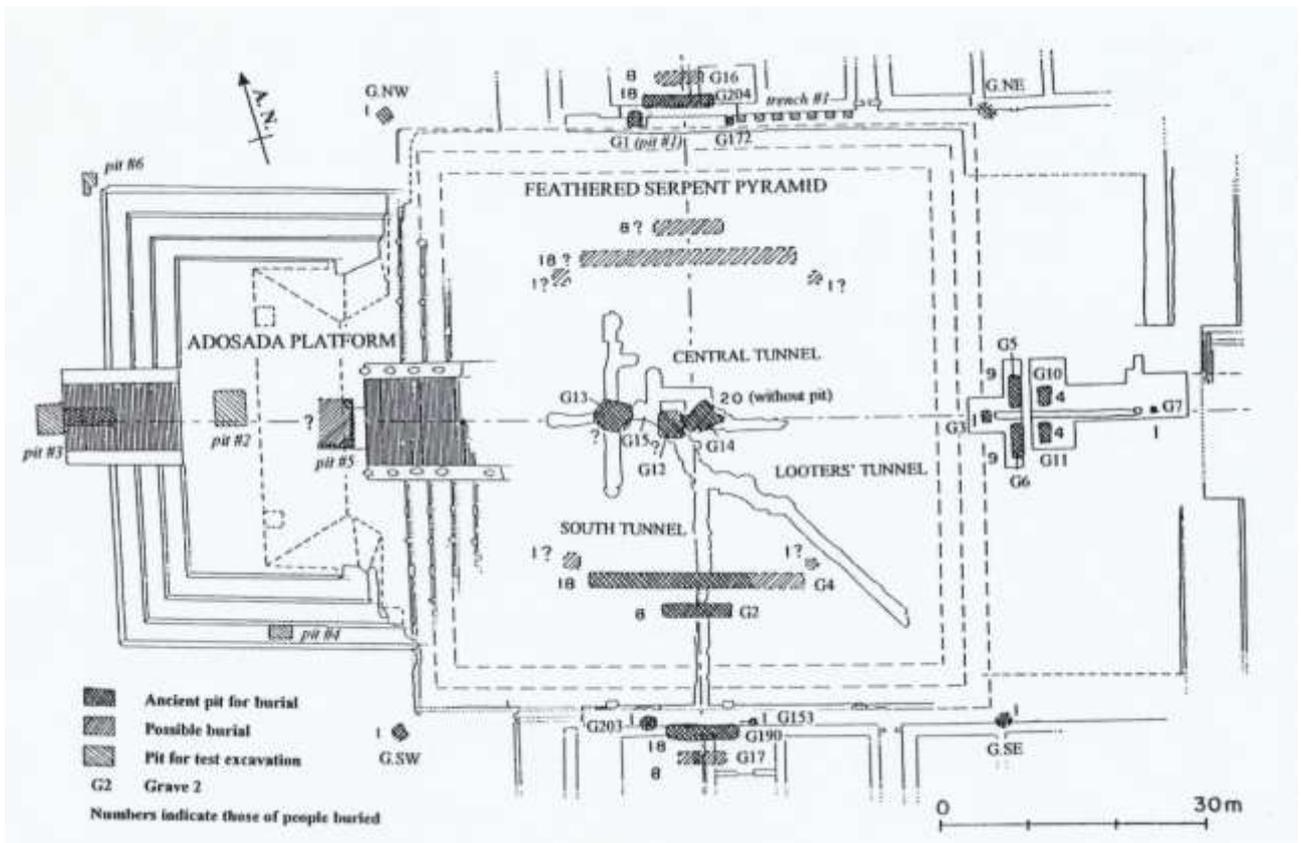


図 8-3-(2)-1 : 「羽毛の生えた蛇神殿」の墓

(出所 : Sugiyama 2005: Fig.5, p.21)

杉山によると、「羽毛の生えた蛇神殿」には3つの建造物の時期が認められている（Sugiyama 1998a, 1998b）。第1期は、pre-FSPと呼ばれる時期で詳細な建築等に関するデータは入手出来なかったが、「羽毛の生えた蛇神殿」が作られる以前に儀式用の建造物として機能していたと考えられている。第2期は、「羽毛の生えた蛇神殿」が作られた時期で放射性炭素年代によると A.D.210 年頃と推定されている。第3期は、アドサダによって「羽毛の生えた蛇神殿」の前面が覆われる時期である。これは、大きな宗教的変化を示しており、絶対的な王から集団的な指導体制に移行した可能性を示している（Sugiyama 1998a:158）。放射性炭素年代によると、アドサダが作られた時期は、A.D. 350 年頃と推定されている。

土器の分析によると、「羽毛の生えた蛇神殿」本体から出土する最も時期の新しい土器は、ミカオトリ期とトラミミロルパ期前期の土器であり（Cowgill 1998）、またアドサダからは、トラミミロルパ期前期やトラミミロルパ期後期の土器が出土している（Cowgill and O. Cabrera 1991）。特にトラミミロルパ期後期の土器としては、三脚付円筒形壺やカンデレロ、香炉の装飾部品、San Martin Orange、Specular Red の顔料が塗られた土器などが見られた。

以上、「羽毛の生えた蛇神殿」の建築年代は、ミカオトリ期からトラミミロルパ期前期、アドサダの建築年代はトラミミロルパ期後期と考えられる。

(3) 「月のピラミッド」との関係

表 8-3-(3)-1 : 「月のピラミッド」の各建造物と「太陽のピラミッド」、「羽毛の生えた蛇神殿」の関係

月のピラミッド	時期 ^(註1)	月のピラミッドのカーボン年代 ^(註2)	月の墳墓	太陽のピラミッド	羽毛の生えた蛇神殿(ケツアルコアトルの神殿)	備考 ^(註3)
1期の建造物	サクワリ期 (A.D. 1-150)	A.D. 100±50		建築?	pre-Ciudadela	(月)規模が小さい
2期の建造物	ミカオトリ期 (A.D.150-200)	A.D. 150±50				(月)規模が小さい
3期の建造物	ミカオトリ期 (A.D.150-200)	A.D. 225			pre-FSP?	(月)規模が小さい
4期の建造物	ミカオトリ期 (A.D.150-200)	A.D. 250±50	墳墓2 墳墓6	増改築?	羽毛の蛇ピラミッド(ケツアルコアトルの神殿)の建設	(月)規模が拡大(大規模な改築) (羽)巨大な王権の出現(生贄)、タルー・タブレロ様式の出現
5期の建造物	トラミミロルパ期 (A.D. 200-350)	A.D. 300±50	墳墓3	アドサダの建設	アドサダの建設	(月)大規模な改築、タルー・タブレロ様式を持つアドサダの出現
6期の建造物	トラミミロルパ期 (A.D. 200-350)	A.D. 350±50	墳墓4 墳墓5			(月)大規模な改築 (月)マヤ人?の生贄
7期の建造物	トラミミロルパ期 (A.D. 200-350)	A.D. 450±50				(月)小規模な拡大

註1: 絶対年代に関しては、ラットレイの年代を使用 (Ratray 1991, 2001)

註2: Sugiyama and Cabrera 2007

註3: (月)月のピラミッド、(羽)羽毛の生えた蛇神殿

表 8-3-(3)-2 : コーギルによる「月のピラミッド」の各建造物と「太陽のピラミッド」、「羽毛の生えた蛇神殿」との関係

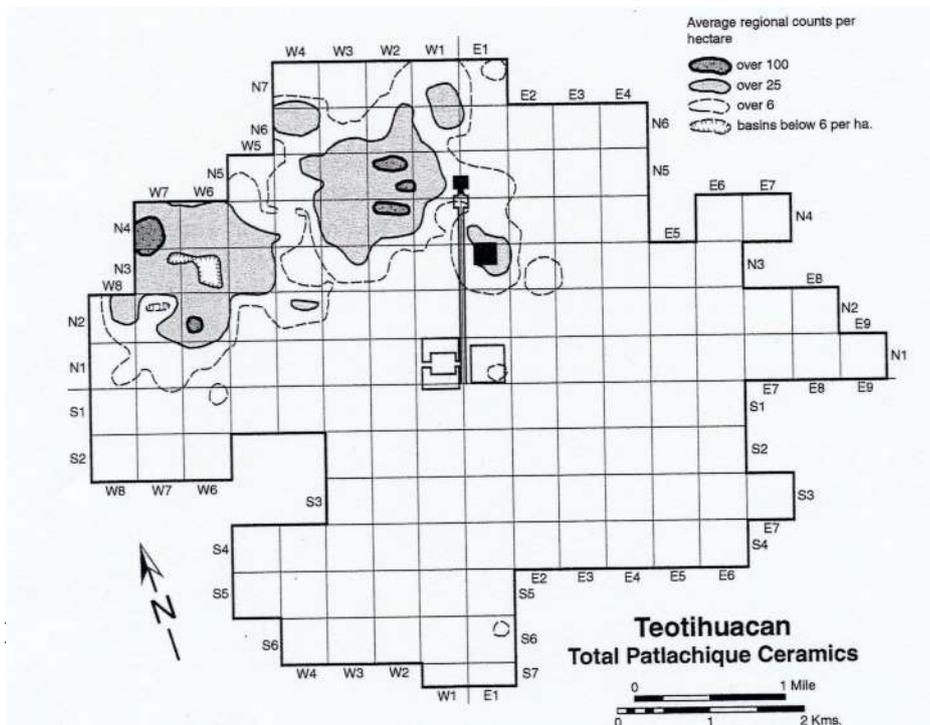
Stage	Tombs	Likely phase	Date	Comments
First		Patlachique	100-1 BCE	Before Sun Pyramid
Second		Tzacualli	1-100 CE	
Third		Tzacalli	1-100 CE	
Fourth	Two Six	Terminal Tzacalli or Early Miccaotli	80-150 CE	After Sun Pyramid
Fifth	Three	Miccatli	100-200 CE	Roughly coeval w/FSP?
Sixth Six	Four Five	Early Tlamimilolpa	170-250 CE	Coeval w/Altun Ha cache?
Seventh		?	ca. 400 CE	
Seven-A		Xolalpan (Early)	350-550 CE	

(出所: Cowgill 2015: Table 6.1)

表 8-3-(3)-1 は、8 章 2 節および 8 章 3 節の (1)、(2) の検討を踏まえた、「月のピラミッド」の各時期の建造物と、「太陽のピラミッド」、「羽毛の生えた蛇神殿」との関係を示した現時点での仮説である。「月のピラミッド」出土の土器の分析からは、「月のピラミッド」の各建造物の建築年代を決定することしか出来ないが、これまでのテオティワカンの研究を踏まえて、それぞれの建造物との関係を考察した。

＜パトラチケ期＞

テオティワカン盆地におけるパトラチケ期の居住地域は、盆地の北西部に集中し（図 8-



3-(3)-1)、当時の人口は、約 19,000 人と考えられている（Cowgill 1974: 381-384）。

「月のピラミッド」のある中心部でも、地山直上の自然堆積層と考えられる 56 層からもパトラチケ期の土器が出するので、建築活動は確認できていないが、人間居住が中心部分でもあったことが窺われる。

パトラチケ期の土器は、4 章で詳細に述べたが、Burnished Ware では、粘土質の胎土を持つ良好な土器であり、

図 8-3-(3)-1 : パトラチケ期の土器分布
（出所：Cowgill 2015: Fig.4.1, p.54）

また Painted Ware では Red on Natural 装飾、Polychrome 装飾、Negative 装飾など豊富な装飾技法が見られる。このような技法をもつ土器文化は、メキシコ盆地南部のクイクイルコ遺跡との関連性も指摘され、筆者も 4 章 5 節で土器の類似要素について言及した。

＜サクワリ期＞

サクワリ期になると居住地域も拡大し「太陽のピラミッド」やシウダデラ地区にもサクワリ期の土器が集中する（図 8-3-(3)-2）。当時の人口も少なく見積もって、25,000 人～30,000 人と推定されている（Cowgill 1974: 383-385）²¹。さらに定説では、この時期に都市の建設も始まり、「太陽のピラミッド」も建設されたと考えられている。

しかしながら、「月のピラミッド」の調査は必ずしもこの定説を支持するものではない。

²¹ コーギルは、最近の研究ではサクワリ期人口としては、60,000～80,000 人と推定している（Cowgill 2015: 61）。

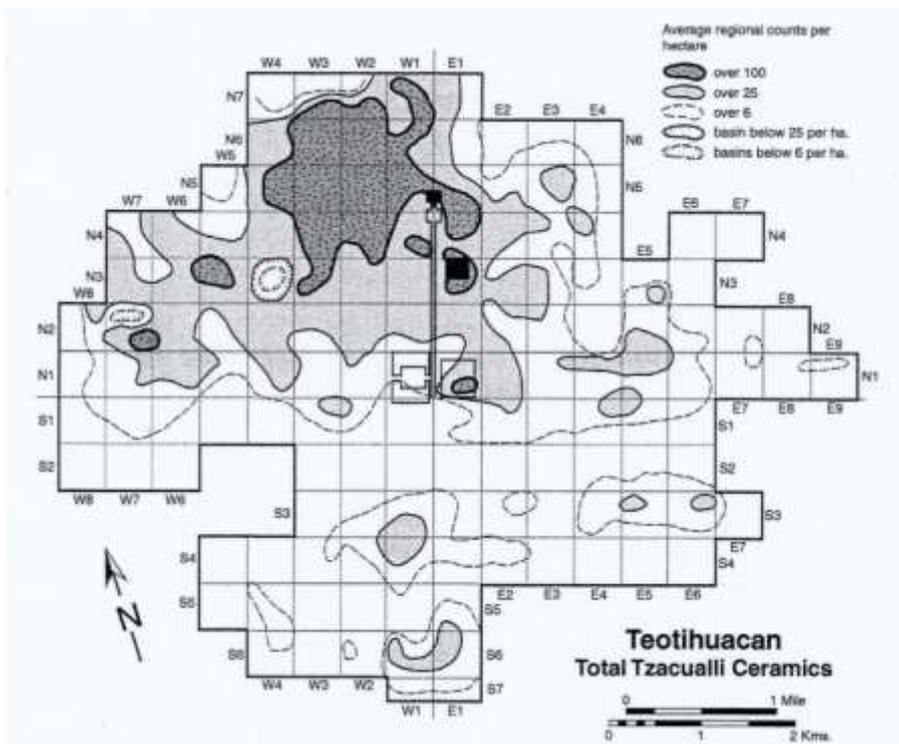


図 8-3-(3)-2 : サクワリ期の土器分布
(出所 : Cowgill 2015: Fig.5.1, p.62)

まず、「月のピラミッド」でサクワリ期に属するのは、建造物 1 である。建造物 1 は、前述したように、建造物 1 の軸は一般的に知られているテオティワカン建造物の東西軸より、東軸が北に 3 度ずれていることが報告されている (杉山 2000: 39)。また、pre-Ciudadela の報告によると²²、「月のピラミッド」の建造物 1 と同様に、テオティワカンの基本軸よりずれていることが報告されている。従って、この 2 つの建造物は、現在見られる都市建設が始まる以前の建造物であると

考えられる。サクワリ期のテオティワカンの中心部には、北側には小型の「月のピラミッド」の建造物 1²³、南側には pre-Ciudadela の建造物があったと解釈できる。

「太陽のピラミッド」に関しては、8 章 3 節、第 1 項で議論したように、従来の定説より、新しい時期に建設された可能性がある。仮にこの仮説が正しいならば、サクワリ期には、大型の建造物を作るよう権力者がまだ出現していないことになり、パトラチケ期の社会が、徐々に発展し人口増加をもたらしたと考えられる。

土器ではパトラチケの伝統を引き継ぎ、胎土は異なるが Burnished Ware の大型壺では口縁部や口唇部で類似の要素も多い。また Polished Ware や Painted Ware でも胎土は大きく変化するが、Red on Natural 装飾、Polychrome 装飾、Negative 装飾などは、大きく発展する。また他地域からもたらされた土器と考えられる Granular Ware や Thin Orange Ware なども加わり交流地域が増えたことが窺え、パトラチケ期から続く土器文化がピークを迎えたと考えられる。

<ミカオトリ期>

コーギルによると、ミカオトリ期の土器の分布は、サクワリ期と同様にテオティワカン盆地全体、約 20 平方キロメートルにわたって見られ (図 8-3-(3)-3)、その人口は 80,000~

²² pre-Ciudadela に関しては、ガソーラの学会での報告があるが (Gazola 2012)、入手出来ないためコーギルの報告 (Cowgill 2015:69) を引用している。コーギルは、建造物 1 ではなく、建造物 2、建造物 3 と同時期であると考えている。

²³ 建造物 1 に関しては、コーギルもパトラチケ期最終段階かサクワリ期初頭と考えている (Cowgill 2015:55)。

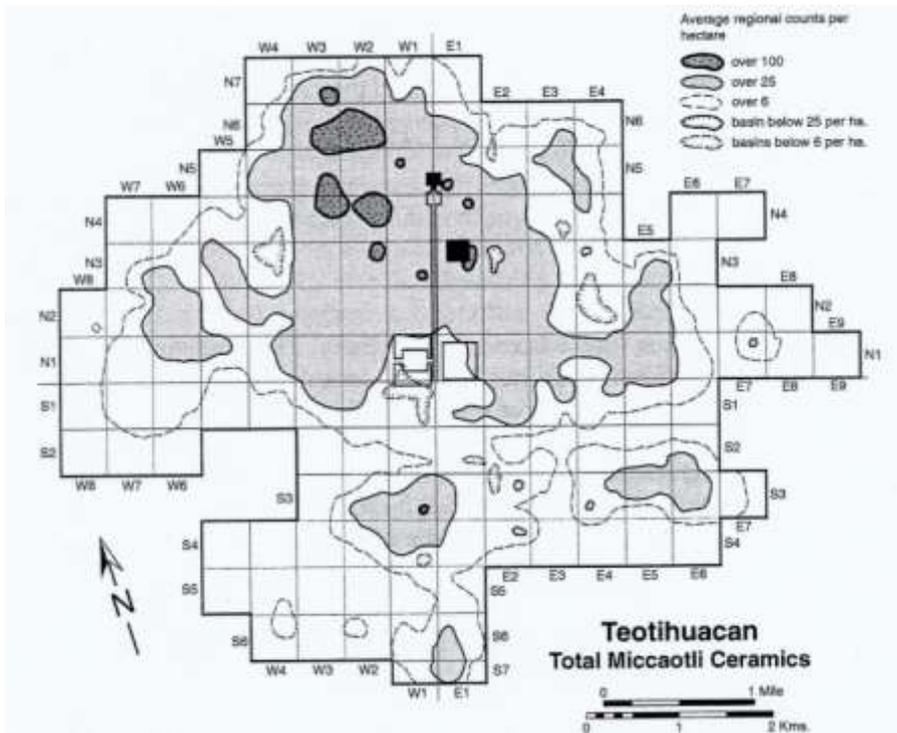


図 8-3-(3)-3 : ミカオトリ期の土器分布
(出所 : Cowgill 2015: Fig.6.1, p.80)

オティワカンの基準の方向に近づく。この建造物 2、建造物 3 に対応する建造物が、「太陽のピラミッド」の建造物 1、「羽毛の生えた蛇神殿」の pre-FSP であると考えられる。

次に、大規模な増改築が行われ、建造物 4 が建設される。この建造物に対応するのが、「太陽のピラミッド」の本体、「羽毛の生えた蛇神殿」の本体部分であろうと思われる。また、「死者の通り」もこの時期に作られたと考えられ、テオティワカンの中心部が完成する時期である。「太陽のピラミッド」の建築年代は、仮説的な部分であるが、少なくとも「月のピラミッド」の建造物 4 と「羽毛の生えた蛇神殿」とは同時期であると考えられ、これらの建造物の大きさ、また多くの生贄墓の存在から、強力な力を持った人物の存在が示唆されている。

ミカオトリ期は、テオティワカンにおける政治体制が変化した時期であるが、土器においては、サクワリ期の華やかさが失われる時期である。ミカオトリ期になると、Painted Ware において、Polychrome 装飾や Negative 装飾が失われ、Polished Ware が多く出土するようになる。

<トラミミロルパ期>

「月のピラミッド」では、建造物 5、建造物 6、建造物 7 がトラミミロルパ期に建設された。建造物 5 では、新しい建築様式としてタルー・タブレロ様式を持つアドサダが建設された。「月のピラミッド」のアドサダは、建造物 4 の南側の面を削って建造物 1、建造物 2、建造物 3 を覆う位置に建築された。これ以後「月のピラミッド」では、この建築様式を踏襲するように建造物 6、建造物 7 が建築される。

また、建造物 6 から発見された墳墓 5 からは、マヤの高貴な人が身につけるヒスイのペ

100,000 人と推定されている (Cowgill 2015: 79)。中心部の建築活動としては、従来の定説ではこの時期に「シウダデラ」や「羽毛の生えた蛇神殿 (ケツァアルコアトル神殿)」が造られたと考えられていた。この定説に対して、「月のピラミッド」等の最近の調査のデータを使用して検討する。

第一に、「月のピラミッド」では、建造物 1 を覆い隠しながら、建造物 2、建造物 3 の小規模な増改築が行われる。これらの建造物の方向は、徐々にテ

ンダントが見つかっており、マヤ文化と関係のある高貴な人物が生贄にされた可能性を示している (Sugiyama and Lujan 2007)。

また、「太陽のピラミッド」、「羽毛の生えた蛇神殿」においてもアドサダが作られる。テオティワカンの中心部分では、「月のピラミッド」の建造物 7 の建築以後、これらの 3 つのモニュメントでは建築活動は行われず、「死者の通り」の周辺にアパート建築活動が盛んになる。

「月のピラミッド」出土のトラミミロルパ期の土器は、**Polished Ware** がミカオトリ期同様に多く出土し、その胎土は焼成不良による黒色バンドを持つのが特徴である。「月のピラミッド」の盛土からは、トラミミロルパ期後期を特徴付ける、**カンデレロ (Candelero)**²⁴、**Adorno** と呼ばれる香炉を装飾するパーツなどが出土していないので、トラミミロルパ前期と考えられる。

8-4 土器研究における今後の課題

＜土器の編年研究研究＞

本研究は、1998 年から開始した「月のピラミッド」調査におけるトンネル発掘によって得られた建造物の盛土の土器を分析し、資料提示した論文である。パトラチケ期からトラミミロルパ期前期までの土器は提示できたが、トラミミロルパ後期、ショラルパン期、メテペック期の土器に関しては、研究が進められていない。

ラットレイによると、ショラルパン期（前期：A.D.250-350、後期：A.D.350-450）の土器の特徴は、新しい Ware として前期に **Copa Ware**、**Stuccoed and Painted Ware**、**San Martin Orange Ware** が出現することである。また、**Adorno** で飾られた香炉も出現する。一般的にショラルパン前期はトラミミロルパ期に確立された新しい技法や器種がより洗練される時期である。後期になると大量生産が可能な土器の標準化や技術の改良が行われた。特に、**San Martin Orange Ware** はこの時期にピークを迎え、その生産遺跡と考えられている **Trajinga** では大規模な土器の生産が行われていた (Rattray 2001)。

メテペック期の土器の特徴としては、ショラルパン期と比較して表面調整が粗雑で、焼成温度の低下等土器製作が全体的に雑になることが挙げられる。また、器種では **Coarse Matte Ware** の香炉や **Three Prong Burner**、**Fine Matte Ware** の **Cover Plate** 等の出土数が多く、**San Martin Orange Ware** では、**Amphora** が一般的な器種となる。装飾技法では、**Zone-polish** や **Pattern-polish** 技法、あるいは型入れ技法による装飾が多用される (Rattray 2001)。

トラミミロルパ期後期からショラルパン期にかけては、テオティワカン盆地だけでなく、メソアメリカ全体にテオティワカンの影響が見られる時期である。交易やテオティワカンの政治、経済体系を研究するための基礎資料として筆者が行ったような土器の資料提示が

²⁴ カンデレロは、携帯用の香炉あるいはランプと考えられている。大きさは、高さ約 5 cm、幅約 2 cm、長さ 5～6 cm であり、器形は炉の部分 1 個のものと、2 個のもの 2 種類がある。

求められる²⁵。

＜太陽のピラミッドの年代決定＞

「太陽のピラミッド」の建築時期をめぐる杉山等とスロードの論争は、土器の編年研究

の視点から見ると非常に大きな問題である。なぜなら、サクワリ期の土器の絶対年代がより新しくなる可能性を示しているからである。仮にサクワリ期の絶対年代が A.D.300 ごろまで新しくなるのであれば、サクワリ期以後のミカオトリ期、トラミミロルパ期、ショラルパン期、メテペック期等の絶対年代も再考する必要に迫られる。

筆者は、「月のピラミッド」の建造部の状況と少数ではあるが「太陽のピラミッド」本体から出土するミカオトリ期の土器や建造物 1 に着目し、その建造年代をミカオトリ期と解釈したのであるが、状況証拠のみで直接的なデータが不足していることは否定できない。「太陽のピラミッド」のさらなる調査と同時にミカオトリ期の土器、トラミミロルパ期の土器などのサクワリ期以後の土器の出方を検討することも必要であろう。

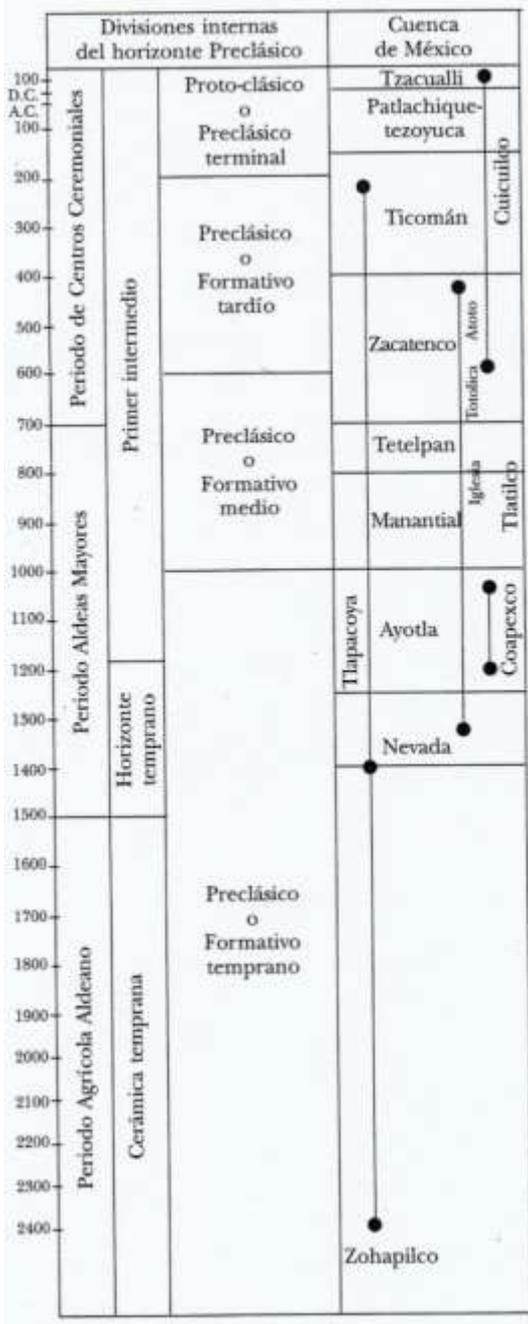


図 8-4-1: メキシコ盆地における形成期の編年表

(出所: Castillo 2005: Fig.1, p.524、一部改変)

＜キシコ盆地の形成期におけるパトラチケ期の土器文化＞

メキシコ盆地の形成期の遺跡は、1930年代のヴェイラントにより、サカテンコ(Zacatenco)遺跡、エル・アルボリージョ(El Arbolillo)遺跡、ティコマン(Ticomán)遺跡などが調査された (Vaillant 1930, 1931, 1935)。また、1990年代には、盆地南部のクイキルコ遺跡やテママトラ遺跡の調査が行われている (Müller 1990, Ramírez, Felipe, Lorena Gámez, Fernán González y Mari Carmen Serra 2000)。

本稿では、クイキルコ遺跡やテママトラ遺跡の土器と比較を行い、類似の土器があることは確認出来たが (4章5節)、土器の類似がそのまま人間の移動を証明したことにはならない。また、土器

²⁵ 従来は筆者が行ったようなカラー写真を多用した土器の報告書は、印刷の費用面からもほぼ不可能であったが、今日は電子書籍で出版することが可能である。

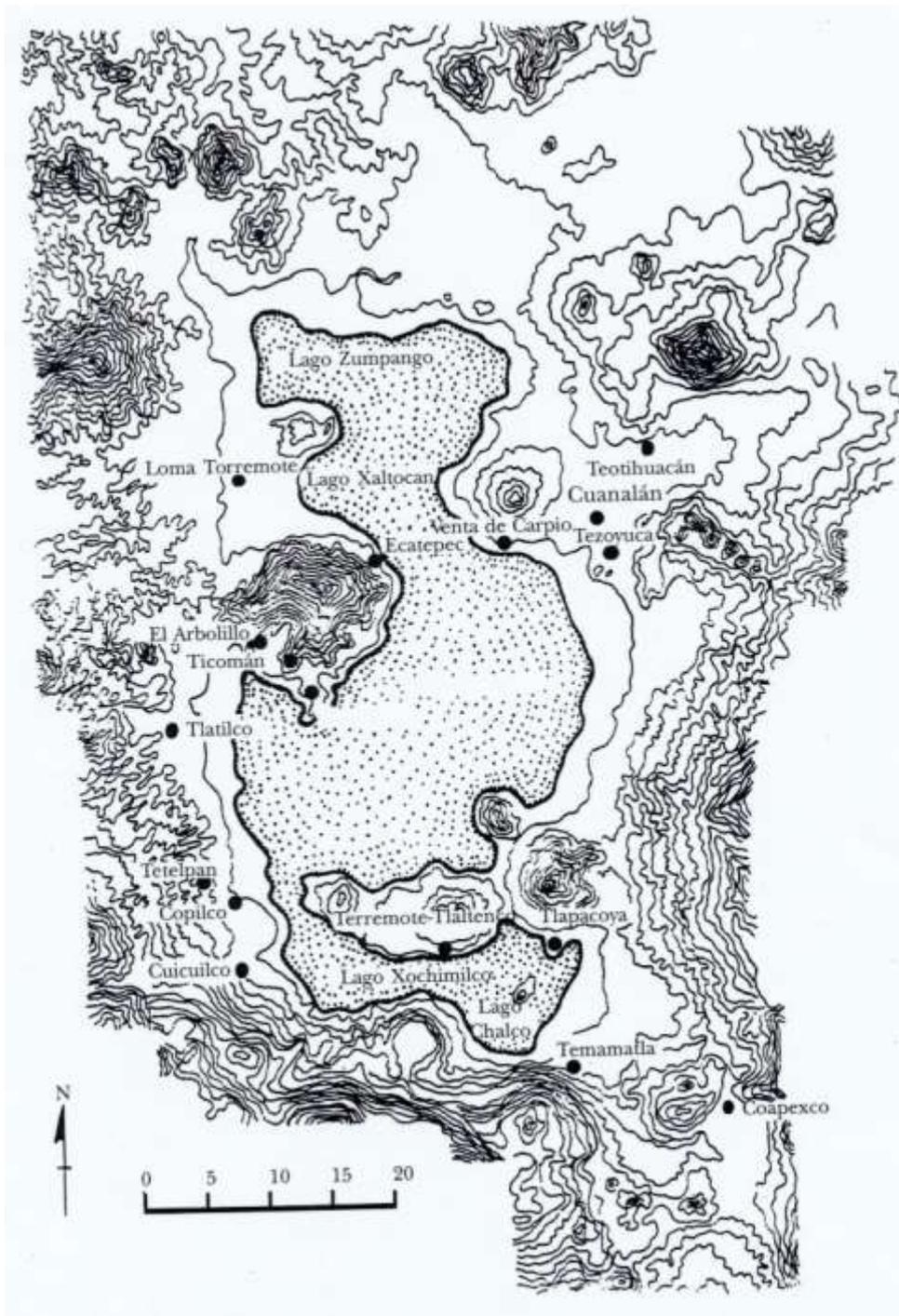


図 8-4-2 : メキシコ盆地における形成期の遺跡
 (出所 : Castillo 2005: Fig.2, p.526)

たようにパトラチケ期の土器の研究は、大きく前進したと思われる。今後は、テオティワカンのパトラチケ期の土器と比較可能な土器資料が他地域から報告されることを期待する。

<土器の時期区分と絶対年代に関する課題>

現在テオティワカンの土器研究の基準となっているラットレイの時期区分ならびにそれぞれの時期の絶対年代についても検討を加える必要がある。「月のピラミッド」から得られ

の比較においても報告書に基づく比較であり土器そのものを比較したものではない。今後の課題として、土器の実見に基づく比較分析が求められる。特に、ネガティブ文様を持つ土器に関して、その製作技法の解明のために化学分析も必要であろう。「月のピラミッド」出土のネガティブ文様を持つ土器の中には薄い黒色のスリップをかけてネガティブ文様を浮き出させている技法もあり、ネガティブ文様の技術的解明は必要と思われる。

「テオティワカン人はどこから来たのか」という課題を解明するためには、テオティワカン盆地だけでなくメキシコ盆地の形成期の土器文化の変化の中で解釈する必要がある。「月のピラミッド」の調査により 4 章で述べ

た放射性炭素年代は、従来の各時期の絶対年代よりやや新しい傾向がある(表 8-3-(3)-1)。

しかしながら、ショラルパン期の年代(ショラルパン前期:A.D.350-450、ショラルパン後期:A.D.450-550)は、大きく変更することは出来ない。なぜなら、ショラルパン期のテオティワカン様式の土器がマヤ地域から出土するからである。マヤ地域の場合は、マヤ文字によるカレンダーがあり、そのカレンダーの解読により墓などの絶対年代が放射性炭素年代と同様にわかる。

例えば、コパン遺跡では、ヤシュ・クック・モオが埋葬されたフナル(Hunal)墳墓からは、



図 8-4-3: コパン遺跡出土のテオティワカン様式の土器

(出所: Sharer 2003: Fig.5.5, p.155)

テオティワカンでよく見られる Thin Orange の高台付碗や化粧漆喰の上に文様が描かれた壺などが発見され、化学分析によるとこれらの土器はメキシコ産であることが分かった。また、マルガリータ(Margarita)神殿からは、化粧漆喰の上にタルー・タブレロ様式の建造物、その中からゴーグルを付けたような目を持つ人物が描かれた三脚付円筒土器が見つかった。これらはいずれも 437 年~450 年頃埋葬された土器である(Sharer 2003)。

従って、テオティワカン遺跡におけるショラルパン前期の年代は、A.D.350-450 ごろで間違いないと思われる。

「月のピラミッド」の建造物 5、建造物 6、建造物 7 の盛土から出土する土器は、前述したように、カンデレロ、Adorno と呼ばれる香炉を装飾するパーツなどが出土していないので、トラミミロルパ前期の土器である。しかし、トラミミロルパ前期に設定されている絶対年代は、A.D.200-250 であり、「月のピラミッド」からの得

られた建造物の放射性炭素年代とは合わない。今後、トラミミロルパ期をはじめとして、それぞれの時期の絶対年代と土器内容の検討も必要であろう。

謝辞

本研究は、愛知県立大学の杉山三郎教授とメキシコ国立人類学歴史学研究所 (INAH) の考古学者ルベン・カブレラ氏を調査団長として 1998 年に開始したメキシコ、テオティワカン「月のピラミッド」考古学プロジェクトの成果の一部であり、筆者は、当プロジェクトで土器の分析を担当しました。

テオティワカン「月のピラミッド」考古学プロジェクトの期間中ならびに本稿作成にあたり有益なご助言とご指導を賜りました杉山三郎教授とルベン・カブレラ氏に心より感謝申し上げます。

また、土器分析の一部を担当された **Sandra López** 氏、**Ceferino Ortega** 氏、図版作成に協力していただいた古手川博一氏に感謝申し上げます。また、アリゾナ州立大学のテオティワカン研究所で秘書として様々の事務作業をしていただいた **Verónica Moreno** 氏、**Lourdes Caballero Mejía** 氏に感謝申し上げます。

本研究の遂行にあたり、便宜をお計りいただき、有益な助言と激励をしていただいた富山国際大学の中島恭一学長、尾畑納子学部長、高橋光幸教授をはじめとする大学の教職員の方々に感謝申し上げます。

参考文献

Almaraz, Ramón

- 1995[1865] “Apuntes sobre las pirámides de San Juan Teotihuacán” In *La Pirámide del Sol Teotihuacán*, edited by Eduardo Matos pp.65-75
Instituto Cultural Domecq

Bastien, Rémy

- 1951 “The Pyramid of the Sun in Teotihuacan: A new Interpretation” In *The Civilizations of Ancient America*, pp.62-71, The University of Chicago Press

Batres, Leopold

- 1995[1906] “Pirámide del Sol” In *La Pirámide del Sol Teotihuacán*, edited by Eduardo Matos pp.100-117 Instituto Cultural Domecq

Bennyhoff, James A. and Rene Millon

- 1967 “Draft of Teotihuacan Ceramic Monograph” Unpublished Manuscript

Blucher, Stephen F.

- 1971 “Late Preclassic Culture in the Valley of Mexico: Pre-Urban Teotihuacan”
Ph.D. dissertation, Brandies University, Waltham, Mass.

Braswell, Geoffrey E.

- 2003 *The Maya and Teotihuacan: Reinterpreting Early Classic Interaction*
University of Texas Press

Cabrera, C.R., I. Rodríguez G., and N. Morelos G. eds.

- 1982 *Teotihuacán 80-82: Primeros Resultados* Instituto Nacional Antropología e Historia

- 1991 *Teotihuacán 1980-1982: Nuevas Interpretaciones* Instituto Nacional Antropología e Historia

Castillo, Patricia Ochoa

- 2005 “La Cerámica del Formativo en la Cuenca de México” In *La Producción Alfarera en México Antiguo I* edited by Beatriz Leonor Merino Carrión and Ángel Guarecía Cook, pp.523-574 Instituto Nacional de Antropología e Historia

Coe, William

- 1990 *Tikal Report No.14 Volume IV: Excavations in the Great Plaza, North Terrace and North Acropolis of Tikal* The University Museum

Cowgill, George L.

- 1974 “Quantitative Studies of Urbanization at Teotihuacan” In *Mesoamerican Archaeology: New Approaches* Ed. by N. Hammond, pp.363-396 Duckworth

- 1983 “Rulership and the Ciudadela: Political Inferences from Teotihuacan Architecture” In *Civilization in the Ancient Americas: Essays in Honor of Gordon R. Willey*, edited by Richard M. Leventhal and Alan L. Kolata,

- pp.313-344, University of New Mexico Press and Peabody Museum of Archaeology and Ethnology, Harvard University
- 1998 “Nuevo Datos del Proyecto Templo de Quetzalcóatl acerca de la Cerámica Miccaotli-Tlamimilolpa” In *Los Ritmos de Cambio en Teotihuacán: Reflexiones y Discusiones de su Cronología* Rosa Brambila, Rubén Cabrea (Coords.), pp.185-199 Instituto Nacional de Antropología e Historia -Serie Arqueología
- 2003 “A perspective from Outside the Maya Region” In *The Maya and Teotihuacan: Reinterpreting Early Classic Interaction* edited by Geoffrey E. Braswell, pp.315-335, University of Texas Press
- 2015 *Ancient Teotihuacan: Early Urbanism in Central Mexico* Cambridge University Press
- Cowgill, George L., and Oralia Cabrera Castro
- 1991 “Excavaciones en el Frente B y otros Materiales del análisis de la Cerámica” *Arqueología* Vol.6, pp.41-52
- De La Fuente, Beatriz, Coordealadora
- 1995 *La Pintura Mural Prehispánica en México I: Teotihuacán*, Tomo I, Tomo II Universidad Nacional Autónoma de México, Instituto de Investigaciones Estéticas
- Fash, William
- 1983a “Reconocimiento y Excavaciones en el Valle” In *Introducción a la Arqueología de Copan, Honduras Tomo I* pp. 229-470 Proyecto Arqueológico Copan
- 1983b “Deducing Social Organization from Classic Maya Settlement Pattern: A Case Study from the Copan Valley” In *Civilization in the Ancient Americas: Essays in Honor of Gordon R. Willey*, edited by Richard M. Leventhal and Alan L. Kolata, pp.261-288, University of New Mexico Press and Peabody Museum of Archaeology and Ethnology, Harvard University
- Fash, William and Kurt Z. Long
- 1983 “Mapa Arqueológico del Valle de Copan” In *Introducción a la Arqueología de Copan, Honduras Tomo III* Proyecto Arqueológico Copan
- Gazzola, Julie
- 2012 “Nuevos Datos sobre el Proceso de Desarrollo del Complejo Urbano de Teotihuacán en Fases Tempranas” Fifth Mesa Redonda de Teotihuacan, Instituto Nacional de Antropología e Historia -Serie Arqueología
- 後藤明
- 2001 『民族考古学』 勉誠出版
- Heyden, Doris
- 1995[1975] “Una Interpretación en Torno a la Cueva que se Encuentra bajo La Pirámide del Sol en Teotihuacán” In *La Pirámide del Sol Teotihuacán*,

edited by Eduardo Matos pp.286-311 Instituto Cultural Domecq

Hopkins, Mary Randolph

1987 “An Explication of the Plans of Some Teotihuacan Apartment Compounds” In *Teotihuacán: Nuevos Datos, Nuevas Síntesis, Nuevos Problemas* Ed. by E. McClung de Tapia and E. C. Rattray, pp.369-88, Instituto de Investigación Antropológicas, Universidad Nacional Autónoma de México

1995 “Teotihuacan Cooking Pots: Scale of Production and Product Variability”
Ph.D. dissertation, Brandies University, Waltham, Mass.

Linne, Sigvald

2003a[1934] *Archaeological Researches at Teotihuacan, Mexico*
University of Alabama Press

2003b[1942] *Mexican Highland Culture: Archaeological researches at Teotihuacan, Galpulalpan, and Chalchicomula in 1934-35*
University of Alabama Press

El Imparcial

1995[1906] “Visita del Señor Gerencia Díaz” In *La Pirámide del Sol Teotihuacán*,
edited by Eduardo Matos pp.118-125 Instituto Cultural Domecq

Marcus, Joyce and Kent V. Flannery

1996 *Zapotec Civilization: How Urban Society Evolved in Mexico's Oaxaca Valley*
Thames and Hudson

Martin, Simon and Nikolai Grube

2000 *Chronicle of the Maya Kings and Queens* Thames and Hudson Ltd.
(『古代マヤ王歴代誌』中村誠一 監修、創元者、2002)

Matos, Eduardo

1995 “Excavaciones Recientes en La Pirámide del Sol, 1993-1994” In *La Pirámide del Sol Teotihuacán*, edited by Eduardo Matos pp.312-329 Instituto Cultural Domecq

Millon, Rene

1973 *Urbanization at Teotihuacan, Mexico Vol. 1*
University of Texas Press

1974 “The Study of Urbanism at Teotihuacan, Mexico” In *Mesoamerican Archaeology: New Approaches* Ed. by N. Hammond, pp.363-396 Duckworth

1981 “Teotihuacan: City, State, and Civilization” In *Archeology*, edited by Jeremy A. Sabloff, pp.198-243, *Handbook of Middle American Indians, Supplement 1*, Victoria Reifler Bricker, general editor, University of Texas Press

1992 “Teotihuacan Studies: From 1950 to 1990 and Beyond” In *Art, Ideology, and the City of Teotihuacan* edited by Janet C. Berlo, pp.339-419, Dumbarton Oaks Research Library and Collection

1993 “The Place Where Time Began” In *Teotihuacan: Art from the City of the God*

edited by Kathleen Berrin and Esther Pasztory, pp.17-43 Fine Arts Museums of San Francisco

Müller, Florencia

- 1978 *La Cerámica del Centro Ceremonial de Teotihuacán*
Instituto Nacional de Antropología e Historia, México
- 1990 *La Cerámica de Cuicuilco B: Un Rescate Arqueológica*
Instituto Nacional de Antropología e Historia

Noguera, Eduardo

- 1995[1935] “Antecedentes y Relaciones de la Cultura Teotihuacana” In *La Pirámide del Sol Teotihuacán*, edited by Eduardo Matos pp.134-208
Instituto Cultural Domecq

Ortiz, Ponciano and Robert Santley

- 1998 “Matacapán: Un ejemplo de Enclave Teotihuacán en la Costa del Golfo” In *Los Ritmos de Cambio en Teotihuacán: Reflexiones y Discusiones de su Cronología* Rosa Brambila, Rubén Cabrea (Coords.), pp.377-460
Instituto Nacional de Antropología e Historia-Serie Arqueología

Pasztory, Esther

- 1997 *Teotihuacan : An Experiment in Living*
University of Oklahoma Press

Pérez, José R.

- 1995[1935] “Exploración del Túnel de la Pirámide del Sol” In *La Pirámide del Sol Teotihuacán*, edited by Eduardo Matos pp.128-133 Instituto Cultural Domecq

Ramírez, Felipe, Lorena Gámez, Fernán González y Mari Carmen Serra

- 2000 *Cerámica de Temamatla* Universidad Nacional Autónoma de México,
Instituto de Investigaciones Antropología

Rattray, Evelyn

- 1974 “The Teotihuacan Ceramic Chronology: early Tzacualli to early Tlamimilolpa phase”
Ph.D. dissertation, Department of Anthropology, University of Missouri, Columbia
- 1987 “Los Barrios Foraneos de Teotihuacan” In *Teotihuacán: Nuevos Datos, Nuevas Síntesis, Nuevos Problemas* Ed. By E. McClung de Tapia and E. C. Rattray, pp.243-273, Instituto de Investigación Antropológicas, Universidad Nacional Autónoma de México
- 1990 “New Findings on the Origins of Thin Orange Ceramics”
Ancient Mesoamerica Vol.1, No.2, pp.181-195
- 1991 “Fechamientos por Radiocarbono en Teotihuacán” *Arqueología* Vol.6, pp.41-52
- 1998 “Resumen de las Tendencias Cronológicas en la Cerámica y Panorama General

de Teotihuacán” In *Los Ritmos de Cambio en Teotihuacán: Reflexiones y Discusiones de su Cronología* Rosa Brambila, Rubén Cabrea (Coords.), pp.255-297 Instituto Nacional de Antropología e Historia -Serie Arqueología

2001 *Teotihuacan: Ceramics, Chronology and Cultural Trends*
Instituto Nacional de Antropología e Historia, México

Reina, Ruben E. and Robert M. Hill, II

1978 *The Traditional Pottery of Guatemala.* University of Texas Press.

Robertson, Ian G.

2001 “Mapping the Social Landscape of an Early Urban Center: SocioSpatial Variation in Teotihuacan”
Ph.D. dissertation, Department of Anthropology, Arizona State University

Sanders, William T., Jeffrey R. Parsons, and Robert S. Santley

1979 *The Basin of Mexico* Academic Press

佐藤悦夫

2002a 「テオティワカンの土器についての一考察（１）」『人文社会学部紀要』
Vol.2 pp.59-74 富山国際大学

2002b 「2000-2001年科学研究費研究成果報告書：4章、遺物分析」『2000-2001年科学研究費研究成果報告書、研究課題、メソアメリカにおける古代都市国家の起源：テオティワカン、月のピラミッドに表されるイデオロギーと政治形態』（研究代表者：杉山三郎）

2004a 「テオティワカンの土器についての一考察（２）：トラミミロルパ期からメテペック期まで」『人文社会学部紀要』富山国際大学 Vol. 4 pp.25-35

2004b 「土器」『マヤ学を学ぶ人のために』 八杉佳穂編 pp.22-45 世界思想社

2004c 「月のピラミッド出土の土器について」『古代アメリカ』 Vol.7 pp.77-83 古代アメリカ学会

2004d “Preliminary Report of the Ceramics from the Pyramid of the Moon, Teotihuacan”
The 69th Society for American Archaeology Meeting in Toronto , Canada

2005 「2002-2004年科学研究費成果報告書：遺物分析」
『2002-2004年度科学研究費研究成果報告書、研究課題、中米古代国家の形成とイデオロギー：テオティワカン「月のピラミッド」発掘調査』（研究代表：杉山三郎）

2009 「テオティワカン＜月のピラミッド＞56層および第1建造物出土のパトラチケk期の土器」『古代アメリカ』 Vol. 12, pp.105-122 古代アメリカ学会

2015 「テオティワカン＜月のピラミッド＞出土のパトラチケ期の土器～Burnished Wareの無装飾グループを中心に～」『共生の文化研究』No.9 愛知県立大学 多文化共生研究所 PP.4-27

佐藤悦夫、衣笠聡

- 2005 「ホンデュラス、コパン遺跡における都市の生態学的研究：GISを利用した遺跡の分析」『国際教養学部紀要』富山国際大学 Vol.1 pp.45-73

Sato, Etsuo and Sandra L. López

- 2001 “Approaching Teotihuacan Pottery from the Pyramid on Moon through Archeometry”
The 66th Society for American Archaeology Meeting in New Orleans, USA

Schele, Linda and David Freidel

- 1990 *A Forest of Kings: The Untold Story of the Ancient Maya*
William Morrow & Company, Inc.

Séjourné, Laurette

- 1959 *Un Palacio en la Ciudad de los Dioses, Teotihuacán*
Instituto Nacional de Antropología e Historia
- 1966 *Arqueología de Teotihuacán: La Cerámica* Fondo de Cultura Económica, México
- 1983 *Arqueología e Historia del Valle de México*
Siglo Veintiuno Editores, México

Sharer, Robert J.

- 2003 “Founding Events and Teotihuacan Connections at Copan, Honduras” In *The Maya and Teotihuacan: Reinterpreting Early Classic Interaction* edited by Geoffrey E. Braswell, pp.143-165, University of Texas Press

Sheehy, James J.

- 1988 “Ceramic Ecology and the Clay-Fuel Ratio: Modeling Fuel Consumption in Tlajinga 33, Teotihuacan, Mexico” In *Ceramic Ecology Revisited, 1987: The Technology and Socioeconomics of Pottery, Part I*, Ed. By C.C. Kolb, pp.199-226, BAR International Series 436
- 1992 “Ceramic Production Ancient Teotihuacan, Mexico: A Case Study of Tlajinga 33”
Ph.D. dissertation, Pennsylvania State University
- 1998 “Chronological Trends in the Ceramics of Tlajinga 33” In *Los Ritmos de Cambio en Teotihuacán: Reflexiones y Discusiones de su Cronología* Rosa Brambila, Rubén Cabrea (Coords.), pp.299-315 INAH-Serie Arqueología

Sheets, Payson D

- 1992 *The Ceren Site: A Prehistoric Village Buried by Volcanic Ash in Central America* Harcourt Brace Jovanovich College Publishers.

Shepard, Anna O.

- 1946 “Technological Notes” *Excavations at Kaminaljuyu, Guatemala* Alfred V. Kidder, Jesse Jennings and Edwin M. Shook (eds.) pp.196-201, 261-277

Sload, Rebecca

- 2015 “When was the Sun Pyramid Built? Maintaining the Status Quo at

- Teotihuacan, Mexico” *Latin American Antiquity* Vol.26, No.2, pp.221-241
- Smith, Robert Eliot
- 1987 *A Ceramic Sequence from the Pyramid of the Sun, Teotihuacan, Mexico*
Papers, Vol. 75, Peabody Museum of Archaeology and Ethnology, Cambridge,
Mass
- Sotomayor, Alfred y Noemí Castillo Tejero
- 1963 *Estudio Petrográfico de la Cerámica Anaranjado Delgado*
INAH-Departamento de Prehistoria (Publicación 12)
- Spence, Michael W.
- 1992 “Tlailotlacan, a Zapotec Enclave in Teotihuacan” In *Art, Ideology, and the
City of Teotihuacan* edited by Janet C. Berlo, pp.59-88, Dumbarton Oaks
Research Library and Collection
- Spence, Michael W. and Grégory Pereira
- 2007 “The Human Skeletal Remanins of the Moon Pyramid, Teotihuacan”
Ancient Mesoamerica Vol. 18, No.1, pp.147-157
- Story, Rebecca
- 1991 “Residential Compound Organization and the Evolution of the Teotihuacan
State” *Ancient Mesoamerica* Vol.2, No.1 pp.107-118
- 杉山三郎
- 1999 「メキシコテオティワカン「月のピラミッド」の発掘
『考古学研究』 第46巻第3号 pp.32-34
- 2000 「テオティワカン「月のピラミッド」におけるイデオロギーと国家：1998-1999
年発掘調査概要」『古代アメリカ』第3号、pp.27-52
- Sugiyama, Nawa, Saburo Sugiyana, and Alejandro Sarabia G.
- 2013 “Inside the Sun Pyramid at Teotihuacan, Mexico: Excavation and
Preliminary Results” *Latin American Antiquity* Vol.24, No.4, pp.403-432
- Sugiyama, Sabro
- 1989 “Burials Dedicated to the Old Temple of Quetzalcoatl at Teotihuacan, Mexico”
American Antiquity Vol.54, No.1, pp.85-106
- 1991a “Descubrimientos de Entierros y ofrendas dedicadas al Templo Viejo de
Quetzalcóatl” In *Teotihuacán 1980-1982: Nuevas Interpretaciones* eds. R.
Cabrera C., I. Rodríguez G., and N. Morelos G. pp.275-326, Instituto
Nacional Antropología e Historia
- 1991b “El Entierro Central de Piramide de la Serpiente Emplumada” *Arqueología*
Vol.6, pp.33-51
- 1992 “Rulership, Warfare, and Human Sacrifice at the Ciudadela, Teotihuacan: An
Iconographic Study of Feathered Serpent Representation” In *Art, Ideology,
and the City of Teotihuacan* edited by Janet C. Berlo, pp.205-230,
Dumbarton Oaks Research Library and Collection

- 1998a “Termination Programs and Prehispanic Looting at the Feathered Serpent Pyramid in Teotihuacan, Mexico” In *The Sowing and Dawning*, edited by Shirley Boteler Mock, pp. 146-164, University of New Mexico Press
- 1998b “Cronología de Sucesos ocurridos en el Templo de Quetzalcóatl, Teotihuacán” In *Los Ritmos de Cambio en Teotihuacán: Reflexiones y Discusiones de su Cronología* Rosa Brambila, Rubén Cabrea (Coords.), pp.167-184 Instituto Nacional de Antropología e Historia -Serie Arqueología
- 2000 “Teotihuacan as an Origin for Postclassic Feathered Serpent Symbolism” In *Mesoamerican’s Classic Heritage: From Teotihuacan to the Aztec* ed. D. Carrasco, L. Jones, and S. Sessions, pp.117-143 University Press of Colorado
- 2005 *Human Sacrifice, Militarism, and Rulership: Materialization of State Ideology at the Feathered Serpent Pyramid, Teotihuacan* Cambridge University Press
- Sugiyama, Saburo and Leonardo López Luján
- 2007 “Dedicatory Burial/Offering Complex at the Moon Pyramid, Teotihuacan” *Ancient Mesoamerica* Vol.18, No.1, pp.127-146
- Sugiyama, Saburo and Ruben Cabrera Castro
- 2000 “El Proyecto Pirámide de la Luna: Algunos Resultados de la Segunda Temporada 1999” *Arqueología* Vol.23, pp.161-172
- 2004 *Voyage to the Center of the Moon Pyramid: Recent Discoveries in Teotihuacan* CONACULTA • INAH and Arizona State University
- 2007 “The Moon Pyramid Project and the Teotihuacan State Polity: A brief summary of the 1998-2004 excavations” *Ancient Mesoamerica* Vol.18, No.1, pp.109-125
- Taube, Karl A.
- 2003 “Tetila and the Maya Presence” In *The Maya and Teotihuacan: Reinterpreting Early Classic Interaction* edited by Geoffrey E. Braswell, pp.273-314, University of Texas Press
- 東村武信
- 1980 『考古学と物理学』 学生社
- Vaillant, George C.
- 1930 *Anthropological Papers of The American Museum of Natural History Volume XXXII, Part I: Excavations at Zacatenco*
The American Museum of Natural History
- 1931 *Anthropological Papers of The American Museum of Natural History Volume XXXII, Part II: Excavations at Ticoman*
The American Museum of Natural History
- 1935 *Anthropological Papers of The American Museum of Natural History Volume XXXV, Part II : Excavations at El Arbolillo*

The American Museum of Natural History

White, Christine D., T. Douglas Price, and Fred J. Longstaffe

2007 "Residential Histories of the Human Sacrifices at the Moon Pyramid, Teotihuacan: Evidence from Oxygen and Strontium Isotopes"

Ancient Mesoamerica Vol. 18, No.1, pp.159-172

Widmer, Randolph

1987 "The Evolution of Form and Function in a Teotihuacan Apartment Compound: The Case of Tlajinga 33" In *Teotihuacán: Nuevos Datos, Nuevas Síntesis, Nuevos Problemas* Ed. By E. McClung de Tapia and E. C. Rattray, pp.317-368, Instituto de Investigación Antropológicas, Universidad Nacional Autónoma de México

1991 "Lapidary Craft Specialization at Teotihuacan: Implications for Community Structure at 33:S3W1 and Economic Organization in the City" *Ancient Mesoamerica* Vol.2, No.1 pp.131-148

Yarborough, Clare McJimsey

1992 "Teotihuacan and the Golf Coast: Ceramic Evidence for Contact and Interactional Relationships"

Ph.D. dissertation, the University of Arizona